たじろいだか！『男祭り』起死回生の一撃!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL

69
2004

創刊7周年記念号 第1弾!!

橋本真也

高田延彦

金子達仁

田村潔司

吉田秀彦

美濃輪育久

佐竹雅昭

高山善廣

坂田亘

スタン・ハンセン

和田京平

大木凡人

ターザン山本

小川直也

大晦日も1・4も

ドゥ・ザ・ハッスル!!

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

ファン待っとるぞ!!

12.31 & 1.4
史上最大の闘い
ド直前!

震源地はこの男だ!

最大公約数

大晦日決戦、真のテーマはこれだ！

VS

最小〝非〟公約数

極上の闘いを見よ!

ターザン山本

VS

村やるべし!

2003年、大晦日の格闘技大戦争は、高見の見物を決め込んだ人間が最終的に大、大、大勝利者になるんじゃないかな。オレはそう思うな。

まだ、終わったわけじゃないよ。あと5、6日したら、その大晦日がやってくるんだけどさぁ、ここまでの経過は歴史に残るまさに大、大、大ドタバタ劇だったもんね。

あのドタバタ劇の凄まじさは、筆舌にしがたいものがあったぜ。ミルコ問題だろ。ヒョードル問題だろ。みんな何を考えているんだよ。いくらなんでもあれはないよな。

ウン、当事者でなくてホントに良かった。まあ、俺が当事者であるわけないよな。好きなことを勝手に書いたり、言ったりしているだけの人間だもんね。オレは!

ここまできたら、格闘技界の無節操ぶりを見届けてやろうじゃないか。もう、それしかないよ。日テレの『猪木祭り』は悲惨だなぁ。それって今年、視聴率疑惑がバレてしまった日テレのツキのなさが、また出たんだよなぁ。

ロシアの女のコのt・A・T・u 俺はよく知らないけどさぁ、そのコたちのドーム公演も大、大、大失敗したんだろ。

『猪木祭り』が日テレにとっては、思い出したくもない悪夢のトドメになったってわけか。もう、ご苦労さんというしかないな。日テレよ、お天道様に申し訳ないようなことはするな。

もっと真っすぐに生きろ。真面目に生きろである。逆に言ったら『猪木祭り』が大晦日決戦の陰の主役じゃなかったかなという思いもあるな。少なくとも、どこよりも〝話題〟だけなら〝噂〟だけなら、圧倒的に抜けていたもんね。ダントツだったよ。

『猪木祭り』は競輪の〝トップ引き〟みたいなものだ。マラソンで言うと30キロまでトップで走るランナーと同じだ。

そう考えたら『猪木祭り』の功績は大きいんじゃないの?

そういうさぁ、『猪木祭り』と『PRIDE』が、ミルコやヒョードルの問題で、モメている間、それを尻目にちゃっかり抜け出して先頭に躍り出たのが、谷川貞治氏がプロデュースする『Dynamite!!』だった。

まったくあいつ(失礼!)の火事場泥棒的運の強さには、ほとほとまいるよなぁ。本人は何もしていないのにライバルが、自然に脱落していくんだから楽だよなぁ。

谷川はいつもそういう強い星の下に生まれてきた男なんだよ。どこまでその悪運が持つのか? オレはそこに新たな好奇心を持ったよ。このままだと谷川氏の圧勝に終わってしまうよぉ。間違いないぞ。

ひょっとして谷川氏はターザン山本の最強の弟子、チルドレンになるのか? ああ、いやだ、いやだ、勘弁してほしいよぉぉぉぉ。

なんとかしてくれるヤツはいないのか? 谷川氏に一発ガツンといわせられるヤツはこの世界にいないのかよ。なさけないなぁ、それこそ高田延彦じゃないが「お前ら男か?」と叫びたくなってきた。

大晦日決戦はもはや俺にとって格闘技大戦争でもなんでもない。そんなことはどうだっていいよ。俺のテーマはひとつしかない。「打倒、サダハルンバ谷川!」だ。このままあいつに大晦日で〝勝利宣言〟されてたまるかである。そうなったら世も末だ。2004年は真っ暗闇になる。

オイ、お前ら、そんなことになっていいと思っているのか? 谷川氏がマット界で天下を取ってしまうんだぜ。それは俺が許さん。絶対に認めん。許さないからな。

そう思ったら打倒・谷川を実現させてくれる〝男〟がなんといたんだよ。俺はその男にすべてを賭ける。もう、これは執念だ。

出てこい、田村潔司!

世界を見せてやれ!!

桜庭vs田村

お前しか打倒・谷川という俺の夢を叶えてくれる男はいないのだ。

田村よ、桜庭和志と試合をしてくれ。もし、もしだよ。もし桜庭vs田村戦をやったらというか、それが実現したら大晦日決戦の勝利者は、田村、お前だよ、お前。

こんなビッグチャンスはまたとないぞ。あるわけないよ。だって、だって、だって、馬場さんじゃないけど、「みんなが大晦日のテレビ戦争に走っているので、それでみんなが格闘技に走っているので、私たち桜庭vs田村戦をやらせてもらいます」といったら、そりゃあもう、プロレスファンは拍手喝采ものだよ。

日本中のプロレスファンは全員『PRIDE・男祭り』でやる桜庭vs田村戦を見ると思うな。俺が言うんだから絶対、絶対、絶対、間違いないぞ。

大晦日決戦の超、超、超目玉カードの曙vsサップなんか桜庭vs田村に比べたら、ホント、あんなものは、〝屁〟みたいなものだ。よし、よし、よし、大衆は曙vsサップ戦に飛びつけばいいのだ。あるいは、どうぞ、どうぞ、どうぞ格闘技の試合をやってくれ。

こっちは最もプロレスらしいプロレスの極上品とも言える桜庭vs田村戦で勝負してやろうじゃないか?

極上品だぜ、極上品! お前らにはこれが極上品だとは死ぬまでわからないだろうな。それをわかるのはプロレスファンだけよ。

田村よ、いや、今日から俺は〝田村さん〟と呼ばせてもらう。君はひとりよくこの機をうかがっていたよな。まず、そのセンスに俺は頭を下げるよ。プロレス界の人間はどいつもこいつも(失礼!)大晦日決戦に対して何もできなかった。指をくわえてただ立っているだけだった。

なんの抵抗もできなかったのだ。そんな状況を見て歯ぎしりしていたのが、新間さん(新間寿)だった。新間さんにはプロレスへの愛がみなぎっている。あの人にはそれがありすぎる。だから歯がゆいのだ。今のプロレス界を見ていると、それは歯がゆくなるよ。

田村潔司は必ず『PRIDE・男祭り』に出てくる。オレはひらめいたのだ。オレがプロレスラーだったら、「いまだ、今しかない。ここだ、このチャンスしかない!」と言って桜庭との試合に打って出るはずなのだ。

だって、それをやれば世の中にプロレスを光らすことができるのだ。もう、無条件に光らせることができる。大事なことは、それによって格闘技を相対化させる力になってしまうことだ。

大晦日でテレビの前にいる視聴者が田村潔司の名前を知らなくてもいいのだ。知らなければ知らないで逆にいい。

知らないということは、理解できないということだからだ。ざまあみろだよ。

世間がわかるもの、世間が飛びつく曙vsサップ戦をやって何があるというのだ。オレに言わせりゃ、世間はどんな時でも理解可能なものにしか反応しないのだ。

最大公約数の代表なんだよ。曙vsサップは! 俺たちプロレスファンは最小非公約数を求めるのだ。

田村よ、それをみせつけてやれ。最大公約数という大晦日の日にそれをな!

世間とは〝真逆〟の世界をな。そうしたら俺は生まれて初めて大晦日をシュートした日を体験するだろう。桜庭vs田村戦やるべし!

この瞬間、大晦日の格闘技戦争はみんな錆びつくはずである。色あせるはずである。

これ以外に何がある? DSEよ、教えてくれ!

『PRIDE・男祭り』がどんなカードで勝負にくるか。大晦日、オレが一番興味があるのはそこなのだ。

世間と"真逆"の世

1・4といえば新日本の日！
その裏で新たなプロレスの定義は立ち昇るか!?

『ハッスル1』はプロレス界に何を投げかけるのか!?

1・4はドゥ・ザ・ハッスル!!

ハッスル1

1月4日 さいたまスーパーアリーナ

橋本真也 小川直也

ドゥ・ザ・ハッスル!? 俺らはバロム・ワンや!!

12月16日に行われた『ハッスル1』の会見にOH砲が突如来場。
いまだに不信感が拭えない髙田本部長の真意を聞こうと会見場に足を運んだOH砲だったが、
もちろん、ただで済むはずがない。髙田本部長に『泣き虫』を投げつけた小川、そして橋本を追いかけ、都内でキャッチ!

ドゥ・ザ・ハッスル!!

聞き手／松澤チョロ
撮影／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

大晦日は『PRIDE』さんの
会場にプロレスを押しつけにいくぞ!!

泣き虫! ZERO-ONEに来る時は
ジャパネットのテーマで入場しろよ!

橋本真也

――早速なんですが、今日は『ハッスル1』の会見があって、髙田統括本部長と一悶着があったわけですけど、小川さんが退場してから榊原代表の方から正式にゴールドバーグ戦が発表されました。

小川　なんかビデオレターで「ゴールドバーグと闘え」とか髙田は挑発してたけど、当然そんな条件出すんだったら、『そいつ倒せば分かってんだな？』ってことだよ。アイツからのメッセージを自ずと俺なりの解釈をしちゃってるから。

――小川さんの解釈だと、髙田さんからの刺客を倒せば「お前が出てくるしかないだろ」ってことですか？

小川　当然、出て来なきゃ話にならないことだし。まあ俺としては、最後はアイツを追い込むだけよ。

――アイツというのは髙田髙田さんのことでいいんですよね。

小川　もちろん！

橋本　チワワだろ？（笑）。

――小川さんのことを「狂犬」扱いしている髙田さんはチワワだと？（笑）。

橋本　どうする、アイフル？（笑）。

――アハハハハ！　ちょっと脱線してしまったので、話を戻します（笑）。でもホント、狂犬扱いだけでじゃなく「チンピラ」やら「小学生」やら髙田さんには散々言われてますよね。

橋本　あのね、今日、会見に勝手に入っていったのは非常に無礼だったとは思うけど、でも一方的に会見を開かれて、一方的に話を進められるということが、まず俺は気に入らなかった。それから、プロレスを揶揄した言葉を吐いてしまう経営者に関しての不信感。で、これからそういうイベントをやりたいっていうことはよく分かるけど、やはりそれ以前の意志の確認っていうのが大事だと思うんで。それを俺が伝えてる最中に、髙田さんがキレてしまって、人の話を最後まで聞かずに「なんだ、コラッ！」って始めたのは今日は向こうだろ？　違うか？　俺は最初普通に喋ってたもん。

――橋本さんは「失礼しま～す！」と言いながら入ってきましたからね（笑）。

橋本　だろ？　俺らのことをチンピラまがいだとか、保育園だとか言う前に自分だって眠ってるもの起こして先に言ったのはどっちだって！　俺が一番気に入らなかったのは、「あなたはどちらの人間ですか？　プロレスのイベントをどうしようとしてるのか？　プロレスを馬鹿にしてやるんだったら、俺たちは出るつもりないし、やめてください」って言って、意思の確認しに来たんだよ。でも「コラッ！」って始まった。それは俺たちに、いままで暴言を吐いてきたなんて言えないハズなんだ、今日は。

小川　よくよく考えてみたら、キレたのアイツなんですよね。

橋本　そうや。ウチはちゃんと筋を通してんだから。揚げ足取るわけじゃないけど、「コラッ！」って来るんだったら「コラッ！」って応えるしかないんだよ。

――長州さんともそうでしたからね（笑）。

小川　またどうせ言いますよ。「揚げ足とって」とか。揚げ足じゃねえよ、今日は！

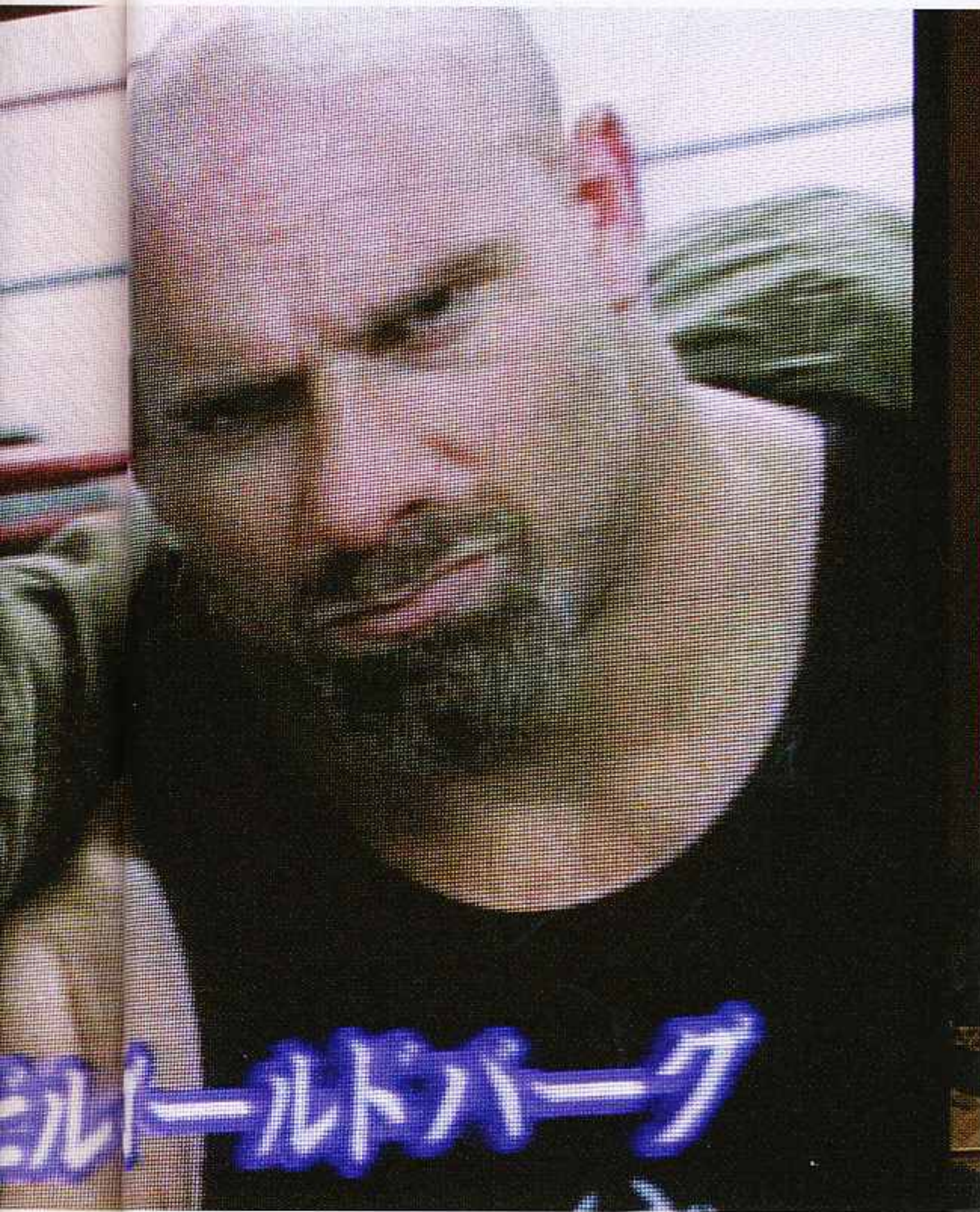
橋本　だから、俺たちが始めに言ってんのは、プロレスのイベントでプロレスラーとしてプロレスの試合をすると。『PRIDE』の試合じゃないよと。この辺のこと勘違いして貰いたくない。プロレスを馬鹿にするんだったら、もうやめてほしい。それだったらプロレスのために何にもならないし、ファンを冒涜しているようなもんだから。そうじゃなくて、プロレスっていうものを見せてみろって言うんだったら、俺たちが見せる。

――自信を持って見せてやろうじゃないかっていうところですね。

橋本　もちろん！（キッパリ）。だけど島田（裕二『ハッスル1』イベントディレクター）をあんな席に置いてるようじゃ、体制も大したことねえなって。

――DSEに対して不信感があるって言われてましたけど、ハッスルイベントディレクターっていうのが、ZERO-ONEとも因縁がある島田さんが就いたってことに関して納得はいかないと？

橋本　ただ、榊原代表はね、この前のことをちゃんと詫びてたから。責任を持ってやるということを言われましたから、残った一筋の光明としてとしか思ってないですから。そこで俺たちがどういうふうにやるか。あくまでも現場は現場だから。

――プロレスというのはフロントが口出しできない部分があるということですね。

12・14ZERO-ONE両国大会の休憩明け島田裕二ハッスルイベントディレクターが来場。高田本部長から預かってきたというビデオメッセージには、OH砲への刺客として高田が送り込んだゴールドバーグの姿が。その後、1・4での小川戦が決定！

自分のことをスターだと思ってないかって？　思ってて悪いか？

小川直也

よくよく考えてみたら、最初にキレたのは髙田の方だろ!

橋本　ただ、その中で、どういうプロレスをやろうとしてるのか。いままで見たようなもんじゃなくて、もっと本格的にね、しっかりした……アメリカンスタイルがどうのこうのじゃねえんだよ。アメリカでも日本に来たら日本なんだよ。日本のファンにどれだけ認められるプロレスが見せられるかってのが勝負や。

――小川さんは、机をひっくり返してしまった最初の会見があったわけですけど、髙田さんと直接話したいっていう気持ちもあるわけですか？

小川　話したいっていうか、なかなか呼んでも来ないし、この間だって両国に来る話が結局、来なかっただろ。島田みたいなふざけたヤツが来たけど。

橋本　小川自身は今日、喧嘩を売りに行ったわけじゃないんだから。「どういうことですか？」って話に行っただけで。何度も言うけど先にキレたのは向こうやからな（笑）。ああなったら「コラコラ」だよ（笑）。

――コラコラ問答ですか（笑）。

小川　こっちは冷静に話に来たのに向こうが勝手にキレたんだから。あと、あれには余計カチンときたよ。「お久しぶり」って。

――あぁ、言ってましたねぇ（笑）。その後には、背高ノッポのギョロ目まで言われてしまいましたからね（笑）。

小川　うるせえ、コノヤロー！

――両国大会での髙田さんからのビデオレターに対して、会場ではブーイングが飛んだりと異常事態だったんですけど、そのビデオの中でも「小川君、橋本君。君たちは自分のことをスターだと思ってないか？」っていう挑発がありましたよね。

小川　まあ彼なりの挑発だっていえば挑発なんだろうけど、まあ何とでも言えよ。

橋本　そうだと思ってて悪いか？

――さすがですね！（笑）。橋本さんは自信を持って「俺はスターや！」って言える訳ですね。

橋本　いや、俺らが引っ張ってるっていう自負で動いてるから。だからそういう気持ちやな。何が悪いんだ？

――いや、悪くないと思います。

橋本　やっかみでもあるのか？　プロレスを中途半端にやめるからそうなるんだよ。ただ、あの人達が俺たちの名前を挙げてきてるということは、何か投げかけがあったんだろうな。それはよく分かるんだけど、くっだらないことでいま崩れてるから。ただし、俺らも今日は吐いたからね、「やる」という言葉を。

――そうですね。

橋本　やる以上は全力でやらしてもらうし。それに対して髙田さんとの話だけじゃ、ちょっと物事は収まらないと思うよ。評論家だったら知らねえけど、そうじゃなきゃ、『PRIDE』は引退したかもしんないけど、プロレスを引退してないんだったらリングシューズ履いて来いっていうことになってくるわな。

――橋本さん的には、髙田さんには、その考えがあると思ってますか？

橋本　読めないな、深いとこまでは。あくまでも髙田さんはDSEに飼われてる人間としてものを言ってるのか。でも今日、本人がボロが出たのは、あの発言とかはプロレスラーだよ。

――橋本さん、小川さんに対するアピールはプロレスラーそのものでしたからね。

橋本　だろ？　本人がプロレスラーになってもうたやん、最後に。それはそれで面白かったかなって思うけどな。まあ今日は最後まで話聞かなかったから、ホントにプロレスに対してやる気があるのかなっていう部分はあるよな。

――橋本さんが言う「プロレスを捨てた人間」と感じるのは、やはり話題になっている髙田さんが書いた本っていうのも……。

橋本　（遮って）『水虫』だっけ？（笑）。

――近いですけど（笑）。

橋本　『かめ虫』か？

――『かめ虫』でもありません！（笑）。すでに10万部近く売れてるっていう話も聞きますけど。

橋本　俺ら貢献してるよな？

小川　貢献してますよ。俺らが宣伝してんだもん。

――それは言えるかもしれませんね（笑）。

小川　アイツ、水虫のCM出た方がいいんじゃねえの？

――長州力が消臭力になったみたいにですか？（笑）。

小川　そうそうそう（笑）。

橋本　あれは凄かったな（笑）。

橋本真也

小川　（長州のモノマネで）「何がやりたいんだ⁉　噛み付きたいのか⁉」ってまた言われますよ（笑）。

——アハハハハ！

橋本　俺ら東北新幹線の自動販売機で宣伝してんだよ。『OH清水』って書いてある。

——あぁ、駅とかで売ってる水ですね（笑）。

小川　「OH」じゃねえかって（笑）。

橋本　しょーもないことを言っちゃったな（苦笑）。

小川　失礼しました！（笑）。

——実際、今日も小川さんは『泣き虫』を叩きつけたりしてましたけど、本は読まれたんですか？

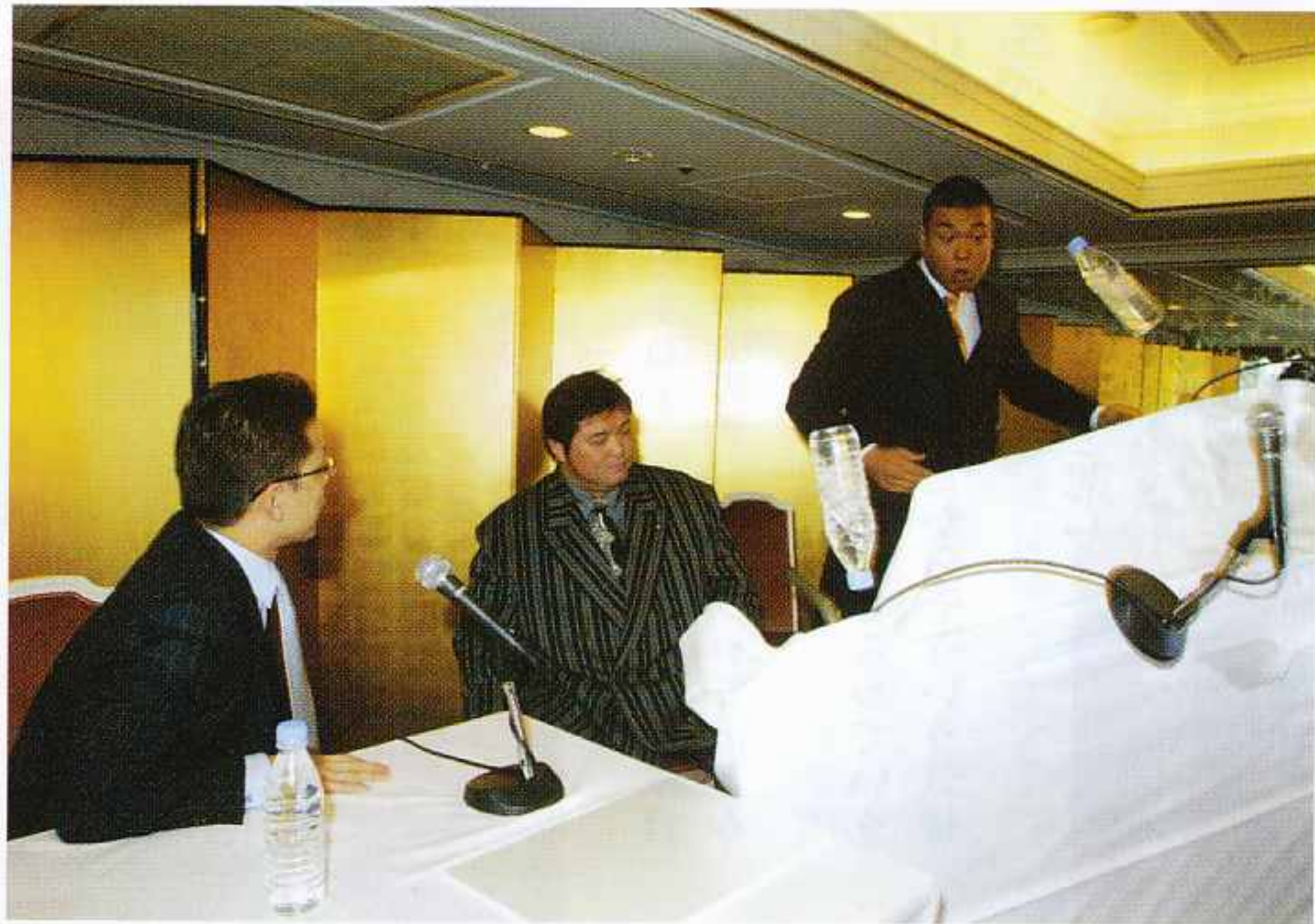
小川　買って持って行ってんだよ、わざわざ。

橋本　サイン貰いに行ったんだから。

小川　読んでるよと。「どういうことなの？」って確認しに行きたかったんだよ。それを確認する前に置いて来ちゃったね。本代返せよ、コノヤロー！（笑）。まあでも、本じゃなくてアイツだけは読めない、俺も。いままで散々振り回されてきたから。

——遡れば、髙田さんの現役時代から小川さんとは因縁がありましたからね。

小川　やる以上はやるけど、条件出してんだから俺の言い分としては「お前もやれよ！」と。「ホントにお前やる気あんのか？」と。で、「またやりません」なんて言ったらオイオイオイってなっちゃうからね。

——「目を覚ましてください」と言わざるを得ないと（笑）。小川さんは読めないとおっしゃってますが、新弟子時代から付き合いのある橋本さんはどうですか？

橋本　さっき言ったじゃない？　髙田延彦個人の素の部分が出たと。別に俺は何も怖いとかじゃないんだよ。ただ、プロレスをそういうふうに思ってる人に、そういうイベントをして欲しくないだけだから。もちろん最初から上手くいってればこんなことにならなかったわけ。榊原代表のくだらない一言が波紋を呼んでるけど、俺らからしてみれば、お前らみんなそう思ってんじゃないのかと、そう思ってる人間ばっかりじゃないのかって不信感があるんだよ。

——疑心暗鬼になってしまう部分があると？

橋本　だから、悪い意味の『W—1』にさせないようにしないと。ただ俺らが全部に目が届く訳じゃないからね。

小川　みんな『W—1』の変わり種みたいに思ってんだけど、全く違うモノを考えてるし、OHがやる以上は『W—1』の変わりじゃないんだよ。新しいモノをやっていこうと思ってるからね。ハッキリ言って髙田が俺らの終着点じゃないから。髙田はあくまでも、「やってやる」っていう俺自身の問題だから、元々はね。たまたま巡り回ってアイツが『ハッスル1』で携わっているっていうだけで、別に出てくるなら出てくりゃいいし、出てこないんだったら出てこないで構わないんだよ。ただ、そこまでゴチャゴチャ言うんだったらアイツはやるんじゃねえかって思ってるよね。

橋本　だから、ちょこちょこ出てきてね、ローンみたいにしてると、ジャパネットって呼ばれるぞ、コノヤロー！

——ジャパネット髙田ですか（笑）。で、話は戻りますけど、髙田さんが本を出したことに対して面白くないなっていうのはあるわけですか？

橋本　俺は読んでない。読みたくもない。だから俺がいつも言うのは直接だよな。直接話を聞く。目と目を見合って面と向かって話すのが俺流だから。小川もそうだと思うし。だから今日行ったんだよ。だって俺らにお声が掛からない。オフィスの人間ばっかり出しといて、そこで一方的に発表するっていうね、あちらさんのイベントのやり方じゃあね、プロレスラーは動かないよ。プロレスラーっていうのはホントに不思議なとこがあって、『PRIDE』さんとかあっちの方は選手は個人じゃない？　選手は個人のために闘って、尚かつお金のためにやってる。プロレスラーはそれだけじゃない時があんだよ。看板背負ったりする時もあるからな。そういう時に小川みたいに1億円近い金を積まれたって首を立てに振らない馬鹿もいるんだよ（笑）。

小川　俺、馬鹿ですか？（笑）。

橋本　そういうことだよ。レスラーってそれだけね、志っていう部分で凄い崇高なものを持っててね。唯一残された男道だと思ってるから。前の話になっちゃうけど、小川が提示されたギャラなんてのはレスラーの中でも群を抜いてたわけですよ。

——昨年の『猪木祭り』ですね。

橋本　それでも首を縦に振らないっていうのは、俺はプロレスラーとして逆に誇りに思うしね。それだけの意識があれば、もしかしたらもっと全然安い金でもやるだろうしね。そういうところがあるから、レスラーって馬鹿だって言われてる所以だけど、だからこそプロレスラーのイメージを本当に大事にしてもらいたいってことですよ。

——逆に言えば『ハッスル1』は、プロレス界をいい方へ変えていくチャンスでもあるっていう捉え方をしてる訳ですよね。

橋本　だから、あの人が人の話を聞かなきゃ進まねえよ。

小川　結果的にプロレスが良くなればいいことなんだから。それが、いまみたいにさぁ、レスラーがチョロチョロチョロチョロ、アルバイト感覚でリングに上がれるような世界にならないようにしないとね。それはプロレスの業界が低いからそうなってるだけで。昔はそんなことなかったでしょ。

橋本　でもな、ハッスルって言葉はな、大正時代の人が覚えたてのジャパニーズイングリッシュみたいな言葉だから。そういう部分で古いものを感じる。でもそれをカタカナにしてみると「ハッスルするぞ！」ってサービス精神みたいなもんじゃない？　それはそれで成功していけばいいだろうし、失敗したら笑いモノになるし、どっちかだよ。

小川　時代は繰り返されるって言うけどさぁ、テレビが始まったのが力道山の街頭テレビからでしょ。で、紆余曲折あって、ず

OH砲、「ドゥ・ザ・ハッスル」に対抗し「カメハメ波」!?

っと流れてきて、ようやく今年、地上波デジタルになる訳じゃん。これも何かの縁かなって思って。タイミング的に『ハッスル1』がデジタル派とともにプロレス界にとって良いものになればなあって思うよ。

—そうですね。

橋本 (突然)カメハメ波!

小川 ……。

橋本 笑って～や? 折角、たまに冗談入れてんのに!

—し、失礼しました(笑)。

小川 山口さんの時と違って上手く波に乗れないんですよね(笑)。

—力不足で申し訳ありません!

小川 だからハッスルでもマッスルでもいいんだよ。要は面白けりゃ、何でもいいんだよ。一番いい反応はこの間の両国のお客さんが、髙田しかり島田しかりが出てきた時のブーイングでしょ。あれは凄かったじゃない?

—あんな本気のブーイング久々に聞きましたよ。

小川 あの気持ちだけでも、俺たち選手には十分伝わったと思うよ。

—ペットボトルが投げ込まれるは、花道を帰る島田さんに殴り掛かろうとするお客さん出たりと凄い熱でしたからね(笑)。

小川 そうそうそう。ああいう熱はね、他のリングのことは分からないけど、絶対まだあるんだから、それは大事にしてきて良かったなっていう部分と、いいもん見れたなぁっていう部分があるし。

橋本 唯一残されたね、ホントにプロレスを大事にしてくれてるファンがいるわけだから。そういうお客さんのためにも、たくさんの大衆を巻き込むために、面白いものを提供していきたいよな。

小川 ZERO-ONEぐらいじゃないかなぁ? あんなに怒ってペットボトル投げるとこってないんじゃないの?

—最近は、ほとんどないですよね。

小川 みんな静かに見てるでしょ。語れないプロレスっていうの? 『紙プロ』さん風に言うと(笑)。大会終わって、居酒屋でも語られなくて、そういうプロレスにはしたくないなって。

—熱っていう部分では髙田さんが「2人に『PRIDE』の熱を感じてほしい」って言ってましたけど……。

橋本 (遮って)そんなもん、知ってるって! 『PRIDE』なんか何度も観てるよ。

—安田さんのセコンドに付いたりもしてましたからね。

橋本 知ってるって! 逆に聞きたいんだよ。あの人、そんなことばっかり言ってるけど、見てないだろう、俺らのプロレス。

小川 いま子供で忙しいですから(笑)。

橋本 いや、もっと前から見てないよ。見ずにモノを言ってると思う。自分の周りしか見てない。

—一番の『PRIDE』ファンみたいなところがありますからね(笑)。

橋本 髙田さんはね、俺が入門した時に「猪木さんのことを神様だと思え」って教えてくれたよ。でも、いつしか袂を分かっていって今日に至ってさ。あの人はプロレスラーは最強と言って自分で打ち出してきたわけだよ。

—Uインター時代はそうでしたね。

橋本 でもどっかで妥協しちゃって、プロレスラーでありながら、心は『PRIDE』の人間になっちゃってる。あの人の人生に物言うつもりはないけど、腹を据えかねるのは、またプロレスに戻ってきて、自分で仕掛けようとしてることだよ。どういうふうに思ってそうなったのか俺は知りたい。だからプロレスを捨てた人なのか、プロレスに対して熱いものが残っててやりたいと思ってるのかっていうことを俺は聞きに行ったつもりだったんだけど、その前に話が崩れちゃったから。

小川 逆に言うなら、髙田に残された、残り少ないチャンスかもしれない。

—『ハッスル1』が、もう一度、髙田さんの輝ける場になるかもしれないと?

小川 輝くかどうかはわからないけど、リングに戻ってくるにはね。まあヒールで輝くのかベビーで輝くのか分かんないよ。それはお客さんが決めることだから。

橋本 顔はいいからなぁ(笑)。

—まあ、そうですよね(笑)。

小川 それは彼が決めることじゃなく、お客さんが決めることだけどね。唯一残された道を選んでくるのか、そのままスーツ着たオッサンで終わってしまうのか、彼の選択だよね。

—それで、小川さんとの対戦が決まったゴールドバーグは髙田さんからの刺客という形ですけど、WWEにも詳しい小川さん的にゴールドバーグはどう思いますか?

小川 WWEは、いまは違うけどホーガン

ドゥ・ザ・ハッスル!!

橋本真也 小川直也

何が大晦日だ! 俺は紅白見ようと思ってたのに、何で呼ばれたんだ?

がトップレスラーだと思ってるから。多分アメリカのレスラーとか詳しいヤツでも、ホーガンに敵うヤツいないんじゃないのかっていうのはあるからね。それ以上の選手が出て来てないっていうのが現状だから。だけどやっぱり、その座を目指す選手がたくさんいる中で、その中でもトップに成りうる選手が来る訳でしょ。

――まあ、そうですね。

小川　俺としては、そういう選手を間近に体験できればいいなって。いままでそういうのないからね。アメリカのトップレスラーとやるってのは。それはそれで、まあいいかなと。それとは別にね、やってもらう以上は「髙田君、どっちなの?」って。「やるのやらないの?」って。プロレスラーとして真剣に取り組む気があんの?っていうのはこっちの意見ですよ。別にゴールドバーグには恨みないもん、俺。

――恨みはないでしょうね（笑）。

橋本　ハンバーグの上に金粉撒いて、ゴールドハンバーグ!

――売店で売り出しますか（笑）。毎年恒例ですけど、大晦日は小川さんも例年の如く、早い段階から名前が挙げられてましたよね。『Dynamite!!』でも柔道時代に対戦経験があるハハレイシビリ・ダビドの相手として「小川選手とやらせたい」って会見で言ってましたし。

小川　失礼だよ! サップと曙でブチ上げてんだからそれで行けって話だよ。他局でもいろいろやってるから自分達に自信がなくなって、あれこれ言うわけでしょ。ホント失礼な話だよ。

――会見で名前を挙げられちゃいましたからね（笑）。

小川　挙げんのは結構だけど、勝手に承諾もなく名前を出すのは失礼な話だよ。だって、サップvs曙で行きますって言ってるのに「小川さんどうですか?」って言われてみ。冗談じゃねえよって話だよ。プロレスラーを余程甘く見られてるよ。

橋本　俺ら、浪口（修）出しちゃうよ。

――それはいいですね（笑）。同じようにZERO-ONEのJr.二冠王の坂田さんも『PRIDE』……。

橋本　（遮って）坂田とはそういう契約だから。彼がやりたいって言えば問題なし。アイツも「プロレスを上げるために」とか言ってたけど、自分が納得するまでやればいいじゃん。最終的にプロレスがどうあるかっていうのは、アイツはチャンピオンになっても分かってないところもあるから。

小川　でも、坂田に別に恨みつらみはないけど、看板背負ってチャンピオンとして出るからには、試合次第で戻るとこはねえぞっていうのはあるよ。

――それは負けられないですね。

小川　いや、勝ち負けじゃなく、変なしょぼい判定で負けたりとか、勝つことに越したことはないけど、プロレスラーのチャンピオンとして試合をして欲しいよね。何も見せられずに終わっちゃったってのだけはね。少なくとも『LEGEND』みたいな試合はして欲しくないってことだよ。

――マリオ・スペーヒー戦ですね。

小川　伸るか反るかの、これがプロレスのチャンピオンだってところを見せて欲しいよね。

――というわけで、お二人の大晦日の予定はどういった感じになるんですか?

小川　さっき会見で『PRIDE』を見に来いって誰かが言ってたような……。

橋本　そうやな。何が大晦日だ! 大晦日は俺は紅白見ようと思ってたのに、何で呼ばれたんだ?

――お二人は歌もお上手ですし（笑）。

橋本　目指せ紅白か（笑）。でもいいよ、『PRIDE』に顔出せっていうんなら出すよ。要するに『ハッスル1』の宣伝でしょ? こっちも、やるって言った限りは宣伝に行きますよ。

小川　でも勝手だよな。こっちはこれだけ条件飲んでるのにさ、アイツら何にもやんないもんね。いいように条件だけ出してさ、俺たちは何にも条件出してないんだよ。

橋本　じゃあ、俺からもひとつ条件を出す。頼むから郁恵をゲストに呼んでくれ!

――郁恵ですか? ……あぁ、榊原代表ではなくて榊原郁恵の方ですか（笑）。

橋本　そういうことや。

――榊原郁恵はともかく（笑）、行く気は十分あるということですね?

橋本　だから、俺は何よりホントに行ってためになるんだったら行きますよ。

小川　髙田に言っとくけど、なんとか祭りだかなんだか知らないけど、熱を見て感じて欲しいって言うんだったら、お前、両国に来てからモノを言えって話だよ。テメエはこっち来ねえでさぁ、俺たちの所の熱を見て欲しいってバカじゃねえのか。島田みたいなさぁ、ハンチクみたいな男を来させやがって!

――ハンチク野郎ですか（笑）。

小川　ヤドカリみてえな男差し出してさぁ、こっちの熱も感じ取って欲しいよ。ホントに一方通行だよ。アイツのアダ名、一方通行でいいんじゃないの?

――一方通行ですか（笑）。

小川　背中に標識の矢印書いとこうか。前には進入禁止で（笑）。

橋本　ローンも組めるぞ!

――アイフルですか?（笑）。

橋本　違う違う。ジャパネットだよ（笑）。

小川　ジャパネットにしようか。一方的に売りつけるってことで（笑）。

橋本　ダメだよ、俺も買ってんだから。失敗したけどな（笑）。

小川　一方的に自分とこの宣伝ばっかりだからさ。「こんなの付いてます」とかさ、ホント、ジャパネットと一緒だよ。そうだ! ZERO-ONEに来た時はジャパネット髙田のテーマで入場してもらいましょう。決まり!

橋本　怒られるやろ!

小川　でもね、それで出てきたら絶対ZE

19vs4のド真ん中・根絶やしマッチは
破壊王率いるZERO-ONE軍が圧勝!!

リングで向かい合った長州と橋本はリングのド真ん中でロックアップ。その後は互いに素手で殴り合った。敗れた直後、長州のラリアット一閃！

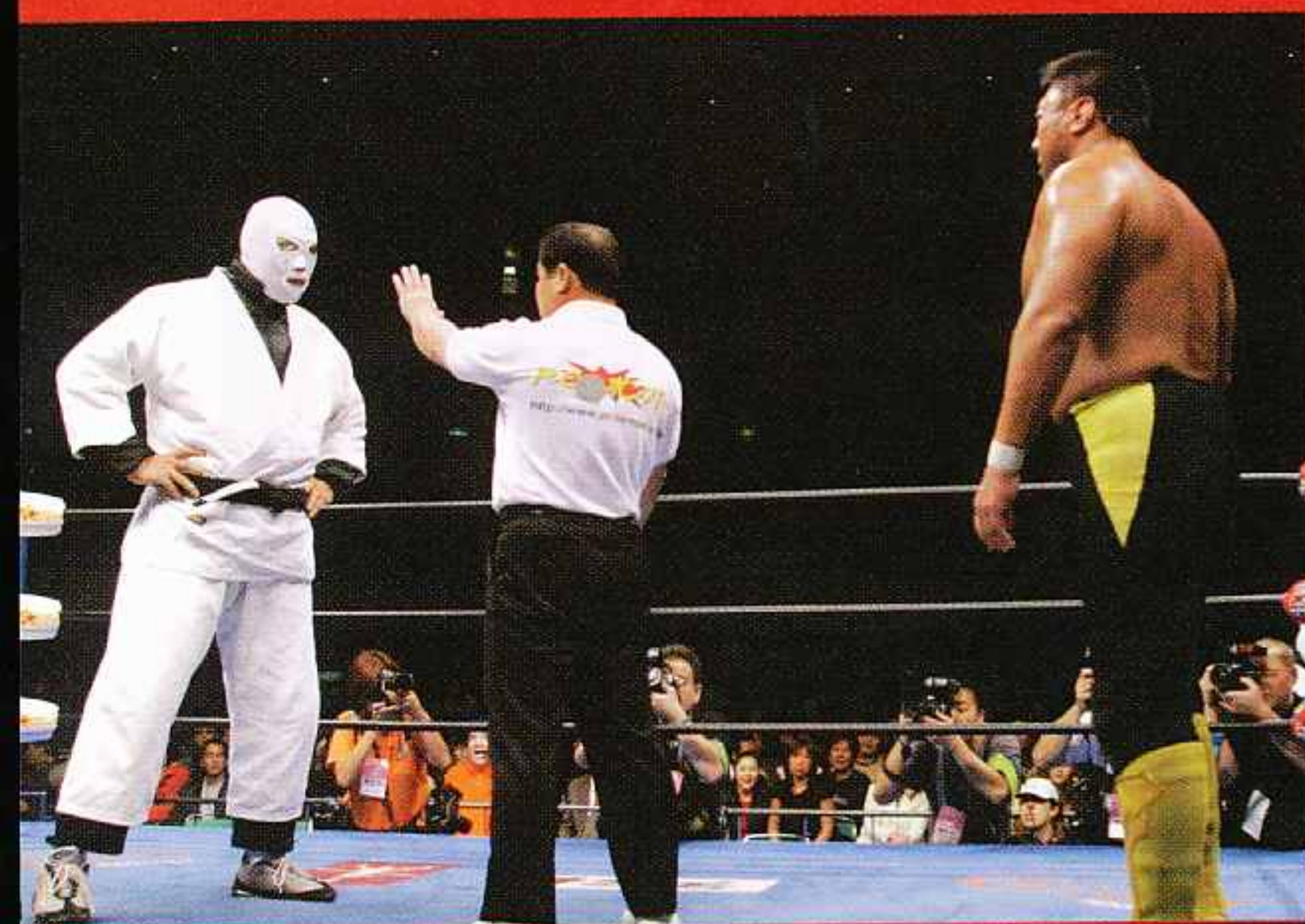
12・14はZERO-ONEvs長州軍の開戦記念日。来年もやりますかーッ!?

試合後、足を引きずる長州はリング下でマイクを持つと破壊王に「チンタ！　このクソたわけが！　最初から潰し合いやるって言ったんじゃないのか。潰し合いだ、コラッ！」と強がった

最後の方では、ほぼ一方的な破壊王ペースとなった長州vs橋本。途中でリングに上がった組長が長州へと手を貸すものの、長州はこれを拒否。最後は痛めている脚目掛けてヒザ十字を極めた

12・14 ZERO-ONE 両国大会

いつのまにやら増殖していた白覆面と入場してきた小川。今回の川田戦が、これまでの小川のプロレスでのベストバウトとの声も多い。ちなみに小川は川田戦後はノーコメント

執拗なローキックから渾身の逆エビ固めまで、とにかく小川を攻めまくった川田。ダメージが残る小川はオープンフィンガーでのチョップを繰り出した

両リン裁定が下され、両者がコーナーにもたれ掛かっていると「お客さんが待ってるからやるぞ」と川田はアピール。もちろん場内は大歓声!

橋本真也

ＲＯ・ＯＮＥのファンは拍手するよ。あのテーマ曲で入場してくるだけの器量を持ってれば拍手するよ。

――お前は男だと（笑）。

小川　俺も「男だ！」って言ってやるよ。それぐらいの器量を持ってるんだったらね。でも恐らくできないでしょ。

橋本　俺は台所洗剤の『ＪＯＹ』を用意しておくから。

――は？　それはどういうことですか？

橋本　あっ、あれは違うか。高田文夫だ。

――橋本さん、『ＪＯＹ』は高田文夫じゃなくて高田純次ですね（笑）。

橋本　あ、そっか（笑）。

小川　まあでも、大晦日の前にＺＥＲＯ－ＯＮＥで後楽園３連戦があるから、そこに来いっていうんだよ。テーマ曲は俺が用意しておくから。

――それは楽しみですね。

橋本　俺らが紅白のゲストに呼ばれてれば何も言うことはなかったんだけどな。

小川　でも大晦日は興行戦争っていうけど、何が興行戦争だって話だよ。世間から見たらただの仲間割れじゃねえか（笑）。

――そうでしょうね（笑）。

橋本　まあ、俺らはプロレスのために動くだけですから。

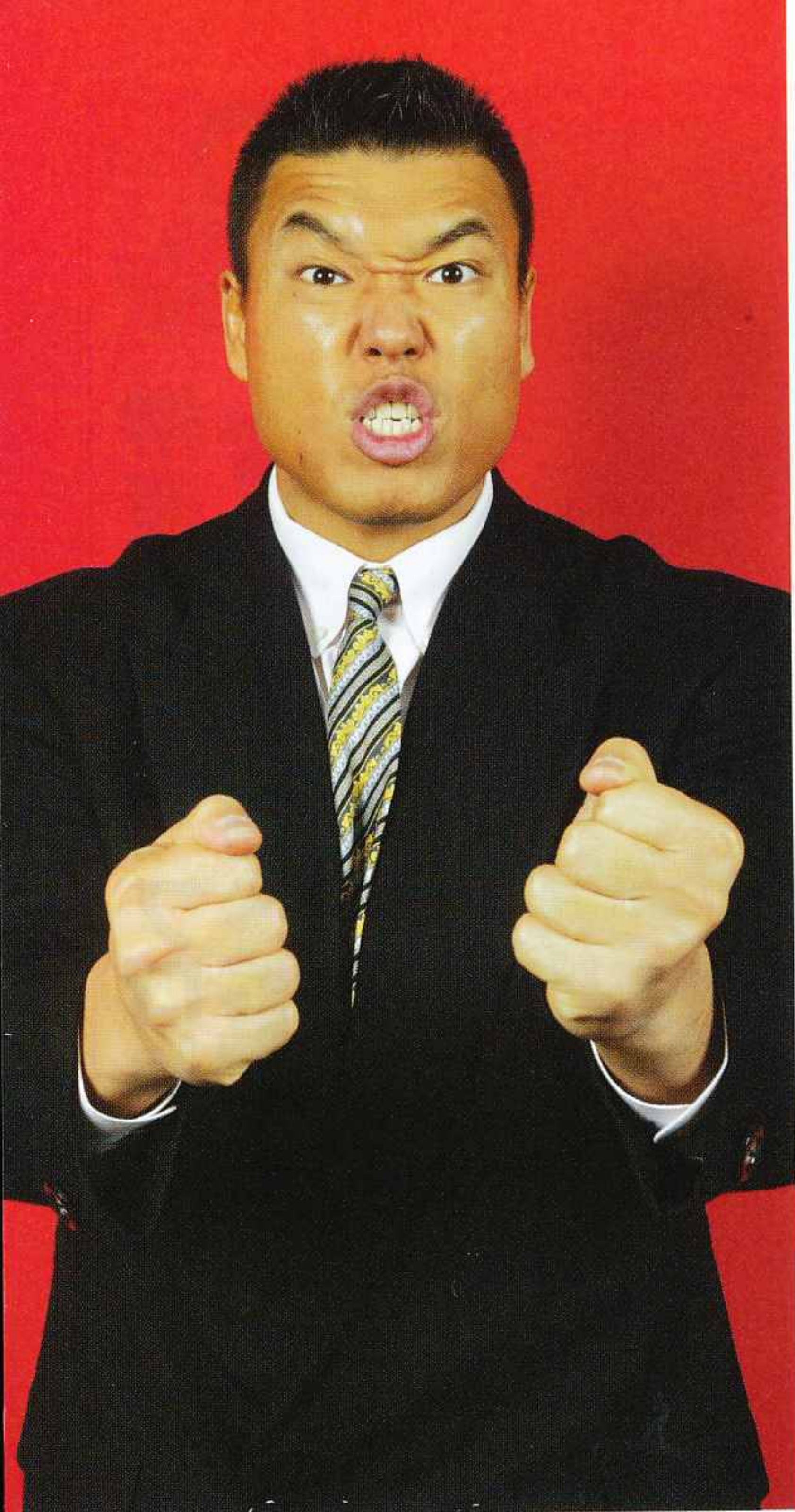
小川　正直言ってね、『ハッスル１』も新日本のドーム大会だっけ？　同じ日にやるけど興行戦争じゃないから。たまたま日が重なっただけ。俺も最初は反対だったんだよ。プロレス界を盛り上げるんだったら、３日か５日にするべきだって。でもドリームステージが先に場所取って決めちゃったことだから、俺は、その時は出るか出ないか決めてる最中だったからしょうがないんだけど。業界のためを考えるなら、日にちをずらして、どっちが面白いかっていうのを見せられてたと思うしね。

橋本　でもやっぱり、年越しは紅白だよな。今年こそは出れると思ったのになぁ……（しみじみと）。

――それは残念でしたね（笑）。

橋本　まあね、『ハッスル１』について俺が思うのは、『ハッスル１』を見たお客さんが、大会の後に姫初めをやろうと。

ドゥ・ザ・ハッスル!!

とにかく『ハッスル1』で姫初めや！
思う存分ハッスルしてくれ!!

小川直也

―アハハハハ!

橋本 『ハッスル1』を見てハッスルしろ! そういう気力が沸くようなイベントにしたいなと思ってるから。

―橋本さんは対新日本っていうのは意識してませんか?

橋本 念頭にないね。相手にしないとかではなくて、念頭にない。

―「新日本の幻影を追うのはもう御免だ」って両国でも言ってましたけど。

小川 まあ、1・4で結果が出るんじゃないの?

橋本 さっきのスターの話に戻るけど、要するに客を入れられない人間は、いつまでたっても前座なんだよ。だから、逆に言うとな、客を動員できるから俺はスターだと思ってるよ(キッパリ)。

―それは間違いないですね。

橋本 長州だってそうだよ。客呼べるんだよ。だからこそスターなんだよ。でもスターの座を転がり落ちるのも早いんだろうなって思うしな。だからこそ長州力は、もう一回蘇ることができるかどうか。蘇って欲しいなって思うよな。

―というのが正直な気持ちなんですか。

橋本 最後に燃え尽きる前にグワッと燃えて散ってこそ長州力じゃないのって。

―小川さんは、長州さんのことは橋本さんに任せたと。

小川 任せたっていうか終わっちゃったじゃん! あれ見て、付き合いたくねえなって正直思ったよ。現時点では橋本さんに任せた!

―少なからず因縁はありますからね。

小川 因縁はあるんだけど、どう見てもねえ……。

橋本 いまは自分の名前に負けちゃってるからな。やっぱり、長州力は長州力のまま死ななきゃダメなんだよ。革命戦士のまま死ななきゃダメなんだ。

―わかりました。では最後に『ハッスル1』に対して意気込みを聞かせてください。

橋本 だから、もっと世間様にプロレスっていうものを分かってもらうために、やっぱりメディアっていうものは必要だからこそ、俺らは『ハッスル1』っていうものに期待してるんだよ。

小川 まあでも、『ハッスル1』をやりながら、ZERO・ONEっていうのも連動していくのが一番いい道なんじゃないかなと思うよね。

橋本 まあ、とにかく『ハッスル1』で姫初めや! 『ハッスル1』を見て、思う存分ハッスルしてくれ!(笑)。

―アハハハハ!

橋本 そして大晦日は、俺たちはプロレスラーの志を体全体に表しながら、『PRIDE』さんの会場にプロレスを押しつけにいきます!(キッパリ)。

―プロレスを押しつけに行くと?

橋本 そうや。だって、そのために呼ばれてるんだから。それともう一つ!『ハッスル1』では、あくまでも俺たちの土俵で試合するぞ!

小川 俺らはプロレスを押しつけに行くから、高田もZERO・ONEは年末に後楽園3連戦があるから、いつでもいいから何らかの答えを持ってこいや!

[12月16日/都内某ホテルにて収録]

橋本真也

大晦日は興行戦争っていうけど、世間から見たらただの仲間割れだろ!

『ハッスル1』開催発表会見

ドゥ・ザ・ハッスル!!

榊原代表の〝プロレスだから〟発言に小川がブチ切れ！
泣き虫呼んでこい、泣き虫!!

オマエじゃ話にならない！
髙田を呼べ!!

不用意なコメントを発してしまった榊原代表に、その真意を問いただす破壊王！終始イライラ気味だった小川は、榊原代表の態度に怒りを爆発することになる。長州風に言えば、DSEはな～にがやりたいのかコラア！なのだ。

結局プロレスというのは、チンピラまがいのことしかやれない（榊原）

ドゥ・ザ・ハッスル！　12月4日、都内ホテルで新プロレスイベント『ハッスル1』の概要が正式に発表された。会見に出席したのは、DSE代表取締役・榊原信行氏と、橋本真也、ZERO－ONEの中村専務、そして小川直也。榊原代表は「新たなプロレスの舞台をつくりたい。1月4日は新日本さんが毎年東京ドーム大会を行っている日だが、けして意図的に選んだわけじゃない。胸を借りるつもりで挑みたい」と挨拶。「元気に楽しくイキのいいタイトル。みんなでハッスルして頑張りたい」と、イベント名『ハッスル1』を発表。続いて橋本、小川が挨拶を行った。

橋本　どうもおつかれさまです。破壊なくして創造なし！　**ハッスルするぞお!!**（棒読みで照れながら）。

［記者陣ノーリアクション］

橋本　……**ということで、**なぜいまDSEさんと組んでやるのか？　**過去にある人**を介しまして『PRIDE』さんとわずかな確執があったり、それから**髙田さんの本**が出まして話題になっています。しかしながら、そんなことは**小さなこと**でありまして、DSEさんの持つイベント力、企画力、それから演出力。そういった総合的なものと、我々が持ってます**プロレスの誇り**、これを**世間様にもう一度打ち出す**ことができるんであれば、ゼヒゼヒやっていきたいと。

小川　（腕組みをしながらブ然とした表情で）今回、どういった経緯で、こうなったかは**よくわからない**んですが、俺としては幸いにもいろんなとこから声が掛かってる中でここを選ばせてもらったのは、きっとここからなら**新しいものが生み出せる**んじゃないかなと思ったから選びました。正直言ってDSEさんが**〝『PRIDE』が上でプロレスが下〟**という態度を取ってきたことに関しては、非常に快く思

ゴチャゴチャ言ってんじゃねえよ、コラァ！ 何がハッスルだよ!? アアン!?

ってない部分はあるんですが、まあそういう小さなことではなく、とにかく今回は真剣にプロレスに取り組んでくれるという話を聞いたから、この話を受けました。

［中村専務の挨拶も終わり質疑応答へ］

丸井　スポーツニッポンの丸井と申します。榊原代表にお聞きしたいんですけども、DSEさんは年末に『男祭り』がありますが、『ハッスル1』は中3日で開催ということで、一部では『男祭り』で手一杯でプロレスのことを考えてる余裕はないという報道もありますけども。そこはいかがでしょうか？

榊原　まあ、たしかに興行が重なるんですけども、**1月4日の方が“プロレスということ”なので、問題なく進むと思います。大丈夫だと思います（半笑い気味に）。**

［榊原代表の発言に小川は納得いかない表情で首を傾げる。橋本は榊原代表を睨みつける］

橋本　（榊原に向かって）……あのお、すいません。プロレスラーとして、ここが一番大事なことだと思うんですけど。**“プロレスだから”**という発言、それは……。

榊原　（遮って）そういうつもりじゃなくて……。

橋本　（遮り返して）いやいや、そういうふうにボクは聞こえました。

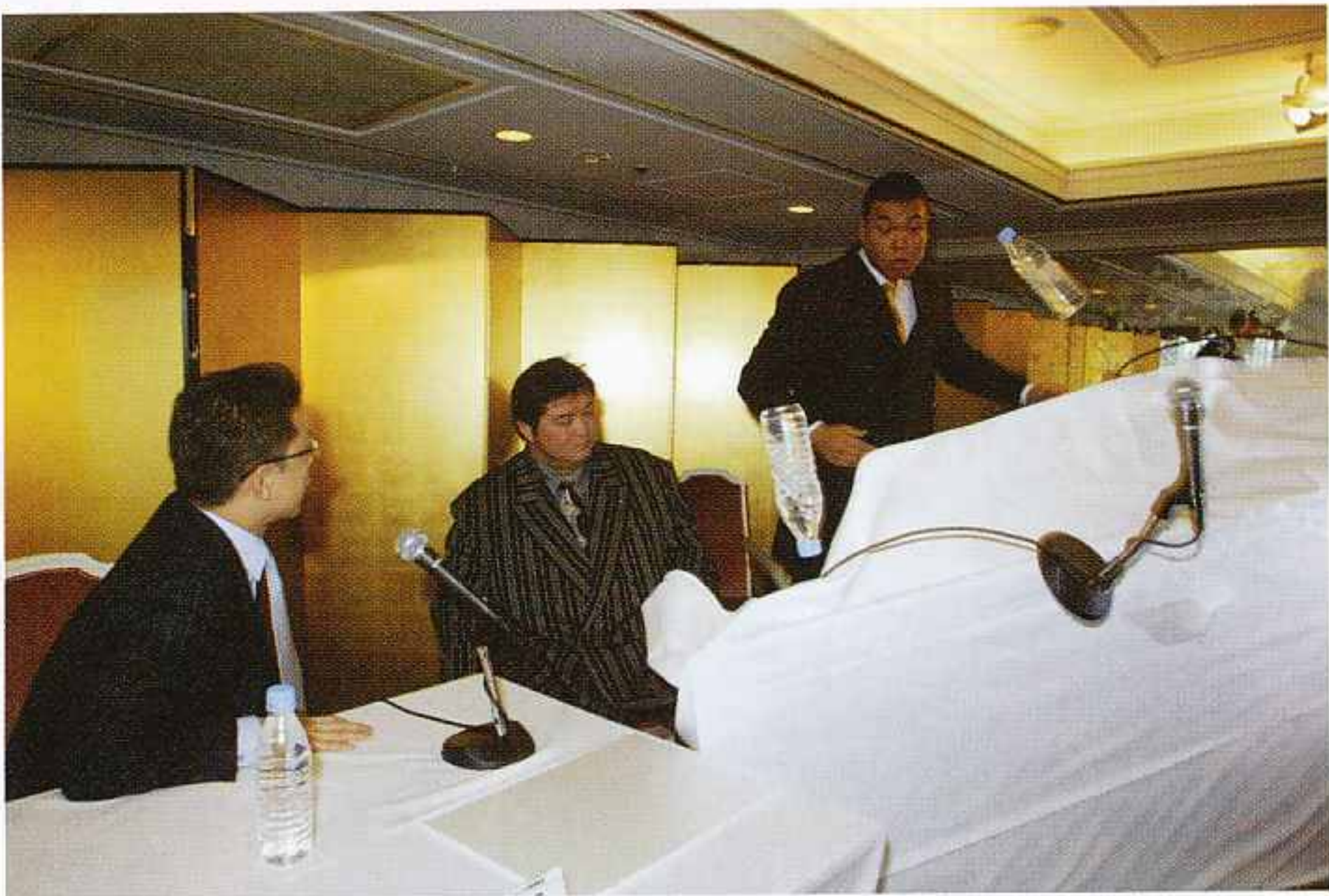
榊原　他意があって言ったんじゃないんですが……。

［小川、苛立たしそうにコンコンと机を小突き続ける。榊原代表と橋本は“言った”“言わない”論争を続ける］

榊原　いやいや、ホントにそんなつもりではないですから。

橋本　じゃあ、何でそんな発言するんですか？　“プロレスだから”って言ったじゃないですか!?

榊原　言葉尻を取って言われると……。

小川　（ガン！と両手で机を叩きながら）ゴチャゴチャ言ってんじゃねえよ、コラァ！　アアン!?　さっきから黙って聞いてりゃフザけたこと抜かしやがって。だいたい**オメエ**を前から信用してないんだよ。**何がハッスルだよ!?**　フザけた名前付けやがって！　プロレス、ナメてんだろう!?

榊原　ナメてないで……。

［小川、バーンと机をひっくり返す！　あまりの吹き飛び具合に驚きおののく記者陣!!　小川は榊原代表ににじり寄り肩を掴むが、橋本が間に入り制止！］

小川　（橋本に向かって）だから言ったじゃないですか!?　信用できないですよ、こんな奴！

榊原　ナメてないですって……。

小川　お前じゃ話になんねえんだよ！　**泣き虫呼んで来い、泣き虫ィ！　髙田呼べ、髙田を!!　コラァ！**

［小川、椅子を蹴り散らして会見場を立ち去る。ブ然とした表情の榊原代表と、泣き顔の中村専務］

榊原　（橋本に）ナメているわけじゃないんです。ホントに一生懸命やりますから。

橋本　あのぉ、小川の言ってることは**レスラーの総意**だと思って下さい。ドリームステージさんも素晴らしい興行を行われて、すごい地位を収められていると思います。だけど、いまの発言はプロレスを理解してないと思う。俺からお願いあるんですが、元プロレスラーであられた統括本部長・髙田さんに、プロレスというものを髙田さんが本当に思っておられるのか、それとも**プロレスに負けた髙田延彦**としてドリームステージさんからものを言われてイベントをするのか？　それをハッキリしてほしい。（榊原代表の）気持ちはわかってるけど、そういうことがポロッと出るっていうことが耐え難いことなんですよ。俺たちはどんな思いしたって**そこだけは譲れない**部分でありますので。

［橋本も会見場をあとにし、残された榊原代表は橋本＆小川の怒りに「納得がいかない」とし、**「結局プロレスっていうのはチンピラまがいのことしかやれない。記者会見というと、こういう揉め事を起こすようなことしかできないのがプロレス」**と斬り捨てた！　しかし、スタート早々、形にならないことを恐れた榊原代表は「早急に髙田と相談して速やかな対応をします」と、ことの顛末をアメリカに飛んでいる髙田に報告！　すぐさま髙田の見解がFAXで寄せられた。以下が髙田の声明文だ！］

髙田　「本日、『ハッスル1』の会見の席上にて、トラブルがあったということを先ほど聞いたばかりです。ドリームステージの榊原代表に対して、小川選手が取るに足らないことで噛みついたということですが、はたして言葉尻を捕らえることが彼の仕事なのだろうか？　という疑問でいっぱいです。ドリームステージが用意した新たなる舞台に、ただの1回も上がらずに撤退すると言っている小川選手に対して、現在の私の正直な気持ちを言います。**チンピラまがいのような行動**を取った挙げ句に、あるいは**小学生のような行動**を取った挙げ句に、プロレス界最大最後のビッグチャンスを潰していいのか？　それであなたはいいのか？　という思いを、ストレートに小川選手に投げかけたい。彼のこれまでの行動を振り返ると、また私に対して挑発行為を繰り返してくるのは目に見えてます。しかし、私は既にリングを降りた人間なので、1月4日のリングの上で、現役の、それもポテンシャルの高い選手と闘い、結果・内容をもって自身の存在意義・プロレス観を私の目の前に突きつけてほしい。なんなら榊原代表に代わり、ドリームステージが用意しうる最高の選手と、私自身がこのアメリカでコンタクトを取り、小川選手と闘わせてもいいと思ってます。また、橋本選手からは、私が『PRIDE』の人間なのか？　それともプロレスラーとしての気持ちが残っているのか否か？　という問いかけがあったとも聞きましたが、これも正直に言います。私はいま現在、『PRIDE』統括本部長です。その私が胸を張って“プロレスラー”と名乗れる、あるいは名乗らせてほしいという気持ちにさせてくれる**「本物のプロレス」**を見せる自信が、果たして彼らにあるのか？　本日の**会見の低たらく**を聞く限りでは、その自信、**プロレスの定義、鉄のビジョン、**熱い思いなどは、小指の先ほども彼らにはないというふうに感じました。もしも、彼らが「新しいプロレス」を見せる自信があるのなら、来年1月4日、私は舞台を空けて、待ってます。新しいプロレスの道しるべを作るのは橋本選手、小川選手しかいない。最後の最後でプロレスを守るのはこの2人しかいないということは、榊原代表とも常々話していたことです。もう一度言いましょう。これはプロレス界にとって、プロレスを変える最大最後のチャンスです。彼らが、**「新しいプロレスを構築する」**という新たなイバラの道に踏み込む勇気を持った“男”たちであることを願ってやみません。

［髙田の見解を受けた橋本は、「プロレスを盛り上げる気があるのなら、ぜひウチの12・14両国大会に足を運んで欲しい」と、髙田に来場を呼びかけた！］

記念すべき開催発表会見が御破算になってしまい、いままでの尽力が水の泡。ガックリと肩を落とす中村専務。榊原代表は構ってられないとばかりに「とにかく、またあとで相談してもらって」との気休めにもならない言葉を残して、ダンディに会見場をあとにした

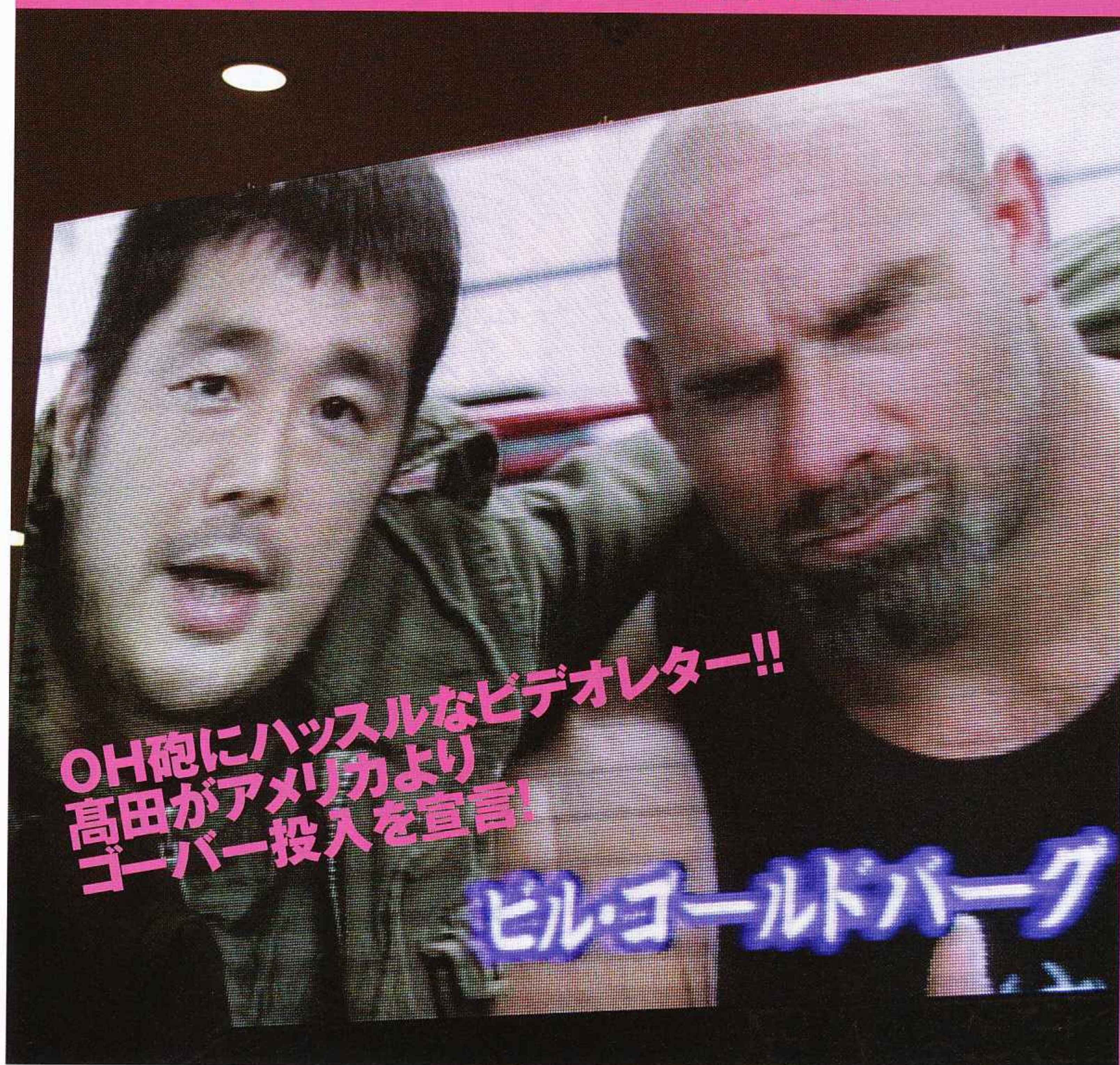
EPISODE 2 >>> 12.14 SUN

ZERO-ONE両国国技館

ドゥ・ザ・ハッスル!!

本物のスーパースターを紹介しよう!!

ビビッたか? たじろいたか?

ポーク(橋本)&チキン(小川)!!

OH砲にハッスルなビデオレター!! 髙田がアメリカよりゴーバー投入を宣言!

ビル・ゴールドバーグ

「帰れ」コール爆発! 髙田、島田に罵声の嵐!!

12・14ZERO—ONE両国国技館大会に、橋本から来場を呼び掛けられた髙田は、**「アメリカからの大きな手みやげ」**を持って登場する可能性を示唆。しかし、実際に現れたのは先日**「ハッスル・イベントディレクター」**に就任したばかりの島田裕二! 島田氏といえば、第1回『火祭り』に出場するはずだった石川社長、アレクくサンダー大塚を政治的な絡みで**ドタキャンさせた張本人**とされている。ZERO-ONEとは、ただならぬ関係なのだ。

島田氏は、休憩時間明けにZERO・ONEリングアナのオッキー沖田が来場者数を発表するためリングに上がったところに乱入! オッキーに**「髙田さんの名代だから!」**と言い放ち強引にマイクを奪った。もちろん観客は大ブーイングでお出迎え! この大会のPPV実況アナウンサーと、解説を務めた『ゴング』編集長・GK金澤のコメントも合わせてお読みください。

島田 え〜、皆さん!『ハッスル1』イベントディレクターの島田です!(カン高い声で)。

近年希にみる大ヒール誕生の予感! いくら髙田本部長の名代とはいえ、島田氏は『火祭り』騒動でZERO-ONEに不義理を働いているだけに、唐突な乱入はファンのヒートを大いに買った! いや、一番怒っていたのはGKかも。

わたくし、島田は無事、プロレスに戻ってくることになりました!

観客 **帰れーっ、このクズ!!**

島田 今日は髙田さんの名代として、**髙田さんからのメッセージ**を持ってきました(ビデオテープを掲げる)。

観客 いいから帰れ、このバカッ!

島田 オッキーかけて、これ!(オッキーにテープを突きつける)。

[オッキーは戸惑いながらテープを受け取り、放送ブースに持っていく。観客は島田に**大「帰れ!」コール**]

実況アナ いま『ハッスル1』ディレクターからテープを渡されまして、これをかけてくれと。髙田さんからのメッセージが入っていることがあきらかになりました。我々はちょっとわかりませんでした。どういうメッセージなのか? あ、始まりました!

[会場のビジョンにビデオ映像が流れる]

ナレーション 12月某日、アメリカ・ロサンゼルス。あの『PRIDE』統括本部長・髙田延彦がその地に降り立った。

[髙田の映像が映し出されると、観客は罵声を浴びせる]

ナレーション 髙田が向かった先は、とあるキックボクシングのジム。

[某キックボクシングジムに足を踏み入れた髙田は、そのジムから橋本&小川にメッセージを送った]

髙田 **小川クン、橋本クン**。相も変わらず、私が日本を留守にしてるあいだに、大の男が雁首を揃えて2人、**ゴタゴタゴタゴタ、駄々をゴネた**話を聞きました。

[観客は大ブーイング]

髙田 ましてや、大事な大事な記者会見で、我がドリームステージの代表、榊原の取るに足りない言葉の端っこ!……を取り、**このポーク&チキン**。**ポーク&チキン!** このコンビが、**その名に恥じぬ本領発揮**をしたらしいということをアメリカの地で聞きました。

まあ、時間もないことだし、ここで本題に入りますが(目尻付近をポリポリ掻きながら)、お二人さんにね、わかってもらわないといけないことがひとつあります。小川クン、橋本クン、**君たちは自分たちのことをスターだと思ってないか?**

[観客から「**オマエがいうんじゃなねえよ、このバカ!**」と罵声]

髙田 スター気取りをしてないか? まあ、どんだけ小さな輪の中のスターでも、スターはスターだ。**たとえ丼の中の蛙であっても、スターではある。**しかし、この横にいるこの男が……。

[カメラアングルが引き気味になると、髙田の隣に**ゴールドバーグ**の姿が現れる!どよめく観衆!]

髙田 世界中の誰もが知っている、正真正銘のスターだ。**わかるだろ? ビビッたか? ポーク&チキン。たじろいだか?** 1月4日、ドリームステージから、このゴールドバーグという本物のプロレスラーを送り込もう。このゴールドバーグを相手に、**純度100%、まじっりけのない本物のプロレス**を見せることができるのか? それとも逃げるのか? 見せる自信があるなら、**とっとと出てこいや。**

髙田&ゴーバー (バロム1の変身シーンのように互いと腕を絡ませ、息を合わせながら)**ドウー・ザ・ハッスル!!**

[映像終了。観客からは一斉に大ブーイング]

島田 ZERO-ONEファンの皆さん、お待たせしました! **わたくし、島田は無事、プロレスに戻ってくることになりました!**(カン高い声で)。

[観客からはこれでもかとばかりにブーイング]

島田 (まったく気にせず)1月4日、新しいプロレスを見せましょう!

[エプロンから成り行きを見守っていたZERO-ONE中村専務がマイクを握る]

中村 オイ! **"猪木軍"の島田クン!**(リングを指差し)またいだな! ここはZERO-ONEのリングだぞ! オマエはここに上がる前に、まずお客さんに**詫びること**があるだろう!?

[中村専務に大歓声!]

島田 (悪びれもなく)謝ることはいつでもできます。いまは**髙田軍**です! **『ハッスル1』の島田**です。

中村 猪木軍の次はDSEかぁ? **このヤドカリ野郎っ!!**

[中村専務に再び大歓声。島田氏にはモノが投げつけられたが、オッキーの頭部に命中!]

島田 え〜、中村さんのおっしゃることはよくわかりました。それは日を改めて、やりたいと思います、最後にひとことだけ言わせてください。**橋本さ〜ん! 小川さ〜ん! 今日、いまからレフェリーしてあげてもいいですよお!**(**脳天気に腕をグルグル回しながら**)

中村 オマエ、ふざけんな、おいっ!!

島田 (まったく聞かずに)皆さん、**1月4日、ハッスルしましょう!**

[佐藤耕平&横井宏孝が島田をリングから引きずり降ろす]

実況 これはちょっと大変なことになってしまいました。

GK **最悪ですね(吐き捨てるように。)**

実況 最悪ですね。

GK 最悪ですね。ZERO-ONEの第1回の『火祭り』をメチャクチャにした男ですからね。ZERO-ONEの選手は、**この男は絶対に許さないですから。アレクも石川も許しましたが、この男だけは許さない。**それがZERO-ONEの選手です。

◆

髙田の挑発的で相手を見下すにもほどがある発言の数々、そして過去の問題を精算しないままZERO-ONEのリングを"またいだ"島田氏に、とにかく観客から凄まじい罵声の雨嵐!! たけしプロレス軍団が登場したとき以来と言っても過言ではない、ファンの憎悪を生み出してハッスル劇場in両国は幕を降ろしたが、翌々日、さらなるハッスル激震がマット界を襲った! 急いで次のページをめくれ!

「ZERO-ONEのリングをまたいだなあ!?」島田氏のハッスルな狼藉振りに、"背広レスラー"永島氏もたじろぐ"口技"を持つ中村専務が大爆発! いずれは新日本の上井氏との舌戦も見てみたいものである。オッキーも頑張れ!!

過激なビデオレターで、OH砲を完全に見下した発言を連発した髙田の、アメリカからの大きな手みやげはゴールドバーグだった!! 『W-1』では「入場がカッコイイだけ」の低評価だったゴーバーだが、今回は存在意義を見いだせそうである。

EPISODE 3 >>> **12.16 THE** 髙田延彦『ハッスル1』会見

ドゥ・ザ・ハッスル!!

「小川、久しぶりだな。背え高ノッポのギョロ目、コラ!!」

オマエら度胸あったら、大晦日来いよぉ！ PRIDEのファンの前でみせてみぃ！（髙田）

OH砲が殴り込み!!
髙田も一歩も引かず、
関西弁で挑発三昧！

小川の“小学生のような”“チンピラまがい”の行動で吹き飛んだ前回の『ハッスル1』会見だったが、今回もOH砲と髙田が対峙してハッスルな大騒ぎ!! またもや中村専務は頭を抱えることになってしまった。

髙田vsOH砲、大舌戦!!

12月16日、都内ホテルにて『ハッスル1』の会見が行われた。会見には、榊原代表、中村専務、島田裕二、そして髙田延彦が出席！ DSEの『ハッスル1』、プロレスに対する本気度を強調したが……。

榊原 先日の記者会見は中途半端なかたちで終わってしまったので、髙田本部長にも入ってもらって、あらためてこの場で発表させていただきたいと思います。

中村 この『ハッスル1』が立ち上がりましてから、橋本、そして小川選手の方がDSEさんの方に不信感が募ってきたのは事実だと思います。一昨日、ZERO-ONE、小川選手の方からの申し入れとしまして、ここにおられる榊原代表、そして髙田本部長に、ZERO-ONEのプロレスを見ていただきたいということで、御来場をお願いをしたわけですが、来場していただいのは島田氏と笹原氏（**ハッスル事業主任**＝『PRIDE』広報）。これではプロレスというものを、DSEさんに低く見られているのではないかという気持ちがあります。

島田 中村さん！ こないだ話したとおり……。

中村 （怒り気味に遮って）**ちょっと待ってください。いま喋ってる途中なんで黙っててください！** とにかくZERO-ONEEとしましては、この『ハッスル1』のイベントを前向きに、そして成功させるのが**プロレスのため**とボクは考えております。ただ、小川選手、橋本がいまのDSEさんの体制に対して不信感を募っていることがあります。それに対して、この場で隣におられます髙田本部長の気持ちをお聞きしたいと思います。

髙田 はい。いいですか？ え〜、**軽い経緯**から説明させていただきたいんですが。この時期にあえて、ドリームステージがプロレスという世界に足を踏み入れたことに関しては、我々『PRIDE』に携わっている面々が、心のどこかに**プロレスへの想い**とか、**認識、評価、**それぞれ少なからず確固たるものを持っている。そんな経過のなかで、**新しいプロレスがつくれないか？** ということが出発点。そしてこの企画には橋本選手、小川選手は絶対にありきで、**外すことができないキャスティングなんですね。** こないだの両国大会に私と代表が行きませんでした。しかし、私に関しては時間的な問題です。物理的な問題です。だから、前向きにビデオでメッセージを送りました。代表に関しましては、前回、言葉は悪いけど、**チンピラまが**

一度踏み込ませたら、
俺らは戻れないところまで行くぞ！
後悔すんな、この野郎！（橋本）

いの態度を取られたので、これは行かせられないと。非常に危険を感じたので、そう判断しただけです。どっちにしても、一回スタートラインに立った以上、小さなことでゴタゴタしているのをファンに見せるのではなく、もう一度、呼吸を合わせてですね。1・4に向けて、あるいはその**向こうにある未来に向けてね、『PRIDE』の会場にある熱を凌ぐもの**をつくれないかと。志を高く、東京ドームで、あるいは**さいたまスーパーアリーナのでかいバージョン**でできるだけの**求心力をつくるため**のイベント企画でありますから。大晦日には『男祭り』がありますけども、できることならば肌で『PRIDE』のパワー、雰囲気を感じてほしいので、橋本、小川の2人には現場に来てもらいたい。

［質疑応答で**「高田の復帰説」**に関して質問が入る］

高田 え～、そういうひとつの要因といたしましては、小川選手のあのリアクションだと思うんですけど。私は自身は引退した身ですから、引退の意味合いをもの凄く強く心に留めている。またファイターとしてリングに上がる可能性は奇跡に近い。いまの段階では「ない」と断言したいと思ってます。

橋本 （会見場の入り口で）失礼しまあす!!

［橋本、小川が乱入！ 堂々と歩を進み、テーブルを挟んで高田と睨み合い。ここから、神奈川出身なのに関西弁を駆使するほど、高田はヒートアップする！］

橋本 ど～うしても納得いかないんで！ 失礼だと思いましたけど、来させていただきました。

島田 橋本さん、冷静にいきましょう！（場にそぐわないカン高い声で）。

橋本 （島田を一瞥して）**何や、オマエ!? アッチ行けぇ！**

榊原 冷静に……。

小川 （榊原代表に向かって）お前じゃ話になんねえんだよ！ うるせえ！

高田 （榊原代表、島田を制止して）いいから。

橋本 （あらためて高田に向かって）いいですか？ 高田さんは、プロレスラーとしてものを言ってんのか？ それとも**プロレスを捨てた、プロレスに負けた人間**としてものを言っているのか？ ハッキリしてください！ 俺らはプロレスラー……。

高田 （遮って）その前に一言、言うよ。よく聞いておけよ。オマエら「出る」と言ったんだろ、一回。どっちや？ ファン待ってるぞ！ 返事せえよ、それを先に。

橋本 その話じゃないでしょ？ その前に意思確認が必要でしょう！

高田 先に出るか出ないか、ハッキリせえや！

橋本 いいや！ 俺は……。

高田 （遮って）話進まんない、話進まんぞっ！

橋本 話進まんやないだろう!?

高田 ファン待ってるやないか、オリャアッ！

橋本 ファンのせいにするな、このヤロオ!!

高田 何をぉコラァ！

［高田はペットボトルを手に橋本に詰め寄りかけるが、橋本はテーブルのスタンドマイクを手に取り臨戦態勢］

小川 何だコラア！ ゴチャゴチャ言ってるんじゃねえぞ、この**泣き虫**がぁ！ テメエが新しいプロレスをつくるとか言って、**こんな本チマチマ書いてよぉ、**説得力がねえんだよ！ オオ!? バン！（持参した『泣き虫』を叩き付ける）。

高田 おい、ちょっと待て。

小川 オメエが用意した**ゴールドバーグ**とやってやろうじゃねえか。オレがそいつをブッ倒したら、**オマエ、次やるんだろうな？** アア!? どうなんだよ！

［小川が高田ににじり寄り、つかみ合いなりかけたところを高田道場の松井大二郎が高田を制止する］

高田 （唐突に）**久しぶりだな、小川。**

小川 （拍子抜けしたのか小声で）久しぶりだとこの野郎。

高田 （間髪入れずに早口で）**背ぇ高ノッポのギョロ目、コラア!!**

小川 ふざけんじゃねえぞ、コラアアア!!

［またもや乱闘寸前］

高田 オマエら、どっちにしろ大晦日と4日来いや、いいから！ ファンが待っとるぞぉ！

小川 なんだとこの野郎？

高田 その答え、出せコラ！ いま出せオラ！ ここで出せオラ！

橋本 プロレス馬鹿にするなコラァ！ バカにするんなら、ホントに行ってやるぞコラア！ トコトンやるぞぉ！ いいなそれで。（榊原に向かって）いいぃ!?

榊原 キチッとやりますから。1・4、大晦日は待ってま……。

高田 （遮って）そこら辺のチンピラみたいに……。

橋本 （遮って）誰がチンピラだコラア！ どっちがチンピラだコラア！ プロレスを馬鹿にしやがって、この野郎！

高田 馬鹿にしてたらここにいるか！

橋本 覚えておけよ、**その口ぃ！**

高田 帰れホラ、いいから！

橋本 とことんやるぞぉ！ オイ、やったる！

高田 オマエら度胸あったら、大みそか来いよぉ！ 『PRIDE』ファンの前で見せてみぃ！

橋本 （会見場をあとにしながら）やってやる！ 小川行こ！ やろ！ とことんやろ！

小川 ナメんじゃねえぞ、この野郎！

橋本 （エレベーターに乗り込みながら）一度踏み込ませたら俺らは戻れないところまでいくぞぉ！ 後悔するなよコラ！ オレが言いたいのは、プロレスを馬鹿にするなってことだ！

高田も会見場をあとにし、残された榊原代表、中村専務は別室で会見を行った。榊原代表は、両国大会の島田氏のブーイングについて**「自然な反応**だと思う。島田君はバトラーツのころのこともあるし、**ファンの素直な気持ちがストレートに出ていて良かった」**とコメント。中村専務も「島田さん個人のZERO-ONEとの関わりを考えれば当然だと思う。高田さんの名代でなければ、リングに上がらせることもなかった」と、あくまで〝敵〟の認識を崩さなかった。そして高田vsOH砲の会見のやり取りを受けて、小川直也vsビル・ゴールドバーグのシングルマッチを正式アナウンス！ 中村専務は、マーク・コールマンの参戦、全日本プロレスには**川田利明、小島聡**にオファーを出していることを明かし、**ケンドー・カシン、カズ・ハヤシ**らも出場する可能性を示唆した。

ワクワクドキドキ、ハッスル度満点な決戦は間近だ！

〝泣き虫〟呼んで来い！

「ハッスル1」に火を付けた『泣き虫』とは何か？

金子達仁
KANEKO TATSUHITO

泣き虫

あの日、あの試合、
高田延彦の心は揺れていた。
真のリアルファイトとは
何か？

著者初の書き下ろしノンフィクション

定価（本体1600円+税）

GENTOSHA
幻冬舎

ページをめくる前に『泣き虫』読んでこい、『泣き虫』!!

プロレスの内側に触れないと高田さんの人生は語れないから

聞き手／坂井ノブ
構成／ジャン斉藤
撮影／松本崇
designed by matsu (Two Three)

『泣き虫』著者／スポーツライター

金子達仁

高田延彦の半生を紡いだ男、金子達仁。日本を代表するサッカーライターである彼は、サッカー界ではタブーとされていた"代表監督批判"を展開。いわば異端児であった。このたび執筆した『泣き虫』は、プロレス村に大きな波紋を起こしているが、あえて"プロレスの内側"に踏み込んだその真意をすべて語ってもらった

――『泣き虫』は発売前から、業界内では話題騒然だったんですよ。

金子　どっから伝わったんですかね？

――狭い業界ですし、それに噂好きの関係者が多いから、尾ひれが付いて回ったんだと思います（笑）。で、内容がまったくわからない発売前から、各媒体で〝暴露本〟と書かれちゃいましたけど。〝暴露本〟ってありがたくない称号ですよね。

金子　それこそ『週プロ』には〝いわゆる通常の暴露本ではない〟と出てましたよね。そう言いながらも、結局は〝暴露本〟として持っていかなければならないところが、彼らの辛いところだと思うんです（笑）。

――ハハハハ！　まずは同情しますか（笑）。

金子　誤解しないでいただきたいんですけど、ボクや髙田さんに対して怒りの反応、これは当然あって然るべきだと思うんですよ。あって然るべきだと思ったから、ボクも髙田さんも顔を隠さなかった。髙田さんはともかく、ボクも隠れず表紙に顔を出した。「ボクのことを憎むなら憎んでください」っていう覚悟はできてたんですよ。

――専門誌の反発は予想されたんですね。

金子　ただ、ボクにも圧力が掛かってくると思ったら、髙田さんが全部被ってるんで。それは申しわけないと思ってます。

――金子さんのところに圧力はなかったんですか？

金子　なんにも。ボクもサッカー畑ではしきたりを壊した人間だから、圧力慣れはしてるんですけど（笑）。

――サッカー業界では、代表監督の戦術を批判的に論評することはタブーとされていて、金子さんが初めてそのタブーを破られたんですよね。

金子　その当時はいろいろ圧力を受けましたね。フリーのライターは、サッカー協会からパスをもらわないと日本代表の試合を取材できないんです。加茂（元・日本代表監督）さんについて書いたときなんかは、そのパスを支給されなかったこともありましたね。今回も〝さあどうやってプレッシャー乗り越えていこうかな〟と思ってたから、〝あれ？〟って感じはありますね。

――サイン会が行われた神田の三省堂には、ある業界関係者から「街宣車を回す！」とか、物騒な電話もあったと聞いてます。

金子　ついに街宣車を呼ばれる初のスポーツライターになるかと思って、みんなに「街宣車が来るらしいぞ！」って自慢してたんですけどね（笑）。結局、来なかったですねえ。

――プロレス村の外にいる立場からすると、そういう反響って率直にどう思われるんですか？

金子　〝やっぱりな〟とは思いましたけど、〝そういう世界なんだな〟とも思っちゃいましたね。ボクは基本的に『Number』で連載してるんですけど。『Number』に、ミスター高橋さんの本について「こんな本を書いたミスター高橋の命が心配」みたいなコメントを格闘技ライターの方が寄せてらして、〝うわあ、そんな世界なんやあ〟と思ってましたから。

――まあ、裏も表もある世界ですからね。

金子　でも、「街宣車を出す」って脅せば、三省堂がサイン会を中止すると思ったんですかね。その発想が昭和初期だなと思いますよ。全然、民主主義の発想ではない。別にわざわざ喧嘩するつもりはないですけど、気に入らない言動は力で圧殺するという姿勢に関しては、異様に闘志が沸いてきますね。

――その姿勢は最高ですね（笑）。そもそも、金子さんは今回の本を書くことに、あまり乗り気ではなかったわけですよね。

金子　書き下ろしはやったことはないし、やりたくもなかったんですけど。髙田さんとお会いして、その人柄に惹かれたとでもいうか。やっぱり髙田さんの方が人生経験が豊富ですし、いろんな修羅場をくぐってるじゃないですか。芝居をする気になったらきっとできる人だなって思ってたんですよ。

――し、芝居ですか？

金子　たとえば、『PRIDE』の最後の試合、田村戦のポスター撮影の現場に立ち会わせていただいたんですけども。それまで普通に話してたのが、カメラマンに「ポーズ取って下さい」って言われると、キッと顔が変わるわけですよ、闘う男の顔に。髙田さんは「別に何も考えてない。そういうのは普通にできる」とおっしゃってたのが、すごくボクの中で引っ掛かってて。何て言ったらいいのかな？　つまり、こっちを丸め込んだんじゃないかって疑惑が沸いてきましたね……って、あとでシバかれるよなあ、こんなこと言ったら（笑）。

――いや、それだけ髙田さんの人間力がすごいってことだと思います（笑）。金子さんはこれまでプロレスについて書かれたことはないんですよね？

金子　ないですね。

――専門用語とかもわかりづらかったりしたんじゃないですか？

金子　それは山口（本誌・鬼畜編集長）さんにお任せしましたので。

――クレジットに〝協力・山口日昇〟と入ってるから、山口は業界から黒幕扱いされてるんですよ！（笑）。

金子　ハハハハ。山口さんに一番ご迷惑を掛けてるかもしれないですね（笑）。

Tatsuhito Kaneko

とにかくヨイショ本だけには絶対にしたくない気持ちはあったんですよ。タイトルだってヒドイでしょ、これ（笑）。

――いや、まったく大丈夫です！ このまま黒幕ということにしときましょう（笑）。

金子 山口さんには、それこそ人名だけじゃなくて、"決める"が"極める"だったり、"旗挙げ"じゃなくて"旗揚げ"だったりとか、そういうチェックもお願いしたんですよ。ボクはそれこそ髙田さんが出てくる以前の、長州さんvs藤波さんのころにプロレスから卒業したというか、一度離れちゃってわからないんで。

――以前はファンとして見てたんですね。

金子 そうですね。ボクは大学卒業して、日本スポーツ企画という出版社に入ったんですけども。そこにいた上司が元『週プロ』の方で……。

――何て方ですか？

金子 粕谷秀樹さん。

――ああ、Ｊスポーツのサッカー中継でおなじみの！

金子 その方に、嘘か真か知んないけど長州vs藤波とかは全部出来レースだったと聞かされて（笑）。えらいショックを受けた記憶があるんですよ。ただ、そのあとプロレス見なくなったのかといったら、そんなことはなくて。髙田さんの本を書いてからも、むしろ以前より見るようになってますね。

――逆に興味深い対象に変化していったわけですね。

金子 ボクの書いたことは、ボクの過去と照らし合わせて、みなさんがおっしゃってるように"夢を壊した"ってことになるかもしれないけど。それでプロレスファンが減るかっていうと、それは違う話だと思うんですよ。なので、"恥じることはない"と思って踏み切った部分はありましたね。

――そこに踏み切るまでには、かなりの葛藤があったと思うんですけど。

金子 髙田さんがあそこまで喋ってくださったのに、こっちが腰砕けになったら、男としてカッチョ悪いなってのはすごくありましたけど。葛藤の部分でいえば、ボクより髙田さんのほうがあったでしょうね、それは。

Tatsuhito Kaneko

気に入らない言動は "力で圧殺する"という姿勢に関しては 異様に闘志が沸いてきますね

――ああ、髙田さんの決意は固かったでしょうね。

金子 ボクも、書き上げた原稿を髙田さんに読んでもらうときはホントに緊張しましたけど、髙田さんもドキドキしたと思いますよ。どう書かれているか心配だったでしょうし、髙田さんはプロレスについての内容を公表することを、最後のギリギリまで迷ってましたから。

――あ、最終的な段階まで葛藤があったわけですか。

金子 で、ボクが「そこは書きます」と言ったら、髙田さんは「わかった」と了解してくれたので踏み切ったんです。やっぱり、その部分を触れなかったら、髙田さんの人生は語れないですから。なぜ新日本、Ｕインターを経て、『ＰＲＩＤＥ』に行ったのかも説明つかない。ボクだって、格闘技はプロレスの延長線上にあって、エンターテインメントとして見てた部分があったし。

――格闘技もエンターテインメントだと思われたんですか（笑）。それもすごい話ですね！

金子 今回の取材で、まったく別モノだってことをすごく感じたわけですけど。触れざるを得なかった理由はもうひとつ。ボクがいままで書いてきたノンフィクションは、できるだけたくさんの人たちに話を聞いて、10人に話を聞いたらその10人を全員を好きになった上で、ボクのオピニオンでまとめる手法だったんですけども。今回は髙田さんオンリーじゃないですか。一歩間違えるとただのプロパガンダ本、ヨイショ本でしょ？ そうなったらライターとしてもオシマイだから、髙田さんにとって良いのか悪いのかわからないけども、とにかくヨイショ本だけには絶対にしたくない気持ちがあったんですよ。

――他の選手や関係者から、証言を取り入れるつもりはなかったんですか？

金子 書くにあたって、ＤＶＤなどでＵＷＦの時代からの試合を振り返ったり、インターネットで過去のことを調べたり、大宅荘一文庫からもいろいろ取り寄せたんですけど。調べれば調べるほどわからなくなっちゃったんですよ、何がホントなのか（笑）。

――人によっては、黒だったモノを「白だった！」って言い張ったりしますからね（笑）。

金子 だったら、他の人の意見には耳を傾けないで自分の感覚を信じよう、と。それでヨイショ本になっちゃったら、俺がダメだったってことでね。

――ただ、ターザン山本さんという方が「ノンフィクションと謳っているが、髙田の一人語りで客観性に欠ける」って批判しているんですよ。山本さんのことは御存知ですか？

金子 ターザンさんとは、一緒にサッカーを観にいったことがありますよ。

――えぇ～っ!? ターザンとサッカー観戦してましたか（笑）。

金子 ボクがまったく無名のときに、文藝春秋（＝『Ｎｕｍｂｅｒ』）の方がターザンさんを連れてきて、それで一緒にサッカーを観に行ったんです。ターザンさんは、まったく覚えてはないでしょうけども。

――それは間違いないでしょう（笑）。

金子 で、ターザンさんの指摘ですけど、それはターザンさんが考える定義であって、自分の中ではノンフィクションだと思ってますからね。"そうですか"と答えるしかないです。

——ボクは、ノンフィクションとして成立している作品だと思うんですよ。

金子　どうしてそう思われます？

——プロレス本って、タブーについて書かれていない本がほとんどを占めてるんですけど。ノンフィクションである以上、タブーに触れるのが大前提だと思うんですよ。『泣き虫』は、自伝という言い方もありかもしれないですけど。

金子　ああ、そうかもしれないですね。

——ボクらは髙田さんの目線で物事を見れないですから。髙田さんの目線だと常人には理解できないことばかりじゃないですか？　突然、選挙に出てみたりとか。

金子　トチ狂ったとしか思えないよね（笑）。

——ハハハ！　で、金子さんの目を通すことによって、髙田延彦という人間が生きてきたことを見ることができる。そういう意味では、ノンフィクションと言って然るべきだと思うんです。

金子　ターザンさんの指摘で思ったのは、〝ノンフィクションじゃない〟とおっしゃるのは構わないけども、〝ノンフィクションじゃないからダメだ〟とおっしゃるのであれば、〝その論法をプロレスに持ち込まれたらどうするんですか？〟ってことですね。

——それは困ったことになりますね。

金子　ボクはノンフィクションだろうが、フィクションだろうが、どう捉えられても構わない。ノンフィクションよりフィクションが偉いともまったく思ってない。同時にエンターテインメントがスポーツより下だとも思ってませんから。エンターテインメントはエンターテインメントで素晴らしいものがあると思ってる。もし勝敗や結果が決まってるからダメだと言うのであれば、誰も舞台なんか観ないでしょう？

——映画とかにしても同じですよね。

金子　わかっていても楽しませるのがプロでしょ。プロレスはそういうものと思ってます。怒ってらっしゃる方にまず伝えたいのは、ボクも髙田さんもプロレスが格闘技より下だなんて思ってません。榊原（DSE代表）さんはどうか知りませんけど（笑）。

——ハハハハ！　いや、榊原代表も思ってないはずです（笑）。

金子　ボクはその部分を意識して書いたつもりですけどね。書いたつもりというか、実際に尊重してます。野球やサッカーであれば高卒ですぐ活躍できる。プロレスではそんなことはありえない。むしろ普通のスポーツより過酷なんじゃないか。すごい世界やなと。

——金子さんは、髙田さんの試合をDVDなりでご覧になったとのことですけど。髙田さんの『PRIDE』での試合を〝格闘技〟という面から、サッカーで書かれたときのような鋭い論評で斬ると期待していた向きもあって、本の内容に戸惑いを感じた読者も多いと思うんですよ。

金子　いや、サッカーに関しては、ボクのオピニオンを期待されてますけど、今回に関してはまったくないですからね。サッカーについて書くときは必ず「私」という主語が出てくるんですけど、今回は一つも出てこないですし。

——試合を論評するつもりはなかったのですね。

金子　ボクは格闘技の本を書いたつもりもなければ暴露本を書いたつもりもない。髙田延彦の人生を書きたかった。それだけなんです。だから、新間さんにしてもターザンさんにしても、ちゃんと読んでくださいと言いたいですね。髙田さんがどこにプロレスの悪口を書いてますか、と。

——発売前にいろいろ噂が一人歩きして……。

金子　（遮って）振り上げたコブシの収めどころがないんでしょうね。ボクが期待しているのは反論なんですよ。反論があれば、こちらも再反論というかたちもできますけど。

——新日本プロレスの上井さんという方は、「髙田延彦がここまでスターになるために、影で何人泣いているレスラーがいるのか」と言ってたんですよ。

金子　ということも、田村君のところで触れてるつもりなんですけど。

——まあ、上井さんは「読む意欲がわかない本」ってことで、読んでなかったりするんですよ（笑）。

金子　とりあえず『週プロ』は真っ正面から来てくれたので、ボクも真っ正面からお応えします。『週プロ』は〝過去に出版された暴露モノと違って、それ自体を目的としたものではないというのは明らかだ〟と書いてますよね。で、〝出版サイドにとって暴露の箇所が枝葉末節にすぎないなら、そこの部分に敢えて触れる必要はない〟とも書いているわけですけど。そこに触れないと、髙田さんの人生を語れないんですよ。

——省いてしまったら語れないですよね。こないだ出たフレッド・ブラッシーの自伝には、なぜか〝猪木vsルスカはワークファイトだった〟って書いてありましたけど。それとは訳が違いますよね。

金子　ブラッシーの人生にとっての猪木さんの話のほうが、はるかに枝葉末節ですよ。ボクは、ディテールなくして評伝は書けないと思いますから。触れなくて終わることならそれに越したことはなかったんでしょうけども、触れざるを得なかったというのがホントのところなんですよ。だから、〝そこの部分に敢えて触れる必要はない〟というのはまったく受け入れられない。受け入れたら本にならないし、作品になってないです。それと〝少年たちの夢を壊す〟とも書いてましたけど、じゃあ逆にボクがお伺いしたいのは、モノを書く、あるいはモノを表現する作業をするときに、人を傷付けないでできるんですか？　ということなんですよ。ボクは、サッカーの世界で加茂監督、カズ（三浦知良）やいろんな選手を傷付けてきたわけですよ。で、ここでプロレスファンを傷付けるからといって、髙田さんが語ってくれたのにも関わらずにビビって折れてしまったら、〝ボクによって、いままで傷付けられた人はどうなっちゃうの？　その人たちに申しわけが立たないじゃないか〟って想いがあったわけですよ。ボクはいままでも傷付けてきたし、これからもたぶん誰かを傷付けていく。それがイヤになったら書くことを辞めるしかないと思ってます。〝ファンの夢を奪った〟と書いている方に聞きたいのは、いままでファンや関係者を傷付けたことはないんですか？　その自覚がなくてそんなことを言ってるんであれば、あまりにも危険ですね。現にあなた方は、髙田延彦個人をズタズタにしたこともあったわけじゃないですか？

——一回目のヒクソン戦のときに、プロレ

11月23日、自叙伝『泣き虫』の発売を記念して、神田・三省堂で髙田、金子達仁氏によるサイン会が行われた。サイン会には100名を越すファンが詰めかけ、盛況のうちに終了。金子氏は「僕と髙田さんの覚悟の本だと思っています」「自分は主にサッカーを担当しているんですが、その選手たちに『お前らもっとやってみろよ』と言ったりしています」とコメント

スマスコミは髙田さんを一度、抹殺してますからね。

金子　それに対する復讐本にすることだって、髙田さんはできたと思うんですよ。〝ふざけんなプロレス。ふざけんなプロレスマスコミ〟っていうかたちでね。でも、そうは全然しなかったわけでしょ。自分を抹殺しにきた相手に対して正当なパンチしか放ってないわけですよ、髙田さんは。ちょっとした反論にそんなにピーピー騒ぐなやって思いますけどね。

——一方では『週刊ゴング』のように『泣き虫』の〝な〟の字もでない専門誌もあるわけですけど。

金子　それが一番寂しい（笑）。そんな反応もやっぱりあると思ってましたけど。まあ、髙田さんのことを〝嘘つきだ〟とは言えないわけだし、反論するにしても、どこかで論点をズラしてやるしかないでしょうね。

——じつはですね、『紙プロ』の携帯サイトで、『泣き虫』についてのアンケートを採ってるんですけど（P32参照）。意外なことに〝嘘ばかり書いてある〟という意見も結構多かったりするんですよ。

金子　いろんな反応があるってことは当たり前のことですよ。〝素晴らしい〟ばっかじゃ、どこかの独裁国家と一緒ですから。

——でも、一番多いのは〝暴露本と騒ぎ立てること自体、レベルが低い〟。

金子　読者の皆様、ありがとうございます（笑）。『週プロ』も書いてましたもんね。「暴露本として読むといささか拍子抜けしてしまう」って。そりゃそうや、暴露本とちゃうねんから（笑）。

——業界関係者と読者には、驚くほど温度差があるんですよ。で、髙田さんのことを〝以前よりずっと好きになった〟という読者も多いんです。

金子　それが一番嬉しいですね。ボクが一番あってほしかった反応ですから。（アンケートの書き込みを見ながら）〝前田の悪口を一切言わない〟だって（笑）。

——本の中では、髙田さんと前田さんとの関係は美しく書かれてますよね。

金子　髙田さんは前田さんのことホントに好きみたいですよ。兄弟にたとえて「いろいろトラブル起こしてても兄弟のことを憎めるかっていったら憎めないでしょ。前田さんとはそういう関係なんだよ」っておっしゃってましたね。ボクも髙田さんの話を聞いてるうちに、前田日明という人間に会いたくなりました。

——この本の感想を前田さんに一番、聞きたかったりするんですよ（笑）。ところで、この本を書かれてどんなところが一番大変でした？

金子　髙田さんの〝闇〟というか〝病気〟の部分がボクの中に入ってきたことかな。

——髙田さんの〝闇〟、そして〝病気〟ですか。

金子　髙田さんの心が病んでた時期。選挙について書いてた時期は、ボクもボロボロになってましたよね。あとがきにも書きましたけど、熊本で焼酎3、4杯飲んだだけで意識不明になったりとか。銀座に飲みに行って朝起きると、髪の毛がゴソっと抜けたりね。だから、髪の毛の芯を強くするために剃ったんですよ、頭を。

——表紙が坊主頭だったのは、そんな理由があったんですか。

金子　まさか表紙にボクが出るとは思わなかったし、坊主にした証拠が残ったのは不覚でしたね（笑）。

——髙田さんとも、飲みには行かれたわけですか？

金子　すべてが終わってからですね。取材をしているときは基本的に飲みには行かなかったです。飲みに行って、あんまり髙田さんのことを好きになるのはイヤだったんで。

——取材対象として適当な距離を置いていた、と。髙田さんって飲むとご機嫌になりますよね。お調子者というか、ノリのいい部分が出てきたりして。

金子　喜怒哀楽が激しい人だと思いますよ。けっこう無防備で言われちゃうことあるじゃないですか？

——そのあと必ずトラブルに遭われて（笑）。この本でも、そんな話が興味深かったりしたんですけど。

金子　そして思わぬところから刺されてしまうことがある。だから、タフにならざるを得ないでしょう。そこでいちいちヘコんでたら生きてけないですもん。髙田さんは一回だけじゃないですからね、グシャグシャに傷付いたのは。何回も傷付けば、折れた骨がだんだん太くなるように、タフになってくることもあるんじゃないですか。

——だからこそ、後ろ髪を引かれることなく過去をズバッと切り捨てて、次のステージへ進めるんだと思うんですよね。

金子　とは言いながらも、後ろ髪を引かれてる部分はあると思うんですよ。隠しているだけで。

——いまは〝引退してから超パワーアップ〟ってことで大爆発してますけど（笑）。

金子　本人は心外みたいですけどね。〝引退してから超パワーアップ〟っていうあのフレーズは（笑）。

——実際に、引退してからイメージが変わったところは感じませんか？

金子　ボクが初めて髙田さんとお会いしたのは引退直前だったじゃないですか。あのころは、いろんなことに疲れてるなとは思ったし、1月頃にはお子さんのこともあってかなり弱ってましたけど。いまは元気い

Tatsuhito Kaneko

1966年、神奈川県出身。法政大学卒業後、『サッカーダイジェスト』を経て、95年、フリーとなりバルセロナに移住。96年、サッカーアトランタ五輪を取材、『Number』誌上にて発表した「叫び」「断層」でミズノ・スポーツライター賞を受賞。著作に『28年目のハーフタイム』『決戦前夜』『蹴球中毒』などがある

っぽいですよね。だって、"きっかけはフジテレビ！"とかやってるわけでしょ。

―あのCMの高田さんも本当にすごいですよね！

金子　そこまでいくのはいかがなものかと思うんですけど（笑）。正直、ファンとしてプロレスを観ていたころって、高田延彦はあまり好きじゃなかったんですよ。男の嫉妬をそそる存在じゃないですか、男前だし。

―越中さんと高田さんがいたら……。

金子　（遮って）絶対に越中を応援するでしょう。間違いなく！

―プロレスファンならそうですよね（笑）。

金子　女優と結婚してチャラチャラしやがってと思うじゃないですか。それが"きっかけはフジテレビ！"とかやるんだから、人生わからないですよね。

―高田さんは、二の線でいこうと思えば十分に行けたと思うんですけどね。

金子　だから、高田さんはこんなにダメな部分を書かれるとは思ってなかったと思いますよ。それにタイトルだってヒドイですよ、これ（笑）。

―何しろ『泣き虫』ですからね（笑）。

金子　『ハッスル1』でしたっけ？　記者会見で小川さんに「泣き虫、呼んでこい！」とか言われちゃって。ホントに申しわけないと思ってますよ。

―その『ハッスル1』の絡みもあって、業界では「プロレス復帰のためにこの本を出したんじゃないか」って憶測も流れてるんですよ。

金子　いや、この時期に発売になったのは高田さんの意図ではなく、ボクが書けなかったから遅れただけなんですよ（笑）。

―あ、金子さんの都合でしたか（笑）。本当はいつごろ出版される予定だったんですか？

金子　夏。8月の『PRIDE・GP』ごろに出す予定だったんですよ。6月に書き上げる予定がズルズルと遅れて。6月はサッカーのコンフェデカップもあったことで、予定の30分の1ぐらいしか進んでなくて。だから"何かを狙ってる"と勘ぐられると、ムズ痒いところがありますよね。

―非常に申し訳ないというか（笑）。

金子　すいません、ボクのせいで疑われて（笑）。こないだの『ナイガイスポーツ』にも"高田vs小川・実現"って載ってましたからね。「思わぬことが起こってんねんな」って戸惑いますね。

―金子さんも、小川さんに「金子も呼んでこい！」って怒られても不思議じゃないですね（笑）。

金子　ハハハハ！　いや、小川さんはウチの嫁（TV局アナ）と仲がいいんですよ。何回か番組に一緒に出てて。だから嫁との関係はどうなるんだろう？　って要らぬ心配してみたり（笑）。

―高田さんも今回の出版で、向井（亜紀）さんと"夫婦生活のなかでもっとも大きな嵐、大きな危機"が起こったみたいですね。

金子　そうなんですよ。その嵐を乗り越えたんだから、専門誌の報道なんかは大したことないわけですよ（笑）。

―なるほど（笑）。お子さんも生まれて、高田さんにはいろいろなことが重なってますけど。金子さん的には、『PRIDE』や『ハッスル1』にしても、この本をきっかけにドンドン転がしてほしいですか？

金子　業界が盛り上がってくれれば、それはそれで嬉しいですけど。ボクの仕事は本が出た時点で終わってますから。極論してしまえば、知ったこっちゃない。一ファンとして楽しみにしてます（笑）。

【03年12月8日／幻冬舎にて収録】

『泣き虫』は髙田延彦という人間の成長ストーリーなんです

　担当編集者としては、話題にしていただけるのは素直に嬉しいです。ただ、"暴露本"として読むとガッカリすると思うんですよ（笑）。"暴露本"と呼ばれている本と比べたら、髙田さんの本は暴露も何もないですから。業界の方々は、キャッチフレーズとして"暴露本"と蔑みたい部分もあるんじゃないでしょうか。

　自分が言うのも失礼な話ですけど、髙田さんにとっては暴露ではなく、自分の人生を振り返るうえで隠すことも省くこともできなかったと思うんです。でも、その部分だけをことさら強調してるわけではなくて、髙田さんは自然体で語っている。プロレスをコケにはしてないんですよ。むしろ"愛してる"と言ってるわけだし、大きな流れで考えれば、この時期にこういう本を出すのは本当のところは御本人しかわからない何か想いなり決意があったんじゃないかなと思います。結局は読み手に委ねるしかないので、ファン、そして関係者を含んだ読み手が"プロレスを中傷された"と感じたら、それは残念ですけど。髙田さんはプロレスを中傷するつもりはなかったことだけはわかっていただきたい。

　金子さんは、決して綺麗事ばかり書いてるわけじゃありません。髙田さんの人間的に弱いところも脆いところも書いているからこそ、ノンフィクションとしての"物語"になっている。最終章なんて、担当編集者の立場ながら涙腺が緩みました。イジメにあっていた1人の少年が身体を鍛えてプロレスラーになり、業界の渦に翻弄されていき、選挙にまで駆り出されたりして痛い目に遭い続ける。1人の人間の、成長ストーリーになってるんですよね。

　金子さんから髙田さんの企画を伺ったときに、ボクは"サッカーと比べて格闘技の本は反響をえられるのでしょうか"と言ったんですよ。プロレスというジャンルをネガティブに捉えてるわけじゃなくて、国際的イベントと化しているサッカーと比べたら、どのスポーツも"売れるのかな"っていう印象がありましたので。でも、『週刊プロレス』さんが取り上げてくださったりして、売れ行きは予想していた以上に好調です。いわゆる暴露本と比べ『泣き虫』はスポーツノンフィクションというかたちになってるから、どっちが手に取りやすいかっていったら重いものよりは軽いもの。重い『泣き虫』は手に取りづらかったりするんですけど、金子さんの根強いファンが多くいることや、華々しく散った引退試合からちょうど一年後という時期の出版、子供の出産など、いろいろなことが髙田さんに重なっていることが一番の要素になってると感じます。

『泣き虫』担当編集
幻冬舎・編集局長
舘野春彦

Q1 髙田延彦の自叙伝的書『泣き虫』を読みましたか？

●読みました ―― 1268票
●読んでません ―― 112票
●まだ読んでいないがぜひ読みたい ―― 175票
●まだ読んでいないが読みたいと思わない ―― 42票

『泣き虫』の売れ行きは、10万部を超えたといわれるミスター高橋・著『流血の魔術・最強の演技』に肩を並べたといわれる。プロレス本としては驚異的な部数となるだけに、マット界だけではなく世間一般に与える影響も計りしれない

Q2 どんな感想を持ちましたか？

●髙田の人生やプロレス観をよく感じることができ感動した ―― 558票
●これを暴露本だとは思わない。拍子抜けした 442票
●プロレスの内幕を暴露しており、とても面白い128票
●プロレスは真剣勝負であり、この本は嘘ばかり書いてある ―― 95票
●知ってる話ばかりで面白くない ―― 45票

読者の反応はおおむね好評である。"暴露"と騒がれている箇所ではなく、"プロレスラー"髙田延彦が歩んできた道程に多くの視線が注がれたのは、髙田、金子氏からすれば嬉しい反響に違いない

Q3 この本を「暴露本」として扱うプロレス専門誌の反応をどう思いますか？

●「暴露」と騒ぎ立てること自体レベルが低い 845票
●取り立てて騒ぐ必要はない ―― 339票
●まったく正しい ―― 81票
●普通に紹介すべきだった ―― 59票
●無視するべきだった ―― 54票

専門誌の大々的な"暴露本"扱いに過剰な内容を期待してしまい、読んで"拍子抜け"した？　それとも"いまさら何を騒いでいる"って呆れてる？　とにかく"暴露本"の位置づけを嫌う読者が多数派を占めた！

Q4 この本を読んで髙田延彦への印象は変わりましたか？

●以前のまま ―― 685票
●以前より好きになった ―― 505票
●以前より嫌いになった ―― 78票

髙田、お前は男だよ!!　な読者の声が続々!!　読む前から慌てふためいていた業界関係者が非常に多かったが、"プロレスの内側"を知った上で、その人物にレンズを当てることは、おおよそのファンには可能な作業となっている

Q5 この本が出版されることによって、プロレス界にどんな影響が出ると思いますか？

●これを機に、プロレスの定義をはっきりする方向に向かう ―― 598票
●いまのプロレスには、こういうカミングアウト的なことも飲み込むエネルギーが必要 ―― 445票
●これをきっかけにすれば、プロレス界も生まれ変われる ―― 271票
●プロレスがますます世間から白い目で見られる ―― 155票
●こういうことをされると、プロレスの再生はますます厳しい ―― 128票

『泣き虫』が出版されずとも、総合格闘技の大波に押されて"プロレスの定義"が求められていたマット界には、シーンの大変革を望む読者が大半を占めている。『泣き虫』をきっかけにして、ファンが期待する"プロレス"を構築することはできるのか？

泣き虫
金子達仁
KANEKO TATSUHITO
あの日、あの試合、髙田延彦の心は揺れていた。真のリアルファイトとは何か？
著者初の書き下ろしノンフィクション

マット界を震撼させた『泣き虫』を裁け!!
"暴露本"かどうかファンが決めればいいんや!!

絶賛配信中の『紙プロHand』アンケート

Q6 髙田延彦に何か言いたいことがあればどうぞ!!

髙田、お前は男だよ！な読者の声

●孤独、焦燥、悔恨、屈辱。それらをはねのけられた時に初めて、全ての感情が自分にとって大事なものだったと思えますよね。『生き様』に痺れた！

●いままで苦労した事などを糧にして、統括本部長として『PRIDE』を盛り上げて頑張って下さい。

●暴露うんぬんよりも、今の髙田さんの根っこを感じられた。人生って辛い事ばっかなんだな。

●誰よりもバードのハードさ、面白さを伝えれる人物。また、誰よりもプロレスの素晴らしさを伝えれる人物。

●この本を読んで見る目が変わりました。すぐ寝転ぶしょっぱい奴と思ってたのが、人間味溢れる「強い」レスラーだったと知りました。これからの活躍、期待してます。

●俺の青春時代にポッカリ空いた穴が次々と埋まっていきます。後は前田、お前だけだ！

●負けて始まったヒクソン戦からの飛躍は圧巻です。俺も髙田さんのように粘り強く生きたいです。

●読みやすかった！ プロレスの内幕についてもプロレスを傷つけるところはなかった。批判の声なんか別に気にする必要はないと思う。

●何回も裏切られて悲しい思いもしましたが、結局嫌いにはなれませんでした。これからもこれからもずっと応援してます！

●いいじゃないか延彦！ これで今更髙田が嫌いになるほど、髙田ファンはヤワじゃない！

●ストレートな内容でミスター高橋本のような悪意に満ちてなく好感を持ちました。

●田村戦の意義がやっとわかった。なるほどね。

髙田、前田が泣いてるぞ！な読者の声!!

●今さら、プロレスの勝敗論を述べる必要があったのか？ わかっていたつもりでも、当事者の発言はショック！

●『PRIDE』の都合が良いことばかり書いてある。

●髙田さん。誰にそそのかされて過去の恥(しかも他人を巻き添えに)を喋ったの？ こんなアンケートまでしてもらって人騒がせなお方ですね。

●金のためだろ？

●で、『PRIDE』での試合はガチなんですか？

●桜庭の為にと書いてあったと思うが、余計なお世話だと思う。存在自体がもう随分前から必要としていない！

●こんな本を出すヒマがあったら金原を助けろ！

●『PRIDE』ばかりホメており、プロレスLOVEを感じられない。

●裏切り者!!

●こういう内容の本を書けば他団体がどういう影響を受けるかを熟考したのか!? 完全なオナニー本。恥を知れ！

●髙田にコメントを書くのもウザイわ。

●これでWJが潰れたら髙田の責任。

●『PRIDE』の試合はすべてガチンコだったと書いてあるが、納得できない試合もある。今の立場では言及できないだろうが、いつか真相を話して欲しい。

『泣き虫』なエピソードに唖然！な読者の声!!

●かつて剛竜馬にしごかれたなんて、人生分からないものですね

●奥さんとはどの内容で揉めたんだろう？

●Uインター時代の田村の素行不良具合が気になります。

●髙田が相撲とりにならなくてよかった。

●髙田というより前田が好きになった！

●数少ない野球少年プロレスラー髙田さん、あんなにのけぞっちゃボールは取れません。

●松田聖子が好きだったとはビックリ。

●前田にまつわるエピソードがかなり面白かった。これからも前田さんと仲良くしてください。髙田も前田も大好きっ!!

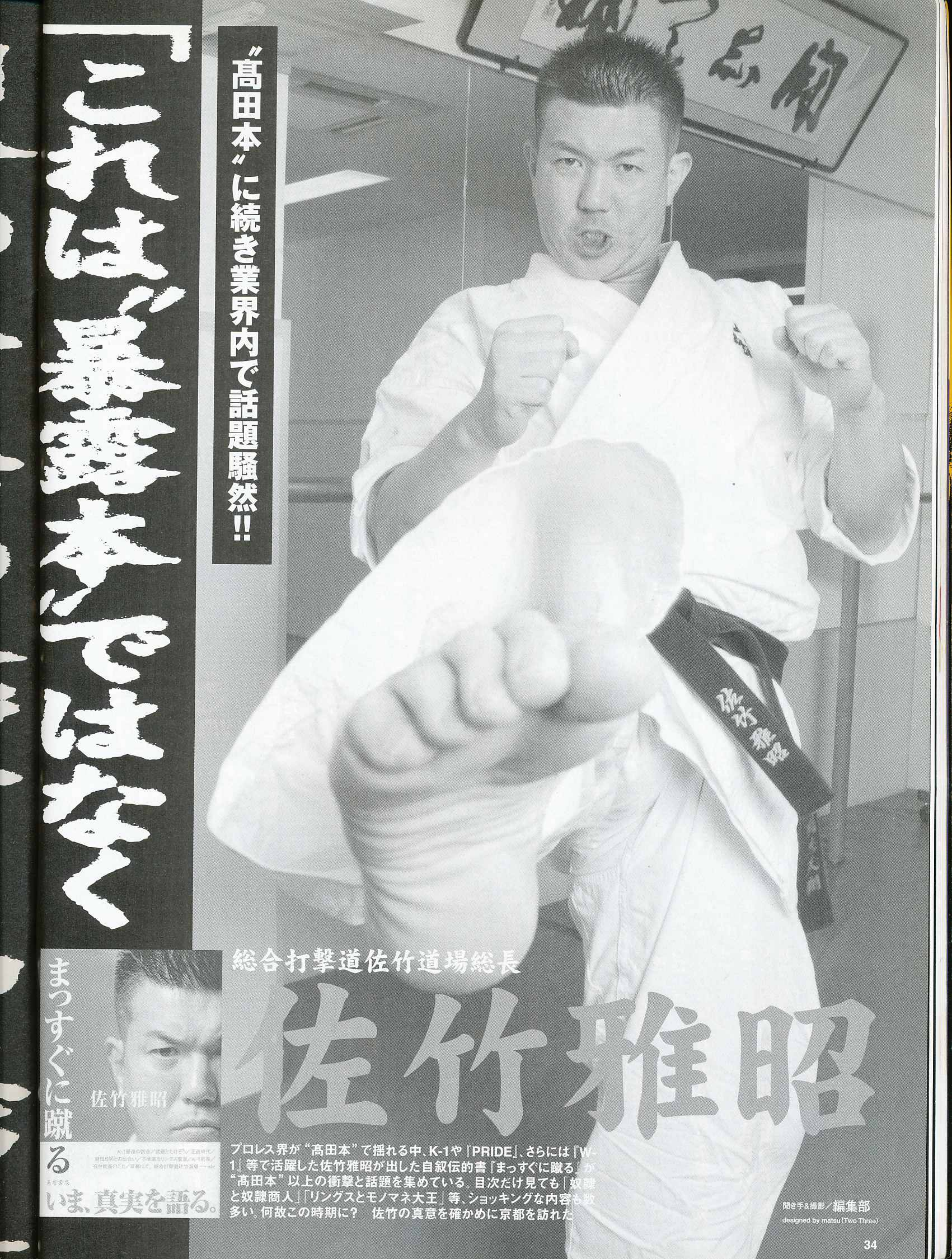
●『泣き虫』出版により、髙田家が嵐に襲われたそうですが、どんな嵐だったのですか？

●さわやか新党の話が一番面白かったです。選挙の「校庭に芝生」は、真剣に考え抜いた公約だったとは……。

●トラックのCMはお蔵入りになったの？ 見たい！

●暴露本と言われていたのでちょっとガッカリ…。でも面白くてすぐに読み終わりました。また期待してます。

●本部長が団地っ子とは驚いた。

●相撲部屋に無理矢理連れていったのは、もちろん荒川さんですよね？ 荒川、オマエも男だよ！

「これは"暴露本"ではなく

"髙田本"に続き業界内で話題騒然!!

総合打撃道佐竹道場総長

佐竹雅昭

まっすぐに蹴る
佐竹雅昭
いま、真実を語る。

プロレス界が"髙田本"で揺れる中、K-1や『PRIDE』、さらには『W-1』等で活躍した佐竹雅昭が出した自叙伝的書『まっすぐに蹴る』が"髙田本"以上の衝撃と話題を集めている。目次だけ見ても「奴隷と奴隷商人」「リングスとモノマネ大王」等、ショッキングな内容も数多い。何故この時期に？　佐竹の真意を確かめに京都を訪れた

聞き手&撮影／編集部
designed by matsu（Two Three）

自分の生き方の本です！押忍‼」

――この度、出版された自伝『まっすぐに蹴る』が相当話題になってますね。

佐竹　あ、そうなんですか。ボク、全然知らないんですよ、そういうこと。

――「奴隷と奴隷商人」って目次だけでも凄いんですけど、この際だからキチンと書こうってところがあったんですか。

佐竹　そうですね。とにかく、もうリングの上は引退して、自分で新しく城を持ったときに、自分がいままで振り返ってやってきたことを、素直に書いてみようと。

――じゃあ、ただただ素直な気持ちを書いたらこうなってしまったと（笑）。

佐竹　そうですよ。ある人が、「正義っていうのは基本的には金を持って、力が強い人になびく。たとえ、それが真実でないとしても、力がある方が結局は真実になってしまう」っていうことを言ってたんですよ。だから、どうせやるんだったら、本を出して嘘偽りなくですよね。

――その嘘偽りなくが反響を巻き起こしているんですけども、まずはK―1誕生のひとつのきっかけになったリングス参戦について聞きたいですね。この本でも前田日明さんはいい兄貴分だったと書いてますけど。

佐竹　だから、前田日明っていう人はね、最初にK―1を創るときにも一番お世話になった人だと思うし、逆に言えば前田さんの存在がないと、ボクらもプロとして食っていこうっていう気も起きなかったぐらいのカリスマですね。ただ、面白いことに前田さんを知ってる他の人たちの噂っていうのは、もの凄く悪いわけですよ（笑）。

――悪いですね（笑）。

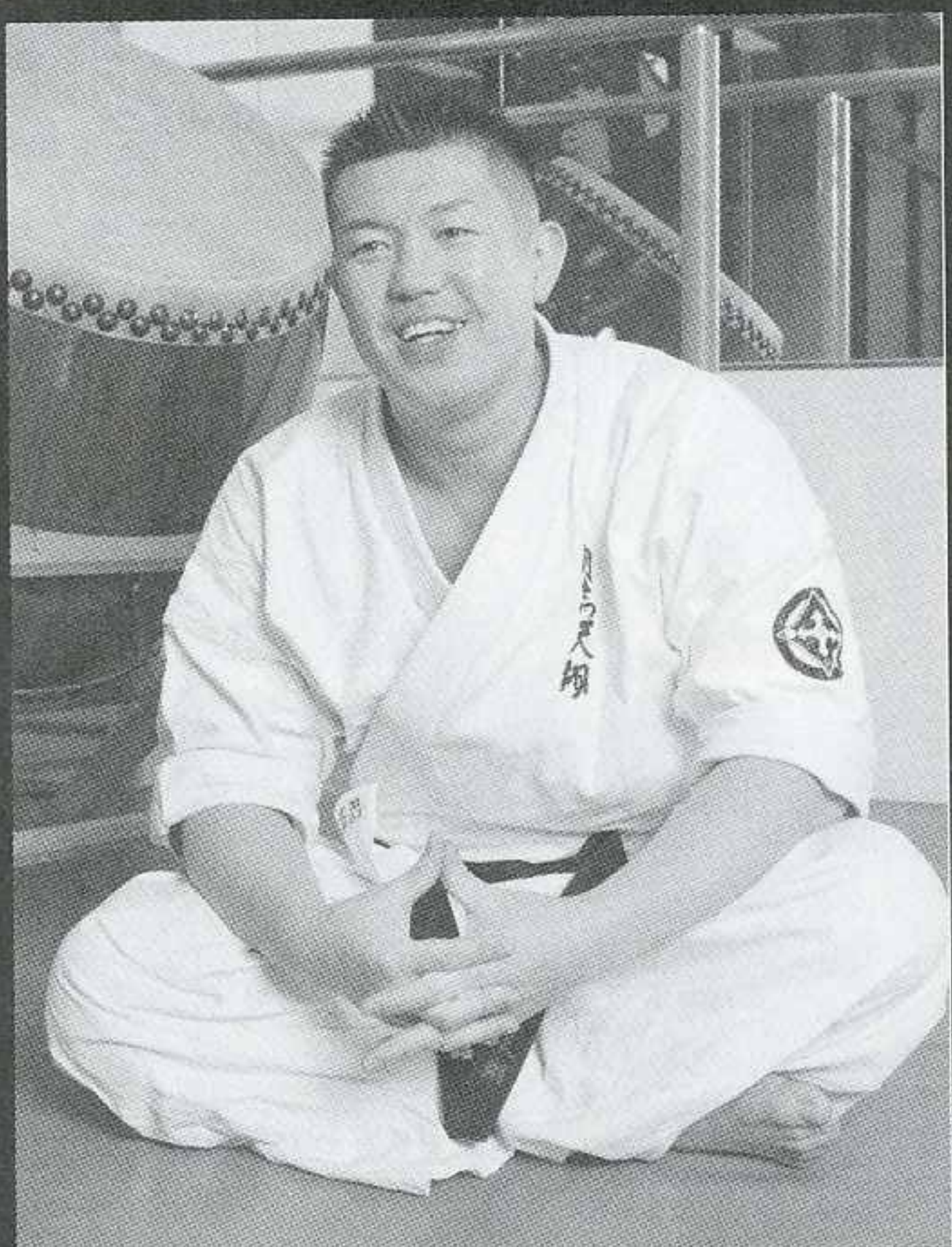
佐竹　だけど、前田さんはビッグなガキ大将が、そのまま大人になった人だって思えば全然腹立たないどころか、そうじゃないとダメだっていうのがあるから（笑）。

――飲みに行けば、酔っ払ってチンポ出してっていう（笑）。

佐竹　特に山口さん（本誌鬼畜編集長）なんかは前田さんに、ようイジられてて、あの姿を見てても面白いなぁって思ってね。だから、前田さんと接するときは自分もバカになれるっていう、あの空気はなんか楽しかったたですね（笑）。

――あの頃がリングスが一番明るい時期だったと思うんですよね。正道会館の参戦はリングス・ファンも喜んでたと思うし。

佐竹　でも、もともとはボクと角ちゃん（角田信朗）と、もう一人ぐらいで前田さんが出るイベントに突然会いに行ったのが始まりですからね。その後、どうやったらルートができんのかなぁってことで、当時、大阪に田中正悟さんとかがいたんで、まずはそっから仲良くなって、よく、オモチャの話とかしてましたね。でも、だんだん田中正悟っていう人も悪い噂が入ってくるわけですよ（笑）。

――ややこしいんですよね（笑）。

佐竹　前田さんに、この間話したら「アイツだけはブッ殺す！」って言ってたんで、この話題はタブーなんだなって思って、それ以来してませんけどね（笑）。でも、ボクとしては騙されたっていうのもないんで、いい悪いもないんですけど、とにかく前田さんはもの凄く怒ってたっていうことだけは事実です。

――まあ、そういう流れから正道勢のリングス参戦がスタートしたんですね。

佐竹　だから、きっかけはボクなんですよ。館長がそれに乗った形ですね。

――その後、リングスから離れてK―1が立ち上がっていくわけですが、その前にオランダ修行っていうのがありましたね。

佐竹　クリス・ドールマンのところとか行きましたね。で、道場に行くと、「誰だ、オマエは？　前田のところに出てる空手のチャンピオンか」ってなると、「じゃあ、やらせろ」って話になって、ガチガチやってましたね。あと、ドールマンのところの人たちってバウンサー業をやってるわけですよ。だから、みんながチャカ持ち出してきてね。

――エッ、ホントですか⁉

佐竹　突き付けてくるわけですよ。でも、俺はモデルガンとか好きだったたから、「何出してんだよ、オマエら！　寄こせ」って奪ったりとか（笑）。

――モデルガン感覚（笑）。

佐竹　ドールマンには、「佐竹、カバン持ってくれ」って、もの凄い重たいカバンを持たされて一緒に裏カジノにも行ったんですよ。でも、金属探知器のところを通ったら、「ブー！」って鳴るんですね（笑）。

――中身が非常にヤバそうですね（笑）。

佐竹　でしょ？　だから、「オマエ、そのカバン寄こせ！」「これはドールマンのカバンだから渡せない」って頑張ってると、ドールマンが「いいよいいよ、見せてやれ！」って言うんですよ。だから、「ああ、大丈夫なんだ」と思ってカバン開けたら中から拳銃がズラーって出てきて（笑）。

――怖ろしい話ですね（笑）。

佐竹　そんなのばっかでしたね。だから、道場破りも大変だったけど、その環境自体が面白いなぁって思って。だって、普通の人じゃ多分行けないようなとこでしょ？

――行きたくないですよ（笑）。やっぱり、

プロレスはブッチャーの試合だけで十分。やってるボクが一番面白かったと思う

――リングスと一緒で、そこは水があったって感じですか？

佐竹　うん、合いましたね。いまから振り返ると、大山倍達じゃないけど、自分の中では世界ケンカ旅行が出来たんで、それはそれで楽しかったなとあらためて思いますね。

――だから、リングス時代は楽しかったと思うんですよね。それがなんでK―1になると悪い思い出になるのかが分からないんですよ。例えば、オランダ修行に行けたのも石井館長のお陰っていうところはあると思うんですよね。

佐竹　ええ。いろんなことを修行できたのは、たしかに館長のお陰もあるしね。でも、逆に言ったら選手の発掘とかをボクがほとんど身体を張ってやってたわけだから、逆にうまいこと使われてたなっていうのもあるしね。

――正直にそう思いますか？

佐竹　思いますね！（キッパリ）。ボクらはケガもして、そんな金も持ってないしバカバカしいなって。結局ボクらはケガしてるんですよ。いまでも寒くなると頭が痛くなるぐらいなのに、結局、金もなにもないんですよ。その一方で、脱税で捕まるぐらいの金を持ってる人もいるとなると、一番いい思いをしたのは誰かなってなるんですよ。

――でも、その辺は経営者としては仕方ない部分というか。

佐竹　だけど、やっぱりね、ボクらが死ぬ思いしてやってるわけですからね。そこがやっぱり、「K―1は奴隷と奴隷商人の商売」だなっていうのは思いますね。

――……って書いてましたね。

佐竹　だけど、当たり前のことですよね。それが悪いわけじゃないしね。ひとつのビジネスとして美化してやってるわけだから。要は昔の侍とかでも、大名を盛り上げるために自分の命を懸けて闘って俸禄もらうのと変わらんわけですよ。

――変わらないですけどね。

佐竹　でも最終的には、一番名前が残ってるのは大名だしね。最後においしい思いをするっていうのは、そういう人なんやからね。まあ、なんて言うんだろうねぇ。いまから考えるとやっぱり超嘘つきだったなっていう感じですね。

――超嘘つきって（笑）。なんか、子供っぽいんですけど、憎しみも非常に感じますね。

佐竹　憎しみがないって言ったら嘘になるけど、要は反面教師ですね。だから、この本を読んでもらって感じて欲しいのは、金持ちになっても金の使い方ひとつで全然違うんだってことですよ。たとえばボクらにバーンと道場とか建てたりしたら神様になれた人だし。それを銀座行って、おネエちゃん呼んでってね。どうせお金持って行かれるわけでしょ、マルサに。

――まあねぇ。でも、接待とかあると思いますよ。

佐竹　うん、表向きはね。

――あ、そうなりますか（苦笑）。

佐竹　だって、そんなのはまずあり得ないでしょ。おネエちゃんは好きだろうし。まあそんなのはどうでもいいんですよ。人の金やし。それに関してはボクは何も言うことはないしね。ただ、ボクに関してのことだけを書いてるわけだからね。

――実際、K―1では身体を張ってましたからね。

佐竹　それがわからんで見てる人がボクの周りにもいるからね。逆に言えばボクのファンにこういうことがあったんだよっていうことを伝えたいわけだから。それで、理解してくれた人と、この新しい道場の場を人間形成じゃないけどね、みんなと共にコミュニケーションをとれるような場にすればいいかなっていうね。

――道場経営に専念して、選手としてはやるつもりはないと？

佐竹　もうやらないですね。ひとつの修行は終わったんでね。

――プロレスもやらない？

佐竹　ブッチャーの試合だけで十分。自ら進んでやるようなものじゃないですね。

――『W―1』は自ら進んでっていうわけじゃなかったんですか。

佐竹　でも、やるとなったらタライを使おうとか自分で考えるんで。だけど、やってみないとわからないってところが大変ですよ、プロレスの方も。いろんな意味で決めなきゃいけないからね。受け身とかも練習しなきゃいけないし。あと順番とか。

――順番ですか（笑）。

佐竹　そういう意味では、ある種サーカスみたいなもんだからね、それはそれで大変やし、しんどいっていうのも認めてるしね。ただボクにはブッチャーとの試合だけで十分というか、凄く楽しかったしね。

――だけど、あの時、会場はあんまり盛り上がらなかったですよね。

佐竹　だけど、やってるボクが一番面白かったと思うんですよ。

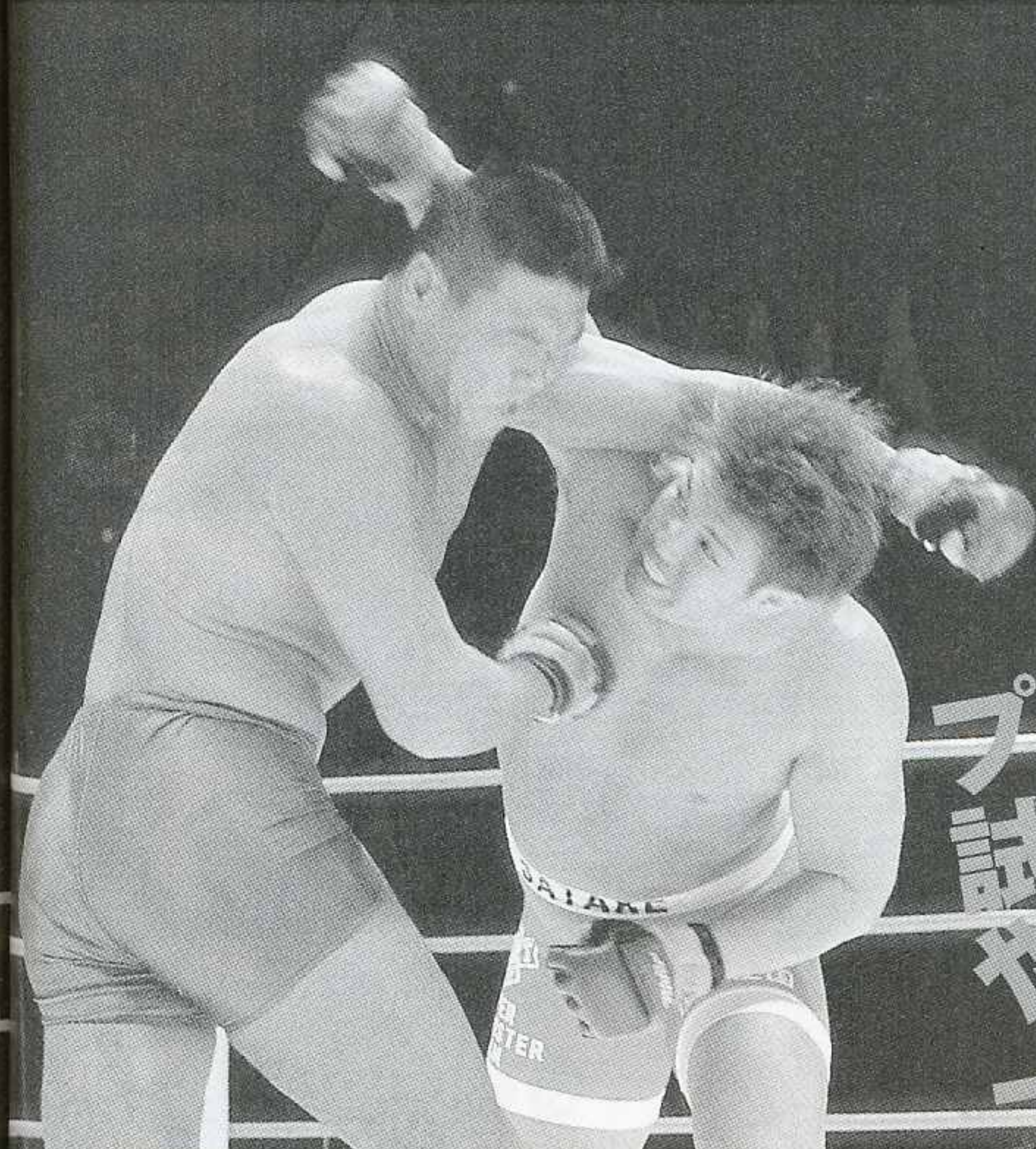
――佐竹さんはメチャメチャ楽しそうでした（笑）。

佐竹　だから、自分が楽しめればそれでいいと思ったから、これ以上やる必要はないなって。

――じゃあ、K―1は楽しめました？

佐竹　K―1は全然楽しめませんでしたね。前半は楽しかったですよ。そりゃあ、やっぱり作っていくときっていうのはもの凄く面白かったし、あの緊張感っていうのは。やっぱり、後半になってくると自分の身体もいうこと聞かないしね、脳の心配もあったしね、そういうものがあると、やっぱり喜んで出来ないですね。

――だから、前半の楽しかった部分で言えば、第2回大会の準優勝っていうのは一生懸命、館長が佐竹さんをプッシュしよう

2000/10/31『PRIDE.11』大阪城ホール。1R、小川とスタンドで打ち合った佐竹は、勝利を確信したという。しかし2R、寝技に持ち込まれると何もできずチョークスリーパーで轟沈。

と頑張ってた部分もあると思うんですよ。

佐竹　そりゃそうですよ。自分は金儲けしたいんですもん。

――また、そっちに行きますか（笑）。

佐竹　だって、それしかないですから。そりゃやっぱり、逆の立場で、ボクが興行する側に回ると、これは日本人の選手を上げないと興行自体がダメになる、自分に金が入ってこないって話になってくるわけですよ。だから、そこから、まず本人になった気持ちで、物事を見るとすべてわかるわけで、やっぱ経営者になってみるとわかりますよ。

――でも、佐竹さんだって、それにうまく乗っかれば相乗効果でいいわけじゃないですか？

佐竹　そうですね。

――実際、そういう形で佐竹さんの名前が上がってきたわけじゃないですか？　だから、怒る必要もないような気がするんですけど。

佐竹　あぁ、その頃は別にあれですけどね。後半がダメなんですよ、結局はね。

――身体の調子悪くなって辞めたくなったときもあったんですね。

佐竹　だから、そういうときにでも、やっぱり引っ張り出したいわけでしょ。また、いろんな顔があるわけですよ。そこら辺の人間関係がグジャグジャなってくるもんだから、ボクはそういうのは嫌いな人やからね。もっとスパンスパンといきたかったんやけど、いま振り返ると全然K―1にはいい思いがないなぁって思うしね。

――でも、それって寂しい話ですよね。

佐竹　だけどね、それがあったからこそいまの自分がいるわけだし、逆にこれからのスタートは良い方向に切れると思うんですよ。

――この本を出してから、正道会館とか角

『PRIDE』は華やかだけど、ちゃんと選手に対してのケアとか愛があるんですよね

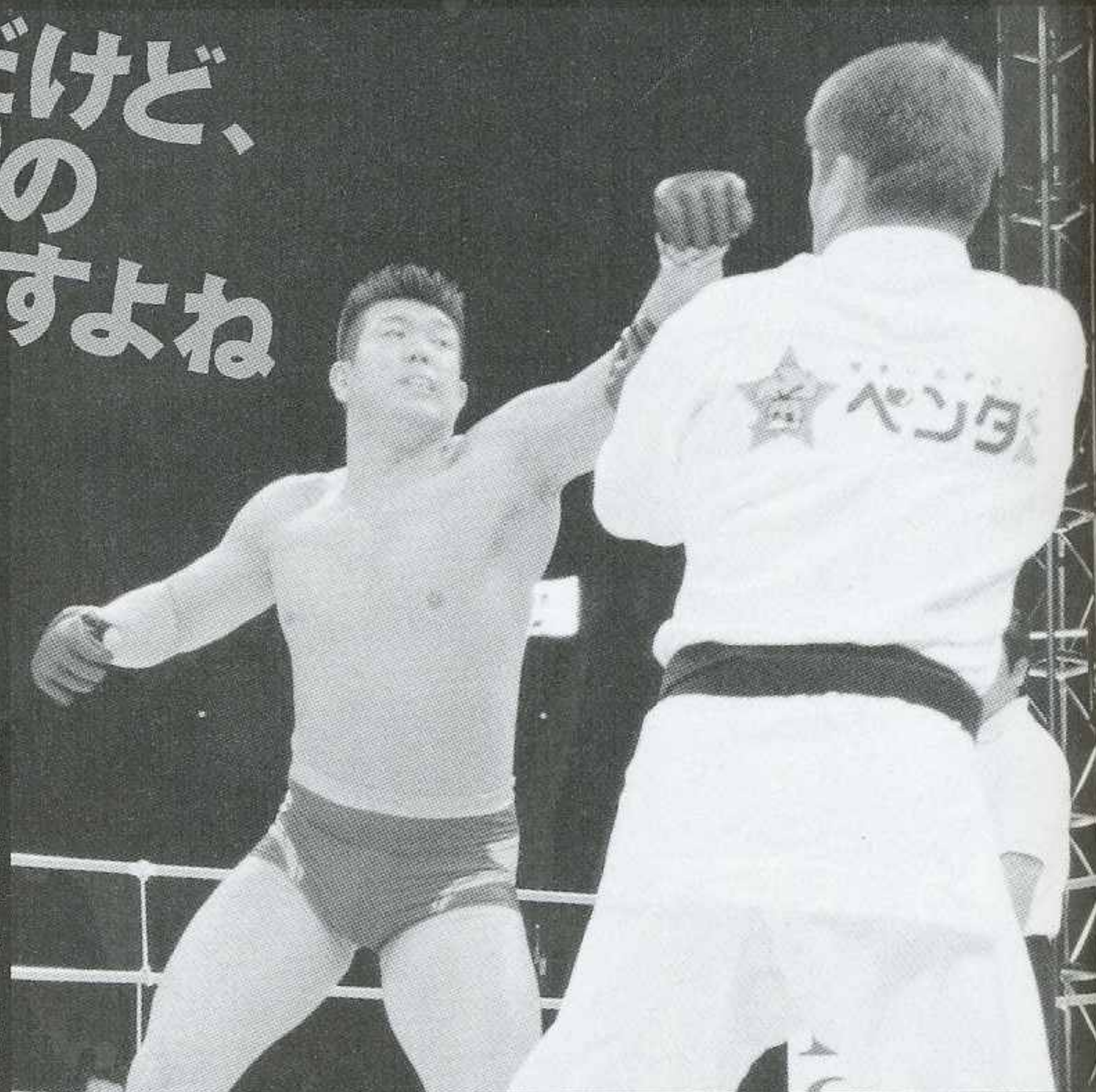
田さんなりから電話とかはなかったんですか？

佐竹　まったく何もないですよ。よう言わんでしょ、ホントのこと書いてんだもん。

――そうですか（苦笑）。

佐竹　だからね、多分、格闘技マスコミの人は、書けない部分がいろいろあると思うんですよ。

――ですけど、ボクは本を読んでなんか空手の上下関係、押忍の世界っていうのはもうないのかなぁっていう思いを……。

佐竹　だから、空手の先生じゃなくなっちゃった時点でダメなんですよ。昔は良かったんですよ、凄いビシッとした人やなって思って。昔、カレーライスとか食べさせてくれてた人が、「このワインがどうのこうの」とか語るようじゃ、ちょっと違うものになってきますよね。やっぱり金っていうのは人を変えるもんだなっていうことが凄いわかったし。

2002／12／31『猪木祭り』。一週間前にオファーを受け練習不足で挑んだという佐竹は、吉田のフロントネックロックで秒殺負け。佐竹の格闘技引退試合は僅か50秒の幕切れとなった。

――ただボクはK―1は嫌いじゃないんですよ。館長の時代にしても、いまの谷川さんの体制にしても。

佐竹　だから、そういう人は全然問題ないと思うんですよ。K―1は好きだと思うし。ボクはやってきた中で、いろいろこういうことがあったなっていうことを書いてるっていうだけの話でね。それは格闘技でメシを食ってる人らは、まだすがらなきゃいけないところもあるだろうし、付き合いもあるだろうけど、ボクはもうどうでもええ話だから。

――ホント、ノビノビと書いてますよね（笑）。

佐竹　ノビノビと（笑）。もう自分で城持ってるわけだし、別にどこにもペコペコする必要もないしね、堂々と生きればいい話だから。逆にいままでやってきたことの悪いところはこういうとこだっていう反省点を述べて、ボクらの道場生にも読んでもらった上で、これからはこうならんように。でも、これが好きだったら、そっちの方に行きなさいと。別に否定はしてないんでね。

――『PRIDE』の方はどうですか？

佐竹　『PRIDE』は良かったですねぇ。森下社長はいい人でしたねぇ。

――同じ華やかな世界ですよね。

佐竹　華やかだけど、ちゃんと選手に対してのケアがあったし、愛があるんですよね。

――愛がありましたか（笑）。

佐竹　うん。そこが素晴らしいなって思ってね。髙田道場なんかに行っても、やっぱりそこら辺のコミュニケーションの取り方うまいしね。いいなぁって。だから、ボクは格闘技全部否定してるわけじゃないんでね。K―1もそういう形にすれば良かったのに、あまりにも独裁制にし過ぎたっていう部分もあるしね。

――でも、K―1が10年続いたからこそ『PRIDE』が出て来れた部分は否定できませんよ。

佐竹　うん。だからこそ『PRIDE』の方は反面教師として悪いものは悪い、いいものはいいって形で淘汰していったと思うんですよ。

――はあ、結局そうなりますか（苦笑）。

佐竹　ただまあ35になって『PRIDE』始めたっていうのは、自分ではちょっと遅すぎたっていう部分はあるけどね（笑）。

――ちょっと遅かったですね（笑）。ホントにこの道場で新しい弟子たちを育てていければいいって感じなんですね。指導に関して言えば、打撃も寝技も全部出来ますからね。

佐竹　だから、全部の授業をボクが教えるんでね、火・水・木・金・土と2クラスを。どこまで自分の身体がもつまでクラスを持てるかっていうのは自分のチャレンジなんでね、そういう風にいまは自分の生き方を変えてるんでね。

――これまで思い切りやってきて、ケガも多いですからね。

佐竹　だから、命懸けで生徒たちに接して

あげれるっていうのはボクの生き方かなって思ってるしね。

――故障って部分で言えば、『PRIDE』に上がってたときの方が凄かったじゃないですか？

佐竹　そうですね。ただ、脳のダメージはそんなにないんですよ。腰の骨が折れても、首から下はピンピンしてるんですよ。

――そうですねぇ。……あのぉ、正道会館は、そんなに悪くなかったわけですよね？

佐竹　好きですよ。正道会館の看板をずっと守ってましたからね。だから、要は理不尽なんですよ！

――理不尽（笑）。館長がですか。

佐竹　っていうか、言ってることとやってることのギャップが嫌いなんですよ、ボクは。ある程度は仕方ないのはわかるんですよ。でも、度があるんですよ、度が！

――金だけじゃないと。

佐竹　金じゃないんです。やっぱりね、最後は生きてて人間の尊厳っていうかプライドがあるわけじゃないですか？　それがないと生きてる意味もないしね。やっぱり親方がナンバー1になってもらいたいっていうのもあったし、極真に負けないように正道会館を日本一の空手団体にしたいっていう気持ちもあったし、他の先輩たちもみんなそういう気持ちだったんですよ。で、そういう先輩たちが大会に出て勝ったり、守ってきた部分っていうのがあるんだけど、結局いま振り返ると、そういう先輩たちはほとんどやめてるんですよね。自分で独立して道場やってる先輩もいるしね。結局だから、それがもう答えなんですよ。

――う～ん……。まあ、ともかくキモ戦にしても、あの試合が頭が痛い状態でリングに上がっていたっていうのは知らなかったですね。

佐竹　「言うな」って言われてましたからね。そういうことが多かったんですね。言えない自分があったっていうのが。今回、この本が出来て胸のつかえが全部取れたから、逆にこういう本を出してくれて感謝してますね、自分の中の気持ちとしては。でも一番この本を読んで感じてもらいたいのは、そういうこともあったけど、今度から佐竹はどういう風に生きていくかとかね、そういう意味合い深いんでね。だから、"暴露本"ではなくて、生き方の本にしてるつもりなんですけどね。

――でも、暴露本に捉えちゃうんですけどね。

佐竹　だから、自分の知ってる人たちは、「暴露本かと思って読んだけど違うんですね」っていう声もあるんでね。だから、ちゃんとわかってくれる人もいるんだなぁって思って。

――ちなみにファイトマネーはちゃんと貰えてたんですね。

佐竹　ファイトマネーは貰わんとやってられないでしょ（笑）。まあ微々たるもんですけどね。

――K－1の初期の頃はファイトマネー入れて13万とか書いてましたよね。

佐竹　だから、最初の方はね。そんなんでもう「押忍」ですわ。それがだんだんやっぱりね、怪獣王国作って、正道の中に置いとけっていうから置いといたのに3割寄こせって言われたからね。

――3割！　なかなか厳しいッスね（笑）。

佐竹　は～い、厳しいッスよ！（笑）。やってらんねえって話ですよ、ぶっちゃけね。だって、K－1は何にも営業してたわけじゃないですよ。営業もしてないのに勝手に舞い込んだ話で3割寄こせやからね。場所代です。ヤクザみたいなもんですよ。

――ヤクザ（苦笑）。

佐竹　だから、腑に落ちないことが多いでしょ。……もうこれ以上語ってもしゃあないッスね。自分自身も情けなくなってくるからね。プラスに物事考えて、昔はこんなことあったけど、こんなことしちゃいけないと、それだけのことですわ。だからもう、まっすぐに蹴る、まっすぐに生きると。

――まっすぐにと（笑）。

佐竹　だから、ある程度やらしてもらったこともあるしね。経験したこともあるし。

――いいこともいっぱいあると思うんですよね。

佐竹　いいことはあんまなかったですよ！（笑）。

――あ、そうですか（苦笑）。

佐竹　なんか全部ね、悪いこと悪いことに繋がるんですよ。

――日本人エースとして有名にさせてもらった、修行もさせてもらったっていうのは。

佐竹　それは向こうから見た言い分ですよね。でも、こっちは率直に「した」っていうのがありますからね。結局、一番金貯めてるのは、アンタだなっていう話になるからね（笑）。もう結論はそこなんですよ。

――でも……まあ、もういいや（苦笑）。結局、この先ですよね、ホントに。

佐竹　だから、ボクはもう、この先自分の仕事っていうのは十年ぐらいしか出来ないなぁって思ってるんでね。もう、身体が動かなくなってきた時点で、この道場も畳まなきゃいけないだろうし。

――でも、どうすんですか、その後？

佐竹　その後は死ぬだけでしょう。

――その前に金貯め込まなきゃいけないじゃないですか？

佐竹　いや、そんなんはもういいですわ。

――あ、そうですか（笑）。

佐竹　もういけるとこまで行ったんで、あとはもう自分の道を全うして、もう後は50になって死のうが、45で死のうが、ある程度やれば死んでもいいと思ってますからね。だから、本にも書いたけど死ぬのっていうのは当たり前のことなんですよ。寿命ってあるじゃないですか？　そういう意味では死ぬのは当たり前で、生きてるからこそ、金に執着せずに、もっとやりたい夢ってものがあるから。それこそ笑えるような人生を送れたらね、もうそれでいいと思ってるんですよ。

――金が目的になると寂しいですからね。

佐竹　そうなんですよ。だから逆に言え

『W-1』に突如現れた謎のプロレスラー「SATA…yarn」。黄金の金ダライを駆使しながら闘う姿は会場&お茶の間を失笑の渦に。佐竹は67歳相手のブッチャーに何かあってはと気を遣って闘っていたという。

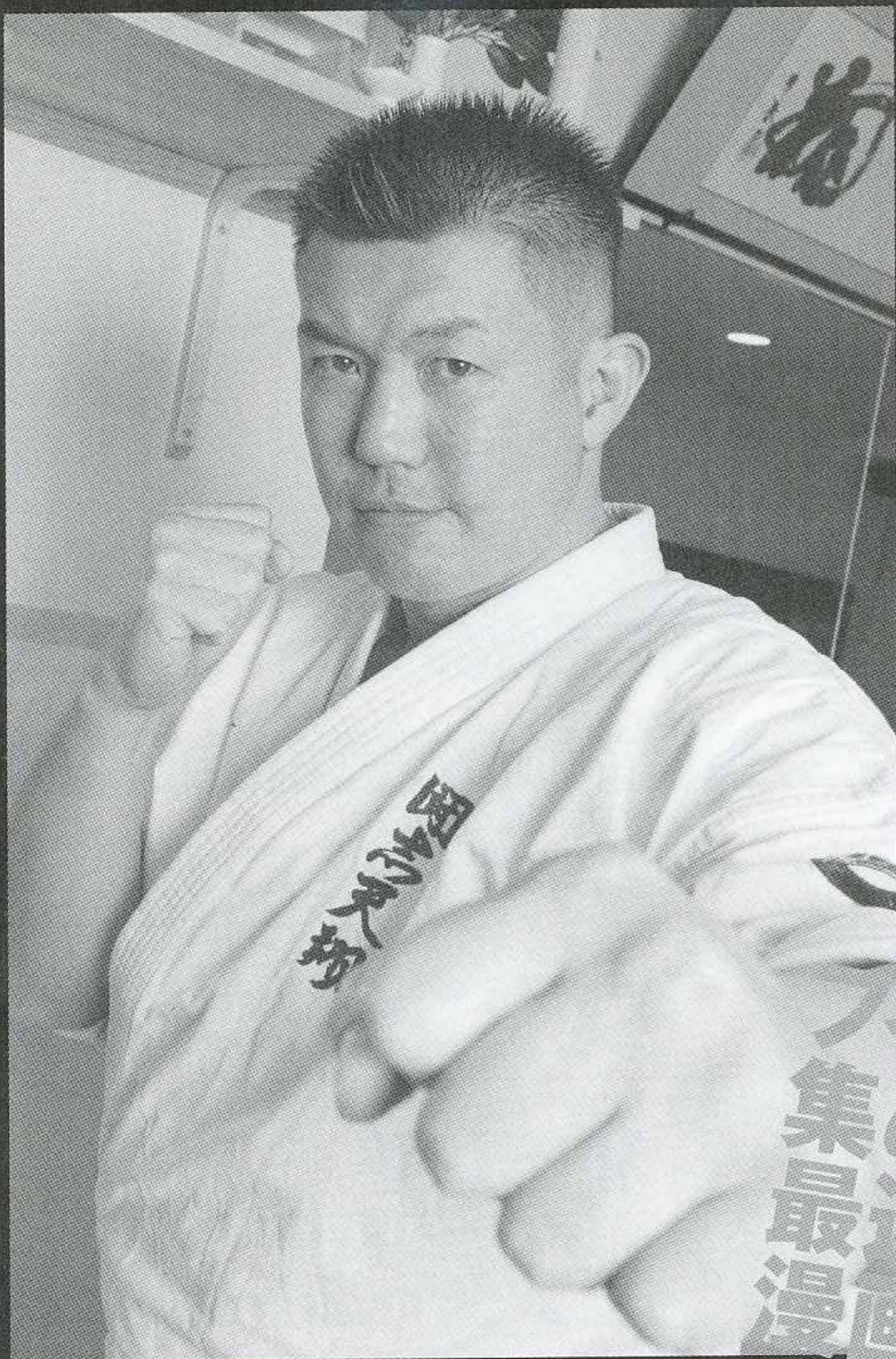
ば、一番シンプルな答えだけど、もう楽しい人生を送るためにね。飲み食いにしても、派手なことばっかり覚えると下に下げられないですからね。

――佐竹さん自身は飲み食いとか派手な思いはなかったんですか？

佐竹　ボク自身も、やっぱり派手なことはしましたよ。

――K―1にいる間ですよね。

佐竹　K―1いる間はそんなしなかったですよ。

――ああ、そうなんですか（笑）。

佐竹雅昭（さたけ・まさあき）■1965年8月17日生まれ。大阪府吹田市出身。15歳で正道会館に入門し、87年から全日本空手道選手権を3連覇。93年より石井館長が主催するK-1に参加し、94年のGPで準優勝。99年K-1を退き、2000年からは総合格闘技の道へ。03年10月、京都に総合打撃道佐竹道場をオープン。

佐竹　いつまでも正道の裏の寮の汚くてジメっとしたとこで寝泊まりしてトレーニングばっかりしてましたね（笑）。

――華やかな世界のトップだったんですけどねぇ。うまくいかないもんなんですねぇ。

佐竹　いや、そういうもんなんですわ。だから儲かったんでしょ（笑）。

――K―1も、館長と佐竹さんの二人三脚でうまくいけば良かったんですけどね。

佐竹　まあでも、「もし」って考えても仕方がないしね。

――単純に最初の約束どおり、儲けは半々……。

佐竹　そこなのよ！　そんなこと言わなきゃいいのにね（笑）。先生って立場の人がね。信用しちゃうわけじゃない。でもクセだからね、あの人ね。

フィギュアは大体集めきったんで最近は『リンかけ』とか漫画を読み直してます

――まあ、とりあえず、プロの世界には全然興味がないと。ところで、フィギュアとかはまだ集めてます？

佐竹　もう終わりました。

――終わっちゃいましたか？（笑）。

佐竹　もう大体集めきったんで。最近は昔の漫画を読み直してますね。今日はちょうど『リングにかけろ』の25巻、最後まで全部読んで。『リンかけ』って、あらためてこんなストーリーだったなぁって。

――佐竹さんがモデルの『となりの格闘士』は？

佐竹　あんまり読む気しないねぇ（笑）。ギャラも入らなかったし。

――それも入らなかったですか？

佐竹　入らないッスね。ホントに入らなかったですね。そういう仕組みなんですよ。そんなこと考えんとやってたからね。自分が道場経営してみて、そういうことだったんだって、いまになってやっと分かったから（笑）。そういうこと考えると、いい人なのよ、ボクはホントに。

――人がいいんですかね。

佐竹　マジメなんですよ、ボクは。おかしいなぁって思うけど、「まあいいか」って思って。お金も要るんだろうなぁって思ってたから（笑）。

――そのとき、そのときで言えば良かったじゃないですか？

佐竹　そのときは思わなかったから。振り返って「あれ？」って思うけどね。

――ホントに空手バカ一代だったんですね（笑）。

佐竹　ホントそうですよ。そういう人生で。でも、正直者は最後にはちゃんと神様は見てくれてると思ってますんで。

――頑張ってください！

【12月13日／佐竹道場にて収録】

佐竹道場、やってます！

総合打撃道
佐竹道場

佐竹総長自らが体の続く限り直接指導！　少年少女達も集まれ！　ここには明るく楽しく強い武道がある。

◆京都市下京区麩屋町四条下ル八文字町341森マンション
▩阪急河原町駅連絡口徒歩1分
▩地下鉄四条駅徒歩5分
▩京阪四条駅徒歩5分
◆TEL／075-361-1199
◆営業時間
平日14:00～22:00
土曜12:00～18:00
◆定休日／日曜・月曜

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL 2003 NO.69

Main-Event

大晦日も1・4も ドゥーなる!? ハッスル!!

MMA Special

Pro-Wrestling Special

Radical Special

Special Talk

Columns

Another

※『書評の星座PART2』は都合によりお休みになります。ドラゴンが現役を続行しそうなので藤波引退特集は機会をあらためます。

大晦日大混沌

今年もやっぱり

大晦日情報に
宇宙一詳しい

月刊Y²談 VOL.12

構成／ジャン斎藤

designed by Tani-Yan (Two three)

月刊Y²談

山口　今月もかなり話題が豊富だったし、大晦日決戦や1・4興行戦争も控えているからいろいろ喋りたいことはあるんだけど、なんだか気が重いんだよなあ……。

吉田　いきなりテンション低いですねえ（笑）。健介の新日本復帰とか、話すことはいっぱいあるじゃないですか！

山口　いや、健介はどうだっていいんだけど、現時点でどのイベントも、ろくにカードが出揃ってないでしょ？

吉田　現時点では『LEGEND』と『K-1ジャパン』と『武士道』みたいなレベルになってますね（笑）。

山口　この号が発売される頃には喋っていたことと別の展開になったりするかもしれないし、俺はターザンと違って発言に責任を持ちたい人間だからさ（笑）。

吉田　発言ぐらいコロコロ変わってもいいじゃないですか。ターザンなんて、ついこないだガンツと絶縁宣言したばかりなのに、「ガンツとも相性が良くなってきた」とか言い始めたし（笑）。

山口　また、いつもの掌返しかよ（笑）。

吉田　なんでこうなったのかと言えば、12月4日に新宿ロフトプラスイベントでターザンとイベントをやったじゃないですか。

山口　ああ、新間さんが『泣き虫』に対して抗議するイベントでしょ？

吉田　上井さんと安田忠夫さんも来てくれたんですけどね。そのとき前号でも言っていた1・4新日本のターザン山本応援シートが発売されることを、上井さんが正式に発表したんですよ。

山口　ゲ！　あれ本当にやっちゃうんだ！

吉田　そのターザンシート購入第1号がガンツだったんですよ（笑）。

山口　相性が良くなったのはそんな理由かよ（笑）。

吉田　そのイベントは新間さんが全てのプロレス専門誌で告知したからマスコミはもちろん一般客もたくさん来てたのに、買ったのはガンツだけだったみたいですね。「彼が第一号のチケット購入者です。おめでとう！」ってネットで書いてたんだけど、その場合は「おめでとう！」じゃなくて「ありがとう！」だろって（笑）。

山口　感謝の気持ちはない男だからねえ（笑）。あの地味なカードが発表されたことで、さらにターザンシートの売れ行きはストップすると思うけどさ。それでイベント自体はどうだったの？

吉田　面白かったんですけど、ボクとターザンの主催イベントなのに、どの専門誌にもボクの姿が一切載ってないのが腹立たしいんですよね。イベント名すら『ゴング』以外は無視してるし、完全に『泣き虫』同然の扱いで。ボクも会長とグルだと思われてるんですかね？

山口　なんだよ、グルって！　まるで俺が悪者みたいじゃん！

吉田　だけど、完全に黒幕扱いされてますね。

山口　それって、『泣き虫』の巻末に〝協力・山口日昇〟ってクレジットが入っていたから？

吉田　そういうことです！　今日もある実話誌から「あれは山口さんがゴーストなの？」って聞かれたから、金子達仁のゴースト説も流れてるみたいですよ（笑）。

山口　それは光栄だね！　実際、俺の名前が入っていた位置って映画や演劇の世界でいうと〝止め看板〟って位置なんだよ。

吉田　カメラマンとかのクレジットとは別枠の、思わせぶりな位置でしたよね。

山口　あんな目立つとこに名前入れられたら、俺が黒幕だと思われるに決まってるじゃん。俺は「名前は入れないでいい」って言ったのになあ……。

吉田　つまり、ハメられたわけですか？

山口　泣き虫呼んで来い、泣き虫！　と、

スキャンダラスを無視しないで 飲みこむぐらいのパワーが必要［山口］

俺は吠えたい気分だよ（笑）。

吉田　とりあえず、ここでテーブルひっくり返しておきますか（笑）。

山口　高田道場のスタッフにまで「あれは山口さんがやったんですか？」って聞かれたしさ。もうどうにでもして（笑）。

吉田　実際にはどういう仕事をしたんですか？

山口　簡単に説明すると、金子さんはサッカーのライターだからマット界のことに疎いでしょ？　出版元の幻冬舎から「プロレスや格闘技の事実関係をチェックしてくれ」ってことで、ゲラの段階で渡されたんだよ。

吉田　幻冬舎はウチから徒歩20秒ぐらいの距離だし（笑）。要は、宮戸本（『UWF最強の真実』）や鈴木健本（『Uインターの真実』）で会長がやってきたようなことですか？

山口　鈴木健本や宮戸本の場合は原稿のチェックだけじゃなくて企画の橋渡しもしたけど、今回はゲラが上がってくるまで内容すらオレは知らなかったし、もちろん企画にも一切タッチしてない。

吉田　まあ、会長が編集部でゲラを読んでたのはボクもリアルタイムで見てましたけど、あとは「北尾戦にもっと突っ込め！」とかアドバイスしてたぐらいですか？

山口　そうだね。編集部の奥のテーブルで俺がゲラを見て「あっ！」とか「うっ！」とか呻いていたのを、みんな聞いてたはずだよ（笑）。

吉田　具体的な内容は教えてくれなかったけど、「星の話が出てるよ！」とか叫んでましたもんね（笑）。

山口　で、プロ書評家の豪ちゃんから見て『泣き虫』はどうなの？

吉田　とりあえず読みやすくて良かったですよ。プロレス本って筆力がない電波系の人が書くことが多いから、その電波を楽しむことになりがちなんですけど。

山口　たしかに、1冊の本としては面白かったよね。そこに〝暴露本〟騒動もあって売れてるみたいだけど、俺のギャラはどうなるだろう……。もらえるのかどうかも一切聞いてないんだけど……（呟くように）。

吉田　つくづく儲からない黒幕ですよねえ（笑）。その点、ターザンは儲ける気満々ですよ。

山口　どうせ、またくだらないやっつけ仕事の便乗本を出すんでしょ、あのオヤジは。

吉田　そうなんですけど、今回はそれだけじゃないんですよ。「俺のターゲットは見城徹だ！　これから幻冬舎が出す本にすべて便乗本を出しますよぉぉお！」って息巻いてて（笑）。たとえば石原慎太郎が新作を出したら、『ここが変だよ石原都知事』とか出すつもりらしいですよ。

山口　意味がわかんないよ、ホントに。それでビジネスになってるの、あのオッサン

Y²談出席者

⇧吉田 豪

『BUBUKA MAX』で山本晋也監督にインタビュー。マーシーも唱えた"山本晋也監督・最強説"を裏付ける、戦慄エピソードをたっぷり聞き出した本誌スーパーバイザー。

⇧山口日昇

風邪気味の編集部員をつかまえては、「ニンニク注射を射ってこい！」と迫ることが日課になりつつある、本誌鬼畜編集長。12・9U-STYLEの解説を務めたときの一枚。

は？

吉田　幻冬舎の人は「それはそれで宣伝になる！」って喜んでましたけどね（笑）。

山口　それにしても、『泣き虫』の風当たりは強いねえ。

吉田　『ゴング』というかGKは「あるレスラー」だとか「ノンフィクション？本」だとか名前も出さずに批判した挙げ句に、「高田はプロレスに二度とまたぐな！」って吠えまくってますよね（笑）。

山口　GKは熱いねえ、相変わらず（笑）。「プロレスラーとしての敗北者。プロレスに決別しながらも、再び商売でプロレスに参入しようという、あさましい人間」とか書いてたけど。

吉田　ZERO-ONE両国で流れたビデオについても、「相変わらず意味不明の言葉を連ねていたヒール気取りの男にファンは罵声を浴びせた。これが現実なのだ」「とっくにプロレスファンは、その人物の本質を見抜いているし、すでに見限っている」とまで言い切ってましたよ（笑）。

山口　あれは罵声を浴びせるためのビデオだったと思うんだけどなあ……。

吉田　ちなみに『ゴング』は「キラー・シクマ」に続く漫画を連載するらしいんですけど、テーマが力道山 vs 木村政彦なんですよね（笑）。

山口　それこそプロレスの裏側に触れないと書けない話じゃないのかよ！

吉田　だから、おそらく木村を高田と同じとして描くんじゃないですか？

山口　それに比べて佐藤大編集長は〝プロレスをなぜ愛せない〟というコピーを表紙に打っておきながら、呑気に「いい本じゃないですか？」って言ってたけどさ（笑）。

吉田　これだけ話題が豊富なこの時期に〝チャンコ鍋特集〟を敢行するんだから、『週プロ』は呑気でいいですよ。

山口　チャンコ鍋特集って『リンタマ』レベルじゃん（笑）。

吉田　ただ、ロフトのイベントで上井さんが「これは『ハッスル1』で高田が復帰するアングル本じゃないか？」って言ってたんですけど、そう思われているからこそ『週プロ』も「載せたくもないような情報がある」ってことで、あえてチャンコ鍋特集をやったわけですよね。

山口　じゃあ『泣き虫』は相当前から仕込んでたっていうこと？　そこまで緻密にやってるんだったら、DSEはすごい会社だよ（笑）。俺が言いたいのは、高田を叩きたいなら、まずは裏切り者の定義をハッキリしてほしいってことだね。

吉田　「プロレスには筋書きがある」って選手やレフェリーが言ったら、裏切り者になるんじゃないですか？　〝プロレスは共有財産なんだから、勝手にその財産を売り払って自分だけ儲けるな！〟ってことだと思うんですよ。

山口　ああ、それは非常に理解できますね。狭い村の集団意識というかさ（笑）。

吉田　それと、結局は〝高田だから許せない〟っていうのも大きいと思うんですよ。Uインター時代から新日本にケンカを売ってきたし、グレイシーの道場破り失敗でプロレスの威信を落としたし、借金ができればガチンコに挑んでヒクソンに2連敗したし、『PRIDE』でも新日本にケンカを売ったしで、そういう積もり積もった恨みもある相手がプロレスの仕組みをバラすのであれば、やっぱり「お前が言うな！」って言いたくなるだろうし。

山口　でも、怒ってる人たちはこれをプロレスを落として『PRIDE』を上げるための本だと思ってるわけでしょ？

吉田　まあ、そういうことでしょうね。船木も「UWFも藤原組もプロレスだった」って本で暴露してたけど、それほどリアクションがなかったのは、高田よりは〝プロレスを落とした〟感が気薄だったからだろうし。

『泣き虫』云々じゃなくて ハッキリとプロレスを定義する時代が来た［山口］

山口　それって、つまり高田本の方が影響力があった。船木本と比べた場合、高田本と船木本の道程と比べた場合には、高田の方がインパクトが大きかったっていうことだよね。

吉田　同じヒクソンに負けた者同士でも、業界に与えた衝撃は良くも悪くも違う、と。

山口　高田の方がそれだけ渦を起こしてるっていうことだよ。それに対してのジェラシーじゃないの？

吉田　渦は起こさないでもいいってことだと思いますよ（笑）。上井さんも「プロレスラーの高田延彦だからヒクソン・グレイシーと試合できたんじゃないですか？　プロレスラーというのは、みんな名前を上げるために対戦した人の気持ちを汲んで有名になって大きくなるんじゃないですか？　そんな人たちのことを考えたら、こんな本は出すべきではない」って言ってましたけど。

山口　……それは上井さんの言う通りですね（笑）。

吉田　ダハハハハ！　ボクもいい話だと思いました（笑）。その上、新日本の1・4ドーム大会に興行をぶつけてきたから、「プロレスを捨てた人間が、もうプロレスをまたぐな！」って状態になってるんでしょうけど。

山口　新日本に対して言いたいのは、「だったらお前らもまたぐな」って（笑）。向こうは中途半端なVTはともかく、なんちゃってVTもやってるわけじゃない。あれは『PRIDE』にケンカを売る行為じゃないんですか？　って。

吉田　とりあえず、新間さんは『ファイト』、『週プロ』、『ゴング』に「『PRIDE』は載せるな！」って通達したらしいですけど。

山口　『PRIDE』を掲載拒否すれば済む問題でもないと思うけどなあ（笑）。

吉田　それぞれ読者が『PRIDE』や総合の記事が嫌いなんだったら、それで丸く収まるんでしょうね。〝純プロレス〟だけの紙面構成で、どの程度の売れ行きが見込めるかは知らないですけど。

山口　いま〝純プロレス〟っていう言葉が出たから拾うとさ、本部長じゃないけど、いまは〝純プロレス〟の定義ができてないよね。『泣き虫』云々じゃなくて、ハッキリとプロレスを定義する時代が来たんだと思うよ。去年の『W-1』にしても今度の『ハッスル1』にしても、プロレスのタブーの部分に触れざるを得ない、触れた上で表現していかなきゃいけないイベントでしょ？　10何年前にカミングアウトしてるWWEというモデルケースがあるんだから、日本でやれないことはないと思うんだよ。プロレスも格闘技も一切関係なく、ホントにファンを感動させたり興奮させたりすることは可能だし、専門誌にしても、プロレスがガラッと体制を変えて映像やライブに重きを置くようになってくると、活字では非常に表現しづらい世界になるわけじゃん。プロレスマスコミが、いわゆるジャーナリストもどきっていうかさ、ジャーナリストを気取ったような文章で書いてみることで本が売れるんだったらいいけどさ。無理じゃん、そんなの。時代は変わってきてるんだから。

吉田　『泣き虫』も、スポーツノンフィクション的な切り口でプロレスを語る以上、タブーには触れざるを得ないですよね。

山口　キチンとさらけ出さないとダメじゃない？　っていうことを本部長は言いたいんじゃないの。オレはハメられただけだから、わかんないけど（笑）。本を読んだ人はわかると思うけど、『泣き虫』は暴露本でもなんでもないよ。プロレスの根幹の部分に触れざるを得ないっていうか、ギリギリの部分で金子さんと高田がせめぎ合って作った本なんでしょ。それを引き出すのも大変だろうし、高田も喋るのに勇気いったと思うしね。

月刊Y2談

吉田　それによって向井亜紀夫人との間にも「夫婦生活の中でもっとも大きな危機というか、本当に大きな大変な嵐が吹き荒れた」らしいですからね（笑）。

山口　そこで余計なことを蒸し返すなよ（笑）。とにかく、これぐらいでプロレスのビジネスが落ちるというのであれば、プロレスはそこまでのジャンルだったってことでしょ。小川や橋本が『泣き虫』すらもネタにして噛みついて、榊原代表すらもいじくっていく。そんなエネルギーがいまプロレス界に必要なんじゃないかって気がするけどね。

吉田　同じように、このぐらいのことで夫婦生活に終わりが訪れるのであれば、そこまでの関係だったってことですか？

山口　子供もできたし、そっちの問題はもう大丈夫だと思うけどね。家庭内がそれだけゴタゴタしてて、マット界もゴタゴタしてて、プロレスマスコミにはバッシングされて、高田本部長も大変だよ（笑）。新日本も怒ってるんでしょ？

吉田　ただ、新日本側としては何かコメントすることによって『泣き虫』の宣伝になるから静観するつもりみたいですけど。

山口　じゃあ、ずっと無視してればいいんじゃない。勝手にすれば。

吉田　批判するしてもどこがどう問題なのかについて触れないといけないから、『泣き虫』はマスコミも扱いづらいんでしょうね。『ハッスル1』の会見で、小川が「泣き虫呼んでこい！」って叫んでも、「高田を呼べ」としか書いてない媒体もあったし。

山口　『泣き虫』って書いたら宣伝になるからダメなのか。大変だなあ（笑）。

吉田　新間さんも、よく聞いたら「猪木vsアリが退屈極まりないだと！」とか金子さんの地の文や、高田道場スーパーバイザー・坂口（考人）さんの「プロレスがAVだったら『PRIDE』は裏ビデオ」という表現に怒ってるんですよ（笑）。

山口　たしかに、坂口さんの表現はちょっと下品だね（笑）。

吉田　そもそも、違いはボカシだけなのかって話ですよ！　それなら「プロレスは擬似本番が横行する昔のピンク映画」とか言わないと（笑）。

山口　その例えで言えば、前バリしてようが擬似本番であろうが見てる人を興奮させることはできるわけでしょ？　それを「ピンク映画は前バリしてます」って言われたからって怒るのも、ちょっと次元が低いような気がするんだよなあ。そんなの、役者が自分たちに演技力がないって言ってるようなものじゃん。いまの映画のDVDには特典でメイキング映像が付いてるけど、エキストラが200人しかいないのにホントは2万人に見せてたりとか、舞台裏を見せてるじゃない。それで作品の幻想が壊れるような作品だったら、それまでなんだよ。

吉田　ボクも『アイ・アム・サム』のDVDを見て、健気な演技で泣かせた子役がただの生意気なガキだったってメイキングでわかったときはショックでしたけど、それも込みで楽しめるかどうかってことですよね。

山口　そういうこと。だからプロレスはリアルファイトではないけれども、作品としてどれだけキッチリしてるかっていう方向を目指さないと突破口は見出せないよ。

吉田　そのモデルケースが『ハッスル1』ってことなんですか？

山口　実験の場としては面白いんじゃない。どうなるかはわからないけどさ。

吉田　その『ハッスル1』ですけど、旗揚げ前からプロレス全誌に反発を喰らってますよね。「1・4は新日本の日と決まってるのに、あえてぶつけるのはおかしい」って論調で。

山口　なんだよ、その新日本の日って（笑）。

吉田　興行戦争がよくないって言うんだったら、大晦日の猪木さんも叩けよって話ですよね（笑）。大晦日だって、三つ巴の格闘技戦争になったことで一般誌レベルではすごい反響になってるわけだし。

専門誌の批判は“プロレスは共有財産”という思いがあると思うんですよ［吉田］

山口　そういうスキャンダラスなことを無視してビジネスが上がるんだったらそれでいいけど、それを飲みこむぐらいのパワーがないから格闘技に押されてる現状があるでしょ？　大晦日の格闘技戦争にしても、昔はプロレスがやってたことだもんね。

吉田　昔は同日興行が珍しいから「興行戦争」とか騒がれたけど、いま普通になってるし。

山口　だけど、大晦日と1・4はそれが珍しく際立ってるんだから、相乗効果で盛り上がればいいと思うけどな。新日本が上で他の団体が下みたいな態度をマスコミも含めてとってるから、いつまで経っても業界が浮上しないんだよ。オーちゃんも『ハッスル1』の会見で「『PRIDE』が上、プロレスが下という態度に対しては正直、快く思ってなかった」って言ってたけどさ。

吉田　新日本はホーガンも来日中止になったし、いいカードも揃えられなかったしで、そんなときに興行をぶつけられたら怒りたくもなるのはわかりますけど。

山口　結局、所属選手全員参加の査定マッチはやるの？

吉田　ボクが上井さんに「リストラマッチみたいな言われ方してますね」って聞いたら、「その言い方は止めてほしい」って言ってたんですけど、記者会見ではドラゴンが「自らをリストラしたい」「僕がリストラ第1号！」って断言してましたね（笑）。

山口　ガハハハ！　新日本は今回、マスカラスと藤波社長と三沢社長のトリオを実現させようとしてたんでしょ？

吉田　かつてのマスカラス＆鶴田＆藤波組を再現して、プロレス・オールスター戦みたいなビッグマッチをやっていこうと考えてるみたいですね。

新間氏、ジャンヌが大暴れ!!

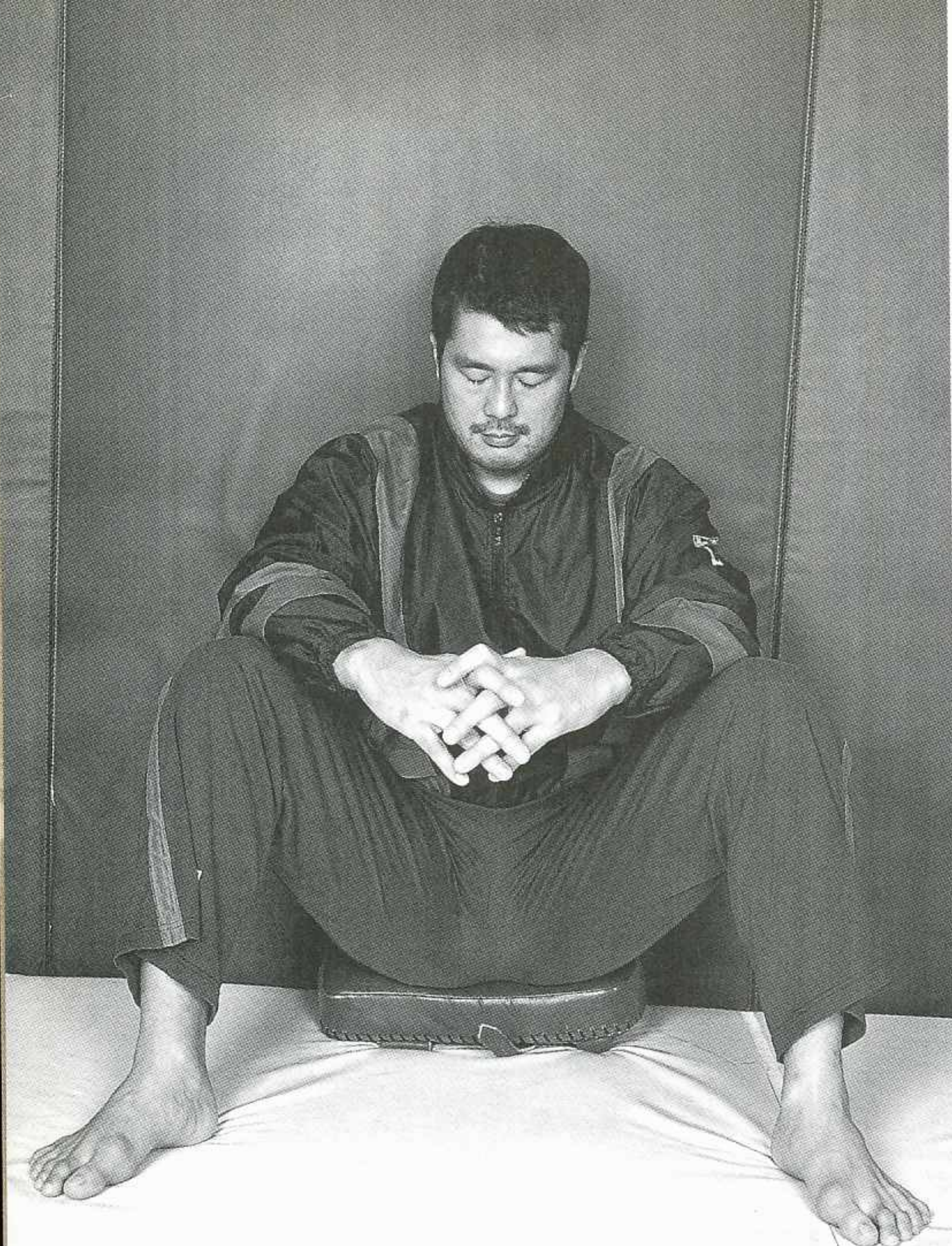
『泣き虫』狂騒曲

金子達仁「ボクと高田さんの覚悟の本だと思ってます」

11月23日、神田・三省堂書店にて、高田、著者の金子氏が出版記念サイン会を開催。その席上で、出版をきっかけに“夫婦生活最大の嵐”が吹き荒れたことを高田が告白。金子氏は“覚悟の本”を位置づけた。乱入が噂された新間氏は姿を見せず。

ヤスカクが大絶賛！“ジャンヌ・ダルク”とは何か？

業界騒然、暴露本か否か、それが問題だ
週刊プロレス 2003 12/11 No.1179 BASEBALL MAGAZINE SHA
高田延彦に問う！
プロレスを、なぜ愛せない!?

「週プロ」12／11号によると、新日本の女性社員が、『泣き虫』抗議嘆願書を上層部に提出。サイン会に「選手、社員総出の来店」での「徹底抗戦」を企画していた！　ヤスカクはその女性を“ジャンヌ・ダルク”と絶賛。みんなも“ジャンヌ”と呼ぶように！

山口　だけど、プロレスに夢があった時代を呼び戻すということが、昔へのオマージュであったりパロディーをやることでいいの？　って思うけど。新日本の11・3の横浜アリーナを見てもわかるけど、いまプロレスを現場に行ってまで熱心に見てる人や、つぶさに追って見てる人っていうのは後楽園を埋めるぐらいのパイの人しかいないんだから、その現状をまず考えなきゃいけないわけだよ。何十年か前のオールスター戦を焼き直して誰が来るの？　って話でしょ。いまのファンも喜ばないし、昔のファンも喜ばないもん。

吉田　団体交流がなかった時代と、違いはハッキリしてますからね。

山口　あのときはできなかったことをやったから面白かったわけだからさ。

吉田　そもそも、スター不在なのにオールスターも何もないんですけどね。

山口　その構造をすべてひっくり返して作りたいんだよ、『ハッスル1』は。気が遠くなる話だけどね。勝負論だけでいったら、みんな『PRIDE』や総合格闘技を見たいでしょ、やっぱり。

吉田　『ハッスル1』としては、プロレスの定義付けをイチからしてく方向なんですか？

山口　その実験をした方が、プロレスの可能性は広がると思うけどね。

吉田　でも、『ハッスル1』は絶対に大晦日の方が似合うと思うんですよ。そもそも大晦日にガチンコをやろうっていうこと自体おかしいし、プロレスの方がお祭り感もあるじゃないですか。こないだ実話誌で真樹先生に大晦日格闘技戦争について斬ってもらったんですけど、真樹先生は「お祭りって言っときながら、酒飲めないでリラックスできないようなイベントはよくない！」って言われてました（笑）。

アントン総帥への決別宣言、『泣き虫』出版、双子出産、『ハッスル1』劇場での関西弁など、まさしく"引退してから超パワーアップ"なインパクトを与えた高田。来年もドゥー・ザ・ハッスル!?

山口　ガハハハハ！　大鉈振るったねえ、真樹先生（笑）。

吉田　「家でリラックスしながら酒飲んで、テレビ見てるのが一番いいんだ！」ってことらしいです（笑）。そもそも、最初の『猪木祭り』って本当のお祭りだったじゃないですか。ミレニアムだし、格闘家がプロレスにチャレンジするちょっとしたサプライズな部分があったし、モチ撒いたりとかでお祭り気分をみんなで共有してたのに、すっかり殺伐としたケンカ祭りになっちゃって（笑）。

山口　これはこれで、うまい方向に転がれば面白いんだけどね。プロレスにしても、大晦日に興行戦争をやるだけのパワーを取り戻してほしいよ。

吉田　そろそろ大晦日の話もしてみたいですけど、会長は日テレの『猪木祭り』煽り番組って見ました？

山口　いや、見てない。

吉田　TVクルーがクロアチアまで行っておきながら、ミルコの最新映像がワンシーンもないんですよ。真相は「取材の話は聞いてない」ってことでミルコサイドからNGがあったらしくて、なぜか地元っ子が「ミルコはウチの国の英雄だよ！」とか言ってるコメントだけ流してて（笑）。

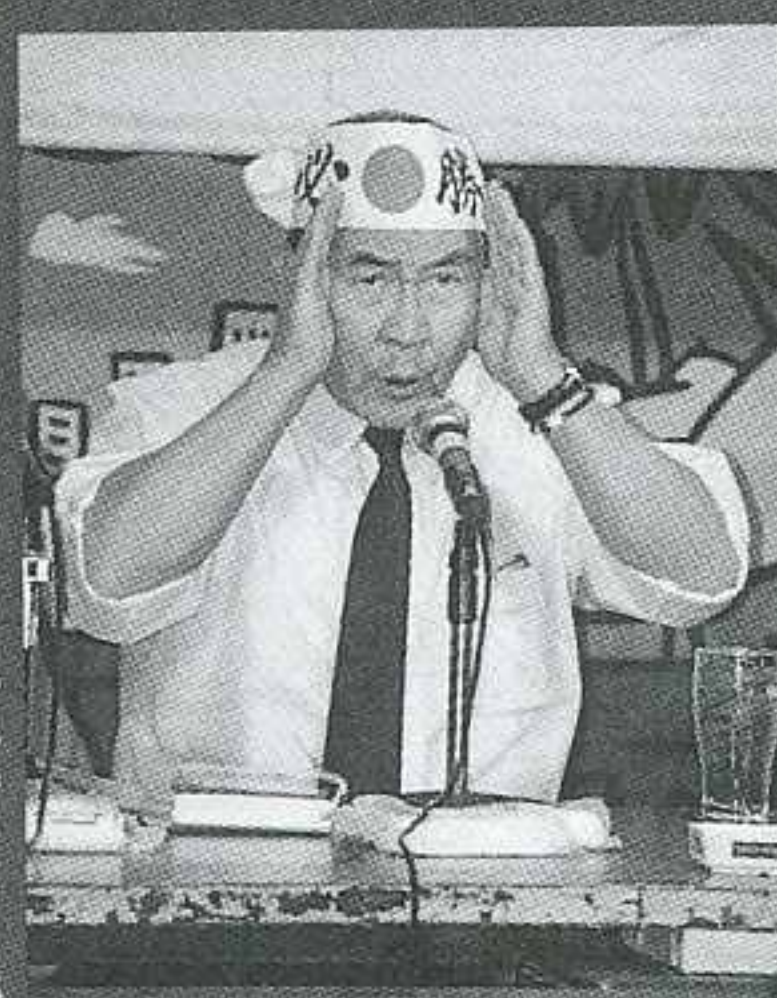
山口　地元クロアチアまで行ってなにやってんだよ（笑）。

吉田　で、一番面白かったのは、会場の説明なんですよね。ほら、神戸ウイングスタジアムはヘンピなところにあるらしいじゃないですか。

山口　ああ、なんだか港のほうにあるんだってね。

吉田　「なんと！　駅からアクセス便利！　そして暖房完備！」とか、そんなことばかりアピールしてるんですよ（笑）。

山口　ガハハハハ！　ラブホテルじゃないんだから（笑）。

「頭にキて夜も眠れない」抗議イベントで新間氏が大爆発!!

12月4日、新宿ロフトプラスワン。必勝ハチマキ姿の新間氏は、高田を「泣き虫！　弱虫！　へっぴり虫！　触るだけも臭い！」と斬り捨て、『泣き虫』に何かしらメッセージを書き込むことを観客に懇願。それを携えて、幻冬舎に乗り込むことを宣言した。

『泣き虫』読んでこい、『泣き虫』！　安田忠夫、上井氏はまだ未読

イベントには安田と上井氏も登場したが、安田は「そんなにヤバイこと書いてあるんですかぁ？」と言う有様。上井氏も「読もうという意欲がわく本じゃない」としながらも、「俺だったら棺桶もまで口をつぐむぞ」と、掟破りの高田に怒り心頭

誌面飾るなってコラァ！　GKは"またぐな"宣言!!

「暴露本では得られないモノを週プロで追求したい。ちゃんこ鍋特集を食らえ！」と、食中毒気味な迷走を繰り広げる『週プロ』に対して、『ゴング』はマスカラスを表紙にプロレスLOVE100%!!　GKは高田に「プロレスに二度と"またぐな！"」と追放宣言

月刊Y²談

吉田　『猪木祭り』は金のかけ方が尋常じゃないですよね。会場の芝生を保護するだけ数千万ぐらいかかっちゃうのに、なおかつ選手を2倍、3倍のギャラで引き抜いてるわけだし。

山口　2倍、3倍どころじゃなくて、ヘタしたら10倍のギャラでオファーされてる選手もいるって聞いてるけどね。

吉田　日テレは、どれぐらい状況を把握してるんですかねえ。ミルコ問題にしてもヒョードル問題にしてもゴールデン・グローリー問題にしても。

山口　まったく把握してないんじゃない？　現実としては榊原代表も会見で言ってたように、ヒョードルと『PRIDE』との独占契約はあるわけ。

吉田　それはロシアン・トップ・チームとしての契約だから、ヒョードル個人は関係はないって言ってますよね。それに、ヒョードルは英語が読めないって（笑）。

山口　いや、1年目はロシア語の契約書にサインしてるらしいから、すっとぼけるのもいい加減にしろって感じだよ。

吉田　ヒョードルは朴訥な田舎者ってイメージだったんですけどねえ。

山口　ヒョードルは現代っ子だよ。パコージンたちは古い体質の義理人情を大事にするような世代で、ジェネレーションギャップが膿として出ちゃったんだろうね。ヒョードルはt.A.T.u.と同じニューロシア人だから（笑）。

吉田　ガラガラで大コケだったt.A.T.u.の東京ドーム2連戦を主催したのは日テレでしたけど、またもや嫌な予感がしますよねえ（笑）。

山口　予感というか、まずヒョードルは出ないでしょ。ビザが間に合わないから日本にすら入れない。『猪木祭り』はビザの準備もしてないんだもん。ミルコもようやく大晦日に出ないってことが明らかになったけどね。

吉田　つくづく『LEGEND』級ですよ（笑）。しかし、『LEGEND』という前例があるのに、なんでみんな騙されちゃうんですかねえ？　日本のファンは、猪木さんがどういう人なのかわかった上で楽しんでるんですけど。

山口　だけど、猪木さんは外国人にはウケがいいんだよ。ヒョードルなんかは「どんな問題が起こっても、すべて猪木さんが処理してくれるはずだ」とかって、猪木さんを完全に信用し切っちゃってるみたい。

吉田　個人的には引き抜き自体は全然いいんですよ。たとえば「ケガを理由にズルズル引き延ばすんであれば、ミルコvsヒョードル戦を『猪木祭り』ですぐに実現させます！」とか言っておけばよかったのに、「代理人が同じになりました」ですからね（笑）。

山口　ミルコの代理人も務めるミロ・ミヤトビッチが、ヒョードルをマネージメントするって言ってるんでしょ？　でも、ミヤトビッチは「ヒョードルに確認したら、『PRIDE』とはグッズ契約しかしてない」とか言う弁護士だよ。そんなの信用できるわけがない（笑）。

格闘技地図を塗り替えんとばかりにハイダッシュしていた『猪木祭り』だが、ヒョードル、シュルトの出場が危ぶまれ、ミルコは欠場を表明!!　いずれにせよ伝説の興行になるのは確実だ！

吉田　とりあえず『紙プロ』のヒョードルグッズは問題ないわけですね（笑）。

山口　最初から問題ねえですよ（笑）。

吉田　しかし、最初から無茶なイベントなんですよね。K-1グランプリの優勝候補だったレコを引っ張って、村上とK-1ルールでやらせるのも、ミルコの相手として高山を選ぶのも意味がわからないし。高山って、誰もやりたがらない試合に手を上げることで名前を上げてきた選手じゃないですか。今回だけはズレてたと思いますよ。

山口　まあ、高山はナチュラルにミルコと闘いたいって思ってたんじゃないの？

吉田　ヒョードルにしても、対戦相手として予定されてたのがTKだし。

山口　いや、リングス時代にヒョードルは額をカットしてTKに負けてるから、リベンジマッチなんだよ（笑）。

吉田　そんな因縁決着なんか誰も望んでないですよ。TKは前に「ボクの上がるリングは、すべてリングスです」って言ってましたけど、新日本でもヒカルド・モラエスと試合したりで、そういう意味なのかよって（笑）。シュルトvsジョシュのパンクラス無差別級選手権にしても、シュルトは『PRIDE』と独占契約してるから消滅しそうなんですよね。

山口　シュルトの件は、要するに『猪木祭り』側の川又さんと榊原代表がうまく話し合えてたうちは、「セーム・シュルト貸しますよ」って話だったんだよ。でも、次々と引き抜き問題が発覚したことで榊原代表が怒って「だったらシュルトを貸さない」ってことになったらしいけどさ。

吉田　猪木さんはノゲイラの引き抜きも匂わせてましたよね。結局、ノゲイラはどっちにも出ないらしいですけど。

山口　ブラジリアン・トップチーム側が川村社長と仲良かったりさ、いろいろ政治的な向き合いの中での判断じゃない。

今年もやっぱり大混乱!!

『猪木祭り』狂騒曲

アントン「ノゲイラはもともと猪木軍！　俺にも挨拶するしね」

11月27日、成田空港で「ノゲイラは猪木軍！」と"引き抜き"を匂わせたアントンだったが、翌日の「パチスロ機」発表会見では、「選手の取り合いで、興行自体の危機になるおそれがある。コミッショナー制度をいまこそ考えるべき」と、"みんな仲良く"を主張

「セフォーじゃなくてレコです！」『猪木祭り』スタッフ大慌て!!

3日、大阪にて、「村上和成vsレイ・セフォー」を記者陣に発表したアントンだが、これは『猪木祭り』関係者の報告ミス。村上の相手はセフォーでなく「ステファン・レコ」の間違いで、会見終了間際に関係者が慌てて訂正に奔走するドタバタ劇が展開！

吉田　一昨年なんか、『LEGEND』と『Dynamite!!』の板挟みに遭ってましたからね（笑）。

山口　ヴァンダレイ・シウバにしても、『猪木祭り』関係者が自宅まで訪れたらしいしさ、水面下でいろいろ綱引きがあったらしいけど。

吉田　どちらも怪我を理由にどこにも参戦しないっていう、クレバーな判断を下したみたいですけどね（笑）。まあ、引き抜きに関しては「『PRIDE』が散々やってきたこと」「自業自得」って声も多いじゃないですか。

山口　リングスから正式に引き抜いたのはアイブルぐらいなんだけどね。

吉田　どうせなら、『猪木祭り』連続出場記録更新中のサスケ社長を『PRIDE』が引き抜けば面白いんでしょうけど、今年のサスケ社長は新宿クラブハイツでプロレスやるみたいなんですよ（笑）。

山口　あ、ついに連続記録が途絶えるんだ、サスケ（笑）。

吉田　『猪木祭り』の連続開催自体も途絶えそうですけど。

山口　不吉なこと言うんじゃないよ、日本テレビは3年契約しちゃったんだから（笑）。『猪木祭り』サイドは元リングスのスタッフを渉外役に雇い入れたりして、『PRIDE』やK-1のように大きなステージにしていこうとはしてるんだよ。

吉田　でも、初期投資でこれだけ散財してたら絶対にペイできるわけないですよね。参戦を決定している選手が仮に全員来たとしても大赤字は確実だし、ましてや日テレの信用がこれだけ落ちてる状態で、発表した選手が出なかった場合の信用の落ち方は考えただけで恐ろしいですよ（笑）。

山口　どっちに転んでも最悪だよなぁ（笑）。ここまでグジャグジャになって、猪木さんは大晦日、神戸に来るのかなぁ……。

吉田　揉めごとが大きくなったら来なさそうですよね。そして1・4の新日本ドームに何事もなかったかのようにいたりするという（笑）。

山口　ガハハハ！　それはそれで面白い！

吉田　そもそも、猪木さんはなんでそんなに大晦日興行戦争でモチベーション上がっちゃったんですかね？

山口　『ハッスル1』に小川直也が出場することが、まずひとつ。猪木さんからすれば「小川直也は俺が作ったようなもんだ」と思ってるからね。プラス、高田本部長による「去る者は追わず」発言じゃない？

吉田　猪木さんは絶対、高田に怒ってますよね。『ジャングル・ファイト』でサルと持ってきたからそう言ったのかな？」とか笑い飛ばしてましたけど、ああやってギャグにするときほど怒ってるはずだし（笑）。

山口　新日本が例年やってきた1・4にDSEがぶつけることにも、怒ってると思うよ。いろんな要素か絡まって「『PRIDE』ブッ潰してやる！」ってモチベーションになってるんだろうね。

吉田　そのせいで、これまでと打って変わって「今回の1・4はチケットが売れてます！」とか突然言い出したし（笑）。

山口　猪木さんは、いままでは新日本を仮想敵にしてきたわけだよね。だけど今度は敵がハッキリしてるんじゃない？

吉田　新日本の選手やフロントも一丸になりやすいですよね。

山口　だからいま『PRIDE』が孤立してるよね、完全に。そういう中で『PRIDE』とZERO-ONEがよく手を組んだと思うし、ZERO-ONEもプロレス界全体にケンカ売ってるよな（笑）。

吉田　『PRIDE』の『男祭り』にしても、決まってるカードはあるんですか？

山口　坂田vsハイアンは決定したね。

吉田　それは当然、解説席に小池栄子が座ることを念頭に置いたカードですよね。

山口　それもあるんじゃない？　どうせなら試合前に坂田と喧嘩でもして、「この人、『PRIDE』に上がるレベルじゃないです！」とか喚いてほしいね、栄子ちゃんには（笑）。ま、田村やノゲイラもそうだけど、動向が噂される選手は「みんな大晦日はどこへ？」でいいんじゃない？　当日になってのお楽しみってことで。

初期投資でこれだけ散財してたらペイできない
参戦予定選手が仮に全員来たとしても大赤字［吉田］

吉田　その戦争の影に隠れて、K-1は我関せずのマイペースでやってますよね。

山口　曙vsサップ戦という大きな柱があるからだろうね。

吉田　引き抜きとかの殺伐とした要素が全然なくて、いい意味で谷川さんカラーになってますよ。

山口　サダハルンバ・カラーだよな。バター・ビーンvs須藤元気はデブ太郎（＝柳沢忠之）マッチメイクだと思うけど。なぜかデブが揃うんだよな、K-1には（笑）。馬場さんは「プロレスは大きなヤツがやらなきゃダメだ」とか言ったけど、みんな自分の身の丈のものにシンパシーを抱くんだよ。

吉田　長州が同じような体格の健介を可愛がったように。

山口　だからK-1にデブが揃うのは、ある意味でデブ太郎のシンパシーだよな（笑）。

吉田　ただ、曙には正直言って試合前から飽きちゃった部分があるんですよね。大相撲協会の映像が使えないから、いまの練習風景とか流さなきゃいけないのはわかるんですけど、その練習風景があまりにも低レベル過ぎて。

山口　ああ、ボタとのスパーリングは酷かったらしいね。

吉田　だって、ジョージ・フォアマン流のクロスガードでボタの打撃を耐えたとか報道されてたけど、いざ見ると打撃が恐くて顔面をかばって、その隙間を狙い打ちにされて血塗れにされてただけだったんですよ。一ヶ月前の段階で打撃があれしかできないんだったら、まったく期待できないな

ヒョードル引き抜きに成功！『猪木祭り』参戦を電撃発表！

5日、『猪木祭り』は、ヒョードルの電撃参戦を発表！　DSE側は、ヒョードルとの独占契約を主張。法的処置も辞さない構えをみせた。ヒョードルの医師は「ここで無理をすれば拳は再起不能になる」と、選手生命に関わる診断結果を告げたという

驚愕！『猪木祭り』参戦はヒョードルの売り込みだった!?

8日、アントン成田会見にミルコの代理人ミロ・ミヤトビッチ氏が同席。ヒョードルと契約を締結したことを明かし、「DSEとの契約問題はない」見解を述べた。ミロ氏によれば、「ヒョードルが〝『猪木祭り』にどうしても出たい〟と言ってきた」という

「俺は触ってねえんです！」ヒョードル問題を〝投げた〟！

16日、アメリカから帰国したアントンは〝ヒョードル問題〟について、「現場の人間が動いてやってることだから、俺に責任を持って来られても困る」と〝投げた〟！　このあと、ミルコが公式HPで『猪木祭り』『欠場』発表。どうなる『猪木祭り』!?

月刊Y^{2}談

って。

山口 だけど、サップもまったく練習してないらしいから、ちょうどいいんじゃないの？

吉田 大晦日興行の目玉がそれなのが、寂しい限りなんですけどね。

山口 K-1サイドは小川直也にもオファーを出したらしいよ。

吉田 もしかして、小川がバルセロナ五輪で負けたハハレイシビリ・ダビドが参戦するのは、小川のために用意されたってことですか？ まあ、そうでもなきゃリングスで使い物にならなかった選手は呼ばないでしょうけど。

山口 まあ、世界のチャンピオンを揃えるってテーマもあったんじゃない？

吉田 なんだか『東宝チャンピオン祭』みたいですね（笑）。

山口 そう！ 誰がゴジラなのかって話だけどさ（笑）。

吉田 K-1のゴジラといえば、佐竹に決まってますよ！

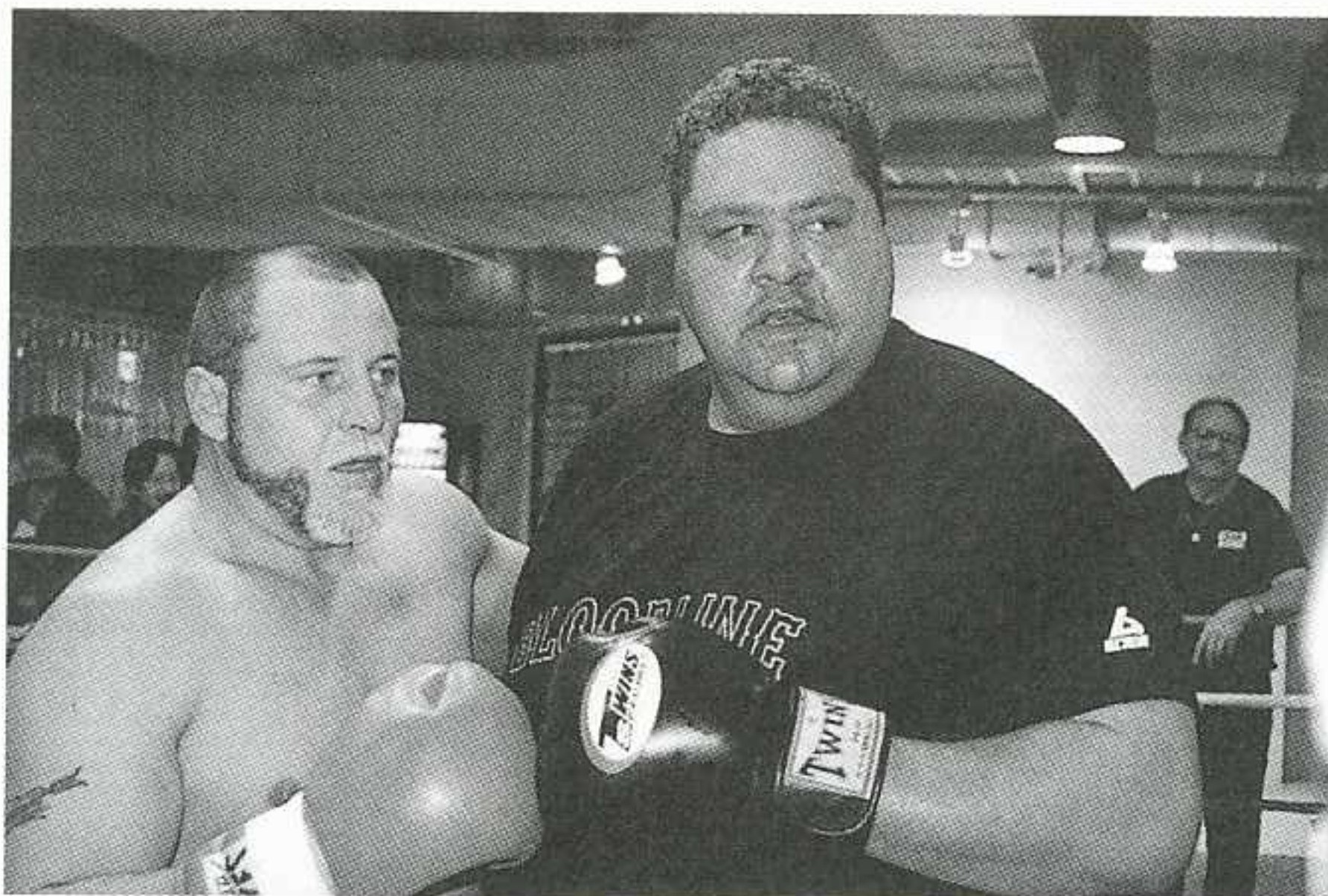
山口 ガハハハ！ 『まっすぐに蹴る！』という自伝でK-1のダークな領域に踏み込んだこのタイミングで、佐竹が出場したらスキャンダラスだよね。

吉田 佐竹本は引用するのもはばかれるぐらいスリリングな内容だし、暴露本なのは『泣き虫』じゃなくて佐竹本なんですよね。「当時から正道会館には『ビギンスポーツ』という、格闘技用具の販売部門がありました。ただビギンスポーツを正道会館がやっていることを公にはしていませんでした。他流派の人たちとはライバル関係でもありますから、正道会館がやっていると分かったら、買いにくくなります」なんてレベルの暴露までしているし（笑）。

山口 表現がすごいもんな……口にするのもねえ（笑）。

吉田 ダハハハ！ 給料がいかに安かったか、そして「たぶん彼のことを好きだと言う後輩は一人もいないと思います。テレビのイメージと違って全然人情家でもなんでもないです」ってぐらい角ちゃんが嫌われていることが、よくわかる本ですよ（笑）。

山口 「最終的に正道会館のときにどれぐらいまで給料が上がったかというと、職員を辞める前の段階で13万円」とも書いてるよ（笑）。いいのか、こんなことまで書いて！

吉田 「ウチにくるならこれだけ出そう」って石井館長が5本の指を出しておいて実際の給料は5万円だったって話とか、疑惑の判定で武蔵に負けさせられて抗議に行くと「俺は大企業の誰々と知り合いなんだ」「芸能事務所の誰々をよく知ってる」とか館長が言い出したって話とか、最高に面白いですけどね（笑）。あと、社長の名前が随所に出てくるのもポイントですよね。

連日の露出により“鮮度”が落ち気味の曙だが、大晦日決戦・最大の目玉であることに変わりはない。打倒・紅白歌合戦の最右翼である。はぁ～、ドスコイ!!

K-1は我関せずのマイペースでやってますね 引き抜きとかの殺伐とした要素が全然なくて［吉田］

山口 『PRIDE』参戦以降ね。いきなりマーク・コールマン戦を用意されて、「この話を持ってきたのがプロレス雑誌『SRS・DX』の発行人だった柳沢忠之さん。僕も初めは『コールマンはちょっと違うんじゃない』という感じで抵抗したのですが『逆に美味しいよ』などと言われてしまった」って書いてたけど、プロレス雑誌って言い方がイヤミだよね（笑）。

吉田 その上、「石井館長が裁判で有罪になったら、もっと面白いことが書けると思います」とまで書いてるし（笑）。それにしても、なんで佐竹はいまのタイミングでこんなことを暴露しようと思ったんですかね？

山口 わからない。でも、佐竹ってそういうとこあるでしょ。昔っからタイミングとかあんまり関係ない人じゃん。ちょっとズレてるっていうかさ（笑）。まあ、高田本にしても佐竹本にしても、質は違うけれども、ある意味プロレス界の膿とかさ、格闘技界、K-1の膿を出してるわけなんでしょ。

吉田 ミスター高橋の第3弾『プロレス聖書』は、膿どころか新ネタですら出てなかったですけどね（笑）。

山口 あ、ミスター高橋がまた書いたの？ 毎年暮れには『猪木祭り』と高橋本は恒例になってきてるね（笑）。

吉田 第1章が小説で、それ以降は最近の格闘技界の流れについて、ミスター高橋が一言コメントしていくような緩い内容で。

山口 出版物ナメてるとしか思えねえな。ミスター高橋はともかく、いまはいろんな膿が出るタイミングなのかね。

吉田 よくも悪くも格闘技バブルの頂点ってことなんでしょうけどね。

山口 でも、ホント膿を出さないと生体は蘇らないから、そういう意味ではいい流れじゃないかなと思うよ。

吉田 あと、高田本と佐竹本の共通点は前田日明のことが非常に良く書かれていることですよ。

山口 前田日明はなんにもしない方が、どんどんいいイメージが広く伝わっていくんだろうなあ（笑）。

吉田 マスコミに出ないことによって、すごい前田幻想が高まってますよ！ 失言がない代わりに、過去のいい思い出だけが噴出してきて（笑）。

山口 前田日明を幻想で語ってるときは、ホントに楽しいもんね。思い出だけ語れば、ホント前田日明っていいよなあ……（しみじみと）。

吉田 「な～にが『泣き虫』や！ 女々しい！」とか「『PRIDE』が『武士道』とかいうイベントを始めたけど、本当の武士道はね……」とか「『お前、男だ！』とか言ってるけど、本当の男とは……」とか、また前田日明に語って欲しいですよ！

山口 あ、いま思い出したけど、前田日明がヒョードル問題について語ってたらしいよ。「あんなこと許していたら、この業界はグジャグジャになってしまう」って。

吉田 前田は、相変わらず引き抜き嫌いなんですね（笑）。

山口 まあ、「ヒョードルは俺が育てたんだから」ってことかもしれないけど（笑）。

吉田 前田日明にしてみれば、ヒョードルvs TKなんか実現した日には、もう鬼の首でも取ったかのようなことを言い出すと思いますよ。

山口 「そんなもん、ウチで何年か前にやっとるやんけ！」とかさ。

吉田 「あのね、『猪木祭り』なんて、リングス神戸大会みたいなもんなんだよ！」って（笑）。

山口 万が一、猪木さんが神戸に来なかったら、『猪木祭り』は前田日明に仕切ってもらおう（笑）。

【03年12月某日／編集部にて収録】

究極のプロレス界&映画界のヒーロー対談

橋本真也×哀川翔

後編

“ヒーロー”の定義を白黒ハッキリつけるぜ!　前号大好評だった橋本真也×哀川翔の“ヒーローとは何か?”対談!後編の今回も抱腹絶倒なエピソードが両雄の口から次々と飛び出す!!　正式に決定した『ゼブラーマン』の『ハッスル1』登場に負けじと、ビッグハッスルな内容でお送りします!

聞き手／中村カタブツ君
構成／松澤チョロ
撮影／吉場正和
designed by matsu (Two Three)

公開前から話題沸騰!「白黒つけるぜ!!」

『ゼブラーマン』1・4『ハッスル1』参戦決定!!

橋本　そういえば、今度、勝っちゃん（勝俣州和）の結婚式でも一緒になりますね（笑）。

哀川　そうだよね。結婚式って言えばさぁ、前に三沢さん、天龍さんと一緒になったことがあったんだよね。

橋本　ダハハハハ！　それは荒れたでしょ？（笑）。

哀川　荒れたっていうかさぁ、レスラーっていうのは凄いこと言うよね。両親の前でヒドいんだよ（笑）。

橋本　要するに暴露大会になっちゃうんですよ。「前ヤッた女が来てる」とか。だから、可哀相だなぁって（笑）。

哀川　そうそうそう。その時もそんな感じで、隣りにいた柳葉（敏郎）が「なんて事言うんだ」って睨んだら、それを天龍さんがまともカッと受けちゃってさ。柳葉は固まったまま、「ちょっと翔ちゃん、天龍が見てるからなんとかしてよ」って、俺に振るんだよォ！

橋本　ダハハハハ！　レスラーの結婚式はメチャクチャになるから。だけど、レスラー同士はそれが分かってるからいいんだけど、一般の人が巻き込まれるのが可哀相なんですよ。親が一番可哀相なんだよ、嫁さんの親が（笑）。

哀川　それは何、そういうルールなの？

橋本　やっぱり、レスラーは普通であっちゃいけないっていうか、それで別れるようならそれまでだったという、めでたい門出の日に（笑）。

哀川　凄い試練だね（笑）。

橋本　壊そうと思って言ってるわけじゃない。それぐらいの器量を持ってほしいという、奥深い話なんですよ（笑）。

――ヒーローは常に試練に耐えないといけないというか。実際、いま橋本さんもケガだらけですけど、リングに上がってますからね。

橋本　この前の足折っちゃったんですけど、そのまま試合（川田戦）して。

哀川　折れたまま試合したの？

橋本　試合組まれてますから、仕方ないんですよ。でも、踏ん張りが効かないんで、ケサ切りチョップを、手だけで手打ちしたら、延髄切りみたいな蹴りとガ～ンとぶつかってちゃって、その瞬間にボンって肩が外れて、筋も切れちゃって。今までで一番痛かった。

哀川　うわぁ！

橋本　小便もらしそうになったもん、痛くて。

哀川　う～ん……。要は、やんなくちゃいけないっていう使命感なんだろうね。

橋本　いや、そんな格好いいもんじゃないですよ。ウチの団体に、葛西（純）っていうのがいるんですけど、あれも蛍光灯とかバラ線とかで身体中傷だらけなんですよ。俺とすれば、そんなプロレスは邪道なんだけど、いざ「やってください」って言われたら、「やるかよ」って話でしょ？　だけど、あいつらはおかしいんですよ。俺たちに格闘技の技でドンっとやられるより、画鋲の方がいいっていうんですよ。

哀川　まだ画鋲の方がいいんだ（笑）。それ、どうなんだろうね？

橋本　大仁田なんかもそうやな。

――自分を生かす道というか、自分をヒーローにする道を分かっているんでしょうね。

橋本　いや、M男でしょ（キッパリ）。

哀川　M男なの（笑）。

橋本　だって、俺、S男だもん。翔さんもSですか？（あっさりと）。

哀川　い、いやぁ、俺は分からないなぁ（笑）。

橋本　Sでしょ？

哀川　う～ん、まあ、関節技掛けられた時

レスラーっていうのは結婚式で凄いこと言うよね。両親の前でヒドいんだよ（笑）。

橋本真也×哀川翔

暴露大会になっちゃうんですよ、「前ヤッた女が来てる」とか。可哀相だなぁって（笑）。

も、俺も柔道やってたから、これ以上やったら折れるなっていうのは分かるかるんだよね。でも、絶対、ギブアップしないんだよね。なんで、ギブアップしないのかなっていうと、まあ、折れるまではいいだろうと（笑）。

橋本 M男ですか？

哀川 いや、M男じゃないけどさ（笑）。ま、ちょっと角度を変えれば大丈夫なのは分かるから。一世風靡時代も勝俣とかがキーロックを掛けてくるんだけど、アイツもプロレスファンだからポイントを心得てて、「ヤバい」って思ったんだよ。でも、そうなったら、俺も猪木vsアンドレ戦見てるからさ（笑）。思い切り、持ち上げて床に叩きつけてやったら、勝俣は、「何すんだよ！」って泣きながら怒るんだよね（笑）。

橋本 ダハハハハ！ やっぱり、意地なんですよね（笑）。

哀川 意地っつうか、「何すんだよ！」っての俺の方だってことで（笑）。

橋本 いやでも、さっきも顔面20針ぐらい縫ってるって言ってたじゃないですか。だから、踏み込んだ人生を送ってるんですよね。

哀川 いや、自分らはちょっと特殊なんだけど（笑）。

――でも、翔さんも両足捻挫したまま舞台に出続けたことがあったんですよね。

哀川 あの時は痛み止めの注射だけ打ってもらってとりあえず。なんか気分的なものなんだよね。

橋本 いや、それは俺らと一緒ですよ。やっぱり、お客さんが待っててくれるんだから、自分の状態なんか考えてられないんですよ。

哀川 それだけじゃないんだけどね、自分らの場合は。つうのも酔っぱらって朝起きたらベッドが血だらけなんだよ（笑）。

橋本 え！ 喧嘩ッスか！

哀川 それが違うんだよ。要は酔っぱらって家の中にあった水槽を蹴ったんだよね。それで足の裏をパックリ切ってて、自分でタオル巻いたまま寝てるんだよ（笑）。でも、もう血も止まってるし、大したことないだろうと思ったけど、医者行ったら縫われちゃったもんね。

橋本 医者はすぐに縫いやがるんですよォ！

哀川 そうそうそう、バンってまた傷口を開くんだよォ！ せっかく止まってるのに、やることないじゃない？ だから、俺はもう子供が血を流して救急車来ても、「今、血はどうなんだ？」「止まってる」「じゃあ、医者に行かなくていい」って言うんだよね。

橋本 俺も肩やった時は意地でも医者行くかって思ったもんな（笑）。

――結局、ヒーローは病院嫌いってことなんですかね（笑）。

哀川 つうわけでもないけどさ（笑）。でも、ヒーローものの主人公って正体を隠すじゃない？ あれも耐えるってことの一つだと思うんだよね。

橋本 耐えてる！ それで最後の最後に一番大事な人にだけ正体がわかるんだよ。俺はあの場面が大好き大好きでたまらん！

哀川 そこだよね（笑）。

――だから、お二人ともそういうことをプライベートでやってるんですよね、実は。

1・4『ハッスル1』に参戦決定！ 果たして、その正体は……

例えば、橋本さんは火事の時とか。

橋本　あれか（笑）。北海道に巡業に行った時にカニを食いに行ったら、隣りのマンションから火が出てたんで思わず、俺、中に飛び込んで行ってお婆ちゃんを助けだしてきたんですよ。でも、名乗るのが恥ずかしいから、そのあと隠れちゃった（笑）。

哀川　名乗らなかったんだ（笑）。俺も昔、新幹線に乗ってる時に頭のおかしなヤツが車掌室に籠もって電車止めちゃって、車掌が「誰か手助けしてください」って来たから、「じゃあ、俺が行くわ」って行ったんだよね。マネージャーは止めたんだけど（笑）。（『映画秘宝』との共同取材のため、この話は『映画秘宝』1月号に詳しく載っているので一部省略）

橋本　でも、そいつ、電車止めるようなおかしなヤツでしょ？　なんか持ってたらどうするんですか？

哀川　それは俺も考えたんだけど、皮のコートをバッと羽織ってベルトをグッと締めて、「よっしゃ！」って感じで（笑）。で、結局、取り押さえたんだけど、俺も名乗らなかったよね。

橋本　やっぱり言わなかったですか（笑）。

哀川　つうかさ、俺は早く帰りたかったんだよね（笑）。

橋本真也×哀川翔

橋本　俺もゆっくりカニを食いたかった（笑）。

哀川　だから、結局、何かが背中を押すんだよね。火の中に飛び込んでいくのと一緒で、そういう場面の時に、やるか、やらないか。誰もやらないなら、「じゃあ、俺が」っていうさ。それがヒーローかどうかは分からないけどね。というかさ、俺らは鉄砲玉でしょ。確実に命を落とすタイプだよね（笑）。

橋本　ダハハハ！　そうですね。それはあるな（笑）。

――でも、ヒーローだと思いますよ。みんなそんな男の出現を待ち望んでいて、ゼブラーマンのレスラー化の話も、ヒーローの具現化ってところから来てると思うんですよ。

橋本　だから、俺は『ゼブラーマン2』に出たいって言ってるんだよ！

――橋本さん、さっきからそればっかじゃないですか（笑）。興行のことをもっと考えてくださいよ、お願いですから。

橋本　（無視して）翔さん、次の作品でなんかないですか？

哀川　まあ、いま、『デコトラの鷲（しゅう）』っていうトラック野郎みたいな作品も撮り終わっちゃったからね。

橋本　格好いいッスねぇ、トラック野郎大好きですよ！

――そういえば、橋本さんは前にデコトラで入場したいって言ってましたよね。

橋本　オオ、そうやな！　だったら、お台場の野外ステージとかでやりたいな！

――いやぁ、『W―0』（＝『ハッスル1』）とかは……。

橋本　（またも無視して）お台場にデコトラ軍団をブワッて呼んで、最初は電気消して、俺が出てきたら一気に電飾付けてもらうんや！　それ格好いいと思うぞォ！

哀川　それ、いいよね。実はさ、『デコトラの鷲』のファーストカットもそんな感じだからね。もう、遊園地よ（笑）。

橋本　遊園地ッスか！　やっぱり、格好いい！　是非、俺を出してください、それに！

哀川　これから第二弾を3月に撮るんだけど、やる？（笑）。

橋本　是非、出してください!!

哀川　『デコトラの鷲』のプロデューサーは、『トラック野郎一番星』のグループだから、プロレスに使うのも話をすれば可能だと思うよ。

橋本　そうですか！　ゼブラーマンが出て来て、俺がデコトラで入場してきたら、これは盛り上がるだろう（笑）。よぉし、面白くなってきたぞ！　ダハハハハ！

【10月21日／文京区『あんぱらんす寿司』にて収録】

ZERO-ONE12月＆1月大会スケジュール

【REBEL Z】

■2003年12月25日（木）
東京・後楽園ホール　試合開始18:30
後楽園ホール大会3DAYS

●小川直也vs横井宏考
●橋本真也&佐々木義人vs大森隆男&“X”
●大谷晋二郎vsマンモス佐々木
●田中将斗vs藤井克久
●【アジアタッグ王座決定戦】
テングカイザー&葛西純vs黒田哲広&ミスター雁之助
●【NWAライトタッグ王座決定トーナメント準決勝】
高岩竜一&星川尚浩vs石井智宏&宇和野貴史
●【NWAライトタッグ王座決定トーナメント準決勝】
ディック東郷&日高郁人vs怨霊&GOEMON
●藤原喜明vsドン荒川

■2003年12月26日（金）
東京・後楽園ホール　試合開始18:30

●大谷晋二郎vs大森隆男
●田中将斗vs小笠原和彦
●橋本真也&小林昭男vs佐藤耕平&横井宏考
●黒田哲広&ミスター雁之助vsアレクサンダー大塚&臼田勝美
●【NWAライトタッグ王座決定戦】
（25日の勝者チームによる決定戦）
※小川直也選手参戦

【ゼロ中祭りIV】

■2004年1月9日（金）
東京・後楽園ホール　試合開始18:30

【参加選手】
橋本真也/大谷晋二郎/田中将斗/大森隆男/佐藤耕平/横井宏考/藤原喜明/テングカイザー/高岩竜一/星川尚浩/坂田亘/佐々木義人/日高郁人/ディック東郷/葛西純/黒毛和牛太/黒田哲広/ミスター雁之助/下田大作/山笠Z”信介/高橋冬樹/ヴァンサック・アシッド/明石鯛我/浪口修/富豪^{2}夢路/ドン荒川/小笠原和彦/小林昭男/アレクサンダー大塚/原学/崔リョウジ/クロウカイザー

※以上32選手の中から当日カード発表。場合によっては上記以外、他団体の選手が参戦することもある。6～7試合を予定。
当日はビンゴ大会が行われる。商品総額???万円。超豪華プレミアム景品もあり!

【Renovation】

■2004年1月17日（土）
愛知・豊橋市総合体育館　試合開始18:30
■2004年1月18日（日）
兵庫・明石市産業交流センター　試合開始17:00
■2004年1月19日（月）
香川・高松市総合体育館サブアリーナ　試合開始19:00
■2004年1月20日（火）
岡山・岡山卸センターオレンジホール　試合開始19:00
■2004年1月22日（木）
山口・周南市総合スポーツセンター　試合開始19:00
■2004年1月23日（金）
広島・広島グリーンアリーナ小アリーナ　試合開始18:30
■2004年1月24日（土）
島根・島根くにびきメッセ　試合開始18:30
■2004年1月25日（日）
福岡・博多スターレーン　試合開始16:00

【01★U$A】

■2004年1月30日（金）
大阪・大阪府立体育会館第2競技場　試合開始18:30
■2004年1月31日（土）
東京・ディファ有明　試合開始18:00

【『01 USA』参戦予定選手／NWA&W-1 vs UPW vs 01 vs ???】

■NWA&World-1
・Steve Corino（MLW World Champion）・Samoa Joe（ROH Champion）・Prince Nana・Matt Striker・AJ Styles・Lowki・Buffy&Mace（Christopher Street Connection）・Jonny Storm・CW Anderson・David Young・Joey Matthews・Simon Diamond・JohnWalters・Devon Storm・Sonny Siaki・Josh Daniels・CM Punk・Duane Gill（former WWF Gillberg）・Frankie Kazarian・Mike Sanders・Shane Douglas・SAT・Homicide・Jason the Legend

■OTHERS
・ハシフカーン・SHISHI OH・Masa Tanaka・Mr.Ohtani・Pika Chu・サル ザ マン・バンビー・富豪^{2}亀路・DonaDona・獅龍

■UPW軍選抜
■プロレスリングZERO-ONE選抜

※1月30日、31日とも7～8試合を予定。上記選手は現在交渉中の選手をリストアップ。決定は1月初旬。

★お問い合わせ/ZERO-ONE　03-5730-3401

“芸能界伝説の猛者”が妖刀の凄みを語る!!

「それでもミルコは強いんです!!」

オマエは一体、何者だ!?

聞き手／ジャン斉藤

designed by Bun-chan（Two three）

「ミルコ大好きっ!! ファイトスタイルは私の理想型です！」

【おおき・ぼんど】芸能界歴28年。東宝アカデミー・東映演技研修所でメロドラマの主役を目指すが、鏡を見て無理と悟り司会業へ進む。特技はものまね（日本昔話、コロンボ、滝口純平）、空手（黒帯。流派は秘密）、ヤクルトの古田敦也とは従兄弟。今回は〝格闘技好き〟としてご出馬頂いたが、見てみぃ後ろの看板！狙ったわけでもないのにメガネドラッグのイメージキャラクターと、絶妙なメガネコラボも実現。2003年最大のゴッドアングルである。

大木凡人 BONDO OKI

世間的には〝司会の達人〟と知られているが、じつは〝空手の達人〟だったりして、顔立ちとは裏腹な一面を持っていたりする大木凡人。先々月に、ミルコvsヒョードルの予想企画として、「打撃とは何か？」をテーマにインタビューを試みたが、ヒョードルの負傷により試合は消滅、予想企画もお流れに！　このままお蔵入りも危惧されたが、凡ちゃんときたらミルコを「大好き！」と絶賛して止まず、ミルコが大晦日に再起を懸ける（のか？）いまだからこそ掲載すべきと判断！　全国のミルコマニアよ、いまこそ凡ちゃんの言葉に耳を傾けろ！　そして凡ちゃんの猛者振りに驚け！

――今日は、空手の達人といわれる大木凡人さんに「打撃とは何か？」について伺いにきました！

凡人　（慌てて）た、達人？　いやいや、達人なんてとんでもない！

――え？　凡人さんは空手の黒帯って聞いてますよ。

凡人　……まあ、空手をやっていたのは事実ですけどね。

――180センチの巨体だから、一部では凡人さんが〝芸能界最強〟って声も挙がってますけど。

凡人　（再び慌てて）ボクが一番強いなんてウソですよ！

――あ、違いますか（笑）。

凡人　……違いますかって、もちろん違いますよ。だって芸能界には、赤井秀和とか渡嘉敷（勝男）さんとかのボクシングの経験者や、お相撲さんだっているんですからね。

――でも、凡人さんだって空手をやられていたわけですよね。

凡人　（即座に）いまはやってないですよ！　それにやってたのは昔ですよ、昔。それも遠〜い、む・か・し!!

今日は〝格闘技好きの大木凡人〟としてお話させてくださいよ。ね！

――わかりました（笑）。で、〝格闘技好き〟って言うからには、もちろんチェックは欠かさないんですか？

凡人　（身を乗り出して）見ますよ、そりゃあ。見ます見ます見ます！

――お、ノってきましたねえ（笑）。

凡人　『PRIDE』、K-1、ボクシング。それから極真や大相撲まで見てますよ。

――ほとんど見てるじゃないですか！

凡人　うん。好きなんですよ、格闘技。小さいころもケンカばっかやってたしね。俺、ガキ大将でしたから。

――凡人さんはガキ大将だったんですか（笑）。

凡人　昔からケンカばっかやってましたよ。だから頭なんか傷だらけでね。（頭を指差しながら）ここは石でガツンと殴られたでしょ。

――それは危ないですねえ。

凡人　ここは包丁で斬られたでしょ。

――ほ、包丁！

凡人　そしてここはノコギリか。グアー！ってやられたんだよなあ。

――ノ、ノコギリ！　それ、子供のケンカじゃないですよ（笑）。

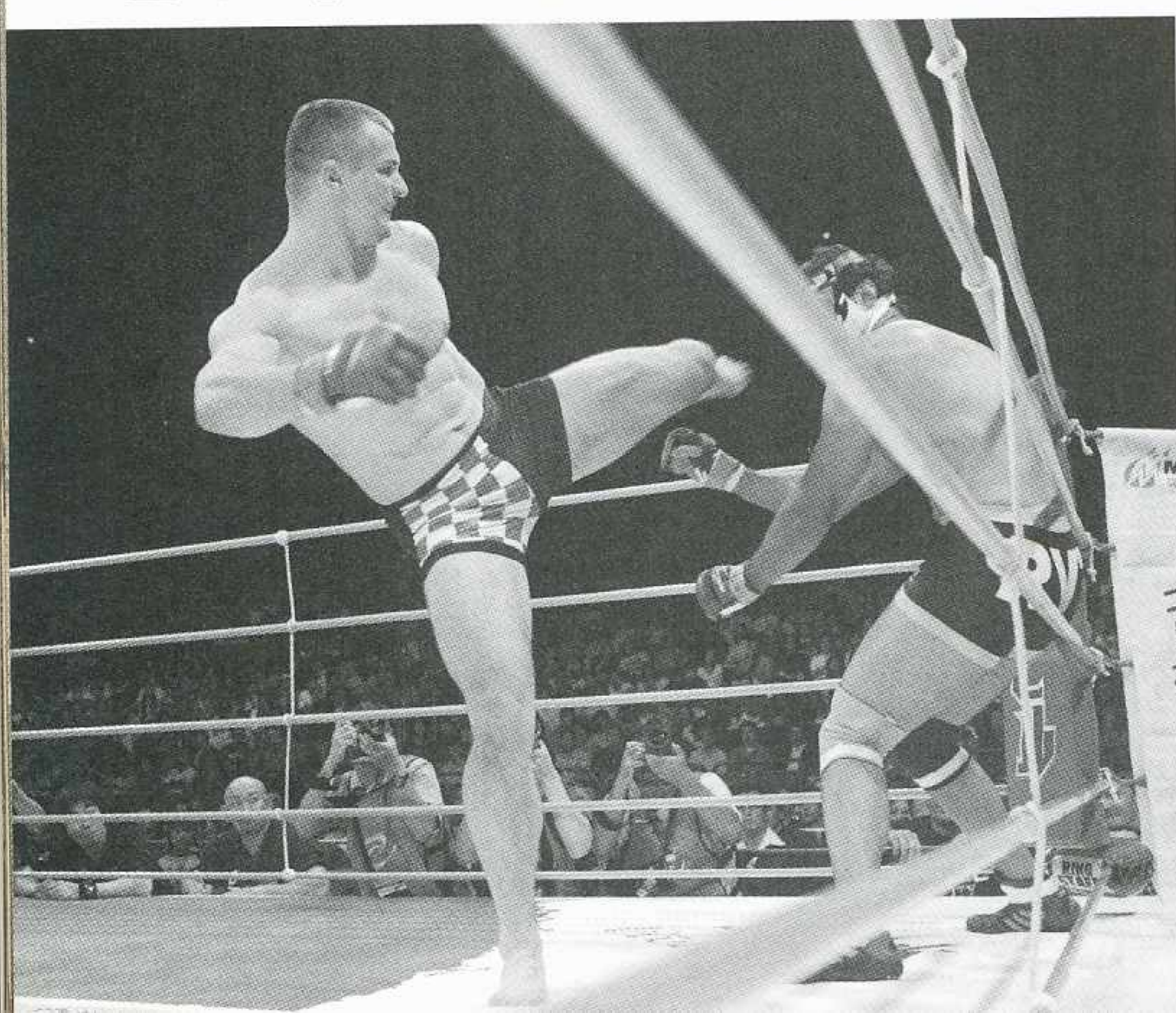
凡人　まあ、〝大人〟になる前のことですから（ニヤリ）。そんなわけで頭はほとんどヤられてるから、至るところ傷だらけでハゲになってるんですよ。

――ロングヘアーなのは、ケンカの傷を隠す理由もあったんですね（笑）。

凡人　頭だけじゃないよ。手にはナ

イフを掴んだ傷もあるんですよ（右手を見せながら）。
―そんな修羅場も踏んでますか！
凡人　うん。相手がナイフを突き出してきたから、とっさに掴んじゃったんだよね。バカでしょ？（笑）。
―いや、ボクならすぐさま降参するか、間違いなく逃げだしますよ！
凡人　俺はすかさず裏拳を入れましたよ（淡々と）。
―裏拳で逆襲！　カッコイイ!!
凡人　とお～い昔の話ですよ（笑）。いまは平和主義者。そもそも、ボクは自分からケンカを売ったことはないんです。自分からケンカ売る馬鹿いないですからね。ボクはいつもひょうきんに騒いでますから、ナメられるんでしょうねえ。
―やっぱり『街角テレビ』や「以上です、編集長！」の締めセリフでおなじみだった『先読み編集局』の印象があるんでしょうけど（笑）。つまり、大木さんは仕方なく拳を握っていたわけですね！
凡人　そう。ボクは絡まれたら、最初は「勘弁してください！」って謝るんですよ。それでもかかってきたらヤるしかない。謝る人間に手を出すなんて許せないですからね。
―仁義を欠いたら許さない、と。
凡人　ボクはキレちゃうとダメなんですよね。道具とかも使いますから（キッパリ）。
―道具で叩きのめしますか！
凡人　その場にあるモノ全部使いますね。でも、さっきも言ったけど、相手が手を出してこないとヤらない平和主義者だから。ビール瓶や一升瓶を使って「ヤるのか!?」ってかんじで制止するだけですよ。
―要は、抑止力効果として使用するわけですか（笑）。
凡人　アイスピックとかも使ったことあるね（サラリと）。もちろん刺したことはありませんけど。
―そ、そうですか（笑）。ちなみに、ケンカで相手にした最高人数は？
凡人　最高は5人かなあ。
―5人！　それは、どういう局面だったんですか？
凡人　昔、新宿のスナックで女の子と踊っていたら、チンピラが女の子にちょっかい出してきたんですよ。
―ハードボイルド映画のワンシーンみたいですね（笑）。
凡人　それで、ボクは「もうやめてください」って何度も謝ってるのに、チンピラがあまりにもしつこいから「表に出ろ！」って怒鳴ったんですよ。女の子も泣いてたからね。
―ボンドガールを守るために立ち上がったわけですか（笑）。
凡人　そうなりますねえ（笑）。で、カウンターの人中で全員倒しましたよ。
―人中！　鼻と口の間の急所のことですね。
凡人　うん。ボクが相手を倒すときは、人中一発で倒すことが多いんですよ。一番効くのはカウンターの人中だと思いますしね。
―凡人さんの必殺技は人中でしたか（笑）。しかし、それだけ修羅場をくぐっていたら、芸能人や格闘家と絡んだこともあるんですよね？
凡人　それは当然ありま……あ！いま思い出したけど、浅草キッドがボクのことをTVで言ってたんでしょ？　強いとかどうとか？
―『虎ノ門』の芸能界最強討論で凡人さんの話題を出してました。かつて（グレート）小鹿社長との極道コンビで活躍した大熊（元司）さんと、凡人さんがケンカになっ……。
凡人　（遮って）ボクが大熊さんを倒したなんてこと言ってたでしょ？あれは違うよ。大熊さんとは寿司屋で揉めたんだけど、大熊さんがしつこく酒を「飲め！飲め！」言うもんだから、「いい加減にしろ！」って断ったんです。そしたら大熊さんが「何だあ？」って立ち上がったきたから、仕方なく大熊さんの鎖骨に手刀をパーンと入れたんですよ。
―大熊さんに手刀を入れましたか！（笑）。
凡人　うん。鎖骨って鍛えられないでしょ？　そんなところに手刀を入れたから、大熊さん怒っちゃってね。ボクの胸にドーンと水平打ちを思い切り打ってきたんですよ。
―うわ～！　凡人さん、大丈夫だったんですか!?
凡人　うん。一瞬「ウッ！」と息が詰まったけど、ボクも鍛えてたからね。大熊さんに勝てるわけないから逃げ回りましたけど（笑）。
―しかし、凡人さんはプロレスラーに一撃を喰らわすぐらいの度胸があるんですねえ。しかも急所に（笑）。
凡人　いやいや、ボクが勝ったんじゃない。逃げたんだから（笑）。
―そもそも、大熊さんとはどういうきっかけで知り合われたんですか？
凡人　その寿司屋が一階にあるマンションの6階にボクが住んでいたんだけど、7階に小鹿さんが住んでいたんです。それで小鹿さんと知り合って、大熊さんを紹介してもらったんですけど。いまでも小鹿さんから大日本プロレスのチケットが送られてくるんですよ。横浜アリーナに観に行ったけど、あれは凄かったね！
―横浜アリーナの大会というと、小鹿さんがマスカラスとタッグ結成したときのビックマッチですね。
凡人　デスマッチも凄かったじゃない！　画鋲やら蛍光灯やら、も～うお腹いっぱいでしたね（笑）。
―大日本が全力を尽くした大会でしたからね（笑）。
凡人　あと武藤（敬司）選手、坂口（ビッグ・サカ）さんとも知り合いなんですけど。よく考えると、プロレスラーとか格闘家の知り合いって多いんですよね。猪木さんとも飲みに行きますし。元スリーファンキーズの長沢純さんとボクは親しいんだけど、長沢さんは猪木さんと友達だから、その関係で3人で飲みに行くことがあります。
―猪木さんとは、どういうお話をされるんですか？
凡人　猪木さんはね、ほとんど飲まないんですよ。それにあんまり喋らない。ボクが「猪木さん、ボブ・サップ強いですねえ」って聞いても、「んー、んー」って頷いてるだけでね。
―まあ、猪木さんはあんまり他人を誉めないですからね（笑）。
大木　猪木さんと話していて、一番面白かったのは痛風の話だね。ボクも痛風には苦しんでるんだけど、猪木さんは「俺は根性で治した！」っ

ミルコは活きが良くて
技がシャープですよねえ!!
ヒョードルにも勝つと思います！

凡ちゃん、ミルコを語る！

ボクはキレちゃうとダメなんです。道具とかも使いますから！

て真顔で言い張るんだよ。根性で治るわけないのに（笑）。

―非常に猪木さんらしい話です（笑）。ところで、大木さんといえば、修斗の創生期にリングアナをやられていたのは有名な話ですよね。

凡人 はいはい。当時はまだシューティングと呼ばれてましたね。佐山さんが〝真剣勝負〟をやるってことで始めたんですよ。

―そんな真剣勝負興行を間近でご覧になられた感想は？

凡人 ボクはねえ、まず危ないと思いましたよ。そして選手が育たないと思いました。毎回、ケガ人が絶えなかったですから。ボクはエプロンから見てたけど、アキレス腱固めを極められて、「バリッ！」って靭帯が折れる音を聞きましたよ。

―もともと、凡人さんはどういう経緯で修斗のリングアナをやることになったんですか？

凡人 佐山さんの当時の事務所の会長さんが「凡ちゃんは司会をやってるし、格闘技経験があるからいいだろう」と仕事を振ってくれたんですよ。ボクは佐山さんと同じ控室で、大会の段取り説明を受けたんだけど、佐山さんは試合になると人が変わりますよねえ。

―普段は「お願いしま〜す」な人ですけど、ふとしたことからガラリと変わりますよね（笑）。

凡人 カウントの仕方とかでも、「そうじゃねえだろ！ 倒れてから数えるんじゃなくて、倒れたときから数えろぉ！」とかってすぐ怒鳴ってきましたからね。試合になるとホント違うんですよ（笑）。

―佐山さんは普段の練習でも、選手を竹刀でバンバン叩いてたって聞いてますよ。

凡人 佐山さんも弟子は可愛いんでしょうけど、だからこそ厳しいんですよ。選手がちょっとでも息を抜いてたりすると、廻し蹴りも飛びましたから！

―さすがですねえ（笑）。

凡人 佐山さんの廻し蹴りは本当に凄いですよ。一度、道端に建ってる道路標識のパイプをくの字に曲げましたからね！

―そ、そんなことをする意味がわかりません（笑）。

凡人 そうやってね、佐山さんはケンカを防ぐわけですよ。「ヤるのか⁉」ってかんじで（笑）。

―派手な牽制ですねえ（笑）。

凡人 でも、猪木さんや佐山さんもそうだけど、スポーツ選手って試合から離れると爽やかですよね。みんな気はやさしくて力持ちとでも言いますか。野球選手もそう。古田（敦也）とは従兄弟だからよくわかるけど、彼は全身筋肉ですよ。ボクと体格は似てるんですけど、全然違うんだよね（笑）。

―凡人さんのプロフィールによると、古田さんと従兄弟であることを「私は自慢ですが、向こうは嫌がってます」って書いてますね（笑）。でも、凡人さんの身体も大きいし、かなりガッチリしてるじゃないですか。

凡人 身長180センチ、バスト106センチ、ウェスト96センチ、ヒップ102センチですよ。

―いまでも鍛えてるんですか？

凡人 いや、もう身体がついていきませんよ。フルショットで突きとかやったりすると関節全部痛いですから。昔は腕立て伏せを毎日200回やったりとか、強練するから初めて突き蹴りが効いてくるんであって。いまは風呂に入ったときにマッサージするくらい。ゴルフ前に空手の呼吸法の十手（ジュッテ）とか三戦（サンチン）をやるぐらいですよ。

―ゴルフ前に三戦ですか！ その光景を見てみたいし、凡人さんの空手衣姿もまた見たいですよ！

凡人 いやいや、勘弁してくださいよぉ〜。それより格闘技の話、全然してないじゃないですか？ ボクの話ばっかで！

―いや、そろそろ本題に入ります！ 凡人さんはミルコ・クロコップという選手は御存知でしょうか？

凡人 （即座に）ミルコは大好きですね！

―凡人さんもお気に入りですか！

凡人 活きが良くて技がシャープじゃないですか。ボクが凄いなって思うのは、あの上段回し蹴りで相手を倒すことですね。上段廻し蹴りって、どうしても動作が大きいから隙ができるんですけど。でも、ミルコはその点をしっかりフォローしてますからね。そして確実に頸動脈や首筋に蹴りを入れるんだから凄いですよ！ ボクも足が長いから（笑）、足技だけで倒せるんじゃないかって思うこともありましたけど、ミルコは見事に体現してくれてますよね。

―つまり、ミルコのファイトスタイルは、凡人さんの理想型なわけですね！

凡人 理想型です！ たしかに人間が一番使うところは手ですから、手技も鍛えれば強くなりますけど、やっぱり格闘技は足技が重要ですよ。腕よりも足の力の方が3倍も5倍も強いわけだから、足技が強い選手の方が大成すると思うんです。

―ちなみに『PRIDE』王者であるヒョードル選手には、どういう印象がありますか？

凡人 ああ、あの人の打撃も、また凄いんだよねえ（感心しながら）。

―そんな打撃好きの凡人さんから見て、寝技が強いノゲイラや吉田さんにはどんな印象があるんですか？

凡人 う、う〜ん……。あんまりですねえ。やっぱり、観てる方からすると、突き蹴りの方がわかりやすいですからね。ボクはミルコとかヒョードルの方が好きだなあ。

―なるほど（笑）。それでは最後に、そのミルコとヒョードル、打撃の頂上対決が実現すれば、どちらが勝つと予想しますか？

凡人 難しいですねえ。ミルコの上段回し蹴りをかわしたら、ヒョードルが勝つと思うけど……でも、ボクはミルコのKOだと思います！

―凡人さんの予想はミルコ！

凡人 そうです、勝つのはミルコ！ 以上です！（スタジオにマイクを返すように）。

―よ〜くわかりました。今日はありがとうございました！

【03年10月某日／自由が丘・凡ちゃんの行きつけの喫茶店にて収録】

プロレスvs格闘技とは

性善説vs性悪説である!

ターザン山本が"暴露狂時代"と"仁義なき格闘大戦争"を斬る!

聞き手／堀江ガンツ

designed by Bun-chan〔Two three〕

て真顔で言い
るわけないの
——非常に
（笑）。ところ
修斗の創生期
ていたのは右
凡人 はい
ティングと呼
さんが〝真剣
で始めたんで
——そんな真
覧になられた
凡人 ボクは
いました。そ
思いました
なかったです
から見てた
極められて、

『泣き虫』によって髙田は宿便を吐き出したんだよォ！

——前回のインタビューから1ヶ月たちましたけど、このわずかな期間で格闘技界はメチャクチャですよ、山本さん！

ターザン いやぁ、嬉しいねぇ。こんな嬉しいことはないねぇ。

——なんで嬉しいんですか？

ターザン だって、この大晦日格闘技戦争のおかげで、仕事が増えて増えて、大忙しの商売大繁盛！ 雑誌、新聞、ラジオで20本ぐらい取材を受けたんだから、俺にバブルが訪れたんですよォォ！

——ガハハハ、そういうことですか（笑）。

ターザン 猪木さんのどんでん返し、突然の裏切りによって、一番恩恵を被ってるのは俺ですよォ！ これはもう猪木さんに足を向けて眠れませんよ！ だってさぁ、このあいだ競馬で何百万円もボロ負けしてさぁ、これからどうやって食っていこうかと思って、とりあえず下宿人に2万円借りたんだから！

——ガハハハハ！ なんで大家が下宿人にお金借りてるんですか！

ターザン キャッシュカードも限度額いっちゃったんだもん（かわいらしく）。そしたら下宿人が、「山本さん、お金ないならこれ使って下さい」って2階から降りてきて、2万円渡したよ、俺に！

——当面の生活資金（笑）。

ターザン 一文無しの俺の前に、下宿人と猪木さんという2人の救いの神が現れたんだよォォ！ こんな奇跡が起こるとは思わなかったよ！ これからジャンジャン振り込みがありますよォ。クゥ〜〜！

——では、ボクも微力ながら救いの神の端くれとして、1・4ドームの「ターザンシート」（新日本プロレス・上井執行役員が企画した、ファンにターザンと一緒に1・4ドームを見てもらい、ジャッジしてもらうという席）一枚買わせていただきますので、今日はよろしくお願いします（笑）。

ターザン よし！ いい席用意するからな！

——別にどこでもいいです（笑）。ま、1・4の話は後で聞くとして、今日の話題と言えばハッキリ言って、「暴露本狂時代」と「仁義なき興行戦争」の二つに尽きるじゃないですか。

ターザン そうそう！ その通り。

——でも、専門誌はどちらの話題にしても、なんか腰が引けてますよね？

ターザン そこがドショッパイところなんだよなぁ。「勃起しろよ！」と言いたいよ！

——山本さんはビンビンですか？（笑）。

ターザン ほとんど直角に立つよォ！（両手で股間に筒状の形を作りながら）チンポがこうやってね、まさに腹と平行になって、そりゃ角度がすごいですよ！

——立たないチンポも直角に立ちますか（笑）。いま立たなくてどうするんだって話ですよね。

ターザン アホかと言いたいよォ！ いまのマット界の状況というのはね、こんなもん俺に言わせれば「人間回復の時代」ですよォ！

——に、人間回復ですか!?（笑）。

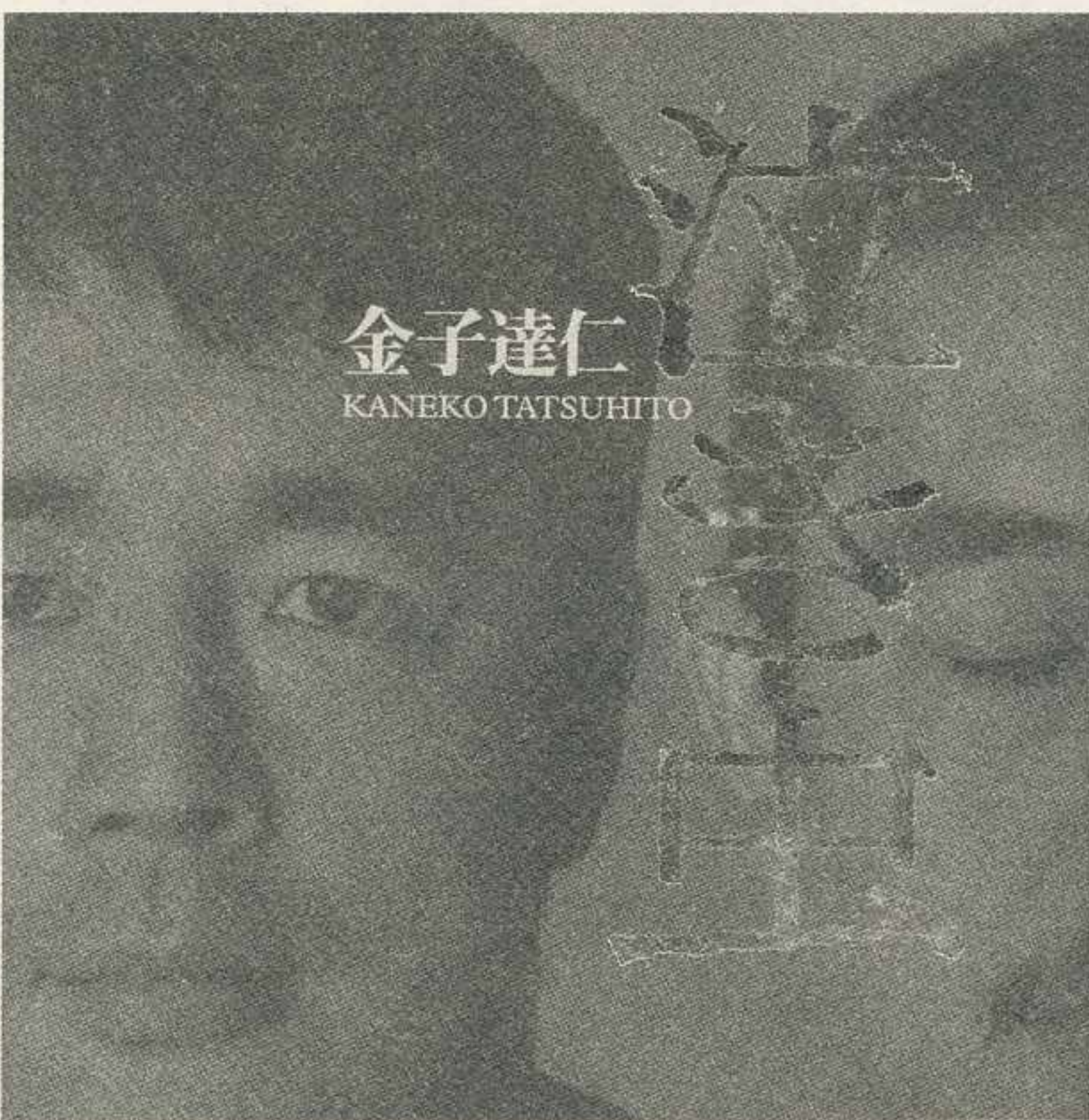
ターザン そう、人間は正直だったわけですよ！

——ちょっと意味がわからないんですけど？（笑）。

ターザン 要するに、この国は戦後50年間ず〜っと嘘っぱちで、あらゆることをごまかし続けてきたわけ。ごまかして、ごまかして、ごまかし続けた挙げ句、にっちもさっちも行かなくなったんだよね。そして、そんな時代に嫌気がさして、人々はごまかしてた自分を放棄し始めたわけですよォ！ その一番いい例が髙田ですよ。

——髙田延彦が人間回復の代表（笑）。

ターザン だって髙田は、一番身近で人生において最大にして最強のパートナーに対して嘘を言ってたんだから。もう我慢できない！ プロレスなんかどうでもいい、俺はもうこの人のために正直になりたい！ そう懺悔してるわけよォォ！

——『泣き虫』は向井亜紀夫人への懺悔の書でしたか（笑）。

ターザン そう！ そこまで彼はある意味で人間的に追いつめられ、土壇場で居直ったというかゲロしたというか、すごい時代に突入してるんですよ。しかも、これがまた一斉に起きてしまうところが面白いんだよな！

——高田本、船木本、高橋本（第3弾）と、暴露本の同時多発テロみたいなもんですもんね（笑）。

ターザン もう「同時多発人間解放時代」ですよ！ 一つの事象が続けてボンボンと起きるということは、時代のプレッシャーなんだよ。ニーズなんだよ！ そのニーズに従って高田は真っ先に人間解放を叫んだわけだよね。これは問題提起をするとか暴露じゃないんだよ。人間回復の根源的なテーマですよ！

——そう考えると、高田延彦より2年も早く暴露したミスター高橋は、そうとう人間回復してるんじゃないですか？（笑）。

ターザン もうしてるね！（キッパリ）。

——してますか！（笑）。

ターザン ミスター高橋の場合は2年前にガーっと行ったでしょ？ もう贖罪意識があるわけですよ。でも、あれをゲロしたことで彼は心が浄化されたんだよね。汚れた汚水がきれいな水になったように、彼はその自分の心が純化されたことによって、今年は『プロレス聖書』（ミスター高橋最新刊の題名）を出版したんですよ！

——ガハハハハ！ まっ先に人間回復して、しまいには聖書まで出版したと（笑）。

ターザン だからもう、すべての人間が自己を告白して懺悔しなければいけない時代ですよ。今は懺悔と告白の時代ですよォ！ もうみんな「懺悔室」に入らないかん！

——じゃんじゃん懺悔して、じゃんじゃん暴露しろと（笑）。

ターザン もう一人一人、みんな暗い箱の中に入って「すいません、こんな嘘をついてました！」って言わなきゃダメですよ！

——暴露とはそんな神聖な行為だったわけですか（笑）。

ターザン そうですよ！ みんな懺悔して精神が浄化されてるんだから。それをちょっと汚い言い方すると、便秘ぎみで腸がもやもやして苦しんでいたところ、一気にドカーンとウンコを出して健康になるようなもんですよォ！

——ガハハハハ！ つまりケーフェイは宿便だったと（笑）。

ターザン そう！ ウンコが出ないと気分が悪くて、ストレスが溜まるでしょ？ 高田は一気にウンコを吐き出して元気になったんですよォォォ！ だからこれは早い者勝ちですよ。みんな一刻も早く懺悔しなきゃならん。

——罪の意識は早く懺悔して捨てたほうがいいし、宿便は早く出したほうがいい。当たり前の話ですよね（笑）。

ターザン それをね、プロレスラーが率先してやったというのがプロレスの勝利だと思うんだよ。これに続く形で、この間佐竹が本を出したでしょ？ でも佐竹の本（『まっすぐに蹴る』集英社・刊）は、プロレスの暴露本みたいに美しくないよなぁ〜！

——ガハハハ！ 同じウンコでも美しくないウンコですか（笑）。

ターザン ドス黒いウンコですよォォォ！ ある意味、プロレスに比べてかわいげがないと言うかさ、格闘技の世界がいかにドライな世界であって、救いがないかわかったよォ！

——確かにプロレスの話だと、暴露しても結局は「底が丸見えの底なし沼だった」みたいなところがあるじゃないですか。

ターザン そうそう。暴露した人間に「お前、何を言ってんだ！」と言うけれども、結局は暴露した人間とされた人間両方が「プロレス」という共通分母にいるという認識が成り立っちゃうんですよ！ ところが格闘技のほうだと、「石井館長は師匠じゃない」とかさ、俺たちプロレス者からしたら、人間的な含みがないというか、冷たいというか、「冷たい」とか「ドライ」という言葉以上に悪い言葉だよ！

——温かみがないですよね。

ターザン 同じ暴露するにしても逆説的な愛が感じられないというかさ、トゲしかないよ。俺は世界っていうのは円でできてると思ってるから。宇宙にしろ太陽にしろ女性にしろさぁ、丸いもので出来上がってるんだよね。佐竹の言葉はトゲ・トゲ・トゲですよ！

ターザン山本

"暴露狂時代"と"仁義なき大晦日決戦"を斬る！

金子達仁著・高田延彦自叙伝的書『泣き虫』は、プロレスの内幕に触れていたため、業界は大激震。新間寿氏など、新日本になりかわって猛烈な抗議を行った。

――この世の果てみたいなものを見せられたわけですか（笑）。

ターザン　そういう意味ではやっぱり、格闘技というものはプロレスに比べたら、美意識にリリシズム、叙情性がないよな！

――ホントに白か黒かの世界だということがわかりますもんね。

ターザン　あの佐竹本は一片の救いもないよ！　プロレスの場合は、暴露してるように見えて、「ホントはプロレスが好きだ」みたいな、もう一つの側面が見えてくるという救いがあるもん。だけど、ないもんこれ！　暴露したら暴露したままだもん。暴露の裏がない！　ワンスタンダードの世界ですよ。でも、プロレスはどんなことがあってもダブルスタンダードというか、多重スタンダードになってるんだよな。

――多重スタンダード！

ターザン　そう！　高田があぁいうことを言っても、別の意味では正直に自分を告白してるんだ、と。アナザーメッセージが向こうから漂って匂って来て、それを俺たちは感じられるわけよ！　だけど、佐竹の本は最短距離で石井館長を非難してるでしょ？　愛憎が絡み合ってのダブルスタンダードがないわけよ！

――「愛」がなくて「憎」だけだと（笑）。

ターザン　格闘技の底の浅さを曝け出しましたよ！　だって佐竹本はもうワンスタンダードなんだから、あれを言ってしまったらもう終わりで、あとは何もないんですよ。でも、高田の場合はそこから派生させて、いろんな切り口、語り口をさまざまな人が言えるんですよ。それはつまり、見ている側の俺たちが豊かだからですよ、過剰に。

――プロレスはそれだけ再生能力があるってことですよね。

ターザン　うん。それに引き替え佐竹と石井館長の関係って言うのはさぁ、罵倒しあって別れる、最悪の離婚ですよォォォ！　――最悪の離婚劇！　そりゃ醜いわけですね（笑）。

ターザン　うん、佐竹の本によって、俺たちはハッキリ言って、格闘技を見切った！　暴露にも風味がない！　やっぱりいい香りと匂いが漂ってこないとね。

――ウンコは匂わないとダメだと（笑）。

ターザン　（無視して）要するに、プロレスの場合、のけ者にされて腹が立ったり、怨念があったりして暴露するんだろうけど、一方で「やっぱり俺はこの世界で生きて行きたい」「認められたい」とか、「この世界がホントは好きだったんだ」という、ジャンルに対する愛着がどっかにあるんだよ。

――そういう裏の叫びが聞こえてきますよね。

ターザン　「認めてよ！」っていう声が聞こえてくるもんな。でも、それがないもん、佐竹本には。これが佐竹に「ホントはオレ、石井館長のことが好きだったのにな」っていう気持ちが見えたら、俺は嫉妬するんですよ。そういう関係に対しては「クゥ〜、ちくしょう、やられた！」って。

――特に、猪木さんの悪口言う人はみんなどっかしら好きだから言ってますよね（笑）。

ターザン　罵倒し合ったとしても、「でも根は好きだから」っていう愛憎関係に対して嫉妬するんだよね。それがないもん、これ！　ということは、格闘技の中で言われてる美しい師弟関係なんていうのは、まるで嘘っぱちだったってことですよォォォ！

――そんなことまでわかりましたか（笑）。

ターザン　この本を単にさ、「正道会館のことだよ、俺たちのこととは違うよ」と思ってる格闘家とかがいたとしたら、そう考えること自体がショッパイよ！　格闘の世界なんて一事が万事、こんなもんだよォ！　佐竹本はそれを知らしめた！

――格闘技の世界を知りたかったら、これを読みなさいと（笑）。

ターザン山本

“暴露狂時代”と“仁義なき大晦日決戦”を斬る！

『佐竹本』が発売された当日行われたK-1ワールドGP決勝トーナメントは、新星ボンヤスキーの優勝となったが、なぜか全体的に選手たちに覇気がない大会となってしまった。

『佐竹本』は佐竹と館長の泥沼・最悪の離婚劇ですよオ！

ターザン　そうそう！　プロレスファンで格闘技にコンプレックスがあったらこれを読めばいいんですよ。優越感に浸れるぞ！「ああ、俺たちが正しかった」と思いますよ。だってプロレスは多重スタンダードだから。裏があったということは裏を知らされなかったということでしょ？　知らされなかったということはもっと裏があるんじゃないかという、好奇心を煽り、何かあるんじゃないか？っていう幻想を与えるんですよ。ということは、これからはいい形で疑って見るようになるんから、そこにいい形で過剰性がでるわけですよォォォ！

——より知的好奇心を煽るわけですね。

ターザン　暴露された事実を知らなかったということは、その時、我々は残念ながら疎外されて仲間外れになってるわけよ。だったらみんな暴露する側に入りたいでしょ？　暴露というネタを持っておきたいんですよ。それがプロレスには山ほどあるんだよね。暴露という札をプロレスラーや関係者は、みんな持ってるんだよね。で、それをこれからは出し合っていくんですよ。

——いまはそういう時代になってますすよね（笑）。

ターザン　今度はその札がホントに面白いかどうかというかさ、暴露自体のネタをレベルの高いところに持っていくんですよ。

——暴露にも一流から五流があると（笑）。

ターザン　暴露にもヒエラルギーがある！　階級がある！

——じゃあ、これからは「お前の暴露はショッパイな！」とか言われたりするわけですか（笑）。

ターザン　そうそう！　いい暴露だと、「え、そんなこと知ってるの!?　俺はまだまだ一人前じゃないなあ」とかさ、暴露とはそういうことなんですよ。疑ってみるということは何かあるということだからいいんですよ。

——暴露合戦によって、ケーフェイが一段レベルアップしたということですね。

ターザン　だから「疑う」という行為がいかに豊かかということだよね。それをいま、K-1とか『PRIDE』は純粋にしてスポーツ的な勝負論としてやってるでしょ？　あそこにいるファンは何も疑って見てないでしょ？　疑って見てな いっていうことが実は一番ヤバいんだよ。一番最後にアイツらが裏切られるんですよ。

——格闘技ファンはそういった方面に免疫がないかもしれませんね。

ターザン　だからね、本来、格闘技は細々とやっときゃいいんだよ。細々とやってれば美しいわけ。後楽園ホールでキックボクシングをやってるでしょ？　あれが一番美しいよ！　マクロな世界に出て行ったら似合わないんだよ！

——大会場は身分不相応（笑）。

ターザン　会場だけでなく、マスの世界そのものが似合わないんだよ。

——だからこそ、K-1はプロレス化するしかなかったわけですね。

ターザン　しかも、そこで一番重要なのは、マスになった時にプロレスとの決定的な違いがあるんだよね。

——ほう、それは何ですか？

ターザン　プロレスは曲がりなりにも団体が選手を育ててるんだよねぇ。ところが格闘技団体っていうのは選手を育てないでしょ？　選手を育てず、ただ取る！　奪う！　強奪する！　アングロサクソンの略奪の論理そのものよ！　これはもう破滅に行き着くよなぁ！

——なんか大晦日の格闘技界を暗示しているようですね（笑）。

ターザン　だから、いままさに俺が言ってることが起きてるわけですよ。本来、選手を育ててたら、人が育てたものは取りにくいもんなんですよ。なぜなら相手の気持ちがわかるから。でも、育ててない、育てられないものは平気でそれができるんだよ。

——それは農耕民族の日本人には合わないですよね（笑）。

ターザン　全く合わない！　強奪は破壊に繋がるんですよ、完全に生態系を崩すから。ところが格闘技系団体は元々育てられな

新刊『まっすぐに蹴る』（集英社）を発刊し、格闘技界に衝撃を与えた佐竹雅昭。本の中では、さらに過激な内容となりそうなと続編も匂わせている。

い、作れないんだから、本来そっから新しいものが創造されることはないんだよね。いやぁ俺は格闘技の大アキレス腱を見たよ！

——佐竹本によって大アキレス腱まで発覚（笑）。

ターザン　丸見えだよ！　だからね、今回の高田本と佐竹本によって、プロレスと格闘技の本質がハッキリした。プロレスっていうのは、生態系が最終的には性善説なんですよ。それに対して格闘技は性悪説ですよォォ！

——性善説と性悪説ですか！

ターザン　プロレスはたとえ裏切り、分裂があっても最後は性善説で治まるのよ。ところが格闘技にはそういうケースが全くない。プロレスvs格闘技の新たな本質が見えてきた！　性善説vs性悪説ですよォ！　これがわかったのだから貢献度大きいよ。

——ありがとう高田延彦、ありがとう佐竹雅昭（笑）。

ターザン　プロレスvs格闘技の対立構造は、ワークvsシュートじゃないんだよ。性善説と性悪説の闘いなんだよ！　そして性善説と性悪説で中途半端なものが今のK-1よ！

——ガハハハハハ！　そこで出てくる（笑）。

ターザン　谷川の性格がよく出てるよ！　ある時は性善説の顔をしてある時は性悪説の顔をしてるっていうね。でも、性善説っぽいというか、性善説もどきみたいな世界ですよ。くだらないんだよ〜、あれ！（笑）。

——プロレスにも格闘技にもなれないと（笑）。

ターザン　イソップ物語のコウモリですよ、アイツは！　どっちにもなりきれなくて、性善説と性悪説を行ったり来たりしてるんですよ。同じ格闘技でも、『PRIDE』の場合は、観客を性善説という気分にさせておいて、リングの中での勝負というものは勝った者だけが生き残る。勝利者だけが正しいという性悪説的構造をしてるわけよ。悪は結果にしか根拠を求めないからね。だから、このバランスが『PRIDE』の魅力なんですよ。極端な性善説と性悪説がきれ〜いにガチャッとハマってるんですよ！

——だから、いま奇跡的な面白さがあるわけですね。

ターザン　そういうことですよォ！　それが11・9の東京ドームの成功の原因ですよ。性善説と性悪説を上手く使ったんですよ。

——じゃあ、あれこそが本当のプロレスと格闘技の融合なんですね。

ターザン　奇跡の融合ですよ。ミラクルだよ、あれは。K-1はそれをやろうとしてるんだけど、ふらふらして行ったり来たりなだけで、ガッチリと固められないんだよね。信念がないというか、全部、中間色だよ。ぼんや〜りとして、まさに谷川的世界ですよ！

——じゃあ、『イノキ・ボンバイエ』っていうのはどうなんでしょうね？　『PRIDE』と同じような奇跡の融合をやろうとしてるんでしょうけど、変な形で過剰な性善説と過剰な性悪説が絡み合ってる印象があるんですよ。あれはどうしてなんですか？

ターザン　寄り合い所帯だからですよ。猪木さんと日本テレビとプロモーションの思惑がバラバラで統一感がないから。誰がトップなのかわかんないもん。もはや看板なき『猪木祭り』ですよ。

——カメレオンなわけですね。

ターザン　そう、ブランドとしての『猪木祭り』の看板に実態がないもん。2年前だったらさ、もの凄く美しい看板だったんだよ。

——『猪木祭り』という看板は『PRIDE』の奇跡に一番近い状態にいたイメージがあったわけですよね。

ターザン　あった！　あったよ。だけど、ここにきて悔しいけど『猪木祭り』という

昨年の『イノキ・ボンバイエ』開催記者会見。もう2度と実現しないこの4ショットが、わずか1年前とは信じられない思いがすると同時に、格闘技界の流れの速さを感じさせる。

大晦日格闘技戦争とは館長の遺産を奪い合う醜い遺産相続争いですよォ！

看板そのものが崩壊したんですよ！　あれ、なぜ金看板が何の役にも立たないのみたいな、求心力がなくなってしまった。なぜこうなったかと言うと、ピンチですよ。なぜこうなったかと言うと、これは『PRIDE』、『Dynamite!!』（K-1）には一応、歴史とリングがあるんですよ。『猪木祭り』は自分のリングを持ってないじゃない。あれは致命傷なんですよ、看板は抜群なんだけど。

──しかも、看板も奪ってきたものですからね（笑）。

ターザン　地盤がないから、選手を寄せ集めるしかないわけですよ。選手を取るしかないというところで一番『猪木祭り』がゴタゴタして、焦ってるんですよ。だからホントはね、『PRIDE』やK-1は大晦日に興行をやるべきじゃなかったよ。

──勝手にやらせとけばよかった、と（笑）。

ターザン　そう。高見の見物で良かったんだよ。それができなかったことが一番の失敗！　だってほっといても『猪木祭り』が一人で勝手に失敗するだけですんだんだから。

──じゃあ、このままでは大晦日は格闘技三団体がドボンになるわけですか？（笑）。

ターザン　足の引っ張り合いだよ。無理心中に近いよォ！

──無理心中（笑）。

ターザン　だいたいさぁ、『猪木祭り』も『PRIDE』も『Dynamite!!』もみんな「俺が正しい！」と思ってるから、あんな形で立ち上がってるんですよ。いまこそ、俺たちの出番だ、俺がトップになるみたいなさ、欲をかいた「バカなチャンス」だと思ってるんだよ、これ！

──バカなチャンス（笑）。

ターザン　いまがバカ丸出しのチャンスに見えてるんですよ。その気になっちゃってるんだよな！（笑）。そして、チャンスに見えているということは、何かが確実に壊れたっていうことをみんな知ってるんですよ。隙が見えてるんですよ。たいした才能のない人間でもイケるんじゃないか、と思ってるからみんなその気になっちゃってるんですよ。

──みんなが寝首を刈ろうとしてますもんね（笑）。これを日々やってるんですから、外野で見てたら無茶苦茶面白いですよね。

ターザン　陣地取り合戦ですよ。

──でも、なんでこうなっちゃったんでしょうね？

ターザン　（小声で）石井館長のせい。

──ああ（笑）。（小声で）やっぱりそうでしたか（笑）。

ターザン　「あのポジションは誰が取るんだ！」ですよォォォ！

──逆に言ったら、1～2年前から格闘技界もプロレス界も石井館長に乗っ取られるんじゃないか、っていう世界を予感してたし、現にそうなりつつあったんですよね。

ターザン　違うんだよ！　石井館長がはやりに乗って地上波のテレビ局を3つ取ったでしょ？　そのとき他の人間が何をしたかというと、「このままいけば必ずボロが出るな」と思って、みんなわざと館長を調子に乗らせたんですよ。館長は罠に引っかかったんだよォ！

──巨大な捨て石だったと（笑）。

ターザン　館長はそれに気づかなかったんだよォォォ！　わずか数年で、館長の存在が100倍ぐらいになったんだから、そりゃ狂いますよォ！　耐えられないよォォォ！

──ガハハハ！　そうですよね（笑）。

ターザン　だから館長は『K-1・JAPAN』と『K-1・MAX』と『K-1・GP』と3つ抱えたでしょ？　それでテレビ局を制覇したわけですよ。いま、まさに誰がその跡継ぎになるかという、3つの利権戦争をやってるわけですよォ！

──なるほど！　つまり館長が開拓した、日テレ、TBS、フジテレビというのを今まさに3派で奪いあってるわけですね！

ターザン　そうそう！　要するに、大晦日の格闘技戦争っていうのは、館長の残した遺産を息子たちが奪い合う、遺産相続争いですよォォォ！

──骨肉の遺産相続争い！　それ、世の中で一番醜いですよ！（笑）。

ターザン　だから引き抜き事件でもう裁判になってるじゃないの、コレ！　どんな人間も遺産相続となると人が変わるから！　これは醜いよぉ～～！

──醜い遺産相続争いと比べたら、1・4の新日本と『ハッスル1』の争いなんて、かわいいもんですよね（笑）。

ターザン　かわいいよォ！　だって1・4ドームなんてターザンシートをつくるんだよ？

──格闘技界が巨額の資金をかけて仁義なき遺産相続争いをしてる一方で、新日本は『ハッスル1』への対抗手段がターザンシートなんですから、可愛い過ぎますよね（笑）。

ターザン　それもたった50席だよ。世界で一番美しいよ！　チケットを売るために考えて考えてさぁ、出てきた答えが、かつての宿敵・ターザン山本を使って、チケットを手売りさせようとしてるんだからねぇ。

ターザン山本
“暴露狂時代”と“仁義なき大晦日決戦”を斬る！

て真顔で言
るわけないの
——非常に
（笑）。ところ
修斗の創生期
ていたのは右
凡人 はい
ティングと呼
さんが〝真剣
で始めたんで
——そんな真
覧になられた
凡人 ボクは
いました。そ
思いましたよ
なかったです
から見てたけ
極められて、

新日本は〝マッチ売りの少女〟マッチを買ってあげないと野垂れ死んじゃうんだよォ！

もう、今の新日本のこの状況は一言で言える！

——なんですか？

ターザン 雪の中、売れないマッチを売ってる、マッチ売りの少女ですよォオォ！

——ガハハハハ！ 新日本はマッチ売りの少女だった！（笑）。

ターザン マッチを一本一本擦ってさぁ、「このマッチの光で新日本に希望と未来を！」「このマッチの光りでターザンシートを買って〜」。これメルヘンですよォオォ！（笑）。

——ガハハハハ！ 美しいですねぇ（笑）。

ターザン だっていまの新日本はチケット買ってあげないと、マッチ売りの少女みたいに野垂れ死んじゃうんだよ？ だから俺は新日本を野垂れ死にさせないためにも、マッチ売りのターザン山本になってチケットを売りまくるんですよォオォ！

——ガハハハハ！ いやぁ、まさか大晦日は遺産相続争いで、1・4はマッチ売りの少女とは思いませんでした（笑）。では、今日はこんなところでお開きにしましょうか？

ターザン あ、館長について、最後にもう一言いわせてくれ！

——どうぞどうぞ。

ターザン 館長とはいろいろおつきあいもしたし、お世話になったけど、俺の前では石井館長はホントに紳士でジェントルマンなんですよ。俺の前では館長は自分の一番いいところしか出さなかったよ。ピュアだったよ。まあ、俺の前ではみんなそうなるんだよね。

——山本さんの前では（笑）。

ターザン うん、女の子も全部。彼女たちの一番いいところと俺は付き合ってるわけですよ。それは俺がプレッシャーを与えてるわけではなくて、その時はイノセントなんだよ。でも、石井館長は外側から見ると、ここで言いたくないけど、悲しいかなもうそれは、巨大というか比類なき史上最大の時代のあだ花なんですよォオォ！

——ガハハハハ！ 確かに（笑）。

ターザン 花じゃなくて美しいあだ花だよ！ でも史上最大のあだ花ですよ！

——そして、花の命は短かかったわけですね（笑）。

ターザン そうなんだよねぇ。だから大晦日決戦というのは「時代のあだ花祭り」ですよォオォ！

——ガハハハハ！『イノキ・ボンバイエ』ではなく、『カンチョー・ボンバイエ』だったわけですね（笑）。では、山本さん、今日はありがとうございました！ とりあえず、1・4に向けて、マッチの押し売り頑張ってください！（笑）。

ターザン はい〜〜。

【03年年12月8日／葛飾区立石・ターザンの自宅近くの居酒屋にて収録】

田村の"U"にハズレなし！
藤井相手にU-STYLE名勝負!!

Kiyoshi Tamura

インタビュー

田村潔司

のはずが……

聞き手／堀江ガンツ
構成／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by さおとめの事務所

急遽、『語ろうU-STYLE』に変更!

12・9U―STYLE後楽園大会で、田村潔司挑戦者決定戦を勝ち上がってきたUFOの藤井克久と歓声の鳴り止まぬ名勝負を繰り広げたのが、この男・田村潔司。"孤高の天才"と呼ばれ、U―STYLEのリングでは他の追随を許さないこの男に、U―STYLEの可能性、そして参戦が期待される大晦日決戦について聞くはずだったが……

出席／山口日昇、堀江ガンツ、松澤チョロ

"孤高の天才"

特別ゲスト・田村潔司

ガンツ よろしくお願いします！

田村 今日は、まず『猪木祭り』の話から。

ガンツ いきなり『猪木祭り』話ですか（笑）。オファーでもあるんですか？

田村 『猪木祭り』楽しみだなぁ。

ガンツ どの辺がですか？

田村 観るのが（笑）。『猪木祭り』って曙が出るんだっけ？

ガンツ 曙は『Dynamite!!』です。田村さんは誰と闘うつもりなんですか（笑）。

田村 俺はねえ……キューティー鈴木さんと（笑）。あっ、俺、この間キューティー鈴木さんと会ったんだよ！

ガンツ 遂に会いましたか！ 何度か名前が出てましたからね。

田村 偶然、知り合いの飲み屋で会って。他にも女子プロの人たちもいたんで、その娘たちと飲んで。その後、店を出てキューティーさんたちと別れたんだけど、3次会ぐらいにまた偶然合流して（笑）。

ガンツ 「またお会いしましたね」と（笑）。

田村 でもお互いその頃はベロベロで。俺だけがベロベロだったのかな？ あんまり覚えてないんだけど、キューティーさんがガンガン喋るのを俺がウンウンと相槌してた。

ガンツ 饒舌ではなかったんですか？

田村 饒舌じゃなかったね。一応先輩だから、先輩の前ではかしこまっちゃう。2年ぐらい先輩じゃないかな？

ガンツ なるほど。何？ 今日は、そういうエロ系を引き出そうとしてんの？

ガンツ そういう訳じゃないですけど（笑）。

田村 エロ話は一切ないよ。ただの、いいお友達。いやっ！ よき先輩で……。キューティーさんの昔の彼を知っていたから昔話しました！

ガンツ 田村選手も今月で34歳ということで結婚とかは考えたりしてるんですか？

田村 いや、俺は生涯独身で。

ガンツ あ、そうですか（笑）。前振りはその辺にして本題に……。

田村 （遮って）今日はU―STYLEの話がメインでしょ？

ガンツ も、もちろんですよ。だって大晦日、田村さんのことに関して何も情報がないですから聞きようがないですし（笑）。

田村 だから大晦日は『猪木祭り』（笑）。

ガンツ わかりました（笑）。話を戻してU―STYLEなんですが、藤井選手との試合はホント凄かったですね！ 取って付けたような感じになっちゃいますけど（笑）。

田村 ホント取って付けたね（笑）。でも興行的に全部良かったでしょ？

ガンツ いや、正直に言わせてもらいますと、興行的には全くもって納得いかないですね。

田村 納得いかない？ ウソ!?

ガンツ 最後まで観たら田村さんの試合があるんで大満足なんですけど、田村さんと他の試合のレベルの差というか、熱の差というか、そういうものの差がありすぎるかなと。

田村 あっそう。まあ、でもそれがあるから逆に光るし。そういう意味では裏MVPは越後（隆）かもしれない。

ガンツ ラリアットでKO負けでしたね（笑）。

田村 変に中途半端より、一番ビリがいいじゃん。嫌みだけど、それが実力だから。でも、あのポジションの意味を理解したら彼は伸びると思う。

ガンツ 嬉しくないホメられ方ですね（笑）。

田村 MDウォークマンあげるよ。

ガンツ お、田村賞ですか（笑）。田村さんは試合後に「旗揚げ戦より、みんな確実にレベルアップしてしてい る」という話だったんですけど、ボクから観ると他の選手の成長よりも、最初から飛び抜けていた田村さんのレベルアップの方がなぜか早いなと。

田村 いや、そんなことないよ。毎回毎回お客さんが満足するような試合を観せるつもりではいるんだけど、毎回観せれるとは限らないから。難しいよね。自分がいい試合をすればするほど自分を追い込む訳だから。

ガンツ 今年の田村さんのU―STYLEの試合はみんな良かったですよ。レベルの高い田村さんの意識が他の若い選手より高いんですかね。もっともっと求める意識が。

田村 そうだね。でまだ、いまは俺が頑張らんとダメだから。ただ、いまの状況は全員試合に出れて、何千人というお客さんが来て、いいチャンスでしょ。それに後楽園ホールで試合ができるんだから、もっともっと自分を売り出してほしいなと。そういう意味で佐々木は一番考えてるし頑張ったね。結構いい試合もしてるし、器用で頭がいい。顔は悪いけど（笑）。

ガンツ "U―STYLEの安生洋二"って感じですからね（笑）。

田村 ああ、そうだね（笑）。トップになれない顔してるよ……ってコラッ！一応乗ったけど安生さんは関係ないからね！

ガンツ 失礼しました（笑）。田村さんは以前、見方を分かってる人が観にきてるからやりやすいって言ってましたが、田村さんに求められるのは、見方を分かってる人以外の人も巻き込んでもっと大きな輪にしていくことが必要なかなと。そういう役目を果たすのが田村さんの使命かなと思うんですけど、その辺はどうですか？

田村 そうだね。あと1年2年掛かると思うんだけど、そんなにネタがないからね（笑）。

ガンツ もうネタ切れですか！（笑）。でもU―STYLEという場にとっては、田村潔司のU―STYLEを観に来る人がもっともっと増えなきゃいけないし、この間の藤井戦を観たら、もっと大勢に観せなきゃもったいないなと思いましたよ。ただ、いまはU―STYLEの中の田村潔司になっているのがいけないのか、田村潔司が観れるのがU―STYLEだというふうになってないのかなと。

田村 ああ、独裁制？ 昔のアントニオ猪木みたいに？

ガンツ アントニオ猪木というと、Uインターのピラミッドみたいになると思うんですよ。高田延彦っていう頂点がいて。この間の大会を観て感じたのは、田村さんは猪木さんというよりも初代タイガーマスクみたいだなって。

田村 あ、そうなんだ（笑）。

ガンツ スペシャルな存在だし、それこそ孤高の天才ですよ。まずは初代タイガーマスクを観に来る人がジャンジャン増えないとしょうがないなと。

田村 でも難しいよね。いまがいいペースなんじゃないのかね。みんなに観せたいってのはあるんだけど、後楽園で地道にやっていくのが一番いいと思うんだけどね。

ガンツ いいんですけど、あまりにも外に対するアピールが足りないと思うんですよ。

田村 それは佐伯さんに言って（笑）。だって佐伯さん、公開スパーとか自分のとこしかやんないんだもん。

ガンツ そう言われれば（笑）。

田村 きっとU―STYLEなんか頭にないよ。それに選手はやっぱりいい試合をするのが仕事だから。どうやって興味を引いてお客を呼ぶかというのは周りのスタッフの問題だから。

ガンツ それもわかるんですけど、ホントもったいない気がするんですよ。あのマッチメイクで後楽園がギッチギチにならないのは問題かなと。

田村 ギッチギチにならないね。逆に俺が出て後楽園が満員にならないんだったらダメだよ。もうU―STYLEはダメ。終了！（笑）。

ガンツ アハハハハ！ では、根本的な話になりますけど、U―STYLEを始めたきっかけは、あのスタイルを残したい、大きくしたいということですよね？

田村 ……う～ん、何だろうね？

ガンツ アハハハ！「何だろうね」って（笑）。

田村 いや、昔、若い頃は突っ張って発言してきたけど、いまとなっては何の意味があるんだろうなって困っちゃうけどね（笑）。

ガンツ ダメだこりゃ（笑）。

田村 ただ、いまはもうデジタル化してるから。ゲームにしてもそうでしょ。アナログというか、観て感動したり影響を与えたりするっていうのは少なくなってきてるから。そういう意味ではU―STYLEっていうのは、観て何かを感じてもらえる確率は高いと思うんだよ。観てる人がスッキリしたりとか気分転換になったりすれば、まだやる価値はあるかな。

ガンツ 観れば絶対「こんなに凄いんだ」ってなると思うんですよ。特に田村さんの試合は。それが、いまって情報が凄い先走ってるというか、イメージが先走っちゃってるじゃないですか。U―STYLEっていうのは先入観からして『PRIDE』でもプロレスでもないっていう。U―STYLEとは何なのかという定義付けをしたら伝わると思うんですよね。格闘技は極限の闘いだとか、真剣勝負だと。プロレスはそれを越えたエンターテインメントだと。じゃあU―STYLEとは何かと。それをUの天才・田村潔司さんに……。

田村 それはね、活字にするには凄く難しい作業なんだけど、活字にしてそれを伝える作業は……。

ガンツ 私たちの仕事ですね（笑）。

田村 そう！ アナタたちの仕事だよ（笑）。読者に「U―STYLEってこうなんだ、観に行こう」と思わせるのは腕次第だから。

ガンツ そのヒントになるようなことを聞きたいと思うんですよ。例えば田村さんて、ご自分の新人時代を考えて、いまもそうだと思うんですけど、いまの総合格闘家と呼ばれる人たちより格闘技の練習をしていたという意識はありませんか？

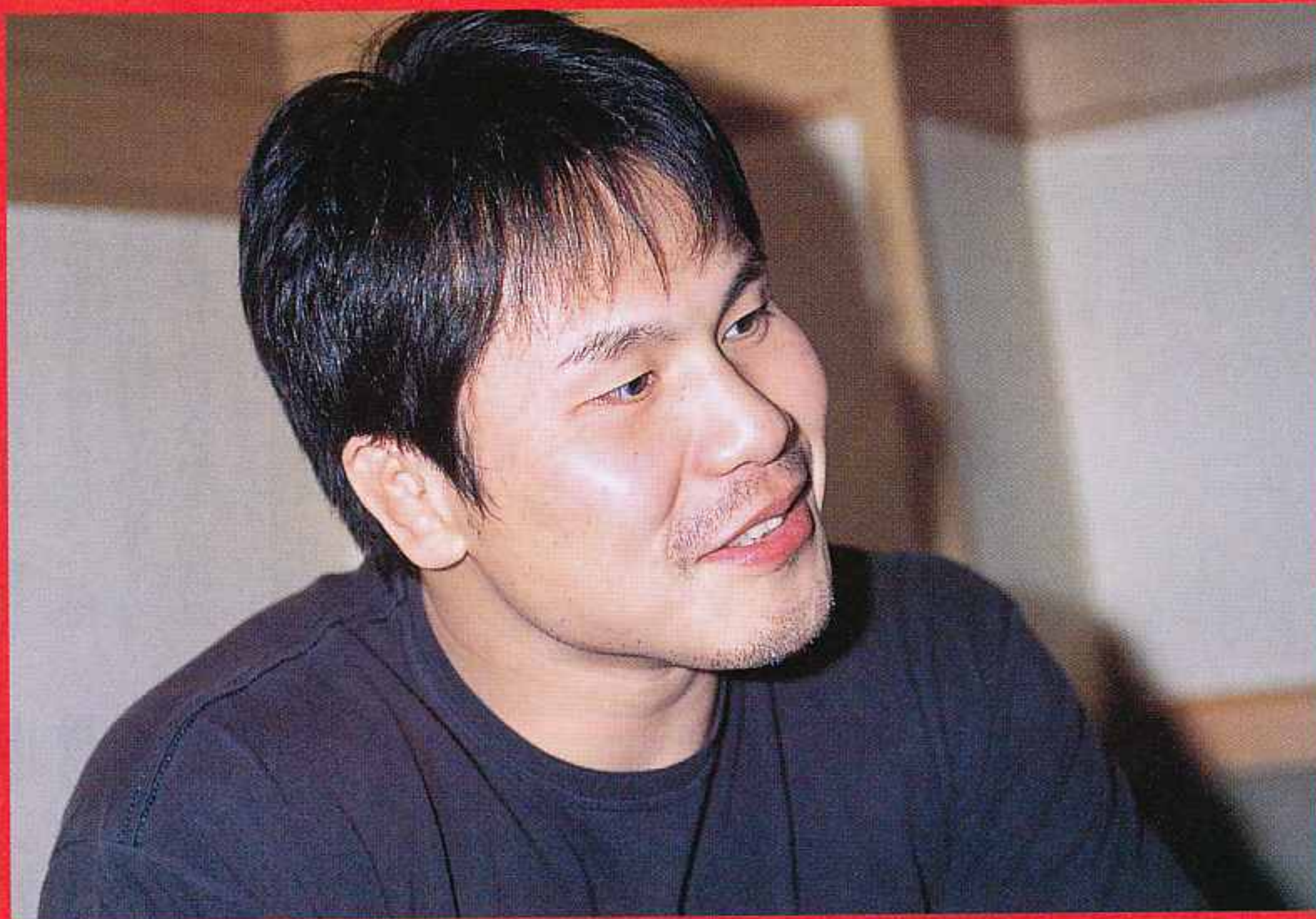
田村 あるある。

ガンツ Uのリングにはそうしないと上がれない、できないものだという意識はありませんでしたか？

田村 それが普通だよね。意識はしてない。普通のことだから。ロープワーク練習するわけじゃないからね。入った環境がUWFという格闘指向の練習をするところだから、必然的じゃないのかね。新日本だったら受け身とかロープワークとか練習するだろうし。

ガンツ それでは田村さんがUインターにいた頃に格闘技をやろうと思ったのはなぜですか？

田村 いや、ただ強くなりたいからじゃないの？ あんまり考えてないよ。ただ単純に強くなりたいから練習をしてたし。練習はやっぱり格闘技だから。最初は宮戸さんとか安生さんとか中野さんとかと練習つけてもらって、そこから30分やったら10回極められてたのが8回になって5回になって3回になって、そんでだいたい極められなくなって。で、そこからドンドン追

Kiyoshi Tamura

求していくんだろうね。

ガンツ　いまって総合は当たり前ですけども、田村さんが入った頃にはなかったわけですよね。その中で途中でそういう方面の指向に変えていたわけですよね。Uインターの途中でパンクラスが出てきたりしたじゃないですか。

田村　深いところから来るね。

ガンツ　その時とかって、ああいう試合してみたいって思ったんですか？

田村　うん、思った。

ガンツ　それはどの辺でですか？

田村　どの辺？　う～ん……分からん！　難しい話はやめようよ。

ガンツ　難しいですかね？（笑）。

田村　ガンツの場合はね、最初に俺をいい気分にさせてくれるんだよ。「いい試合でした」って言って。そっからグレーの部分を突いてくるから、俺も頭が回らなくなってくるんだよ。終いには、なんか気分悪くなってくる！

ガンツ　それはそれは失礼しました！

田村　後からホメるっていうか、最初と最後にホメるのがいいね。

ガンツ　以後、気をつけます（笑）。それでもリングスに行って「リングスでUWFスタイルをやりたい」っておっしゃってましたけど、そこはどのような違いがあるんですか？

田村　濃いな。濃いぃ部分だな。プロレスはやっぱり客との闘いじゃん。でもUWFは、まあU－STYLEもそうなんだけど、プロレスと格闘技の間を行ってて、そこに総合格闘技というものが出てきたよね。プロレスがあって格闘技の試合をやるってなったら、多分ウケないと思う。いまでこそ見方が分かったからウケるけど。ボクがやってる頃っては、ホントの格闘技の試合よりも、それをいかにプロレスを取り入れて格闘技の試合に見せるかっていう時で、ちょうど入れ替わりの時期だったからね。いかに見せるかっていう部分を一生懸命練習してた。

ガンツ　例えば、自分の持ってるUスタイル、リングスタイルを高めるために、そういう試合が必要だったたっていうことですか？

田村　そういう試合も必要だろうね。でもなんか難しくなってくるなあ。これは自伝を出した時にでも書くよ（笑）。

ガンツ　自伝で書きますか（笑）。でも、この機会に今一度、U－STYLEというものを掘り下げないといけないと思いまして。

田村　喋るの下手だから、思ったこと書いていいよ。ガンツの文章を見て「あっ、これ頂き」って、それを人前で喋るから。

（※ここで、打ち合わせで、たまたま近くまで来ていた本誌鬼畜編集長・山口が合流）

田村　あ、お疲れさまです。

山口　気にしないで、続けてください。

田村　で、何だっけ？　そうそう、ガンツの文章を読んでると、俺の言いたいこと書いてる時があるんだよ。

ガンツ　エッ、そうなんですか？

田村　今度から『紙プロ』を持って喋るから。

山口　それじゃあ主張じゃなくて引用ですよ（笑）。ガンツが言いたいのは、パンクラスが出てきて、リングスタイルとかUWFスタイルをやって、タムちゃんとしてはプロレスから総合格闘技に移行する過程の中でやってきたものであって。でも総合格闘技が出てきた後に、またU－STYLEをやるとはどういうことか、っていうことだよね。

ガンツ　要は……。

田村　（遮って）「要は」って、いま山口さんが言ってくれたのに（笑）。また被せるの？

山口　その時代の田村さんがUWFスタイルをやるのは分かったけども、いま総合格闘技が出てきた中でU－STYLEをやらなければいけないのかが、ガンツは、言葉にしづらいわけだよね。で、「要は」何なの？（笑）。

ガンツ　要は、UWFから『PRIDE』に行く過渡期のものだと思っている人がかなりいると思うんですよ。そこは違う訳ですか？

田村　俺もね、そうやって悩んだときもあったよ。このスタイルでいいのかなって思う時もあるんだけど、藤井君とやって、「ああ、ありだな」って思ったね。再確認というか。これ企画変更しない？（笑）。

ガンツ　何でですか？（笑）

田村　だって、こんなの初めてじゃない？　『紙プロ』3人も揃うって凄いでしょ。

山口　全然凄くないけど、ホント、なんで3人もいるんだ（笑）。

ガンツ　では、ここからU－STYLE座談会にしましょう！（笑）。

田村のU-STYLEを見ないと損!!

ZERO-ONEでも何度も見てきた藤井のジャーマンだったが、ここU－STYLE、というか田村が相手だと、その威力も二倍、三倍に感じられる。田村の受けの凄みにも注目！

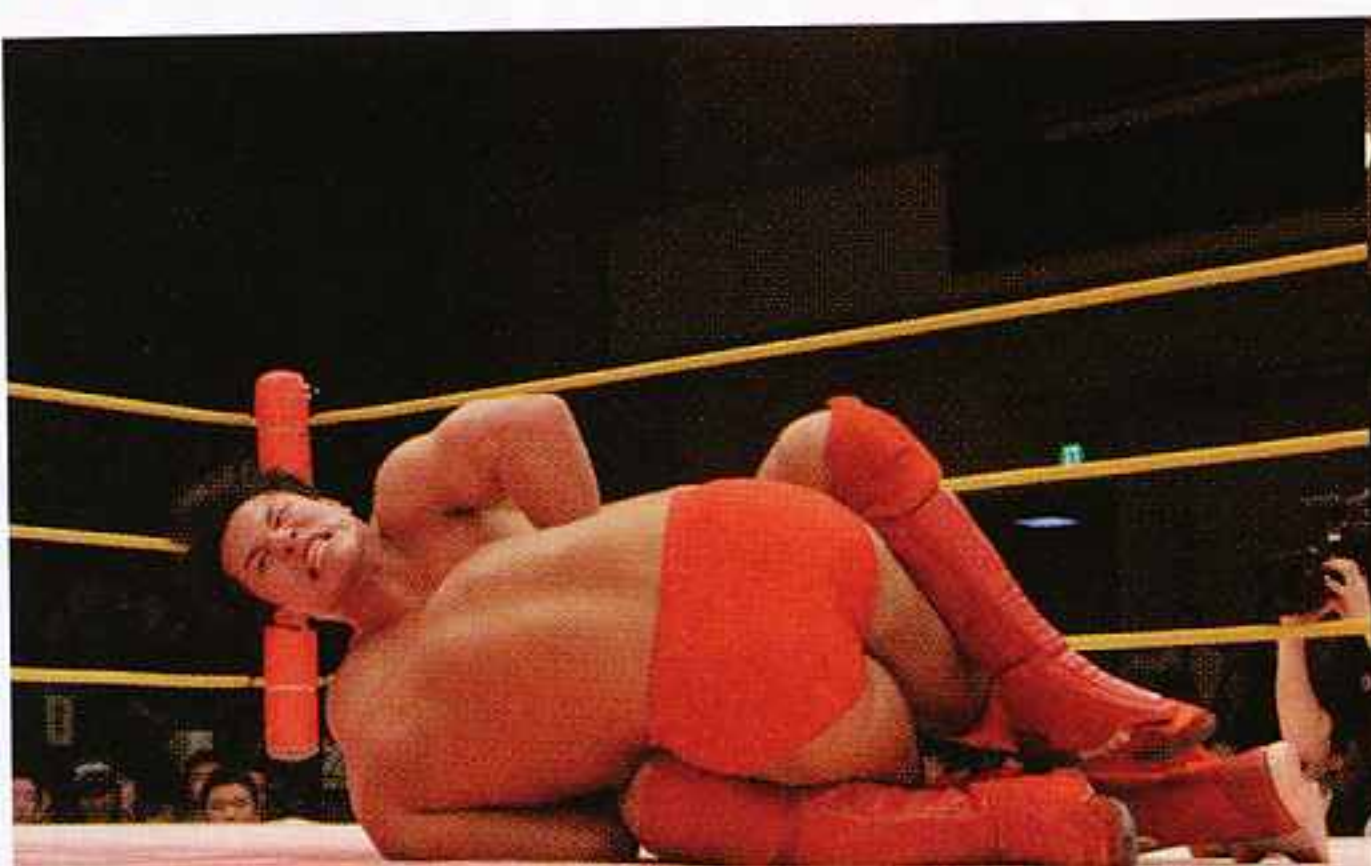
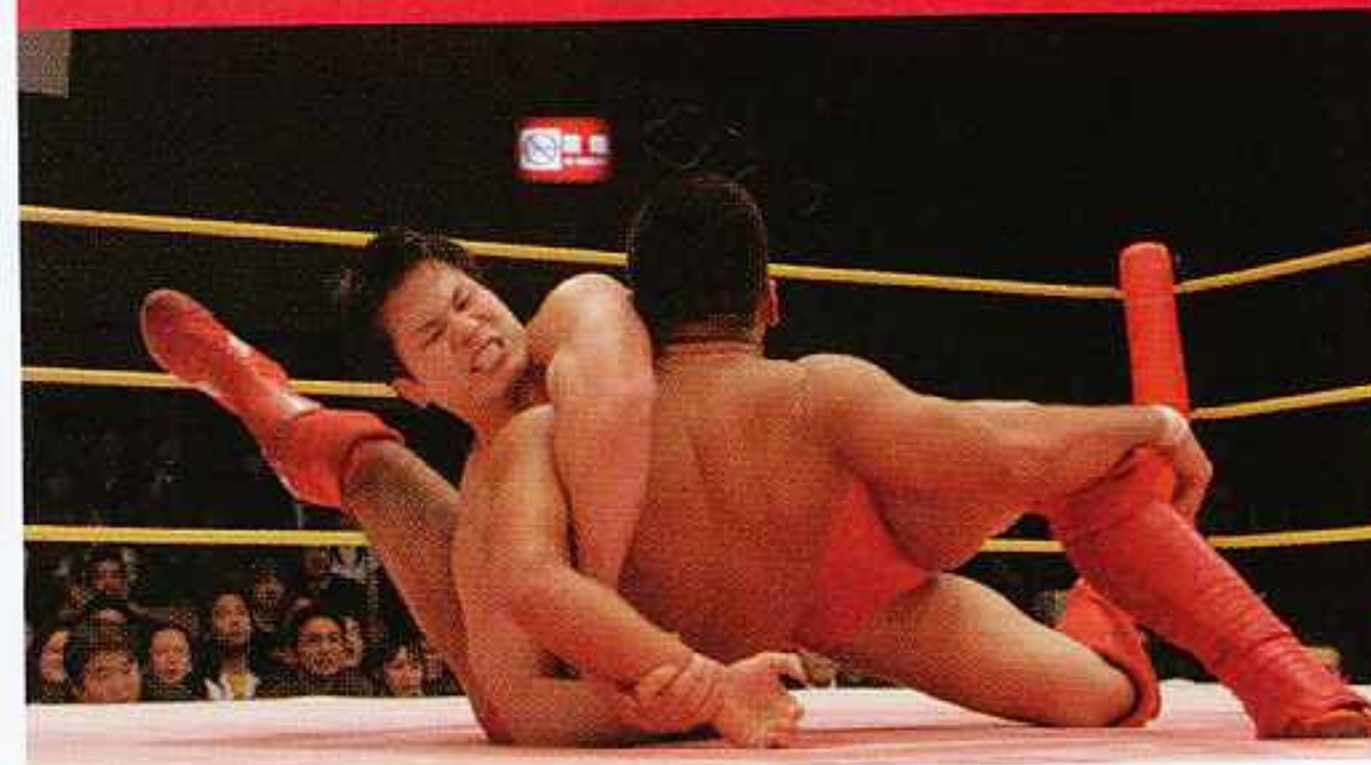
12.9 U-STYLE 後楽園ダイジェスト

第一試合目は田村の弟子・大久保一樹と坂田の弟子・木村直生が対戦。これまでU－STYLEでは4戦4敗の木村がアームロックでポイントを奪うも、最後は大久保がリングのド真ん中で腕十字を極め勝利！

『DEEP』で活躍中の正体不明のクラフターMがU－STYLE初登場。このリングでは好調をキープしているバトラーツの原学だが、最後はクラフターMに鮮やかな三角絞めを極められ、あえなくタップを喫した。

全日本からU－STYLE初参戦の宮本和志。元不良だけにケンカファイトが見られるかと期待されたが、最後はラリアットで越後隆をKO。試合後は、「絶対に赤いパンツの人を倒す。そして黄色いパンツをはかせる」と豪語

山口　特別ゲスト・田村潔司（笑）。
ガンツ　凄い豪華なゲストですね！
田村　豪華ですよ。
山口　本人が言ってるよ！（笑）。
田村　でも俺からしてみれば、この3人が揃ってるのは豪華だよ。
山口　どこが豪華なんですか（笑）。
ガンツ　ちなみに田村さんって、高田さんの本は読まれました？
田村　いや、読ましてくんない。
一同　アハハハハ！
田村　ホント読ましてくんないんだもん。だから何も言えない。
ガンツ　じゃあ、しょうがないですね。
山口　本の話はいいやって言われて引っ込むんじゃなく、何かきっかけとかあるんじゃないの？
ガンツ　か、考えさせてください。
山口　おそらくガンツが言いたいのは、プロレスの基盤になることが書かれてるわけですよ。そういう時代性の中でU―STYLEをやっていく難しさを感じないかって、そういうことだよね？
ガンツ　要はそういうことですね（笑）。
山口　ガハハハハ！　本の内容とかどうのこうのじゃなくてね。
田村　やっぱり、お客さんの価値観の問題じゃないですかね。そんなこと言ったら映画だってサーカスだって観れないでしょ？　その人にとってプラスになるものに行くわけだから、1000円の価値、10万円の価値、そういうのあるんじゃないの。そういう答えになっちゃうな。何て答えればいいんですかね？
山口　例えば、DVDでメイキング映像が付いてたとして、そのメイキング映像で200人のエキストラを2万人

カッコいいとは、こういうことさ！

もの凄い形相で襲いかかってくる田村の左ミドル、そしてアームロック、その動きだけではなく、表情、肉体、どれをとっても田村潔司のU―STYLEの試合は一試合たりとも見逃せない。これホント！

に見せてたんですよって言われて「ウソ、そういうことだったの!?」ってガクッとくるような作品じゃダメだってことですよね。田村さんはその作品を創る自信があるからU―STYLEをやってるってことですよね？
田村　自信というか、創りやすいですよね。何だろうな、初期の『UFC』って喧嘩でしょ？　喧嘩は誰でもできるでしょ？　いまのプロレスも誰でもできるようになってきてる。U―STYLEは技術も強さもないとできない。そんなに簡単にできるスタイルじゃないから。逆にやりがい、創りがいがあるんじゃないかなと思います。
山口　いい答えだ！（笑）。
田村　でもさ、ガンツは山口さんがいると、やっぱり緊張するの？
ガンツ　緊張じゃないんですけど、何かありますよ、そういうのやっぱり対等には話せないですから。
山口　もっとリラックスしてやろうよ。いい作品を創らないといけないんだから。
ガンツ　ボクの質問事項が書いたメモ、もう聞くことなくなっちゃったんですよ（笑）。
田村　もう聞くことないんだ？（笑）。
ガンツ　そう！
山口　「そう」って（笑）。メモ以外のこと話そうよ。メモ以外のことを話すのがU―STYLEだから。メモに書いてあることをキチッとやるのがこれからのプロレスだとしたらね。
田村　うまいなぁ。でも難しいですよね、活字にするのは。でも、なんでチョロは喋ろうとしないの？
チョロ　ボクは構成担当なんで、なるべく目立たないようにと（笑）。
田村　チョロは久しぶりだよね。
山口　ちゃんと挨拶した？
チョロ　いや、会う度に「久しぶり」って言われるんですよ。
田村　会ってない会ってない。3年ぐらい喋ってないよね。
チョロ　じゃあ、それでいいです。
ガンツ　で、いま田村さんは『PRIDE』とU―STYLEを両立させてますよね。『PRIDE』に出てる意味って何ですか？
田村　ん～、意味って何だろうね。純粋にああいう場に〝場力〟があるから、お客さんの見方も違うし、U―STYLEの客とも違うし、そういう場を持ってるからかな。あんまりよく分からんけど。
ガンツ　惹かれるってことですか？
田村　惹かれるよね。あんまり好きじゃないけど。
山口　好きじゃないのに惹かれるって、よく分からない（笑）。
田村　嫌よ嫌よも好きの内。
ガンツ　田村潔司のもう一つの一面を表現する場なのかなと。
田村　そうそう。もう出ないけどね。
ガンツ　そうですか（アッサリと）。
山口　ちょっと、お前もっとリアクション取れよ！　重大発言だろ！（笑）。
ガンツ　いま質問するとこだったんですよ！。田村さんの中でも、いまU―STYLEだけになったらダメじゃないかっていうのはないですか？
田村　ダメだね。楽だと思うけど、別

Kiyoshi Tamura

リングス時代の先輩後輩がU―STYLEのリングで初対決！　喧嘩腰で突っ掛かっていく伊藤に、三倍返しで拳をぶつける滑川。試合は先輩の滑川が勝利を収めたが、納得がいかないのか両者はリング上で大乱闘！

セミ前では上山と三島が激突。両者共にスピーディーな打撃の攻防を繰り広げたが、最後はヒザの負傷が完治していない上山が足を攻められレフェリーストップ。決まり手は「通天閣を横に倒したような固め」とのこと

前大会での田村潔司挑戦者決定戦では、小柄ながらも、そのセンスと、うまさで決勝まで勝ち上がった佐々木恭介。大先輩の坂田相手に「おい、コラッ！」と張っていくなど強気な面も見せたが、最後は5ロストポイントで敗退

Kiyoshi Tamura

にU―STYLEなくてもいいし。
山口 なんだ、そりゃあ（笑）。
田村 俺自体の存在もなくたっていいし（笑）。
山口 精神鑑定が必要な話になってきたよ。
田村 実家に寿司屋の修業に行こうかなと。
ガンツ （無視して）大晦日に大きな大会が3つもある状況についてはどう思います？
田村 うーん！ どうでしょう？（長嶋茂雄調で）
山口 ガハハハハ！
田村 どうでしょう、編集長？
山口 迷惑な話ですよ。スタッフ派遣するだけで四苦八苦ですよ。しかもほとんど同時刻。
田村 あ、そうか。
ガンツ え〜、今日は、こんなところでよろしいでしょうか？（笑）。
山口 いいの？ 良くないんじゃないの？（笑）。この間のU―STYLE観てさ、ガンツはどう思ったの？
ガンツ ボクの中では「U―STYLEっていうのはこうじゃなきゃいけない」っていうのがあるんですけど、間違いなく言えるのは、田村潔司のU―STYLEだけは観ておけと。
田村 いいこと言うね（ニッコリ）。
山口 金取った方がいいんじゃないの（笑）。でもそうだよね。田村潔司の試合を観ておかないと損するよね。
田村 前に山口さんに言ったことあるけど、普通の専門誌の人はそこまで書いてくれないから。
ガンツ 「シャーマンにきた藤井を田村がアームロックで逆転勝ち」って書かれても、誰も観に行かないですよ。
田村 そういう部分では唯一誉められるかな、『紙プロ』は。

『紙プロ』とU-STYLEって、なんか似てるんだよね

ガンツ ありがとうございます（笑）。
田村 それに『紙プロ』とU―STYLEって似てるんだよね。
山口 ああ、そうかもしれない。
田村 U―STYLEは格闘技とプロレスの両方をいい塩梅で。『紙プロ』もそうじゃん。
山口 孤高の雑誌ですよ。孤高の媒体『紙プロ』（笑）。でもやっぱり「いま、田村潔司を観ないと損だ」とは書けるけど「U―STYLEを観ないと損する」とは書けないもどかしさも正直あるんですね。
田村 だからウチの記事が小さいんですね。
山口 いや、それはガンツのせいですよ。俺は18ページぐらい取れって言ってるんだから。できあがったの見たら1ページしかないんだもん（笑）。
田村 お宅の社長は嘘つきでしょう。ホント怖いね（笑）。
ガンツ さあ、どうでしょう（笑）。
山口 それに、U―STYLEに対する思い入れも田村さんに敵う人がいないじゃないですか。『紙プロ』も一緒ですよ。俺が抜けたらガンツやチョロがやってくれるだろうと思うと同時に、やっぱりダメだろうなっていう気持ちもある（笑）。
田村 メチャメチャ腹立ちますよね（笑）。
山口 ホントに腹立つ！（笑）。
ガンツ え〜、そろそろ終わりにしましょうか（笑）。今日はU―STYLEのお話をお聞きしました。
山口 何、無理矢理締めようとしてんだ、お前は！（笑）。
ガンツ （無視して）ありがとうございました！

【12月13日／U―FILE CAMP調布近くのカラオケBOXにて収録】

●登戸ジム
営業時間 ■月曜日〜土曜日17：00〜22：00
日曜日13：00〜18：00
休館日 ■月曜日
入会金 ■25000円
月会費 ■一般12000円　学生・女性10000円
住所 ■神奈川県川崎市多摩区登戸1568
問 ■044-932-0282
アクセス ■小田急線向ヶ丘遊園駅から徒歩5分（登戸郵便局前）

●町田ジム
営業時間 ■火曜日〜金曜日18：00〜23：00　土・日14：00〜19：00
休館日 ■月曜日
入会金 ■20000円
月会費 ■一般12000円　学生・女性10000円
住所 ■東京都町田市原町田1-2-3
問 ■042-739-1072
アクセス ■JR町田駅南口から徒歩2分、小急線町田駅南口から徒歩5分

●調布ジム（西調布格闘アリーナ）
営業時間 ■月曜日〜金曜日18：00〜22：00　土曜日12：00〜16：00
休館日 ■日曜日、祝日
入会金 ■20000円
月会費 ■一般12000円　学生・女性10000円　小学生8000円
（親子で入会の場合は5000円）
住所 ■東京都調布市上石原2-40-6　B1F
問 ■0424-80-3731
アクセス ■京王線西調布駅から徒歩4分

●赤羽ジム
営業時間 ■月曜日〜土曜日18：00〜22：30　日曜日13：00〜17：30
休館日 ■木曜日・祝日
入会金 ■20000円
月会費 ■一般12000円　学生・女性10000円
住所 ■東京都北区赤羽3-3-3
問 ■03-3902-3170
アクセス ■JR赤羽駅より徒歩5分、地下鉄赤羽岩淵駅より徒歩1分

●大森ジム（ゴールドジムサウス東京ＡＮＮＥＸ内）
営業時間 ■月曜日、金曜日18：30〜22：00　土曜日16：30〜18：30
休館日 ■祝日
入会金 ■20000円
月会費 ■一般10000円　女性9000円
住所 ■東京都大田区山王2-4-1大森駅前ビル6・7F（ゴールドジムサウス東京アネックス内）
問 ■044-932-0282（U-FILE CAMP登戸）
または 03-5718-3939（ゴールドジム）
アクセス ■JR京浜東北線大森駅、山王西口から徒歩2分

■U－FILE　CAMPオールスター戦
【日時】2003年12月27日（土）　試合開始14:00
【料金】2000円（当日は500円増し）
【席種】全席自由
【内容】U－FILE
CAMP所属プロ選手によるエキシビションマッチ

■U−STYLE 1周年興行　in 後楽園ホール
【日時】2004年2月4日（水）
【会場】東京・後楽園ホール
【料金】VIP席10000円/A席7000円/B席5000円/C席4000円

OFFICIAL SITE 限定　チケット先行発売中
---チケット購入方法---
以下の項目を必ず明記の上info@u-filecamp.comまで送信すること。
代金引換（ご購入代金＋送料500円）にてお届けします。
メールタイトル「U-STYLE 1周年興行」
1. チケットの種類（VIP席、A席、B席、C席）と枚数
※席の種類は必ず明記して下さい
2. お名前
3. 住所
4. 電話番号

1.22『DEEP』
後楽園ホール

サンボ姫、『DEEP』に初登場!!
辻結花に続いて、『DEEP』のリングにジョシカク戦士が登場！　スマックガールの初代ライト級王者、しなしさとこが参戦することになった。相手には日本人選手が予定されている。

滑川、復帰戦の相手は……
負傷が癒えた滑川康仁がバーリ・トゥード復帰戦に挑む!!　渋谷修身戦以来となる『DEEP』のリングでは、再びパンクラシストとの対戦がプランニングされている。

長南亮（U-FILE CAMP） vs 松井大二郎（高田道場）

2004年第一弾は"日本人対決"で勝負!!
高田vs田村・代理戦争がボッ発!!

長南の勢いか？　松井の経験が優るか？

〝U－FILEの異端児〟と、〝高田道場の切り込み隊長〟が激突!!

桜井〝マッハ〟速人を破るアップセットをやってのけ、中量級の最前線に一躍飛び出した長南が、『DEEP』のメインイベントに登場！　高田道場の松井と日本人対決に臨むことになった。

上り調子の長南に対して、松井は『武士道』出場権を懸かったガチンコ道場マッチで、ヤマノリの前に無念のタップ負けを喫したばかり。勢いの差はあきらかだが、松井には、世界のトップファイターが集う『PRIDE』のリングで、強豪ガイジンと闘い続けてきた経験、そして誇りがある。契約体重は90キロと、長南からすれば一階級上の闘いを強いられることになるが、最も警戒すべきは松井の経験値になることだろう。

そして、両者の背景が試合の緊張度を高めていく。各ジム・道場に出稽古を頻繁に行うなど、U－FILE所属ながら〝田村色〟が薄い長南だが、周囲は〝高田vs田村・代理戦争〟と捉えるのは明白である。〝日本人対決〟〝上を目指す者vs踏み止まろうとする者〟〝代理戦争〟など、あらゆる刺激的な要素が詰まったこの一戦は、絶対に見逃せないのだ！

『DEEP』大会情報
1月22日（日）後楽園ホール
開場18：00 / 試合開始19：00

■入場料金

席種	料金
SRS	¥20,000
指定A	¥6,000
指定B	¥5,000

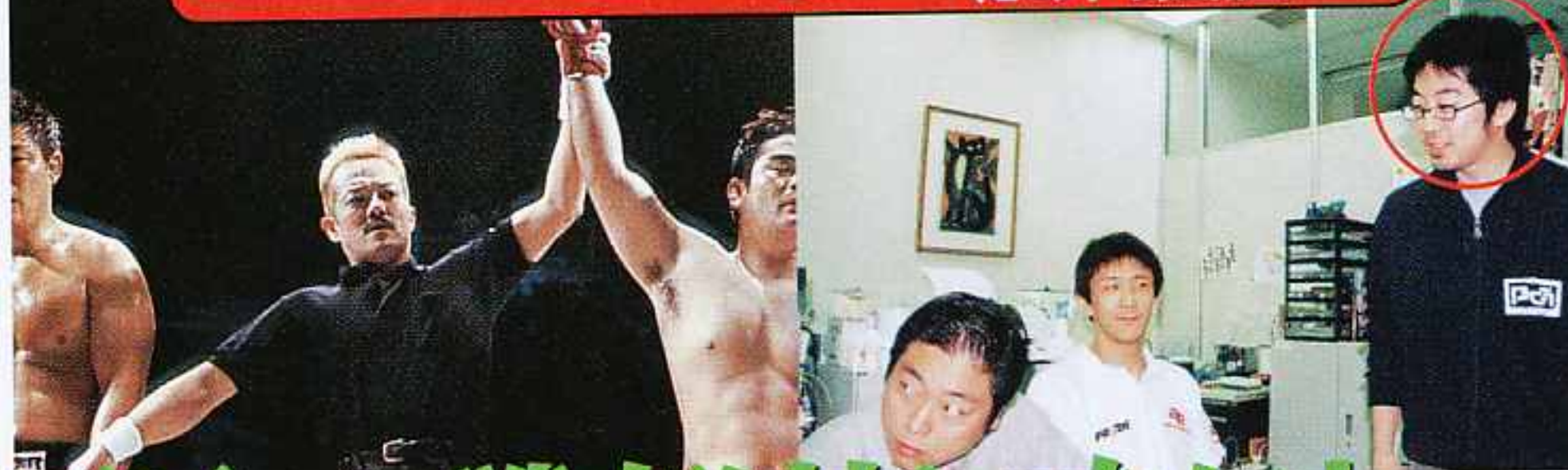
（当日は全席種500円増し）

■対戦カード

長南亮	vs	松井大二郎
滑川康仁	vs	X
しなしさと	vs	X
門馬秀貴	vs	池本誠知
アングロサムソン大場	vs	藤沼弘秀

■問い合わせ
DEEP事務局（TEL. 052-339-0303）

12.28『SAEKI祭り』
ディファ有明

塩崎けいじ vs 野口大輔（セコンド・島田裕二）

佐伯さんのデビュー戦だけじゃない！
"因縁"のレフェリー最強決定戦が実現!!

仁義なきレフェリー闘争！　塩崎vs島田!!

『PRIDE』vs『DEEP』、レフェリー仁義なき戦い!!

全試合プロレスルールで行われ、佐伯代表の夢であったプロレスデビューが実現する『SAEKI祭り』!!　そんな愉快痛快佐伯クンな空間に、緊迫感が漂うシュートな闘いが行われる。一昨年、『LEGEND』のルールディレクターに就いたことを境に、『PRIDE』から遠ざかっている塩崎氏が、『PRIDE』レフェリング陣の一角、野口氏と対戦することになったのだ。野口氏のセコンドには、『ハッスル1』劇場で真性のヒール振りを発揮している島田氏が付くという絶妙なスパイス！　真夏の格闘技戦争と謳われた『Dynamite!!』vs『LEGEND』が生んだ因縁は、周り回ってなぜか『SAEKI祭り』で決着を迎えることになる。

野口氏は柔術、レスリングがベース。逆に塩崎氏は打撃が主体。両者とも〝腕に覚えあり〟なレフェリーだけに、〝お祭り空間〟を戦慄の色に染めることは十分にありえる。〝レフェリー最強決定戦〟などと銘打たれたら、和田さんやマット・ヒューズなんかも黙ってないだろうし、今後の展開も含めて要注目な一戦だ！　誰が一番強いレフェリーかハッキリさせろ！

SAEKI祭り大会情報
上山龍紀トークショー、入江秀忠のカラオケショー、ビンゴ大会もあります!!

12月28日（日）　ディファ有明
開場17:00 / 試合開始18:00

■入場料金
全席指定 ALL¥4000（当日¥500up）

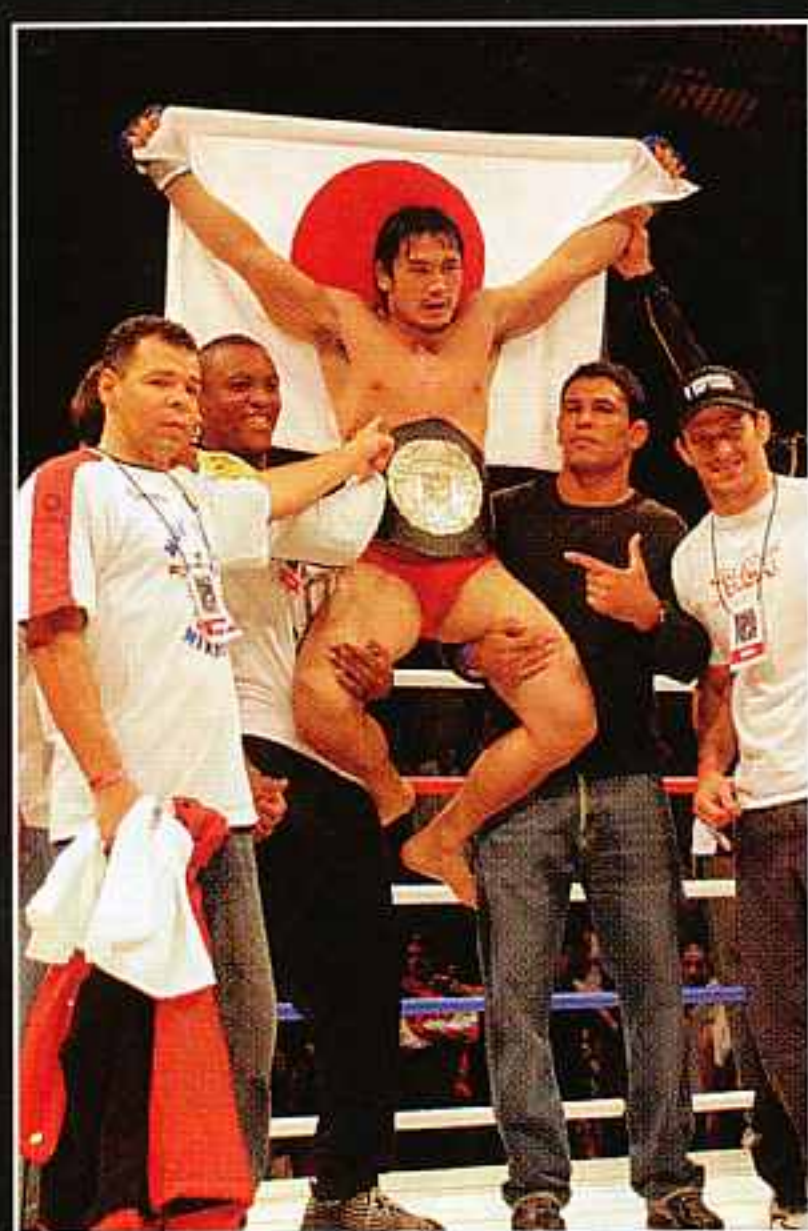
■対戦カード
- 三島☆ド根性ノ助＆須田匡昇 vs スペル・デルフィン＆えべっさん
- 石川雄規＆冨宅飛駈 vs 滑川康仁＆伊藤博之
- 門馬秀貴 vs 男色ディーノ
- 鬼木貴典＆石井淳 vs 橋本友彦＆池本誠知
- 塩崎けいじ vs 野口大輔（セコンド・島田裕二）
- "ランバー"ソムデート吉沢 vs 大刀光
- しなしさとこ vs 若林次郎（エキシビジョンマッチ）
- 田村和宏 vs 佐々木恭介＆森山大＆Mr. X
- 一宮章一＆佐伯繁 vs 大久保一樹＆ゴージャス松野

■問い合わせ
DEEP事務局（TEL. 052-339-0303）

ブラジル武者修行真っ只中
密かに牙を磨く日本の切り札を直撃！

美濃輪育久

リアルプロレスラーを求め 自問自答の日々

この春パンクラスを離脱、ブラジルへ武者修行に旅立った美濃輪育久。ブラジリアン・トップチームの強豪たちとの連日にわたるスパーリングで実力も急上昇、すでに現地で試合を行い激勝するなど、来たるべき日本での復活へ期待は高まるばかりである。パンクラス時代も、気合とプロレスラー魂だけで観客を虜にしてきただけに、そこへトップチーム仕込みの技術が加われば鬼に金棒！　大晦日の興行戦争、そして来年へとカオス状態のマット界で、日本の切り札的存在になる予感も漂う。そんな中、ビザ更新のため一時帰国していた美濃輪をキャッチ、密度の濃すぎるブラジル修行の中間報告をしてもらった。

聞き手&文／橋本宗洋
撮影／森モーリー鷹博
構成／堀江ガンツ
designed by さおとめの事務所

——美濃輪さん、お久しぶりです！

美濃輪　ごぶさたしてます。

——ずいぶん髪が伸びましたけど、向こうでは切ってないんですか？

美濃輪　そうですね、とりあえず言葉が分かるようになるまで床屋はやめとこうと思って。

——まぁ、言葉が分からなくって床屋に行かないっていうのはプロレスラーの海外武者修行の定番ですからね（笑）。で、念願かなっての海外修行ですけど、一人で海外に行くのも初めてですよね？

美濃輪　「やべぇな」と思いましたね。ロサンゼルスまでは飛行機の中に日本人もいるんですけど、そこからサンパウロに行く飛行機はほとんど周りがブラジル人になるんですよ。

——だんだん孤独になっていって。

美濃輪　もうリオに着いたら日本人はボクしかいなくて。空港にマリオ・スペーヒーが迎えに来てくれたんですけど、そのときにはもう完全に孤独でしたね。

——そこで腹を括ったって感じなんですか。

美濃輪　寂しさとか不安とかあるんですけど、なんか楽しいみたいな部分もありましたね。

——その時点では、言葉は全然分からなかったんですか？

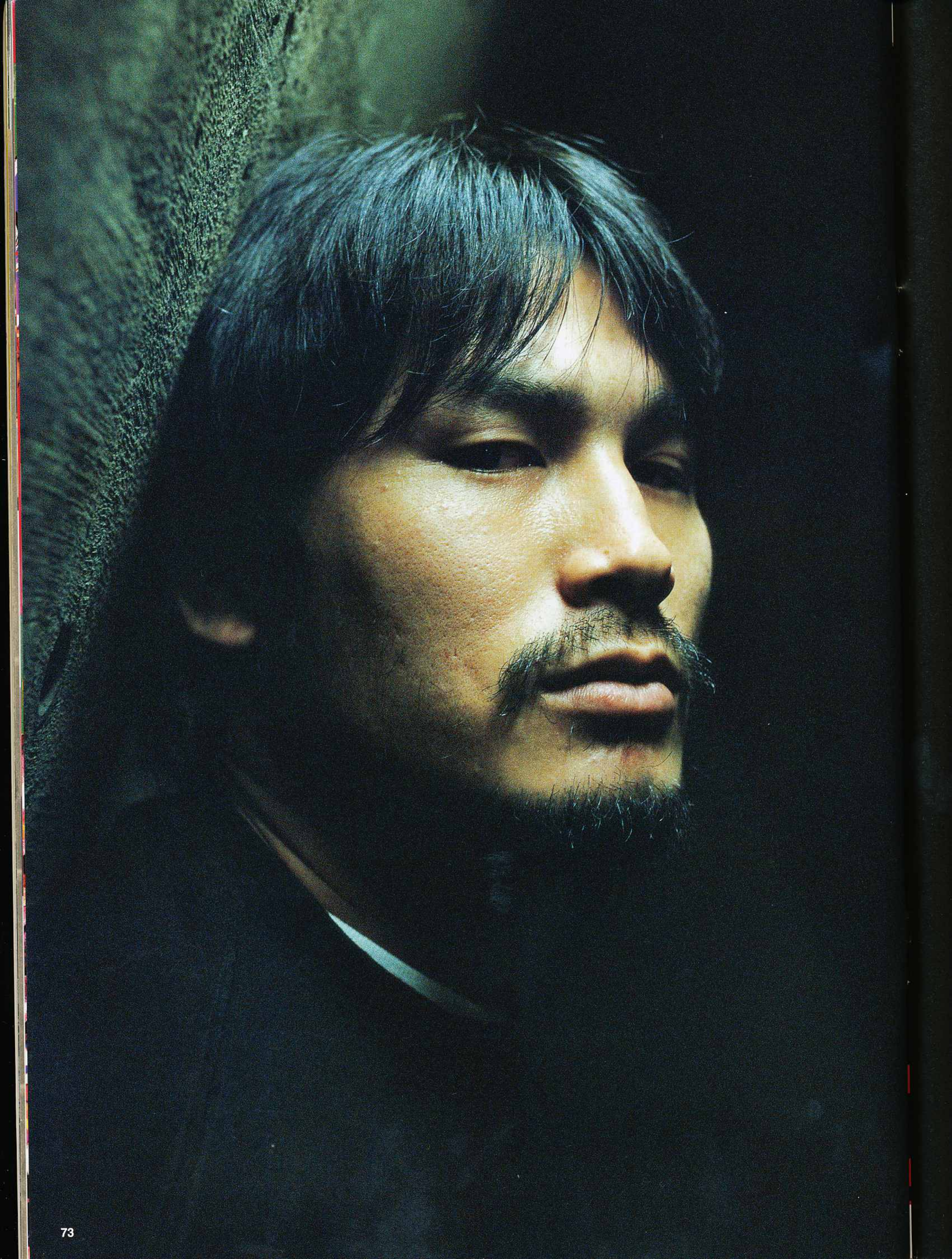
美濃輪　とりあえず「こんにちは」とか「ありがとう」、「おはようございます」だけ覚えていったんですよ。

——挨拶だけはきちんとしとけと（笑）。

美濃輪　あとは相手の声をよく聞いて。そうすると似たような言葉が何回か出てくるんで、それを辞書で引いて。最初は雑音みたいだったのが、だんだんクリアになってくんですよね。「○×？·#@¥☆ありがとう」とか「○×？·#@¥☆こんにちわ」とか、部分的に分かってきて。

——今は意志の疎通とかそれなりにできるようになりました？

美濃輪　それなりですけど。たぶん日本語にしたら「今日、7時、明日、ここ」みたいな

練習以外は孤独なので、初めて字だけの本を読破しましたね

感じで。でも向こうの人もちゃんとした文法でしゃべってないですね。日本でも「誰？」とか言うような感じで。

——いちいち「あなたはどちら様ですか？」とはあんまり言わないですね（笑）。

美濃輪　だから単語を覚えていけば。

——言葉以外で困ったこととかありました？

美濃輪　やっぱり一人だってことですね。練習して、食事して、で、次の練習時間まではずっとこう……（うずくまるようなポーズ）。いろいろ考えごととかして。最初はテレビも電話もなくて。部屋に帰ったらポルトガル語の本を読むか体を休めるかしかなくて。練習と食事と寝ること以外は、ただ時間が過ぎるのを待ってる状態が多かったですね。

——修行僧ばりの生活ですね。

美濃輪　日本語の情報がなんにも入ってこないんで、けっこう不安でしたね。

——日本から漫画とか雑誌とか持ってかなかったんですか？

美濃輪　人からもらった小説だけで。初めてこのくらい（2.3センチ）の活字だけの本を読みましたね。過去最高の厚さですね（笑）。

——じゃあもう、それをひたすら読んでるしかないっていう。

美濃輪　そうですね、あと日本から持っていったのはポルトガル語と英語の辞書。それと国語辞典ですね。ボク、ちょっと日本語も分からないところがあるんで、漢字とか。その小説読んで分からないところがあったらそれで調べて。

——海外に国語辞典持ってく人ってのも珍しいですね（笑）。

美濃輪　分からない言葉とか、今のうちに勉強しようと思って。でも今度は『キン肉マン』持ってかないといけないですね。ちょっと必要になってきましたね。

——必要になってきましたか（笑）。まぁ美濃輪さんのバイブルですからね。

美濃輪　苦しくなったら読んで、プロレスラーとは何かを追求したいですね。

——言葉はあんまり分からないし『キン肉マン』もないしで（笑）、不安になることも多かったと思いますけど、そういうときは何をしてました？

美濃輪　もう練習するしかないですね。

——買い物とかも行くんですか？

美濃輪　行きますけど、食べ物が多いですね。ほとんどが見たことないもので、それ買って食べるのが楽しみですね。毎回新しいものを買って。それでボクの経験値が上がるかなと思って。知らない場所なんで何をやっても経験値が上がると思うんですよ。毎日ドラクエやってる感じですね。

——とりあえず壷があったら覗いてみると（笑）。

美濃輪　そうやってると、だんだん自分がはっきり分かってくるっていうか、日本にいると気付かないようなことも感じれるんですよ。自分を守るのは自分しかいないし、悩みを打ち明ける人もいないんで。なんでも自分一人で考えて、自分一人で答えを出すしかないんですよね。

——自分を見つめ直しっぱなしですね。

美濃輪　何をやっても自分に返ってくるし、ずーっと自分と話し合ってる感じで。ちょっとケガしたり疲れがたまったときでも「ここで休んだらダメなんじゃないか」って自分の中で闘ってるんですよ。それで眠れなかったときもありましたね。

MINOWA IKUHISA

——はぁ～。

美濃輪　CDも10枚くらいしか持っていかなかったんで飽きちゃいますし。でも音楽を聞いてるときは調子いいときですよ。

——悩んでるときは音楽も聞かずに。

美濃輪　じーーっと動かないで考えて。とにかく次の練習の時間を待ってるしかないっていう。言葉にしても、日本にいるときみたいに「分からん！」じゃすまないですし。1個でも単語を覚えないと、前に進めないんで。

——日本にいれば誰かに頼れるんでしょうけど、それができないですからね。

美濃輪　何かあったら友達にメールして、返事が返ってきたらちょっと気持ちが落ち着いたりするじゃないですか。そういうのもブラジルではできないんで。よく「自分の時間がない」って言う人がいますけど……。

——美濃輪さんは自分の時間しかないというか。

美濃輪　それをどう活かすかを考えると、練習するか勉強するしかないんですよね。たまに「遊びたいな」とか「刺激がほしいな」とか思うんですけど、その刺激も自分で一から探さないといけないんですよ。日本だったら友達を電話で呼び出したり、そうじゃなくても電話で話すだけで気がまぎれたりするんですけど。練習と食事と寝ることだけで、あとは考えこんだり悩んだりしてたんで、時間の感覚も分かんなくなってくるんですよ。

——そこまでいきましたか。じゃあブラジルに来たのを後悔したときもありました？

美濃輪　「日本にいたら楽しいんだろうな」と

「俺がリアルプロレスラーだ」って勝ったら自然に出てきましたね

思ったことはありましたね。でも「日本にいたら、いまのこの経験もないんだろうな」とも思うんで。

――選手としてはもちろんですけど、悩んだ分だけ人間的にも成長したなって感じですね。

美濃輪　かもしれないですね。まぁ最近は友達とかもできてきましたし、トップチームの仲間に遊びに連れてってもらうこともあるんですけど。海に行ったりとか。

――美濃輪さん海が好きですよね。前、オーストラリアに行ったときも波に向かってドロップキックの練習してたって言ってましたもんね。

美濃輪　ブラジルでもやりました。危ないですね、あれは。波にさらわれると帰ってこれないんで（真顔）。

――じゃあ一人でいろんな所に出かけたりもするようになったと。

美濃輪　そうですね、バスとか使って。向こうのバスの運転手は凄いですね、平気でガンガン飛ばすし、タバコ吸いながら運転してるし（笑）。タクシー乗ってもガタガタの車で、フロントガラスとか割れてるんですよ。

――海外で一人でバスに乗れたら、けっこうなもんですよ。

美濃輪　最初は友達と乗って、ずっと景色見て「これに乗ったらどこへ行くか」っていくのを確認しとくんですよ。

――目で覚えて（笑）。何か印象に残ってる場所ってありますか？

美濃輪　なんでも印象に残りますね。目に入るものはなんでも。あとブラジルは自然が近くにありますね。東京だと、山っていったら近くて高尾山じゃないですか。ブラジルはちょっと歩けばあるんですよ。山があって海があって川があって町があって、で、ジャングルもあって。一回、ノゲイラとマリオに山に連れて行ってもらったんですけど、山登りっていうか岩登りに近い感じで。

――その3人でロッククライミングってのは素敵な絵柄ですねぇ（笑）。

〈ここでマネージャー内田氏が合流〉

内田　この場所、すぐ分かった？

美濃輪　けっこう歩きましたね。

――実はメチャクチャ分かりやすい場所なんですけどね（笑）。

内田　ジャパニーズ・ノゲイラって呼ばれてますから（笑）。

美濃輪　まぁ、こういうところが似てるみたいで。あと、よく遅刻したりとか。

――ノゲイラ選手も天然系ですか（笑）。

美濃輪　でも、ブラジルだとボクでもけっこう間に合いますね。自分が「遅刻した」と思っても「ミノワは時間どおりに来るなぁ」って言われたりとか（笑）。「しっかりしてる」って。

――ブラジル基準では早い方だと（笑）。

美濃輪　ボクが遅刻しても、みんなはもっと遅いから気がつかないんですよ（笑）。

――ノゲイラ選手が言ってたんですけど、美濃輪さんの部屋とアカデミーの間に貧民街があるんですか。

美濃輪　あぁ、ありますね。

――でも美濃輪さんはそこを避けずに、むしろ貧民街の人と交流してるって。

美濃輪　そういうとこだって分かんなかったんで、とりあえずみんなに「こんにちは」って言ってみただけなんですけどね（笑）。アカデミーに来てる選手でそこに住んでる人も

いるんで、ボクのことも知ってるんですよ。
――練習の方はどうですか？
美濃輪　日曜だけアカデミーが閉まってるんですけど、それ以外は毎日ですね。
――最初の練習はブラジルに着いた翌日ぐらいからですか？
美濃輪　着いた当日ですね。
――当日！　また早いですねぇ。
美濃輪　着いたのが朝だったんで、まず部屋に連れていってもらって荷物を置いて、街を案内してもらって部屋の場所と道場の場所を確認して。で、「じゃあ午後から練習だから」って。いきなりスパーリングでしたね。凄い不思議な感じでした。

海の中でドロップキックの練習するのは、波にさらわれて危険ですね。

MINOWA IKUHISA

――凄いな、それは。
美濃輪　練習しにブラジルに行ったんで当たり前なんですけど。しんどいときとか、誰も背中を押してくれないのは大変ですね。言い訳作っても、誰も聞いてくれないですし。なんでも自分なんですよ、最後は。
――練習そのものはどうですか？　あれだけいい選手が揃ってるジムなんで、相当きついとは思うんですけど。
美濃輪　でも練習自体は、厳しいっていうのは覚悟してたんで。きつくても「こういうもんだろう」って感じですね。予想通りっていうか。
――練習メニューはどんな感じですか？
美濃輪　柔術、バーリ・トゥード、レスリング、ムエタイ、ウェイトをローテーションで。1日5時間から7時間ぐらいです。昼間と夜に分けて。昼が打撃で、夜が組み技かバーリ・トゥードで。
――日本での練習と何が一番違いますか？
美濃輪　練習メンバーですね。
――そりゃそうですけど（笑）。
美濃輪　人数も違いますね。大学の部活なみに人が多いんで、スパーリングでも、順番にやってくと同じ相手とやるのが2週間とか3週間後になるんですよ。ローテーションがあるんで同じ人と当たることもあるんですけど、今まで最高で5回くらいですね。
――何カ月もやってて、それぐらいなんですか。なかなかクセとか手の内が分からないと。惰性にならなくていいかもしれないですね。
美濃輪　それはありますね。常に新しい相手とやるんで。あと、やっぱり外から来た人間なんで、スパーリングでもお互い「負けらんない！」って気持ちは出てきますね。試合に近い感覚で。疲れますけど、いい練習になりますね。
――トップチームで新しく学んだこととか、「こんな技は知らなかった」みたいなことってありました？
美濃輪　技はいろいろありますね。その中で自分が使いやすいやつを試していって。
――教えてもらうっていうより、体で覚える感じですか。
美濃輪　見て、やられて、やってみてっていう。それしかないですね。言葉が分からないから、余計に神経を研ぎ澄ませて。
――で、選手と交流していくうちに言葉も覚

美濃輪育久、韓国で格闘技セミナー開催

当初は11月1日、韓国のバーリ・トゥードイベント『KO－KING』でダン・スバーンと対戦する予定だった美濃輪。しかし、大会自体が中止となり、試合は流れてしまったが、試合を楽しみにしていた韓国のファン、日本から美濃輪の試合を見に行こうとしていたファンために、同日、総合格闘技セミナーを開いた。セミナーには韓国の王者クラスも参加したが、みな美濃輪の強さに驚いていたという。

禁欲も修行の内なんで、今回は“しない最高記録”を作りましたね

えていって、と。

美濃輪　でも汚い言葉ばっかり教えてくるんですよ（笑）。

——あ～、なんか分かりますね（笑）。何を教えられました？

美濃輪　アホとかバカとか、そういうのから。「あいつに○○って言ってきてみろ」って言われて言いにいくと、みんなでゲラゲラ笑ってるんですよ。それで後から辞書で調べてみたらバカって意味だったり。

——2月にアルメイダとやったとき「オモプラッタの返し方が分からない」って言ってましたけど、こっちで覚えました？

美濃輪　オモプラッタはもう大丈夫ですね。やってみて「これかぁ！」って思いました。あれは関節技じゃなくて返し技なんですね。言葉の意味は「肩甲骨」で。

——覚えましたねぇ（笑）。

美濃輪　そういう柔術と、自分のプロフェッショナルレスリングをうまくミックスさせていきたいですね。あと今まで自分が使ってた技も、トップチームで練習してると、より磨かれてきた感じがしますね。

——へぇ～。それは面白いですね。

美濃輪　毎日が極限状況でやってるんで、最終的に出るのは自分の技なんですよね。厳しい中で出す技なんで、自然と磨かれてくる感じで。それプラス、徐々に新しく覚えたことが出せてくるっていう。こないだの試合のときも、極めたのは今までも使ってた技なんですけど、そこにいくまではガードポジションのときの対処とか、トップチームで身についたことがあったんで落ち着けたんですよ。そういうミックスした感じですね。

——ブラジルに行って2カ月で試合だったんですけど、いきなりタイトルマッチっていうのも凄いですよね。日本で試合するときとはやっぱり違いました？

美濃輪　リングに上がるまで、気持ちに波があるんですよ。上がったり下がったり。それも全部自分で調節していかないといけないんですよね。

——あぁ、励まされたり気を紛らわせたりができないから。

美濃輪　励まされてるのは分かっても、言葉の意味がしっかり分かるわけじゃないですし。試合が始まる瞬間に、その気持ちの波が上がってないといけないんで難しかったですね。会場に入ってから試合までの時間でも上がったり下がったりするんですよ。直前まで自分が赤コーナーか青コーナーかも分かんなかったし。負けた選手が控室に戻ってくると「あぁ……」って気持ちが下がったり、食事したらまた上がったり。

——食事しても上がるんだ（笑）。

美濃輪　あとは勝つイメージを考えたりとか。で「上がってきた上がってきた」と思ってたら、負けた選手が目に入ってヒュ～って下がってみたり（笑）。

——試合では、その波のタイミングは合いました？

美濃輪　合いましたね。

——お客さんの反応も日本とは違いますよね。

美濃輪　違いますね。凄い熱狂的で。

——美濃輪さん自身も、勝った瞬間は感情が爆発した感じだったみたいですね。

美濃輪　そうですね。マイクで「オレがリアル・プロレスラーだ！」って叫んでましたね。リング下でインタビューがあって。フリップに英語と日本語で質問が書いてあって「日本語で答えてくれればいい」ってことだったんですけど、できるだけ日本語を使わないようにしてたんで、ポルトガル語で「ありがとう」って言って。

——どんな質問だったんだ（笑）。

美濃輪　いや「試合の感想は？」とか、そんなような（笑）。あと「トップチームの環境は？」って質問には「ベリーグッド」って言って。で、最後に「日本のファンに一言」ってあったんで「オレがリアル・プロレスラーだ！」って。

——カッコいいなぁ～。それは絶対、日本でも放送すべきですね。あ、試合っていえばトップチームでは試合前1カ月間セックス禁止だって聞いたんですけど。“ブラジルセックス禁止令”があるって（笑）。

美濃輪　いや、ボクは大丈夫でした。オナニーもしなかったし。そっちの修行もしましたね（笑）。

——一人でいると悶々としてつい、とかありそうですけど（笑）。

美濃輪　日本にいたら完璧に無理でしたね。いつも「2週間前から抑えとこう」って思うんですけど、それが「1週間でいいや」ってなって、結局3日くらいになっちゃうんですけど。今回は“しない記録”を作りましたね。布団の上でうなったりしながら耐えました（笑）。「これも修行だ」とか言って。

——そういう面でも強くなったと（笑）。ノゲイラ選手は「ミノワは早く彼女を作った方がいい」って言ってましたけど、どうなんですか、その辺は？

美濃輪　いや～、まだ分かんないことも多いんで。みんな女の子を紹介してくれるんですけど、いきなり「腰に手を回せ」とか言うんで……。

——そんなに照れなくてもいいじゃないですか（笑）。実際、向こうの女の子はどうですか。

美濃輪　きれいですね。スタイルも日本人とは違いますし。だから「日本人には日本人のよさがあるんだな」と思ったり。最初は日本人の方が好きだなと思ってたんですけど……。

——ラテン系のよさにも目覚めましたか（笑）。

美濃輪　勉強しといた方がいいんじゃないかっていう（笑）。

——男の修行をね（笑）。次の試合はいつ頃になりそうですか？

美濃輪　まだ決まってないんですけど、自分が納得できる状況とタイミングになれば。向こうの状況とかもだんだん分かってきてるんで、練習も最短距離っていうか、もっとうまくやれていくと思いますね。今度行くときにはキン肉マンの単行本とフィギュアも持っていきますし。それ見れば気合が入るんで。

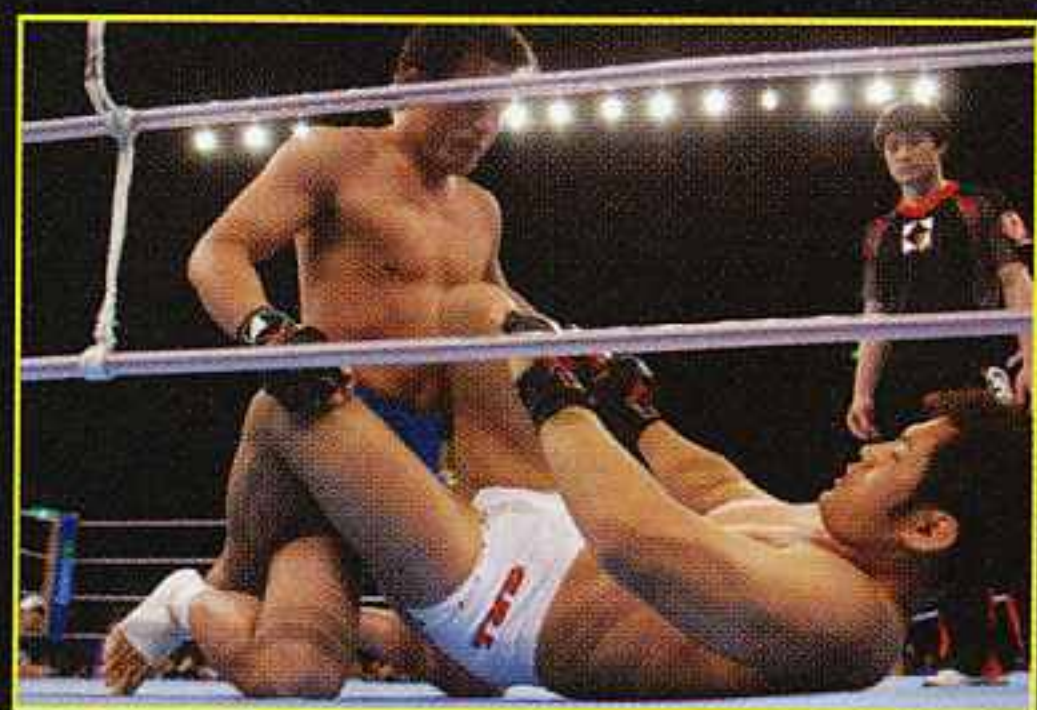
——美濃輪さんは日本の切り札になれる存在だと思ってるんで、また一回り成長して戻ってくのを楽しみにしてます！

みのわいくひさ■1976年1月12日、岐阜県出身。自らの闘いをすべて「プロレス」と称し、“科学的に改名不可能”と言われる、鬼気迫るファイトで総合格闘技の常識を覆し続けるリアルプロレスラー。今年、パンクラスを退団し、現在はリオのブラジリアン・トップチームで修行中。日本の秘密兵器として、帰国後の活躍が待たれる。

文／橋本宗洋
構成／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (Two Three)

菊田に完勝し、大晦日決戦出陣!!

近藤有己よ、闇雲に出て行け!!

(by 船木顧問)

菊田が仕掛けてくる大内刈り、外掛けといった投げを、まったく動じることなく完全に封じてみせた近藤が成長ぶりを充分に感じさせた

近藤はグラウンドでは深追いせず、立ち上がって菊田をコーナーへと押し込む。ここから絶え間なくパンチ、ヒザを連打しまくって菊田を消耗させていった

2Rには近藤のパンチがクリーンヒットして菊田がグラッとくるシーンも。必死に前蹴りを放ち、突き放そうとする菊田だが、いよいよ試合は近藤有利に

そして3R開始直後、突っ込んできた菊田の左目に「一番得意なパンチ」という〝ブルート〟(トレーナー命名)がヒットしてKO！　この結果、菊田は総合ルール対日本人初黒星！

パンクラス10周年記念興行、その第2弾は戦慄の幕切れとなった。

郷野勝利&山宮と抱擁、のプチアングルや衝撃の船木発言など見所は多々あったこの大会だが、ファン最大の注目はなんといってもメインの菊田早苗vs近藤有己。因縁の再戦にして現在のパンクラスが提供できる最高のカードである。実際、両者が入場した瞬間に場内の空気は一変。期待感と緊張感が入り混じった、大一番独特のムードに包まれたのだった。

今回も接戦が予想されたこの試合だが、結果的には予想外のワンサイド・ゲームとなった。

1Rから菊田の投げを完璧に封じ、逆に押し潰すようにテイクダウンする近藤。この時点で「自分の進化を感じた」というが、続く差し合いの攻防がまた凄まじかった。菊田をコーナーに押し込んでコツコツとボディへのパンチ、ヒザ蹴りを打っていく。近藤の場合、この〝コツコツ〟が半端じゃない。

一発の威力もさることながら、とにかく絶え間なく、連続して打撃を続けることで相手に反撃のスキを与えないのである。近藤と対戦したある選手は、この近藤の差し合い打撃を「痛いんだけど、ヘタに動いたらもっとやられるかも、と思って我慢してしまう。そうしてるうちに、決定的なダメージまでもらっちゃうんですよ」と語っている。近藤が見せる差し合いは、れっきとした〝殺し技〟

“船木劇場”にハズレなし! またしても爆弾投下!!

「来年から・ismは解散してほしいです!」

「正直、世界に通用する選手は、いまグラバカにしかいないです!」

ミドル級タイトルマッチ、ネイサン・マーコートvsヒカルド・アルメイダは、アルメイダが圧勝! 1R4分53秒、フロントチョークで新王者が誕生した。試合後、ヘンゾが放った蹴りでリング上は一時不穏な雰囲気となったが、これは落ちたマーコートに喝を入れるためだったという

ニルソン・デ・カストロと再戦した郷野聡寛は、ヒット&アウェーの郷野スタイルに加えパスガードにも成功して判定勝ち。GRABAKAジムの近くにジムを出したシュートボクセを挑発しつつ「新しい仲間も増えてレベルが上がると思う」と山宮の移籍もアピール

尾崎社長が「(ジョシュ・)バーネット選手を倒す第一候補」と評価するロン・ウォーターマンだが、この日はジミー・アンブリッツ(新日本プロレス)とドロー。ひたすら続く差し合いにブーイングも起こった

國奥麒樹真vs芹澤健一のウェルター級タイトル戦。実績の差から見て一本勝ちの期待もあった國奥だが、普段のシュアーな戦法に徹してタックル&殴りで判定防衛。パンチ連打で追い込むなど芹澤の健闘も光った

休憩明けにリングに登場した船木顧問の挨拶はまさに爆弾!「(リングアナからエグゼクティブ・プロデューサーと紹介され)すいません、オレ、顧問です。間違えないで下さい。正直言ってismはどうしようもない。できればismという名は使わないでほしいです。ismは、もともと鈴木選手が東京道場と横浜道場を一つにして付けた名前です。その鈴木選手は、いまパンクラスMissionというプロレス部門を作り、いまはismと関係を持っていません。来年からismは解散してほしいです。國奥選手、近藤選手、渋谷選手を中心に、新しい名前で、新しい方法で、新しいシステムでやってほしいです。いま、世界に通じる選手はGRABAKAにしかいません。その方法を取り入れて、新道場を作ってほしい。いまのままでは、道場に行って教える気にはなれません。高橋選手も同じ気持ちで、彼は出稽古に行ってます。3人が中心になって変えてください。そしたら、僕も教えに行く気になるかもしれない」。その後の選手たちの反応は様々だが、パンクラス内に巨大な波紋を巻き起こすのは必至!

元極真王者で現在は数見道場を主宰する数見肇がパンクラスマットに登場! 型、木柱折り、氷柱割りを披露した。正式参戦については「闘いたいという気持ちが芽生えたときは自分の本能に任せる」と前向きなコメント

大会開始時には、鈴木が挨拶。「パンクラスは、おかげさまで10年経ちました。たくさんの方の協力と、声援と、愛情で、ここまで育つことができました。今日、世界最高峰の闘いが行われると信じています」

デビュー以来負けなしの稲垣組・前田吉朗がバレット・ヨシダを破る大金星! タックルを切ってパンチを当て続け、最後もタックルをがぶってサイドポジションからのパンチ連打で世界レベルの寝業師をKOした(1R1分29秒)

修斗で桜井“マッハ”速人を破ったジェイク・シールズvsGRABAKAの鉄砲玉・三崎和雄の対戦はドローに。打撃、寝技ともに高度な攻防が続いたが、お互い決定打がなかった。「相手がタックルに徹底してきて計算が狂った」(三崎)

なのだ。

ボディを効かされ、油断すれば顔面にも拳が飛んでくる。2Rの終盤にはその顔を蒼白にする〝寝技世界一〟。そして3Rのゴング直後、突進してきた菊田に近藤の左フック(ブルートと命名)がヒット! 右目を打ち抜かれた菊田は、一度は組み付いたものの、もんどりうってダウン、すぐさまレフェリーが試合を止めた。

ノックアウト! 完全決着! 近藤、強すぎ!!

それにしても、近藤の進化ぶりにはあらためてド肝を抜かれた。いわゆる技巧派ではない、といって暴力的なストライカーでもない。近藤有己というファイターを表現するには、新しい形容詞が必要かもしれない。

かつては寝技が苦手で〝マグロ〟呼ばわりされていた近藤だが、ここにきて完全に課題をクリア。自分独自の流儀で、日本を代表するファイターにまで進化してみせたのだ。本人もかなりの手応えを感じたのだろう、大晦日興行戦争にも名乗りをあげ、ヴァンダレイ・シウバとの対戦もブチ上げた。

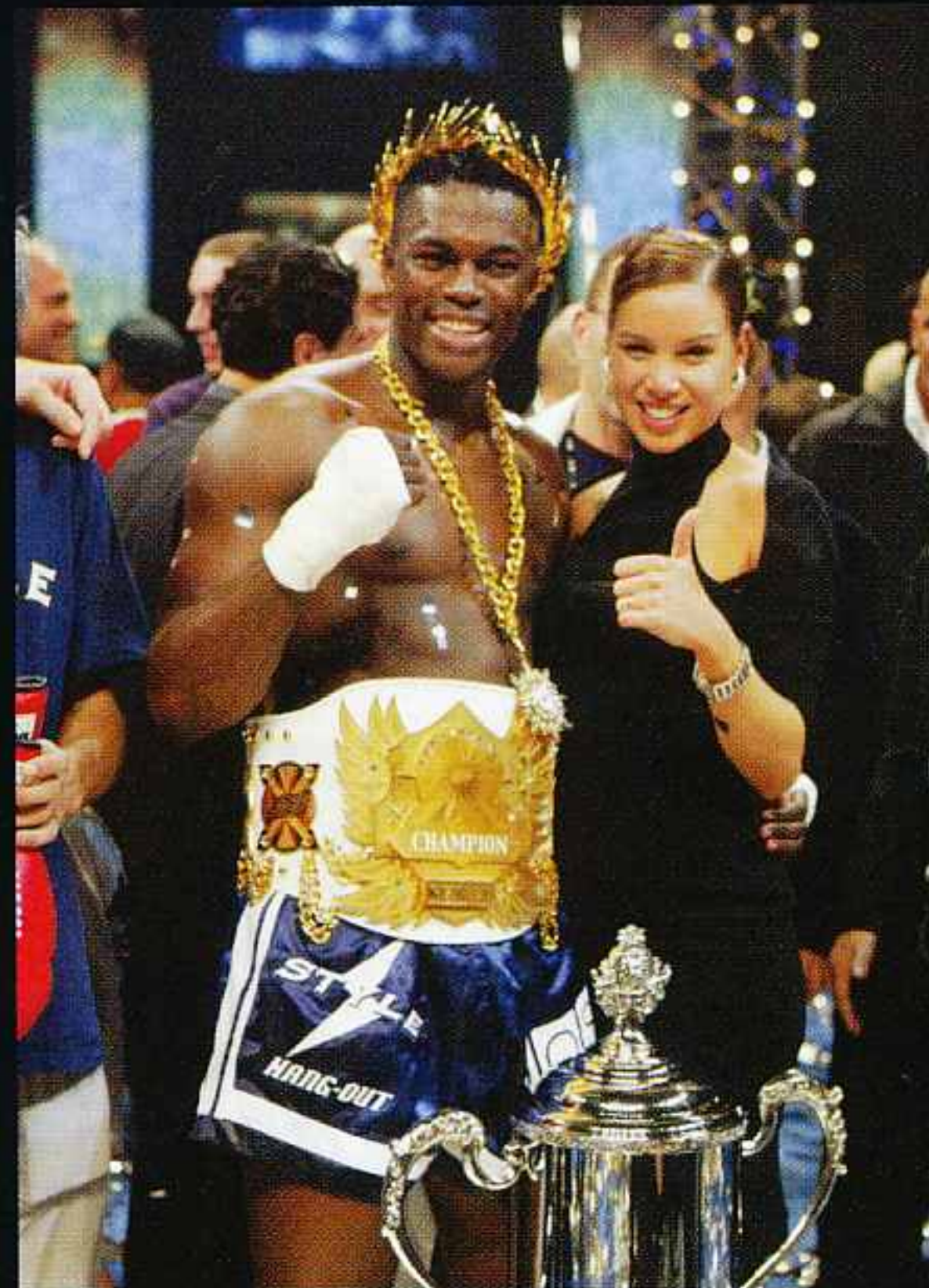
ちなみにその時、テレビ中継の解説ではヤスカクこと安田拡了氏が「(大晦日は)相手、金銭面も含めて一番いい条件のところをじっくり選んでほしい」といった〝まとめ〟のコメントをしていたのだが、ここで船木顧問が「近藤には闇雲にいってほしいですね。12・21のウチの興行(ディファ有明)にも出た方がいい。エースならそれぐらいじゃないと」と驚愕の1ヶ月3連戦指令!

自分は「ガチンコに疲れたから引退した」的な発言をしたにもかかわらず、弟子にはここまで過酷な要求! 船木恐るべしといった感じだが、近藤に対する我々の期待が高いのもまた事実。

すべての道はローマに通ず。ならば近藤よ、闇雲に進め!

FEG“アルゼ K-1 WORLD GP 2003決勝戦”12・6東京ドーム

飛びます！飛びます！

準々決勝ではピーター・グラハムを得意の飛びヒザでＫＯ！　準決勝ではボタを敗ったアビディを、これまた飛びヒザでＫＯ！　決勝での武蔵戦でもハイキック、必殺の飛びヒザ蹴りを連発し、見事優勝を決めたボンヤスキー。とにかく、凄い“モノ”の持ち主らしい

試合後は「王様になったみたいで凄く嬉しい」と、ご機嫌なレミー・ボンヤスキーはリング上で妊娠中のメリッサ夫人と熱いくちづけを交わした。最後は美人妻と一緒にファイティングポーズ！

オランダのボンちゃん K-1GP初出場初制覇!!

構成／松澤チョロ　撮影／乾晋也　designed by hisa (Two Three)

12・31タイソン争奪戦を制するのは曙かサップか!?

公開スパーリングで鼻血まみれにされてしまったボタのセコンドに付いた曙。「タイソンと闘ってみたい」とアピールする曙とサップの大晦日決戦はタイソン争奪戦となりそうだ。それにしてもみてみぃ、この風格!!

休憩明け、ビジョンにはＫ－１Ｔシャツを着たマイク・タイソンからのビデオレターが映し出された。「みんなの力でオレを日本に入れさせてくれ」とアピールした後、サップを挑発しまくったタイソンは、最後はファンに向けて「良いお年を！」

「契約書にサインをしろ、ビッグボーイ！」とのタイソンのメッセージに「ビッグボーイは契約書にサインをした。来年にでも闘ってやる！　その前に12・31に曙と戦って本物の王者は誰か知らしめてやる」とガッツポーズ！

判定ながら、セフォー、アーツといったビッグネームを下し決勝に進出した武蔵。しかしながら、日本人初のＧＰ制覇は夢と終わった

因縁の再戦となったアビディvsボタ戦は、残り時間10秒を切ったところでアビディの右ハイが炸裂！この一撃が効いて準決勝進出！

優勝候補筆頭と言われていたアレクセイ・イグナショフは準々決勝でアーツに敗退。そして、試合後は『Dynamite!!』に参戦を表明！

2004年1月23日東京・後楽園ホール、
24日大阪・IMPホールを直撃!!

AAA

脳が溶けるプロレス

2004年1月、海の向こうからトンデモないヤツらが飛来する! メキシコ最大のエンターテインメント・ルチャ・リブレ団体AAAが約3年ぶりに日本大会を行い、その狂気の世界を披露するのだ。世界のどのリングでもお目にかかれないド派手なコスチュームで超ハイレベルな空中殺法を駆使する彼らのルチャは、まさに芸術品! その闘いを見れば思考停止は確実、そのうち脳が溶け始めるはずだ。この世界観、ヤバすぎる!!

原稿/佐藤直子 構成/坂井ノブ
コラージュ/笠井修 協力/SOLLUNA
designed by matsu (Two Three)

熱いだけがラテンじゃない!!
ユルユルの衝撃が日本を襲う!!

「メキシコでやる試合って、時間通りに始まった試しがないんですよ。対戦相手も直前に変わるし。これってラテン気質ってヤツですかね、きっと」というのは、某レスラーの弁。地中海沿岸、中南米を中心に広がるラテン文化圏の住人は、激しく情熱的である一方で、小さいことは気にしない大らかさを持つ。大らか……いや、大らかすぎるのだ。出会った瞬間からオレとお前はアミーゴで、「1時に駅で待ち合わせ」は「3時頃に駅前あたりで会えるかも」という世界。電車が時間通りに来なけりゃ大ブーイングの日本では、到底考えられない〈常識〉がそこには存在している。

中米にドーンッと鎮座するメキシコももちろん同じ。日本人の視点から言わせてもらえば、とにかく超ド級でいい加減。国民的人気を誇るAAAにも、もちろんその気質は反映されている。ただしコレ、視点を変えてみると、こんなにもゆる〜い脱力感を楽しめる場所、日本では絶対に見つかりません!　ゴングや週プロでは決して味わえない、紙プロならではの目線で楽しむ方法をここにご紹介しよう。

リング上を眺めたとき、まず目に付くのがルチャ・ドールたちのビジュアルだろう。ラテン文化ならではの原色系コスチュームもデザイン的に十分楽しめるのだが、ここで注目すべきは、ペイント系レスラーたち。ルチャ・リブレ=マスクマンのイメージが強いが、AAAには顔や身体にペイントを施した選手も数多い。その代表格が、テクニコのエース、**グロンダ**である。見事なカギ鼻に、握れるほど長いアゴ、筆で書いたような眉毛を持つ真っ赤な異相のマスク(ツッコミどころ満載)。マスクに合わせて、全身も真っ赤にペイント。はち切れんばかりの大胸筋に、六つに割れた見事な腹筋、足の筋肉だって隆々で、やっぱりヒーローは別格だ。ギリシャ彫刻もビックリの筋肉の陰影はさすがだな、ってちょっとストップ! よ〜く近づいて見てみましょう……筋肉の輪郭、黒いインクで書いてんのかよっ! しかも、試合が終わったら、すっかり肌色見えてるし。名誉のために言っておくが、グロンダは鍛え上げられた立派な体格の持ち主である。WWEなら素材を生かしてムッキムキのボディをそのままに売り出すはず、間違いなく。しか〜し、せっかくの素材を生かさない、むしろ素材を殺しても何か別の強烈なイメージを文字通り上塗りしてしまうのがメキシコ流なのだ。ちなみにこのグロンダ、リアルすぎるブーメランパンツを着用。そんなに己を誇張したいか、エース。

LLLの**チャーリー・マンソン**も要チェック。ご想像の通り、外見はあのマリリン・マンソンとウリ二つ、と言いたいけれど、言い切れないこのもどかしさ。決してカッコよくはない。どうしたってキモイのだ。本家マリリンはあんなにカッコイイのに、どうしたチャーリー!? 試合後に顔面の白塗りがあっさり取れてオッサン顔が覗く姿は、落武者以外の何者でもない。

キャラの詰めが甘ければ、試合形式もゆるいのがメキシカン。試合はゴングならぬ、"ヒュイィ〜ッ!"という何とも頼りないホイッスルでスタート。リング上には、テクニコ寄り、ルード寄り、それぞれ一名のレフェリーが登場し、「あぁでもない、こうでもない」といった裁定を繰り返す。例えば、敵対するAAAとLLLによる2対2のタッグマッチ。遺恨が重なる両軍の対決、しかも電流金網マッチという緊迫した場面で、肝心の電流が流れたり流れなかったり。さらには、電気の流れる棒を持って乱入してきた選手が、誤って味方の選手に電流を流してしまい、「オッとゴメン」と一瞬素顔を覗かせる。嗚呼、なんて牧歌的光景かな。

ノホホン雰囲気の中に、意外な残虐性が潜んでいたりするのも一つのポイントだ。前回の来日時も大人気となった**アレブリヘ&クイヘ**。魔除けの飛獣をモチーフとした羽根生えたカラフルなコスチュームがトレードマーク。加えて、190cm近い長身のアレブリヘが、スケール1/2のミニ選手クイヘを投げ飛ばし、相手にダメージを与える脅威の合体技が魅力のこのコンビだが、アレブリヘへ、たまにクイヘを飛ばしすぎるのだ。そりゃないぜ、というくらいに。「あの距離まで届くかど

Gronda
グロンダ

メキシコ最大の団体

AAAってどんな団体？

　現在、メキシコ・プロレス界で2大勢力となっているのが、EMLL（Empresa Mexicana de la Lucha Libre）とAAA（Asestencia Asesoria Administracion）。伝統的なメキシカンスタイルのプロレス＝ルチャ・リブレ（自由な闘いの意）を守り続けるEMLLに対し、AAAはルチャの伝統芸にWWE並みのストーリーラインがプラスされたエンターテイメント性を特徴とする。歌舞伎界で例えるならば、EMLLは伝統の荒事芸に磨きをかける市川団十郎、AAAは革新的なことを次々やってのける中村勘九郎といった感じか。とにかくAAAは斬新さをウリとする団体なのである。

　ルチャ・リブレの創始者サルバドール・ルテドール・ゴンザレスが、テキサス州エルパソでプロレスに魅了され、メキシコシティでEMLLを旗揚げしたのが'33年。一方AAAの旗揚げは、それに遅れること約60年、'92年のことである。当時、EMLLでバリバリの敏腕広報部長として鳴らしていたアントニオ・ペーニャが、テレビサというテレビ局の後援を得て独立（謀反とも言う）。単に独立しただけじゃない。シエン・カラス兄弟、ペロ・アグアヨ、エル・イホ・デル・サントら中心選手をゴッソリ引き抜き、EMLLを後にした。さらに、企画&プロデュースを担当していた自らの手腕を生かして、オクタゴン、ミステリオッソ、マスカリータ・サグラーダ、ウルティモ・ドラゴンと新キャラを生みだし、総勢約170人という大世帯での船出となったのだ。この時以来、AAAとEMLLの仁義なき抗争は今なお継続中である。

　AAA年間最大行事にあたるのが「トリプレマニア」。要はWWEの「レッスルマニア」のパクリである。パクリとはいえ、その人気は絶大で、'93年第1回大会にはなんと6万2000人を集客。3年前（'00年）に来日した際も、実はトリプレマニア8と銘打たれていたのだが、トリプレマニアの国外開催は'96年のシカゴに続く2度目という超レアな出来事だった。当時見た皆さん、自慢してください。海外進出にも積極的で、アメリカではNWA・TNAと提携し、既に認知されている西海岸から中西部～東部への進出を画策。ブラジル以南の南米大陸、イギリスを中心としたヨーロッパ、そして我が日本への進出計画も着々と進んでいる。

　現在は、代表アントニオ・ペーニャ自らが率いるテクニコ（ベビーフェイス）のAAA勢と、シベルネティコを中心とするルード（ヒール）のLLLが、団体での覇権をめぐり、果てしなき抗争を続けている。その中には、男女の愛憎劇あり、実の兄弟による骨肉の争いあり。お色気あり、**オカマ**あり、ミニ選手あり、もう何でもあり！「真珠夫人」か、「渡鬼」か。橋田寿賀子大先生もまっ青の人間模様ひしめくストーリーライン。一度味わうとクセになるこの魅力、一生に一度、いや何度でも味わうことをオススメします!

【1/23後楽園大会・主要カード】

●LLL vs AAA
フベントゥ・ゲレーラ & ミステル・アギラ & チャーリー・マンソン & X & ティファニー vs 獣神サンダーライガー & エル・ソロ & エル・オリエンタル & エレクトロ・ショック & レディ・アパッチェ

●MAINEVENT
ラティン・ラバー、ラ・パルカ、グロンダ vs シベルネティコ、アビスモ・ネグロ、チェスマン

【1/24後楽園大会・主要カード】

●MAINEVENT
ラティン・ラバー & ラ・パルカ & グロンダ & SHURA（ノア）vs シベルネティコ & アビスモ・ネグロ & フベントゥ・ゲレーラ & X

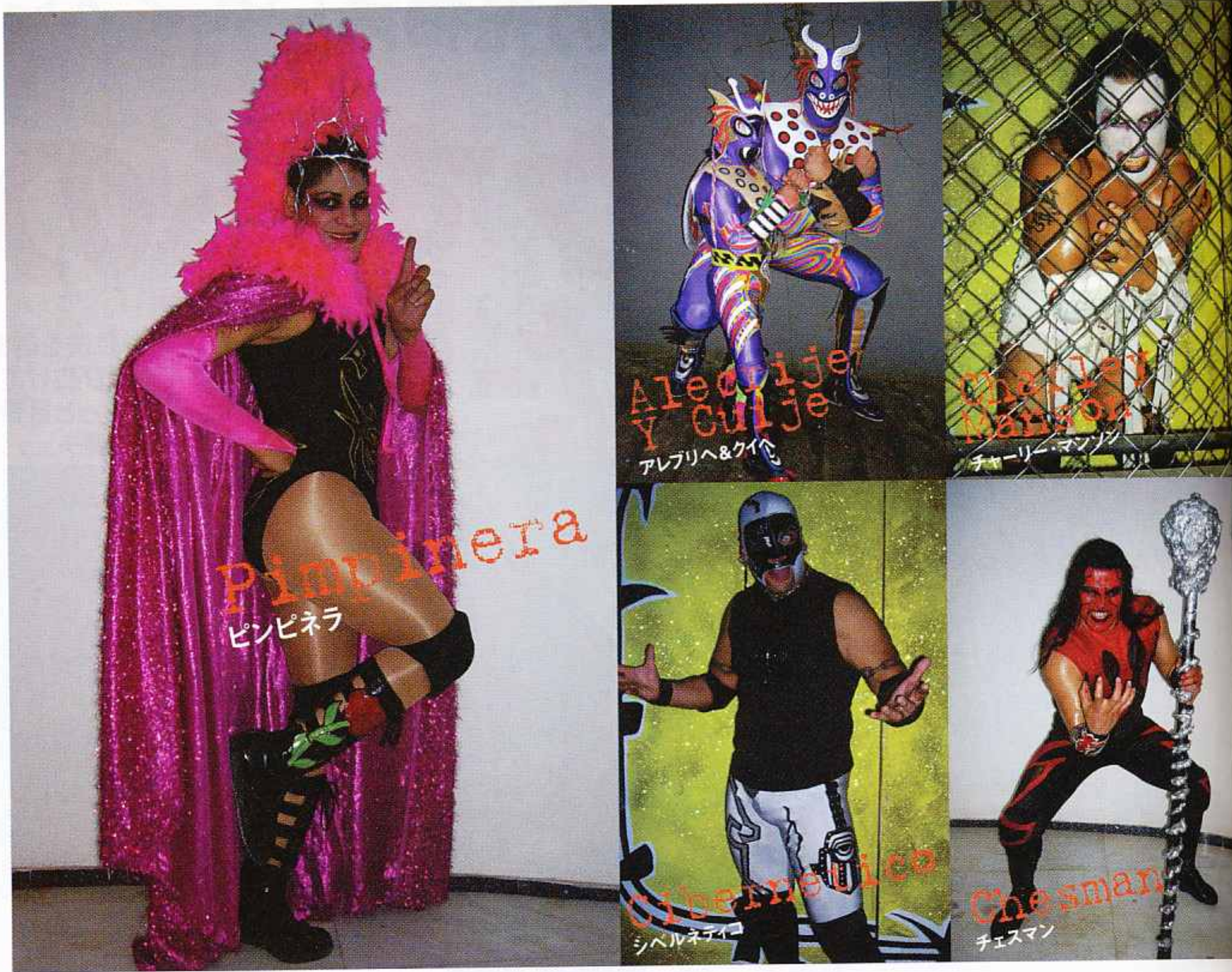
Pimpinera
ピンピネラ

Alebrije Y Cuije
アレブリへ&クイへ

Charly Manson
チャーリー・マンソン

Cibernetico
シベルネティコ

Chesman
チェスマン

うか分からないけど飛ばしてみちゃおう」というのが、想像するところのアレブリへの思考。飛ばされたクイへはたまったもんじゃない。運が良ければ、敵の上にドスンと着地。運が悪ければ、固い床に頭から墜落して即病院送りとなる。だが、二人はアミーゴ。クイへが敵に打ちのめされれば、試合中にも関わらずクイへをお姫様抱っこしたアレブリへが、バックステージへと駆け去るのであった。

　現在、日本でAAAを楽しむ方法は、CS&ケーブル放送GAORAでのオンエアとなる。メキシコで制作された映像が字幕付きで流れるこの放送でも、十分ラテンの香りが楽しめてしまう。日本のプロレス放送との最大の違いはカメラワーク。大半がリング全体が入る引いた位置からの映像で、そこにかなりの頻度でカットインするのが観客席のシーンだ。「いやっ、リング上の次の展開見たいんだけど」という視聴者の声は完全に無視。選手よりも、家族連れでヤンヤと盛り上がる観客席の方が優先される。そうです、お客様は神様ですから。仕方なく観客席を眺めていると、ある一つの傾向が浮き彫りに。メキシコの観客は、見事なほどに勧善懲悪を貫くのである。テクニコが活躍すれば大喝采が沸き、ルードは入場するだけでブーイングの嵐。いい加減なようでいて、肝心なところでは白黒ハッキリつけるのだ。侮れじ、メキシカン。度々オンエアされるのが、ストーリー展開に則ったルチャ・ドールたちへの直撃インタビューだ。「お前ら絶対に潰してやるぞ」とAAA勢に向かって威勢のいい啖呵を切るLLLの中枢**シベルネティコ**。ボスらしいドスの利いたセリフがハマるシベルネティコなのだが、ハマらないのはインタビュー場所。中米特有のサンサンと降り注ぐ太陽と真っ青に広がる空の下での屋外撮影。ダークな言動が多いルード軍には、暗い地下室か、せめて暗がりの屋内でインタビュー敢行を、と願うのは、既成概念にとらわれすぎた日本人の悪いところなのだろうか？

　と、ここまで挙げたポイントは、AAAが持つ深い味わいのごく一角。ゆる～い脱力感、お楽しみいただけたらコレ幸い。AAAのアントニオ・ペーニャ代表は、WWEのスタイルをかなり参考にしているらしいが、WWEを洗練されたエンターテイメント「キダム」と例えるなら、AAAは庶民派ムードタップリの「木下大サーカス」。分かります？　この違い。エンターテイメントの質は決して劣らないけど、ナゼか垢抜けない雰囲気が、時にたまらなく愛おしくなってしまったりするのだ。総合格闘技ブームに疲れてしまったアナタ、不況続きで厳しい世の中に嫌気が差してしまったアナタ。マッサージ屋で30分3000円も支払うのはもう古い。AAAは、身も心も、そして脳をも溶かす脱力プロレスなのだ！

AAA日本大会の先物買いインタビュー

ブレイクするのはコイツだ!!

聞き手／佐藤直子
撮影／森“モーリー”鷹博

AAAには空中殺法を得意とするルチャ・ドールも数多いが、この男は完全に頭ひとつ飛び抜けている。フービーが長髪をなびかせながら華麗に宙を舞う姿は、きっと目撃した多くの人たちの脳裏に焼きついて離れないはず。いまから要チェック!!

Juventud Guerrera
フベントゥ・ゲレーラ[AAA]

実力派レスラーがズラリと揃うAAの中でも、一際強烈な光を放つのが、フービーことフベントゥ・ゲレーラだ。NOAH参戦で日本のファンにはおなじみ（『紙プロ』読者的にはおなじみじゃないかも？）のフービーだが、11・1日本武道館大会のGHCジュニアヘビー級タッグ選手権で絶賛されたのが記憶に新しいところ。ライバル団体EMLL所属のリッキー・マルビンとチームを組み、KENTA&丸藤正道組が持つ王座に挑戦。試合は、KENTA&丸藤組に軍配が上がるも、記憶というフィールドでは、フービー&マルビン組が圧勝を収めたことは誰の目にも明らかだった。日本人には到底マネのできない変幻自在の空中技で相手を翻弄しまくる。あまりに多彩すぎる攻撃は、フービーの豊富な経験を物語っていた。

メキシコの英雄的マスクマン、フエルサ・ゲレーラを父に持つフービーは、'92年AAAでデビューする。翌年には、あのレイ・ミステリオ（現・WWE）を破ってWWA世界ライト級王座を奪取。鍛え上げられた肉体から繰り出される華麗な技は、厳しい目を持つ本場メキシコの観客をも魅了し、「天才」の名をほしいままにした。こんな逸材をプロレス大国アメリカが放っておくわけがない。リング上でのライバル関係が続いたミステリオとともに、アメリカWCWに移籍した後も、その勢いは天井知らず。ミステリオに加え、クリス・ジェリコ、ウルティモ・ドラゴンら、錚々たるメンバーと鎬（しのぎ）を削った日々が、フービーのレスリングに深みを与える。

しかし、波瀾万丈な人生を送るのが天才の宿命。'00年、WCWオーストラリア遠征時に薬物使用で大暴れ＋全裸で野外を徘徊し逮捕され、WCWを解雇となってしまう。この事件、本人曰く「別の選手が飲み物に入れたんだ」。天才ゆえのやっかみを受けたのか否か、今となっては知る由もないが、当時一面を飾った『東スポ』をフービーはちゃんと所有しているらしい。その後、禊ぎの期間を経て、'01年よりEMLLに参戦。テクニコとして活躍するも、今年5月に古巣のAAAへ電撃移籍し、現在に至るというわけだ。

闘いの舞台がどこであろうとも、ファンを魅了してやまないフービー。天才がどんな道のりを歩んできたのか、今何を考えるのか。フービーがフービーたる所以を探るためには、本人の肉声に触れるのが一番である。

――フービー選手はお父さんもレスラーでした。今、現役選手として活躍するあなたから見て、どんなレスラーでしたか？

フービー　スゴくいいレスラーだったと思うよ。カリスマ性も持っていたし、メキシコでは伝説と化した語り継がれるレスラーだ。みんなが知っている。レスラーとして、彼が自分の父親だっていうことはとても誇りに思うね。

――昔からプロレスラーに憧れていた？

フービー　そうだね。でも子供の頃は、何か人の心に残ったり、影響

を与えるような人物になりたかったんだ。サッカー選手、野球選手、建築家……レスラーになろうとは思っていなくて（笑）。決意したのは16歳の時。実際にレスリングを始めたら、自分のスタイルが父親のスタイルとそっくりでさ。驚いたね（笑）。そこから、少しずつ自分なりのスタイルを加えて、今の形にたどり着いたっていうわけなんだ。

――デビューした時の目標は？

フービー　アメリカで闘うことだよ。ちょうどその頃、WCWをテレビで見始めて憧れていたんだ。ビデオを見て、アメリカのスタイルを勉強したり、アメリカ人の心理を掴もうとしたり。アメリカで闘い始めたのは、それから3、4年後だったかな？　まさかこんなに早く目標を達成できるなんて思ってなくて。自分では10年くらい覚悟してたから、驚いちゃったよ。とにかくうれしかったね。今、こうやってAAAや日本で闘っているのも、全世界的に知られたWCWで闘っていたからさ。本当に大きなステップアップになったし、メキシコ人として、WCWでメキシカンスタイルを世界中に知らしめることが出来たって誇りに思っているよ。

――WCW時代はたくさんの名勝負がありました。

フービー　どの試合も思い出深いんだけど、サンフランシスコでクリス・ジェリコと闘ったPPVの試合（'98年2月22日）。あの試合で大事なマスクを剥がされたんだ（昔はマスクマンだった）。そんな日が来るなんて思ってもいなかった。でも、メキシコでマスクを脱ぐことは大問題でも、アメリカでは別。テレビの視聴率がすべてだからね。マスクを賭けて闘うことは個人の問題じゃなくて会社の問題。当時はまだ若かったし、やる気にあふれていたから、会社の提案にのったんだ。マスクを脱いだ後は、なんだか自由にプレーできた気がするよ。本当はマスクがあってもなくても、全ては自分次第なんだけどね。

11月1日、NOAHの日本武道館大会にリッキー・マルビンとタッグを結成して出場したフービー。敷居の高いNOAHでファンにも認められ、最後は負けたにもかかわらず勝者チームはベルトを差し出して健闘を絶賛した。

――初めて日本に初めて来たのは？

フービー　多分'94年じゃないかな。WARの記念興行だったと思う。2試合組まれていて、1試合はレイ・ミステリオとのタイトルマッチで、もう1試合は4対4の8人タッグ。クリス・ジェリコ、邪道、ライガーと自分、相手はウルティモ・ドラゴンとレイ・ミステリオ、ランス・ストームと誰だったっけ？　ヤス…安良岡（裕二）だ！

――豪華なメンバーですねぇ。

フービー　実は、あの時は自分の夢が叶った瞬間でもあったんだ。Jカップでライガーが花道を入場してくるシーンを、家のビデオで何度も見てたんだよ。その2年後、自分がライガーの後ろを歩いて同じシーンに映ってるんだよ！　もううれしすぎて泣きそうになっちゃった（笑）。

――レイ・ミステリオとは、まだ連絡を取っているんですか？

フービー　もちろんだよ。レイは兄弟みたいなもんだからね。お互いの家族のこともよく知ってるし、長いこと一緒に過ごしてきたし。自分はメキシコや日本で、レイはWWEで闘っているけど、今でもいい関係は続いているよ。

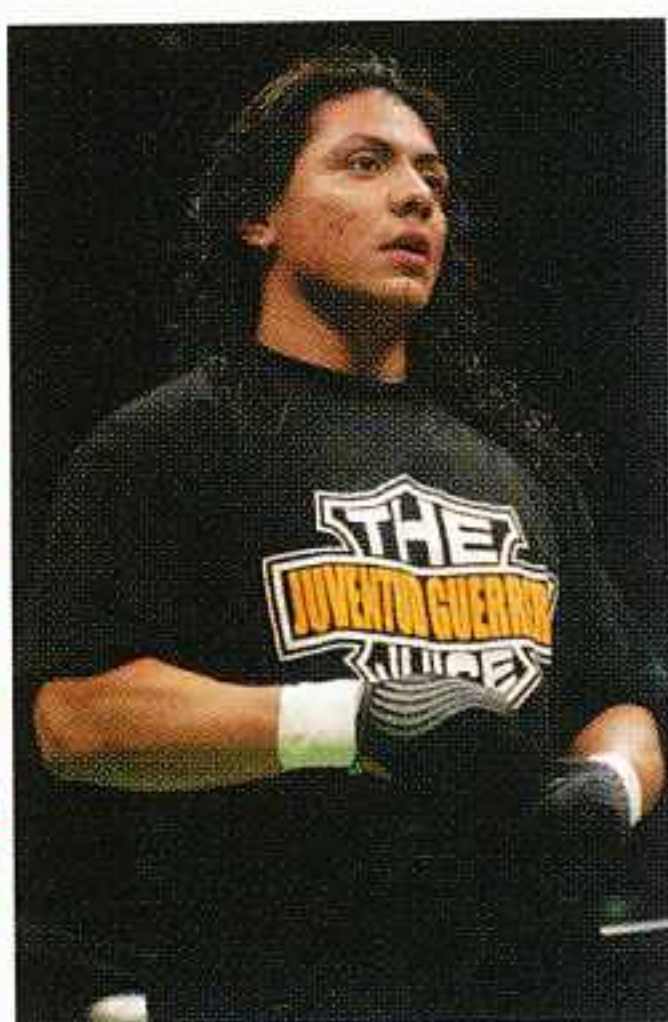
――さて、ドス・カラスJr.をはじめ、最近ルチャ・ドールがバーリ・トゥードに出場しています。

フービー　お金が欲しいだけだったら出ない方がいい。出ようと思うんだったら、十分に準備する必要があると思うんだ。自分が何をするべきか、それが分かっていれば出場する意味がある。個人的な意見として、バーリ・トゥードに挑戦するのは、いいことだと思うよ。ルチャ・リブレとは全然違うことを体験するのは、自分が成長することにもなるしね。

――あなたが出場する予定は？

フービー　ないね。見るのは好きだけど。今はやる必要がないと思うんだ。今はルチャ・ドールとしての信用を獲得したし、何よりルチャを続けたいんだ。目の前に広がるチャンスを失いたくない。だから、自分の信じた道を進むだけだよ。

〈世界最強はだれだ？〉の命題を掲げるバーリ・トゥードが偏重される昨今。フービーは、それとは全く世界を異にするルチャ・リブレというフィールドで力を発揮し、観客を魅了し続ける。ルチャ・リブレの楽しさを誰よりも知っているから。そして何より、フービーこそがルチャ・リブレの素晴らしさを人々の記憶に焼きつけることができる本物の〝天才〟ルチャ・ドールだから。

ライガーの後を歩いて泣いたフービーは1月23日の後楽園大会で反対側のコーナーに立つ。WCW時代にIWGPジュニア王座をかけて闘った時以来（フービーが勝ち第36代王者になった）となる。今度は勝ってうれし泣きとなるのだろうか!?

ふぺんとぅ・げれーら■1976年11月22日、メキシコ出身。父のコーチを受けて92年に16歳でデビュー。WCWではレイ・ミステリオ、エディ・ゲレロら現在のWWEで活躍する世界最高峰レベルの選手たちと激闘を繰り広げている。172センチ、80キロ。

もう「知らないよ」とは言わせません！

何時男　遂にブラッシー自伝が発売ですよ！　ヤバイですね、コレ!!

叙似位　『泣き虫』の直後に出たおかげでコッソリ出た感じになっちゃいましたね。ブラッシーも髙田も、自分の歩んできた道程を書いてるだけなんですけど、こうも騒がれ方が違うのは悲しいですよ。ターザン山本さんが自分のHPでブラッシー本について「430ページにおよぶ大作である。とても私は読めそうにない。御免の世界である」って言ってたのはもっと悲しいですけど（笑）。

何時男　でも、実際は髙田本よりブラッシー本の方がきわどいこと書いてるんですよね。猪木vsルスカを「ワーク・ファイト」とか書いてるし。

派乱暴　ビンスも「もともとアリと猪木の試合はワーク・ファイトになる予定だった」って証言してますよ。

何時男　おまけに、そんな本に「新間寿　談」って髙田本に大激怒してた人のコメントが載ってるし（笑）。

叙似位　まあ、ブラッシーが書いて、向こうでちゃんと出版された本ですからね（笑）。

何時男　新日本は『泣き虫』よりも、むしろこっちに怒るべきでしょう。

叙似位　アメリカンプロレスの起源を知る上では、非常にいい本だと思いますけどね。ホーガンの自伝と併せて読むといいと思うんですよ。創成期から70年代まではブラッシーが語ってて、80年代以降はホーガンが語ってますから。

何時男　どっちも前提として、プロレスの仕組みを明かしながら書いてますからね。しかもブラッシー本は「ケーフェイ」の語源とか、カーニバル時代のプロレス話とか、プロレスの起源を知る教科書としては最高ですよ。

原因は飛行機恐怖症？ ネイサン、遂に解雇！

叙似位　じつはボク、12月2日の『SMACKDOWN！』の韓国大会に行ってきたんですよ。

派乱暴　いいな～。あちらはどうでしたか？

叙似位　会場の熱とか盛り上がり方は、日本よりも断然上でしたね。放送されてるWWEの番組はそんなに多くないんですけど、選手ひとりひとりに対する声援のノリはアメリカに近い感じでした。

何時男　内容的にはどんな感じだったんですか？

叙似位　サプライズでリック・フレアーが来たんですよ。でも、試合前、プレス関係者に配られた対戦表に……。

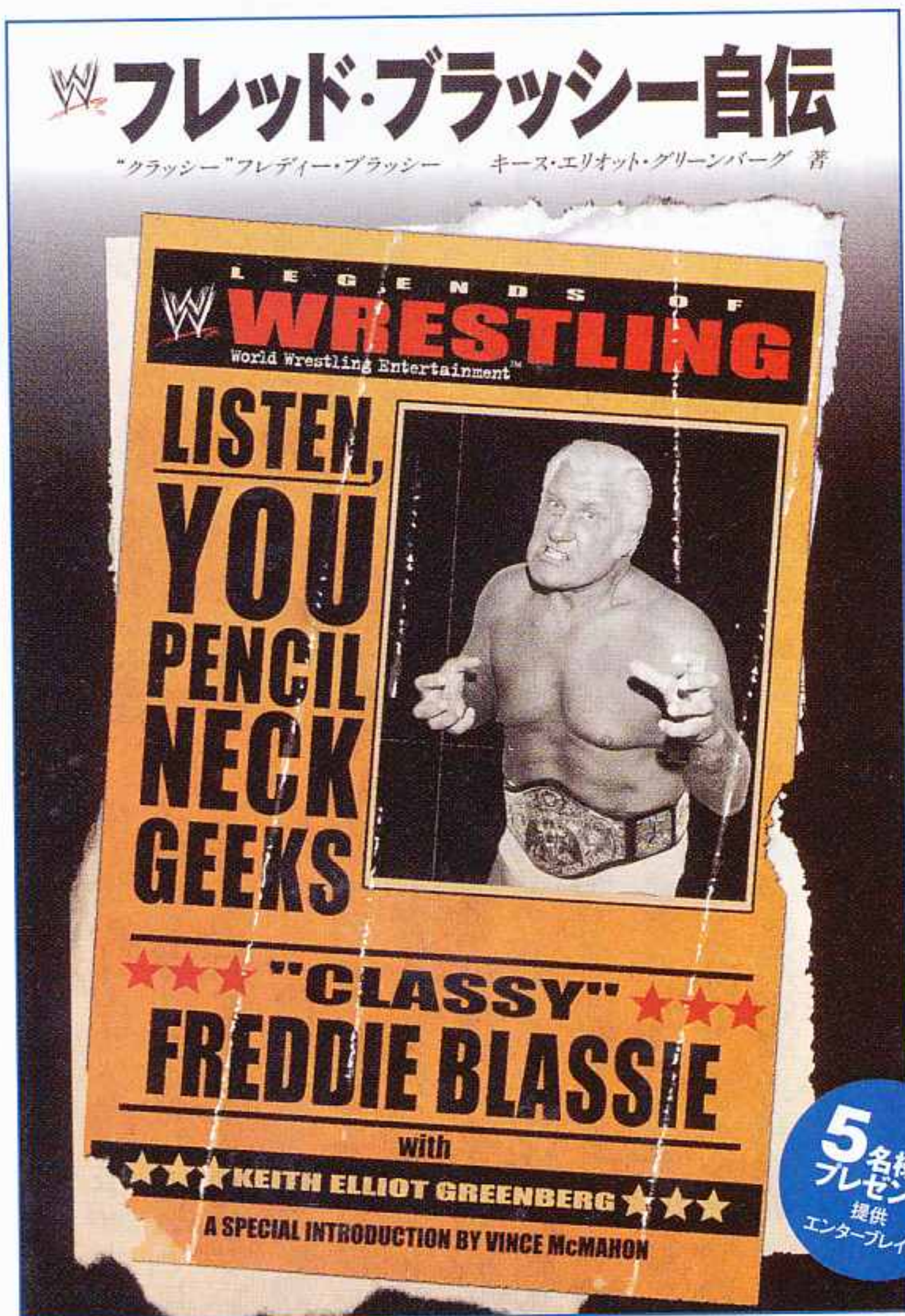
何時男　また勝敗が書いてありましたか？（笑）。

叙似位　さすがにそれは書いてなかったですけど、「①ヘイマン、フレアーのプロモ」って書いてあって、そこでビックリしましたよ。と同時にガッカリしましたけどね、「ここで知りたくなかった」って（笑）。あと、その対戦表にはジョン・シナって名前の横に「RAP」って書いてあって。実際に出てきたら「YO、YO！　アンニョンハセYO！」って言ってましたよ（笑）。

何時男　うわ、最高！

叙似位　ボクが座ったのはマスコミ席だったんですけど、横には韓国のマスコミ関係の人が座ってたんですけど、そこで日本語で話しかけられたりしたんですよ、「RAPって何ですか？」「プロモってなんですか？」って。

何時男、叙似井&派乱暴のF.B.I.Presents ネタバレ通信 Vol.10

フレッド・ブラッシー自伝
"クラッシー"フレディー・ブラッシー　キース・エリオット・グリーンバーグ 著
5名様にプレゼント！ 提供 エンターブレイン

「（猪木が）3発のバックドロップでルスカに勝利したのはワーク・ファイトだが……。」とブラッシーは猪木も一刀両断。定価￥2200で絶賛発売中!!

♪も～いくつね～ると～ WWE最新DVDを各1名様に読プレ！

『紙プロ』からのお年玉！　恒例のWWE最新DVDを今月も各1名様にプレゼントだ！

まず、最初に紹介するのは2004年2月に来日する「RAW」のPPV大会『アンフォーギヴェン2003』。とどまるところを知らないケインの暴走に立ち上がるドラ息子シェイン・マクマホン！　禁断の"ラストマンスタンディング・マッチ"は壮絶な一戦に！　シェインが放った高さ15メートルからのエルボードロップは今年のWWEベストシーンだ！　絶対に必見！

そして、男性諸君はお待たせしました！　WWE　DIVAでは初となるソロ作品に登場するのはトリッシュ・ストラタス！　『100％ファクション』では抜群のスタイルと妖艶な美貌が堪能出来る。鼻の下を伸ばしながら指をくわえて見るべし、見るべし！　入浴シーンとか、ヤバイです。ちなみに、トリッシュさんも2月に来日するぞ。

どちらも絶賛発売中！　日本大会の予習にも最適だ！
提供■ユークス

『アンフォーギヴェン2003』DVD￥3800（特典映像付）VHS￥5800

『100％ストラタスファクション』DVD￥3800（特典映像付）VHS￥5800

※このページのプレゼント応募方法はP157を参照!!

派乱暴　難しい説明ですねぇ（笑）。
叙似位　ちゃんと教えてあげましたけど、その人が面白かったのはなぜか『黒崎健時スーパーテクニック』って空手の技術本を一生懸命読んでるんですよ（笑）。
何時男　なぜWWEの会場で〝鬼の黒崎〟の本を⁉（笑）。
叙似位　ボクへのメッセージだったんですかねぇ。でも、一番面白かったのはTAJIRIに「バカヤロウ」コールが起こったことですよ。
派乱暴　日本語で？　マジですか⁉
叙似位　最初、何を言ってるのか分からなかったんですけど、黒崎本を読んでた人が「バカヤロウ」コールだよって教えてくれて分かりました（笑）。
何時男　すごいなぁ。ところで、そのツアーでネイサン・ジョーンズが遂に解雇になったらしいですね！
叙似位　12月8日付けで正式に解雇されました。アジアツアーの最後がオーストラリア大会だったんですよ。
何時男　ネイサンの故郷ですね。
叙似位　このツアーの最中に、飛行機に乗ってたら相当な乱気流に巻き込まれて死ぬ思いをしたらしいんです。それで、飛行機に載るのが嫌になって、レズナーやビッグ・ショーの説得を振り切って逃げたらしいですね。
派乱暴　さすが（笑）。
叙似位　またZERO―ONEに登場してほしいですよ。
何時男　ちなみに、いま、またZERO―ONE外人がどんどんWWEに上がってますよね？　ケイジ・サコダ（とジミー・ヤン）は『SMACKDOWN！』でジョン・ヘンデンリッチは『RAW』に入りました。
叙似位　ポール・ロンドンもすごく評価されてますよね。あのシューティングスタープレスは「ビリー・キッドマンよりもいい」って（笑）。いま、WWEで持ち技規制が凄いらしいんですよ。
何時男　つまり「他人と被るような技は使うな」ってことですか？
叙似位　そうです。いまケインがチョークスラムを使ってるから、ハリケーンに「チョークスラムを使うな」ってお達しが出たらしいんですよ。それを無視してチョークスラムをやったら、メチャクチャ怒られたって話です（笑）。
何時男　ポール・ロンドンがシューティングスタープレスを使えるってことは、キッドマンよりも評価されてるってことなんでしょうね。
派乱暴　昔、RVDとエディ・ゲレロがフロッグ・スプラッシュ封印をかけて闘うっていう試合がありませんでしたっけ？（笑）。
叙似位　ありましたね！　ロンドンとキッドマンもシューティングスターをかけて試合をしてほしいですよ。「どっちが〝HOLY SHIT〟を浴びるか？」っていう形式なんかどうですか？
何時男　やっぱり、そこにはレズナーも入れなきゃでしょう。また今年の『レッスルマニア』みたいに首から落ちて、一番声援を浴びてシューティングスタープレスを防衛（笑）。
叙似位　それでこそ真のチャンピオンですね（笑）。

【2003年12月某日／都内某所にて収録】

遂にロック様が『RAW』に復活‼　すっかりハリウッドの人となったロック様が、2004年3月開催の「WRESTLE MANIA20」の出場へ向け、『RAW』に久々の登場を果たした。世界最大のプロレスの祭典へ突き進むWWEも、これから水面下の動きが活発化するので当「ネタバレ通信」も総力を結集して情報をかき集めます！　あと、噂FILEの「01U$A」情報も必見ですよ。ギルバーグ、見たい！

F.B.I.とは?■「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。『SMACKDOWN！』のマフィア系3人組「F.B.I.」（フル・ブラッド・イタリアンズ）にあやかって命名。プロレス業界に潜伏する何時男（なんじお）、桁違いのパワーで情報をかき集める叙似井（じょにー）、裏方さんの派乱暴（ぱらんぼ）の3人組だ。

WWEファンクラブの会報誌『RAW』を5名様にプレゼント！

WWEファンクラブは2ヶ月に1度、会報誌として『RAW』マガジン（日本語版）を発行している。一般流通はしていないため、確実に手に入れるにはFCに入るしかない！（詳しい入会情報はhttp://www.wwefanclub.ne.jpを参照！）

ちなみに、表紙がゴキゲンな最新号では「MSG殿堂入りを果たし、一家の歴史に新たな章を書き記すヴィンス・マクマーン」「各界の著名人20名がWWEに入団したらどうなるのか？　起こり得る結果を予測する」など、身体がうずく興味深い記事ばかり！

K―1参戦問題で揺れるマイク・タイソンがビンスの下で働いたら？というK―1関係者の神経を逆撫でするような記事は格闘技ファンにも是非読んでいただきたい。今回はこの『RAW』マガジンを5名様にプレゼント！

提供■WWEファンクラブ

5名様にプレゼント！

タイソンとビンスが並ぶだけで、かなり胸がときめく。たとえば、ビンスを谷川貞治FEG社長に置き換えたら……それも素敵だけどね。

噂FILE

●2004年、『SMACKDOWN!』はジョン・シナをプッシュ!
ロイヤルランブルのフィーチャーはジョン・シナ。「サバイバーシリーズ」以降、シナは観衆からの支持と、一番大事な瞬間視聴率がすこぶる良いらしい（エディ・ゲレロは相変わらず好調）。WWE側もこの機を逃さんばかりに2004年からプッシュの方向。2月のスマックダウン！　PPV「ノーウェイアウト」では王座挑戦の声も!?

●ビックネーム、続々離脱!?
相変わらず噂されるNWA-TNAへの移籍組。かなり前からRVDが不満をたらしており、WWE離脱～NWA-TNAへの移籍が囁かれているが、ここに来てケビン・ナッシュの移籍も浮上。来年早々に契約更新のようだが、年間60万ドル～70万ドルを要求しているが、現在の働きっぷり、怪我の連続を見る限り、WWE側はそれを飲むことはなく、フロント入りなどを提案しているらしい。

●ストーンコールドはいずこへ?
「サバイバーシリーズ」で追放され、「SMACKDOWN!」への移籍が噂されていたストーンコールドだが、ロウへの復帰となる。今回の追放劇の裏側には、単にかねてから契約にあった長期休暇の消化があった様子。

●なぜ!　カート・アングル引退説消えず?
カート・アングルが、「サバイバーシリーズ」で首を再負傷。アジアツアーの欠場はそのためらしく、再手術に踏み切った。かねてから噂されている「レッスルマニア20」での引退は本当なのだろうか?

●ザック・ゴーエン、解雇か!?
ハンデを全面に押し出したプロモもとうとう底がつき、リストラ候補に挙がっている模様!?

●ザ・ロック、「レッスルマニア20」に参戦するの?
俳優業に追われ、一時は引退説も流れたザ・ロック。しかし、「レッスルマニア20」には参戦濃厚。マッチメイクはなんと、2000年にタッグを組んでいたミック・フォーリーとの「ロックン・ソッコ・コネクション」再結成が検討されているとの事。ミックはトリプルHとの対戦が噂されていたが、ミックの体調を考慮し、レフェリーあるいはタッグマッチに落ち着くと言われている。

2004年もやります!『01U$A』開催決定!!

▼1/30（金）
大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）
▼1/31（土）
東京・ディファ有明（18:00）
※PPVあり

『01 U$A』参戦予定選手／NWA&W-1 vs UPW vs 01 vs ???

NWA&World-1
Steve Corino（MLW World Champion）・Samoa Joe（ROH Champion）・Prince Nana・Matt Striker・AJ Styles・Lowki・Buffy&Mace（Christopher Street Connection）・Jonny Storm・CW Anderson・David Young・Joey Matthews・Simon Diamond・John Walters・Devon Storm・Sonny Siaki・Josh Daniels・CM Punk・Duane Gill（former WWE Gillberg）・Frankie Kazarian・Mike Sanders・Shane Douglas・SAT・Homicide・Jason the Legend

OTHERS
ハシフカーン・SHISHI OH・Masa Tanaka・Mr.Ohtani・Pika Chu・サル ザ マン・バンビー・富豪^{2}亀路・DonaDona・獅龍

UPW軍選抜
プロレスリングZERO-ONE選抜

※1月30日、31日とも7～8試合を予定。上記選手は現在交渉中の選手をリストアップ。正式決定は1月初旬となる。

問：ZERO-ONE 03-5730-3401

応援させてよ!!

WJ日記

FIGHTING OF WORLD JAPAN PRO-WRESTLING

WJのホームページの日記は面白いね。最近やたらと更新されてるんだけど、残念ながら年内で終了。しかも、長州は怪我しちゃうし、ゼロワンとの対抗戦は予想通り惨敗だし、いつだってWJは四苦八苦。いまこそ、長州vs破壊王のコラコラ問答を繰り返し聞いて明日に備えろ！　ド真ん中!!

構成／松澤チョロ　designed by matsu(Two Three)

長州　（道場に響き渡るほどの大声で）なぁ～にが、やりたいんだ、コラッ！　紙面飾ってコラァッ!!　何がやりたいのか？　何が言いたいんだ、コラァ！　噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ!?　どっちなんだ、コラァッ!!

橋本　なにが、コラじゃ、このバカヤローッ！

長州　なに、このタコ、コラァ！

橋本　なんや、コラッ！

長州　紙面を飾るなって言ってんだ、コラァ！

橋本　オマエが言ったんだろ、コノヤローッ！

長州　なにィ、コラァ!!

橋本　いつでもやるぞ、コラァ！　オメエ、死にてぇのか、コノヤローッ！

長州　オマエいま言ったな、コラッ！

橋本　おぉ、言ったぞぉ！

長州　吐いた言葉飲み込むなよぉ、オマエ！

橋本　そのまんまじゃ、コラッ！　ナメてんのか、コノヤローッ！

長州　オマエ、いま言った言葉、オマエ、飲み込むなよぉ！　なあ、吐いて。わかったか？　ホントだぞ、ホントだぞ。なあ？　噛み付くんなら、しっかり噛み付いて来いよ、コラァ！　なあ？　中途半端で、言った言わないじゃねえぞ、オマエ！　わかったな、コラァ！　わかったなぁ!?　噛み……

橋本　（遮って）オマエに、わかったな言われる筋合いねえんだ、コラァ！

長州　噛み付くんだろ、コラッ！

橋本　オッサン、ナメんなよ、コノヤローッ!!

もう一丁行くぞ、たわけがッ！

長州　（道場に響き渡るほどの大声で）なぁ～にが、やりたいんだ、コラッ！　紙面飾ってコラァッ!!　何がやりたいのか？　何が言いたいんだ、コラァ！　噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ!?　どっちなんだ、コラァッ!!

橋本　なにが、コラじゃ、このバカヤローッ！

長州　なに、このタコ、コラァ！

橋本　なんや、コラッ！

長州　紙面を飾るなって言ってんだ、コラァ！

橋本　オマエが言ったんだろ、コノヤローッ！

長州　なにィ、コラァ!!

橋本　いつでもやるぞ、コラァ！　オメエ、死にてぇのか、コノヤローッ！

長州　オマエいま言ったな、コラッ！

橋本　おぉ、言ったぞぉ！

長州　吐いた言葉飲み込むなよぉ、オマエ！

橋本　そのまんまじゃ、コラッ！　ナメてんのか、コノヤローッ！

長州　オマエ、いま言った言葉、オマエ、飲み込むなよぉ！　なあ、吐いて。わかったか？　ホントだぞ、ホントだぞ。なあ？　噛み付くんなら、しっかり噛み付いて来いよ、コラァ！　なあ？　中途半端で、言った言わないじゃねえぞ、オマエ！　わかったな、コラァ！　わかったなぁ!?　噛み……

橋本　（遮って）オマエに、わかったな言われる筋合いねえんだ、コラァ！

長州　噛み付くんだろ、コラッ！

橋本　オッサン、ナメんなよ、コノヤローッ!!

まだまだ行くぞ、たわけがッ！

長州　（道場に響き渡るほどの大声で）なぁ～にが、やりたいんだ、コラッ！　紙面飾ってコラァッ!!　何がやりたいのか？　何が言いたいんだ、コラァ！　噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ!?　どっちなんだ、コラァッ!!

橋本　なにが、コラじゃ、このバカヤローッ！

長州　なに、このタコ、コラァ！

橋本　なんや、コラッ！

ド真ん中!!

いつも心に

長州　紙面を飾るなって言ってんだ、**コラァ！**
橋本　オマエが言ったんだろ、**コノヤローッ！**
長州　なにィ、**コラァ!!**
橋本　いつでもやるぞ、**コラァ！**　オメエ、死にてぇのか、**コノヤローッ！**
長州　オマエいま言ったな、**コラッ！**
橋本　おぉ、言ったぞぉ！
長州　吐いた言葉飲み込むなよぉ、オマエ！
橋本　そのまんまじゃ、**コラッ！**　ナメてんのか、**コノヤローッ！**
長州　オマエ、いま言った言葉、オマエ、飲み込むなよぉ！　なあ、吐いて。わかったか？　ホントだぞ、ホントだぞ。なあ？　噛み付くんなら、しっかり噛み付いて来いよ、**コラァ！**　なあ？　中途半端で、言った言わないじゃねえぞ、オマエ！　わかったな、**コラァ！**
橋本　わかったなぁ!?　噛み……
長州　（遮って）オマエに、わかったな言われる筋合いねえんだ、**コラァ！**
長州　噛み付くんだろ、**コラッ！**
橋本　オッサン、ナメんなよ、**コノヤローッ!!**

しつこく行くぞ、たわけがッ！

長州　（道場に響き渡るほどの大声で）なぁ～にが、やりたいんだ、**コラッ！**　紙面飾って**コラァッ!!**　何がやりたいのか？　何が言いたいんだ、**コラァ！**　噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ!?　どっちなんだ、**コラァッ!!**
橋本　なにが、**コラ**じゃ、この**バカヤローッ！**
長州　なに、この**タコ**、**コラァ！**
橋本　なんや、**コラッ！**
長州　紙面を飾るなって言ってんだ、**コラァ！**
橋本　オマエが言ったんだろ、**コノヤローッ！**
長州　なにィ、**コラァ!!**
橋本　いつでもやるぞ、**コラァ！**　オメエ、死にてぇのか、**コノヤロー**

ッ！
長州　オマエいま言ったな、**コラッ！**
橋本　おぉ、言ったぞぉ！
長州　吐いた言葉飲み込むなよぉ、オマエ！
橋本　そのまんまじゃ、**コラッ！**　ナメてんのか、**コノヤローッ！**
長州　オマエ、いま言った言葉、オマエ、飲み込むなよぉ！　なあ、吐いて。わかったか？　ホントだぞ、ホントだぞ。なあ？　噛み付くんなら、しっかり噛み付いて来いよ、**コラァ！**　なあ？　中途半端で、言った言わないじゃねえぞ、オマエ！　わかったな、**コラァ！**
橋本　わかったなぁ!?　噛み……
橋本　（遮って）オマエに、わかったな言われる筋合いねえんだ、**コラァ！**
長州　噛み付くんだろ、**コラッ！**
橋本　オッサン、ナメんなよ、**コノヤローッ!!**

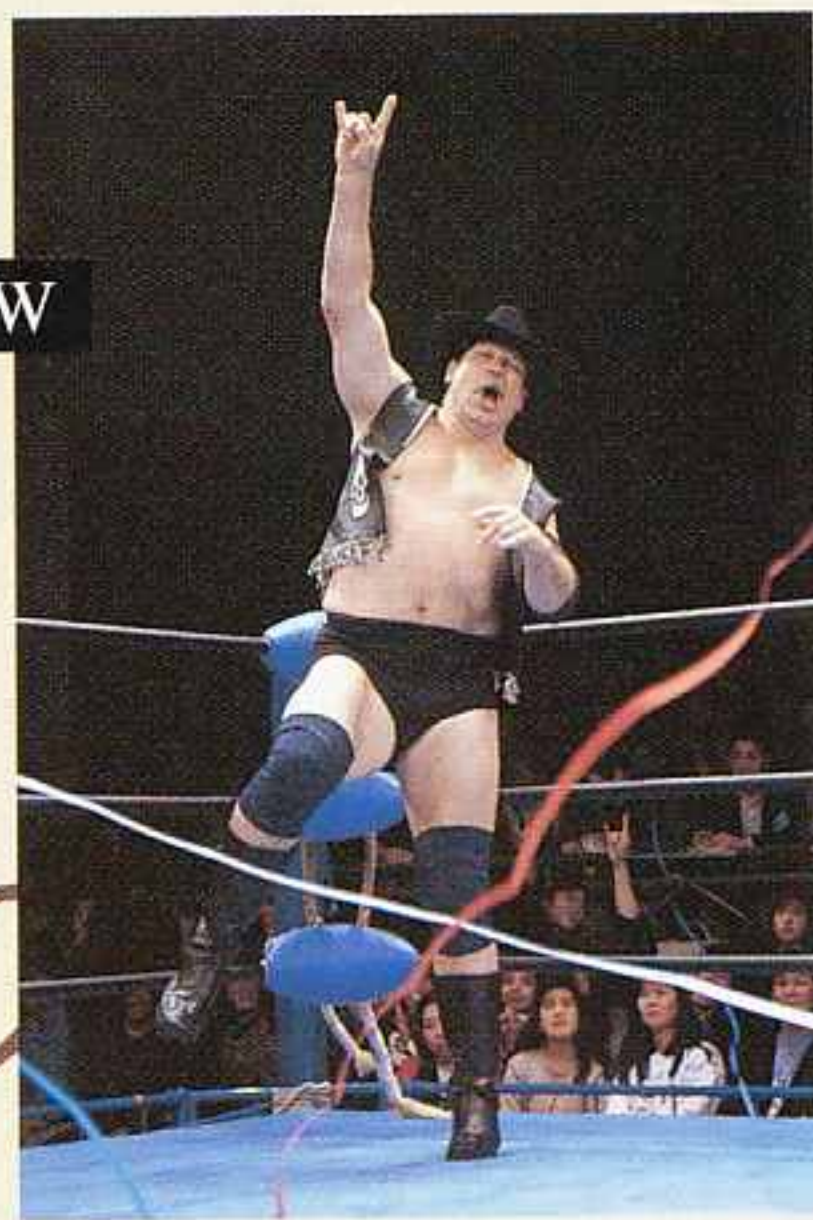
最後まで行くぞ、たわけがッ！

長州　（道場に響き渡るほどの大声で）なぁ～にが、やりたいんだ、**コラッ！**　紙面飾って**コラァッ!!**　何がやりたいのか？　何が言いたいんだ、**コラァ！**　噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ!?　どっちなんだ、**コラァッ!!**
橋本　なにが、**コラ**じゃ、この**バカヤローッ！**
長州　なに、この**タコ**、**コラァ！**
橋本　なんや、**コラッ！**
長州　紙面を飾るなって言ってんだ、**コラァ！**
橋本　オマエが言ったんだろ、**コノヤローッ！**
（……永遠に続く）

“暴露”に揺れる日本プロレス界　今こそ最強ガイジンレスラーの言葉を聞け!

私が愛したジャパニーズ・スタイル・プロレスリング

RADICAL LEGEND INTERVIEW

Stan Hansen

I am Japanese "GAIJIN" Pro-Wrestler

日本プロレス史上最強、最高の外人レスラーと言えば、誰がなんと言おうと、このスタン・ハンセンであろう。25年間もの長きの間、新日本、全日本両団体でトップの座に君臨し続けたハンセン。彼の目にいまの日本プロレス界はどう映っているのだろうか?

聞き手／堀江ガンツ　撮影&通訳／黒田史夫　designed by matsu (Two Three)

——小さい頃からTVで見ていたハンセンさんを目の前にして、ちょっと緊張してますが、今日は過去から現在までいろんな話を聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします!

ハンセン　OK。歳はとったが、昔のことはまだ覚えてるから大丈夫だ（笑）。

——今回はPWF会長として『最強タッグ』開幕戦で挨拶をされたわけですけど、まだまだ人気健在で、会場では一番の歓声を集めましたよね。久々にハンセンコールを聞いた感想はどうでしたか?

ハンセン　みんなが真剣に私へのコールを送っているとは思わないが、それでも私のことを覚えてくれているということは素直に嬉しいね（ニッコリ）。

——リングに上がって声援を浴びると体が疼きませんか?

ハンセン　いやぁ、それはないよ。今はもう引退して平和に暮らしてるし、引退の理由でもある肉体の故障もあるから、試合はとてもできる状態ではないからね。

——今は中学校の先生をされてるらしいですね?

ハンセン　YES。社会科の代用教員なんだが、中学と高校、複数の学校を教えているよ。

——生徒たちは、ハンセン先生が元プロレスラーだと知ってるんですか?

ハンセン　息子が通ってる学校の生徒たちは知ってるけど、他の学校の生徒は身体が大きくて凄く厳しい先生だということしか知らないよ（微笑）。

——自分から「昔ハルク・ホーガンとタッグを組んだり闘ったりしたんだ」とかは言わないんですか?　それとも敢えて隠してるんですか?

ブルーノの首を折った後は、いつ刺されるかわからないから一人で街も歩けなかったよ

Stan Hansen

ハンセン　言いたくないわけではないんだが、生徒たちに興味があるか分からないしね。ザ・ロックのことだったら、みんな興味を持ってくれるかもしれないけど、ロックのことはよく知らないからなぁ（笑）。

―現在、プロレスはご覧になってるんですか？

ハンセン　全く観ないよ。

―なぜですか？　それとも元々見ないんですか？

ハンセン　今でも日本から送られてくるビデオは観るけど、アメリカのプロレスは観ないな。25年間ぐらいずっと日本で試合していたから、日本のプロレスが好きだし、やはり私にとって日本のスタイルこそが「プロレス」なんだ。アメリカのプロレスは過去と比べて全く違う方向に行ってしまった。そのことが良いか悪いかは言わないけれど、私は興味が持てないんだ。

―そんなに昔と今のアメリカン・プロレスは違いますか？

ハンセン　まったく違うね。PPVがアメリカンのプロレスをすべて変えてしまった。私の知っている20年前のアメリカン・プロレスはもはやどこにも存在しないよ。

―ハンセンさんと言えば、かつてWWWF（現・WWE）のリングで〝ニューヨークの帝王〟ブルーノ・サンマルチノの首をヘシ折ったことで有名ですけど、当時といまのWWEは何が一番違いますか？

ハンセン　もちろん提供するプログラムがトークやドラマ中心になったことが一番の違いだけど、それ以前にファンの見方が変わった。例えば、今のファンはヒールに対しても「悪役やってるだけだろう」ぐらいの感じで見ているんじゃないかと思うが、当時のヒールというのは本気で憎まれる存在だった。特に私などは英雄であるブルーノに重傷を負わせてしまったことで、ファンから命すら狙われていたからね（苦笑）。

―え！　命を狙われていたんですか!?

ハンセン　当時はナイフで斬りつけてくるような狂信的なファンが数多くいたからね。オフィスに脅迫状が届いたりもしていたらしい。だから私はブルーノと抗争していた当時、一人で街を歩くことすらできなかった。いつブルーノファンに刺されるかわからなかったんだよ。そしてもちろん会場には私に憎悪を抱いている観客ばかりだから、戦場であるはずのリングの上が一番安全だったくらいさ（笑）。

―実際、ファンに斬りつけられるようなことはあったんですか？

ハンセン　幸運にもナイフで刺されることはなかったが、控室に戻ったら体中にカミソリ傷だらけだったり、ピストルを突きつけられたことも1度や2度じゃないよ。だから、私が入場時にブルロープを振り回すようになったのも、そもそもそういったファンを蹴散らすために、タイガー・ジェット・シンのサーベルをヒントにしたギミックだったんだ。

―へぇ～、そうだったんですか。

ハンセン　日本ではアメリカのように命の心配をすることはなかったが、それでも本当にみんなが「ハンセン、負けろ！」と願ってくれたと思うし、「今日こそハンセンが負けるんじゃないか」というような手に汗握る状況が、面白い試合を生みだしたんじゃないかな。私自身そういう状況で闘ってきたからこそ、ファンに強い印象を残すことができたんだと思う。昔と今とは全く違うビジネスになってしまったよ。

―アメリカマットだけでなく、全日本プロレスもここ数年で大きく変わりましたけど、それについてどうお考えですか？

ハンセン　変化というのは必ず訪れるものだから、それに対しては何も言えないな。受け入れるにしろ受け入れないにしろね。ただ、私が現役だったころの全日本のファンは、私と馬場や天龍との試合、それから三沢、川田、小橋が這い上がってきたハードな闘いを信じ、そしてその試合に対する我々の情熱を凄く理解してくれた。しかし、今は残念ながら良い選手が少なくなり、そういったファンを惹きつけるプロレスがなかなか見せられなくなっているんじゃないかとは思う。もちろん、ムタ（武藤）という天才的なトップレスラーは存在するが、その才能を見せるに値する対戦相手が見当たらない。ムタにライバルが存在しないことが今の全日本の不幸なところだと思うよ。

―そういったこともあって、日本のプロレスビジネスはいま、過去にないくらい不況が深刻なんですが、総合格闘技のマーケットが急激に大きくなったこともその大きな要因のひとつなんですよ。それに関してはご存じでしたか？

ハンセン　そういう状況は知ってるが、それに対する解答は分からないな。ただ、格闘技に人気が集まることによって、日本のプロレスもアメリカのプロレスのようなショーの世界に流れていくのは得策ではない。そうなったら、日本でのプロレスに成功はあり得ないと思うね。

―日本のプロレスのエンターテインメント化は反対だと。

ハンセン　YES。日本の観客はショーではなく、コンテスト（試合）を求めていると思うんだ。『PRIDE』やK―1の人気が高いというのは、コンテストが見たいという何よりの証明じゃないかな。ただ、私はエンターテインメントを否定しているわけじゃないよ。むしろ興行に不可欠な要素だと思っている。しかし、それだけになってしまってはダメなんだ。なぜならばハイレベルなコンテストというのは極上のエンターテインメントになり得るが、どんなに素晴らしいエンターテインメントであってもコンテストにはならないからね。

―ああ、なるほど。まず試合ありきということですね。でも、こと試合の求心力という部分では、やはり総合格闘技には勝てないんじゃないですか？

ハンセン　いや、そんなことはないよ。確かに勝敗への興味という部分だけで言ったら、総合格闘技に軍配があがるだろう。なんせ「どちらが勝つか負けるか」に一番の価値を置いているんだからね。しかし、プ

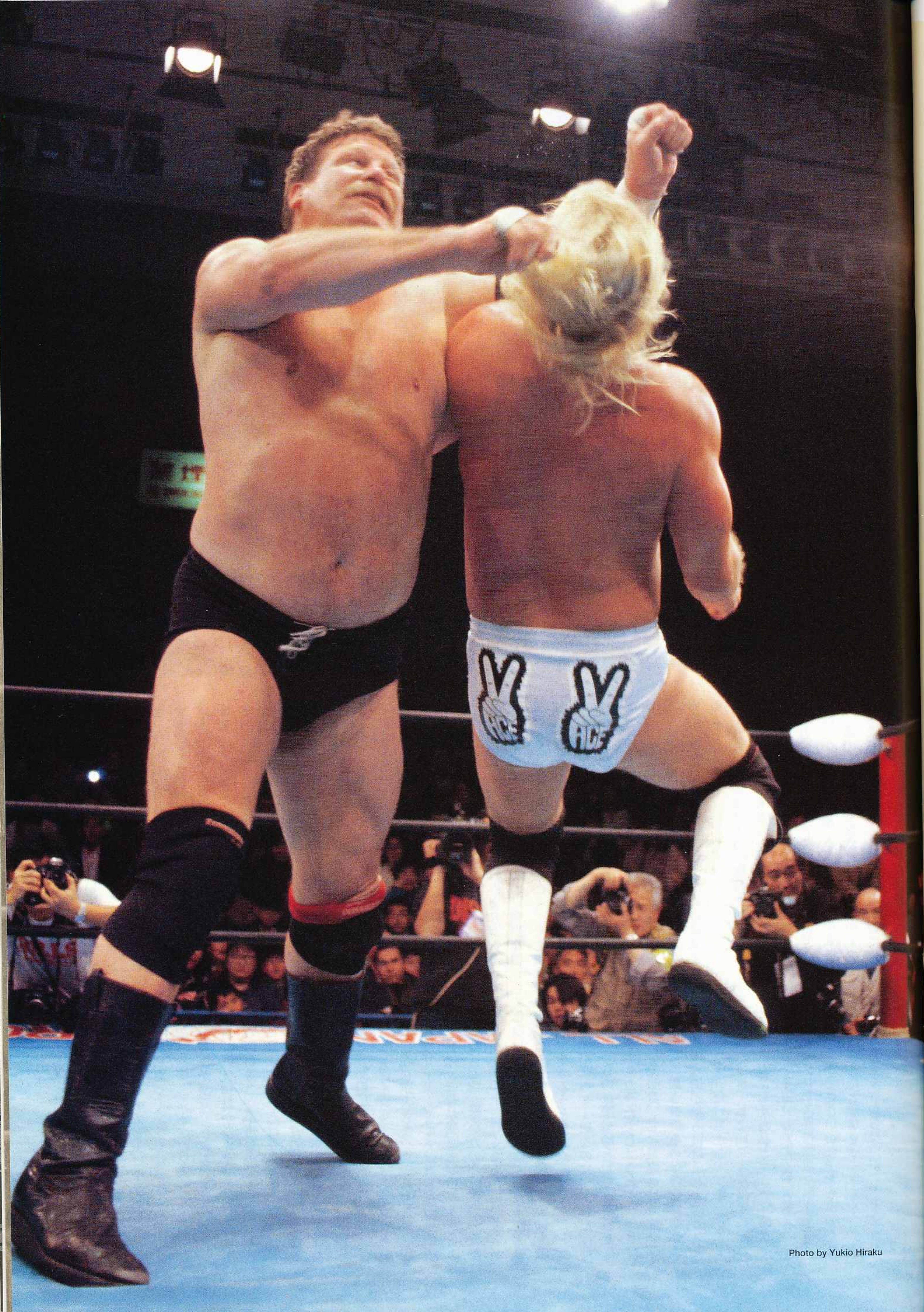
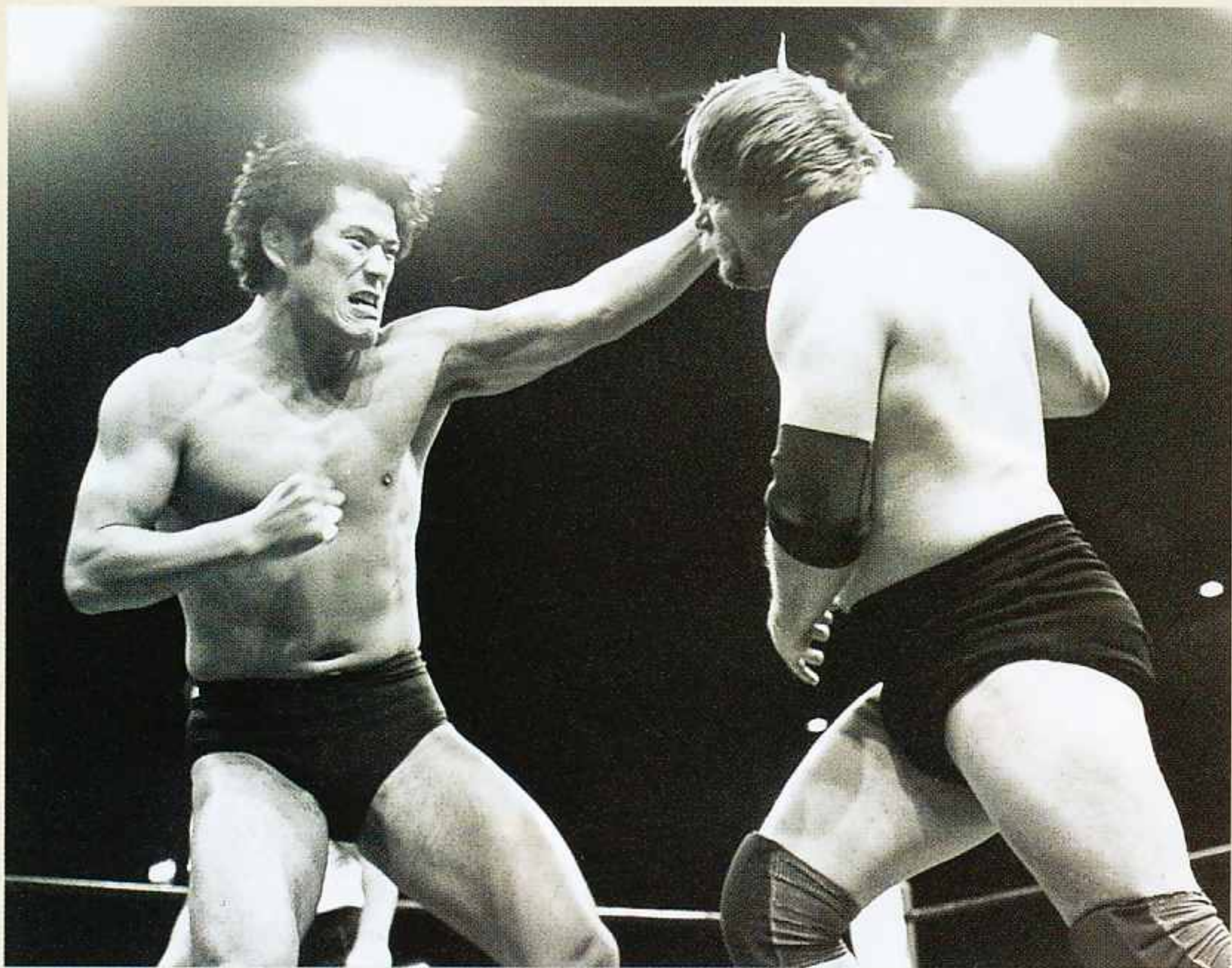
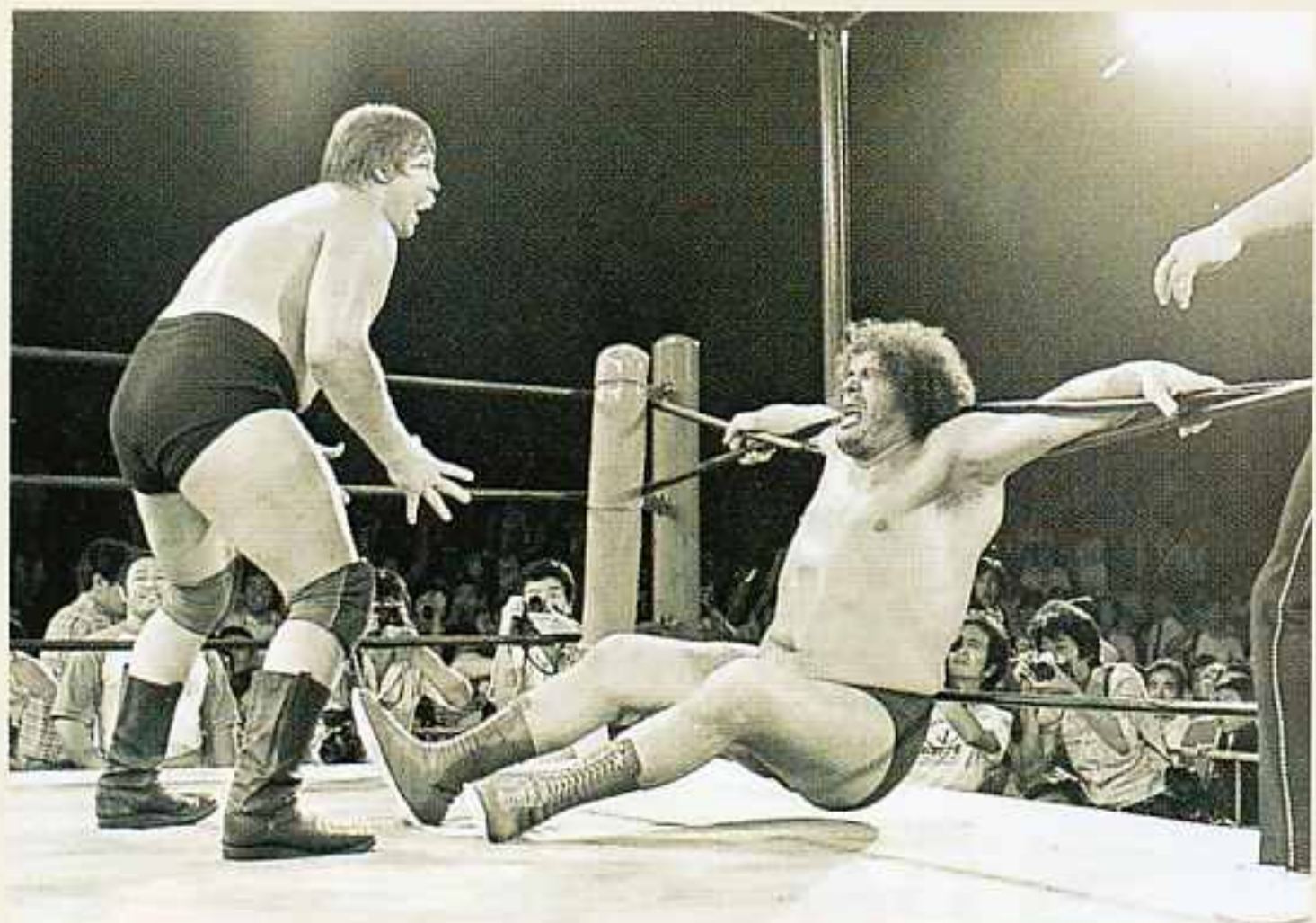



Photo by Yukio Hiraku

ハンセンが新日本を主戦場としたのは79年～81年のわずか3年間であったが、その間行われた猪木との抗争は、強烈なインパクトを与えて、ハンセンが外人ナンバー1レスラーになる大きなきっかけとなった。

プロレス史に間違いなく残るド迫力の一戦として語り草になっている、アンドレとの"9・23田コロ決戦"（81年）は、いまビデオで見返しても、その迫力、興奮度に圧倒される。

80年2月8日、東京体育館。タイガー・ジェット・シンに代わる新日外人エースに成長したハンセンは、アントニオ猪木をリングアウトで破り、ついにNWFヘビー級王座を奪取。ハンセンの第一次絶頂期だ。

ロレスに重要なのは勝った負けたじゃない。その過程に一番の価値を置いているんだ。例えば、私とアンドレ・ザ・ジャイアントが田園コロシアムで闘ったとき（81年9月23日）、ハッキリとした決着はつかなかったが、あの試合が総合格闘技より劣ると思うかい？

――いえ、まったく思いません！（笑）。あの迫力は『PRIDE』やK―1でも出せませんよ！

ハンセン　だから価値観が違うというだけで、私はプロレスの試合が格闘技の試合より下だとは思わない。それどころか、プロレスの方が遙かに面白い試合を提供できると、胸を張って言いたいよ。

――頼もしいですねぇ。やっぱりプロレスファンは、プロレスラーのそういった発言を待ち望んでいるんだと思いますよ。

ハンセン　ただ、面白い試合を提供するためには、各レスラーそれぞれがオリジナルを求めていかなければならない。強烈な個性と個性がぶつかり合うからこそ、そこに独自の攻防が生まれ面白い試合ができるのであって、みんながオフィスの言いなりになって同じようなことをやってたら人気が出るわけがないからね。ところが、今はイルを持った人間が、残念ながら非常に少ない。私にはみんな同じような試合に見えるよ。

観客を惹きつけるようなオリジナルのスタ

――ああ、確かにひとつの興行で同じような試合がいくつもあったりしますね。

ハンセン　観客は常にオリジナリティのある魅力的な選手を捜しているんだと思う。かつての三沢や小橋、そして川田や武藤は、誰のコピーでもなくオリジナルのスタイルを創り上げていくことで人気を得ていったんだ。彼らを脅かすスターが生まれないのは、そういったことが原因なんじゃないかな。もちろん、誰しもグリーンボーイ時代は誰かしらのコピーになってしまうものだし、私だってかつてはテリー・ファンクとディック・マードックのコピーレスラーに過ぎなかった。しかし、トップに立つには自分だけにしかないオリジナリティを身につけることが不可欠だ。そして、そのためには頭を使わねばならない。

――ハンセンさん自身の攻めまくって動きまくるスタイルは、一体どこから生まれたものなんですか？

ハンセン　私の場合はアブドーラ・ザ・ブッチャーとタイガー・ジェット・シンという2人の存在が大きかった。私が日本でこれから成り上がろうとしていた70年代後半、全日本と新日本で不動のガイジンエースの座に君臨していたのが、この2人だったから、私が上に行くためには、彼らができないことをやらねばならなかった。そこで私は試合の最初から最後まで動き続ける試合をやろうと思ったんだ。

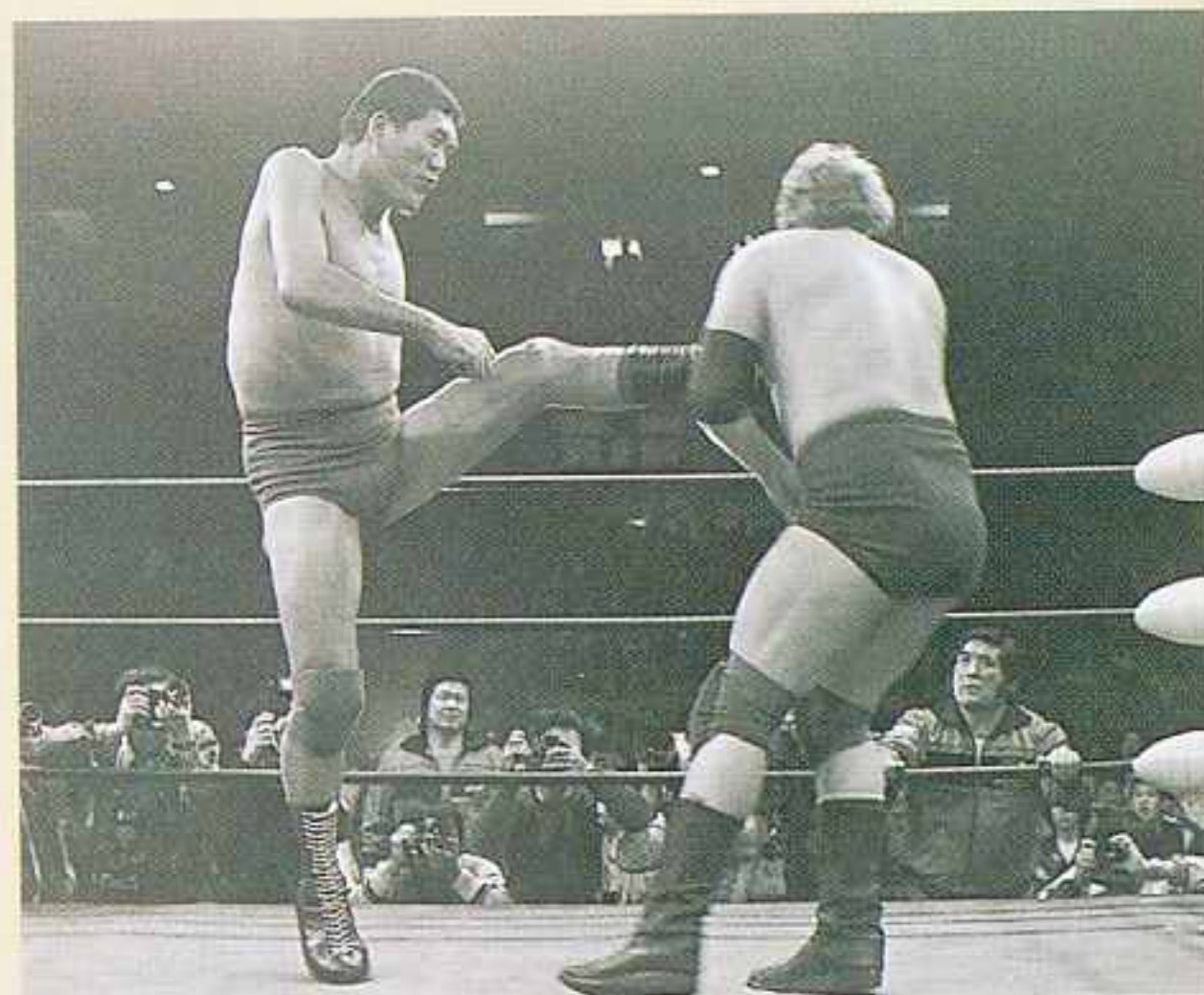
――スーパーヘビー級なのに、あれだけ動き回るというのは、当時としては凄いセンセーショナルだったでしょうね。

ハンセン　私自身、常に最高のコンディションで激しく動き続けるのは非常に辛かったが、他の人間がやるには厳しすぎるスタイルだったようだ。しかし、ブルーザー・ブロディだけは、私と同じように暴れ回ることができた。だから私とブロディのタッグは最強のチームになれたんだと思う。

――いまのプロレス界に強烈な個性を持った選手が育ってこないのは、どういったことが原因なんだと思いますか？

ハンセン　よく分からないが、まずボスが

プロレスラーにとって最も大事なのは個性。強烈な個性と個性がぶつかるからこそ観客を惹きつけることができるんだ。

20世紀最強のタッグチームの名をほしいままにしたハンセン&ブロディの“超獣コンビ”。当時のこの2人が持っていた“強さ”のイメージは、現在のミルコやヒョードル以上のものがあったと断言できる。

ハンセンが最も印象に残る一戦と語る、馬場との初の一騎打ち（82年2月4日、東京体育館）は、「馬場、奇跡の復活」呼ばれた名勝負になり、この年の「プロレス大賞」ベストマッチに選ばれた。

これまたプロレス史に残る衝撃の初登場シーン。3日前まで新日本に参戦していたハンセンが、ブロディ&スヌーカのセコンドとして全日本に登場。倉持アナの「あ! ハンセンです!」の実況も忘れられない。

多すぎることが原因のひとつなんじゃないか。みんながトップになりたい、アントニオ猪木やジャイアント馬場のように自分の団体を持って、すべてをコントロールしたいと思っている。だから、団体内での自分のポジションが気に入らないと、すぐに辞めて自分がボスになって新団体を作ってしまう。しかし、それでは本物のトップではない。やっぱりトップに立つなら、自分の力でオフィスだけでなく、周りのレスラー、そしてファンを認めさせなければならないと思うよ。

——トップの座は実力で勝ち取るべきだということですね。

ハンセン そう、かつての全日本はそうだった。例えば、馬場が「こいつをスターにしたい。こいつを売り出す」と言ってきても、その新人選手は、それに見合うだけの器かどうか、スタン・ハンセン、テリー・ゴーディ、ダイナマイト・キッド、スティーブ・ウィリアムス、天龍、そういった人間と闘って証明していかなければならなかったんだ。そして我々も、その選手がメインイベンターに見合うだけの器かどうか試すためにガンガン潰しにいった。その結果、ある選手はそこから這い上がってきてトップになり、ある選手はそこでダメになった。だから、若いレスラーが上に上がるのは、マッチメイカーの意向を超えたリアルストーリーだったんだよ。

——ホントの意味で、勝ち上がらなければならなかったわけですね。

ハンセン そういったことが面白いプロレスを作っていったと思うよ。もしかしたら今はそれがないのかもしれないな。

——そうかもしれませんね。例えば、いま日本で一番人気のあるプロレスラーは恐らく小橋建太選手ですけど、その人気が上がってきたのは、やはりハンセンさんたちにやられてもやられても立ち上がる姿を見せてきたからですもんね。

ハンセン そうだね。小橋とは何度も試合をして、何度も叩きのめしてきた。それでも小橋はたとえケガをしても這い上がってきて、その中で彼は自分のキャラクターを創ってきた。これは川田にしても同様に言えることで、彼も体が小さいのに何回やられても立ち向かってきて、いつしか私からピンフォールを奪うようになった。そういったものが今の人気を築き上げた大きな要因だと思う。

——やはりハンセンさんからピンフォールを奪うというのは、ある意味ハンセンさんからの〝合格証〟のようなものだったんですか?

ハンセン 私が〝認めた〟という表現は使いたくないな。私は勝利をプレゼントしたつもりはないよ。彼らが何度も立ち上がって私から勝ち取ったものだ。なぜなら、私より遥かに格下だった彼らが、私を倒す位置まで来たのは、彼ら自身の力じゃないか。私はただただ彼らの高い壁であり続けようとしていただけだよ。

——なるほど。では、逆にハンセンさんが若い頃、ハンセンさんにとっての〝高い壁〟というのは誰だったんですか?

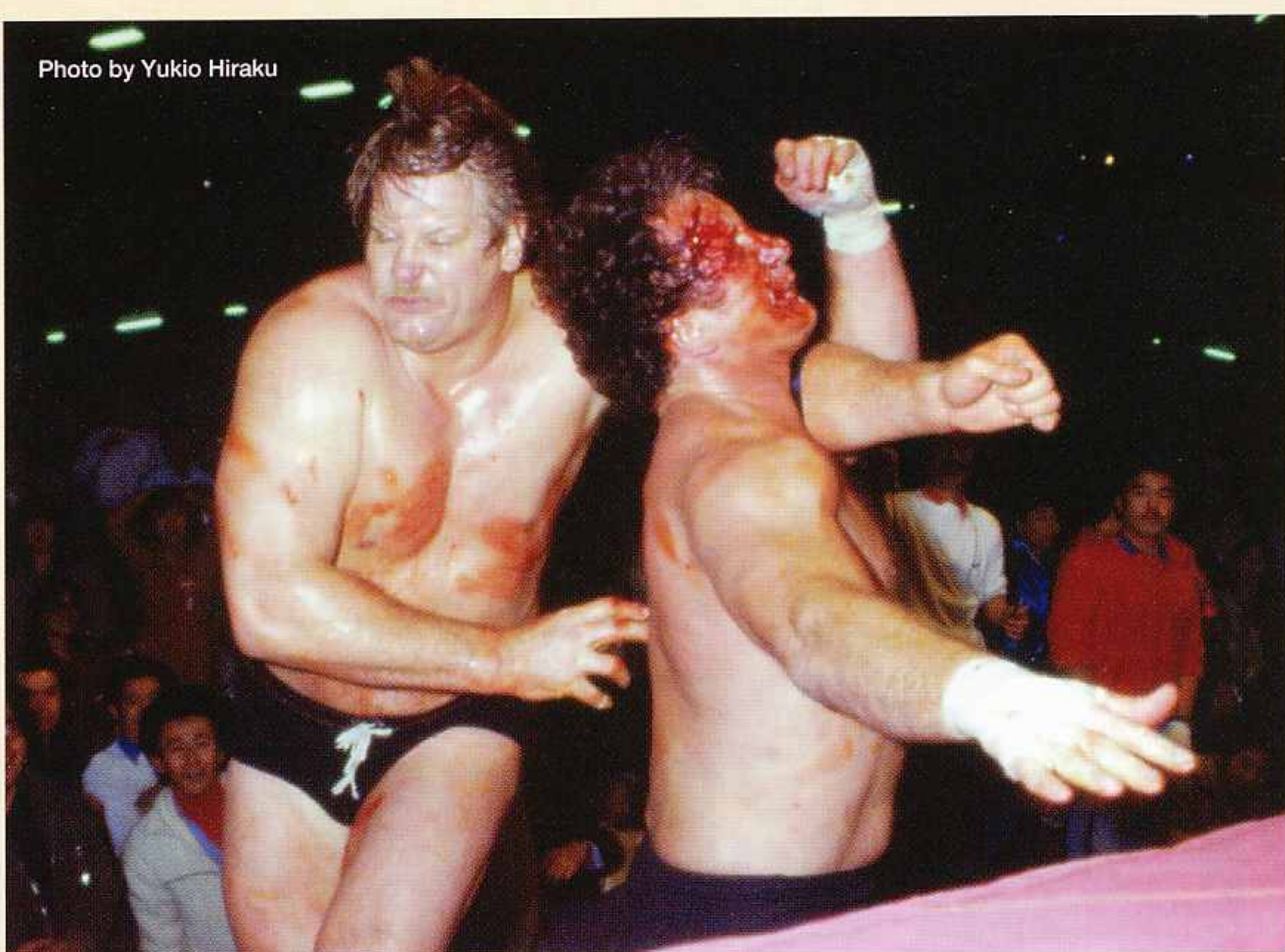
ハンセン それはやはりブルーノであり、猪木であり、馬場になるんだろうが、一人だけ挙げろと言うならば、私はアンドレ・ザ・ジャイアントと答えたいと思う。

——アンドレですか。それはなぜ?

ハンセン アンドレという選手は私にとって一番のキーになる選手で、私がトップ選手になるキッカケを作ってくれた選手だか

最も印象に残っているのは馬場、ジャンボ、天龍との試合。最もタフだった相手はテリー・ファンクだ。

Photo by Yukio Hiraku

ハンセンが「最もタフな男」「生涯最大にして最高の対戦相手」と評するのが、プロレスの師でもあるテリー・ファンク。ハンセンが全日本に移籍した82年～83年には、史上絡みの壮絶な抗争を展開。ハンセンがテリーに言い放った「テキサスの化石になれ」はあまりに有名。

らだよ。アンドレとの闘いがあったからこそ、私はトップになることができたんだ。結局、彼からピンフォールを奪うことはできなかったが、彼の巨体をボディスラムで投げきることができたのは、私にとって大きな勲章だと思っているよ。

—では、伝説のアンドレ戦の話が出たところで、ご自分が選ぶ生涯のベストバウトを伺いたいんですけど、理由と共に教えてください。

ハンセン　これはいつも質問されるんだが、その度に頭を悩ませるんだ（苦笑）。猪木、馬場、ジャンボ、天龍、テリー、アンドレ、ブロディ、ゴーディ、三沢、川田、小橋。あまりにも多くの試合をやり過ぎて選ぶことができないよ。

—その中でも、敢えてひとつ選んでもらいたいんですけど（笑）。

ハンセン　う〜ん、あえて選ぶとするなら……それでも2、3選ぶことになってしまうが、それでもいいかな？

—じゃあ、3つお願いします（笑）。

ハンセン　OK。まずひとつ目は、新日本から全日本に移ってきたあと、馬場と初めてシングルで闘った試合（82年2月4日、東京体育館）かな。この試合は、猪木の元で培ってきた私のスタイルが、はたして全日本でも通用するのかという大きなチャレンジであり、私が本当の意味でマット界のトップに君臨できるかどうかが問われる重要な一戦だったんだ。だから私自身、非常にナーバスになった記憶があるが、馬場は私のスタイルをしっかり受け止めてくれて、最高にエキサイティングな試合になった。この一戦によって、全日本でもやっていける確信を持てた試合だったので、いまだに強烈に覚えているよ。

—たしか、その年の「プロレス大賞」でベストマッチに選ばれたんですよね。

ハンセン　YES。その喜びも忘れられない。そして次に思い出すのは、ジャンボとやった三冠戦。それも私がジャンボに敗れ、初めて3本のベルトが統一された試合だ（89年4月18日、大田区体育館）。当時のジャンボは馬場からエースの座を譲り受けてはいたが、その上には常に私やブロディの存在があり、どこか二番手のイメージ払拭できない状況にいたんだ。そんな中で私に勝って三冠を初めて統一し、ジャンボが一番だと証明した試合であり、真のジャンボ時代のスタートとなった試合だったので、非常に印象深い。あとは天龍との数々の一戦も思い出に残ってる。実を言うと、私は天龍のスタイルが一番好きなんだ。だから彼との試合はいつも楽しみだったし、観客の信頼も得ることができたと思う。天龍は私と同世代なのに、いまだにタフな試合を続けているんだろう？　本当に素晴らしいよ。以上、記憶に残る試合をあえて3つ選ぶとこうなるかな。

—ありがとうございました。では、最後の質問をさせてもらいます。「プロレスラーが強い」というイメージが若干薄れている状況なので敢えて訊きたいんですけども、ハンセンさんが闘ってきた中で、こいつは一番強かった、タフだったという選手は誰ですか？

ハンセン　（即座に）それはテリー・ファンクだ。

—テリーですか！　それはちょっと意外ですねぇ。

ハンセン　天龍、小橋、アンドレ、ブロディ……みんなタフだが、その中でもテリー・ファンクが一番タフだったよ。私が新日本から全日本に移ってきて、一番肉体的にも精神的にも充実していた時期に、テリーはどんなに殴っても蹴っても、それを全部受けて、その上で殴り返してきた。しかも、若いときのクレイジーさをそのまま60歳を過ぎた現在でも持ち続けて、いまだにタフな試合をやり続けている。頭がいいのかどうかはわからないが、タフであることは間違いないよ（笑）。

—分かりました。まだまだ聞きたいことはたくさんあるんですけど、そろそろ空港へ向かわなければ行けない時間みたいなので、続きは次の来日の機会にとっておきます（笑）。

ハンセン　OK。こうしてインタビューを受ける機会は、年に何度もないから、私も話していて楽しかったよ。それからマガジンができたらゼヒ自宅に送ってくれ。ワイフは日本語が読めるから、変なことを書いたら次回来日したときにお仕置きをしなければいけないからね（笑）。

—大丈夫です！（笑）。では、今日はありがとうございました！

【03年11月24日／都内・某ホテルにて収録】

Stan Hansen■本名：ジョン・スタンレイ・ハンセン。1949年8月29日、アメリカ・テキサス州出身。75年に初来日以来、来日回数はプロレスラー最多を誇る。新日本で猪木を、全日本で馬場を破った文字通り最強最高の外人レスラー。2001年に現役を引退。現PWF会長。

あなたは知っていましたか？
レフェリーが
試合を面白くするんです!!

日本一のレフェリーが本誌初登場

和田京平

全日本プロレス

「キョーヘー!!」全日本プロレスのメインイベントのリング上、どんなレスラーよりも多くの声援を集める男がいる。その名は……和田京平!!　機敏な動作と的確なレフェリングで「日本一のレフェリー」の呼び声も高い京平さんが遂に『紙プロ』初登場!! 元レスラーが多くを占めるレフェリー界において、ディスコで踊り狂ったワルの京平さんが日本一のレフェリーまで上り詰めたキャリア30年の軌跡をたどり、その“プロレス哲学”に迫る!!

聞き手／吉田豪＆坂井ノブ　試合写真／平工幸雄　designed by no-gutty（Two three）

京平の写真

京平さんは1986年度の『プロレス大賞』で優秀レフェリー賞を受賞している。過去30年の『プロレス大賞』の歴史の中で、この賞を受賞したのは京平さん唯一人。当時の全日本プロレスをNWA公認レフェリー・ジョー樋口さんと共に裁いていた。

京平　今日は何を話せばいいの？

――京平さんの生い立ちに始まって……。

京平　生い立ちは随分いろんなところで話してるじゃない？

――まあ、今回は「日本一のレフェリーが『紙プロ』初登場」ということなんで（笑）。

京平　日本一か世界一か知らないけどね、日本一のわりには他団体からお呼びがかからないんだよ（笑）。

――ダハハハ！　そう言われればそうですねえ（笑）。

京平　ホントにかからないんだよなあ。「どうして？」って聞いたら「ギャラが高い」とか言われてさ。

でも、レスラーだったら別にギャラが高くたって呼ぶわけでしょ？　そこがわかんないんだよな。切符を売るためにいいレスラーを呼ぶっていうのはわかるんだけど、「和田京平が裁きますよ」って言ってお客さんが呼べないんだね。

――でも、たとえばノアのメインを京平さんが裁くってなったら、それだけでみんな行きたくなると思いますよ。

京平　う～ん……。まあ、二度と裁くことはないだろうけど、お客さんとしたら夢だろうね。そこで初めてレフェリーやっててよかったなって思うんじゃないの？　俺はどこでも出られるんですよ。この間もK-DOJOに出たし、その前もみちのくに出たし。それだって別に約束じゃなくて、たまたま人生が電話かけてきて「来て下さいよ」って言うから「遊びに行くんならレフェリーやってやるよ」って言っただけでさ。他の団体に行って、ただ観てるだけってもの凄くつまらないんだよね。

――「ああ、もう俺ならこうするのに！」ってイラつきそうですよね（笑）。

京平　それはある！　そういうのを見ててイライラするんだったら、中に入って、つまんなけりゃつまんないで「もっとやれ」って言ってね。いま全日本でも平井（ミツ・ヒライ・ジュニア）と奥村（茂雄）の試合なんかホント、そういうふうに見てるからね。

――思いっきりダメ出ししてますよね（笑）。

京平　「何やってんだ!?」って言っちゃうから。普通、言っちゃいけないんだよ、レフェリーは。でも、あの試合に関しては言えるんだよね。お客さんもそういうふうに観てるだろうし、そういうふうに言って初めてあの試合が引き立つから。

――ツッコミを入れないと完成しない（笑）。

京平　あれを普通にやってたってお客さんも「何やってんだよ」って言うでしょ？　他のレフェリーがやったって面白くもなんともないじゃない。ところが俺が「真面目にやれ！」って言った時は、彼らも真面目にやるわけさ。それこそ、後楽園大会（9月21日）でコーラの一気飲み対決をやらせたりして、「持ってくるな」って言っても持ってくるからね。あ

レスラーと一緒に徹底的に練習したよ 越中とも“極めっこ”やってたし

れがキャラなんだろうし。

――そこを引き出すわけですね。

京平　せっかく平井がコーラを持って来たんだから、「奥村も飲んでやれ」「疲れたら飲め」とか言ってね（笑）。そういうふうに、お客さんの反応を見ながらプロレスをやってるっていう感じですよ。俺は自分がお客だと思ってやってるから。お客の立場で怒ってるんですよね。

――それがレフェリングの基本ですか？

京平　レフェリーをやってきて30年になるけど、10年目までは前座の1試合目から5試合ぐらいまでを「プロレスとは何か？」も分からないままガムシャラに裁いてたんだよね。だから10年目ぐらいで一生懸命やってた頃は5列目ぐらいのお客さんしかわからなかったけど、20年目になったら後楽園ホールが段々わかるようになって、いま30年目になって、やっと武道館のお客さんが和田京平のレフェリングをわかるようになって。できれば武道館の一番上のお客さんまでレフェリングスタイルを観てもらいたいし、プロレスっていうのは何なのかをわかってもらいたいし、満員のお客さんがみんなプロレスを好きな興行というか、そういうのをやってみたいよね。ホント、超世代軍の頃はそういう感じだったでしょ？

――完全に一体化してましたもんね。

京平　ウェーブやったりとかね。ああいうのをもう一度復活させないと。

――あの時の四天王プロレスって、ホントに京平さんなしでは成り立たなかっただろうなって思うんですよ。

京平　というか、レスラーが頼ってくれたんだよね。

――試合を進行していく上で、ですね。いまもノア勢とは接点あるんですか？

京平　全然ない。でも携帯に電話番号もちゃんと入ってるし、何かあれば電話かかってくるだろうしね。別に「助けて下さい」っていうのもないだろうし、こっちも「助けてくれ」っていうのはないし……意地だよね。別に喧嘩してるわけじゃないから。彼らも一生懸命やってるし、やっぱり馬場さんの教え通りでプロレスが上手いよ。彼らが武藤さんとやったらどうなるのかなとか思うしね。

――そこは興味ありますよね。

京平　あと、馬場さんの教えってことで言えば、10年に一区切りでいろんな事が起こるから。いろんな事が変わってくるよ？　この先まだまだ面白いよぉ（笑）。

――その馬場さんは、京平さんのことを「ワルだった」と言ってたんですけど（笑）。

京平　う～ん、俺はワルじゃないと思うよ。悪い連中の中には入ってたけど、悪いグループを抑えてた役かもしれないね。

――当時からレフェリー役だったわけですか（笑）。

京平　なぜだかレフェリーだったね。喧嘩してるのを見て俺も一緒に蹴るっていうのはなかったし、これ以上やったら危ないなと思ったら止めてましたよ。俺は実際、やられたこともあるし、どれぐらいまでやったら大丈夫かっていうのがわかるし。病院送りにするまでやることはないだろうから、

途中で「帰ろうや」って言うのが俺の役目だったね。でも、レフェリーは損な役目ですよ。

——せっかく止めたのに「何で止めるんだ！」って文句言う人もいるだろうし。

京平　「この野郎！」って終わってから叫ぶ奴とか見ると、ホント腹立ったね。そういう時は「止めてやってんじゃねえか！」って、後ろからバコーンって蹴って帰って行くという（笑）。

——格好いいなぁ（笑）。当時、京平さんはダンスが上手かったっていう伝説もありますけど。

京平　うん、確かにディスコで2～3時間踊りっぱなしでも息が切れなかったね。いまは5分踊ったら、何でこんなキツイことやってんだって思うけど、いまだに音楽を聴くと体が動くからね。

——時期的にはディスコブームの前ぐらいですか？

京平　そう。モンキーダンスの後ぐらい。我々がつくった独自のステップで、この曲はこういうステップとか、『ゲットレディ』はこういうジャクリングっていうのが決まってたから。いまでいうパーティーの走りじゃないの？　喫茶店借り切ってね。

——京平さんがパー券売ってたりしてたんですか？（笑）。

京平　売ってたね。俺らは買う金ないし、パーティーがあれば「こんにちは」って入って行く。券がないと入れないんだけど「俺らに券はいらないだろ」っていう、ちょっと生意気な感じでね。それで一生懸命踊ってたよ。ダイアナ・ロス、ジェームズ・ブラウン、いま流行ってる「セックス・マシーン」の踊りもあるしね。いま「やれ」って言われてもできるよ。

——じゃあ、プロレス界に入ってからも、ジャンボ鶴田のテーマ曲だった『チャイニーズカンフー』が鳴ると踊ったりしてたんですか？

京平　ああ、一番踊ったよね！『チャイニーズカンフー』が使われた時は嬉しかったなぁ（しみじみと）。

——京平さんは踊りが上手かったからレフェリーになったっていう伝説もありますけど。

京平　それまでリング屋さんやってたんだけど、馬場さんが俺の踊りを見たんだよね。それが軽やかだったから指名されたんじゃないかなあ。

——つまり、リング屋さん時代に会場で踊ったりしてたわけですか（笑）。

京平　そうそう、だってリング作り終えたら暇だから（笑）。それで「お前はいいリズム感してるなあ」って。俺なんかその頃、馬場さんと口を聞くって言ったらホントに直立不動になって「何ですか！」って感じだったんだけど、「いいリズム感してるからレフェリーやれ」って言われて「いや～、レフェリーなんてとんでもないです！」って言ったんだけど「やってみろ、面白いぞ～」って。

——素朴な疑問なんですけど、レフェリーってリズム感で選ぶものなんですか？

京平　う～ん、いま考えてみるとそうだと思う。リズム感は大事だと思うよ。

——まあ、試合にもリズムは必要ですもんね。

京平　でも、最初に馬場さんから「やってみろ」って言われた時は断ったの。その後、半年ぐらいに今度は別の上司に呼ばれて「レフェリーやってみないか？」って。「すぐにはできないから練習させてください」って恵比寿の薄暗い道場だったんだけど、ラフな格好で行ったら、俺のことをかわいがってくれてたマシオ駒さんがいて、「京平、じゃあ練習せい」って。「何を練習したらいいんですか？」って聞いたら、「う～ん、鏡の前で両者をこう向かえ合わせて、髪の毛を引っ張ったらいけないとか、反則のブレイクとかジェスチャーでもやっとけ」って言われたんだけど……やってみい、一人で。

——相当恥ずかしいですよね（笑）。

京平　大きな鏡の前で「パンチやったらダメですよ」とか言ってるんだけど、悲しくてやってられないよね。当時19歳とか20歳ぐらいですよ。「なんでこんなことをやらないといけないんだ」って、ニヤニヤしながらやってたら、後ろからパコーンって殴られた。「これで飯を食っていくのに笑ってるとは何事だ！」って、確かにあの人たちからすればそうなんだよね。いまの俺も若いヤツそんなことやってたらパコーンって殴りたくなるし、あの人たちからすれば「ナメるな！」っていう気持ちはわかるよ。

——まあ、20歳ぐらいじゃしょうがないですよね（笑）。

京平　でも、いま考えると、馬場さんからしてみたら、俺みたいな一般人のシロウトにレフェリーをさせるっていうのは、ものすごい度胸がいることなんだよね。あの当時はレスラー上がりしかレフェリーなんてできなかったんだから。だから、練習もレスラーと一緒になって徹底的にやらされたよ。その時、ちょうど新弟子で越中（詩郎）が入ったばっかりだったんだけど、俺も百田のみっちゃん（光雄）に「一緒にやれ」って言われてヒンズースクワットとか300回ぐらいやったのかな？　かわいそうだなと思ったのは、越中の方が先にバテてたもん。

——凄いじゃないですか！

京平　ほら、俺の方が体重は軽いでしょ？

——しかも、ディスコで足腰とスタミナは鍛えてるし（笑）。

京平　そうそう（笑）。逆立ちしながら腕立てやったりとか、レスラーと同じメニューをこなしましたよ。受身もやったし、それこそ越中とグランドでギブアップしたほうが負けってヤツ、いまで言う〝極めっこ〟もやったし。

——なんでスパーリングまで（笑）。

京平　俺も「何でプロレスラーじゃないのにこんなことやらなきゃいけないんだ」って。どうしていいのかわからないんだ、お互いに極め方を知らないんだもん。

——そりゃそうですよね。レフェリーなんだし（笑）。

京平　それでもバテバテになるまでやってたけど、いま考えたら負けなかったもんな。

——極められなかったんですか！

京平　負けないというかわからなかったんだよね。2人ともヘッドロックさえ取ったらいいと思って、それの掛け合いでね。

——しかし、何でレフェリーの練習メニューにスパーリングが入ってたんですかね（笑）。

京平　あれで越中を鍛えてたんじゃないかな？「こんな素人の京平にやられてどうすんだコノヤロー！」っていう感じで。俺も「そうはイカン！」って、一生懸命やってましたよ。でも、越中もよく逃げないで残ったと思うよね。

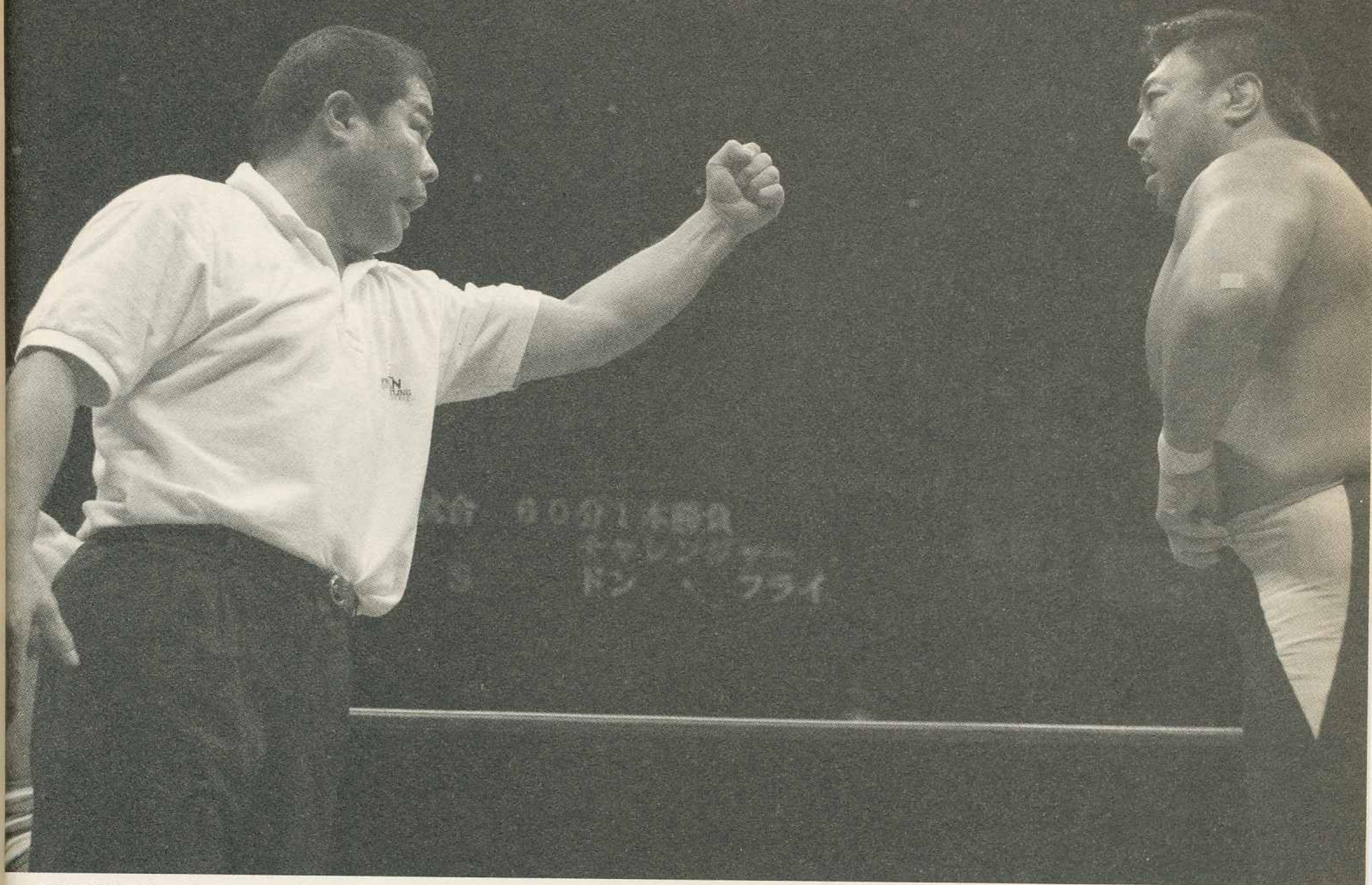
——京平さんは辞めようと思ったことはなかったんですか？

Kyohei Wada

京平さんが「一番凄かった。別格でしょ」と言い切るのは“怪物”ジャンボ鶴田だ！　ライバル・天龍と激闘を繰り広げ、超世代軍の厚く高い壁として立ちはだかった80年代末期から90年代初め、試合のスピードが大幅にアップする中で京平さんはメインに抜擢されて数々の名勝負を裁いてきた。

Photo by Yukio Hiraku

ハンセンが「最もク
するのが、プロレス
本に移籍した82年
センがテリーに言い

最も印
馬場、ジ
最もタ
テリー・

目の前で反則を行うレスラーは容赦なく叱り飛ばす！　10月の武道館大会でドン・フライとの三冠戦で川田がグーパンチを放ってドン・フライはダウン。京平さんは川田を大声で怒鳴り散らす！　あまりのハイ・テンションに、さすがのデンジャラスKもタジタジ!?

Kyohei Wada

京平　あるよ！　馬場さんに二回ほどクビを切られたよ！

――えっ！　何でまた？

京平　言うこと聞かなかったし、性格的にワルだったから。当時は25～6歳だったかな？「レフェリー・シューズ履け！」って言われてたんだよ。でも当時ね、アディダスの紺色の靴があって、それと全く同じですよ（と吉田豪が履いていたアディダス・スーパースターを指差す）。格好良かったじゃん。こういうのでやりたかったのよ、目立ちたかったから。でも、馬場さんに見つかって「お前、なんでそんな靴を履いてんだ？」「いや、今これが流行ってて格好いいんですよ」「バカやろう、レフェリーやっててそんな運動靴を履くな！」「いや、俺はこれでやりますから」「なにぃ！」って（笑）。そのまま試合に出たんだけど、試合が終わったら、誰か別の人を介して「馬場さんがクビって言ってますよ」って。

――アディダス履く履かないでクビですか（笑）。

京平　俺は「辞めたって何にも悔いないし」って思ってたんだけど。

――またアッサリしてますねえ（笑）。

京平　プロレスで食っていこうなんて思ってなかったから。ケンカで大勢にやられて、血だらけになって、アザだらけで馬場さんの前に行ったら「今度やったらクビだぞ」って言われたこともあるよ。

――ホントにバイオレンスな日々だったんですねぇ。

京平　それは人違いでやられただけなんだけど（笑）。毎日前座で3～4試合裁いてるだけで、お客さんが俺を見てるわけじゃなかったからね。最近はレフェリーになってすぐにテレビマッチに出たりする奴がいるけど、冗談じゃないよ。セミはセミ、メインはメインのレフェリーがいるのと同じで、前座には前座のレフェリングがあるのに。

――全日本はレフェリーにキッチリした序列がありましたよね。

京平　そりゃそうだよ！　当たり前のことだと思う。いまの全日本はレフェリーがいないから、俺も前座でやったりしてるけど。ホントは、俺はメインイベントだけやってれば一番ビシっとしたものができるんだよ。

――確かにレフェリーもピラミッド型がいいですね。

京平　昔はメインとかセミを裁きたいとは思わなかったけど、やっぱり上に上がって行くにつれて一度はやってみたいなって思って。じゃあ、実際にメインをやってどれぐらいプレッシャーがあるのかって言ったら、コーナーに立ってるだけで胃が痛くなるような緊張感があるんだよ！

――京平さんがメインをやり始めたのは90年頃からですよね？

京平　そう。ジョー（樋口）さんから「お前がメインをやれ」って言われた時には「えっ!?　失敗したらどうしよう」って凄いプレッシャーでしたよ。

――でも、いい時期にメインになりましたよね。ちょうど試合のスタイルが変わってきた頃だし。

京平　俺のレフェリングが受け入れられる三沢、川田、小橋が上に行った時に俺がメインをやったというのが一番良かったよ。

――ジョーさんとはスタイルが違いますよね。

京平　でも、原点はジョーさんですよ。直接、教わったことはそんなにないですけど。ワンポイントしか言わないから。何がワンポイントかって言ったら、俺がまだ4、5年目の頃かな？　やっとテレビカメラに映るか映らないかぐらいの時に「京平、テレビカメラがどこにあるかわかるか？」って言われたんだよ。「こっちとこっちです」って、すぐ答えたけど。なぜ分かるかって言ったら、当時の会場には（スポンサーの）垂れ幕があったじゃない？　リング屋時代に自分で張ってたからね。「横浜ゴムはここ、黄桜がここ」って。

――カメラの反対側に吊られてるわけですね。

京平　「おお、お前よく見てるな。お前の立つ位置でカメラが邪魔にならないように動けよ。リングサイドのカメラマンにも気を遣えよ」って。だから「ここに『東スポ』さん、ここに『ゴング』さんがいるから、俺はあのへんにいればいいんだな」ってインプットして。

――そういうことを考えないレフェリーも多いですよね。

京平　普通は考えてないと思うよ。「俺が一番いいポジションにいるな」と思ったら、こっちに移って、ここのカメラマンがカシャカシャっと撮ったらまた戻ってきて、そういうふうな気の遣い方を心掛けたね。いま、それをやってるレフェリーって何人もいないんじゃない？　西永（秀一・現ノア）、福田（明彦・現ノア）、海野（レッドシューズ海野・現新日本）ぐらいじゃないかな。

――みんな全日本の系統ですよね。

京平　カメラマンの人から「やっぱり京平さんの下でやってた人はみんな気を遣ってくれてますよ」って言われると嬉しいね。そういうジョーさんの教えをみんなやってるっていうのはやっぱり嬉しいよ。あと、ジョーさんのこういう動き（両手を広げて動かす仕草）があったでしょ？

――両者に動くよう指示するやつですね。

京平　当時は「何やってんだろ？」って思ったけど、あれはジョーさんの「ごまかし」なんだよね。

――「ごまかし」ですか？

京平　いま考えたら、「ああ、なるほど！　リングの中で誰も動いてないと格好悪いな」って分かるんだよね。リング上の2人がバタンと倒れた時に、レフェリーがこうやって手を動かして「動け、動け」ってこうやってるから、はじめてリングの中で誰かしら動いてるんであって、レフェリーが一緒になって固まって見てたらバカみたいでしょ。

――間が持ちませんよね（笑）。

京平　相撲を見てても、土俵際に行くと行事が「あ、残った、残った～！」って甲高い声で言うじゃない？　動きが止まると、また別の声で「はっけよ～い」って。プロレスのレフェリーやっててもヘッドロックか何かで動きが止まった時に「まいったか!?」って聞く発音一つでお客を引っぱる部分もあるわけよ。だから俺がレフェリングやったら「まいったか？」って聞くのも、痛いのか、痛くないのか、どのぐらい痛いのかって上中下の3つの発音があるんだ。

――試合の流れによってのボリュームを変えるわけですね。

試合中の「まいったか？」という声も相撲の行司さんの発声を取り入れてるから

京平　「はっけよ～い」って言う行司さんの発声を取り入れたっていうか、俺は俺なりに工夫してね。「まいった？」って聞くのは「こんな技に捕まってんの？」ってバカにしてるんだけど、そう聞くと選手も「まいらない」って言うでしょ？　「まいってないなら動けよ！」って言った時にはじめて選手が意地を張るわけでしょ？　そうやって彼らの動きを言葉で表現してあげる。もし、1列目で俺のレフェリーを観てたら「なるほどな～」ってため息つくと思うよ。

――勉強になりますか（笑）。

京平　よく知らないヤツは「レフェリーは知ってて知らない顔をする」って言うけど、実際に知らないから注意できないんであって、見たら厳重に注意しますよ。そういう駆け引きというか、いまそういうプロレスがなくなってきてるでしょ？　俺が見てる目の前で急所攻撃をやったりしてね。「反則にするぞ」って言うけど、ああいうのはホントに反則負けにしたほうが逆に面白いんだよ！

――ダハハハ！　やるなら、ちゃんとブラインドを突け、と（笑）。

京平　でも、一回で反則にできないから、「今度やったら反則にするぞ！」って言って。きっと、お客さんも納得してくれるよ。そのためにも声は大きくして、「あのレフェリー怖いなあ」って思われないと。いま、平井、奥村たちの試合がそうでしょ。ホントは、第一試合に出てくるレスラーはレスリングを見せなきゃいけないんだけどね。

――じゃあ、そういうレフェリーに怒られまくるような試合は何試合目ぐらいがいいですか？

京平　やっぱり休憩前ぐらいかな。

――いわゆる、ファミリー軍団vs悪役商会みたいなポジションですね（笑）。

京平　「なんだ、あの試合!?」って言いながらお茶飲みに行くのがちょうどいいんだよね（笑）。第一試合っていうのは若い人たちが技も知らないでグランドレスリングやって腕を取りっこして、たまにドロップキックやって、1、2キックアウトしてボディスラムやって……そういう試合だよね。失礼な話だけど、いまと昔じゃ第一試合とか第二試合とか見てても全然違うんだよ。

――基礎ができてないのに背伸びしてますよね。

京平　まあ、俺が第一試合やってたら裁かれる方だってかわいそうかなとも思うし。

――プレッシャーかかるでしょうね（笑）。

京平　俺が本気で怒っちゃうとビビっちゃうというか、下がっちゃうもん。でも、下がったらプロじゃないよ。この間のK-DOJOに上がった時も、まわりにいるセコンドたちが「チョークだろ！」って抗議してくるんだよね。「チョークじゃねえだろ、しゃべってんのに！」って言ったら、「はあ……」って黙っちゃってんだよね。

――なんでリング上で言い負かしてるんですか（笑）。

京平　そこで「なんだ、この野郎！」ってセコンドが俺に向かって来たらいいじゃん。その間にリング上でプロレスやってなさいよ。そういうもんじゃないかなと俺は思うよ。いまの若い人たちって一直線なんだよね。

――いま、そういうレフェリーとのコミュニケーションが上手いのは（ケンドー・）カシンさん辺りでしょうね。

京平　上手いね。あれは上手い！　カシンとか渕クンとかはやっぱり上手いよね。反則でもギリギリのところを狙うでしょ？　俺が何か言ったって「ああ、はいはい」って聞き流してるし。だからノアの小川（良成）と同じ。悪さしてても、自信があるんだよな。

――いま元WWEの選手が来てますけど、彼らもかなり上手いんじゃないですか？

京平　上手いよ。間の取り方というか、今回来日したディーロウ・ブラウンとかブキャナンも「久々にプロレスを知ってる外人レスラーだな」って思った。俺をもの凄く使うんだよ。アメリカンスタイルでは、絶対にレフェリーの目の前では悪いことはしない。だから、思いっきり俺を引っ張るんだよね。「なんだろう」ってパッとこっち向いたら、俺の見てないところで悪いことやってるからね。日本人でそんなことできる奴っていないじゃない？

――それこそカシンさんとか小川さんしか思い浮かばないですね。

京平　あとは武藤さんでしょ。俺が踏み台にされちゃったりして（笑）。ああいうところが武藤さんの上手さだろうな。やっぱりアメリカで育ってるからね。

――京平さん自身はアメリカに行かれたことは？

京平　行ったことないね。フィリピンとかで試合はあったけど、できないって。言葉も違うし、俺が

Photo by Yukio Hiraku

ハンセンが「最も久
するのが、プロレス
本に移籍した82年
センがテリーに言い

最も印
馬場、ジ
最も夕
テリー・

いくらポーンと飛んだって向こうの人は喜ばないよ。向こうは向こうのアクションがあるからね。3カウント寸前でクルッと回るアクションって、向こうにはないし。

——いわゆるカウント2.9ですね。

京平　あれは別に俺が考えたわけじゃないんだけど。

——あっ、違うんですか？

京平　違う、違う！　たまたまなんだよね。「これだけやられてるから、もう終わっていいだろ」って思うから、おれは3カウントを叩こうと思うわけよ。それで3つ目をを叩こうかなと思った時に選手の肩が動くから。何て言うか……「スコッ！」ってやつだね（笑）。絶対にここ（マットのスレスレ）で止まるわけないもん。

——京平さんは試合を長引かせるレフェリーっていうイメージが強いんですけど（笑）。

京平　わざとやってるからね！（キッパリ）

——ダハハハ！「まだやらせんのか！」みたいな（笑）。

京平　俺は選手が倒れてても「立て立て！」って言うからね。

——三冠戦とかで20～30分やってもまだ立たせるっていう（笑）。

京平　いま、お客さんが一番喜んでるんだから「まだまだ！」って……ホントはそれじゃいけないんだけどね。

——それはお客さんの反応を見てやってるんですか？

京平　俺はお客さんの代表だよって思ってやってるから、お客さんがもっと見たいと思うんなら、「こんなところで終わるな！」っていうところもあるし。

——ここがピークだなっていう瞬間を掴んで、そこでカウント3を入れると。

京平　まだまだと思ってたら、選手がロープを掴んでも、その手をポーンと足で蹴っ飛ばしたりね（笑）。あれは考えてやってるんじゃなくて、思わず出ちゃうんだよね。「ロープ！」って言っても「ロープは手首が出てからだよ、お前は掴んでるだけだよ！」って。

——ブレイクしたほうがいい時はブレイクするし（笑）。

京平　ここでブレイクしないほうが面白いっていう時もあるじゃない？

——そのへんはニュートラルにした方がいいですよね。プロレスはルールブック通りにやらないほうがいいに決まってるし。

京平　馬場さんに「レフェリーが一番強いんだよ」って教えられたけど、ホントにそうなんだもん。「リングの上に上がってお前に1、2、3ってやられたら終わりだし、反則って言われたら終わりだし、俺でも負けちゃうんだよって。だからお前は自信を持って裁けよ、オドオドしちゃダメだよ」って。そういう言葉を聞いた時に、自分が変わっていくよね。お客さんにも「怖いな、このレフェリー」って思わせるようなレフェリングをしないと。こないだ、お客さんにも怒ったもんな。

——あっ、そうなんですか（笑）。

京平　かわいそうだけど、シーンとしたところで「ひーらい！」とか「おーくむら！」なんて、うるさいじゃない？　耳障りだったから「お前ら、うるさい！」って言ったら、他のお客さんは拍手してたよ（笑）。

——馬場さん時代はそういうのは許されたんですか？

京平　許されないよ！　だって「お客は神様だよ」って馬場さんは言ってたし。

——そうやって昔ながらの全日本の型を壊して行くのは、京平さん自身、楽しんでやってたりするんですか？

京平　楽しんでるよ。ただ、リング上で笑ったらいけないね。笑いが出ちゃった時点で、お客さんも「なんだよ」ってなるでしょ？

——やる側が笑ったら、見てる側は笑えなくなりますからね。そんな京平さん的には、えべっさんの試合はどうなんですか？

京平　あれはあれでお客さんが受けてるからねぇ……。Ｚｅｐｐ Ｏｓａｋａで初めてえべっさんの試合のレフェリーやったんだけど、試合前に「すいません、ボクがふざけてたら叩いても結構ですから」って。

——自分から言ってきましたか（笑）。

京平　「悪いけどレフェリーがレスラー叩くなんて絶対できないから」「それがボクのキャラなんですけど……」「いや、レフェリーは絶対に選手を叩いちゃダメだ」「そうですかわかりました」って言ったのね。「じゃあ、一生懸命やらしていただきます！」って。そしたら、な～にが一生懸命だよ！　あんなの初めて見たのよ。自分で「ロープブレイク！」とか言ってるじゃない？「この野郎！」と思って本気で怒ったもんな。そしたら「おっかねえな、このレフェリー！」だって（笑）。「お前ら真面目にやれ！」「いや、真面目にやってるんですけど」って。

——「ボクの真面目はこれです」って（笑）。

わざと試合を長引かせてるから!!
お客さんが喜んでるんだから「まだまだ!」って

京平　小島に「京平さん、よくあんなに真剣に怒れますね」って言われたけど（笑）。真剣じゃなくて、ホントに怒ってるから！「あれがスタイルなんですよ」って言われても、「そんなスタイルは俺には許せない！」って話でしょ。

——怒ってたのはネタじゃなかったんですね（笑）。

京平　俺が怒ってるのを見るのも面白いんじゃないかな？　どれぐらい怒らせるかっていう。

——そこで認めたら負けなんですかね。

京平　そう。あれで俺が笑っちゃったら、絶対に面白くないですよ。えべっさんが一生懸命やってるのと同じで、俺も「何やってんだ！」って言うので一生懸命だから。それがプロフェッショナルであって、俺が怒ってるのを見てお客さんが「ワハハ」って笑うのは仕方のないことで、それが一つの味になるから。えべっさんはえべっさんで面白いんじゃないの？

——えべっさんの対極にあるような総合格闘技はどうなんですか？

京平　気になるからたまには見ますけど、だからと言って俺がそこでレフェリーやらせてもらえるわけじゃないからね。

——そりゃそうですけど、総合でも京平さんのレフェリングを見てみたいですよ（笑）。

京平　K-1を見てても試合じゃなくてレフェリーの動きを見てるけど、あれは難しいよ。俺だったらできないな。「これだったら俺がやるより、島田（裕二）がやった方が面白いよな」って思っちゃうよね。

——他団体のプロレスみたいに「俺がやったらもっと面白くできる」って思いが出てこないわけですね。

京平　それがないから、俺の関知するところではないね。だって、俺だったら「ここで試合を止めたらマズイよな」とか考えちゃうから。

——あ、そこでも試合を引っ張っちゃうわけですか（笑）。

京平　引っ張っちゃうねぇ。でも、それじゃあ選手が死んじゃうよなって思うし。ただ、中西（学）にしても、みんなカツーンとやられちゃってるじゃない？　一発喰ってノックアウトっていうのが俺には納得いかないんだよなぁ。なぜかって言ったら、プロレスってノックアウトを喰っても動いてなきゃいけないんですよ。

——いきなりダウンを奪われて10カウントで試合が終わりっていうことはないですもんね。たとえ失神しようと、意識がなくなろうと、そこで立ち上がらなきゃいけないし。

京平　こないだの川田選手とドン・フライの三冠戦だって、ホントだったらヤバイ場面が何度もあるんですよ。フライがあんだけ顔面キック喰ったりして、「もしかしたら脳震盪起こしてるんじゃないかな」って思う場面が何度もあったけど、あの人たちって動いちゃうんだよね。

——開始5分ぐらいでフライの意識が飛んでたんですよね。ミック・フォーリーも試合中に耳が取れちゃったとき、「怪我をしたら試合中止になるのがいわゆる真剣勝負のスポーツだが、プロレスだからその後も続いた」って著書で書いてましたけど。

京平　その通り！　昔、川田vs三沢で始まって2～3分で川田のスピンキックが三沢の顎にボーンと入って脳震盪起こしたんだけど、試合やっちゃってるんだよね。試合後に控室行って「京平ちゃん、試合どうだったの？」って言われた時、「やっぱり飛んでたか」「ああ、プロレスは凄いなあ、怖いなあ」と思ったね。

――記憶が飛んでても記憶と反射で試合ができちゃうんですね。

京平　そこが危ないんだけどね。

――ちょっと話は変わるんですけど、同じレフェリーとしてミスター高橋さんのことはどう思われます？

京平　う～ん……男気がなかったかなぁ。

――なるほど（笑）。

京平　俺にはできない！　いまも思うんだよ、レフェリーは黒子でいいんじゃないかなって。当時から高橋さんってレフェリーやってても目立って、カメラの邪魔してたでしょ？

――ああ、そうでしたね（笑）。

京平　あれがやっぱり最後の最後にも出てしまったんじゃないかな？

――よく「選手よりも俺の方が強いんだ」みたいなアピールもしたかった人だったって言われてますけど、それが本にも出てましたからね。

京平　うんうん、そこまでする必要はあるのかなって思うんだけど。あれをやられると「じゃあ、京平さんもそうなんですか？」ってなるからね。レフェリーの立場からして答えようがないよ。本人と会ったこともないし本を読んだこともないから、よく分からないけど。俺がああいう本を出すんだったら……。その前に首吊ってるかなぁ。

――ああいう本を出すぐらいだったら。

京平　だって、友達なくすよな。

――実際、なくしちゃったみたいですね。

京平　でも、悔しかったんでしょう。何年間もレフェリーとして一生懸命やってきて「新日さん！　猪木さん！」で一生懸命やってきたのに、何にも面倒みてもらえなかったというか、そういうふうにした会社も悪いし、裏切られちゃったんだろうな。「裏切られたんだったら裏切ってやれ！」って思ったんじゃないですか？　それほど悔しかったんでしょう。

――それがプロレス本としては空前のヒットになっちゃったわけですけど。

京平　高橋さんはそれぐらい器量があったんじゃないの？　じゃあ、「京平さんも書いて下さいよ」って言われても、俺は字がわかんないから書けないもん。

――字がわからないですか（笑）。

京平　笑い話で「何かあったら辞表書いてやる！」ってよく言うじゃない。俺は「辞表」っていう字を知らないから、辞表を出すこともできないんだよ。

――「辞」の字が難しいっていう（笑）。

京平　「書き方知らないから辞めた！」って、よく言ってたよ（笑）。

――是非、京平さんにも本を書いて欲しいですよね、ジョーさんの本も面白かったし。

京平　でも、何を喋ったらいいのかわからないよ。よく言われるんだけど、どんなことを聞きたいのって。普通に居酒屋でベチャクチャ言ってる分にはもの凄く面白いって言われるんだよ。「そんなこと言っていいんですか？」って。でも、それを本にしたって面白くも何ともないでしょ？　もう酒の場だから、こんな小さな話をこんな大きくしてるし。

――あ、そうなんですか（笑）。

京平　俺は本音しかしゃべれないから。「ジャンボさんはどうだったんですか？」とか、聞かれる分には言えるけど。

――じゃあ、馬場さんはどうだったんですか？　馬場さんのプライベートを一番知ってるのは京平さんじゃないかと思うんですけど。

京平　最後の方はね。日プロとか全日本旗揚げの頃は原軍司さんっていう人がいたんだけど、その後だよね。一緒にハワイに行ったりしましたよ。俺とか仲田龍とかとね。ホントにいろんなことを教わったよ。

――プライベートで接する馬場さんって、どういう感じなんですか？

京平　それはもうみんなが想像がつかないぐらい回りの人に気を使う人で、こういう人になりたいなと思いましたよ。

――当時、ターザン山本さんが馬場さんと親しかったと思うんですけど、いかがでしたか？

京平　ああ、遠慮のない人だね！

――その通りです（笑）。

京平　俺は好きだよ。馬場さんと必ず食事してたしね。

――一緒にキャピトル東急ホテル「おりがみ」で。

京平　そうそう。その時は俺も必ず一緒にいたんですけど、山本さん、馬場さん、元子さん、俺、あと市瀬クンとか、そういう感じで食事してて、メニューを見て頼むじゃない？　馬場さんって遠慮されると嫌な人なんだよね。「好きなものを頼みなさい」って言う人なんですよ。だから俺も遠慮しないで、いつものマイペースで頼むものは決まってるんだけど、あの人は自分から「馬場さん！　今日はステーキを食べたいんだよねぇ！」って言うんだよね。

――はいはい（笑）。

京平　「うわぁ、凄いな」と思うんだけど、パーンと言う人だから、それに対して馬場さんも「おお、喰え喰え！」って言うと、「ここのステーキじゃないんだよねえ、向こうの高いステーキがいいんだよねぇ！」って。

――ダハハハハ！　遠慮なさすぎですね（笑）。

京平　馬場さんも「おうおう、わかってるからステーキでも何でも食いなさい」って。ウエイターさんが来た時に「この人のステーキ

Kyohei Wada

リング上ではレフェリーとして大活躍の京平さんは、リングを降りれば常に馬場さんの傍に付いていた。「麻雀は後ろで見てただけですけど、ホントに強かったですよ」「卓球も凄く強かった。国体の選手相手に互角に勝負してましたから」「肺活量もハンパじゃない」と馬場伝説を多数目撃している。

最も印
馬場、ジ
最もタ
テリー・

ハンセンが「最もケ
するのが、プロレス
本に移籍した82年・
センがテリーに言い

Photo by Yukio Hiraku

はあそこのやつだ」って。食べ終わったら山本さんは「ああ、うまかったなあ、うん！」ってみんなが聞こえるような大きな声で叫んで（笑）。それで元子さんが「山本さん、まわりに聞こえちゃうでしょ！」って注意して、そこで初めて気が付くというね。

――無邪気ですねぇ（笑）。

京平　ただ、社長も山本さんの話を100％聞いてるかって言うと、聞いてないよね。馬場さんはレスラーの立場、山本さんは週刊誌の立場だから。でも、山本さんはズケズケと言ったよ。ああいうところは凄いですよ、だから敵も多いし。まあ、あれだけ「馬場さん！　メシごちそうしてよ！」って言ってりゃね。

――単刀直入過ぎて（笑）。

京平　でも、菊池（孝）さんとか門馬（忠男）さんが「馬場ちゃん、飯ごちそうしてよ」って言っても「おいでおいで！」って言うのよ。誰が来たって絶対言うはずなんですよ。山本さんは回りも気にせずにドーンと言うから、回りの人は「何だよ、アイツばっかり」ってなるわけ。

――門馬さんは山本さんに怒ってましたもんね（笑）。

京平　でも、山本さんが一番最初に飛び込んでくるから断れないじゃない？　あれだったら記事も取れるわなって。だからといって話したことが記事になってるわけじゃないけどね。山本さんの記事を見ても「いやあ、馬場さんは凄い」とか書いてるだけでさ。

――延々、そういう話ばっかりですよね。「馬場さんのシークレットサロンは最高なのだ」「あそこのアップルパンケーキは美味い」って（笑）。

京平　子供なんだよなあ。俺、ドキっとすることあるもん（笑）。でも、メガネスーパーの時は山本さんにだいぶ助けてもらったね。あの人なしではSWSには立ち向かえなかったから。あの人の功績が50％以上あると思うよ。

――また、その功績があるはずなのに三沢さんたちとターザンが仲悪いのが面白いんですけどね（笑）。

京平　手が合わないんだろうね。でも、あの人は怒らせると怖いですよ。

――あ、そうですか？

京平　俺はそう思うよ。やっぱりあの人の文章でどうにでもなりますよ。

――恨みを持ったら長いですからね（笑）。

京平　いや、長いっすよ～。だから山本さんの悪口は絶対言わないですもん。プレスの悪口は絶対言わないですよ。これだってインタビューでどうやった書かれるか知らないけど、上手いようにくっ付けりゃホントに何かできるしね、確かにしゃべってるから。文章を書いてる人は強いですよ。だから馬場さんには「余計な事は喋るなよ」ってよく言われましたよ。「それが書かれたら終わりだよ」って。馬場さんが発言する時は、よく「反応が遅い」とか言うじゃない？　でも、そうじゃないんだよね、頭の中で何書かれてもいいように考えてるんだよ。こういう世界にいるんだから吠えればいいのに、何にも吠えない。

――猪木さんに口撃された時も黙ってましたからね。

京平　いろいろ過去の事件の話も聞いたけど、この業界は10年周期で同じことを繰り返してるだけだよね。だから、いろんな時代で常に不満は出て来るんじゃないかな。

――いまの全日本に不満は出てきてないですか？

わだ・きょうへい■昭和29年11月20日、東京都足立区出身。レフェリーデビューは昭和49年。数々の名勝負を裁いてきた日本一の名レフェリー。馬場さんや元子さんの付き人としても活躍する。ディスコに通い、ケンカに明け暮れる“ワル”だったが、「馬場さんにはいろいろ教えられたよね。『お前な、洋食で皿を持つな』『お前な、こういうところではちゃんと衿付きのシャツ着なきゃダメなんだよ』『こういうホテルで半パン履くな』とか教わったことを俺が下のヤツに教えてね。馬場さんと一緒にいた時間にそういうマナーも教わった」。165cm、82kg。

Kyohei Wada

京平　いまはもの凄く上手くいってるんだよ。川田派があるわけじゃないし、武藤派があるわけじゃないし、一体となって面白いことをやろうとしてるから。

――社内はスッキリしたみたいですね。

京平　人がいなくなって結束してるから、そのために事務所も移転してパッと行きましょうよって。陰口叩いてる奴は一人もいないし、仲が悪くて離れてる奴は一人もいないし、みんなで言いたいこと言い合ってますよ

――最近、元子さんは会社に来られてるんですか？

京平　もう完全に武藤さんに譲っちゃってるから出て来ないね。だから、昔みたいに接点はないけど。

――京平さんから見て元子さんはどういう方でした？

京平　おかあさんだよ！　おかあさんって言ったら失礼だけど、何が怖いって言ったら元子さんが一番怖いよ。

――まあ、そうでしょうね（笑）。

京平　元子さんの考えてることや怒りそうなことが俺は分かるんだよね。だから、喜ばれるんならこういうふうにしなきゃダメだよって若いヤツらに言ってたよ。たとえば、後楽園で大会ある時も、元子さんが「●●クン、ちょっと！」って怒るじゃない？

――どんな時に怒るんですか？

京平　あの人はパーフェクトな人だから。だらしない格好をしてる時とかね。後楽園ホールでもピリピリしてたよ。それが当時の全日本だったんだよね。でも、お客さんの前でガーッって怒鳴る時もあるんだよ。それをやられちゃうと、知らない人からしたら「何なのあのおばさん？」ってなるでしょ？　あとは説教をもう止めたいのにキッカケがない時は「京平！　あとはアナタに任せるから」って出て行くんだ。そこから俺が「何やってんだよ、それやったら怒るだろ？」っていろいろ説教して。

――大変ですねぇ（笑）。そんな元子さんが会社を完全に手放したこともあってか、今年の後半からホントに全日本が変わってきましたよね。

京平　これからでしょう。馬場さんだって日本プロレスを出て、自分で全日本をつくったわけじゃん。じゃあ、当時どうだったって言ったら馬場さんがやった頃って、やっぱり最初は後楽園大会でも客席はまばらだったし、地方行ってもまばらだったし、ジャンボが出てきてようやく蔵前にお客さんが入って、馬場さんと大木さんがやって超満員になってとかさ、そういういい思い出があるんだけど。やっぱり何年か経ってからの信用だからね。三沢たちの超世代軍が出てきたのがちょうど20～25周年とかで、そのぐらいになって初めて「全日本プロレスは凄い」ってなったでしょ？　それをいつまでも追われちゃうとね……。

――別物ですからね。

京平　だから、ファンの人には「あと何年か見てて下さい」って言いたいなぁ。

――僕らも期待してます！

【2003年11月4日、港区六本木・全日本プロレス事務所にて収録】

君はまだモンターニャ・シウバを知らない

え⁉ 知らなくてもいい？

12・31『Dynamite!!』でアーネスト・ホースト戦決定!!

I編集長もゾッコン!!
“アマゾンの大巨人”が語る知られざるブラジルプロレス事情!!

MONTANHA SILVA

“アマゾンの暴走大巨人”としてI編集長もゾッコンのモンターニャ・シウバ。11・3新日本、横浜アリーナでは、プロレスにも対応することを見せつけたが、そもそもブラジルではプロレスラーとして活動していたのだからそれも当然。そんなモンターニャがブラジルプロレス事情を語る！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　designed by Tani-Yan (Two three)

――先日は初めて日本でプロレスの試合（11・3新日本プロレス・横浜アリーナ、吉江豊戦）をしたわけですけど、まずはその感想を聞かせてください。

モンターニャ（以下・モンタ） 対戦相手がとても素晴らしい選手で、自分でもいい試合ができたと思います。そして日本のファンが支援してくれたことが嬉しかったです。

――新日本プロレスのことは昔からご存じでしたか？

モンタ 知っていました。日本のプロレスは世界中で有名ですから、以前から日本でプロレスをするのが夢だったんです。

――日本のファンにはあまり知られてませんけど、もともとブラジルにいたころはプロレスラーだったんですよね？

モンタ はい。ブラジルで2年間プロレスをやっていました。

――吉江戦ではコーナー最上段からローリング・セントーンなんていう驚愕の空中殺法も出してましたけど、ああいった技はブラジルでも出していたんですか？

モンタ はい。あれは私の得意技のひとつで、セウ・エ・インフェルノ（空から恐怖が降ってくる）という技です。

――ノストラダムスの大予言みたいですね（笑）。他にも得意技はあるんですか？

モンタ ピラオン・ボアドールという技と、タッグパートナーとの合体技ダブル・カウボーイというのがあります。

――そのダブル・カウボーイっていうのはどんな技なんですか？

モンタ まずコーナーに対戦相手を投げて、2人で相手の肩に両腕を、両足を太股に乗せて、そのまま後ろへ倒れ込むように投げる技です。

――要は二人掛かりのモンキー・フリップなわけですね（笑）。

モンタ まだまだいろんな技があるんですけど、代表的なのがこの3つですね。私はテクニシャンなんですよ（笑）。

――テクニシャンでしたか！（笑）。そういった技はどこで学んだんですか？

モンタ アメリカや日本のプロレスビデオを見て研究しています。

――WWEのテレビ中継などは、ブラジルでは放送してないんですか？

モンタ 昔はやっていましたが、いまはやっていません。だから、多くのブラジル人はプロレスの存在すら知らないでしょう。

――じゃあ、ブラジルのプロレスもテレビ放送は一切ないんですか？

モンタ ブラジル全国放送というのはありませんが、サンパウロのサンパウロ市内だけで日曜の夜に放送しています。しかし、本当に小さいものです。

――プロレス団体というのは存在するんですか？

モンタ 『ジガンチス・ド・ヒンギ』（巨人のリング）と『ヘイ・ド・ヒンギ』（神のリング）という二つの団体があります。『ジガンチス』のほうが大きな団体で、そちらに私は所属していました。

――やっぱり〝巨人のリング〟所属なんですね（笑）。もともとモンターニャさんがプロレスラーになったきっかけはなんだったんですか？

モンタ もともとボクシングを少しやっていて、そのあとプロバスケットボール・プレイヤーになったんですけど、私は身体が大きすぎて、バスケットをやるには道具を揃えるのにもお金が凄くかかって、生活が苦しかったんです。そのとき「プロレスラーにならないか」という誘いを受けたんですけど、プロ

MONTANHA SILVA

ジャイアント馬場さんの試合はビデオで見たことがあります。とても大きいですね。

レスならパンツひとつでできるので、あまりお金が掛かりませんし、給料もバスケット時代よりは少し良かったので、プロレスラーに転向しました。

――そんな切実な理由でしたか（笑）。同じようにバスケットボールからプロレスに転向したアルゼンチン出身のレスラーで、エル・ヒガンテという人がいるんですけど、ご存じですか？

モンタ 知りません。

――では、日本のジャイアント馬場さんはご存じですか？

モンタ ジャイアント馬場さんの試合はビデオで見たことがあります。とても大きいですね。

――モンターニャ選手の方が少し大きいと思いますけど（笑）。ブラジルのプロレスというと、日本でオランダの柔道家ウイリアム・ルスカやイワン・ゴメスがやっていたことが日本では知られているんですけど、この二人のことはご存じですか？

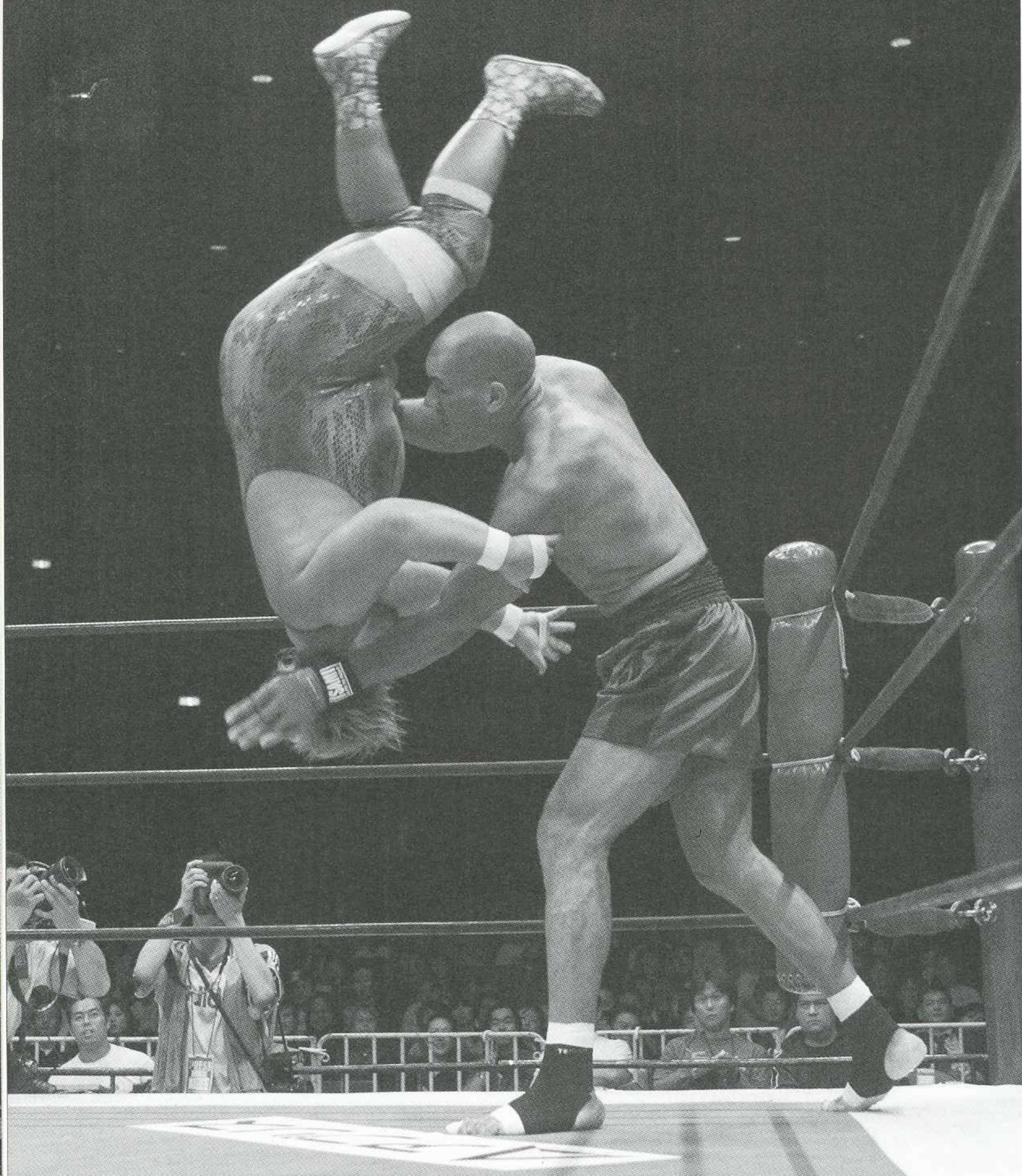
モンタ 知りません。

セルジオ・バタレリ（K-1ブラジルプロモーター） その辺りのことは私が話しましょう。ルスカやイワン・ゴメスは日本では有名でしょうが、ブラジル人は誰も知りません。知っているのは、当時を知る格闘技関係者ぐらいでしょうね。

――じゃあ、ブラジルで有名な選手っていうと、誰になりますか？

バタレリ それはプロレスですか、それともバーリ・トゥードですか？

リング上とは打って変わって、こんな穏やかな表情でインタビューを受けてくれたモンターニャ。「私は山のように静かで穏やかな人間です」（モンタ）

吉江戦のフィニッシュは〝空から恐怖が降ってくる〟という私の得意技です。

11・3新日本での吉江戦では、プロレス技中のプロレス技とも言えるデッドリードライブを披露したモンタ。本人曰くテクニシャンとのこと。

——両方でお願いします。

バタレリ　プロレスラーはザ・ロックぐらいだね、これは映画俳優としてだが（笑）。バーリ・トゥードでは、ヴァンダレイ・シウバやミノタウロ（ノゲイラ）はもちろん、ペレ、ブスタマンチ、ミルコ・クロコップなどはみんな知っているよ。

——「ブラジルではサッカーと言えばロナウド、バーリ・トゥードと言えばイズマイウ」と、ある人（イズ本人）から聞いたんですけど、違うんですか？

バタレリ　大間違い！（キッパリ）　彼はファイターとしてでなく、ビッグマウスとしてなら有名だ。

——ガハハハハ！　そういった意味では有名ですか（笑）。

バタレリ　ブラジル人でイズマイウが好きな人はいないだろうな（キッパリ）。

——そこまで言う（笑）。モンターニャ選手はバーリ・トゥードもやったことはあるんですか？

モンタ　いえ、まだありません。でも、私は格闘家なのでバーリ・トゥードもゼヒやってみたいです。

——K・1のリングでサップがバーリ・トゥードをやったりしてますから、モンターニャ選手のVTも次あたりで組まれるかもしれないですよね。そもそもK・1に出られるきっかけは何だったんですか？

モンタ　スカウトされたんです。

バタレリ　私が見つけてきたんだよ。身体が大きいし動けるから、才能があると思ったんだ。

モンタ　ブラジルではK・1は有名ですし、テレビで見ていたので、そのリングに上がれることは非常に嬉しかったです。

——ところがデビュー戦でいきなり無期

K-1で活躍して、家族を貧民街から救い出して一緒に暮らすのが私の夢です。

【モンターニャ・シウバ】
1977年2月4日、ブラジル出身。ブラジルの貧民街で生まれ、14歳で家を出、その巨体を活かしバウンサーとなる。その後、バスケットボール選手を経てプロレス入り。今年6月、武蔵戦でK-1デビュー。ミルコが激怒させる暴れっぷりを見せた。225cm、185cm。
Profile

MONTANHA SILVA

限出場停止処分となりましたけど（笑）、あのときの気持ちはどうでした？

モンタ　とても悲しかったです。これでもう日本に来れなくなるかと思うと涙が出てきました……。

――なんか実際にお会いしたモンターニャ選手は非常に穏やかで優しい感じがするんですけど、武蔵戦で暴れた凶暴なモンターニャ・シウバとどっちが本当の姿なんですか？

モンタ　普段の私はモンターニャ（山）という名前の通り、静かで穏やかで人を傷つけたりしません。ただ、私はブラジルのファベイラという貧民街で生まれたのですが、そういったところで生きていくためには、強くなくてはならなかったんです。それと同じように、ひとりの格闘家としては〝強い〟というところを見せなければならないので、リング上での私は暴力的に見えるのかもしれません。しかし、それはリングの上だけです。

――子供の頃からケンカがたえなくて、14歳からバウンサーをやっていたという話は本当なんですか？

モンタ　それは本当です。私の家は大変貧しかったため、私は11歳で家を出たのですが、ブラジルでは仕事を得ることが非常に難しいのです。ですから、この大きな身体でできる仕事と言えば、ボディガードやバウンサーといった仕事ぐらいだったんですよ。

――でも、バウンサーなどをやっていたら、危険な目にもたくさんあったんじゃないですか？

モンタ　（サラリと）一度、ピストルで撃たれたことがあります。

――撃たれましたか！

モンタ　足の付け根を撃たれたので大丈夫でしたが、少しズレていたら危なかったです。あと、背中にはナイフで切りつけられた傷がいくつかあります。

――よくぞご無事で……。

モンタ　ただ、ボディガードとして生きていくほうが、ファベイラに残るよりはまだ安全です。ボディガードのとき撃たれたのは1 vs 1ですが、ファベイラだったら複数で襲われるでしょうから命はなかったと思います。

――ブラジルの貧民街はそこまで危険なんですか。

モンタ　だから私は子供のころから強くならなければいけない、という環境で育ったんです。そんな私がスポーツによって、こうして日本に来ることができたのは、神様のおかげ、それから私をスカウトして見いだしてくれた人々のお陰だと思って感謝しています。しかし、まだ私の家族は大変苦しい暮らしを続けていますから、これから私が闘っていくことによって、家族を助けたいと思います。

――家族はまだファベイラに住んでいるんですか？

モンタ　K-1のファイトマネーでようやくファベイラからは出ることができ、いまはマトグロッソというサンパウロから少し離れた町に住んでいるのですが、いまだ生活が苦しいのは変わっていません。ですから、これからもっともっと活躍して、サンパウロで家族と一緒に暮らすのが私の夢です。

バタレリ　モンターニャはこういった確固たる目的があるから、とても練習熱心なんだ。だから今後2年のうちには必ずK-1チャンピオンになれると私は信じているよ。

モンタ　私もぜひK-1チャンピオンになりたいです。そのためにはボブ・サップ、ミルコ・クロコップ、それから武蔵さんといった素晴らしいファイターに勝たねばなりませんから、今後もたくさん練習していこうと思っています。

――これからプロレスも続けていく予定ですか？

モンタ　もちろんやりたいです。ブラジルには私のタッグパートナーだった、シャンダウンという非常に大きくていいプロレスラーがいるんですが、私が活躍することで、彼も日本に来られるようにしたいです。そして、いつの日にかブラジルに日本のプロレスラーをたくさん呼んで、ブラジル・コントラ・ジャポン（ブラジル対日本）の対抗戦を開いて母国のプロレスを盛り上げたいですね。

――そんな夢も持っているんですか。では、これからもK-1、プロレス両面での活躍を期待してます！

【03年11月4日／都内・某ホテルにて収録】

11.23 Zepp Tokyo 大炎上!!

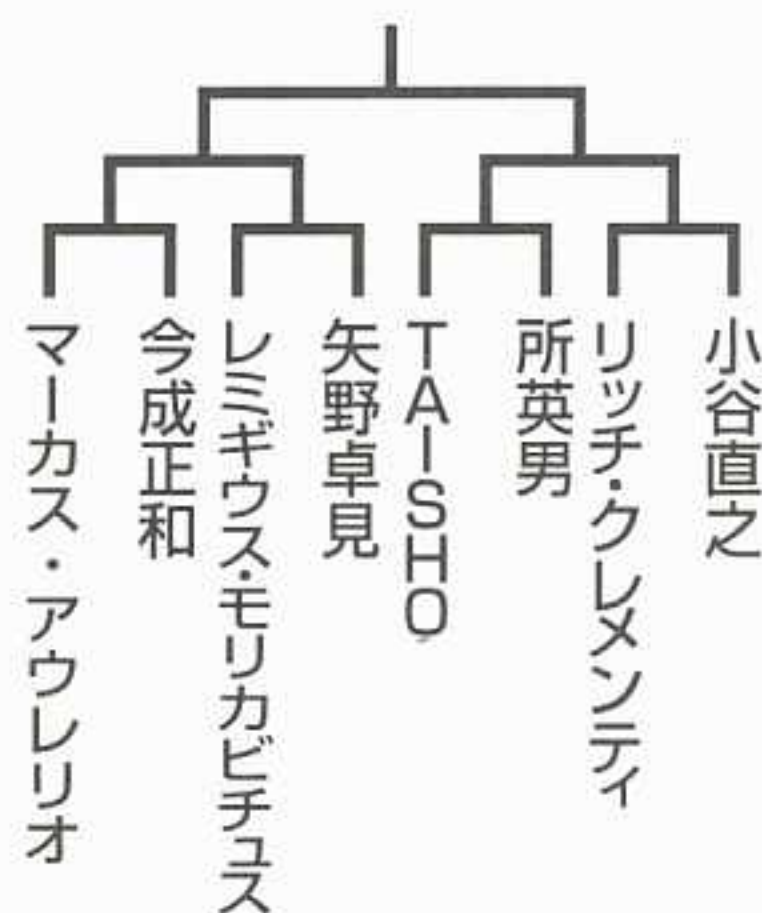
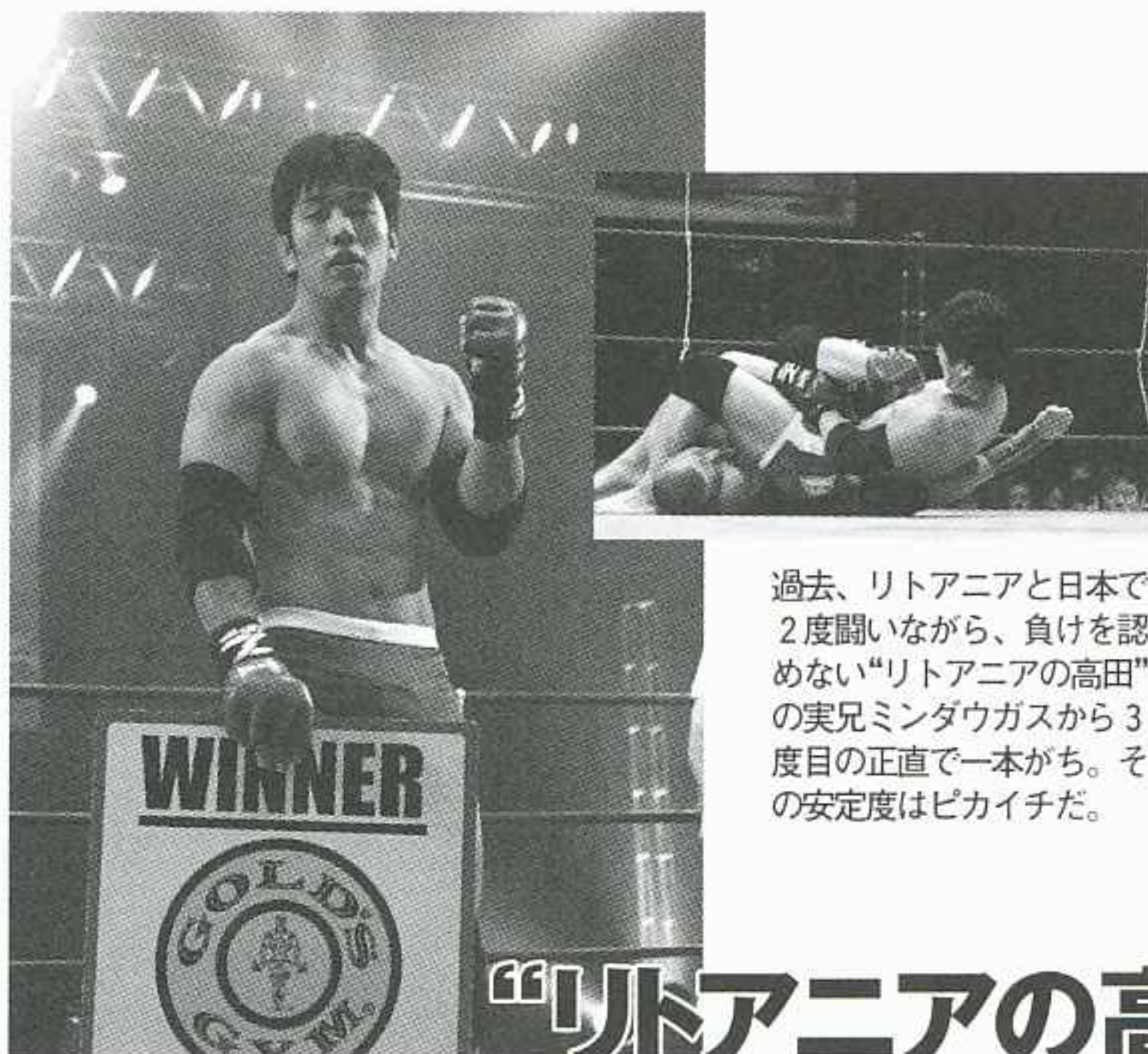
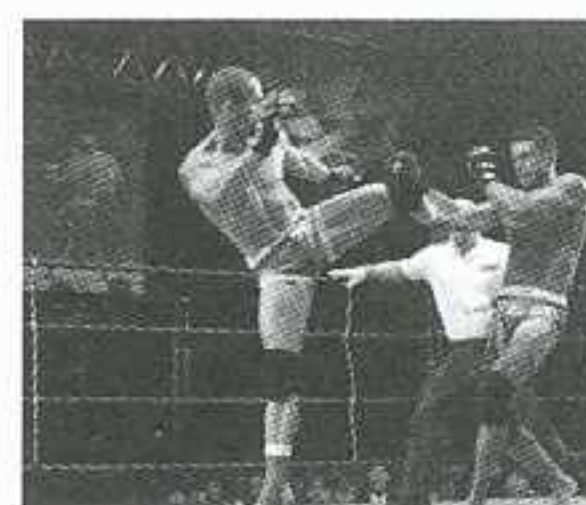
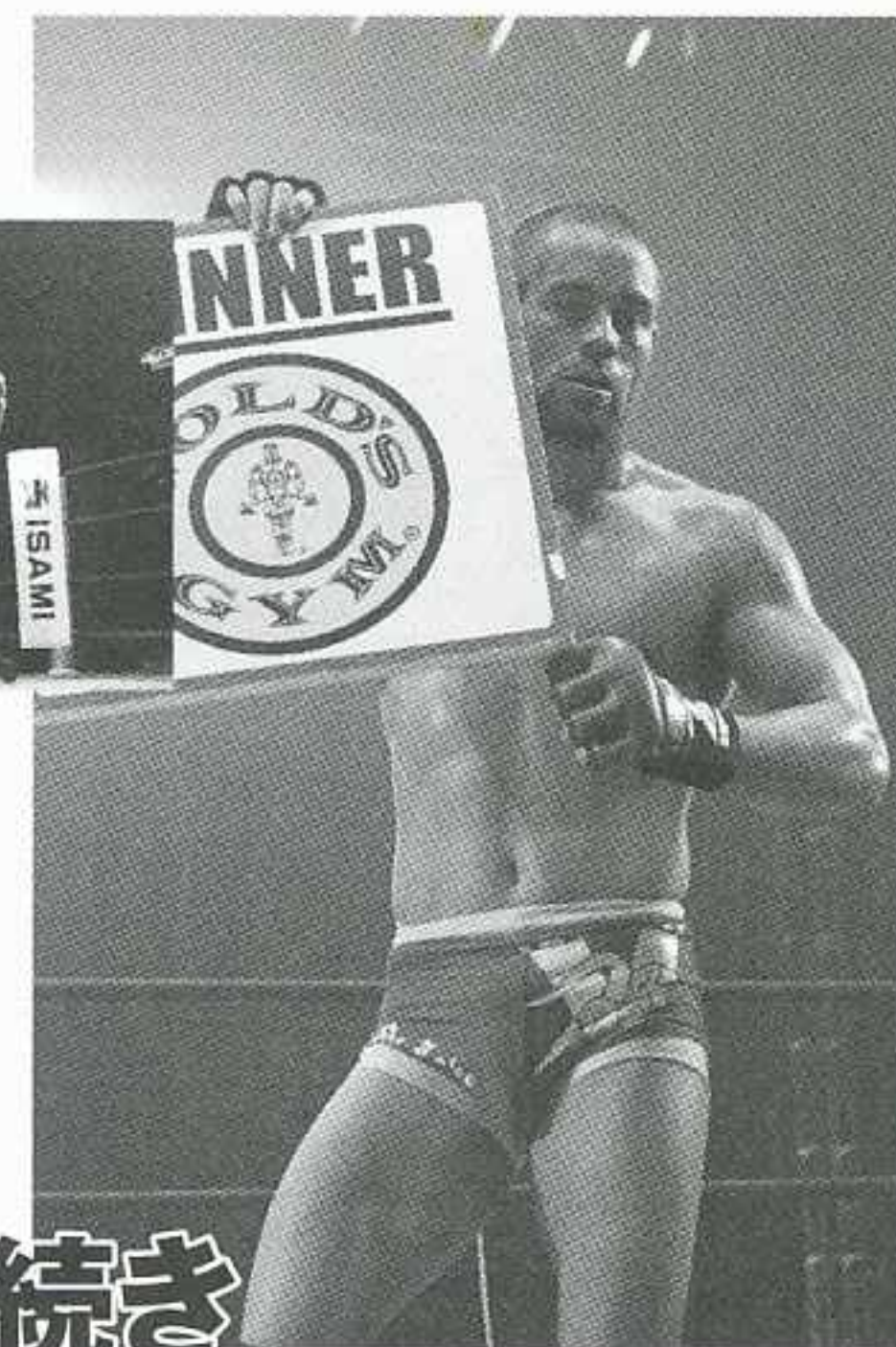
ZST・GPはKOKを超えた!

2004.1.11 決勝トーナメントは絶対見のがすな!

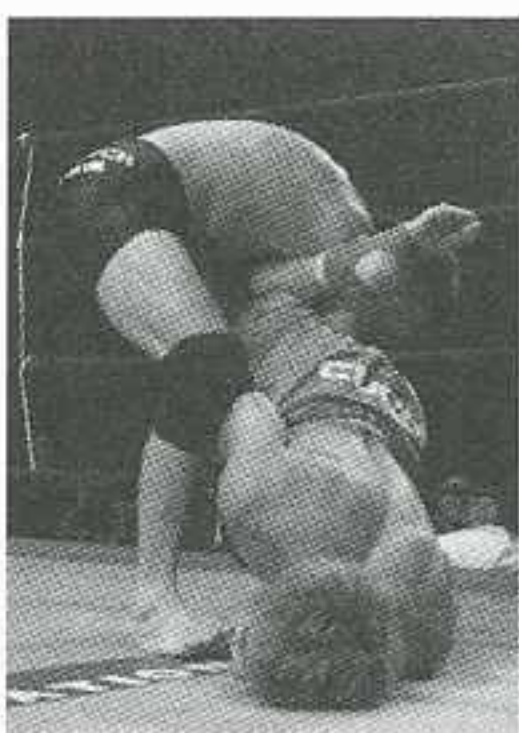
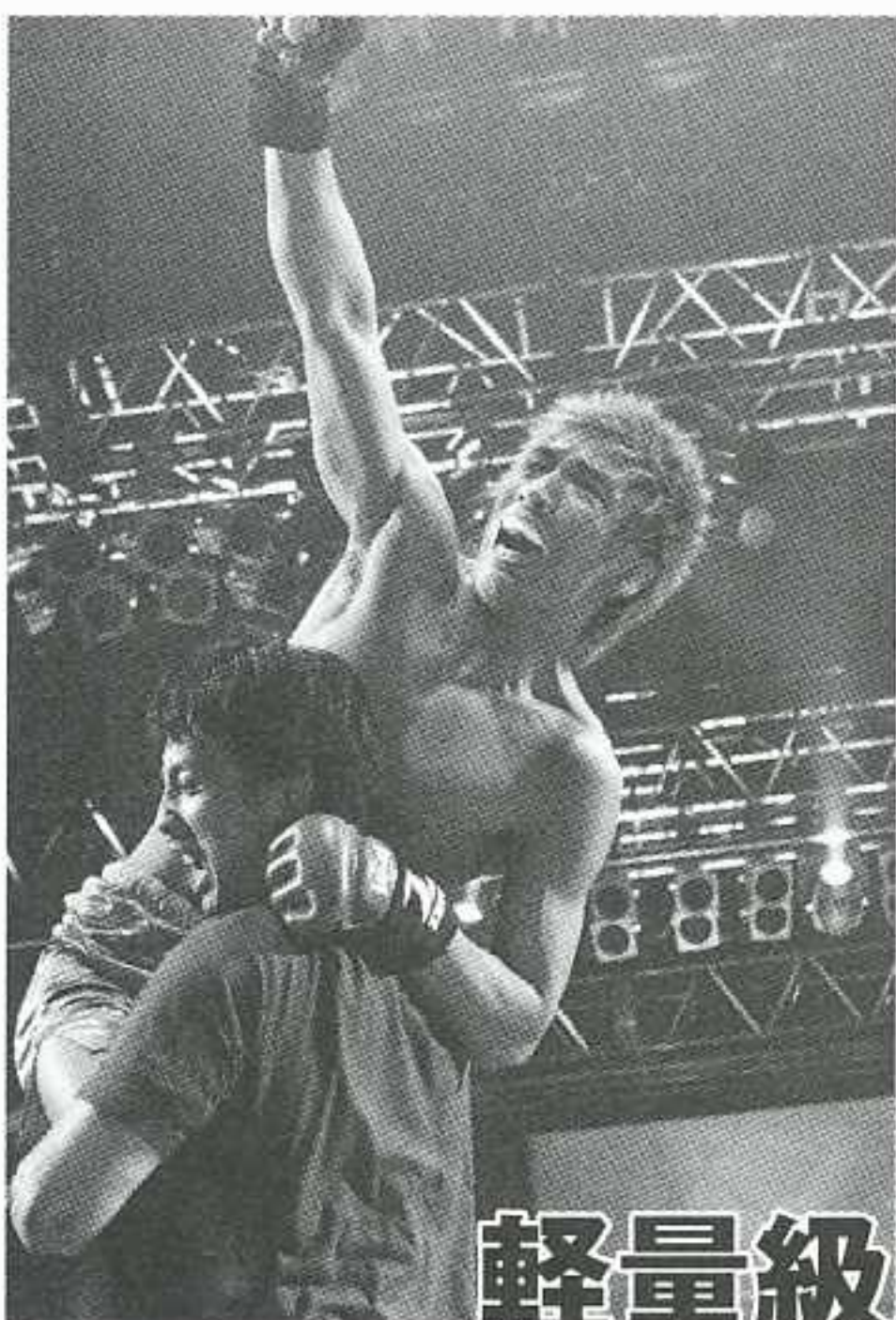
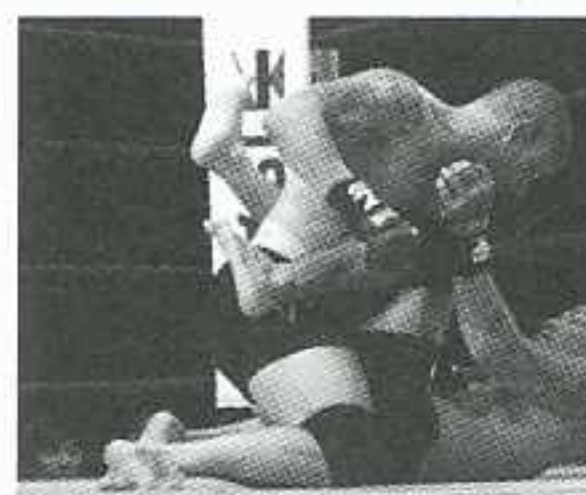
“ZSTエセ四兄弟”
全員決勝T進出の快挙!

ZST・GP決勝T 組み合わせ決定!

2004. 1 .11 Zepp Tokyo

- 小谷直之
- リッチ・クレメンティ
- 所英男
- TAISHO
- 矢野卓見
- レミギウス・モリカビチュス
- 今成正和
- マーカス・アウレリオ

Aブロックは小谷vs所、日本人エース争い過熱！

過去、リトアニアと日本で2度闘いながら、負けを認めない"リトアニアの高田"の実兄ミンダウガスから3度目の正直で一本がち。その安定度はピカイチだ。

アメリカ人UFCファイターとしては珍しく、打撃と関接技の両方を得意とするリッチ。1回戦ではファスVTのアロイジオ・パロスを圧倒し判定勝ちした。

"リトアニアの高田"の兄に続きZSTのエースがUFC戦士と決着戦

小谷直之 VS リッチ・クレメンティ

（ロデオ・スタイル）　（チーム・エクストリーム）

好勝負続出となった1回戦の中でもベストバウトと名高い所vs大石。所は前・修斗フェザー級王者から腕十字で見事一本勝ち。ZSTの実力を知らしめた。

"佐伯繁からの刺客"として参戦したDEEPのTAISHOは、ジェンス・パルヴァーをKOしたこともあるジェイソン・マックスウェルに一本勝ち。

軽量級屈指のグラップリング対決"プリンス"が"佐伯の刺客"を迎撃！

所 英男 VS TAISHO

（STAND）　（Team BARBOSA JAPAN）

『ZST・GP』大爆発！

リングス『バトル・ジェネシス』（中軽量級選手中心の大会）の流れを汲む格闘技団体『ZST』が、満を持して開催する〝KOKルール70kg以下最強決定トーナメント〟『ZST・GP』が、11月23日、ZeppTokyoで開幕。

いまや伝説となったオープントーナメント『リングスKOK（キング・オブ・キングス）』の軽量級版らしく、世界各国から16名のファイターを集めたこの大会は、1回戦からテクニカルでスピーディーな好勝負、一本勝ちが続出。しかも、ZST期待の日本人ファイター、通称『ZSTエセ四兄弟』（小谷直之、今成正和、所英男、矢野卓見）が全員決勝トーナメント進出の快挙を成し遂げ、それ以外にも、ZST最強の外国人の名を欲しいままにするリトアニアのモリカビチュス、DEEPのTAISHO、UFCファイターのクレメンティ、そしてノゲイラ初登場時を思わせる衝撃的強さを見せつけた、アメリカン・トップチームのアウレリロと、実力とプロとしての個性を兼ね揃えたメンバーが次々と登場し、「今年のベスト興行」との声も決して大げさでないほどの盛り上がりを見せた。

ここまで完璧な1回戦を見せられれば、決勝トーナメントは否が応にも期待は高まるばかり。というわけで、ここでは、この素晴らしい大会を今度こそ見逃さないために、決勝トーナメントの見所を簡単に説明しよう。

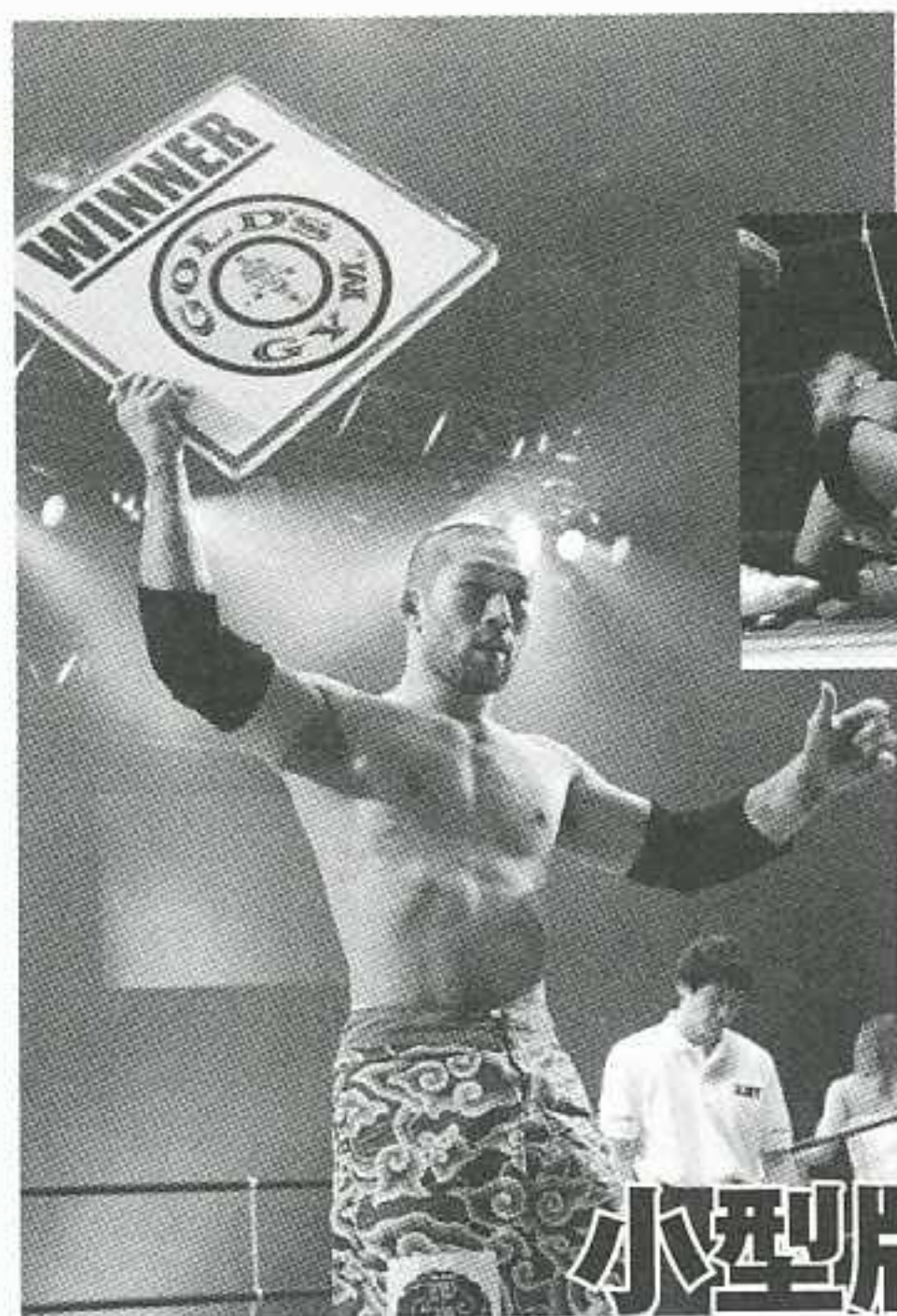
まず本誌一押しは、〝足関十段〟今成正和vsマーカス・アウレリロの一戦。1回戦で柔術黒帯を足関で秒殺した今成と、圧倒的な寝技技術を見せつけたアウレリロというシチュエーション

Bブロックは

は、まさに第1回KOKのコピィロフvsノゲイラの再現。あのときはコピが

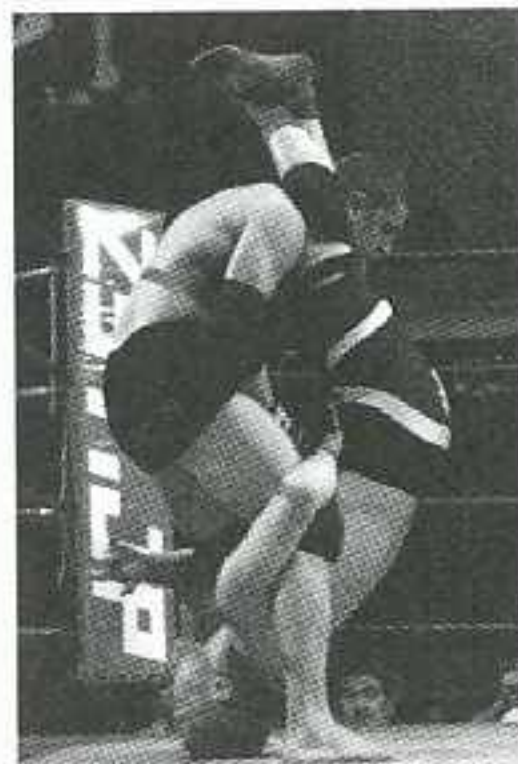
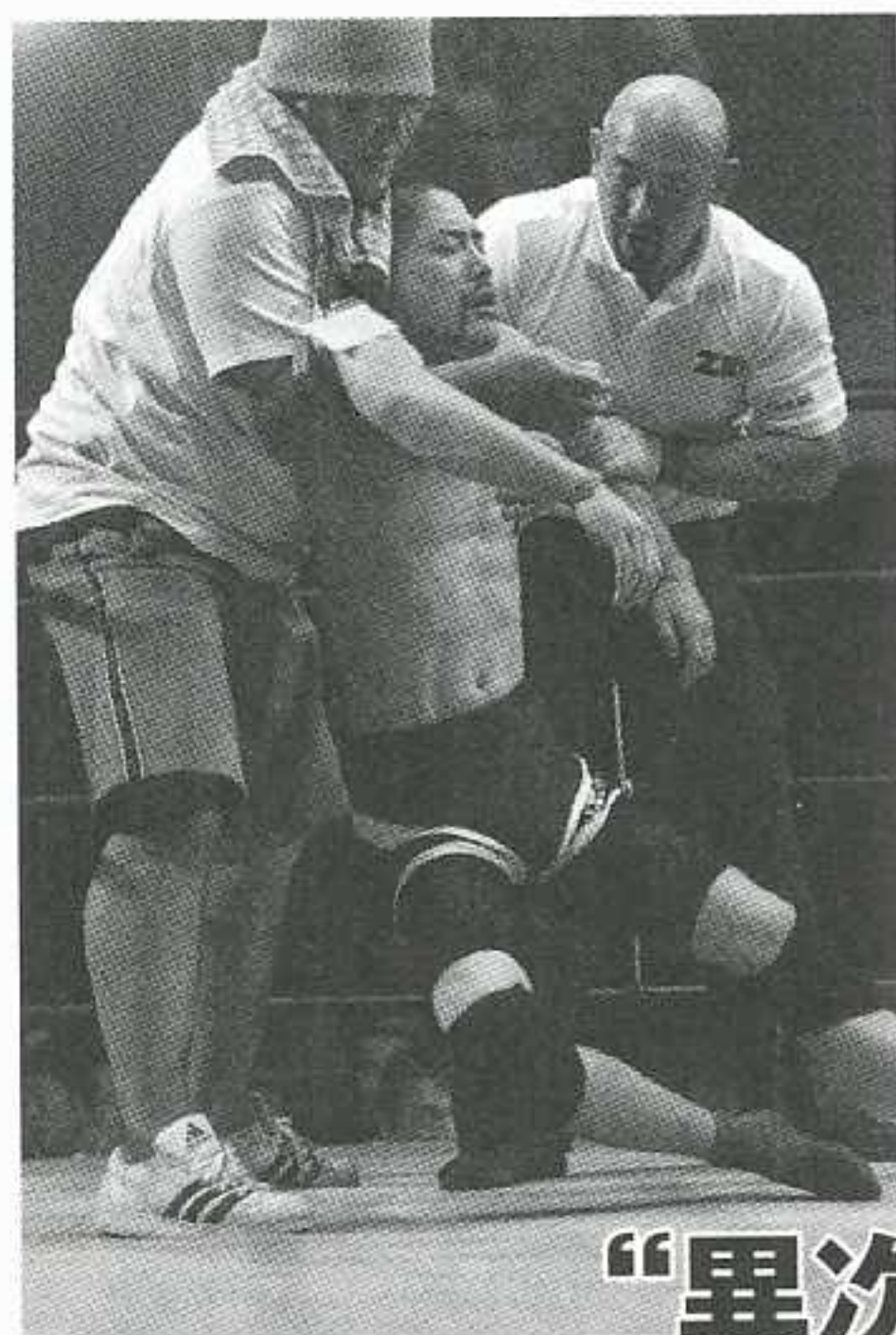
Bブロックは足関、柔術、打撃、大激戦区！

小型版"コピィロフvsノゲイラ"か 足関vs柔術大注目の一戦!!

今成正和（チームROKEN） VS マーカス・アウレクロ（アメリカン・トップチーム）

足関十段、完全復活！ 優勝候補と目されていた柔術黒帯ジョージ・ガーゲル相手にゴングと同時に足関まっしぐら、そして秒殺。お前はコピィロフか！

大ノゲイラが初来日したかのような強さの衝撃を与えたアウレリロ。修斗のタクミを寝技で一方的に攻め立て、キッチリ一本勝ち。強い！

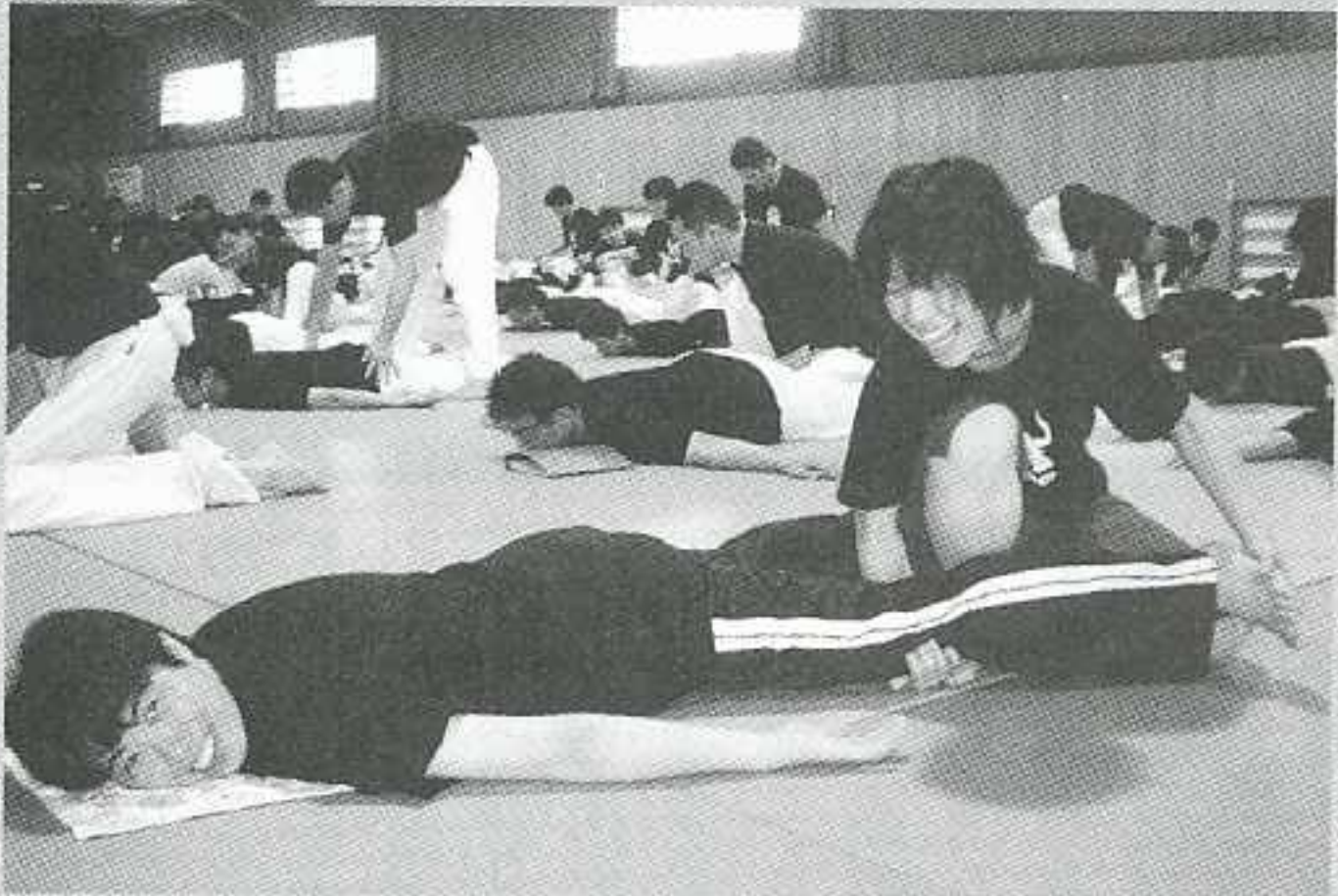
"異次元名勝負数え歌"決着戦 ヤノタクは早くも白旗宣言!?

矢野卓見（烏合會） VS レミギウス・モリカビチュス（リングス・リトアニア）

「リングス・ロシア代表」「コマンド・サンボ王者」というリングスファンにはたまらない肩書きを持つ謎の男イサンキンに矢野はへろへろになりながら辛勝。

"小さなミルコ"の異名そのままに、KO記録更新中のモリカは、この日もドールマン推薦のディクストラをKO。その爆発的な打撃は一見の勝ちあり。

は、まさに第1回KOKのコピィロフvsノゲイラの再現。あのときはコピがスタミナ切れで自爆したが、今回はどうなるか。またしても「秒殺」を宣言している今成に期待！

対抗枠には、チーム・イリホリの盟友、矢野卓見が登場。そうなると「イリホリ対決」も見たくなるが、恐怖の打撃を誇るモリカビチュスでは相手が悪いか……。このブロックの準決勝はどの組み合わせになっても興味深い。

Aブロックはエース小谷直之、急成長の所英男、DEEPのTAISHOと、いずれも勢いのある日本人ファイターが勢揃い。1回戦は3人とも見事な一本勝ちで勝ちあがってきただけに、どの組み合わせになっても、KOKの神髄を見せるような、ノンストップの好勝負になることは必至だが、ここは私生活でもライバル意識を剥き出しにする（?）エース小谷とプリンス所の闘いが見たい！

いずれにしても実力伯仲、それでいてまったく違う個性を持った8人が揃った『ZST・GP』決勝トーナメント。ここまで勝敗が予想不可能ながら、好勝負が約束された大会もないだろう。しつこいようだが、もう一度だけ言おう。1・11『ZST・GP』決勝トーナメントだけは絶対に見逃すな！

2004・1・11 Zepp Tokyo(5:30)

『ZST・GP決勝大会』

席種	料金
VIP席（1ドリンク付）	20,000円
SRS席	12,000円
S席	8,000円
A席	6,000円

問い合わせ
ZST事務局 03-5321-9595

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

年末年始の情報山盛り!!　大晦日も1・4も、このページ抜きには語れない!!

リニューアル後3回目となる情報ページ。1ページ減ってしまいましたが、内容の濃さは変わりません。（ムキになって）本当ですよ! あ、スイマセン。取り乱しました。担当はさささぃです。団体連絡先は今月に限りカレンダー裏をご参照ください。よろしくです。

Fight & Ticket　試合・大会情報

1・4は神戸もハッスル! 闘龍門・スペシャルディナーマッチへLet's Go!

闘龍門JAPAN2004年の初陣は、ホテルでの“スペシャルディナーマッチ”に決定！　闘龍門の地元・神戸での、まさにゴージャスな幕開け。豪華ディナーに舌鼓を打ちながら、2004年初の闘龍門を楽しもう！

2004　闘龍門JAPAN in 神戸ポートピアホテル
～ニューイヤー・スペシャルディナーマッチ～

■日時　2004年1月4日（日）
17:30開場／18:00イベント開始
※18:00～ディナータイム（豪華な食事が楽しめます）
19:30～試合開始（スペシャルマッチ4～5試合を予定）

■会場　神戸ポートピアホテル　南館1F「大輪田の間」
兵庫県神戸市中央区港島中町6-10-1

■参加料金　1名　¥18,000　※300名限定
☆参加者には、同ホテルのお得な特別宿泊プランあり!
シングル・ルーム¥9,500（通常¥15,200相当）
ツイン・ルーム¥13,000（通常¥32,000相当）
※1室料金。1泊朝食付。サービス料／税金込。

■宿泊予約&問　神戸ポートピアホテル　TEL:078-302-1111

TOURYUMON・X、逆上陸第2弾!!

闘龍門JAPAN、闘龍門2000プロジェクト（T2P）に続く第3の闘龍門、『TOURYUMON・X』。大成功に終わった8月の逆上陸第1戦に続く2度目の逆上陸では、アラケン＆新井小一郎vsドン・フジイ＆スモール・ダンディ・フジの“同一キャラの大小タッグ対決”が実現！　東京ドームデビューを果たした天才レスラー・石森太二にも要注目だ!!

■日時　2004年1月25日（日）　試合開始 16:00　■場所　東京・ディファ有明

■対戦カード
●（セーラーボーイズ）石森太二 & 佐藤恵&佐藤秀 vs
マンゴー福田 & 南野たけし & パイナップル華井（ロス・サルセロス・ハポネセス）
●新井健一郎 & 新井小一郎 vsドン・フジイ & スモール・ダンディ・フジ
●谷嵜なおき vs 堀口元気
●ムルシエラゴ & ランボ三浦vsマイケル岩佐 & ダニエル三島
●アンソニー・W・森 & ヘンリー・III・菅原 & 村上学 vs SUWA & SUWAシート & ミニCIMA

■チケット　特別リングサイド 6000円／リングサイド 5000円／指定席A 4000円／指定席B 3000円／一般立見 3000円（いずれも前売料金。当日券は1000円プラス）
※一般立見席は当日のみ。前売券は、チケットぴあ（0570-02-9977）で絶賛発売中!

■問　TORYUMON S.A.de C.V　TEL　078-747-3410

新日本ドームに全日本（キック）が興行戦争を挑む!!

新日本が外敵を迎え撃っている東京ドームの隣で、全日本キックがサムゴーを迎え撃つ！　王者・大月に藤牧が挑むライト級、微笑みの殺戮者・若干19歳の山本が山内に挑むウェルター級の2大タイトルマッチに加え、“黄金の左ミドル”サムゴーが4度目の来日!!　『ハッスル1』は心でチェックして（スカパー予約）、身体は全日本キックへGO!!

ALL JAPAN KICKBOXING 2004『Wilderness』（ウィルダネス=荒野）

■日時　2004年1月4日（日）18:30本戦開始（17:00開場・17:30フレッシュマンファイト開始）　東京・後楽園ホール

■チケット料金　RS席 10000円／S席 6000円／A席 4000円（当日券は各席¥1,000アップ）

■決定カード
【全日本ライト級タイトルマッチ／5ラウンド】
●全日本ライト級王者 大月晴明（AJジム）vs 挑戦者 同級1位 藤牧孝仁（はまっこムエタイジム）
【全日本ウェルター級タイトルマッチ／5ラウンド】
●全日本ウェルター級王者 山内裕太郎（AJジム）vs 挑戦者 同級1位 山本優弥（空修会館）
【日本VSタイ／65kg契約／5ラウンド】
●ムエタイ4冠王 サムゴー・ギャットモンテープ（タイ）vs WMTAサウスパシフィックスーパーライト級王者 加藤督朗（PHOENIX）
【55kg契約／サドンデスマッチ】●全日本フェザー級6位 浦林　幹（AJジム）vs 全日本バンタム級1位 藤原あらし（S.V.G.）
【全日本フェザー級ランキング戦／サドンデスマッチ】●同級4位 竹村健二（名古屋J・Kファクトリー）vs 同級5位 サトルヴァシコバ（勇心館）
※ほか3ラウンド5試合予定　※出場選手はケガ等により変更となる場合あり。

■問　全日本キック　TEL 03-3365-1171

女子総合格闘技の新大会『Love Impact』発進!!

12月4日、女子総合格闘技の新団体『Love Impact』の設立が発表された。代表を務めるのは芸能プロダクション、エキサイティング・トリガーの柴田賢一郎氏。スーパーバイザーとしてDEEP代表の佐伯繁氏も会見に出席した。出場予定選手として紹介されたのは禅道会の石原美和子、金子真理、フリーのしなしさとこ、LIMITの石山絵理の4人。旗揚げ戦は来年2月8日、ディファ有明で行われ、その後は2ヶ月に1度のペースで興行予定だという。エンターテインメント路線のスマックに対し、あくまでも競技として確立を目指すという『Love Impact』。まずは旗揚げ戦に注目だ!!

Love Impact
■日程　2004年2月8日（日）
■場所　東京・ディファ有明
■問　エキサイティング・トリガー内『Love Impact』事務局
TEL:03-5545-4766

Fight&Ticket DDT後楽園、超大物ゲストが登場!?

DDTの“ひとりド真ん中”藤沢一生が、WJで大暴れのガチンココンビ・安生&木村と激突！ WJ正規軍と敵対している2人だけにニセ健介の藤沢が狙われるのは必至。しかし助っ人として目ん玉飛び出るような超大物レスラーが登場予定とのこと。ヒントは“ヴァー!!”。大荒れとなりそうな今年最後のDDTを見逃すな!!

NEVER MIND 2003

■日時 12月29日（月） 試合開始18:30（開場17:30）

■会場 東京・後楽園ホール

■チケット スーパーシート¥6000 ／特別リングサイド席 ¥5000（当日¥1000up）／リングサイド席 ¥4000（当日¥1000up）／立見¥3000（当日のみ）／小中高生立見 ¥1000（当日のみ・要身分証）／小学生未満 無料!

■決定対戦カード

【CMLL認定KO-Dタッグ選手権試合 3WAY】
橋本友彦 & 諸橋晴也 with 篠原光 vs MIKAMI & 怨霊 vs HERO! & KUDO

【特別試合】安生洋二 & 木村浩一郎 vs 藤沢一生 & 石川修司

■問 DDT TEL 03-5360-6653

■HP http://www.ddtpro.com

Fight&Ticket K-DOJOに全日本・川田利明参戦!!

KAIENTAI－DOJOに全日本・川田利明が参戦！ ディック東郷、日高郁人らも参戦の他、注目はストーカー市川参戦の第1試合。闘龍門・ストーカー市川とK－DOJOのDJニラ、プロレス界の誇る2大激弱レスラーが真っ向から対決してしまう!! はたして、本当に弱いのはどちらか!?

吉田屋興行SUPER

■日時 12月28日（日）試合開始 19:00 ■会場 東京・後楽園ホール

①【プロレス界禁断の最弱王決定戦!シングルマッチ】DJニラ vs ストーカー市川（闘龍門）
②アブドーラ小林（大日本）&柏大五郎&石坂鉄平 vs ヤスウラノ&超人勇者G・ヴァリオン（SPWF）&佐野直（フリー）
③お船 & 山縣優 vs アップルみゆき&松尾永遠（NEO）
④【千葉ボートタワーズ vs FEC・6人タッグマッチ】
筑前りょう太 & YOSHIYA & サンボ大石 vs ディック東郷（FEC）& 日高郁人（FEC）& マッチョ☆パンプ（FEC）
⑤【HARD!! HARD!! HARD!! タッグマッチ】MIKAMI（DDT）&PSYCHO vs 伊東竜二（大日本）&H.C.K狐次郎
⑥ MIYAWAKI&真霜拳號&十島くにお vs 金村キンタロー（冬木軍）&黒田哲広（冬木軍）&GENTARO
⑦【K-DOJO vs 全日本プロレス 6人タッグマッチ】
TAKAみちのく & Hi69 & KAZMA vs 川田利明（全日本プロレス）& 土方隆司（全日本プロレス）& 石狩太（全日本プロレス）
※負傷その他の理由により欠場の場合があります。

■チケット情報（当日は¥500増）特別リングサイド ¥7000 ／リングサイド ¥5000 ／指定席 ¥4000／ 立見（当日のみ）¥3000

■問 KAIENTAI DOJO TEL 043-214-6960

Fight&Ticket 新宿プロレス、大晦日三つ巴戦に参戦!!

新宿プロレスが大晦日興行戦争に殴り込み! 試合終了後にはトークショーやオークション、ライブ、日本一早い“超”新年会、サスケやTAKAらが参加する初詣ツアーなど内容盛り沢山! 年末年始は新宿プロレスに決定!

新宿プロレスpresents オールスターカウントダウンプロレス 超新宿祭り～戦争反対プロレス賛成～

■日時 12月31日（水） 試合開始21:00（開場20:00）

■会場 東京・歌舞伎町クラブハイツ

■チケット（当日¥500up） ~~S-VIP席（フリードリンク、軽食、おみやげ付）¥15,000~~／VIP席（フリードリンク、軽食付）¥12000／テーブル席（フリードリンク付）¥8000／指定席¥6000／自由席¥5000

■対戦カード ザ・グレート・サスケ&伊東竜二 vs 金村キンタロー&非道／ディック東郷&日高郁人&マッチョ★パンプ vs TAKAみちのく&怨霊&MIKAMI／高木三四郎&HIRO! & 三田英津子 vs リッキーフジ & デビルマン & 井上京子／チョコボール向井 &つぼ原人 vs GENTARO & Hi69／DJニラ & 元気美佐恵 & アップルみゆき vs 一宮章一 & 仲村由佳&お船

【MC】下田美馬／片岡未来 【エンターテインメント】レイパー佐藤／ちむりん／紅子

■問 ロックウェスト TEL 03-5459-9199（14:00～22:30）

■HP http://rockwest.to

Fight&Ticket I.W.A.JAPAN「2004新春ミラクルパワーシリーズ」開幕!!

1月7日宮城・岩沼大会からIWA新春シリーズが開幕! 最終日の後楽園ホール大会ではIWA世界タッグ防衛戦が行われ、王者ウィリアムス&三宅組に松田&テリー・テイラー組が挑む。2004年初のIWA都内興行に注目!!

■日時 2004年1月12日（月・祝） 試合開始18:30

■会場 東京・後楽園ホール

■チケット スーパーシート¥6000（当日¥6000）／特別リングサイド¥5000（当日¥5000）／リングサイド¥4000（当日¥4000）／一般立見¥3000（当日のみ）／小中学生立見¥1500（当日のみ）

■対戦カード ウルトラセブン vs 岸勝也／コマンド・ボリショイ vs 米山香織／河童小僧 & グレート・タケル vs YUJI KITO & ザ・ファイアー／ジャガー横田 & 三田英津子 & 竹迫望美 vs おまわりさん & チョコボール向井 & 上野幸秀／フレディ・クルーガー vs ジャイアント・キマラ
IWA世界タッグ選手権（60分1本勝負）【王者】スティーブ・ウィリアムス & 三宅綾 vs 松田慶三 & テリー・テイラー【挑戦者】

■問 IWA TEL 03-3352-3366

■HP http://www.iwajapan.jp/

Fight&Ticket 石川屋興行・第2弾開催決定!!

石川雄規の誕生日を祝って開催される、串焼き石川屋主催興行第2弾。地元・越谷で、バチバチファイトが熱く燃える！ まだまだ生きてるバトラーツ。その燃える魂を見届けよう！

石川屋興行『HAPPY BIRTHDAY TO YUKI』

■日時 2004年2月22日 試合開始17:00（開場16:00）

■場所 埼玉・越谷桂スタジオ

■参加選手 石川雄規／原学／チョコボール向井（WEW）／竜司ウォルター／他

■料金 SRS ¥ 5000／自由席 ¥ 3500／小中学生 ¥2000（当日販売）

■チケット販売 1月8日（木）10:00より、チケットぴあ、後楽園ホール、T-1、石川屋越谷本店&八木崎店、バトラーツで発売!!

■問 バトラーツ TEL.048-963-0005

Special Report スペシャル大会レポート

Report 旗揚げ興行大成功!! 怨霊新団体・666大会レポート!!

耽美ゴシックレスラー・怨霊が、極悪CDレーベル・殺害塩化ビニールのクレイジーSKBと結成した新団体『666（トリプルシックス）』の旗揚げ興行が12月13日、東京バトルスフィアで開催された。

「『プロレス界をかき回したい』という怨霊のテレパシーのラブコールに応えて、徹底的にえげつない悪の組織を結成した。トラウマに残る試合を見せたい」（クレイジーSKB）

ルールで闇討ちや超能力の使用、殺人行為までもが認められているとあって、第4試合にサバイバル飛田と共に登場したクレイジーは、怪人ひとごろしを大量の花火で焼殺。最後には爆竹を暴発させて超満員の会場を煙に巻く荒技（？）も披露。メインに出場した怨霊も、極悪セコンドのクレイジーと共に場外乱闘を繰り広げ、試合には敗れたものの、「こんな団体を待っていた！」というインディファンのハートを鷲掴みにして握りつぶした。

「最終目標はWWEのビンスと俺の“バカ社長対決”」と語るクレイジー社長に対して、怨霊のイタコ役のマスコット人形“怨霊君”は「まずは小さいことからコツコツと（笑）」。2月には早くも次回興行が予定されている。今後の大会日程等はHPでチェック!!

■オフィシャルHP WWW.MURDER666.COM
（こう打ち込めばOK!! iモード版も同じアドレスで!!）

Event 各地で行われるイベント情報

ターザン山本&吉田豪と一緒に年を越そう!

昨年に続いて開催されるトークイベント。ターザン山本から直々にオファーを受けたので、本誌スーパーバイザー吉田豪もおそらく参戦する模様（本人にも詳細不明）。吉田豪はロフトプラスワンイベントにも参戦。こちらは確実。

超新年会〜日本一早い新年会〜
■日時 12月31日(水)『新宿プロレス』試合終了後約30分後ら
■場所 東京・新宿クラブハイツ
■料金 1ドリンク付き&日本酒1樽分飲み放題予定、チケットは当日発売のみ。
当日の試合観戦者(半券提示)とFC会員¥3000／一般 ¥5000
■問 ロックウエスト 03-5459-9199(14:00〜22:30)

入場無料!! ロフトプラスワン大晦日年越しスペシャル!! 〜TALK TO TALK!!
■日時 12月31日(水)18:00開始 ■場所 東京・新宿ロフトプラスワン
■料金 無料!! ■問 ロフトプラスワン TEL 03-3205-6864(18:30〜24:00)

ターザン山本・闘道館イベント2連発!

ターザン山本が年末年始のビッグイベントを斬る！ 1・4新日本ドームはターザンシートで観戦、そのままトークへなだれこめ！

年末大放談 2003年の重大ニュース、大晦日大決戦、1・4……。今年最後にすべてを斬る!
■日時 12月27日(土) 19:30開始 ■料金 1人2000円 予約不要

1・4新日ドームを斬る! 1月4日新日本プロレス東京ドーム大会直後、ターザンが勝手に大会を総括。
■日時 1月4日(日) ドーム大会終了30分後 ■料金1人2000円 予約不要
※どちらのイベントも席は早い者順になるため、後から入場した場合は立ち見の可能性あり。
■場所 格闘技プロレス図書館 闘道館
(JR水道橋駅西口改札を出て左手に進み、マクドナルドを左折。まっすぐ150mほど直進し突き当たり、居酒屋どんたくがあるビルの5F)
■問 闘道館 TEL 03－3512－2080 ■HP http：//toudoukan.infoseek.livedoor.net

橋本真也イベント、愛知で開催!!

破壊王・橋本真也が愛知でイベントを開催。1・4『ハッスル1』の後なだけに、ハッスルしたトークに期待だ！

■日時 2004年1月17日 15:00〜
■場所 スロット専門店ラスベガス豊川店（愛知県豊川市新宿町2-13）
■内容 トークショー、サイン会（※サイン会は整理券を配布）
■問 スロット専門店ラスベガス豊川店 0533-89-8188

And Others その他情報

船木・長州を自分の秘書に!!

様々なカテゴリーから選んだ自分好みのパートナーが、動画&音声でニュースやスケジュールを案内してくれる“エンタメ★秘書くらぶ”。マット界からは長州力、大仁田厚、サスケ、船木誠勝、ニコラス・ペタスなど強力ラインナップ!!

■サービス開始 2004年1月13日(月) 0:00〜
■利用方法 iメニュー→メニューリスト→辞書／便利ツール→エンタメ★秘書くらぶ
■サービス料金 月額¥300(通信費用は別途) ■HP http://e-hisyo.jp/

滑川康仁応援HP発足!!

滑川康仁を応援するサイト “RFIGHTER” が開設。近況や戦歴、グッズなどを紹介する。また、12月19日から『紙プロHand』で滑川のコラムも開始。併せて要チェック!
■HP http：//www013.upp.so－net.ne.jp／rfighter／

DVD&VIDEO 話題&最新作情報

PRIDE GP2003 決勝戦

DVD・本体価格 4800円(税抜)／メディアファクトリー
カラー 約120分／2004年1月30日発売

PRIDE史上最高の観客動員を記録し、凄まじい盛り上がりを見せた11・9『PRIDE GP決勝戦』が待望のDVD化! 開幕戦を勝ち残った唯一の日本人として日の丸を背負った吉田秀彦が、無敵の王者ヴァンダレイ・シウバに挑む! 互いのプライドを賭けた歴史的な名勝負を見逃すな! 他にも究極の“打撃vs寝技”ミルコ・クロコップvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、桜庭和志が復活を賭けたケビン・ランデルマン戦など見所満載!
■TEL 03－5469－4880（平日10：00〜18：00）

全日本ライト級 最強決定トーナメント 〜日本最強の男は誰だ!?〜

DVD・本体価格 5600円(税抜)／クエスト／カラー 191分／発売中

老舗全日本キックの総集編DVDが登場! エース小林聡をはじめ、大月晴明、花戸忍、大宮司進、金沢久幸など、日本キック界のスター選手が顔を揃えたライト級トーナメントの激闘を収録。さらに、戦慄の左ミドルでKOの山を築いた“ムエタイの至宝”サムゴー・ギャットモンテープ特集、小林聡スペシャル、ベストバウト・セレクションなど全日本キックの名勝負がこの一枚に凝縮!!
■TEL 03－3360－3810（平日10：00〜18：00）

Shop 一度は行きたいこのお店

Champion店舗移動のお知らせ

プロレス&格闘技のビデオ、グッズ専門ショップでお馴染みのChampionが店舗を移動した。新しい住所は下記の通り。年末年始は12月31日〜1月2日まで休業、1月3日（土）は11：00〜17：00の営業。1月4日（日）より平常通りの営業となる。1月4日、新日本ドーム or 全日本キックへ行く前に、チャンピオンをチェック!!

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-19-4
矢島ビル4F
TEL 03-3221-6237
FAX 03-3221-6267
11:00am〜8:00pm
e-mail:webmaster@champion-j.com

紙プロHand 更新・最新情報

携帯サイト『紙のプロレスHand』内、大好評のショッピングコーナー。ここでは、田村潔司Tシャツ・ヒョードルTシャツ他、『紙プロ』のバックナンバーも購入可能に！ 12月26日〜28日には、AAA東京公演の特別予約も行われる。1月1日更新の着メロは長州力『POWERHALL』、PRIDEの勝利者テーマ『VICTRY』、スティーブ・ウィリアムス&テリー・ゴディのテーマ『勇士の叫び』の3曲だ。写真は12月の待画カレンダー。1月の待画カレンダーにはとうとう“あの選手”が登場！ 待画は取り放題！ いますぐ加入して“ゲッツ”しよう！

Docomo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲
au/TU-KA トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技
vodafone ボーダフォンメニュー ▶ ボーダフォン・ライブ ▶ スポーツ・レジャー ▶ その他スポーツ
▶ 紙プロHand

本誌 Back Number

no.08 '94.01
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが「紙プロ」初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
700yen⇒350yen 50%OFF

no.16 '96.06
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！
780yen⇒390yen 50%OFF

'00.04
情念～夢一途なり～石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。
2100yen（送料込み）

no.13 '95.03
特集 道場破りとは何か?
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近
極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
1530yen⇒800yen 50%OFF

no.14 '95.04
特集 神秘とは何か?
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

no.19 '95.09
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会
780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04
さくぼん
サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！ とばかりに付いています！
総238ページ
1500yen（送料込み）

no.15 '95.05
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのKー1三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本 完売間近
［矛］・［盾］
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよぉぉ!!
各1260yen⇒630yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近
紙の前田日明
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
2000yen（税金・送料込み）

---

no.52 表紙 小川直也 '02.07/880yen
見えない鎖を引きちぎれ！小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08/880yen
世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
- ノーフィアー×無課美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- 爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- 偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08/880yen
不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

no.56 表紙 Uインター '02.10/840yen
愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- 田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
- 蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- 高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
- 『紙プロ』に風がふくぜぇ～! 鈴木みのる

no.57 表紙 高山善廣 '02.11/840yen
一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01/880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02/880yen
吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器 中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03/880yen
英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!
- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04/880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05/880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- ホントに大爆発!! 橋本真也
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06/880yen
吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!
- 「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07/900yen
灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
- "異次元格闘技戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08/880yen
ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
- "最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09/880yen
ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!
- 緊急独占インタビュー! ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 『東スポ』とは何か? 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10/880yen
吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(ギ)は赤く染まるか!?
- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11/880yen
人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!
- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦
- 曙とは何者か!? 語ろう、曙!!
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

通販申し込み方法

▼バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません。

★電話注文 03-3403-5142
★メール注文（代引きになります） kapra@kamipro.com
★郵便振替 00130-3-769154 （株）ダブルクロス
★現金書留 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 （株）ダブルクロス

▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

▼送料 1冊＝310円、2冊＝380円、3冊～4冊＝450円 5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きについてはP160を参照してください。

紙のプロレスRadical 常備店
- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- 大山アメリカン
- プロレスマニア館
- チャンピオン
- リングスパレス
- バディスラム
- タコシェ
- レッスル渋谷
- レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ

Radical Back Number

問答無用の完売間近特集

もっと買いなさい!!

売り切れ寸前のバックナンバーはこちら!!

no.05 すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……
- ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
- 前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
- 世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
- 長与千種&ライオネス飛鳥

'97.08 / 680yen

no.24 ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!! 伝説のKOK決勝トーナメント直前号!!
- リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
- 『紙プロ』的視点から送る「語ろう船木vsヒクソン!」
- 驚ガクのUFO対談/サスケ×矢追純一
- ターザンが有刺鉄線デスマッチを敢行!?

'00.02 / 840yen

no.30 サクvsヘンゾー戦直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
- 平成のテロリスト 村上一成
- ケンドー・カシン暴言ファイル
- プロレススーパースター列伝 永源遙【前編】
- 長州力座談会

'00.08 / 840yen

no.55 高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
- 「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- 靖国神社で興行開催!! 佐山聡
- コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

'02.09 / 880yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日15:00~22:00 (株)ダブルクロス】

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 840yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!!
- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- 『S多重アリバイ』/佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- 環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 真実を語る!!
- TKおかん

no.31 表紙 アントン総帥 '00.09 / 840yen
真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!!
- 桜庭和志×高阪剛 レフェリーは浅草キッドだ!!
- ボヤキ漫談 川田利明語録
- プロレスという物語について ダン・スバーン
- プロレススーパースター列伝 永源遙【後編】

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
「猪木祭り」開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 修斗から「猪木祭り」へ! 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
- アブダビコンバット2001一大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスがWWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト) '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は――。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍vsK-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!
- リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 ルチャカト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭 '01.10 / 880yen
サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- 金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
- その修羅場の数々! シーザー武志
- 怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレスパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- 噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋までを語る!
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- 奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- 和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた 菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- 「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

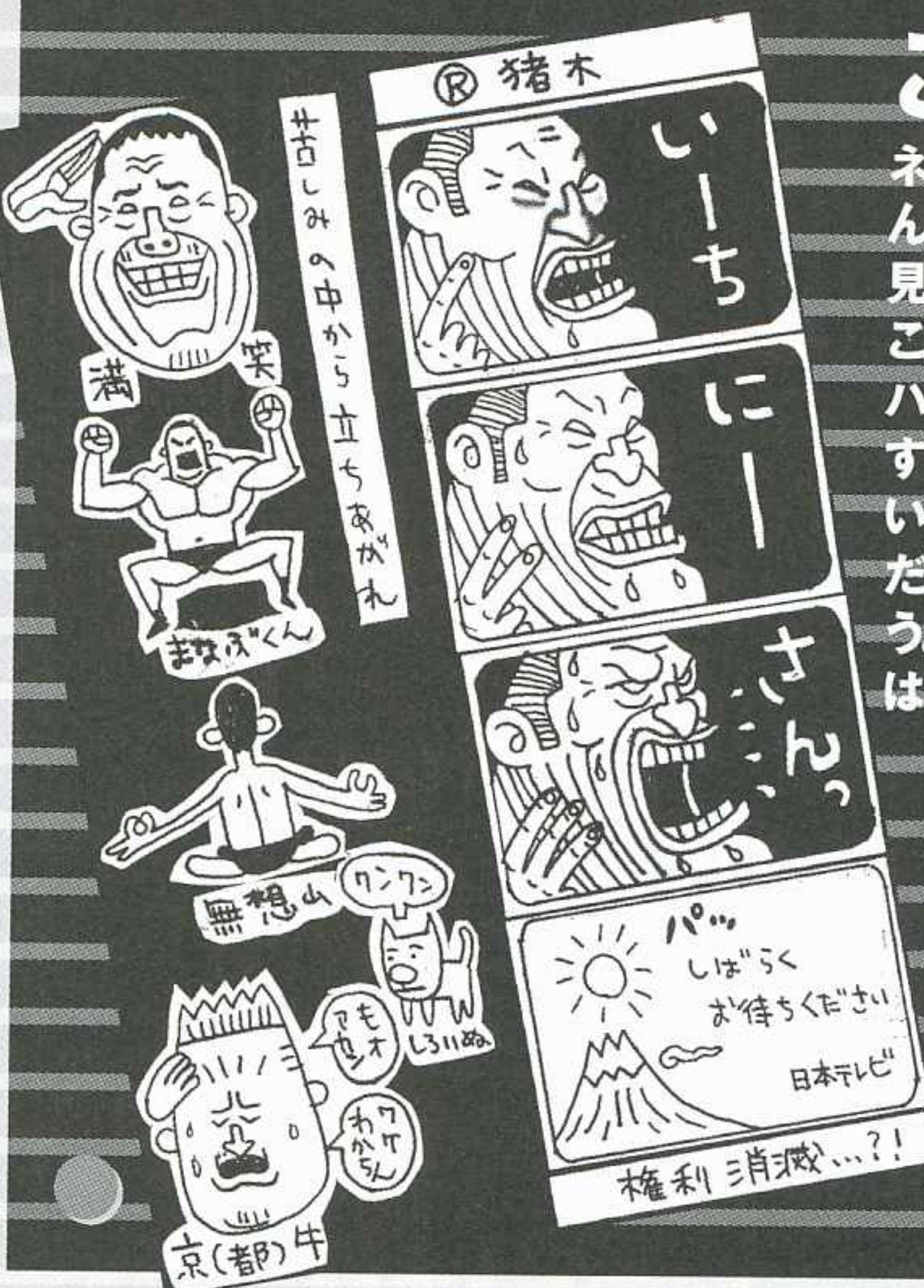
no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを!
- 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- 天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

BACK NUMBER

今年も大晦日までお仕事です！ 元気が一番な読者ページ

紙プロ元気大学

こんにちは。ハッスル読者ページ担当のささきぃです（時事ネタ）。本業は電気部です。みなさんお元気でしょうか。……大晦日会見ラッシュ&大会取材の連続で、ここに書く文章が思いつきません。ハッスルしようにも頭が真っ白です。風邪までひいてしまいました。いかん、元気が売りの読者ページだった。気合いを入れていきましょう。電気ですかーッ（お約束）！ ではでは、はじまりはじまり。

（大阪府・英加直純）➡いつもの切り絵とはまた違った、英加画伯のペン描きイラストです。まなぶくんがかわいらしく、かつ似ている。体型だけなのに。私は大晦日『PRIDE』に行くことが決まったので、行った人の感想を楽しみにしています。どうなる『猪木祭り』。

校内巡回

『紙プロ』68号 面白かった記事

【ど真ん中の真実】
★完全に本音トークだった。おもしろすぎる。（石川県・浅田浩伸・33歳・団体職員）
❶この他「●●の悪口は気分そう快！」（神奈川県・中原圭介）」……などの意見が届いた、安生洋二&木村浩一郎対談と、桜庭和志インタビューが同率1位でした。以下、アンケート順位とは関係なく、順不同で感想を紹介いたします。

★団体を次々潰していく2人のコメントが面白かった。（高知県・津野祐一・33歳・会社員）
❶面白かったなら良かった……って、2人が潰したわけじゃないんだから、言葉に気をつけましょう。載せる私も私です。失礼しました。

【桜庭和志インタビュー】
★「WATER」Tシャツの謎が解けてよかった。俺も、水を1日1・5L以上飲むことにしよう。（京都府・名前不明・30歳・公務員）
❶健康のためには沢山飲んだほうがいいらしいですね。特に冬場は意識してお水をたくさん取りましょう。風邪予防にもなります。現在絶賛風邪っぴき中の私も、今後はたくさん水を飲むことにします。あれ、何の話だっけ。

【小林聡インタビュー】
★「ゴールドでムエタイ」、毎週行ってました。（東京都・小泉二郎・32歳・会社員）
❶おぉ、ゴールドに通っていたとは……バブルを経験した人だ。他にも「**小林のこんなに長いインタビューは読んだことないのでGOODです！**（福岡県・米山優一）」など、小林聡ファンからも好評のロングインタビューでした。私も覚えていただいてて嬉しかったです。そして、全部のページで思いっきり「SATORU KOBAYASHI」と誤植されていて大変申し訳ない限りです。「**もっと報われてもいい人だから**（大阪府・中島一郎）」って、本当にその通りなんですよね。

【コラコラ劇場とは何か？】
★長州の髪型が少し気になったから。（徳島県・北島昌信・37歳・会社員）

（愛知県・たつつぁん）
➡アンケートハガキに描かれていた長州のステキな髪型。写真よりわかりやすいので採用してしまいました。

❶コレですね（左上イラスト参照）。50歳をすぎた人間が、そうそうこの髪型にチャレンジできるもんじゃないですよ。たいてい無難な髪型に落ち着いていくものです。その人間力は評価しなくてはなりません。

【橋本真也×哀川翔対談】
★カタギに俺の球が打てるか！（埼玉県・石山雄紀・13歳・中学生）
❶それが面白かった理由？ ……それは『木更津キャッツアイ』の架空Vシネマ『やくざ球団』決め台詞。哀川翔ファンの13歳でしょうか。これが男の野球よ。

【75ページの、ノゲイラが「ヒョードルを倒すまで自分はチャレンジャーだ」と言ってるところ】
★言い方がかっこいいから。（京都府・馬島景・14歳・中学生）
❶そこだけか。そうか。出来れば、インタビュー全体をほめてはくれないか。

『紙プロ』68号 つまらなかった記事

【猪木祭りの記事】
★新日の『協力するからドームに来てくれ』はいただけないから。（京都府・宮本秀人・33歳・会社員）
❶つまらない記事の理由として言われても、本人たちがそう言ってるんだからしょうがない。

【ターザン山本大放言】
★意外と面白かったけど、それはそれで腹が立つ。（広島県・広川徹・34歳・公務員）
❶つまりは嫌いってことでしょうか。あ、前号にも載っている方だ。

【ドラゴンは本当に引退するか】
★どうせしないから。（滋賀県・林克也・16歳・高校生）
❶こらこら。決めつけちゃいかんよ。

今年のMVP

【トニー・バレント】
★爆笑した。『DEEP』で見たい。（京都府・森川大輔・21歳・大学生）
❶『K-1MAX』に出ていた、黄色いジャンプスーツのアフロ男ですね。……って、MVP？ 特別賞とか、面白かったで賞とか、ヴァンサック・アシッドとの立ち技対決が見たいで賞とかなら同意だけど、MVPでいいんですか？

その他のおたより

★11月23日、神田・三省堂の『泣き虫』出版記念、高田延彦サイン会にうちの息子を連れて行きました。高田さんに「うちの息子は『トレーニング・モンタージュ』が子守歌でした」と言うと「それは強くなる!! いっぱいご飯食べていっぱい遊んで」と力強く息子に言っていました。そして最後に「抱っこしよう」と言ってくれたのですが息子は「嫌だー」と反応していました。男だー。（神奈川県・佐々木学・38歳・会社員）
❶街宣車の来なかったサイン会、高田本部長のほのぼのエピソードでした。当日、私も取材に行ったのですが、ファンの皆さんからのお願いに、丁寧に応える本部長の姿が印象的でした。

★坂田、『PRIDE』出場おめでとう！ 小池栄子が「ちょっと待って下さい」と小鉄ばりに飛び出すことに期待しています。（『紙プロHand』投稿・ことだま路太郎）
❶「我々は殺し合いじゃないんだ」とか（それはドラゴン）。でも、前代未聞の状況ですよね。なかなか冷静ではいられないと思います。多分、当日までさんっざんその質問をされてうんざりすると思いますが、坂田選手も小池さんも頑張ってください。

（神奈川県・稲葉聡）❶12月5日、全日本武道館の感想イラスト。「おしゃるしゃーん」って叫ぶ子供、いたなぁ。大会を楽しんだ感があってとてもいいと思います。同様の投稿も歓迎です。

紙プロ68号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 桜庭和志インタビュー
1位 WJ危機一髪・安生×木村対談
3位 小林聡インタビュー
4位 堀辺師範、またもや青春の大発見
5位 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラインタビュー

1位はランデルマン戦勝利オメデトーッ！ の桜庭和志インタビュー。同率1位に安生洋二×木村浩一郎対談がランクイン！ みんなWJに興味シンシン。ていうか2人のトークが巧すぎ。続いて「小林がこんなにプロレス詳しいとは知らなかった」という感想がたくさん届いた『紙プロ』初登場の小林聡インタビュー、4位は目からウロコ落ちまくりの堀辺師範・青春の大発見！ 5位はノゲイラインタビュー、続いてターザン山本の大放言、コラコラ劇場完全再録と続きました。

今月の 『紙プロHand』調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 田村潔司
2位 桜庭和志
3位 橋本真也
4位 CIMA
5位 ミルコ・クロコップ

今月はベスト興行&MVP投票があったため、好きな選手&嫌いな選手のアンケートは行わず。なので、携帯サイト「紙プロHand」上でのランキングをご紹介します。あまり変化がないように見えますが、桜庭選手と田村選手が激しいデッドヒートを繰り広げています。でも、多分本人たちは全く意に介していないと思います。CIMA選手がミルコを抜いて4位にランクイン。好きな団体は『PRIDE』、ZERO-ONE、闘龍門と続いています。嫌いな選手は前号に続いて某選手が1位を守りました。敬礼。
（11/16～12/13アクセス分調べ）

今月の質問状

ただならぬ迫力と緊張感…
潰されるのはどっちだ!?
12・14両国で遺恨清算へ

（静岡県・目が覚メタロウ）「ZERO-ONE道場の、矢印で示したダンボール箱（"大事な物"と明記）には、なぁ～にが入ってんだ、コラッ！　教えてクダサイ」➲わはは。週刊ゴングNo.998より。コラコラ問答時の写真ですね。わざわざ大事な物と書くくらいだから、相当なモンが入っているんでしょう。タフィ・ロースのサイン入りポートレートとか（それは『紙プロ』67号読者プレゼント）。……ていうか、ダンボールに入れる程度の大事な物って何？　チョロさんが何気にいい位置で映っていますね。

（大阪府・火炎放射器）「初投稿。青ヒゲかきすぎた……」➲はじめまして。初投稿の人にも常連にも優しい読者ページ。桜庭のイラストだからヒイキしたわけじゃないよ（わざわざ書くとかえって怪しい）。たしかにヒゲが濃いけど、かわいいので大丈夫だと思う。

（大阪府・今堀将義）➲アンケートハガキ下に描かれていたステキなイラスト。シウバが武蔵に似ているので、強引に採用します。ついでに言えば「始合」じゃなくて「試合」だ。うかつな誤字はあだ名になってしまう危険があるぞ。がんばれ13歳。

（神奈川県・葉チャン）「星条旗ガラのシャツもドンさんなら許しましょう」➲コスチュームも星条旗なら、シャツも星条旗ガラ。ドンさんクラスのオヤジじゃないと、なかなか着られるもんじゃないです。すっかり画風が完成している感がありますね。ダンディなドンさん。

（北海道・小林少林）➲これまた桜庭イラスト。顔を描いたところで力つきたのか、Tシャツのごまかし方が気になりました。後頭部のは寝グセ？　また投稿待ってるよ。

（石川県・シーザータカシ）「最近キレイになったヤブシタさん」➲本人いわく18禁画、ってこのくらい大丈夫では……。女子のイラストは最近珍しいなぁー。女性は難しいのよね。

（埼玉県・中川雅博）「この絵はヨアキム・ハンセンです。最近はシューティングのチャンピオンも他の団体にあがるから楽しみです。ウィー!!」➲大晦日三つ巴戦、『猪木祭り』でイラストを描き、『Dynamite!!』ではパンフにイラストを描き、『PRIDE』でもイラストを描き……と、三大会をマタにかけて大忙しの中川画伯。『紙プロHand』もよろしくお願いします。NKでは負けてしまいましたが、どうなるヨアキム。

（石川県・シーザータカシ）➲「ほとんどジョーク＆新コスチュームを考えよう係」だそうです。田中将斗、りんかくのあたりとかが良く似てますね。白かぁ、どうだろう。日焼けしているから映えるかもしれない。冬木軍興行でこんなベストを着ていたんですが、なかなか似合ってました。

（神奈川県・稲葉聡）➲前号いただいていたハガキです。時事ネタかなと思い、掲載してみました。大晦日を前に、ご本人の心境やいかに。

ほんとにジョーク？

（愛知県・たっつぁん）「お久しぶりです。大晦日はどうなるんでしょうか。NHKも負けずに和田アキコvs北島三郎のバーリトゥードをやれば、曙もふっとぶのに……」➲わーい、たっつぁんさんだ（と、他のコーナーに届いたハガキを横取りして喜ぶ）。毎年、紅白では小林幸子vsの異種格闘技戦（衣装対決）で大変なことになっていますね。サブちゃんはきっと相当強いです。サブ幻想。そして、キムケンはまだ出場をあきらめていないと思います。

（兵庫県・上田謙太郎）➲先月「ほんとにジョーク？」あてに届いたおハガキです。先月＆先々月はトリビアネタ多かったなぁ。その中でもけっこう本当に「へぇ～」なネタでした。

（埼玉県・中川雅博）➲ちょっと前のハガキに描かれていた伊藤博之選手です。気に入っていたので掲載チャンスをうかがっていました。12月28日の『SAEKI祭り』出場が決定している伊藤選手。『U-STYLE』試合後に大乱闘となった滑川康仁選手とのタッグですが、はたして結果はどうなる。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

最近、読者ページタイトル『紙プロ元気大学』の意味がわからないというお手紙をたまにもらいます。時代のうつりかわりは激しいですね。そろそろ名前を変えようかなぁとも思ったり、せっかく続いたからこのまま行こうかなと思ったりしています。思いついたら変えます（いいかげん）。さてさて、『紙プロ元気大学』では、みなさんのお便りを募集しております。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「毎晩ハッスル」係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、
内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第30回

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

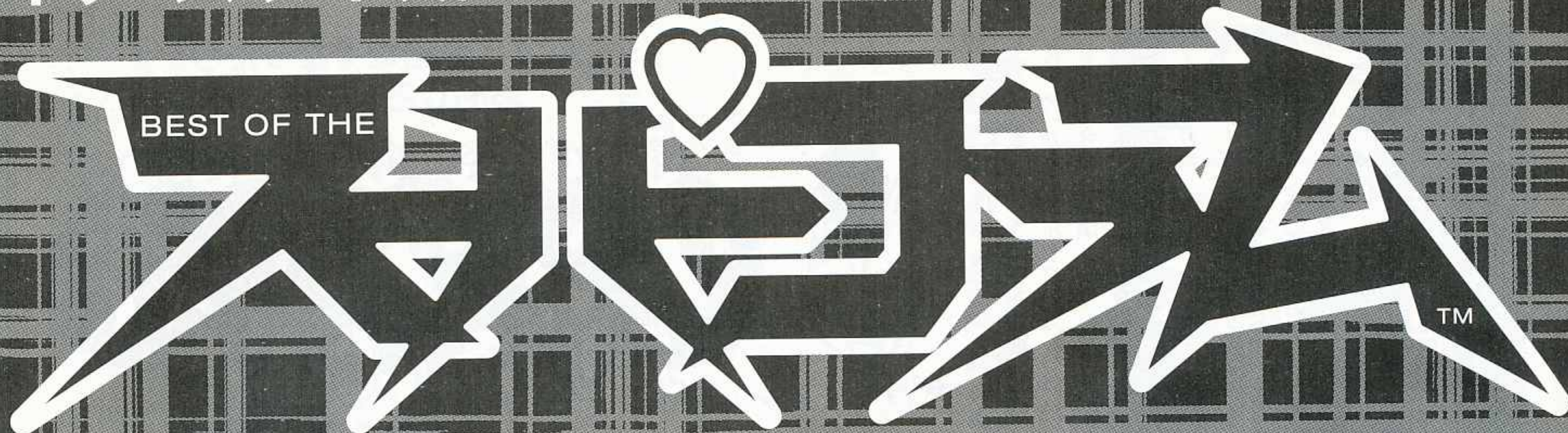
静岡県磐田郡　**目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、採用おめでとうございま～す!!　「『ほんとにジョーク』チャンピオンベルト」Tシャツ（M）。よく解らないけど気合いでつくります。気合いだーっ!!　お楽しみに!!
★『ほんとにジョーク』もついに30回！　嬉しいです。これもひとえに読者の皆様のおかげであります。大感謝!!
★生まれてはじめて師走気分を満喫中!!　中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「手づくりTシャツ」をプレゼント!!　希望Tシャツはプロレスラーじゃなくてもノー問題です。いつ何時、誰のTシャツでもつくる！　皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。
★IT革命です。毎日更新。気合いだーっ!!　『中吉』http://chu-kichi.jp/

➡前号のTシャツ ケンドーコバヤシ

応募方法　プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S･M･L･XL）をハガキに書いて下さい。　〈例〉サバイバル飛田のS

ドラゴン、リストラ第1号宣言！　でも「引退」とは言っていません。

BEST OF THE スパコラム™

金ちゃんのMONTHLY BOYA-KING COLUMN

なんでそ～なるの!?

第5回

衝撃事実発覚！ 今年の年収は新弟子時代より少なかった！

いやぁ、早いもので今年ももう終わりだよね。まぁ、ヒザの手術をしてリハビリ生活だった俺にとっては長い一年だったけどさ（苦笑）。

今年1年全然仕事できなかったから、いま、確定申告をどうしようかと悩んでるところなんだよね。収入がないんだから申告しようがないよ！　ホントに。

たぶん、今年の収入はUインターの新弟子時代より少ないと思うよ。デビュー前の練習生のころって、月3万しかもらえなかったけど、そのときは寮があったから、住むところとメシは食えたから、純利益が3万あったわけじゃない。でも、いまは家賃払って、光熱費払って、食費払ってだから、どう考えても赤字だし、練習生のころよりキツイ生活強いられてるよ！　まさかデビュー13年目にして、収入が新弟子に戻るとはね…。…こんな未来予想してなかったよ！

しかも今月はマンションの契約更新があって、車の保険の請求書が来て、年明け早々には、生命保険の更新と車検が来るんだよね。もうそれだけで年収を大きく上回ってるから、いまホントお金の計算したくない。

こういう時はギャンブルに走りたくなるよね。早く年末ジャンボ買わないと。いや、ナンバーズの方が確実にもうかるかな。もう、世の格闘家たちは大晦日決戦で一攫千金狙ってるのに、俺は宝くじだのみだよ（笑）。

ホント、いま格闘技界は季節はずれのバブルで凄いからね。なんでこんなときに俺は欠場してるのかな～。世の中間違ってるよ！

それに引き替え、プロレス界は大変みたいだね。長州さんのWJプロレスとか大変なんでしょ？　でも、これでWJが崩壊したら、いよいよ安生さんも疫病神だよね（笑）。安生さんが団体の最期看取ったのって、旧UWF、新生UWF、Uインター、東京プロレス、キングダム、そしてWJだから6つ目だもんね（笑）。俺と和田さんもUインター、キングダム、リングスと来てるから、いい加減凄いけど、安生さんにはかなわないよ（笑）。

まぁ、人のこと心配してる場合じゃないんだけどね。今年はいいオーバーホール、1年いい休みをもらったと思うことにするよ。もう40歳ぐらいまで休みはいらないけどね（笑）。

いまは、だいぶヒザの調子も良くなって、ボクシングの練習とかはできるようになったから、年明けてからレスリングやり始めて、3月ぐらいにはなんとか復帰したいよね。

そう言えば、ボクシングの練習に行ったとき、大橋さん（大橋秀行＝大橋ボクシングジム会長・元世界王者）に「高田さんの本読んだよ。ちょっと悲しかったなぁ」って言われたよ。俺は読んでないから「そうなんですか。機会があれば読んでみます」って答えただけなんだけどね。

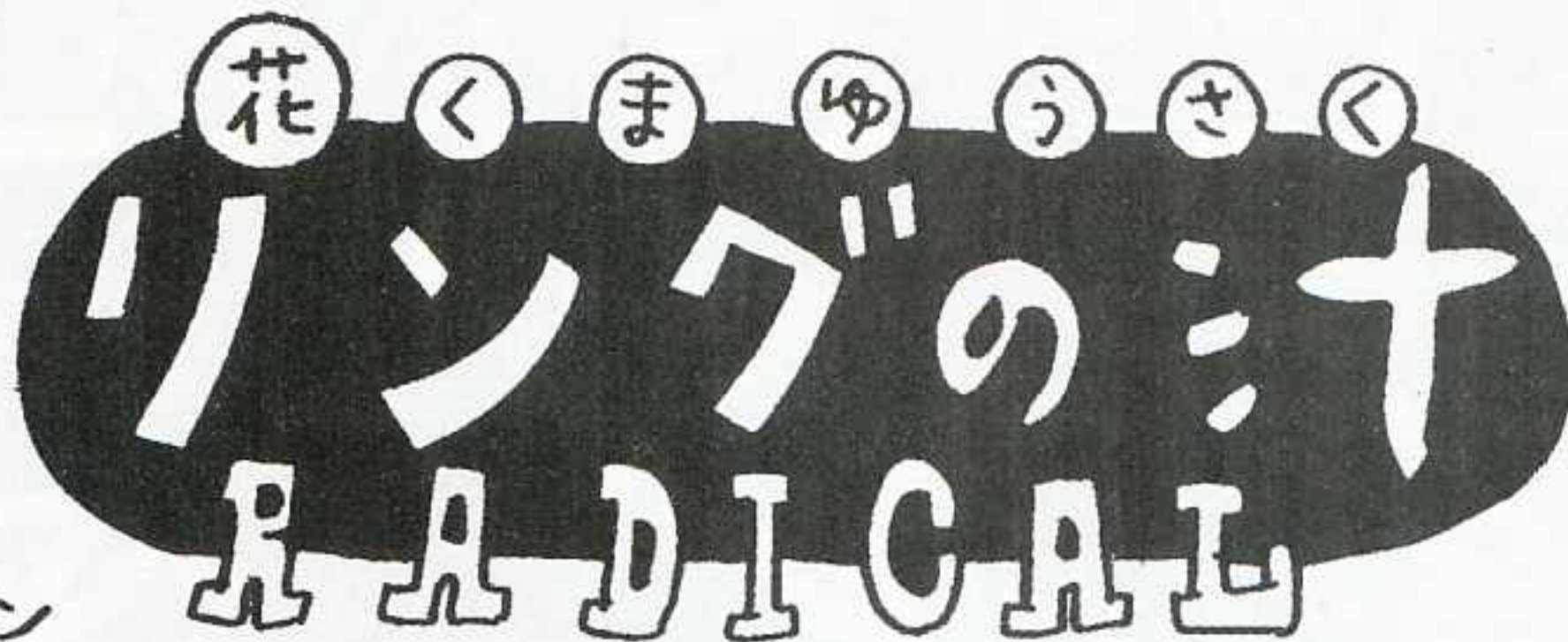
聞いたら、なんか昔のこともいろいろ書いてあるらしいけど、Uインターの頃って俺らペーペーの若手だったから、上の人たちが何をやってるか、俺たちですら知らなかったからね。聞ける立場でもないし。それに当時の試合って、プロである俺たちの目から見ても「アレ？」って思う試合がいくらでもあるから、ホントにわからないよ。

ただ、ひとつ言えるのは、俺にしても桜庭にしても高山君にしても、みんなUインターの道場で強くなったってこと。桜庭と高山君は大晦日出るみたいだから、頑張ってほしいよね。俺も早くケガ治して、来年はバリバリ稼ぐぞ～！

1年前は『PRIDE』東京ドームでヴァンダレイ・シウバとPRIDEミドル級のベルトを争っていた金ちゃん。この時点ですでに靱帯を断裂していたのだ。

Kanehara Hiromitsu
オフィシャルHPで「本音炸裂コラム」毎日更新してます！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

ミルコとか出なくなったら、
おもしろいなあ

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

www.HANAKUMA.com

アブダビ2003のDVD買ったけど忙しいから、マルセロ・ガルシアだけ見てる今日この頃（そういや戸井田vsバレットが収録されてないなこれ）。腕から脇とってひきつけバック取るの、うまいねガルシア。そんでバック取ったら確実にチョークだ。もし宇野のバック取ったらどうなるのかな？　宇野逃げできるのだろうか？　どこか、ガルシア呼んでくんないかな？　もっと試合見たいよ。

総合バブルの大晦日はもうすぐだけど、どうなっちゃうの？　当初いちばんダメだろうと思われていた『猪木祭り』だが、視聴率買うように選手も次々買ってきて凄いことになってるね。しかしいくら選手あつめても、猪木と日テレでうまくやれんのかな？

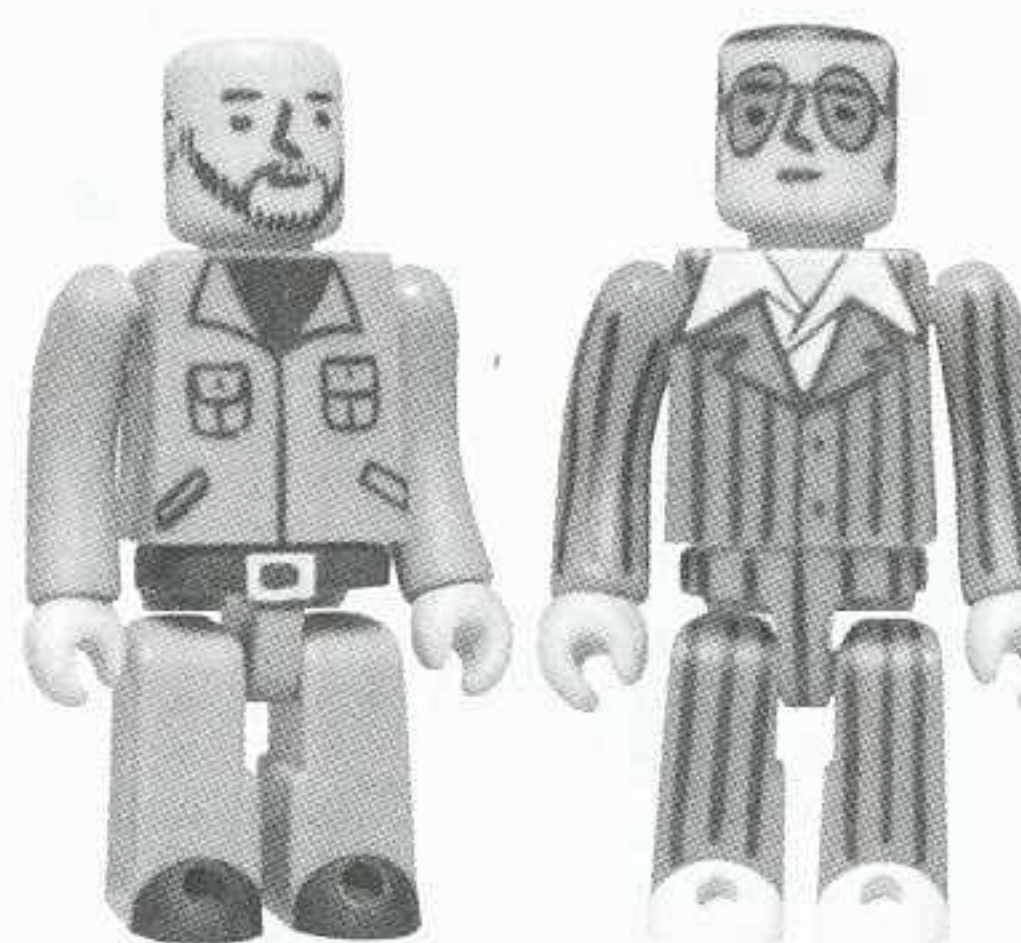
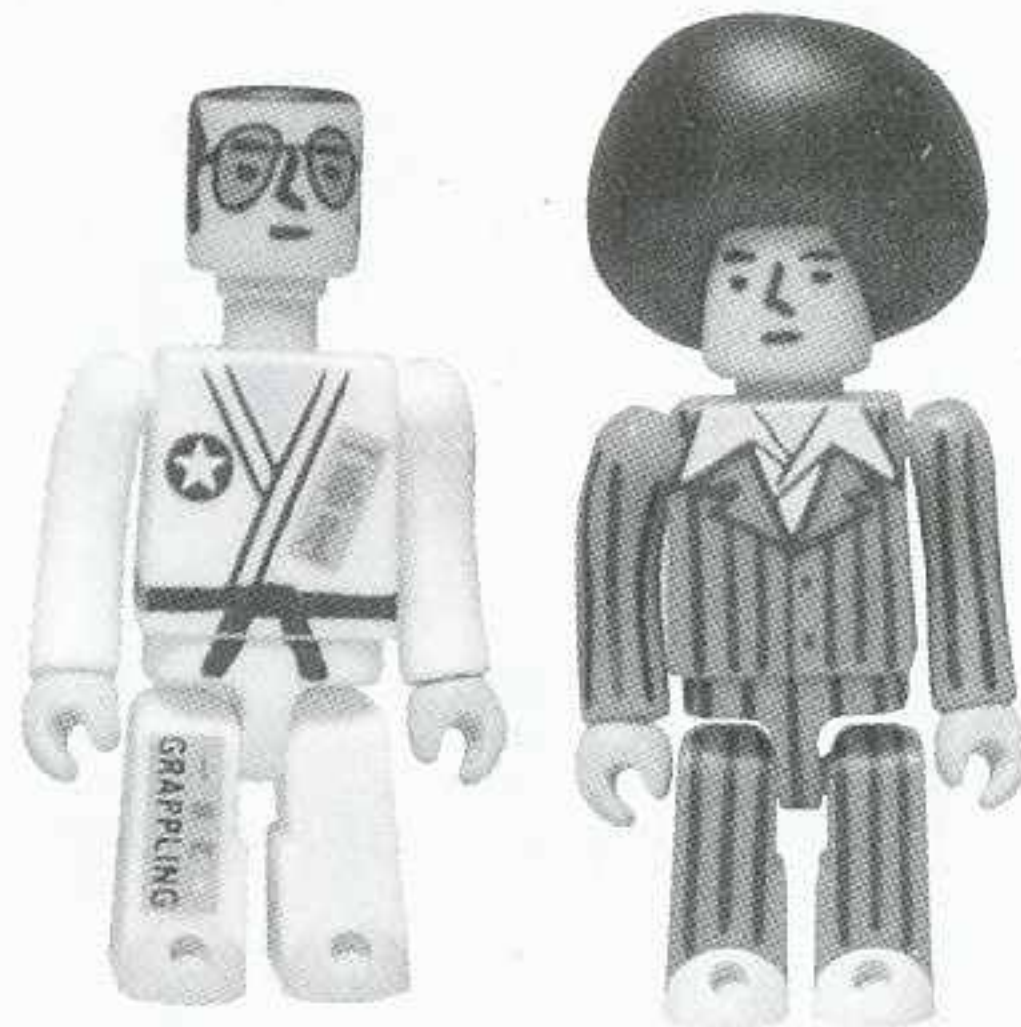
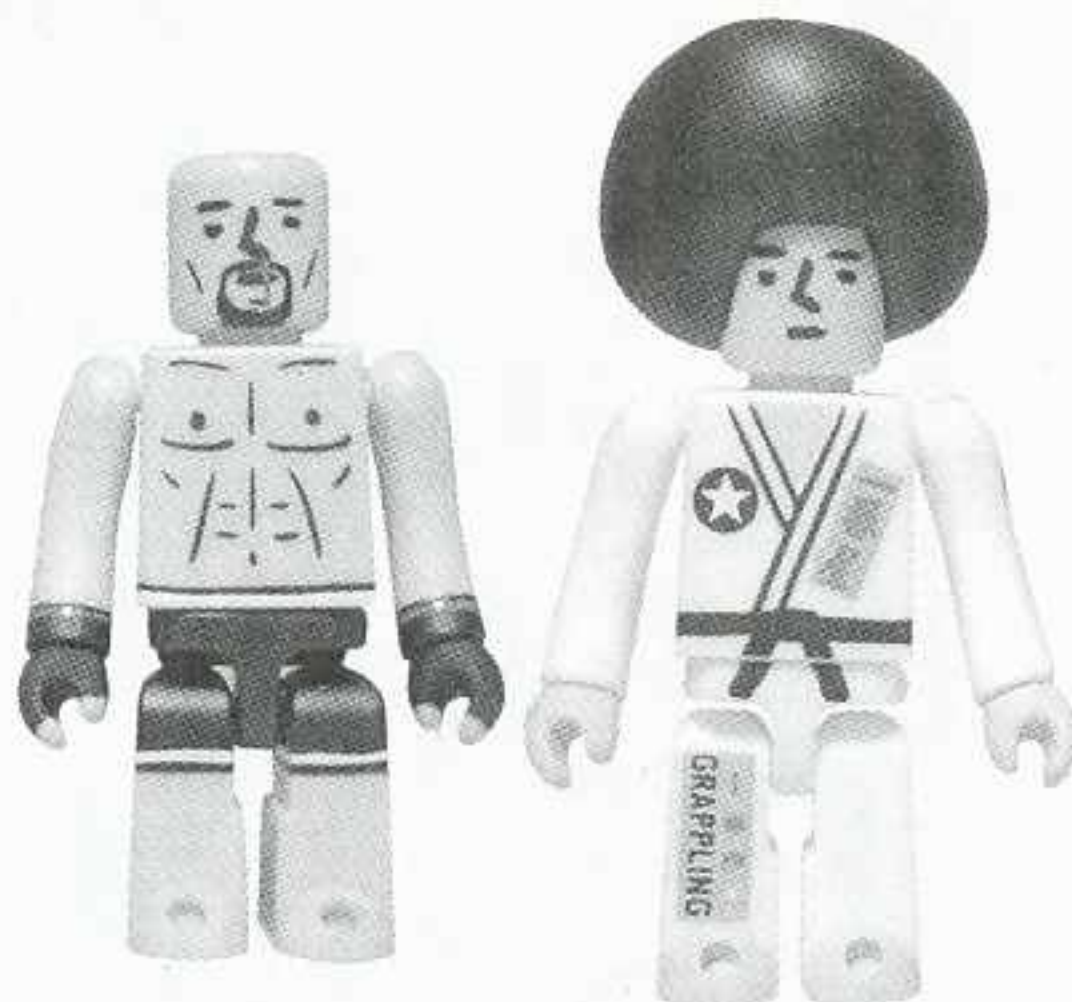
うまくできたとしても、これから猪木が日本の総合を仕切るようになったら、なんか嫌だな。新日にいじわるしたり、『LEGEND』などダメイベントやって笑われてるぶんにはいいけど、猪木が総合を語るのってなんだかなあでしょ。天山vsヒョードル、小橋vsミルコとか、悪趣味でいじわるなカードやるんなら面白いけど。

猪木といえば何号か前の格道で、猪木とイズの新会社が、ネヴァダ州のMMAプロモーターライセンスを取得した時、コミッションが猪木の過去のフェイクファイトについて言及すると、猪木は「このプロジェクトは新しい会社によって行われるもの。フェイクファイトはありえない」と回答したと、ひっそり書いてあった。日本ではあいかわらず、プロレスも総合も一緒だとしたがるけど、海外では猪木も素直なのか？　これって、ミスター高橋・船木・高田に続いて、猪木もカミングアウトしたことにならない？　なんないか。

11月は、おそらく年間ベスト興行だろうと思われた『プライドGP』があったのに、その後のZST・GPも同じくらいいい興行でした。

まず、ジェネシストーナメント。ジェネシスで8試合もするのはどうかと思ったが、この日はサクサクと一本勝ち多く、当り日でした。代官山選手・内山選手と実力者が順当に残り、前回僕と試合した小松選手も見事に一本勝ちしてうれしかったな（それも、バック取られながら足極める渋い勝ちかた）。内山選手も昔試合したことあるから、がんばってほしいね。次は優勝するまで1日で3試合あるけど、控え室なくアップも堅い廊下という大部屋俳優のような待遇のジェネシス選手大丈夫でしょうか？

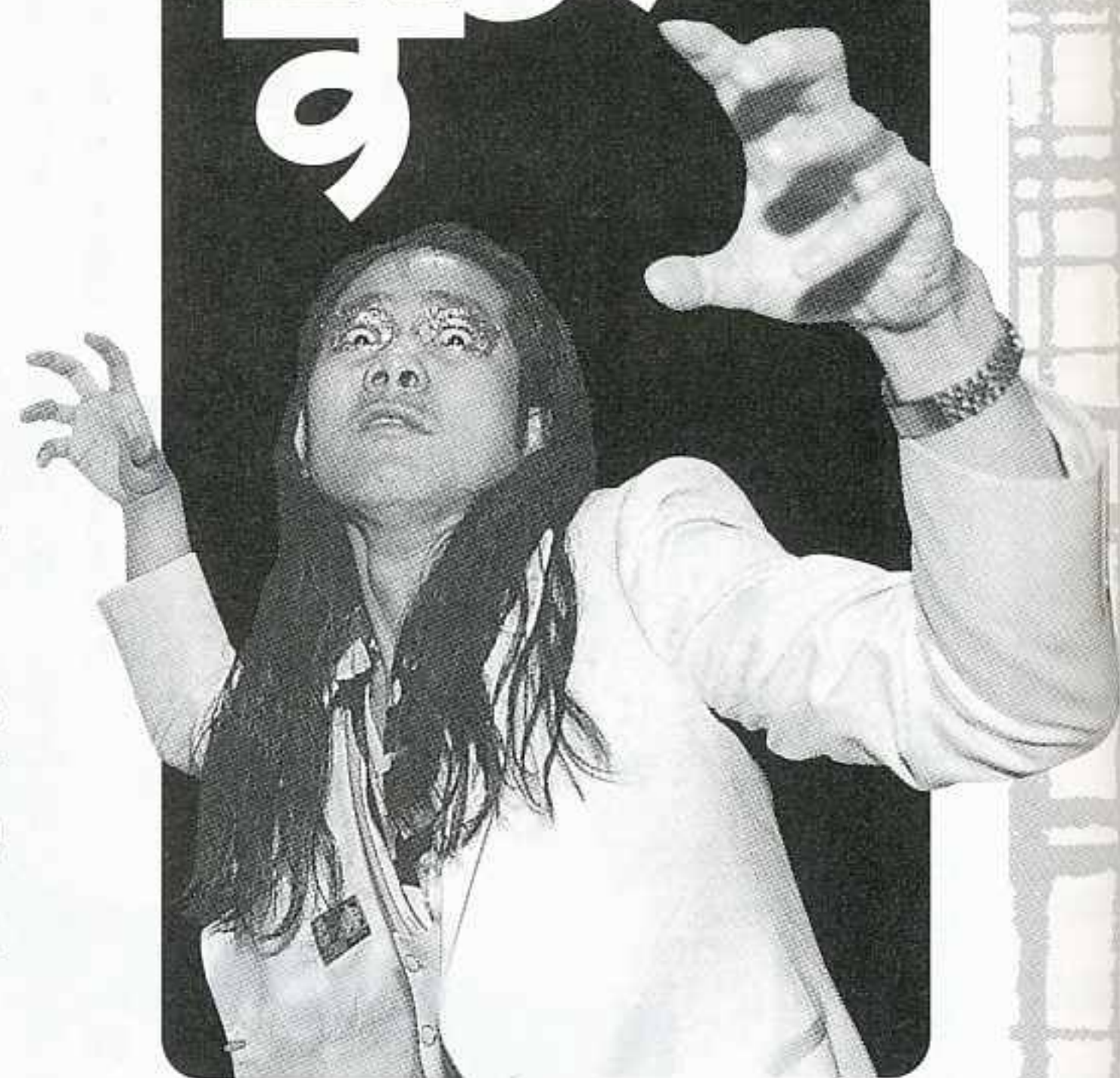
そして本戦のGP一回戦、これが好試合続出でサクサク進み、ZST史上いちばんであろうベスト興行となった。

まずは、小ミルコの異名をもつモリカが、おなじみのヒザで秒殺KO。これでつかみはOK。昔、矢野さんの強さを知った時に「矢野さんvsロシア人orブラジル人を見たいなあ」と思ったけど、それがいま目の前でやってるよ。足極めあっちゃってるよ。最後チョーク極めてたら劇的だったんだけどなあ。そして柔術黒帯のマーカス・アウレリロがその強さを見せつけ普通にタクミから一本勝ち。TAISHOも、柔術家らしく見事に下から十字で一本と、うまくいきすぎに転がり続けるこの日。私的にいちばんの盛り上がりは、次の足関十段であった。

今成選手の強さを見た時「この人とブラジル人の試合見たいなあ～」と夢見たもんですが、この日相手は柔術黒帯の強豪。ゴング鳴ると、なんの迷いもなく足関一直線！　最高だ。こんな今成を待っていた。こんな今成をアブダビで見たいんです!!　フィニッシュのヒールホールド極まったときのカタルシスときたらもう最高です。ノゲイラがミルコの腕極めた時といい、2003年11月は最高がありすぎ！

その後も所が前回の太陽戦に続く好試合をやってのけ会場爆発し、ラストは小谷弟がキッチリと一本でこの日を締めるという、絵にかいたようなうまく出来すぎの奇跡のような素晴らしい興行であった。あんまりうまくいきすぎて、次にだめな反動がくるのではないかと心配してしまうほどである。しかし、次は今成vsマーカスあるもんね。これほんと楽しみ。

Hanakuma Yuusaku

DVD「RCサクセクション70s」発売がとてもうれしい。

男道コーチ屋稼業 掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の 業☆勝ちます

【高田の暴露本】の巻

なにやら高田延彦が暴露本のようなものを書いたらしいと聞いた。一体どんな話が暴露されているというのだろう。気になって気になって仕方がないが、今現在、広末涼子の電撃結婚宣言がそれの何十倍、いや何百倍も気になっているため、高田には申し訳ないが、今は高田の暴露本を読んでいる場合ではない。未曾有のエマージェンシー……寝返り打つのも面倒臭い俺のチンタラ人生において、かつてこれほどまでに狼狽したことがあっただろうか、いや、ない!! たたったっ、たいへんだ〜〜〜っ（どおくまん先生の『黄金探偵』でおなじみのチェンマイ踊りを踊りながら泡を吹いて卒倒）！

とにかく広末が望むことならなんでもやるつもりだ。広末がCMで『BBしよう！』と言うなら、3日でも4日でもぶっ続けでBBし続ける自信がある！ ……しかしひと口にBBと言われても、ホントは今ひとつBBがなんのことか理解できていないため、どうやったらBB出来るのかがよくわからない。事態はいきなり暗礁に乗り上げてしまった。

そうだ！ わからないことがあるときは年寄りに聞くのが一番！ 亀の甲より年の功！ ということで、実家のかあちゃんに電話して訊いてみた（以下、先月に引き続きまたコレクトコール）。

掟「かあちゃん！ 頼むよ！ 教えてくれよ！」

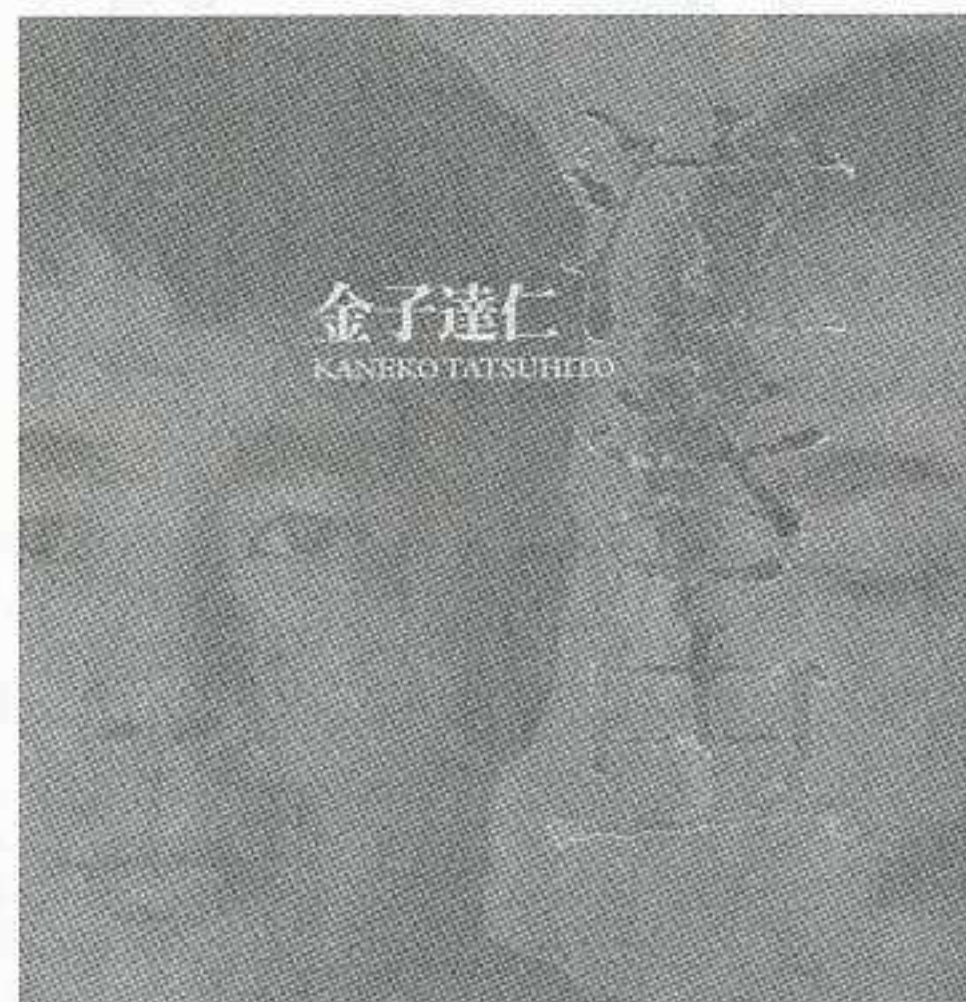
母「なんだい？ おとうさんとの初夜のことかい？ あの夜のことはまるで昨日のことのように覚えているわ……おかあさん初めてだったのに、おとうさんはいきなりベロチューを……」

掟「実家に電話してそんな生々しい話聞きたい奴はそうそういないよ、かあちゃん！ そうじゃないよ！ BBってなんのこと？ 教えてよ！」

母「いい歳してそんなことも知らないのかい。仕方のない子だねえ。アイドルヲタ用語で『だれでも・だいすっき』っていう意味でね、その頭文字の略称なんだよ。束ものアイドルの中でお気に入りの子が3人以上いるともう立派な……」

掟「それはBBじゃなくてDDだよ、かあちゃん！ 70近いのにそんなボンクラ用語がサラッと出てくるのは不自然だよ、かあちゃん！」

母「おかあさん、歳とって耳が遠くてなっちゃってすまないねえ。そうそう、お前が言っているのはプライドの門番とかいうあのクンボのことだね。8月のグランプリの時ヒョードルにしこたま殴られた」

掟「それはGG、ゲーリー・グッドリッジだよ、かあちゃん！ そうじゃなくて俺が言ってるのはヒロスエがCMで言ってるBBのことだよ！ かあちゃんもヒロスエがこないだ結婚宣言したのテレビで見ただろ？ ヒロスエのことが気になって夜も眠れないんだよ！」

母「え？ あの人はもう10何年前とかに結婚してニューヨークに移住したはずだけどねえ。しかし余計なお世話だけど、ゆきねぇのどこが良かったのかねえ。兵藤ゆきはどう見ても高田文夫がジュンスカのカズヤみたいな髪型にしたようにしか見えないけどねえ」

掟「それはヒロスエじゃなくてヒロスケだよ、かあちゃん！ ゆきねぇさえあまり最近テレビに出てないんだからヒロスケが誰かわかんなくてまた読者が置いてけぼりだよ、かあちゃん！ ヒロスエは最近、岡沢高宏の子供を身ごもって妊娠5ヶ月なんだよ！」

母「サッカーに関してはおかあさん門外漢だからよくわからないんだけど、そんなに若い芸能人のお嫁さんをもらっちゃってまったくいやらしいねえ。おまえもいつまでもバンドマンだとかやくざなことばかりやってないで、この際一念発起してサッカー選手になってみたらどうだい」

掟「かあちゃんがいってるのは元日本代表監督の岡ちゃんだよ！ 俺もサッカーのことはよくわからないから迂闊にボケられないけど、確かそっちは岡田武史っていう名前だったと思うよ！ そうじゃなくてモデルの岡沢だよ！」

母「ああ、E・H・エリックの実弟の」

掟「それは岡田真澄だよ、かあちゃん！ ちょっとボケすぎてうるさくなってきたから電話切るよ！」

結局BBがなんのことなのかわからず終い。現実は非常にシビアである。もう誰かに聞くのが面倒臭いのでBBのことはどうでも良くなってきた。かあちゃんにボケ倒されてボケ酔いしたのか、よく考えたら広末のこともそんなに好きではない気がしてきた。

そうだ、高田の本だ。広末のことで頭が一杯だったのですっかり忘れていた。一体何が暴露されてんの？ え？ 新日とUインターの対抗戦で武藤に負けることが試合前から決まってた？ ……今更言わなくてもみんな知ってるって。ホントは何が暴露されてんの？ バーゴンの中身に入ってたのが山田圭介だったとか？ う〜ん、それじゃ全然暴露本じゃないよ。そういうことなら非常に興味あり！ 燃えてきた〜！ じゃあ早速今から『泣き虫』買ってきて読みま〜す！

金子達仁
KANEKO TATSUHITO
あの日、あの試合、
高田延彦の心は揺れていた。
真のリアルファイトとは
何か？
著者初の書き下ろしノンフィクション

Okite Porushe

12・31（水）、プロレスファンが究極の三択を迫られている真裏で、19時から新宿ロフトプラスワンで吉田豪とともに今年一年を振り返るトークイベントに出演。その後24時から新宿ロフトでカウントダウンライブ出演！ ロマンポルシェ。のライブは深夜2時半から！

原タコヤキ君の 大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

まいど!「関西にプロレス熱を取り戻せ!」を合言葉にしながらも、先月、担当のチョロに「えーっと、今回人選がまとまらないので一回飛ばします!」と事後承諾の上に無下に扱われ、すっかり熱の冷めきったタコヤキ君が気を取り直してお送りするこのコーナー。みんな、ビジネスの世界は「ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)」が基本だよ〜!

★

——大将、こんにちは!

蘊蓄庵 お、今日はどうしたんだい?

——先日、テレビの企画で大将に出ていただいたじゃないですか。あの時、高田延彦さんをご存知だとお聞きしたので、今日はお話を伺いにやってきました。

蘊蓄庵 高田延彦とは和泉修（吉本の芸人）のラジオに出演するってことで大阪に来たんだけど、そこからの縁だね。それ以来、高田の大阪の実家はここ、鮨右衛門ってくらいの付き合いなんだよ。当時、俺は高田延彦なんて全然知らなかったんだけど、実際に会うと、力道山を彷彿とさせるオーラと、それと相反するような律儀さを持ち合わせてたんだよ。あまりの好青年ぶりに俺は一発で惚れたね! 以後、Uインター立ち上げ当初から、ウチの店から試合に行って、ウチの店に帰ってくるというのが、大阪の試合での高田のパターンで、試合後は明け方まで酒盛りだったね。

——なんと大将は、あの「高田&赤井（英和）カラオケボックス大破事件」にも居合わせていたとか。

蘊蓄庵 まあ大破ってのは言い過ぎだよ（笑）。あれはスポーツマン同士のじゃれあいだって。それでじゃれついてる間に、赤井の背中がドーンと部屋一面の鏡にぶつかって、ヒビがビシーッと入ったんだよな。「ヤベー!」なんつってみんなで大笑いよ! あとでちゃんと謝りに行って、向こうも快く許してくれたけどさ。

——ところで大将は高田さんの試合の時は必ず食事を届けていたんですよね?

蘊蓄庵 大きな試合の時は必ず寿司を持って押しかけたね。プロレスラーは日常の食事には気を使うくせに、試合前の食事には無頓着なヤツが多くてさ。高田もそうなんだよ。だから「何がなんでも食え!」って感じだったね。

——ということは、当然、あのヒクソン戦に至るまでの高田さんの姿も、大将はつぶさに見ていたんでしょうね。

蘊蓄庵 おう! 高田のコンディションは一発でわかってたね。最高の時はベイダー戦で、最低はヒクソン戦ってところかな。俺は試合当日まで、高田は絶対に勝てると思い込んでたんだよな。ところが試合直前に高田の顔見たら、もういつもの高田じゃねえんだよ! いいトレーニングをできてない。いいコンディションを作れてない。俺、本当に消防署に電話して、「東京ドームに爆弾が仕掛けられている!」って通報しようと思ったよ!

——そんなん、大事件になりまっせ!（笑）。

蘊蓄庵 負け惜しみじゃないけど、グレイシーは最低の格闘家だね、ありゃ! 試合前にロープ一回掴んだら200万円払えだとか、チーム全員ファーストクラスでなきゃ試合しないだとか、卑怯なんだよ、だいたいが。グレイシーが契約にもっとクリーンだったら、高田ももっと試合を楽しめたんじゃないかな。高田の観客を惹きつけたいプロレスラー魂とヒクソンの観客無視の勝利至上主義の違いで、俺にしてみりゃ、あれは高田の勝ちだから!

——大将、まだマジ怒りですね（笑）。あと、大将は他のUインター勢も一通り面識があるということですけど、とりわけ金原選手は自分のHPで尊敬する人物で大将の名前を挙げるほど心酔しているようですね。

蘊蓄庵 金原はかわいいヤツなんだよ。ただ、しょっちゅう電話掛かってくるんだけど、なげーんだよ話が。

——ワハハハ! ボヤキングですからね（笑）。

蘊蓄庵 俺が金原を気に入っているのは、素質と行動力なんだよ。パンチが必要と知ればボクシングジムへ通い、キックが必要と知ればタイにムエタイ修行に行く。ま、ヤツは強くなって当然やね。

——で、金原選手の改名も親方のアイディアなんですよね?（現在は本名に戻る）

蘊蓄庵 あれはね、誤解されると嫌なんだけどさ、名前を変えるくらいで強くなったり、運勢が変わったりするわけねぇんだよ。俺はね、「背広着て寝るヤツがいるか? パジャマ着て会社に行くヤツがいるか?」ってことを言いたかったんだよ。

——つまり、リングネームを持って、オンオフを切り替えろということですね。

蘊蓄庵 そういうことよ! だいたい縁起担ぐ時点で自分に負けてるんだよ。しかし、金原ってのはいい選手だよ。だからヴァンダレイ・シウバに負けた時は残念だったな。あの試合は、俺は金原並に、試合後、ボヤいたよ。あの負けは高阪剛がA級戦犯だからな! あのおっちょこちょい野郎があんなタイミングでタオルを投げるからだよ。金原はなんのダメージもなかったんだから。ただ、あの一週間ほど前に靭帯やってたから、パンチ食らった時、同時に膝がカクッと落ちちゃったんだよ。ただ、そんだけ。試合後はシウバは病院直行で、金原は元リングスのトレーナーに、「まだもう一試合できますよ」なんて言われながら、朝方まで酒飲んで元気だったんだから!

——大将、血圧上がりますよ（笑）。でも、親方と親しいUインター勢はいま、みんな大成してるってのは凄いですよね。

蘊蓄庵 嬉しいねえ! みんなハートがいいヤツばっかりだからさ。それはみんな高田の背中を見てきたからだろうな。でもよ、その中でも高田はずば抜けていい男だよ!

——いい男の中のいい男ですね! 今日はどうもありがとうございました!

鮨右衛門 （上）ボクも仕事柄、色々旨いものを食べる機会があるが、マジでこの鮨は大阪一。ただし、メニューなしの料金表なし。すべて親方任せ。「酔って入ってくる客は断固拒否!」「ネタの仕込みより客の仕込み」と豪語する親方は、一見さんにはちょっと怖いかもしれないが、失礼な態度を取らなければ、気さくな方。死ぬまでに一度行っておいた方がええよ（大阪市住吉区長居東3-1-28／06-6696-7129）。下のお店は息子さんが店長を務める「肴魚（さかな）」（大阪市住吉区長居1-3-38／06-6607-3020）。バカうまでした。

5th. GUEST

■蘊蓄庵流石（うんちくあん・りゅうせき）
「鮨右衛門」店長。関西では多くのテレビ番組に出演し、料理人の枠を超えて、コメンテーターとしても活躍中。著書に『針の穴から宇宙が見える』（サンプレス）がある。

タコヤキ日記

11.6 thu 角田信朗さんとご飯会。ボクの他に関西テレビ名物プロデューサーのK氏、Y氏も出席。昔話に花が咲いておりました。

11.14 fri 井上きびだんご君より電話。「おめでとうございます!」「は、ボクがなにか?」。なんでも今日発売の『FRIDAY』で柳沢さんが"デブ太郎"呼ばわりされているとか。そう、名付け親はボク。サイレント・リベンジ完遂。

11.22 sat 噂の高田本を購入。内容はすでに様々な反響を呼んでいるようやけど、それほどでもないよねえ。ただ、高田弟についての記述が曖昧だったことが気になりました。

12.3 wed 読売テレビで『イノキボンバイエ』の記者会見があるということで、こっそり見学へ。出場選手をステファン・レコとレイ・セフォーを間違えたり、猪木さんの失言に大慌てするスタッフを見ていると、「この大会はレジェンド2やな」の思いを強くする。

12.8 sat K-1GP決勝戦をテレビ観戦。終わってから「武蔵の試合、あれどう思う?」という電話や問合せが数件あり。そんなにグレーだったかな、あの試合。

12.11 thu チョロより電話。「佐竹本、読みました?」。ここんところ忙しくて、そういう本が出ていることすら知らんかった。確かに高田本よりは面白かった、いろんな意味で。

原タコヤキ君 ちっちゃい頃の『紙プロ』編集者。前田日明デコピン事件やダミー編集長就任が有名（?）。現在は地元大阪でテレビの制作会社に勤務。尊敬する人物は島耕作。

"歌うシュート活字王"狂気の連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏（ウラ）

第5回

ギガンテスの訃報とエリック家の悲劇

12月6日、前夜の全日本プロレスのシリーズ最終戦だった武道館大会に参戦していたギガンテス（ジェリー・トゥーティ）が急性心不全のため死亡した。成田市内のホテルからいざ空港に向かう時間に現れず、部屋には200センチの巨人が倒れていた。WCWではベルリン（アレックス・ライト）のボディーガード役ウォールとして知られ、『ナイトロ』でハルク・ホーガンと闘ったことがある。今年から全日のマットに初来日すると、RODの一員として期待をかけられていた。36歳での他界である。

そしてプロレスラーの死はほとんど毎週恒例の困ったペースになってきた。日本で名前が知られているだけでホーク・ウォリアー、クラッシュ・ホーリーと立て続けである。ギガンデスの死因をドラッグと決め付けることは避けたいが、当時米国在住だった私はWCW時代のラジオ・インタビューで、本人がヘロインで死にかけた体験を赤裸々に語っていることを覚えている。WWFに買収された時点で二軍契約で残してもらったものの、中毒症で契約破棄された事実も消すことができない。これらは関係者だけが知っている情報ではなく、一般にも公表されていたからだ。

ここでスグに思い浮かべるのは、デビッド・フォン・エリック（当時25歳）の東京のホテルでの死亡事件（84年2月）である。東京に着いた最初の夜に、仲間の選手たちとしこたま酒を飲みまくり、部屋でドラッグをやって帰らぬ人となった。翌朝のツアー初日に集合時間にロビーに降りてこなくて、"ガイジン係"氏が合鍵で部屋に入ると、すでにデビッドは冷たくなっていたという。「慌てた"ガイジン係"氏はバックにあったすべてのドラッグをトイレに流し、警察が来る前に隠ぺい工作をした」と帰国した米国人レスラーによって証言されている。

そこで今回は、日本でまだ放送されていないフォン・エリック家の悲劇を描いたドキュメンタリー映画『色あせた栄光』を参照にマット界とドラッグ問題を考え、ギガンデスの死を追悼したい。

父親のフリッツはジャイアント馬場との抗争でも名をはせた"ドイツのナチ親衛隊"という触れ込みの悪役選手で、"鉄の爪"ことアイアン・クローはヒール殺法の代名詞でもあった。その後、自分の息子たちを中心にしたダラス地区WCCW（World Class Championship Wrestling）のプロモーターとして80年代前半に栄華を極めたが、6歳で感電死した長男のジャッキーを例外としても、現在も生きているのが、次男のケビンだけという、栄光と転落を絵に描いたような悪夢のファミリーなのである。

三男のデビットは84年に日本で客死、四男のケリーは93年に自殺、五男のマイクは87年に自殺、最年少のクリス（当時21歳）も91年に自殺した。

フォン・エリック家の悲劇は、一言で要約するならドラッグということになる。闘うファイターを演じる反面、実人生では気の弱い兄弟たちは薬物におぼれ、すべてがしこたまドラッグをやった状態で、ライフルの引き金を弾いたのだ。しかし、この悲劇は意思の弱い兄弟たちを責めるよりも、悪魔の親父を責めるべきだ。無理もない、四男ケリーはなんと15歳の時に、学校の陸上競技やフットボールでの活躍を熱望した親父が、ステロイドを買ってきてはせっせと息子たちに注射器の針を刺していた張本人だったからである。

ガキの頃から親父にプロレスラーになるように育てられ、親父のせいで全員が薬漬けにされた事実を直視しないで、「エリック家の呪い」など語れるハズがない。最年少のクリスの場合、なんと10代になる前から親にステロイドを打たれ続け、だからその自殺の際の遺書でも、兄弟と母親には「ごめんなさい」と書き残したのに、父親にはひと言も触れなかった事実がある。ちなみに、六男クリスは五男マイクと仲がよく、自殺の仕方や状況もまったく同じだったという。

フリッツのもうひとつの顔は、熱心なクリスチャンであり、毎週日曜日のミサには必ず顔を出していたこと。よって、地元の名士としても尊敬され、そのことで地域コミュニティーから支持されて、プロレス興行を続けられた実績がある。不動産屋としての成功も名士としての地位があったからこそらしい。だから息子たちのドラッグ絡みの不祥事が発覚しても、何度もモミ消しに成功してきた。しかし、その信心深い表の顔は真っ赤な嘘であることが、離婚した元妻やプロレス関係者の証言から裏付けられてもいる。

ブッカー頭でプロレスという大衆感情操作に関わってきた者全員に言えることだが、裏側からショービジネスを見る癖がついている者にとって、激しくジェラシーを感じ、ライバル心を燃やす相手は昔も今も宗教家に他ならない。自分が仕掛けを作る側で成功した経験があれば、宗教もまた巨大なアングルであることに気づくからである。

しかし、両者には違いもある。プロレスの場合、いくら一般客は興奮してくれても、100名に一人は仕込みの裏を見破るファンが必ずいる。現役中の晩年に自分の心臓発作をプロレス上のストーリーにして、それで商売したことでも内部関係者やスマートな大人のファンから激しい嫌悪感と抗議を受けてしまった。ところが宗教の場合は、裏読みなど考えてもいない何百万人という大衆の信者がいる。また、自分のプロレス興行にファンを毎週来場させるのは至難の技であるが、熱心なクリスチャンの多くは必ず毎週教会に通ってくる。悪魔と化したフリッツにとって、アングルの宝庫としての聖書というベストセラーの謎を解明し、いかにして大衆は扇動されるのかを勉強するには、宣教師になることこそが近道だったのだ。

この"悪魔"が、先に述べた三男デビッドの死でさえもアングルにしてしまい、その死を悼む「メモリアル大会」（84年5月6日テキサス・スタジアム、四男ケリーがリック・フレアーを破りNWA世界王者に）で大儲けしたという歴史の事実も消せない。この点でフリッツという怪物は、実人生とアングルがごっちゃになってしまったプロレス・ビジネスの犠牲者であった。

兄弟の中でレスラーとして最も才能があったのが四男ケリーである。地元会場スポータトリアムでの活躍だけでなく、"テキサス・トルネード"のリングネームで東部のWWFでも活躍して、90年にはインターコンチネンタル王者にもなった。「オートバイ事故（86年）でかかとの一部を失い、義足のままで闘い続ける矛盾に耐えられなかった」美談を書くライターがいるが、その切断事故は自殺の7年も前の出来事だ。

実際は税金未納による保護観察期間中に、車からコカインが見つかってしまい、しかも離婚した元妻に謝り「刑務所から出てきた時には迎えに来てくれ！」と頼んだのに、冷たく断わられたことで自殺してしまった。やっぱりドラッグと、意思の弱さが原因である。

この2年間に、一体何人のレスラーが旅立ってしまったことだろうか？ ギガンテスの死をムダにはしたくない。あえて問題提起させていただいた。

先の『最強タッグ』参戦時は、RODの一員として大暴れしたギガンテス（上段・左）。まさか、彼が最終戦翌日に帰らぬ人となるとは……。

ザ・検証

ある日、某道場に取材に行くと聞き覚えのある問答が聞こえてきた。「噛み付きたいのか噛み付きたくないのか、どっちなんだぁ、コラァ!!」「コラァとは、なんだぁコラッ!!」「なにぃ、このぉ立てコラァ!」「なんやコラッ!」「紙面を飾るなって言ってんだコラァ!」。誰かと思って見てみると、なんと破壊王張本人！ しかも一人二役で長州まねも絶品でした!

【今月の検証　せき詩郎】
消臭力の『ストロベリーミント』を買うべきか？

お前は男だ！（高田が鶴本直に）お前は男だ！（高田がガクランを着てる三原順子に）お前は男だ！（高田が「加藤君が好き」と言うひかる一平に）

そんな流行っているらしいが自分にとってはどうでも良い流行語について考えていると、そこに大ニュースが飛び込んできた。

なんと「長州力」シリーズに季節限定商品が誕生したのだ。

大容量の長州剤として人気が高い「長州力」シリーズの3タイプ（トイレ用、お部屋用、スプレー）それぞれに、季節限定で『ストロベリーミント』の香りが加わったらしい。価格はいずれの長州力とも各420円とリーズナブル。

「長州力」シリーズとは、2000年の「トイレの長州力」発売して以来、「お部屋の長州力」、「トイレの長州スプレー」を追加、シリーズ合わせて年間約3千万個も販売するというパワー（ホール）ブランドへと成長した長州剤である。

この「長州力」シリーズ3タイプに季節限定で今回発売となった『ストロベリーミント』は、初摘みストロベリーの甘酸っぱいイチゴの香りとスッキリ感を楽しめるミントの香りがさわやかなハーモニーを奏でるらしい。

あなたの部屋で「植物をイメージした自然の流れを採り入れたフォルムに、パノラマ効果のあるイラストボトルが特徴」の頭にタオルを巻いた長州力が、またはあなたの家のトイレで「天然植物抽出成分でトイレの悪臭をしっかりと消臭し最後の一滴まで効果が持続するリキッドタイプ」の腕をぐるぐると回している長州力が、はたまた「扇状に広がるワイド噴射ノズルのズバットショットを採用」している前傾姿勢でストンピングしてる長州力が、他にも選手が闘っているのにストーブを囲み動かない記者たちが集う控え室や、金網で囲まれたX-1のリングでも、長州力がストロベリーミントのほのかな香りを出してくれるなんて！

今すぐ買いに行かないと！

一方、長州力に良く似た名前の消臭力は、橋本の会見中に突如登場した！ ゼロワン道場を直下型地震が襲う！ 消臭力のマグマは煮えたぎり、今にも噴き出す寸前。「またぐなよ」が口癖の消臭力が自らゼロワンの敷居をまたいだのだ。そして「何がやりたいんだ、コラーッ」と叫ぶ。髪型はパーマでツーブロック。携帯ストラップにはおなじみ『消臭』の文字。それだけでも何がやりたいのかわからないのに、開口一番いきなり「何がやりたいんだ、コラーッ！」なんてさすが消臭力としか言いようがない。

そして12月14日、両国国技館で消臭力は橋本と闘った。一騎打ちではなく、正確にはゼロワン軍vs消臭軍であったが、最終的にレフェリーストップで橋本が消臭力を下した。こうして何年か越しの遺恨に決着をつけたのだが、消臭力が全治4週間の怪我だったということもあり、不完全燃焼な試合であった……。

などと、相変わらず懲りずに、しかもわざと、そして長々と「長州力」と「消臭力」を間違えてみたのだが、今回書きたかったのはそんなことではなく、越中vs三沢についてだった。しかし、これがまた越中絡みの試合でワースト100に軽く入るんじゃないかというくらいの試合だったために書く気がしない。力皇の張り手に沈んだ永田に試合以外の部分でも食われてしまった。これからの越中の動きに期待したいものだ。しかし一人ノアで頑張ってきた彰俊の心中が複雑じゃないかとも思う。部活を引退した先輩がいまだ練習に来るようなものだ。何かと動きづらくもあるだろう。でも越中も気になる。いやでも彰俊が……。

そうやって真剣に考えている自分もどうかと思うし、おまけにもう原稿を入れないと間に合わないらしくさすがに焦りつつ、越中vs三沢以外で最近他に見た試合はと思い出すと、11月24日の新日後楽園ホールくらいしかない。ならばそれについて書こうかと思うも、思い出と言えば邪道とヒートが場外乱闘でそばまで来た時、ちびっ子たちと一緒にはしゃぎながら体を触ってみたことくらいなのだ。だが良く考えると自分と同じくらいの歳の男性を触ってはしゃぐべきなのか？ という疑問がわいたりもした。仕方がないので大晦日の格闘技戦争について考えようとするも、見たいカードはフミヤvsカモクくらいだったりするので今のところは興味がない。かといって紅白には健悟がでない……。

そういうわけで今回の検証は、消臭力の『ストロベリーミント』を買うべきかどうかというどうでもいいことをテーマにして、甘酸っぱいイチゴの香りとスッキリ感を楽しみたい人は買うべきという結論で終わりにします。

なんと、あの長州力がG-1へ登場！　と言っても、もちろん新日本のG-1ではなく長州が登場したのは競馬のG-1ジャパンカップ。しかし、府中競馬場のド真ん中で予定されていたトークショーは雨のため屋外へ

【今月の検証　椎名基樹】

力皇選手の目の魅力

大晦日、未曾有の総合格闘技興行戦争に話題沸騰の日本列島である。プロレス好きが仕事関係、友人関係に知れ渡っているので、どこに行っても「大晦日、どれか行くの？」と訊かれてしまい、恥ずかしい限りである。テレビを見ていたら、とんねるずの憲武もギャグで「大晦日、どれ観る？」などと言っていて、なんだかすごいことだと思ったりする。しかし、誰がどこに出るだーなんだー、直前までカードも見えない、最初に祭りありきの陣地取りばかりが目に付くと、メジャーリーグのストライキでファンが白けてしまうような、そんな心境でございマンモス。

そんな中、あまりプロレス・格闘技とも観ていないので、ネタに困るワケだが、ここ1ヶ月中、目をひいた話題といえば、「菊田vs近藤」。試合を観る前に「近藤勝利」の結果を聞いた時は「マジ！」と思わず声が出た。前回の対決の評として「教室のケンカだったら、近藤の勝ち」と書いたが、今回はキッチリ、KO勝ち。『週刊プレイボーイ』に掲載されていた両者のインタビューでは、菊田選手は「近藤選手の弱点見つけたり」みたいなコメントをしていたが、逆に打撃が菊田選手の弱点だったような……。しかし、菊田選手の意識を飛ばされたというよりか、心が折れたといった感じの倒れ方を見て、改めて、総合のオープンフィンガーグローブの薄さを実感。

自前で「菊田vs近藤」のような、因縁の好カードが組めることは、やはり強みだ。だがしかし、たった一人で、こういう好カードのインパクトを吹き飛ばしてしまうほどの、さらなるインパクトを観ている者に与えてしまったのが、この日10周年記念大会の挨拶のため、リングに立った船木顧問。リングアナから「エグゼクティブ・プロデューサー」と紹介されると「あの、すみません。俺、エグゼクティブ・プロデューサーじゃないですけど。顧問です。間違わないでください」とわざわざリングアナの方向を向いて、静かだが真顔で抗議する、船木顧問。困惑の苦笑いが漏れる会場。そんなことはお構いなしに「10周年を迎えて、自分一つ思っていることがあるんですが、正直言ってismどーしようもないッスね」とぶつぶつと独り言のように語り始める。そして、元々、鈴木みのるが発案し命名したパンクラスismじゃやってられんともとれる発言をして、「ですから、来年から自分正直言って、ism解散して欲しいです」ときたもんだ。10周年の晴れの舞台の挨拶で、何も会場をダークにさせなくとも、しかも正装もせずパーカー姿で、やっぱ船木はサイコ、否、最高だな、と思ってよくみれば、純白の船木のパーカーの胸には「MADANESS」の文字。参りました。

あと余談ですが、パンクラス関連で、この間、神宮で草野球をしたら、相手チームの応援に、郷野選手がいらしゃってました。なぜ？　乱闘要員？

12月14日の修斗の大会はテレビで観た。なにより宇野薫が登場してビックリ。

最近、元気がないといわれる修斗。この日のNKホールもテレビで観てもわかるほどガラガラだったが、そこに上がる、宇野選手のチョイスは「なるほど～」と新鮮さがあった。軽量級の宇野選手が、上がるリングは最初から限られているが、修斗を選んだのは、ナイスチョイスと感じた。修斗は総合格闘技界の最左翼である。最右翼たちの大晦日のアサマシぶりに、ゲンナリしているところだったので、よりナイスセンスと感じる。宇野選手とあと田村選手は、いつも身の振り方がうまいなあと思う。宇野選手が闘う修斗ウェルター級には、この日、シャオリンという魅力的なチャンピオンが誕生したワケだし。しかし、修斗はNKホールはやめて欲しい。NKホールは「遠いわ、観にくいわ」である。あの入りだったら、ホールで充分なのでは？

それにしても、菊田選手もそうだが、シャオリンといい、寝技の達人はみな「肩固め」が得意だ。と、いうか「三角絞め」「肩固め」と「三角系」の技がうまい。いや、それがうまいのが、達人といえほどだ。しかし、三角系の「形」や「理屈」はわかっていても、極めることはできない。うまい人は感覚としてわかっているってことだが、そういうのっていつも「不思議だなあ」と思う。足関もそういうところがあるだろうが、人によって「得意技」というのが存在し、それには理由がない。マッサージがやたらうまかったり、SEXの時、愛撫がやたらうまかったり、加藤鷹のように潮を吹かしたり、そんな感じだろうか？　サブミッションのポイント、それを感じる感覚、とにかく、不思議である。

肩固めといえば、偶然テレビ神奈川の放送で、小橋・本田組vs永田・棚橋組のGHC（マッカーサー元帥？）タッグ王者戦を観た。試合は「肉弾相打つ」って感じでなかなか面白かったのだが、本田多聞選手の得意技が肩固めなんで、驚いた。しかも、スタンドの！　達人の技を、しかも極まりっこないスタンドで、と、いうかそれは肩固めではないよ。いちいちどーでもいいっていえば、それもそうだが、あれだけ肉弾相打って身を削ったのに「それでいいのか、もったいねえ！」と感じた。多聞は好きなんだけど。

最後に、話題の高田本、やっとの思いで読んだ。衝撃の暴露話がいつ出るか、いつ出るかと思いながら、小説じみた文章と、どーでもいい比喩をガマンしながら読み切ったが、ついに胸がすくような暴露話は出てこずじまい。勘弁してよ、もう。その中で一番衝撃だったのは「高田が参議院と衆議院の区別もつかないで立候補したこと」と「藤原が新生UFWに参加した理由はいまだに謎だ」という件。新生Uの解散は、自分の中で最大の謎なのだが、そりゃ謎になるのも当たり前だ。

に、しても、しかし、高田が「Uインターで闘っていれば、いつかまたバービック戦のような緊張感が味わえるものだと信じていた。信じていたからこそ、やりたくもないフロント業務にも携わってきた。団体がつぶれてしまうことは、そのままリアル・ファイトの場が失われることを意味したからである。しかし、自分をすり減らしてまで支えてきたにもかかわらず、リアル・ファイトは一向に実現しなかった。今度こそ、と期待した（リアル・ファイトでの？）前田との戦いも、最終的には流れてしまった」と、思っていたとは、露ほどにも滴ほどにも飛沫ほどにも、気が付かなかったね。

大晦日格闘技狂騒曲

まさに一寸先はハプニング!

© ibiz cube

食うか食われるか？ 柔道か柔術か？ 運命の時、迫る!!

Q01

11月9日のヴァンダレイ・シウバ戦後、日増しに悔しさが倍増しているとホームページの日記で書かれていましたが、シウバとは、もう一度闘ってみたいですか？　また、今度やったら勝つ自信はありますか？

A 機会があればまた挑戦したいです。

Q02

『PRIDEミドル級GP』でのシウバ戦の判定は納得がいかないとの声がかなり出ていますが、あらためて試合を振り返ってみて吉田選手は判定に納得はしていますか？

A ジャッジに対しては不満はないです。精一杯やった結果なので……。

Q03

シウバ戦では、上唇を5針縫ったとのことですが、これまでの人生で、あれほど殴られたことはありましたか？

A 小学校以来ですね（笑）。

Q04

ホイス戦の決定前、一部マスコミで「吉田vs桜庭戦実現か？」と報道されていましたが、将来的に桜庭選手と闘ってみたいという気持ちはありますか？

A 10月末ぐらいに一緒に練習したのですが、強かったので

吉田秀彦

FAX INTERVIEW

大晦日格闘技興行戦争のあおりを受けてか、3大会ともカード発表は遅れに遅れている。さすがに本誌の発売日までには、カードもあらかた出揃っているはずだ。そんな中で、『PRIDE男祭り』で真っ先に発表されたのが、昨年、『Dynamite!』で実現した吉田vsホイスの再戦だった。「ホイスとならやってもいい」と、度々口にしていた吉田は今度こそ完全決着を付けられるか？　今回はFAXインタビューをどうぞ！　ゲッツ!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／平工幸雄　designed by hisa（Two Three）

「落ちた落ちた」騒動から1年半！
12・31、因縁のホイス戦へ出陣!!

したのですが強かったので闘いたくないです。

Q 05

当初、今年は怪我を完治させるために大晦日に試合する気はなかったのが、ホイス・グレイシー戦とのオファーと聞き闘争本能に火がついて出場を決めたとのことですが、ホイス戦との再戦を決めた一番の理由はなんですか？

A

前回の試合が後味の悪い形になってしまったので、完全決着を付けるために出場を決めました。

Q 06

ここ最近の田村戦、シウバ戦と試合の度に打撃力がアップしている吉田選手ですが、ホイス戦はズバリ打撃でのKOも狙っていきますか？ それとも寝技で完璧にタップさせたいと思っていますか？

A

勝負は寝技になるでしょうね。僕のラッキーパンチで倒せればいいですが……。

Q 07

ホイス戦は、いかなる場合もレフェリーは止めてはいけないという壮絶なルールになるとの噂ですが、正直そのルールに対して恐怖心はありませんか？

A

相手の要望通りのルールで受けたいと思っています。ただ、どんな試合でも恐怖心はありますね。

Q 08

正式発表はされていませんが、今回のホイス戦は1R10分の無制限ラウンドの可能性が高いとのことですが、試合時間は、どれぐらいになると予想していますか？

A

お互い道衣を着ることになると思いますので極めづらく長い試合になると思います。

Q 09

もし、今回のホイス戦で勝利を収めたら、得意の『ゲッツ』ポーズは披露するつもりですか？ それとも何か新ネタを考えているのでしょうか？

A

あれも自然と出てしまったので……。その時にならないとわからないです。

11・9『PRIDE・GP』でヴァンダレイ・シウバと当日のベストバウトと言われる試合を繰り広げた吉田。本人は再戦に関して「機会があれば挑戦したい」と控え目に答えているが、来年中にでも再戦してもらいたい

Q 10

ホイス戦の決定前、猪木さんから「吉田選手も『猪木祭り』に出るかもしれない」との発言がありましたが、吉田さん自身は、どんなに高額のファイトマネーを提示されてもホイス戦以外のオファーは受けるつもりはなかったのでしょうか？

A

今年はもう試合がないと思っていたのですが、ホイスと聞いて出場を決めました。ホイスじゃなかったら出なかったと思います。

Q 11

先日、『ハッスル1』の記者会見で榊原代表と小川直也選手の間で、いざこざがあったのですが、その件はご存知でしょうか？　もし、ご存知なら、その話を聞いてどう思われましたか？

A

お話は聞きましたが、新聞とかあまり読まないので詳しいことはわかりません。

Q 12

過去にFMWのリングに登場したこともある吉田選手ですが、1月4日にDSE主催で開催される『ハッスル1』には興味はありますか？　また、将来的に出場の可能性はありますか？

A

『ハッスル1』というのが、どのような大会なのか詳しく分からないので答えようがないです。

12月1日に都内ホテルで『PRIDE・SP男祭り2003』の会見が行われ、吉田秀彦vsホイス・グレイシーの対戦が決定した。吉田は「自分でも未消化の試合だったので、決着をつけたい」と意気込みを語った。今度こそ完全決着となるか？

Q 13

吉田選手が出場する『PRIDE男祭り』以外にも大晦日はビッグマッチが行われますが、『Dynamite!!』や『猪木祭り』といった他の大会は意識しますか？

A

自分のことで精一杯なので、他の大会のことを考えている余裕がないです。

Q 14

お酒も相当強いという噂の吉田選手ですが、最近お気に入りのアルコール飲料があれば教えてください。

A

『サッポロ ドラフト・ワン』は凄くおすすめです。本当に飲みやすく、値段も安い。来年2月4日から全国発売です。

吉田の初のCM出演となった『サッポロ　ドラフトワン』。9月より、九州4県で先行発売されていた、この商品は来年の2月4日から、いよいよ全国発売！　イベントに出演し乾杯の音頭も

Q 15

横浜に新設した青葉台柔道クラブの一番のウリはなんですか？

A

環境が素晴らしく良い。是非、いらしてください！

Q 16

来年は吉田選手が出場している『PRIDE』とUFCの対抗戦の話も持ち上がっていますが、吉田選手はオクタゴンと言われる金網の中での闘いには興味はありますか？

A

今の所、ピンとこないです。

吉田秀彦 FAX INTERVIEW

Q21
まだ大晦日にホイス戦を控えていますが、2003年は吉田選手にとってどのような一年でしたか?

A
いいこともあれば、悪いこともありました。

Q22
格闘家に限らず、吉田選手が「男の中の男」だと思う人は誰ですかまた、その理由を教えてください。

A
何ごとも、おそれず、前に進む人が男の中の男だと思います。

Q23
吉田選手はホームページでの日記で、いつも最後に「蛇」と書いていますが、何か理由はあるのでしょうか?

A
特に意味はないですよ(笑)。未来(HIDEKI※J ROCK所属アーティスト)のまねです。

Q20
最後に、あらためてホイス戦への意気込みを直筆でお願いします!

A
完全決着
吉田秀彦

吉田道場、横浜・青葉台にオープン!
&第4回『VIVA JUDO!』開催!!

吉田秀彦のライフワーク『VIVA JUDO!』が1月25日に吉田道場青葉台柔道クラブで開催決定!!

【日時】平成15年1月25日(日)13:00〜15:00
※12:00から受付開始。
【対象者】小学1年生〜6年生の柔道初心者(男女不問)
※事前に申込みが必要。
【定員】約50〜70名
【参加費】無料(柔道着も無料で貸し出し)
【場所】神奈川県横浜市青葉区つつじが丘1-12ベル青葉台1F
吉田道場　青葉台柔道クラブ
【参加申し込み】株式会社ジェイロック
TEL.03-3414-9000　FAX.03-3414-4455
HP:http://www.j-rock.ne.jp/pc/
[担当/宮本、宇留野]

吉田秀彦が梅ヶ丘の道場に続き横浜市青葉台に柔道場をオープン!
敷地はなんと55畳。他にもトレーニング施設等完備。
神奈川県横浜市青葉区つつじヶ丘1-12-1F
[入門受付先]03-3414-9000(株)J-ROCK

ZERO-ONE Jr.二冠王が『PRIDE』出陣!!

12・31『PRIDE男祭り』で
ハイアン・グレイシーと激突!!

――昨年12月に天下一Jr.王座を獲った時の願い事は「ベルトを統一したい」ということでしたけど、それから1年、会場も同じ両国で見事体に2本はいらない」ということでしたけど、それから1年、会場も同じ両国で見事願いが叶って、現在は二冠王ですよね。正確には統一は出来てないですけど（笑）。

坂田　えっ、統一じゃないの？

――いや、1本にはまとめてないので。

坂田　ああ、そういうことか。でも、その方がいいや。多いにこしたことはないからな。でも、もう1本ぐらい欲しいな。その方がカッコいいやろ？

――まあ、そうですね（笑）。

坂田　でも、あまりベルトにはこだわってないよ。ただ、持ってるうちは役目を果たさないといけないし。まあ、常勝チャンピオンなんてありえないか

ら、いろんな意味で来年は、どう転ぶか分からないからな。総合にしろ何にしろ。来年は今年以上に忙しくなると思うし、また流れもドンドン早くなっていくだろうし。

――この間の両国で黒田選手に勝ってベルトを防衛して、それでZERO-ONEの年内のスケジュールが終わったと思ったら、その後、アッと驚く『男祭り』参戦が発表されたわけですけど。って言うか破壊王のフライングで、その前にバレちゃったんですよね（笑）。

坂田　あれはビックリしたよ～（笑）。

――ホントに予定外だったんですか？

坂田　試合終わってからリング上でボソボソ言い出すから、「言ってくれ言ってくれ」って。「何をですか？」って聞いたら、「大晦日の」って。メチャメチャ小声で（笑）。

――素人考えでは、ベルト防衛してZERO-ONEのリングで発表するっていうのがベストだったと思うんですけど。

坂田　オレ的にもそうだと思うよ。でも、あの人は予測不能だから（笑）。

――まあ、そうですね（笑）。ボクは、その現場は見れなかったんですけど、聞いたところによると最初に橋本さんが「坂田から重大発表がある」って言うから、坂田さんが「『PRIDE』に出る」と発表したら、破壊王から「何や、結婚やないんか」って言われたんですよね？（笑）

坂田　そう。自分から言っといてな（笑）。

――で、正式に発表されたカードがハイアン・グレイシー戦ということで。ちょうど1年前ぐらい前のインタビューでは、「総合をやるんだったらテーマがある試合」ということだったんですが、結局、この1年間は総合の試合はなかったですよね。テーマがなかったのかオファーがなかったのかわかりませんけど（笑）。

坂田　いや、どっちもなかった（笑）。

――えっ!?　オファーもなかった？

坂田　なくはないけど、漠然とした話されても何も見えてこないからね。そういう話じゃ、こっちがオファーとは受け取れない。そういう意味では、今回はキッキツのスケジュールだけど、いいタイミングなのかなって思うよね。

――ホントにキッキツですよね。ZERO-ONEがあって、U-STYLEがあって、この間はタイトルマッチですからね。でも、ハイアン戦っていうのは自分の中ではテーマを見出せたんですか？

坂田　俺のインスピレーションが感じ取ったんだよ。言葉にするのは難しいけど。実際どう？　他の相手よりは面白そうだなって思うだろ？

――テーマが分かりやすいですよね。〝日本vsグレイシー〟というか、〝喧嘩っ早そうな者同士〟というか（笑）。

坂田　何て言うのかな、長ったらしいテー

「栄子に言われたよ。スケジュール、キツい中で出場を決めて、“お前は男だ!!”って（笑）」

坂田亘

EVOLUTION

聞き手／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by hisa(Two Three)

マとかそういうのはいらないんだよね。説得力があればいいんだよ、別に。
——現在、年末の興行戦争がグチャグチャの状態の中で、坂田さんは「2つからオファーがあった」と発言されてましたけど。
坂田　まあ、どこからオファーがあったとしても、最終的にどこで判断するかっていったら、実績で判断するのが一番でしょ。そういう意味で、最近の『PRIDE』の試合とかイベント力とか見てるとハズレがないじゃない？　そういう方が、やる側もモチベーションが上がるし。
——逆にプレッシャーにもなりますよね。ハズした試合もできないし。
坂田　そうそう。●●みたいな試合はできないしね（笑）。
——そんなこと言っていいんですか？

12・14、ZERO-ONE両国大会のvs黒田哲広戦。微妙な3カウントにブーイングを受けた両者が再試合。しかし、わずか7秒で坂田勝利!!　坂田はマイクを持って「いろいろ意見はあるでしょうが、これもプロレスです!!」

坂田　いいよ、別に（笑）。一生懸命やってると思うし、●●だけが悪い訳じゃないからさ。相手あってのことだから。ただ、『PRIDE』みたいにイベント力があるっていうのは逆に怖いよね。会場の雰囲気に飲まれるというかさ。爆発した時はモノ凄いけど、シケたときは大シケになるから。そういう意味では、選手だけをああだこうだ言うのはおかしいよ。
——ただ、噂によると『猪木祭り』は『PRIDE』の2倍3倍のギャラらしいじゃないですか。プロとしては、ギャラで動くっていうのもおかしくはないですよね。
坂田　もちろんお金は大事だよ。ただ、お金と同じぐらい大事な物もあるしな。どこの大会かは言えないけど、某団体の代表者的な立場の人とも話したけど、実績だとかイベント力を見たら、『PRIDE』が一番だろうなって認めてたから。
——坂田さんとしては、対グレイシーっていうのは、それほどないんですか？
坂田　そういうこだわりはもうないな。ヘンゾ（・グレイシー）で懲りた（笑）。
——アハハハハ！　リングス時代のヘンゾ戦は秒殺でしたからね（笑）。
坂田　大きなお世話だよ！（笑）。まあ、あんまりそういうものにこだわると、見えないものに向かって行くみたいで、気負い過ぎちゃうからな。
——今回はグレイシーって意識はないと？
坂田　ない。グレイシーっていったら、やっぱヒクソンかホイスだよ。そういう感覚。

横井にスパーリング付き合ってもらったけど……強いな、アイツ（笑）

——前のヘンゾ戦では、試合後に坂田さんが握手しなかったことで、ヘンゾが「日本人は礼儀正しい人が多いと思ってたのに」と言って激怒してましたよね（笑）。
坂田　まあ、勝ったんだから、好きに言わせておけばいいんじゃないの。
——ヘンゾとは、もう1回闘いたいっていうのはないんですか？
坂田　もうないな。技術はモノ凄いと思うよ。でもグレイシーグレイシーって言っても、あの兄弟だけじゃん、バンバン試合してんのって。勝敗を抜きにしても、凄いと思うよ。寝技のスピード感とか、一本獲りにいく姿勢とかは。
——ハイアンの試合はいろいろ観てると思うんですけど、イメージはどうですか？
坂田　いま、手元にビデオがあるのは浜中（和宏）との試合だけだからね。あの試合は、ほとんど動いてないから、どうしようかなって。（ケンドー・）カシンにセコンド付いてもらおうかな（笑）。
——一時、和解ですか（笑）。ハイアンは、狂犬的なイメージが強いですけど、テクニックの方は、どう見てますか？
坂田　絶対に弱くはないだろうね。俺の印象では爆発力があるなって思うよ。石沢さんも簡単にタックル取られてるように見えたけど、あの人だってレスリングの実績凄いからね。あれが初の総合の試合だったということを抜いても、あそこまで完璧に石沢さんを宙に浮かしてタックル取っちゃうのは、モノ凄い爆発力だと思うよ。だから全然油断してないし。
——この間、田村さんに聞いたんですけど、『PRIDE』もU・STYLEも練習内容は一緒らしいですよね。
坂田　俺も全然一緒だよ。リングスで昔からやってることと変わりない。ウェイト

02年8月8日、東京ドームで行われた伝説の『LEGEND』ではマリオ・スペーヒーと対戦。坂田はブラジリアン・トップチームの首領相手に極めを許さず、判定まで持ち込んでみせた。どうなるハイアン戦？

99年12月22日、グレイシー幻想最絶頂期にリングスKOKトーナメント1回戦でヘンゾ・グレイシーと対戦。1R1分22秒、腕ひしぎ逆十字固めで敗れた坂田は試合後の握手を拒否、ヘンゾを激怒させている

やってスパーリングやるだけ。
——田村さんは『PRIDE』とU-STYLEが基本ですけど、坂田さんは、それに加えてZERO-ONEという純プロレスのリングもあるわけじゃないですか。
坂田　ぶちゃけ、俺、ホームがZERO-ONEだと思ってるからなぁ。
——その3つのリングがある中で、試合に臨む心構えっていうのは、やっぱり違う部分はありますよね？
坂田　いやいや、そんなことないよ。プロレスだって、そんなに甘いもんじゃないからさ。俺なんか、この前の両国はメチャクチャ緊張してたし。凄いプレッシャーだよ。ベルト2本持ってるとか、試合順どうのこうのっていうのは抜きにして、ホントに緊張した。どっかで、そういう緊張感がなくなったら終わりなんだろうな、とも思うし。
——練習に関しては、久々の総合の試合ということで、総合のファンの間からは、「総合の練習をちゃんとやってんの？」っていう声もあることはあるんですけど。
坂田　髙阪（剛）のジムなんか、いろんな人間が集まってるみたいだから、確かに勉強にもなるし練習にもなると思うよ。俺だって、行く気があれば行ってるよ。
——ってことは、行く気がないと？
坂田　そう（笑）。行く気がないから行かない。必要ないとかじゃなく、行く気がない。そんな心配される必要もない。大きなお世話！　俺は俺だから。
——結果を見ろと？
坂田　そう。結果を見てさ、足りないところは取り入れていくし。やる前からグチグチ言われたくない。そういうことだよ。ただ、今回の試合が決まってからは、横井（宏考）とかに軽くスパーリング付き合ってもらったりしてるんだけど……強いな、アイツ（笑）。
——そんな、今頃気づいたんですか（笑）。
坂田　ホント、強いよ。まあ、身体の厚みが違うけど、バランスもいいしさ。顔はカッコ悪いけどな（笑）。
——大晦日といえば、坂田さんの兄貴分の田村さんも出場の可能性があるみたいですけど、数少ない格闘家関係の友人の一人としては、同じ日に『PRIDE』のリングに上がるとしたら、やっぱり何かしら意識しますか？
坂田　そうだなぁ。そうなったら何か考えると思うけど、いまは分かんない。
——田村さんの場合は、毎回直前まで決まらないですからね（笑）。
坂田　兄貴は優柔不断なんだよ（笑）。
——それから、『PRIDE』参戦となると、みんな聞きたがってることは、やっぱり小池栄子さんとのことだと思うんですが。解説席の小池さんは意識しますか？　どうせ「全く意識はしない」って答えると思いますけど（笑）。
坂田　じゃあ、する！（笑）。
——アハハハ！　正直、カッコ悪いところは見せられないというのは、男として当然ありますよね？
坂田　それはあるし、そういう興味を持って観るヤツもいるだろうから。負けたらほとぼりが冷めるまで街を歩けないってくらいの気持ちでやるよ。それぐらいしか言いようがないな。
——いい意味でのプレッシャーにすると。
坂田　そうそう。なるべく悪く考えない。
——ちなみに、ハイアン戦が決まったと報告したときの小池さんの反応は？
坂田　「お前は男だ！」って（笑）。
——アハハハハ！
坂田　まあ、俺のスケジュールがいっぱいいっぱいだってことは知ってるし、俺の身体のどこが悪いとかも知ってるから、心配してる部分もあるんでしょ。そういう意味では、兄貴はU-STYLEぐらいしか試合がないんだからさ。どことは言わないけど大晦日は出て欲しいよね。
——それは同感です。さすがに発売日ぐらいには結果は出てると思うんですけどね。そういえば、両国大会後は『PRIDEでは必ず勝つ！』って言ってましたけど、あれはカメラが回ってたからですか？
坂田　いやいや、そう思ってるよ。やるからには勝つよ。負けにいくヤツなんかいるかい！　勝つことが大前提！

やるからには勝つよ！ 負けにいくヤツなんかいるかい!!

——最後に、大晦日の後、年が明けると、いろんな意味で話題の『ハッスル1』が1・4に開催されます。普通に考えたらZERO-ONEのジュニア王者の坂田さんにも声が掛かるような気がするんですけど、興味はありますか？
坂田　興味はあるよ。ただ、イメージとして、『WRESTLE-1』だっけ？　アレのイメージが強すぎるのが良くないだろうな、ファンの人たちには。
——ただ『ハッスル1』っていう大会名は、小川さんも「ふざけた名前付けやがって」って言ってましたけどね（笑）。
坂田　まあ、問題は中身でしょ。中身をやるのはレスラーだからさ。
——『男祭り』のように、ビビッて来るようなインスピレーションがあれば、出場するつもりはあると？
坂田　う〜ん、でも『男祭り』の結果いかんでは、病院から新年迎えるなんてこともあり得るかもしれないからさ（笑）。
——負けることは考えなくても、勝ってもそういう可能性がありますからね。
坂田　何があるか分からないからね。そんなことより、まずは大晦日、ハイアン相手にハッスルしようかな（笑）。
——とりあえずは大晦日、期待してますんで、頑張って下さい！
坂田　おぅ！　オッケリング！
——はあ？　オッケリング？　そんな締めでいいんですか？（笑）
坂田　そう。オッケリング！（笑）。

【12月15日／銀座『ZETTON』にて収録】

今回の取材は坂田もたまに訪れるという、銀座の歌舞伎座の近くのお洒落なお店で行った。料理も飲み物もうまいぞ！　［取材協力］『ginza zetton』東京都中央区銀座5-14-15 ギンザ・ゼットンビル　営業時間：月～土/17:00-3:00　日・祝/17:00-23:30　TEL. 03-5148-3600

ぴあの本

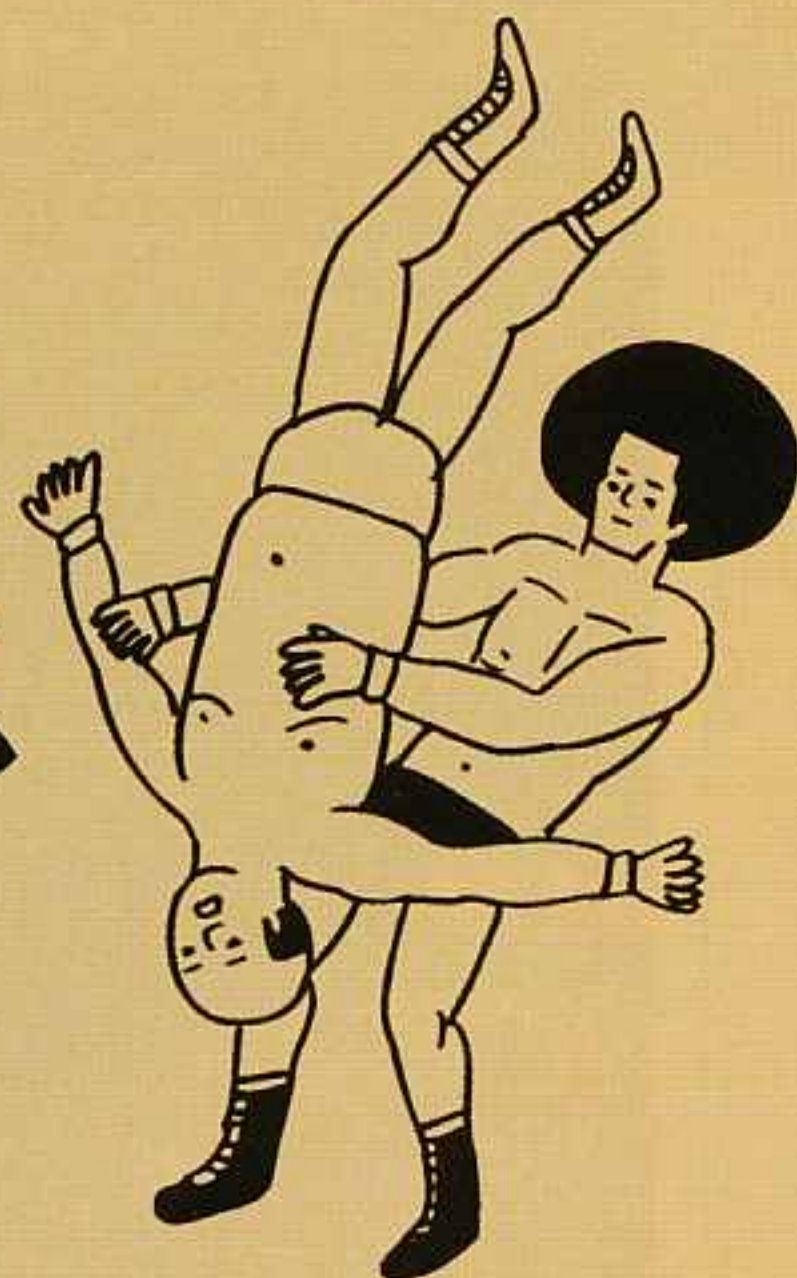
紙でプロレス ソリチュード

山口日昇×柳沢忠之

闘いとは「孤独＝ソリチュード」である。

なーんちゃって

by 山口日昇

紙でプロレス
ソリチュード

柳沢忠之
山口日昇

オマエらが語るな！

ボブ・サップ／橋本真也／エリマキトカゲ／K-1
アントニオ猪木／PRIDE／ZERO-ONE
小川直也／桜庭和志／WWE／ピーター・アーツ
エメリヤーエンコ・ヒョードル／バーリ・トゥード
吉田秀彦／アーネスト・ホースト／高田延彦
アントニオ・ホドリコ・ノゲイラ／折り鶴兄弟
ジャイアント馬場／力道山／グレイシー一族
ヴァンダレイ・シウバ／田村潔司
マンモス鈴木／ジェロム・レバンナ
梶原一騎／フセインとブッシュと
金正日／大谷晋二郎／藤原喜明
マイク・タイソン／タイガーマスク／前田日明
ヴォルク・ハン／TAKAみちのく／小笠原和彦
モンスターマン／コマンド・サンボ／TAJIRI
カール・ミルテンバーガー／ウーパー・ルーパー
フルコンタクト／ショー・フナキ／金村キンタロー
アンドレイ・コピィロフ／小林邦昭／冬木弘道
武藤敬司／SWS／新日本プロレス／ガチンコ

ぴあ

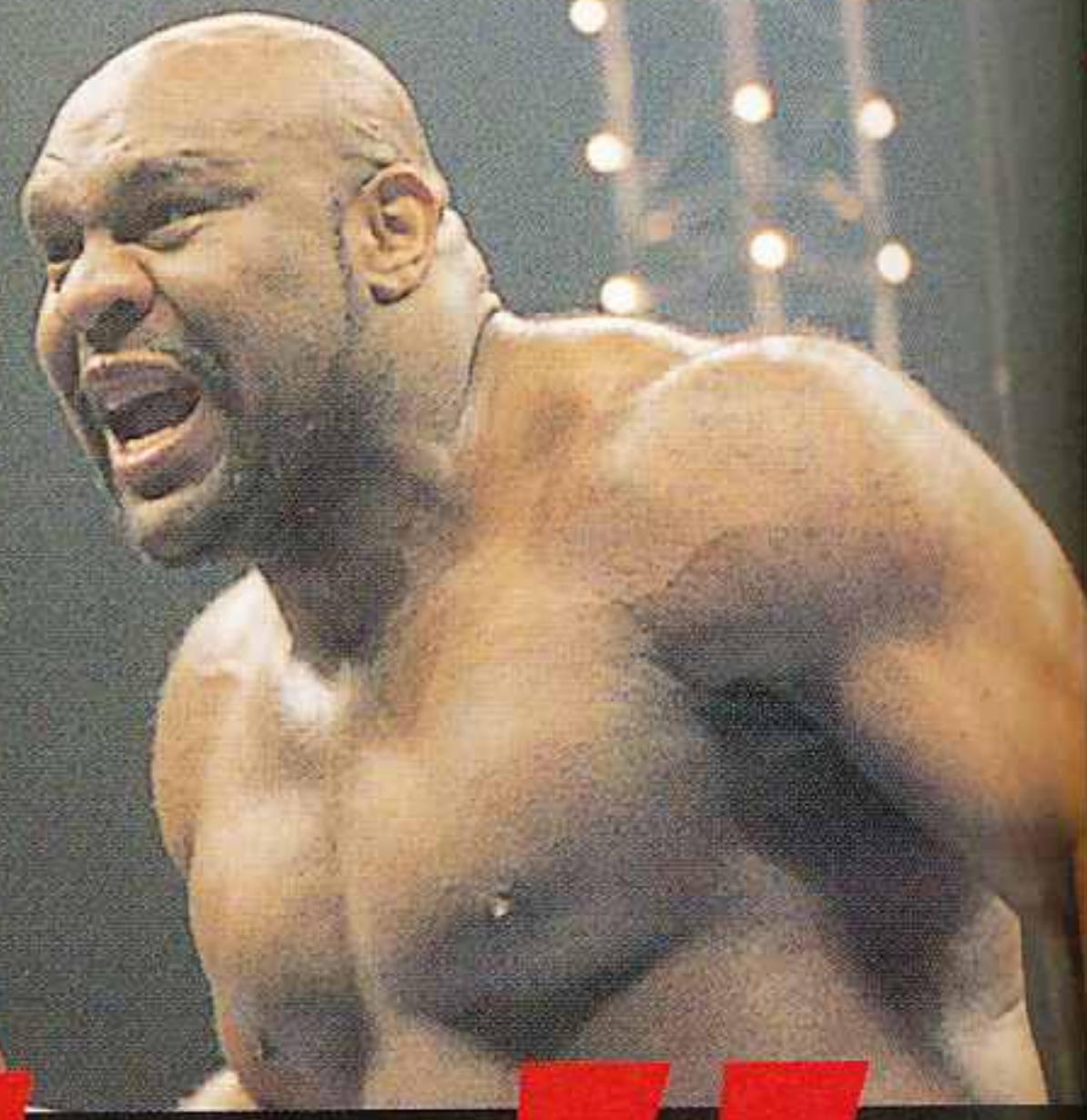
オマエらだけには語って欲しくはなかった！

編集長・山口日昇が、盟友？柳沢忠之とプロレスと格闘技について、力をヌキにヌキまくっての語り合い！　破壊王、ボブ・サップ、K−1、猪木から、あげくの果てにはフセイン、金正日、ブッシュまでをも取り上げ、縦横無尽、支離滅裂のトークを大展開。読後感なし、徒労感あり……いやぁー、まったくもって、ガハハハハでダハハハハな対談集である。

定価1,600円（税別）
四六判

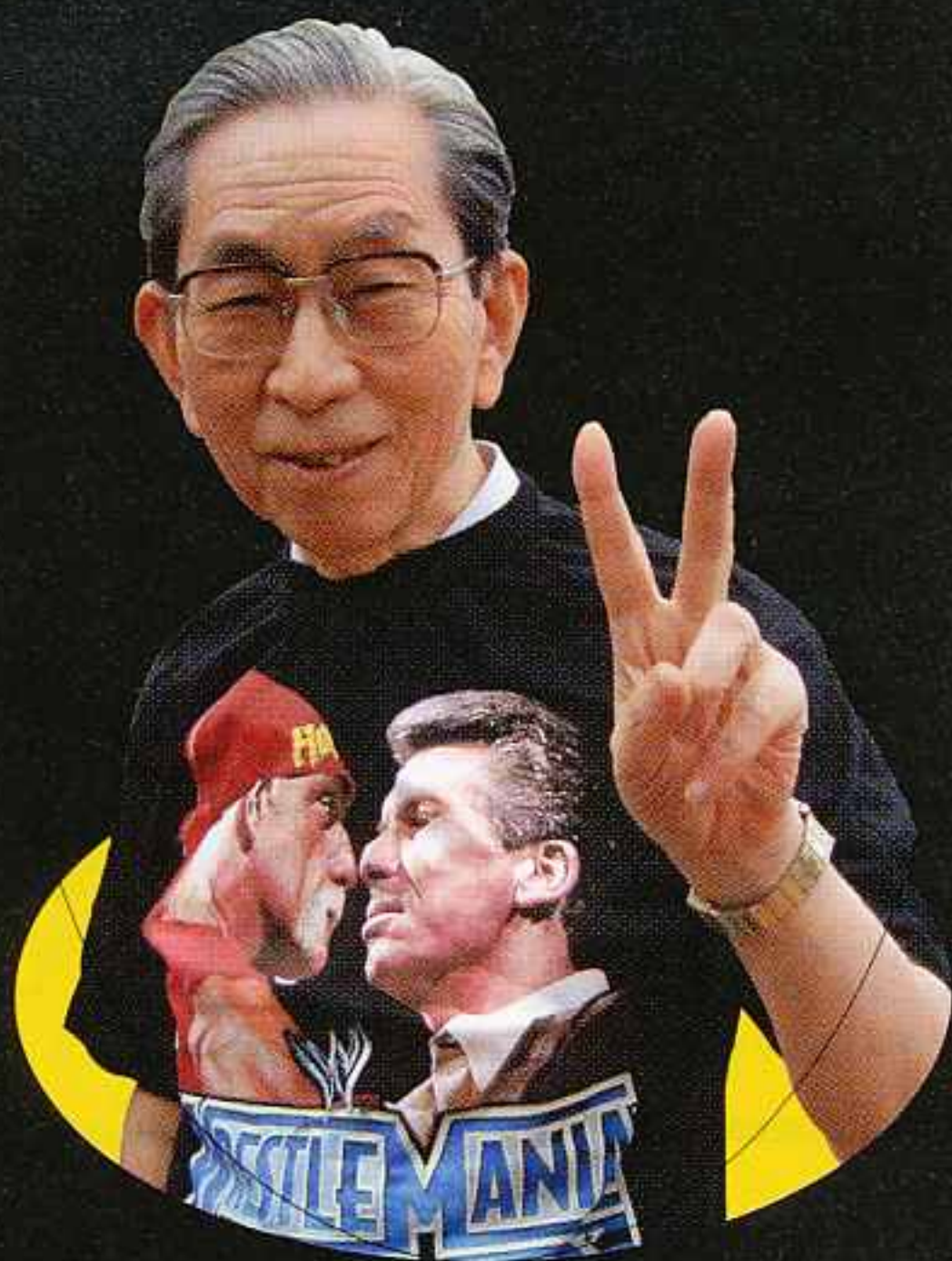
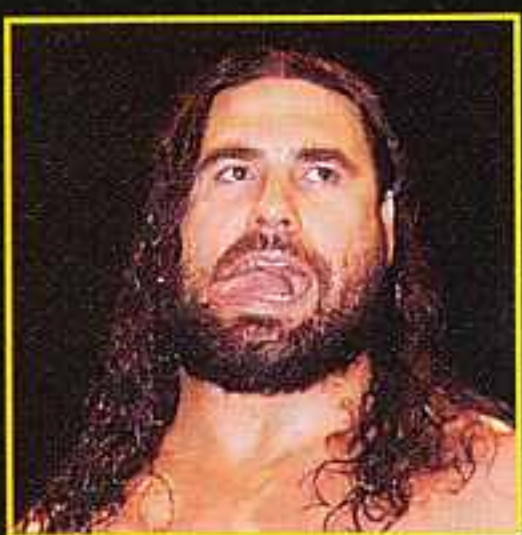
堂々の320ページ。絶賛発売中!!

［問い合わせ先］ぴあ販売部 TEL.03-3265-1424

K-1

Dynamite!!

名古屋決戦のキーワードはこれだ！

「お祭り」が導き出す

「巨大なる予告編」

喫茶店トーク
noue
MODE

『Dynamite!!』に宇宙一注目している
I編集長が言うちゃ悪いけど今月も直言!!

井上義啓

——さて、井上さん。今回は、カードがほぼ出揃った『Dynamite!!』の見どころを伺いたいんですけど。

井上 いいですけど、試合の解説になっても面白くないですからね。俺の主観で話した方がいいでしょうな。

——もちろんです!

井上 ま、『Dynamite!!』のカードをざっと見ると、K-1はシャカリキになってやろうとはしてないわけよ。

——負傷してるからかもしれないですけど、バンナもボンヤスキーも出ないですよね。

井上 でも、俺は前から言ってるけど、『Dynamite!!』とか『猪木祭り』というイベントは、シャカリキになって真剣勝負がどうのこうのってやる必要がない。ふざけちゃいけないけど、お客さんに「ああ、楽しかったな」と思わせればいいわけですよ。

——いわゆるお祭り的な要素が強いイベントにすべきだ、と。

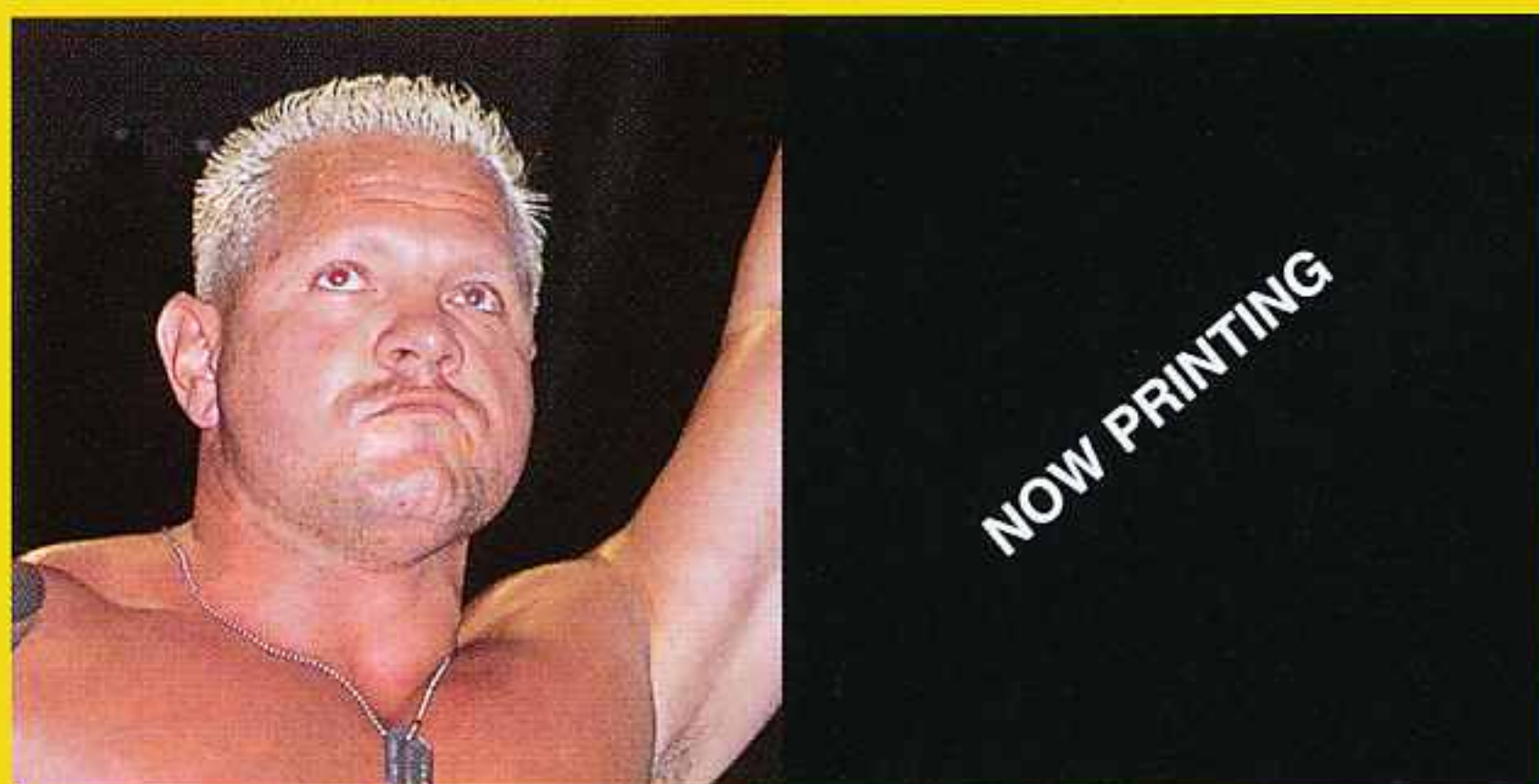
井上 ただ、イグナショフと中邑の試合は、これはハッキリ言ってシャカリキですよ、シャカリキ! どちらかの選手生命が傷つくというか、負けた方が落ちることは間違いないんだから! ガッチガチのバードマッチになるだろうな!

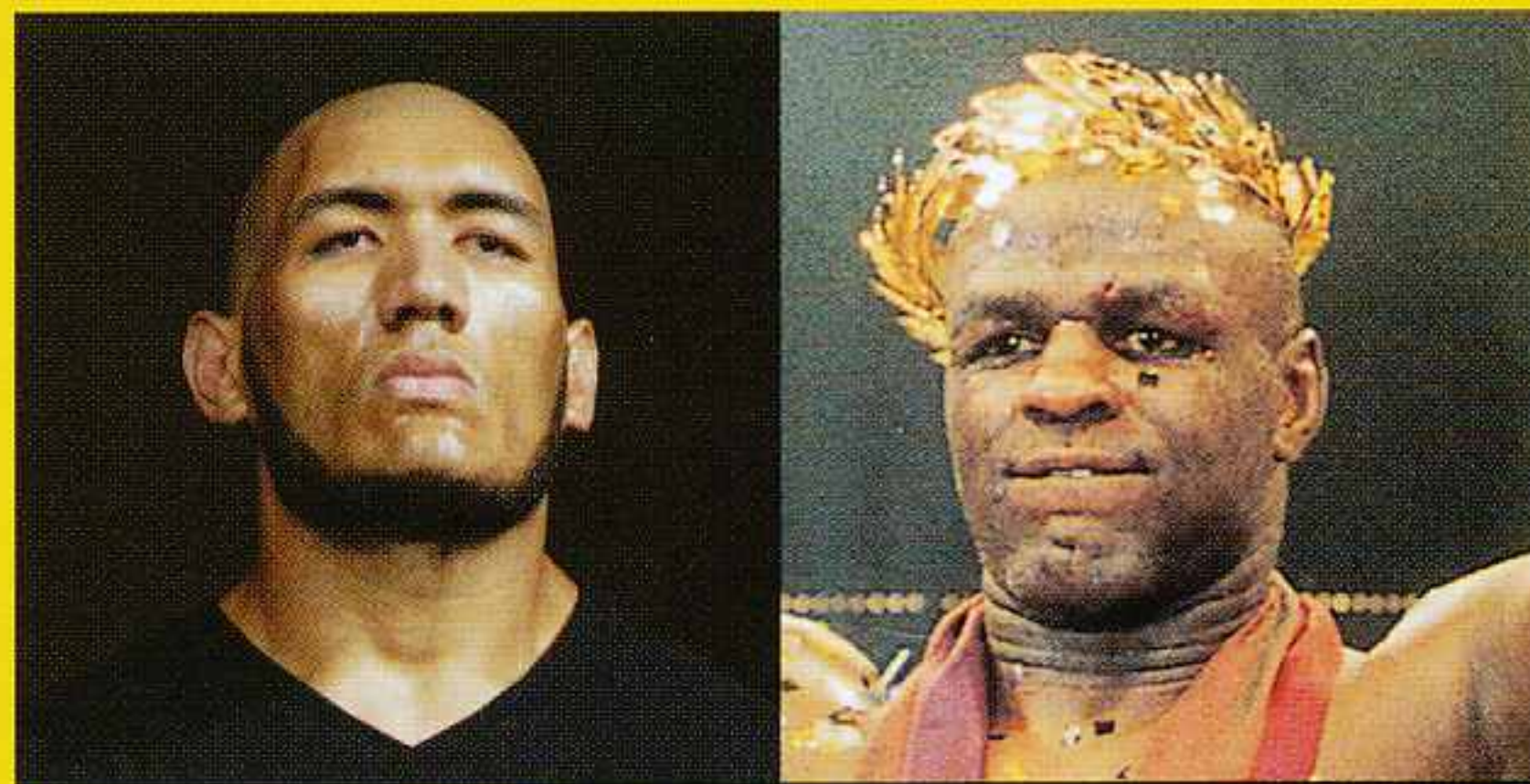
——イグナショフはK-1、中邑は新日本のエースとして期待されてますから、背負ってるものの大きいですよね。

井上 この2人はシャカリキに死ぬ気でやらせればいいけども、問題はサップと曙ですよ! この試合のルールがまだ決まってないのは、石井さんにしても谷川の旦那にしてもだね、そこを一番考えてるからなんだよね。

——どんなルールにすれば面白くなるか思考中なわけですね。

井上 K-1ルールは絶対にダメですよ! MMAルールでやるつもりなんだろうけど、特別ルールにして大胆にやるべきだろうな。そうしないと曙は、言うちゃ悪いけど持ちませんよ!

大巨人シウバの試合には場外乱闘OKルールを取り入れるべき!!

K-1 MMAルール5分3R

トム・ハワード [UPW] **VS** **クリストフ・ミドゥ“ザ・フェニックス”** [チーム・バンナ]

K-1ルール3分3R

モンターニャ・シウバ [ブラジル] **VS** **アーネスト・ホースト** [ボスジム]

——スタミナ的な問題がありそうですからね。

井上 この前もリングに上がってアーダコーダとマイクで言うてましたけど。それだけで汗掻いてるからね!

——ズバリ言って、会見に出席しただけで大汗掻いてます（笑）。

井上 曙は、K-1ルールやMMAルールにしても、倒れてしまったらおしまいだからね。サップにゴングと同時にボーンと突進されて、ガーンと殴られてドテッと倒れてごらんよ。どうにもならないですよ。もう救いようがないわ!

——井上さんだったら、どんなルールを設定するんですか?

井上 俺だったら、まずロープは張らない!

——ノーロープマッチですか（笑）。

井上 そして東西にデカイ花道を作ってだね。逃げ場をこしらえますよ。

——に、逃げ場ですか?

井上 おう! それでセコンドにワーワー騒がせるんだよな!

——まったくわかりません（笑）。どういうことですか?

井上 だから! 選手が逃げ場に入ったら、セコンド軍団が選手の代わりに闘うわけだよ!

——ガハハハ! 猪木vsウイリー戦の、セコンドの乱闘劇みたいですね（笑）。

井上 選手がしんどかったらセコンドが助けに入って、その間に曙やサップは休めばいいんですよ。たとえば、サップが馬乗りになって曙に殴りかかったら、曙のセコンドのボタが助けに入ると!

——チーム・ヨコヅナのボタが助けに入りますか!（笑）。

井上 「この野郎!」って飛び込んでサップを蹴飛ばすだろうな、ボタの野郎は! そうすると、サップのセコンドが黙ってないですよ。

——ガハハハ! もはや格闘技の試合じゃないですよ（笑）。

井上、サップのセコンドとしては、大巨人シウバ、バタービーン、TOAらが付くと。曙の方はボタとシャノン・ブリックスと、ハハレイシビリ・ダビド!

——ハハレイシビリと曙には、2人とも太ってるという繋がりしか見えないです（笑）。

井上 そして、最後に出てくるのはタイソンの弟、クリフ・コウザですよ!（ドン!）。

——あ、極秘来日したタイソンにソックリの弟が絡みますか!

井上 クリフ・コウザが出てくるわけだよな。サップ軍団と曙軍団が花道かなんかでワーワーやって、一段落したときにクリフ・コウザがガーンと殴り込みですよ! そしてだね、曙とサップに「お前たち、2人まとめてやってやる」と言うと!（このインタビュー収録後、クリフ・コウザがトレーニング中の曙を襲撃。コウザは「兄貴に代わっ大晦日にでも二匹とも潰してやる」と吠えるから、井上予言恐るべし!）。そしてボンボーンと蹴りまくって「俺がタイソンの弟だ! ウガー!」と吠える!

——ガハハハ! 大晦日決戦を締めるのはクリフ・コウザでしたか!（笑）。

井上 これ、決して悪ふざけじゃないの。そういうことをしないと、曙を救済できないでしょ。曙とタイソンなんかは将来的に繋げていかんとダメな選手だからね。これを予告編にして、ドンドンやるべきですよ!

——大晦日はあくまで予告編（笑）。

井上 これは予告編だからね。普通のK-1の試合だったら許されないけども、『Dynamite!!』は許されるんですよ。

——お祭りですから、面白ければいいわけですよね。

井上 石井さんなら、そういった我々が感心するような段取りをキチッとやるからね。根回しもキチッとするだろう、石井さんは。

——ここ10年間の格闘技界を引っ張ってきたのは館長ですからね。

井上 石井さんは頭が切れるから。サダハルンバ……も切れるけどね。

——なんですか、いまの間は（笑）。

井上　要するに、頭の切れる2人がキチッと役割を果たしてる気がしますよ。ただし、どうも気に入らんのがホーストとモンターニャ・シウバのK-1ルールですよ！

――井上さんのお気に入り、大巨人シウバのマッチメイクにご不満ですか。

井上　やっぱり蹴って殴ってということには、ホーストの方が上だからね。大巨人なんかは、この前の吉江との試合みたいに、メチャクチャな試合をやって初めて値打ちが上がる男だから。ホーストとはやらせんでほしかったね、個人的には。大巨人シウバというケンカ野郎をもう少し活かしてほしいよ。

――大巨人とホーストは、K-1ルールじゃなくてMMAルールならいいわけですか？

井上　MMAルールプラス、プロレスルールを取り入れるわけですよ。たとえば場外乱闘OKとかな！

――ガハハハ、このカードも場外乱闘OK（笑）。

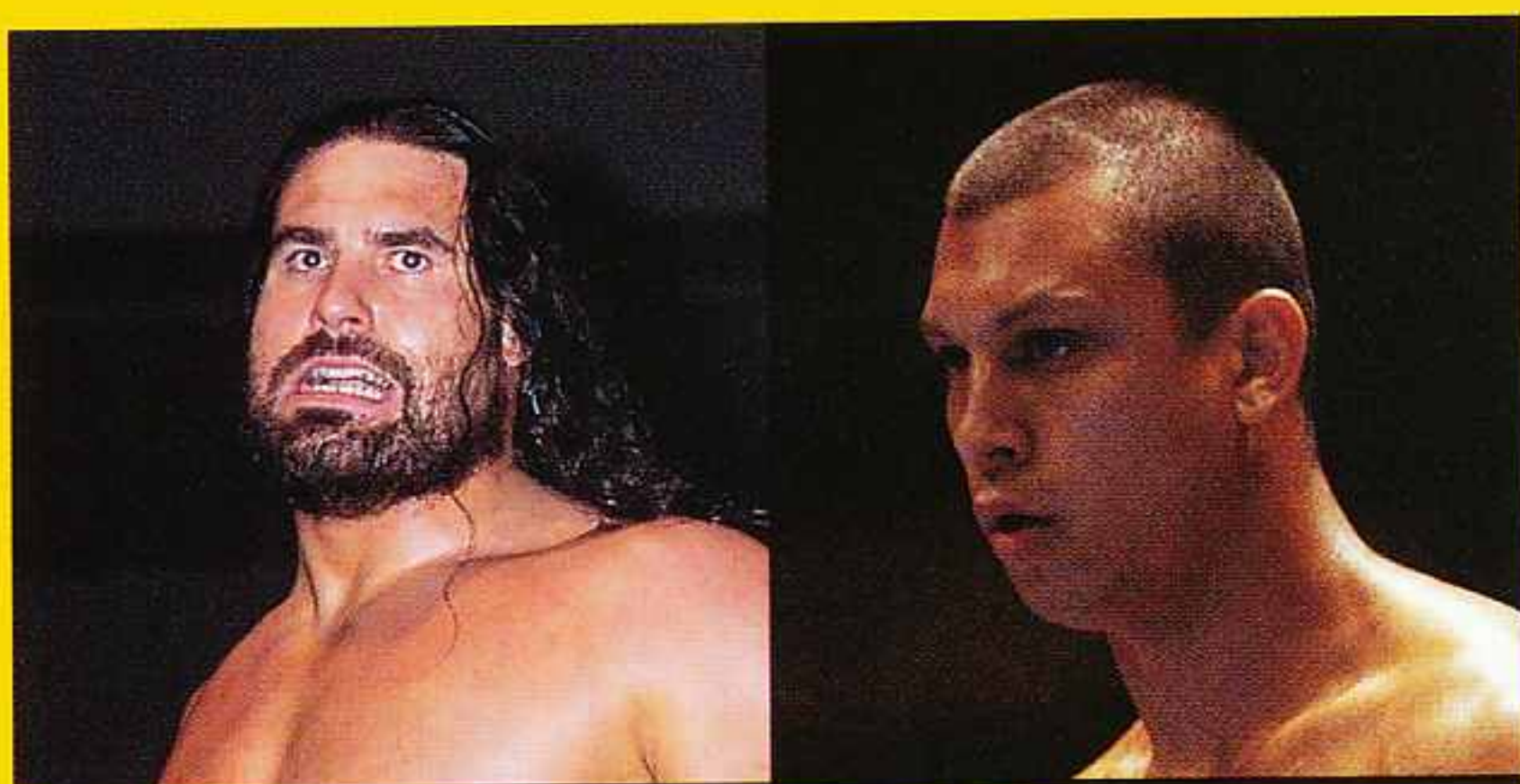
井上　そうなったら、シウバも本領が発揮できるでしょうが。俺はシウバのホントの実力というか、ケンカ野郎の真髄というのがやっぱり見たいのね。「こいつがホントに暴れたらどこまでやるんだろうか？」と。負け役っていったらおかしいけど、K-1ルールだとホーストには手も足も出ないわけよ。

――シウバには分が悪いですよねぇ。

井上　曙とサップだけじゃなくて、大巨人も特別ルールでやってほしいな。プレデターとハワードにしたってだね、コイツらは格闘技もやれるけど、元々レスラーだからね。2人を活かすためには、MMAルールプラス、プロレスのルールをミックスしたかたちでやらせないと、本領が発揮できないと思うのね。

――プレデターとハワードの試合も場外乱闘ありルールにすべきだ、と

井上　当たり前ですよ、アンタ！　K-1なんかは襟を正してビシッとしたものでやってもらわないかん。しかし、年に1回の『Dynamite!!』は、やはり選手の自力を十二分に

バタービンvs須藤はTVの掴みとしては最高でしょうな

K-1 MMAルール5分3R

ザ・プレデター［UPW］ **VS** **シリル・アビディ**［チャレンジ・ボクシング・マルセイユ］

K-1 MMAルール5分3R

バタービーン［チーム・バタービーン］ **VS** **須藤元気**［ビバリーヒルズ柔術クラブ］

発揮させるルールにすべきですよ。俺がK-1プロデューサーだったら、いま言ったようなことをやるからな。ホントにやるぜ！

――井上さんがプロデューサーに就任して、K-1の「K」は、喫茶店トークの「K」になってほしいです（笑）。

井上　「アホか！」って怒られるかもしれないけど、「言うちゃ悪いけど、これはお祭りです。決して悪ふざけじゃなくて、ルールというものを緩和して、その中で真剣勝負をやってるんです」といった説明をしますよ。

――ルールの意義を観客に伝える作業が必要なんですね。

井上　谷川の旦那もリングサイドでワーワー解説するんじゃなくて、リングに上がって毎試合、ルール説明すべきですよ。それは石井さんがやっても面白いけどな。「保釈金を積んでやって来ました」とか、そういったユーモアがあっていいと思うのよ。お祭りだから。

――お祭りはすべてを許せる空間を醸し出しますからね。

井上　まあ、そんなことやらんでも、『Dynamite!!』は試合だけ見ても面白いと思うぜ。須藤元気とバタービーンにしたって、これは谷川の旦那も言ってるけど、恐らくテレビ放送上は第1試合に持ってくる。この2人の試合は視聴者に「お！　これは面白い！」と思わせそうですからね。

――掴みとしては、絵的に最高の試合ですよね。

井上　いきなり曙vsサップを持ってくるわけにいかんからね。曙vsサップを最初に流して試合が終わったら、視聴者は「はい、おしまい」とチャンネル変えて、ソバでも喰いながら紅白歌合戦を見るに決まってますよ！　そんなの、NHKが喜ぶだけであってね。

――曙vsサップをやる時間帯では、紅白が瞬間最高視聴率で負けるんじゃないかって話も出てますよね。

井上　「曙vsサップをやる時間帯には俺を歌わせてくれるな」とか言うてる歌手もいるらしいじゃない。そりゃそうだよな！　そのときはNHKなんか誰も見ないからね。

――同じ時間帯に出る歌手からすれば、いい迷惑ですよね（笑）。

井上　そこらへんも興味深い。東京でやってるのか知らんけど、関西の毎日テレビで『ちちんぷいぷい』というのをやってるんですよ。そこで「大晦日の視聴率の結果を全部出す」と言うてますからね。

――大晦日決戦でいろんな渦が起こってるんですねぇ。で、最初に話が出ましたけど、井上さんが最近イチ押しの中邑と、イグナショフの試合についてもう少し聞かせてください。

井上　俺はイグナショフという男にも期待しとったんだけども。この前、アーツにわけがわからん負け方したからね。

――K-1GPのピーター・アーツ戦では、まったく何もしないで敗退しましたね。

井上　いろんな理由があったんだろうけども。俺は金の問題が絡んでるんじゃないかと睨んでるのよ。ジムの人間にいっぱい取られて、イグナショフに金が入らなかったから、ああいう試合になったんじゃないかと。

――つまり、ギャラ問題でモチベーションが下がっていたというわけですか。

K-1GP一回戦で、アビディに不覚の判定負けを喫したボタが捲土重来を誓って大晦日参戦!!　ボクシング界からは、ジョージ・フォアマン、ボタ、レノックス・ルイスらと対戦経験がある大物ヘビー級ボクサー、シャノン・ブリッグスの登場も決定している。

井上　そりゃそうだよな。金が入らなかったら、俺だってやる気は出ませんよ！

——井上さんもお金が一番大事（笑）。

井上　でも、君らも知ってると思うけども、俺はギャラとか原稿料の話を言わない男ですよ。

——たしかにそうですね！

井上　初めからもらえると思って期待してて、立ち消えになったらイヤなだけでね。俺も意外にガメついぜ！（笑）。

——なるほど（笑）。

井上　だから、イグナショフにしてもだね。金でガタガタ言わんようなお国柄のように思われるだろうけど、意外に北の連中というのはガメついよ。レッドブル軍団が来たときにビックリしたもんね。もう金には汚いわ、呆れかえりましたよ、俺は！　控室にある飲み残したジュースを、「ありがとう！」って持って帰るからね。

——ガハハハ！　ガメついというより汚いですよ（笑）。

井上　ウチんとこの連中がね、頼まれたから安物の電気製品やCDを買ってやったら、ものすごく喜んだもんね。

——ちょうどペレストロイカ直後の来日でしたからね。

井上　ヒョードルの『猪木祭り』出る・出ないの話にしても、そういうことなんですよ。ロシアン・トップチームは団体だからね。ヒョードルはまだ若僧だし、どんなに強くても一番下の方だから。金のことで言いたいことはあるんでしょうな。

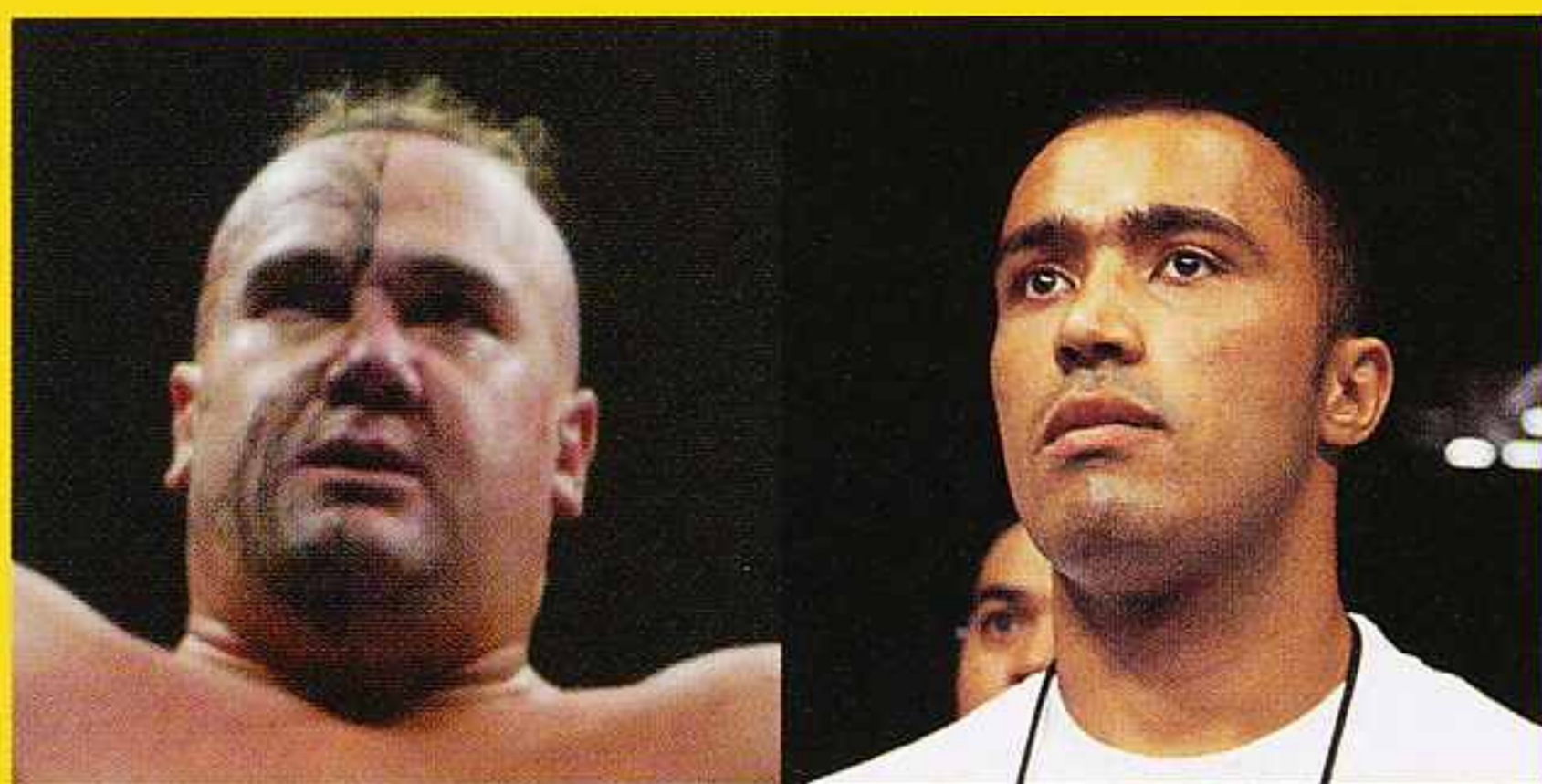
——ロシアは年功序列の風潮が根強いみたいですからね。

井上　まあ、俺がパコージンだったら、小遣い3000円を渡しておしまいですよ！

——ガハハハ！　いくら何でも安すぎますよ！

井上　まあ、イグナショフにしても似た扱いを受けてるんだよ。でも、『Dynamite!!』では、イグナショフにはまともにギャラが入ると思う。

——中邑戦はやる気満々で闘うわけですね。

中邑は「猪木vsモンスターマン」の試合を参考にしろ!!

K-1 ルール3分3R

TOA［トア シェッド オポティキ］ **VS** **フランシスコ・フィリォ**［極真会館］

K-1 MMAルール5分3R

アレクセイ・イグナショフ［チヌックジム］ **VS** **中邑真輔**［新日本プロレス］

井上　それにイグナショフは、こないだのK-1はかなり体調が悪かったらしいからね。「水とパンしか食べなかった」っていう話もあるしな。だけど、今回はずっと日本におるだろ。

——K-1GPが終わってから、ずっと日本に滞在してますね。

井上　もう毎日、肉食ってますよ！　日本には安い焼肉屋がたくさんあるからね。いっぱ〜い肉を喰ってるから、イグナショフの本領は発揮できる状態にあると思うな！

——肉を喰ったイグナショフは強い、と（笑）。

井上　肉を喰ってくるとなると、中邑はしんどいわな。今回の中邑のテーマとは、中邑本人も言ってるけど、レスラーとしての闘いをどこまで見せるかに尽きるでしょう。ホント言うと、柴田あたりも出てきて、プロレスラーの強さをガーンとやってほしかったけど。

——柴田も大晦日の出場を望んでたって話ですけどね。

井上　もうね、1・4のカード見てみぃ。柴田が可哀想ですよ！　なんだ、アレ！

——村上和成と組んで、ジョシュ・バーネット&飯塚高史と闘うみたいですけど（笑）。

井上　天田とあれだけ凄まじい試合をやったことが、まったく活かされてない！　だからその代わりと言っちゃいかんけど、中邑がどこまでプロレスの技も使い、それでいてK-1もやれるんだ、マーシャルアーツの試合もやれるんだ、UFCに行ったって大丈夫だ！　というような試合をやってほしいな。「新日本創設者であるアントニオ猪木の流れを汲んでる私です。それを見せます」と胸を張って闘ってほしい。それが中邑のテーマでしょう。

——井上さんから見て、どちらが勝つと思いますか？

井上　試合予想なんてものはしたくないけども。どうもイグナショフの方が分がありそうやな。中邑が捕まえて転がしても、イグナショフは寝技の練習してるらしいからね。

——イグナショフは総合の練習に専念してるみたいですしね。

井上　中邑の寝技がどこまで通じるかという問題もあるけど。中邑は「序列の打破、格の打破」ってことをずっと言い続けてきた男なんだよ。そういった意味で、俺は中邑って男を買ってるわけですよ。

——とにかく、井上さんは中邑への思い入れが強いわけですね。

井上　いらんことかもしれんけど、中邑は猪木とモンスターマンの試合を参考にしてくれって思うんだよな！（ドン！）。

——この試合のポイントは、モンスターマンにありますか！

井上　モンスターマンはものすごかったからね。どちらかというとミルコよりもモンスターマンの方が上だったと思うしね！

——ミルコよりモンスターマンが上！

井上　それほどすごかったんですよ、モンスターマンはっ！　そのモンスターマンにピタッと当てはまるのがイグナショフなんですよ。モンスターマンもそうだったけど、それ以上にイグナショフはスロースターター。その辺は、中邑にはチャンスかもしれないね。いきなりサップみたいにボーンと来なくて、ジワジワ攻めてくるとなると、必然的に相手の出方を見ることができるからね。

ん〜っ、グッドルッキング！レスリング男子フリースタイル96キロ級・世界選手権代表の中尾芳広の参戦も決定している。会見では得意のタックルで谷川プロデューサーを担ぎ上げ「んあ〜、力がすご〜い！」と悲鳴を挙げさせた！

——レスリングの出身の中邑からすれば、タックルの間合いも測りやすいですよね。
井上　ただね、ホントのケンカになるとまったく違うんだよ。あるヤクザから聞いたけど、ホントにドスが使える男とやるときはね、まったく動けない！
——威圧感だけで封じられてしまうんですね。
井上　ド素人の場合は、こっちが隙をつくると「この野郎！」って向かって来るわな。ところがホントに手馴れた、人を殺したヤクザはね、構えに隙がなくて動けないんだそうだよ。それがホントの真剣勝負！　だから中邑もイグナショフにその辺を感じてるでしょう。
——つまり、緊張感が漂う間合い勝負になるわけですね。
井上　ところが、ファンやマスコミは「この連中は動きがない」とかブーブー言うわけですよ。ケンカのド素人のくせに！
——間合い勝負の試合は、えてして膠着と捉えられることがありますね。
井上　すぐイエローカードが出るわけですよ！　だから『紙プロ』は、「この2人の試合は、すぐ動いてはいけない試合だ。相手がどう出るか、それを見極める試合でもある。だからそれを見てる我々としても、そこのところにすごいな！　プロだな！　ってことを見出さなきゃいけないんだ」って言うべきですよ。ファンは「なんだよ、イエローカードだよ！　ブーブー！」って言ったりしちゃうんだからな。君のところが言わないなら、俺が言ってやりますよ！
——それほど、この試合に井上さんは注目してるんですね（笑）。
井上　新しい時代を目指す試合があるとすれば、やっぱりこの闘いでしょ！　シャカリキにやるからね、中邑とイグナショフは。中邑がもうちょっと獣に成り切れてないところがマイナス材料なんだけども。
——中邑も毎日、肉を喰うべきなんですね（笑）。ところで、井上さんは神戸の『猪木祭り』に行かれるんですか？

曙vsサップは、セコンドも一緒にワーワー闘うべきですよ!!

ルール未定
ボブ・サップ vs 曙
［チーム・ビースト］　［チーム・ヨコヅナ］

井上　いや、神戸には行けないと思う。プロレス者もワーワー言ってるし、神戸はウチから近いし、猪木と俺の関係もあるし、『猪木祭り』のパンフレットに原稿を書いたことだし、行く理由はいろいろあるんだけども。『猪木祭り』だけ見に行って書けばいいわけじゃないからね。俺には〝茶の間の観客〟というテーマがあるから。ま、どうなるかわからんけども。
——実際に、TVで3つ見るって人が一番多そうですよね。ちなみに3大会の中で一番注目されてる試合はどれになりますか？
井上　そりゃミルコとタイソンですよ！
——ガハハハ！　2人とも出ないですよ！
井上　もちろんやればの話ですよ、アンタ！　もしくは、ミルコと（ピタリ・）クリチコ！
——クリチコ！　ウクライナ出身の前WBO世界ヘビー級王者ですね。
井上　この2人がやらせたらすごいことになると思うわな。クリチコのこの前の試合見とったけども、あの左ジャブすごいからね！　左のジャブをポーンと出して倒したけど、意外にもビシーッと決まるもんだよな！
——井上さんはボクシングのチェックも欠かさないんですか（笑）。
井上　当たり前ですよ！　クリチコには、それこそミルコの蹴りすらも通じるかどうかはわかりませんよ!!　ドンドン！（大・興・奮!!）
——い、井上さん。思い切り『Dynamite!!』の話題から外れてます！（笑）。
井上　（無視して）それでもモンスターマンの方がすごかったですけどね。まあ、タイソンでも出てきてミルコとやるっていうことになれば、クリチコより見たいですけど。タイソンでなかったら、話題性としては曙vsサップになりますね。ホーストとかのベテラン選手はね、やっぱり特別出演に近いでしょうし。中邑とかシャカリキにやれる選手が出てきてほしいよな。魔娑斗にしても見たいですよ、ホントは。
——魔娑斗の相手に、畑山隆則や薬師寺保栄とか、ボクシング元世界王者にオファーしたみたいですけど。
井上　この前の試合で魔娑斗はケガをしてないだろ、あれ。出る気になれば出れたんだろうけど、K-1のヘビー級の中に出て、第1試合、特別試合という扱いは「嫌だ」って言ってるわけだよ、魔娑斗は。
——あくまで主役じゃないと出ない、と。
井上　ただ、こういった『Dynamite!!』なんてお祭りはね、柴田や小比類巻もそうだけど、若い連中が出てくれば面白いんですよね。だから、魔娑斗が出てこなかったのがちょっと悔しいな。前にも言ったかもしれないけど、柴田と魔娑斗をやらせればいいんですよ！　というか、やれと！（ドン！）。
——それはいいカードですねぇ！
井上　俺なんか、この試合が組まれたら「キャーッ！」って言うね！
——ガハハハ！　井上さんも黄色い声を出しますか！（笑）。
井上　ホンマに！　まあ、実現しないカードを言っても、死んだ子供の年を数えるっていうヤツでどうにもならんけどね。希望は次に繋がる展開をどれだけ見せられるかってことでしょうな。とくにクリフ・コウザの件はキッチリ注目すべきですよ。クリフ・コウザが「コラ、お前ら！」って出てくれば、『Dynamite!!』が成り立つ！
——クリフ・コウザが『Dynamite!!』爆発の鍵を握ってるんですね。
井上　タイソンの弟だということでワーッとくるからね！　これは視聴率上がりますよ。
——兄弟だけあってホントにソックリだから、タイソンと間違える人もいるでしょうね。
井上　今回は視聴率のことも考えなくちゃいけないからね。視聴率を稼ぐという意味でも面白いルールにしたり、クリフ・コウザを使って、俺がいま言ったようなお膳立てをすべきですよ！
——よ〜くわかりました！　つまり、『Dynamite!!』はお祭りイベントとしての特殊性を出しつつ、次の興行の流れをしっかりつくるべきなんですね。
井上　石井さんや谷川の旦那にはできるはずですよ。ま、そういうことで。
［03年12月17日／電話取材にて収録］

K-1『Dynamite!!』
名古屋ドーム　12月31日　16:00〜
【放送】
TBS系列にて、21：00〜23：24
【対戦カード】
曙 vs ボブ・サップ
須藤元気 vs バタービーン
中邑真輔 vs アレクセイ・イグナショフ
フランシスコ・フィリォ vs TOA
アーネスト・ホースト vs モンターニャ・シウバ
シリル・アビディ vs ザ・プレデター
クリストフ・ミドゥ vs トム・ハワード
【出場予定選手】
中尾　芳広／シャノン・ブリッグス
フランソワ・ボタ／ハハレイシビリ・ダビド
【お問い合わせ】
FEG 03-3796-5060

『イノキボンバイエ』
プロ格という原画の修正

著 井上義啓

暗い空から滴り落ちる冬の雨は、喫茶店の小窓を灰色の壁画で覆うだけでなく、単調な雨垂れのトレモロとなって、それに聴き入る人の心まで憂うつにさせる。

12月16日の午後。私は京都の河原町にいた。私が重い腰を上げて京都にまで出向いたには訳がある。この日の正午きっかりに、プロレス者のBさんから一本の電話が入ったからであった。

「編集長（私の呼び名）、エライことでっせ。ミルコとヒョードルが『イノキボンバイエ』に出場でけへんとホームページに出てまんがな。ワテも、たった今、中里（仮名）から聞いて、びっくりしてるとこなんですワ」

暗い気持ちが捨て場のないカスとなって、シンシンと体の奥底に溜まっていくのがはっきり感じられる。

〈やっぱりな!〉

そうなるのではないかとの内部情報は早くから耳に入っていた。ミルコ、ヒョードル、シュルトの3人とも『イノキボンバイエ』に出場できないというもので、その根底には知りたくもないドス黒いヘドロが二重三重に堆積していた。

その禁断のヘドロを、プロレス者は事もなげに口にする。

「ロシア系の選手の背後にはロシアンマフィアの影がチラチラしてますさかいな。ミルコの公式サイトによると、フィジカルドクターに『背中を痛めているので、激しいトレーニングはするな』とか言われたのでとありますけど、今の今になって、そんなこと言い出すってあります? 誰も信用しよらへん」

今度もまた、高田延彦の〝暴露本〟（『泣き虫』）がどうのこうのと騒がれているが、あんなもの、どうということはない。ホームページを丹念に開いて見ろ。あのクラスのことは毎日、掃いて捨てる程、書かれている。その通り。今は活字の時代ではない。パソコンだのケータイだのの液晶画面の中で踊る電子文字が生きて呼吸している真実のすべてを握っているのである。

「ヒョードルがロシアン・トップチームを辞めてレッドデビルに移籍したという話、どうなりましたんや」

こっちが聞きたいぐらいなものであった。ミルコが『イノキボンバイエ』に出場するとなった時もヒョードルの出場第2弾も、お膳立てをしたのはミルコの代理人と称するミロ・ミヤトビッチなる人物である。

「あの時も言ったけど、ミヤトビッチなる代理人に、何となくウサン臭さを感じていた。猪木―アリ戦の時に、何人、ウサン臭い代理人だの弁護士だのが出てきたか。去年4月のタイソンの時だって、何とかという弁護士は何の権限も持っていない取り巻き連の1人

死人と化したミルコの口には鍵がくわえられている。死人の口からもぎ取った鍵。そこに書かれてある文字は一つ――。

に過ぎなかった」

「その後ろにはマフィアがゴマンといますさかいな。アリにしたって、あれだけもの凄いギャラ稼いでいて、現在の財産なんて、びっくりする位、少ないでんがな」

真偽の程は定かではない。とにかく、この〝領域〟には土足で踏み込まないことだ。今、私が書いている活字にしても、本当言うと、ひどくヤバイ話なのである。

「ということは、『男祭り』の方に、ミルコとヒョードルは出るんでっかいな」

「それはないだろう。来年はまた、DSEの方で闘うことになるという話であってね」

私は喫茶店の生暖かさが嫌いだ。顔や首筋にベタベタと人工の暖かさがへばり付くからである。しかも、話している中身が空しかった。ひどくセンセーショナルな癖に話す気力を削ぐのである。

「どうなるのかねェ。『猪木祭り』は……」

私はホコ先を交わした。しかし、これとて、ジトジトと降り続く雨のようにけだるい。建設的なものは何もないし、穴ぐらから掴み出されたサダム・フセインが何の平和的な進展も見せないのに似ている。イラクの国旗を振って狂喜しているシーア派の人たち。あなた達、そんな見果てぬ夢に酔い痴れてはいけませんよ。

石井さん（元正道会館館長）の顔が浮かんだ。これしかないのだ。そんなことは言われなくたって分かる。『Dynamite!!』のカードは早々と発表されてもおかしくはなかったのに、16日になってやっと全容に近い第1弾が発表された。なぜ、あのメンバーで調整が遅れたのか、その理由がこれであった。

〈サダハルンバ（谷川K-1イベントプロデューサー）にしても、ちゃんと知っていて白ばくれていたのだ〉

ミルコというメーンイベントを構成している大砲が出場できないとなると、曙vsサップのビッグサプライズだけをポンと出しておけば、それで事足りる。そして中邑があのイグナショフとホコを交えるというのだ。『男祭り』が桜庭と田村潔司のカードを発表したぐらいではビクともするものではない。

「桜庭の相手、田村だそうだ。知ってる?」

「石井館長、誰を出して来ますねん」

「〝大巨人〟シウバやTOAなどは『Dynamite!!』に出るからね。そうは言うものの、ボンヤスキー、バンナなど、K-1には『Dynamite!!』に漏れた連中がワンサといる。みんな出たがっている口だから、ギャラはそこそこだし、喜んで猪木のところに行くんだろう。『猪木祭り』は必ずしもバード（バーリ・トゥード）でなければならないと決まってはいない。橋本とグッドリッジにしろ安田とレ・バンナの試合にしろ、厳密な意味ではプロ格マッチだった」

「そうでなかったら負けてまんがな」

「だから、やりやすいと言ってるんだよ。レスラーをぶつけてのプロ格マッチ。柴田だって棚橋だって、やれるからね。メーンはちょっと無理だけど……」

11・3横浜アリーナを思い出してみればいいのだ。猪木がほれ込んでいたクロアチアのルーデンにしても、今度は本領を発揮するだろう。『猪木祭り』はオールラウンドな祭りだ。小橋、秋山といったノア勢が旗揚げマッチで見せたプロ格マッチをやってもいいのである。

「案外、猪木、日テレとも腹をくくっているのかもしれん。それと察して、とっくの昔に石井さんと渡りを付けていたはずだし……」

「…………」

「石井さん、サダハルンバとも、どっちに振り分けようかと思案していたのだろう。1・4にサップを出そうと決めたのは別にして……」

◆

穴ぐらにネズミのように潜んでいたフセイン。生きているのにアメリカ兵に引きずり出された瞬間に、稀代の暴君は死人（しびと）と化した。

〈『イノキボンバイエ』は、逆ではないのか〉

ミルコの出場停止で大晦日の神戸は死んだはずなのに。死人と化したミルコの口には鍵がくわえられている。スキャンダラスな森に人は眠る。その暗い裏社会をのぞく奴は誰だ!

猪木の眼が妖しく光る。死人の口からもぎ取った鍵。そこに書かれてある文字は一つ。それはプロ格。

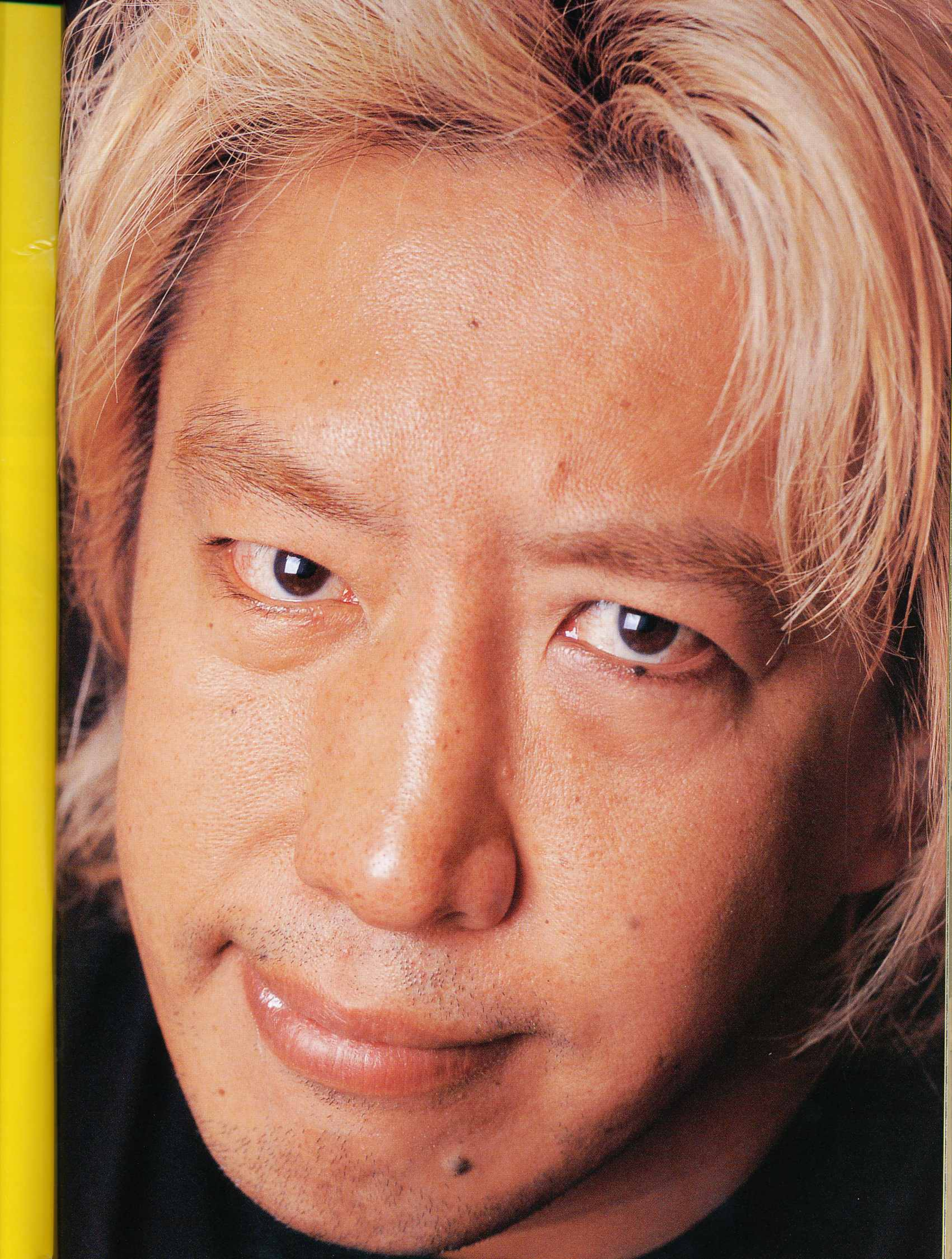
猪木が標榜している闘いの実体はプロ格でなければならない。レスラーでありながら、今はやりのエンタメを拒否し続けるところに、藤波社長にはいくら言っても届かない猪木という名のイデオロギーがある。ミルコvs高山にしても、総合ルールやK-1・MMAルールではなく、猪木がくどいぐらい口にしてきたプロ格であったに違いない。

雨降って地固まる。プロ格を世に問う絶好のチャンスじゃないですか。人はこれを負け惜しみと言う。時代の先が読めない人間が何を言うか! 来年はプロレスが大きく様変わりし、K-1、『PRIDE』に近づく。プロレスであって旧態依然とした古い体質のプロレスではない新しいもの。それは11・3横アリでも見られた新日プロの新しい顔。猪木さん、ボンバイエのテーマはこれだと思うのですが、どうでしょうか。

（了）

イノキボンバイエ2003
馬鹿になれ　夢をもて
神戸ウイングスタジアム
12月31日（水）15:00開場 17:00開始

【放送】
日本テレビ系全国ネットにて
20:00～23:15

【18日時点予定カード】
ミルコ・クロコップvs高山善廣
ジョシュ・バーネットvsセーム・シュルト
ステファン・レコvs村上和成
安田忠夫vsレネ・ローゼ
藤田和之vsX
LYOTOvsX

『プロレス大賞』MVP獲得! どうなるミルコ問題
周囲のやっかみにに真っ向から答える

高山善廣

練習だけやって自己満足しているプロ格闘家は

俺らに感謝しろ!

12・31ミルコ・クロコップ戦
消滅の危機か?

緊急事態発生! 12・31『イノキ・ボンバイエ』で、いま最も旬な男ミルコ・クロコップと対戦する予定だった高山善廣。しかし、17日、ミルコが自身のHPで欠場を表明するなど、予断を許さない状況だ。その3日前、本誌は高山を直撃。現在の心境を伺ってみた。

聞き手/堀江ガンツ 撮影/森"モーリー"鷹博
designed by hisa(Two Three)

高山善廣

高山　なんか『紙プロ』のインタビューで『東京飯店』（高円寺『スネークピット』近くの焼き肉屋）に来ると、「年末だなぁ」って気がしますね（笑）。

——年末は宮戸さんのジムで練習したあと、ここでインタビューっていうのが恒例になりつつありますよね（笑）。

高山　来年はもう嫌ですけどね（笑）。でも、何かやらないと『紙プロ』は来てくれないから。

——ご無沙汰しておりました（笑）。そういえば、5・2ドームで二冠王になったとき以来、半年ぶりのインタビューなんですよね。高山選手はその間IWGP、NWF2冠王として文字通り新日本を引っ張ってきたわけですけど、11月にIWGPを失って逆に自分の可能性が広がった部分はあるんじゃないですか？

高山　まぁ、可能性は昔から自分に感じてましたけどね。

——それは失礼しました（笑）。

高山　ただ、新日本がよそに行く暇を与えてくれなかったから、可能性の芽を潰されてた部分はあるかもしれない。

——今回、『イノキ・ボンバイエ』でミルコ・クロコップ戦が決まりましたけど、これは2冠王時代だったら難しかったんじゃないですか？

高山　いや、どうだろう。IWGP持っててもミルコだったらやってますよ。ミルコ以外だったらやってないでしょうけどね。

——では、何度も聞かれてると思いますけど、ミルコ・クロコップ戦をやろうと思った一番の動機ってなんだったんですか？

高山　それは、みんなが「プロレスハンター」って彼のことを呼ぶから。俺はプロレスラーだし、業界を我が者顔で歩いてると自負してますから、だったらそろそろやらないと嘘でしょ。

——そうすると今回は「高山善廣」個人というよりも、プロレス界代表として出ていく感じですか？

高山　まあ、自分が「関係ない、俺個人だよ」って言ったって、俺には「プロレスラー」っていう肩書きがあるし、彼には〝プロレスハンター〟みたいなあだ名があるから、必然的にそうなりますよね。

——そうなると、昨年のサップ戦以上に、今回のミルコ戦は高山さんが背負うものや、勝敗がプロレス界に与える影響が大きくなりますよね。

高山　ヤバイね（笑）。

——ガハハハ、他人事（笑）。

高山　でも、そういったものはやっぱり背負わざるをえないと思うし、背負うからこそ見せ物として目玉にもなるし、高いファイトマネーもいただけるんだから、そう言われるのはしょうがないですよね。

——じゃあ、リスクの大きさは自負してるってことですね。

高山　そう思ってますよ。だって、背負わなかったら、あんな総合格闘技で連戦連勝の男に連戦連敗の男が闘えるわけがないじゃない（笑）。

——総合の戦績だけだったら、ありえないカードですよね。

高山　だからそこでしょ？　俺がミルコとやれるっていうのは。例えば修斗とか『PRIDE武士道』とか出てる、純粋に格闘技だけやってる子たちからすると、「何でアイツがやれるんだ」って感じると思うんだよ。

——そういうやっかみはあるでしょうね。

高山　だけど、その子たちと俺の違いって言ったら、そこだから。背負うモノがなかったら、あそこに上がる俺の価値なんかねぇもん。自覚してますよ。それは

——逆に、他の連中がやれなかった部分を俺はやってきたっていう自負もあるわけですよね？

高山　もちろんあるよ。だって、彼らも確かに一生懸命やったんだろうけど、俺はもっといろんな面でやった部分があるんだから。

——そうですよね。年間通してベルト二本持って暴れ回って、話題を提供し続けてきたわけですからね。

高山　だからと言って、他人がどうこうじゃなくて、自分がどうやればベストかを考えればいいだけだから。俺は自分が何にも目立たない存在の時から常にそう思ってきやってきたからね。

——ただ、そういった高山善廣の付加価値を認める人もたくさんいますけど、いまは格闘技オンリーのファンも増えているじゃないですか。そういったファンに対しても、高山善廣が何を見せてくれるのか興味があるんですけど。

高山　言ってしまえば総合格闘技のセオリーを無視した闘いを見せるのが俺なのかなって。だって、出場すること自体がセオリーを無視してるわけでしょ？　格闘技の中で勝ち上がってきたわけじゃないんだから（笑）。だからドン・フライともあんなバカなことやったし、ボブ・サップのタックルも正面から受けるんですよ。

——純粋な競技を見せるつもりはない、と。

高山　純粋な競技という枠では考えないですね。でも、〝闘い〟は見せますよ。

——「格闘競技」と「闘い」は似てるようで違いますよね。

高山　違いますね。どう説明しろっていうのはちょっと難しいんだけど、『イノキ・ボンバイエ』みたいなイベントはオリンピックじゃないんだから、勘違いすんなよって。

——勝手にご立派な〝スポーツ〟だなんて思ってんなよって（笑）。

高山　ホントにそういう場だったら俺にオファーの「オ」の字も来ないって。でも、

11月21日の『イノキ・ボンバイエ』発表会見に出席した、（左から）藤田、高山、ミヤトビッチ、尾崎社長。当日はこの中の何人が神戸に姿を現すか……!?

昨年の『猪木祭り』メインでは、絶頂期のボブ・サップと真っ向勝負をした高山。その旬を逃さないプロの嗅覚は他の追随を許さないものがある。

〝今の〟ミルコだからやりたいし、〝あの時の〟サップだからやった

実際は俺のカードが目玉になるんだから、これが正しいんじゃないの？　だから、オファーがある間は俺は好きなようにやる。大多数が「ノー」ってなったら俺は呼ばれないだけだから、そんなことはどうでもいい。

――でも、「高山は玉砕するだけのつもりだろう」という声も出てきたりするじゃないですか。そういう声に対しては一発ギャフンと言わせてやろうとか思いませんか？

高山　それは毎回思ってるんだよ（笑）。でも、玉砕するだけだったら、今日みたいに取材に遅れてくるまで練習しないよ。最初から玉砕覚悟だったら、何もしないでギャラだけ貰って帰ってきますよ。やっぱり俺は勝負をしに行くわけで、勝ちたいから練習するわけであってね。だって、練習するのつらいもん！（笑）。

――ガハハハ！　ぶっちゃけ、つらい（笑）。確かにプロレスの試合をいまだにこなしながら、日本テレビ『イノキ・ボンバイエ』の広告塔として、一番引っ張り回されながらの練習ですもんね。

高山　そう。時間気にしながら「ノーフィアー‼」って決めたと思ったら、時間が合わなくて、もう一回やらされたりとか。そんなのばっかりなんだから（笑）。でも、それをやれないんだったらプロじゃないと思うし、ボブ・サップにしてもそういうことをやるからみんなに見てもらえるんであってね。だから、そういうことをやらないで〝プロ格闘家〟と名乗る人たちは俺らに感謝しろって！

――誰のお陰でテレビ放映されると思ってるんだ、と（笑）。

高山　アンタらは好きなことを一生懸命やってるだけで、「プロだプロだ」って言うけど、ホントにそれだけだったら、人は見てくれないんだよって。こと格闘技に関してはね。

――なるほど。いま、高山さんはそういった過密スケジュールを縫って練習しているわけですけど、ミルコ戦の突破口って見えてきましたか？

高山　突破口は……まぁ、怖がらないことが一番じゃないですか。俺の場合ビビらなさ過ぎるっていうのもあるけどね（笑）。

――ガハハハ！　もうちょっとビビってちょうどいいと（笑）。

高山　ちょうどいいところを越えちゃって、顔ボコボコにされてるから（笑）。でも、いままでミルコのハイキック貰った人って、大体ちょっと腰が引けちゃってるんですよ。だからそれをしないことが一番かな。

――ド素人みたいな質問させていただきますが、高山さんって打撃が怖くないんですか？　たいていプロレスラーの方って、慣れてないから顔面打撃を嫌がるじゃないですか。

高山　ボクの場合は顔面差し出してますからね（笑）。だから殴られるのは嫌だけど、怖いというのとは違うよね。怖かったらドン・フライとあんなことできないし、セーム・シュルトにあんなバカみたいに突っ込まないでしょう。

――元々、怖いっていう気持ちはなかった

んですか？

高山　ありましたよ。だけど、やったみたら意外と平気だったから。みんなやられたことないから怖いんですよ。未知の恐怖ってあるじゃない。そういうもんだと思うよ。その点、俺は藤田（和之）君とやってグラウンドのヒザもらってるし、シュルトの痛いゲンコツももらってるから、大体大丈夫ですよ（笑）。

――前に言ってましたけど、シュルトのパンチはとんでもなく痛いらしいですね。

高山　石で殴られたことないけど、多分こんな感じだろうなと思って、そんぐらい痛かった。だからドン・フライにあれだけ殴られても、「生身のグーだから大丈夫」って思えたんでしょうね。

――じゃあ、一番みんながミルコに対して気後れする部分が高山さんにはあまりないわけですね？

高山　結構、ないんじゃないですかね。キックの恐ろしさも金原（弘光）さんに散々蹴られて知ってるんでね。ホント、試合が終わったら立てなかったもん。ももを蹴られたのに内出血が全部下に落ちちゃって、足の裏に血が溜まってるんですよ。「そこまで蹴る？」って（笑）。

〝元〟には興味ないから、現時点で曙さんとやる気はさらさらないね。

――Uインター時代にそこまでやられましたか（笑）。

高山　まぁ、俺がガードすりゃ、いい話なんだけどね（笑）。そういう攻撃をされた経験があるんで、まあ、大丈夫かなって。それ以上の痛みだったら多分、気絶してると思うけど、気絶しない限り大丈夫でしょう。

――そう言えば、ノゲイラも同じようなことを言ってましたね。「気絶するまで俺は勝負をあきらめない」って。

高山　多分、同じですよ。ノゲイラも試合じゃないけど、子供のころ事故ですごい目に遭ったんでしょ？　あの事故があったからこそ、どんな痛みにも耐えられるって、ボクも何かで読みましたけど、そういうのがあるんじゃないですか。

――ノゲイラが車に潰された経験っていうのは高山さんにとってのシュルトのゲンコツであったり、金原さんの蹴りであったり（笑）。

高山　ボブ・サップとぶつかり合ったりとかね。

――ああ、サップのタックルは、軽自動車と正面衝突ぐらいの衝撃はありそうですもんね（笑）。

高山　ホントそんな感じですよ。首が全然治んなかったからね。あれにぶつかって、倒れなかった俺も意外と化け物だなって思ったけど（笑）。

――では、ミルコと闘うのは楽しみですか？

高山　楽しみではないですね。楽しみは終わった後の解放感。やっぱり闘いだから緊張しますよ。ゴングが鳴って、なんかの時に「あ、楽しい」って思う瞬間はあると思うけどね。ドン・フライの時がそうだったから（笑）。

――なるほど（笑）。逆に言うと、半端な相手だったり弱い相手だったら「楽しい」っていう気分には至らないわけですか？

高山　至らないね。半端な人だったら勝つ義務感だけになっちゃうから、全然楽しみにはならないですよ。ていうか、そういう人だったら、プロレスっていう畑を越えてまでやろうと思わないし、本来はプロレスラーなんだからプロレスだけやってたらいいんだったらそれでいいんですよ。だけど、それを越えて違うルールのリングに行くってことはやっぱりそれだけの人が向こうに立ってなきゃいけないと思いますよ。

――ミルコ・クロコップだからこそ、やる意味があると。

高山　〝いまの〟ミルコだったらね。去年ボブ・サップとやったのも〝あの時点の〟サップだからやったんですよ。サップもあの時期が最高だったでしょ？

――ミルコに負ける前ですから、確かにピークでしたよね。

高山　ドン・フライにしても、UFC王者時代を除けばボクとやったときがピークだと思うし、やっぱりそういう旬っていうのがあるんですよ。プロのファイターとしては、そこを逃したくないですね。

――そう考えると、これだけ旬が続いている高山善廣という存在は凄いですね。旬な存在を食べ続けることで、旬であり続けているというか（笑）。

高山　なんか大体、俺とやった後はみんな落ちて行きますからね（笑）。でも、不思議なことに負けた俺だけはなぜか生き残ってるんだよね。

――不思議ですねぇ（笑）。旬と言えば、いまは元横綱・曙が世間的には大きな話題を呼んでいますけど、サップの次は自分が曙とやりたいみたいな気持ちはありませんか？

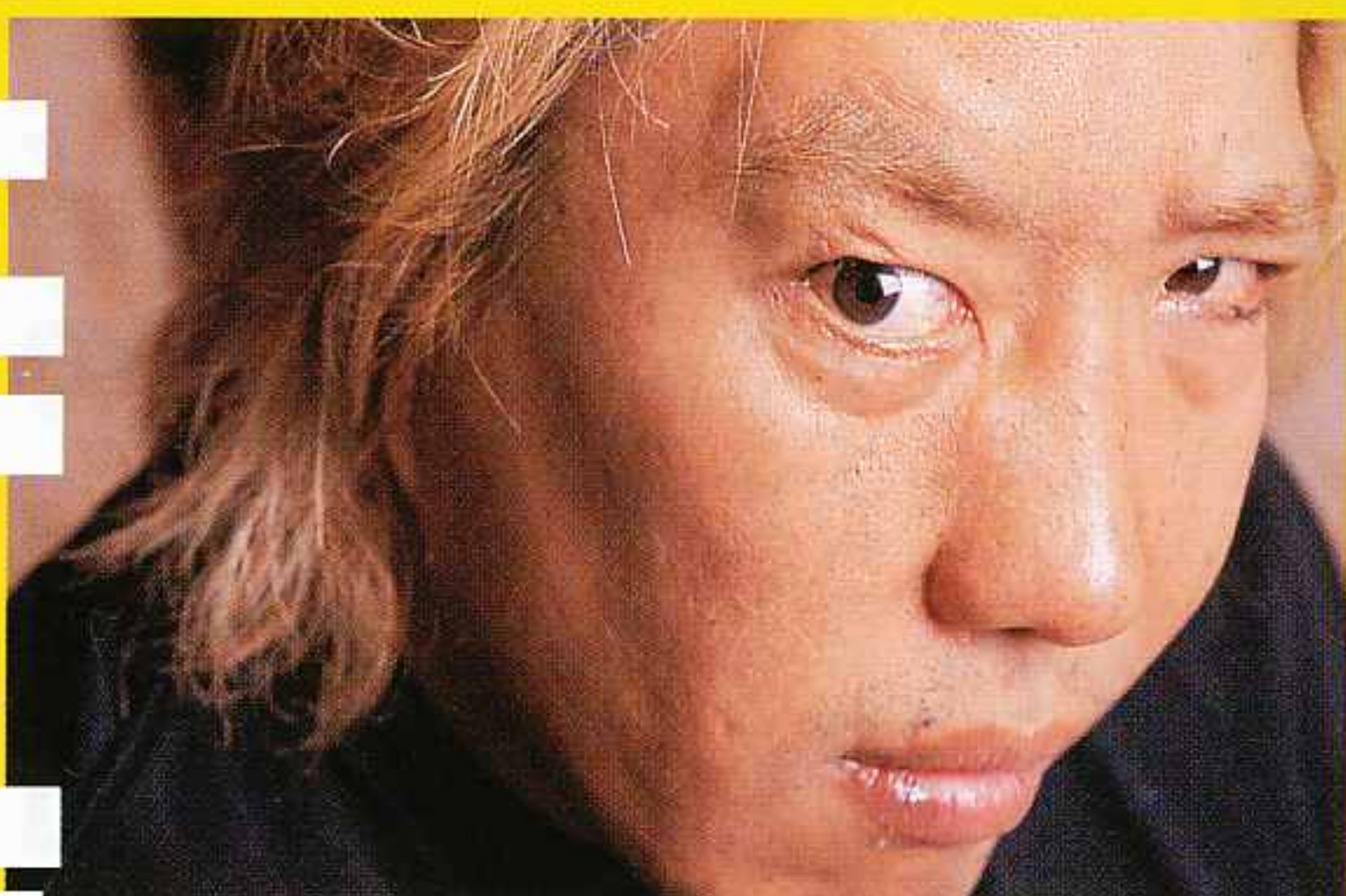
高山　曙さんとやる気はさらさらないですね（キッパリ）。

――あ、そうなんですか？

高山　ボブ・サップとの試合を見たら変わるかもしれないけど、現時点で曙さんとやるっていう気は全然ない。

――それはどういうところからですか？　掛け値ナシにビッグネームだし、間違いな

高山善廣

高山善廣

く注目される試合になると思いますけど。

高山　現時点のあの人は〝元横綱〟っていう肩書きだけじゃないですか。土俵では強かったけど、リングでは強いかどうかわかんないですよ。

――〝元〟には興味がないと。

高山　〝元〟には興味ないですね。実際にサップとやってみて、凄かったら初めて興味が出てくると思う。だから、いま曙さんがリングに上がるって騒がれてますけど、ホントに何とも思わないですよ。まあ、大変なんでしょうねって。

――ボブ・サップが「元NFLのデカい人」だけだったらやらないのと一緒ですか？

高山　そうそう。サップだって、K-1や『PRIDE』で凄い試合をやってたから興味を持ったわけであってね。いまだから言えるけど、「ボブ・サップのデビュー戦をやらないか？」って言われたんですよ、DSEから。

――へえ、そうだったんですか！

高山　「こういうのがいるんだよ」って言われたんですけど、「嫌だ！」って言いましたよ（笑）。

――ガハハハ！　「何だそれ」って（笑）。

高山　意味ないもん。

――じゃあ、元ボクシング世界王者のフランソワ・ボタなんてどうですか？　プロレスvsボクシングの「格闘技世界一決定戦」とか（笑）。

高山　「格闘技世界一決定戦」ねぇ、……ボタとだったらタイソンでしょう！

――ああ、確かに（笑）。

高山　だって、タイソンっていう駒がK-1でチラついてるのに、ボタとやっても格闘技世界一決定戦にはならないですよ。

――露払いになっちゃいますもんね（笑）。

高山　そうそう。ボタとやったら猪木さんvsチャック・ウェップナー戦みたいになっちゃいますよ（笑）。まったくタイソンの「タ」の字もなかったら、それもありなんだろうけど、あんだけチラついてるのにボタに行くっていうのもね。

――なんか、ますます貪欲になっていきますねぇ（笑）。

高山　貪欲っていうんじゃなくて、自分が金払うんだったらこうだろうって。高山がいることを前提に「チケット買うならどっちかな」って、それだけなんですよ。

――そして、いまもっともお金を払う価値があると感じたのが、vsミルコ・クロコップなわけですね。

高山　そうですね。

――そのミルコなんですけど、クロアチアで受けたインタビューでは、「大晦日の『イノキ・ボンバイエ』に出るつもりはない」と発言しているらしいんですけど、それは高山さんの耳にも入ってますか？

ミルコ戦以外なら出ない。猪木さんとエキシビジョンなら考えるけど（笑）

高山　ああ、なんか『紙プロ』にチラッと書いてあったよね。ちょっと気になってたんだけど、それはクロアチアの新聞なの？

――現地の新聞ですね。だから、その記事が事実で、もしミルコが来なかったら、高山さんは他の相手でもやりますか？

高山　やらない！（キッパリ）。意味ないから。

――ミルコ戦以外だったらキャンセル？

高山　うん、ホントにそう。たとえ「代わりにミルコに勝ったノゲイラを用意します」って言われても関係ない。

――それは話が別なわけですか？

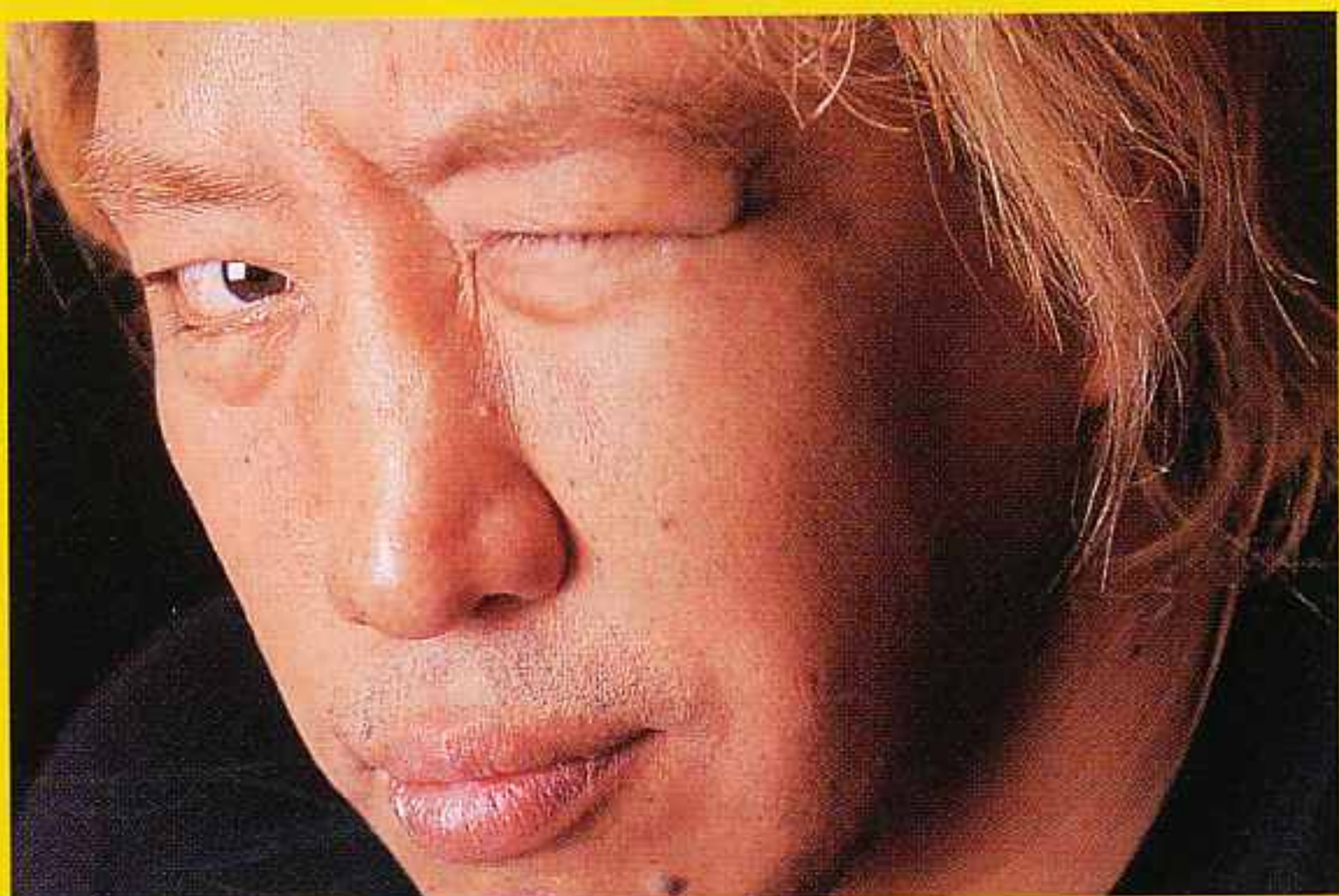
高山　別ですね。ノゲイラは「プロレスの敵」っていうイメージがないでしょ？　それに対してミルコは〝プロレスハンター〟って言われて、出だしは藤田和之、それから永田とやって、高田さんともやって、サクもあって……そういうのがあるから高山が出る意味があるんですよ。だからミルコがないんだったら俺もないよ。間違いなくない！　それでも、どうしても『イノキ・ボンバイエ』に出ろ！」って言われたら、猪木さんとのエキシビジョンだったらいいかな（笑）。ワハハハハハ！

――「ジャイアント紅白仮面」として出ますか（笑）。

高山　でも、これは真面目な話、俺は別に所属選手じゃないからね。ミルコが来なかったら白紙ですよ。主催者は困るだろうけど、俺だって被害者なんだから。ミルコと闘うために、頑張って練習してるんだからね。

――そうですよね。いろんなものを犠牲にしてやってるわけですからね。もう「損害賠償払え」ぐらいの勢いですか？（笑）。

高山　ホント、そうですよ。その新聞っていつ出たんですか？

――11月の下旬ぐらいですね。

高山　じゃあ、『PRIDE』のドームが終わったあとぐらいですね。とにかく、今回の『イノキ・ボンバイエ』に関してはミルコだから出ます！　以上！

――わかりました。では、高山さんは『イノキ・ボンバイエ』の4日後にも、中邑真輔選手とのIWGP・NWF統一戦があるわけですけど、これはミルコ戦と表裏一体というか、A面B面みたいに一緒に考えてますか？

高山　A面B面っていうか、1月10日にノアの新春第一弾武

高山善廣

『ハッスル1』は企画段階から話に参加させてくれれば違ったかも

道館もあるんで、豪華三本立て！（笑）。

——ノアの武道館も出るんですか！　ムチャしますねぇ（笑）。

高山　でも、そんな自分が結構、好きなんですよ（笑）。試合したくても出れない人もいるし、出たってどうでもいいカードで「そこでやってて」みたいな人もいるわけじゃないですか。そういう中で、こんだけ我が者顔で三つのリングを渡り歩ければ俺も大したもんだと思いますよ。

——プロレスラー冥利に尽きるというやつですね（笑）。で、ドームの相手である中邑選手ですけど。デビュー2年経ってない選手がＩＷＧＰ王者になったことについては、どう感じていますか？

高山　別に、それはそれでいいと思いますよ。この業界は最近、あまりにも30を過ぎないとチャンピオンになれない雰囲気があるんで。

——『Ｕ－30（アンダーサーティ）』王座みたいなのが出来ちゃったぐらいですからね（笑）。

高山　『Ｕ－30』がだいたいナンセンスなんですよ！　やっぱり猪木さん、馬場さんが初めてベルトを巻いたのは20代だし、鶴田さん、藤波さん、前田さん、高田さんだってそうでしょ？　長州さんが特別なんですよ。30越えて、やっと革命児として出てきたっていうのは。そう考えれば、別に中邑がベルト獲ったのは驚くことじゃないだろうし、本来のスポーツのあるべき姿ですよね。だって、凄い奴は最初から凄いじゃないですか、野球にしたって、サッカーにしたって、デビューしていきなり何連勝もしちゃうピッチャーとかもいるわけじゃないですか。

——モノが違うっていうのはありますよね。

高山　そうそう、それがないのがおかしいんであってね。だから、新日本の同世代は一通りやったから、これからは中邑とか棚橋の世代をイジメるのが楽しみですよ（笑）。

——今度はそういう若い選手たちが真のトップに立つための巨大な壁になってやろうっていう気持ちはありますか？

高山　う～ん、俺は動かない壁になるつもりはないですね。何て言うのかな……車を潰す機械があるじゃないですか？

——プレス機ですか（笑）。

高山　そう、それ。ボクはただの壁じゃなくて、プレス機なんですよ。そのプレスをはね除けるような強い相手を望んでるんで。壁なんて体力があれば簡単によじ登れますから。

——じゃあ、90年代初頭に小橋選手をブッ潰してたスタン・ハンセンみたいな感じですか？（笑）。

高山　ワハハハ！　どうなんですかねぇ（笑）。ただ、ハンセンは小橋建太を育てようと思ってやったんじゃなくて、ホントに潰そうとしたんだけど、それをはねのけた小橋がいたからこそ、いまの小橋健太がいると思うんですよ。だから、ボクも育てるどうこうの意識じゃなくて、「ダメなら死ね！」って感じですね。

——ガハハハハ！　ダメなら死ね（笑）。

高山　そうじゃないと意味ないですよ。「よしよし」ってやってちゃ、絶対ダメ。

——新日本には結構、若いいい選手が揃ってきてますけど、潰しがいのある選手って誰ですか？

高山　やっぱり中邑と棚橋。あと柴田あたりは潰されても上がってくるかもしれないんで、そういう楽しみはありますね。吉江あたりだと逆にペシャンコに潰されそうだから、ワハハハハ！

——体型がプレス機みたいなもんですからね（笑）。じゃあ、そういった闘いのスタートが1・4になるわけですね。

高山　ただ、面白ければやるし、つまらなければ新日本にこだわらないで、ノアで小橋健太をイジメたほうが面白いしね。

——小橋戦ですか！　それプロレス界の切り札カードですよ！

高山　新日本ではひと通りやったけど、ノアになって秋山も小橋もシングルでやってないんですよ。じゃあ、ノアがホントに東京ドームでやるんだったら、自分で言うのもなんだけど、俺と小橋建太なんじゃないかって。ノアらしさから言えば、秋山や三沢なんだろうけど、ノアらしさを追求したらやっぱり武道館から出れないもん。武道館に来るお得意さんだけじゃ、ドームは埋まらないからね。

——ならば、いまこそ高山vs小橋戦をやるときだ、と。

高山　小橋建太が煮込めて、だいぶいい味になってきたから、そろそろっていうのはありますよ。作り立てのカレーをすくったってしょうがないんだから（笑）。

——相当いい味になってますよね（笑）。

高山　こういうタイミングが巡ってくるというのは、武藤さんじゃないけど、プロレスの神がそうしてるんだと思いますよ。やっぱ「プロレスＬＯＶＥ」（笑）。

——ガハハハ！　高山善廣の口から「プ

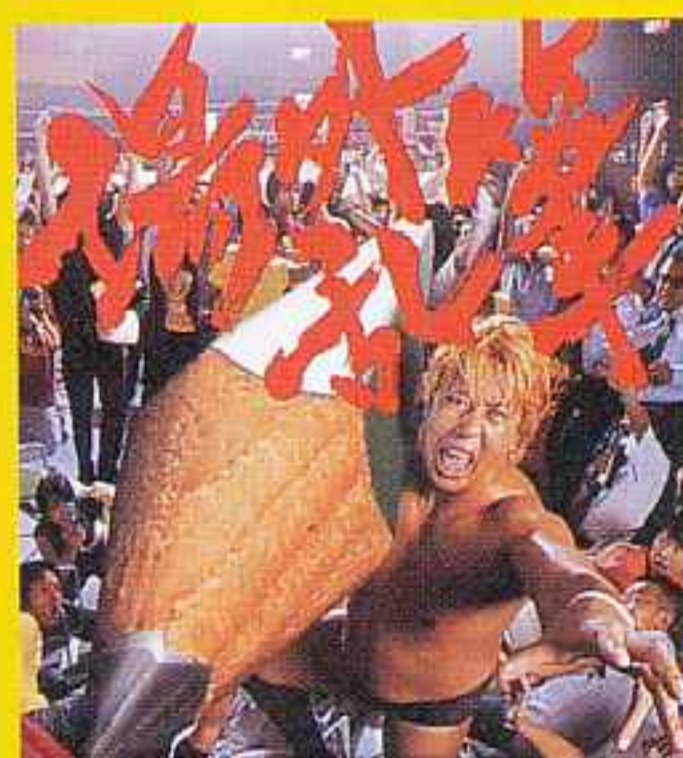
12・9大阪で天山広吉を破り、史上最年少（23歳）ＩＷＧＰ王者となった中邑真輔。1・4ドームでは、高山とＩＷＧＰ・ＮＷＦ統一戦、その前に大晦日イグナショフ戦もある。

ロレスLOVE」が出ますか（笑）。
高山　でも、俺の場合は、プロレスが俺をLOVEしてるね。LOVEｓMeなんですよ（笑）。
――プロレスに惚れられちゃあ、しょうがない、と（笑）。
高山　そういうことだね。
――では、プロレスに惚れられている高山さんから見て、1・4ドームの裏で始まる新イベント『ハッスル1』については、どんな印象を持ちました？
高山　そうだなぁ、まず名前がダサイ！
――ますはそこ（笑）。
高山　みんな名前がダサイって言ってるでしょ？　死語になりつつある言葉を蘇らせた功績は認めるけどね（笑）。
――イベントとしてはいかがですか？
高山　どうなんですかねえ。とりあえずZERO-ONEが絡んでやるっていうだけで、実態が見えないじゃないですか。もし『ハッスル1』っていう企画があった段階で、「高山君、やりたいから協力して」って榊原さんが言ってきて、俺をその話し合いに突っ込んで、参加させてくれたら違ったかもしれないけど。わけわかんないのに「どうですか？」って言われても何も言いようがないですよ。
――高田さんの本の影響もあって、業界では「あそこと関わらない方がいい」みたいな空気ができてますが、高山さんにはそういう思いはありませんか？
高山　高田さんの本に関しては、まだ読んでないからわからないですね。噂では聞くけど、自分で読まないと喋れないんで。それとは関係ナシに、前にあった『WRESTLE-1』が結局あんなだったでしょ？　あれは全然いいとは思えなかったからね。あれの延長だったらダメでしょう。
――まずはお手並み拝見と。
高山　そうだね。
――では来年、高山善廣が闘ったら面白いと思う相手って、小橋選手以外には誰かいますか？
高山　あとはそうねぇ、これは全然話があるわけじゃないけど、川田さんが三冠ベルトを巻いてるから、それをブン獲りに行くのも悪くないかなって（笑）。
――川田vs高山！　それはいい！（笑）。
高山　いまの全日本は全日本でなくなってますけど、その瞬間、あの時の全日本がちょっと蘇るんじゃないですか？　俺も生粋の全日本っ子じゃないけど、あの時の全日本には確かにあった風景ですからね。
――それはやる意味がありますよね。
高山　タイトルマッチの認定書をハンセンに読んでもらってね（笑）。そういう意味のある絵っていうのは結構面白いと思いますよ。だから自分の思いこみだけでなく、ファンが面白がってくれる、そういうこともやっていきたいですね。
――わかりました！　では、大晦日、1・4ドーム、ノア武道館、大晦日の豪華三本立て、期待してます！
高山　まぁ、とりあえず、新日本のドームでリストラされないように気を付けますよ（笑）。藤波さんに続くリストラ第2号ならないようにね。ワハハハハ！

【03年12月15日／高円寺『東京飯店』にて収録】

高山堂長袖Tシャツ登場！
M・L・XLを各2名様にプレゼント!!

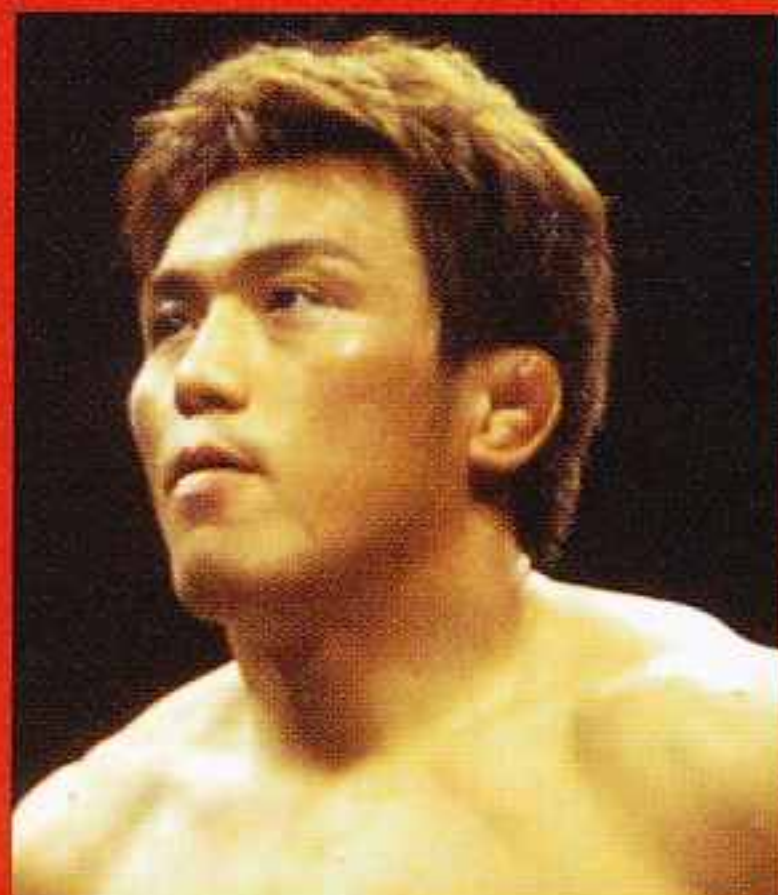
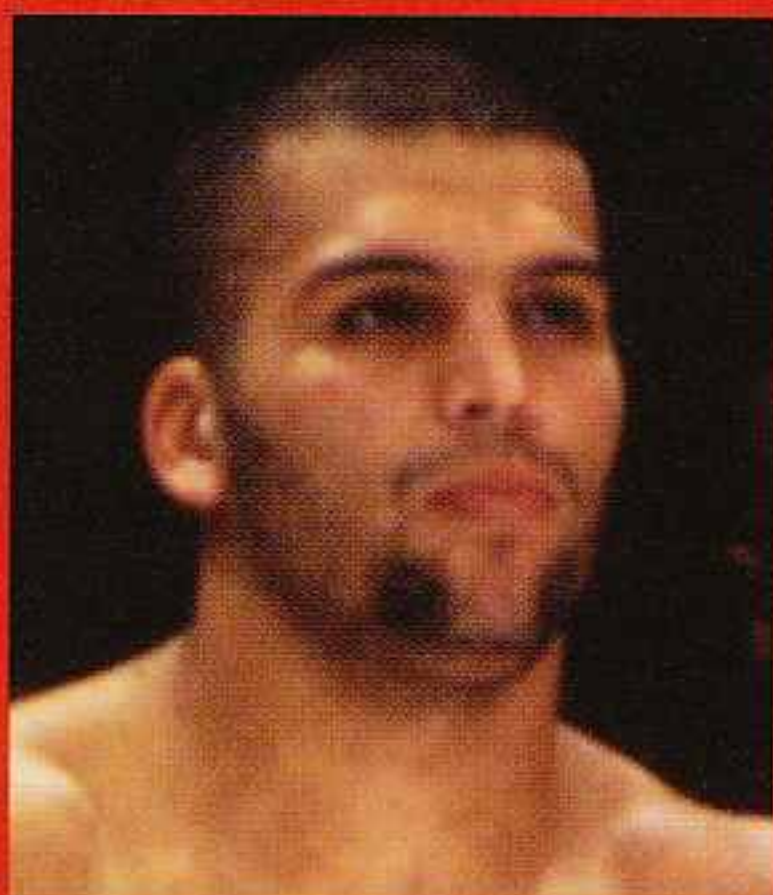
BACk　FRONT

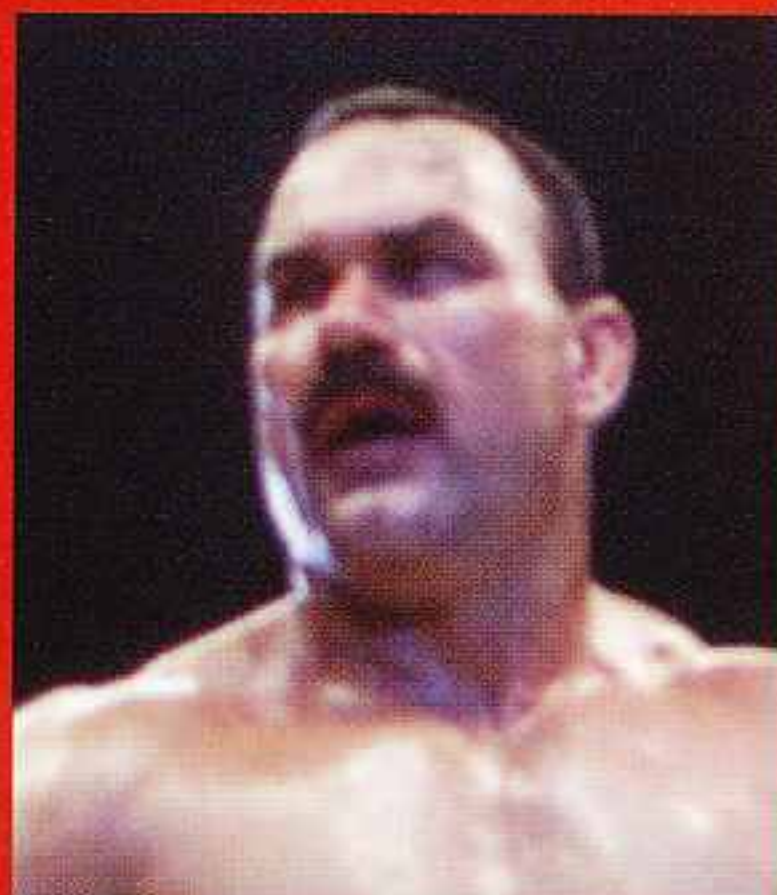
高山堂の新作ロングスリーブTシャツを、なんとM、L、XL各2枚ずつプレゼント！ 応募方法はP157参照。
高山堂オフィシャルHP（http://www.takayama-do.com/）でも発売してます。¥3,500

高山善廣エッセー本
3名様にプレゼント！

高山選手の原稿は大変危険です！

高山善廣デイリースポーツ紙で連載していた人気コラム"場外乱筆"が、東邦出版からが単行本として発売中！（税別定価1,300円）"活字レスラー" 高山ならではの毒舌＆ユーモアは単行本でも健在だ。この本を3名様にプレゼント。応募方法はP157参照。

『PRIDE・SP男祭り』出場候補選手
"男"になるのは誰だ!?

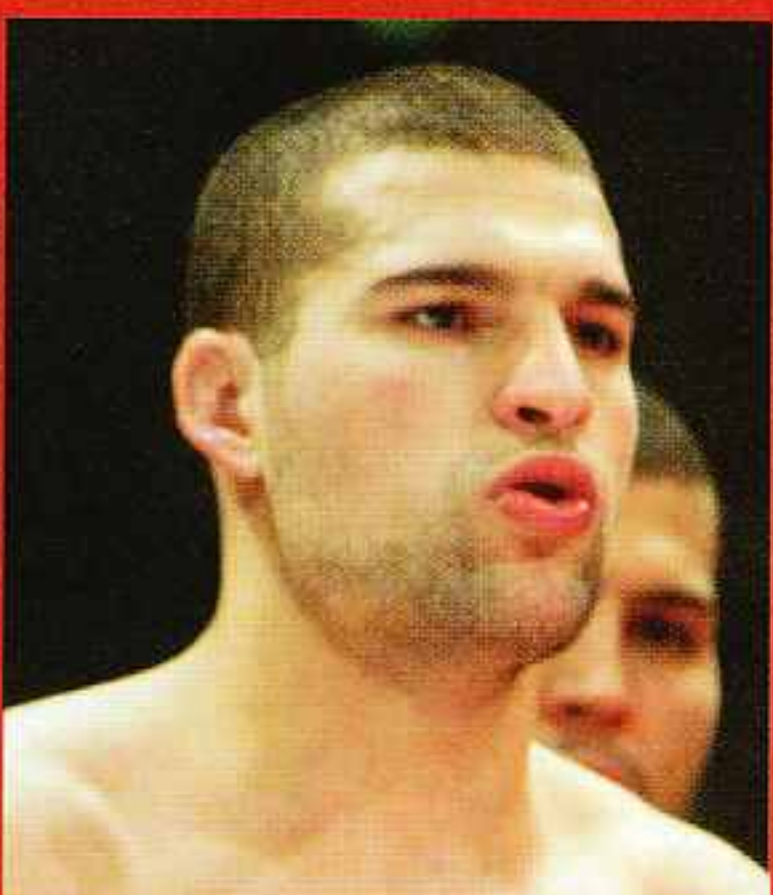
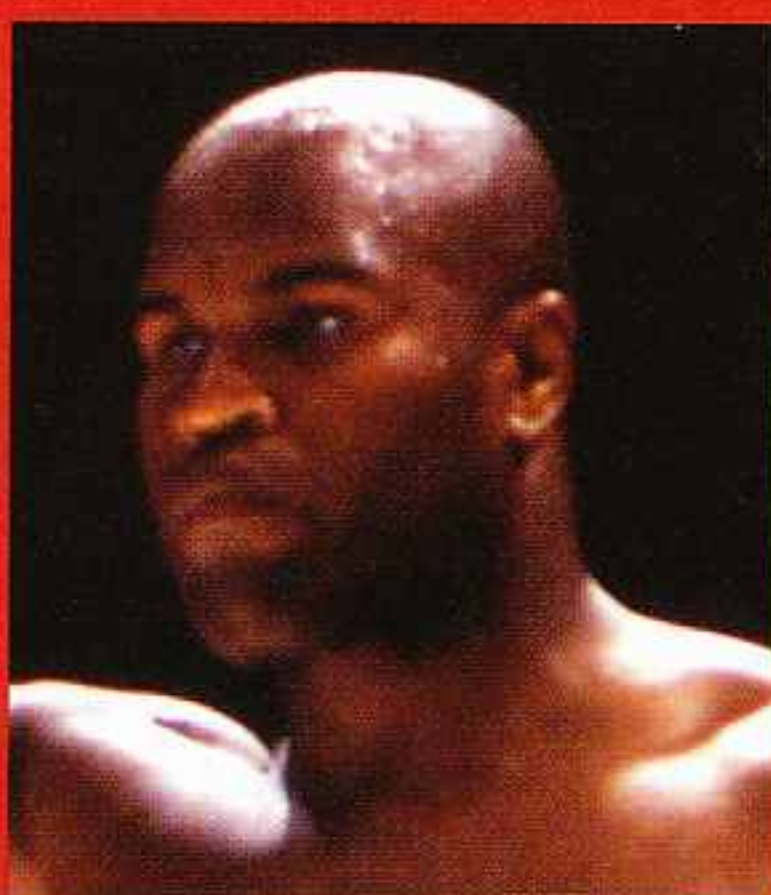
PRIDE SPECIAL 男祭り 2003

近藤有己

ムリーロ・ニンジャ

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

ドン・フライ

ヒース・ヒーリング

マウリシオ・ショーグン

ゲーリー・グッドリッジ

参戦決定!

桜庭和志

美濃輪育久

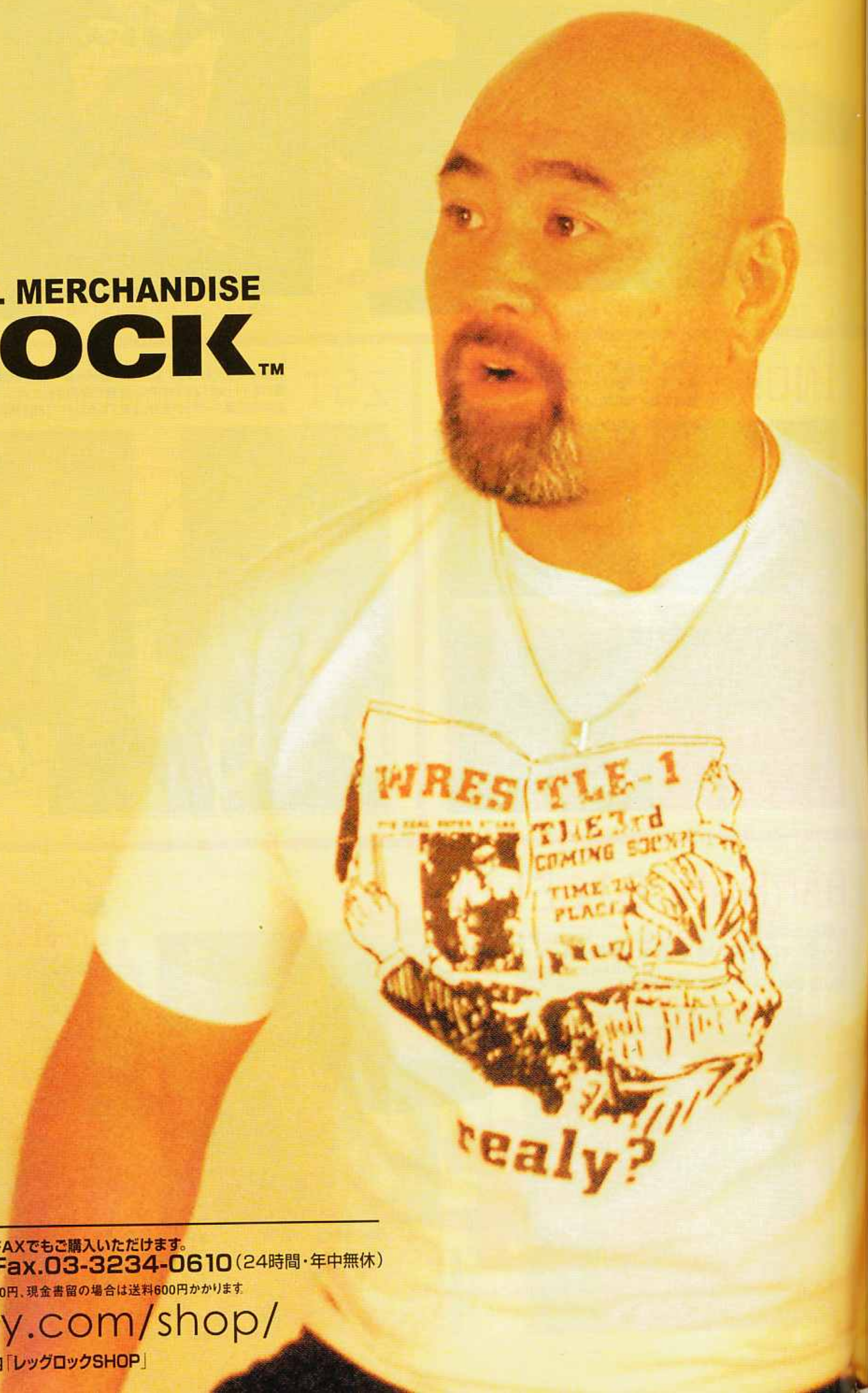
決定カード

桜井"マッハ"速人 VS 高瀬大樹

"男"の祭りになるのか!? 締切超ド直前の19日の段階では、決定カードが吉田vsホイス、坂田vsハイアン、高瀬vsマッハの3カードのみとなっている『PRIDE・SP男祭り』。現時点で参戦がほぼ決定している選手、そして参戦が噂されている選手は、上にズラリと並んだ写真のとおりである。

日本人選手からは、『PRIDE』の顔である桜庭和志の登場が決定しているが、現在ブラジル武者修行中の美濃輪育久が大晦日出陣を発表! イベント名こそは口にしなかったが、『男祭り』登場が有力視されている。また、業界では、『猪木祭り』参戦が濃厚とされていたパンクラス・ライトヘビー級王者、近藤有己の『男祭り』参戦が囁かれている。近藤は菊田に快勝後、「ヴァンダレイ・シウバと闘いたい」とのコメントを発していたが、シウバはケガの手術を終えたばかりで参戦自体が消滅。しかし、早くから大晦日出陣を想定していた近藤だけに出陣意欲は欠けていない模様で、他のイベントも含めて、近藤の動向にはギリギリまで注目である。

ガイジン選手からは、ランペイジがアメリカ現地で「日本人相手で闘うことになる」とコメントを残している。対戦相手が"日本人"ということになれば、桜庭との再戦、もし参戦するのであれば美濃輪、近藤に限定されるが……。いずれにせよスリリングな組み合わせになることは必至だ。

他には、ヘビー級からグッドリッジ、ヒーリング、マリオ・スペーヒー、そして『男祭り』に最も相応しい『PRIDE』男塾・塾長、ドン・フライの登場が濃厚。ミドル級からは、ショーグン、ニンジャのシュートボクセ部隊が殺戮準備完了。大晦日戦争"最大の切り札"として、超ドリームカードが検討中とされているが、今年の総括及び来年の展望を含めて、『PRIDE』がどんなカードを出してくるのか期待しよう! 男なら、ちょっと待ってろや!!

PRIDE SPECIAL
男祭り2003
さいたまスーパーアリーナ
12月31日　開場:16:00　開始:18:00

【放送】
フジテレビ系列にて18:30〜23:30

【対戦カード】
吉田秀彦 vs ホイス・グレイシー
坂田亘 vs ハイアン・グレイシー
桜井"マッハ"速人 vs 高瀬大樹

【チケット料金】
VIP席¥100,000(専用入場ゲート、グッズ付き)
RRS席30,000／スタンドS席16,000／スタンドA席7,000

【お問い合わせ】
ドリームステージエンターテインメント 03-5464-1531

PRIDE

グッズの中のグッズたちよ、出てこいやぁ!! というわけでDSEから新商品登場!『男祭り』と『ハッスル1』はこれを着て、高田統括本部長ばりに"おまえ男だ"ポーズをビシッと決めよう! 【DSE提供】
[TEL] 03-5464-1531 [URL] http://www.so-net.ne.jp/pride/

ハッスルするぞ! 応募もするぞ!

RADICAL PRESENT

★PRIDEステッカー
¥1000

★男の中の男 決めようや! Tシャツ
¥3800／S〜XL

★男祭り2003 Tシャツ
¥4000／S〜XL

★『ハッスル1』Tシャツ

各1名様

BACK

INOKI

「アントニオ猪木 オレ自身がパチスロ機」の発表イベントで戴いた非売品セットをプレゼント。馬鹿になって応募しよう!! 【平和提供】

セットで2名様
★アントニオ猪木ストラップ&パチスロサウンドCDセット

ZST

好勝負に次ぐ好勝負! ZST四天王が全員一回戦を突破し大爆発した11・23『ZST・GP』。会場で発売されたパンフレットとZST非売品ストラップをセットでプレゼント! 【ZST事務局提供】

★ZST・GP2003パンフレット&ZSTストラップ(非売品)セット
セットで6名様

★ZST四兄弟Tシャツ
3名様

BACK

BAMBAM BIGELOW

10月4日、川崎ラ・チッタ・デッラにオープンしたb-STYLEも要チェック! パーカーやスウェットなど新アイテム続々入荷中! 詳しくは下のアドレスにレッツ・アクセス!! 【BAMBAM BIGELOW提供】
[TEL] 03-3460-1145 [URL] http://www.bambam88.com

★マサ・サイトーCAP
Black&Grey／¥2900

★BBB&HAOMING&AAA トリプルネーム ラパルカTシャツ
¥3000

各1名様

★マサ・サイトー ロングスリーブTシャツ
White／¥5800

★マサ・サイトー ロングスリーブTシャツ
Charcoal Grey／¥5800

BACK

HAOMING

AAA上陸直前! フービー率いるX teamTシャツと、ロゴマークとマスクマンが型押しされたリストバンド&キーホルダーを「ハオミン」が提供! 立体的なマスクが素敵すぎるメキシカンテイストたっぷりなアイテムも新発売! 【HAOMING提供】
[TEL] 03-3452-3666　[URL] http://www.haoming.jp

★マスク・ウォレットチェーン　1名様
￥8800

★マスク&マリア・ネックレス　1名様
￥3400

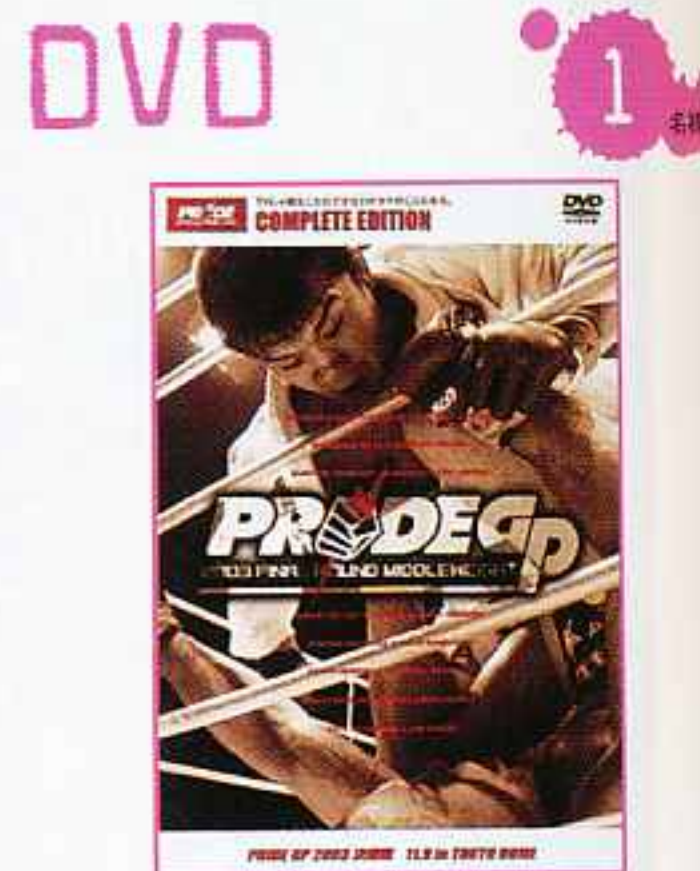
★AAAリストバンド　1名様
￥3600

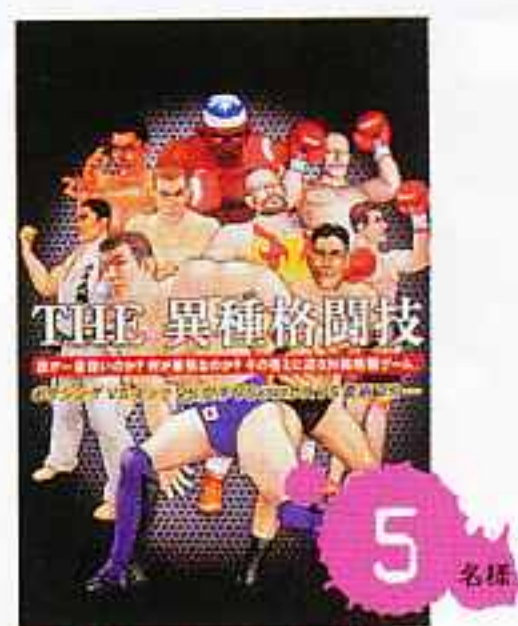
★AAAキーホルダー　2名様
￥2000

★X team Tシャツ　1名様
SIZE M

WJ

★WJ特製福袋　￥7000　1名様
★2004・1・5後楽園大会チケット　5組10名様
ヴァー! WJから目ん玉飛び出るようなプレゼント! マグマグッズがいっぱい詰まった福袋を1名様、そして1・5後楽園大会（中嶋くんデビュー&ゼロワン勢参戦!）チケットを5組10名様に!
【WJ提供】[TEL] 03-5458-5915

DVD

★『PRIDE GP2003 決勝戦』DVD　1名様
￥4800＋税〈2004年1月30日発売〉
『PRIDE』史上最高の盛り上がりを見せた11・9のGP決勝戦が待望のDVD化! 日本を背負った吉田が、無敵の王者・シウバに挑む!
【(株) メディアファクトリー提供】
[TEL] 03-5469-4880
〈10:00～18:00／土日、祝日は除く〉

GAME

★THE 異種格闘技　5名様
プロレス、柔術、空手、グラビアアイドル……。各種目の達人10人がリングに終結! 誰が一番強いか決めたらええんや!
【ディースリーパブリッシャー提供】
￥2000＋税
[TEL] 東京/03-5786-1374
名古屋/052-774-0683
[URL] http://www.d3p.co.jp/

666

★ザ・シーク様追悼Tシャツ　￥3200　3名様
カリスマCDレーベル『殺害塩化ビニール』のザ・クレイジーSKB社長から限定シークTシャツをゲット! 怨霊と旗揚げした新団体『666』も要チェックだ!!
【殺害塩化ビニール提供】

ANTiSEEN&POGO

セットで2名様

68号の情報ページで紹介した問答無用のアウトロー・スカム・パンクバンドANTiSEEN。彼らのCD2枚、限定ベースボールTシャツ、ポスターの4点セットをまとめてプレゼント! どれもこれもANTiSEENが神と崇めるポーゴ様をあしらった素敵な逸品だ!
【DIWPHALANX RECORDS提供】
[TEL] 03-5295-8948

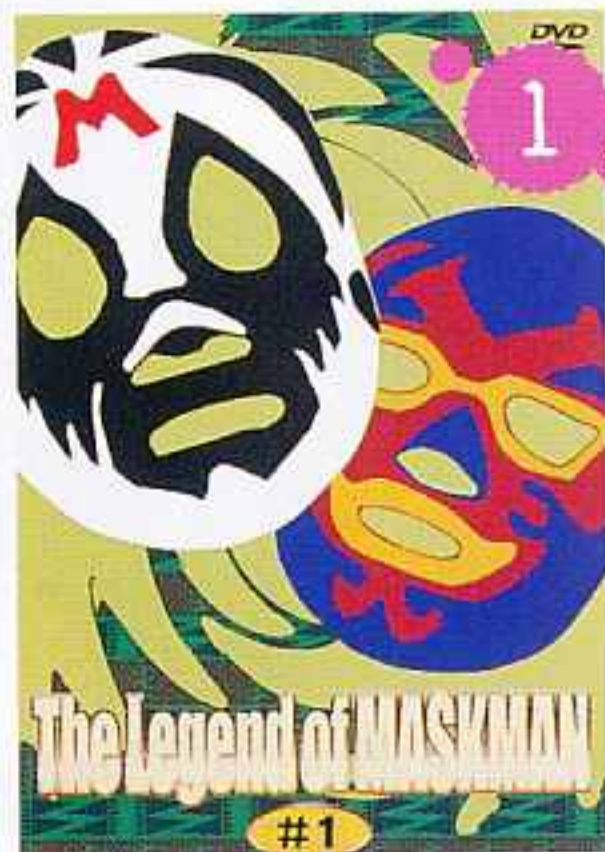
★Mr.ポーゴ ロングTシャツ
￥3800＋税（限定100枚）

★ANTiSEENポスター

★THE GREAT POGO HITS／ANTiSEEN
￥2200

★YELLOW TRASH SPLIT'S CD STUPID BABIES GO／MAD&ANTiSEEN
￥1500

DVD

太っ腹なこと、この上なし! クエストがまたまたDVDをドドーンとプレメmント! 痒いところに手が届いたラインナップに応募せずにはいられない!!【クエスト提供】
[TEL] 03-3360-3810　[URL] www.queststation.com

★The Legend of MASKMAN　1名様
世界一華麗な兄弟マスカラス&ドス・カラスと、U・ドラゴン、ライガー、サムライ、ジェリコ、邪道、外道たちとの名勝負を多数収録した至玉の一本!

★鉄人ルー・テーズ／ルー・テーズ最後の雄姿　セットで1名様
不滅の金字塔936連勝を打ち立てた鉄人ルー・テーズ。NWA王者としてアメリカ大陸を股にかけてサーキットし、タム・ライス、ドン・レオ・ジョナサン、ジン・キニスキーらとの色褪せない名勝負の数々が蘇る!「鉄人ルー・テーズ」、「ルー・テーズ最後の雄姿」の2本をまとめて1名様に!!

★全日本キック ライト級最強決定トーナメント　1名様
小林、花戸、大月、金沢ら強豪が揃ったトーナメントを始め、サムゴー&小林特集、ベストバウトセレクションなど全日本キックの名勝負がこの一枚に凝縮!!

★軍隊格闘術コマンドサンボ［上・下］　1名様
"1000の関節技を持つ男"ヴォルク・ハン。その弟子エメリヤーエンコ・ヒョードル。彼らのバックボーンが、戦場における様々な状況に対処するための白兵戦用格闘術コマンドサンボだ! このDVDでは上下巻に渡り、その奥技の数々を特殊部隊所属兵士が次々と公開。目指せ、第二のヴォルク・ハン!

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦今年のMVP&ワーストMVP
⑧今年のマット界流行語

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「泣き虫呼んでこい」係まで
※締切は2004年1月24日（土）当日消印有効

BOOKS

★無意識の教育　￥1800＋税　3名様
急増する少年犯罪、家庭内暴力、引きこもり……。空手道禅道会を設立した小沢隆が「無意識の意識化」で問題解決に導く!
【小沢隆提供】

★まっすぐに蹴る　￥1400＋税　5名様
石井館長の隠された素顔とは? そしてK-1から前田日明、『SATA…yarn』まで空手家・佐竹雅昭が総てを語る!
【角川書店提供】

★フレッド・ブラッシー自伝　￥2200＋税　3名様
故フレッド・ブラッシーの自伝本が登場! 壮絶な人生、そして様々な試合の衝撃的な真実が明らかに!!
【エンターブレイン提供】

広告ページ

PlayStation.2

涙に沈んだ小笠原戦に続いて、
再び“指名試合”に挑む!!

アレクサンダー大塚vs

SIMPLE2000シリーズVol.42

THE異種格闘技

～ボクシングvsキックvs空手vsプロレスvs柔術…～

絶賛発売中!!
¥2000（税別）

世界最強は『THE異種格闘技』が決める!!

シリーズ累計1000万本を突破！ ソフト価格がすべて¥2000ポッキリの『SIMPLE2000』シリーズから、対戦格闘ゲームの決定版『THE異種格闘技～ボクシングvsキックvs空手vsプロレスvs柔術…～』が堂々の登場だ!! リーズナブルな値段に加えて、対戦格闘ゲームにありがちな複雑で難解なボタン操作は一切不要のこのソフト。『THE異種格闘技』のタイトル通り、空手、ムエタイ、ボクシング、柔術、バード、キック、プロレスラー……各ジャンルのトップファイターたちを自由自在に操ることが可能であり、実際の試合さながらの激闘を、画面で再現することができるのだ！

〝ゲーム通〟を自認しており、さっそくゲームプレイに名乗り挙げたアレクサンダー大塚も、各ジャンルの特性を見事に活かしたクオリティの高さにビックリ。「誰にでも楽しめる。ワイにもできた！」と御満悦の表情で興じていると、このソフトに〝プロレスこそ最強〟の想いを注ぎ込んだ、ゲーム制作者の岡島氏が姿を現した。岡島氏は、自ら〝プロレスの天敵〟である柔術家キャラを選択して、〝プロレス再興〟を懸けてアレクに対戦要求！ とはいっても、岡島氏はヒールキャラを意識して某柔術道場Tシャツを着込んでくる芸の細かさで、アレクの回答待たずしてやる気満々なのだから、問答無用で対戦に突入!!

勝敗の行方は別欄参照していただきたいが、ゲームにトライしてわずか15分足らずのアレクと、「ゲームは作ったけどプレイは上手くはない」岡島氏。そんな2人が、そもそもゲームで〝プロレス再興〟を懸けていいのか？ という疑問もあるが、そんなことはどうでもよろしい。なぜなら『THE異種格闘技』は最高に面白いから、何をやっても許されるんです!! ゴチャゴチャ言わんと〝誰が一番強いのか？〟〝何が最強なのか？〟、白黒ハッキリ決めようやーっ!!

簡単操作で
ワイにもできた！
むは～！

シンプルで簡単!!『THE異種格闘技』プレイテクニック

高田本部長に負けじと、インターバル後に超パワーUP!!

体力ゲージ　根性ゲージ

ノックダウンのカウント中に、方向キー＆ボタンの連打で「体力」＆「根性」ゲージを回復できるが、インターバル中も同様のシステムとなっている。劣勢であれば次ラウンドに備えて高速連打するしかない。また、ラウンドは3分、5分、10分、無限大、ラウンド数は1～5Rから選択ができる

タックル＆関節技はボタン連打が命!!

「極め」状態になり、画面に「ボタン連打!」ゲージが表示されたら、高橋名人に変身するしかない!! お互いに方向キー＆各ボタンを押し続け、極められている方はゲージを満たさないと脱出は不可能。モタモタしていると、「体力」＆「根性」が低下する。テイクダウンの攻防も、連打がカギを握ることも

攻撃をかわせ！カウンターで反撃だ！

スタンド・アクションは、各自の「打撃」、「タックル」、「投げ」、「極め」、「必殺技」、「コンビネーション」、気力UPの「アピール」、ダメージを半減できる「ガード」があるが、習得を欠かせないのが「返し技」だ。画面のように相手のハイキックをキャッチして、逆襲することができるのだ

一寸先はハプニング！緊張感漂う猪木アリ状態!!

気力ゲージ

スタンド＆グランドの攻防だけではなく、猪木アリ状態の攻めぎ合いも勝敗のポイントになる。ダウン中の相手に追い打ちをかける場合はカウンターに注意！ あんまり寝ているようだったら「アピール」ボタンを押して「気力」のUPだ！「気力」ゲージが上昇すれば必殺技が繰り出せるぞ

PLAY TECHNIC

ゴチャゴチャ言わんと
誰が一番強いかハッキリさせろ!!

『THE 異種格闘技』登場キャラクター

CHARACTER

イヴァン
Russia
総合格闘技
殺戮度 ★★★

ミルコ+ヒョードル÷2=イヴァン!? 現実に存在したら、あまりの強さに対戦拒否者続出は間違いなしのサイボーグキャラ。世界最強は酷寒の戦士だ!

レオンハルト
Germany
キックボクシング
立ち技度 ★★★

多彩なコンビネーションとエッジな瞬殺技を持つ欧州最強のキックボクサーは、イヴァンに匹敵する実力者。キックこそ一番に決まってる!

ナーガ
Thailamd
ムエタイ
鋭角度 ★★★

「バックエルボー」「ジャンピングニー」「膝地獄」……すべての必殺技が鋭く相手の肉体を切り刻むムエタイ王者!! やっぱりムエタイが最強ザンス!!

バッファロー
U.S.A.
ボクシング
クライム度 ★★★

格ゲー定番キャラであるタイソン風味なボクサーも『THE異種格闘技』はしっかりカバー! 金と名誉を取り戻すためにメガトンパンチを振るう!! ボクサーがナンバー1!

ダムド
U.S.A.
プロレス
パンク度 ★★★

「アメプロをショーなんて言う奴は地獄にブン投げてやる!」名前がダムドだけあって、まさしくパンクなセリフ全開! とにかくアメプロがキング・オブ・キングだ!

マウリシオ
Brasil
柔術
寝技度 ★★★

ブラジルより"寝技バカ一代"見参!! 寝技に頑固に拘った、我が道を行くファイトスタイルで敵を仕留める! すべての道は柔術に通じるのだ!

高村誠
Japan
プロレス
もう一丁度 ★★★

岡島氏いわく「いろんなレスラーを取り入れてるうちに、顔はダイエーの城島になってしまった」らしい打倒・柔術を悲願とするプロレスラー。ん〜もう一丁!

猪狩竜馬
Japan
プロレス
プロレス度 ★★★

昭和のストロングスタイル復興にすべてを懸ける、fuckin'平成デルフィンなプロレスラー! 必殺技はもちろん「延髄蹴り」「コブラツイスト」ダーッ!!

下地大吾
Japan
空手
一撃度 ★★★

押忍!! "空手こそ最強"という揺るぎない信念を胸に研鑽に励む日本男児!! 空手が地上最強だよ、キミィ!(マス大山調)

X
Japan
グラビアアイドル
セクシー度 ★★★

CPUが操る8名のファイターをクリアするとセレクト可能な隠しキャラ! じつは一番弱かったりするが、そのハッスルファイトは一見の価値あり!! ウッフ〜ン。

お問い合わせ　株式会社ディースリー・パブリッシャーサポートセンター
[TEL] 東京:03-5786-1374　大阪:052-774-0638　[HP] http://www.d3p.co.jp
※ゲームの内容、裏技等に関するご質問にはお答えできません

アレク vs ゲーム制作者

プロレスラーキャラで勝負

"スキンヘッド""プロレスラー"の共通項(?)からプロレスキャラ「ダムド」を選択したアレク。実戦経験わずか15分で制作者と勝負!

柔術家キャラで仕留めるぜ

"プロレスの天敵"柔術家を選択したソフトウェア事業部の岡島氏は、ヒールキャラを意識して、わざわざ某柔術道場のTシャツを着込む芸の細かさ!

柔術の極上テクニックがアレクを襲う!! プロレス技で逆襲だ! むは〜っ!!

鮮やかに極まった! 柔術家の腕十字がズバリ!

1

不用意に相手を掴みにいったアレクに、柔術家の「返し技」腕ひしぎ逆十字がガッチリ極まった! アレクは「連打解除」をすっかり忘れてしまった模様でダメージはドンドン増すばかり!

『THE異種格闘技』の真骨頂 豪快技がボンボン飛び出す!

2

操作が簡単な『THE異種格闘技』だけに、アッという間にゲームに慣れたアレクは徐々に反撃を開始。「技がかかる! かかる! むはむは〜!」と歓喜の声を挙げながら、ブレーンバスターを炸裂させた!

プロレスラーを翻弄三昧 "魔法の寝技"が次々と炸裂!

3

「必殺技・ラリアット」も飛び出したアレクだが、喜びを束の間。柔術家の「必殺技・三角絞め」の前に青色吐息! 「必殺技・オモプラッタ」で翻弄されるなど、1Rは岡島氏が優勢!

ゲームは2Rに突入 気力UPで逆転を狙え!

4

インターバル中に「体力」&「根性」を回復させたアレクは、「必殺技・パワーボム」を豪快に決めて逆襲開始!! 「アピール」を繰り返して「気力」ゲージを貯めるなど、一撃必殺の機会を伺う

ゲーム最大の醍醐味 目を疑うシーンの連続!

5

な、なんてこった! 柔術家がアメプロ・レスラーの「キャメルクラッチ」に悶えているよ! 同じく拷問技である「股裂きスプレッド」も喰らってしまうなど、柔術家は二重の屈辱を味わうことに!

アメプロが柔術に勝利 勝ったのはアレクだ!

6

プロレスラーが柔術家に勝った! 勝負は最終Rまでもつれ込んだが、主導権を握ったアレクは、最後は「必殺技・チョークスラム」で叩き付けて失神KO勝ち。アレクはプレ再起戦を無事、白星で飾った!

衣料部5周年記念!
『紙プロ』初の特製福袋発売決定!!

普段手に入らない非売品がいっぱい入ってこのお値段!

Sサイズ …… ¥3,000（限定20）
Mサイズ …… ¥5,000（限定20）
Lサイズ …… ¥5,000（限定20）

※Sサイズは『紙プロ』グッズ総額1万円以上、M/Lサイズは総額2万円以上の商品が入ってます。

『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★通販は『紙プロHand』でも可能です。

代引 郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを

kapra@kamipro.com

まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律￥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）。代引手数料約￥315がかかります（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留 希望商品の代金＋送料一律￥500（何枚でも可・ネックピースだけなら￥300。離島、山間部は除く）を現金書留で

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス

まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替 希望商品の代金＋送料一律￥500（何枚でも可・ネックピースだけなら￥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。

郵便振替の宛先は
00130-3-769154
（株）ダブルクロス

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

電話注文もできます!!
平日15:00～22:00
（株）ダブルクロス 03-3403-5142

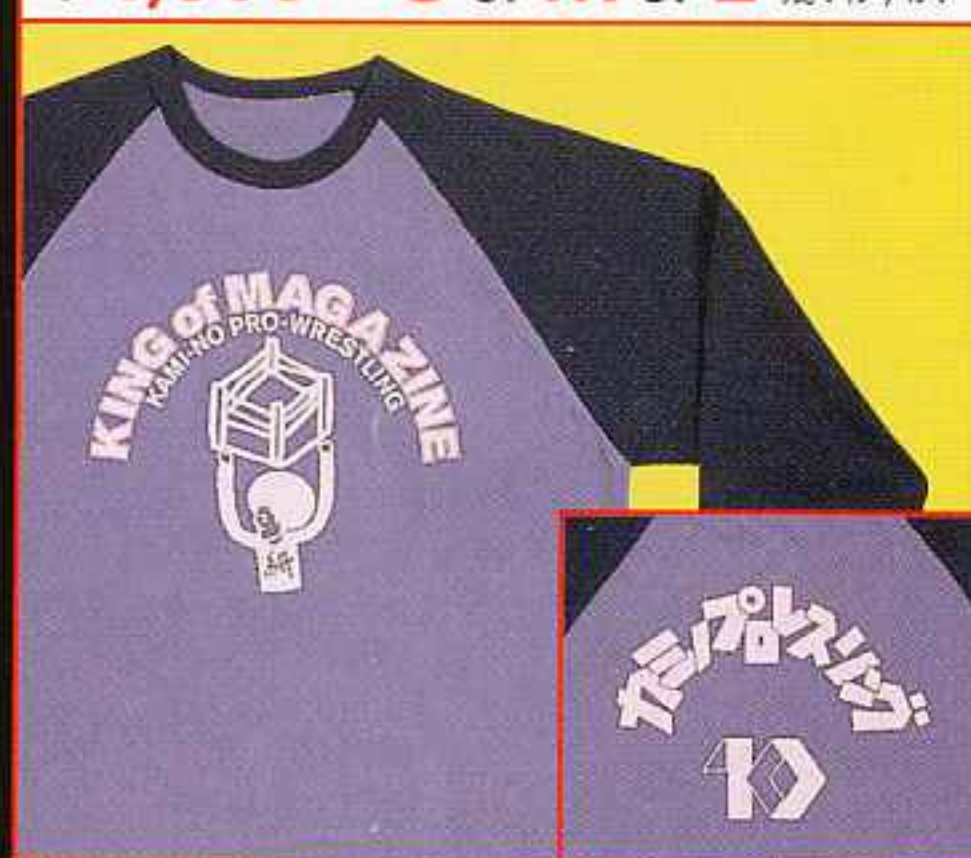
田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
￥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

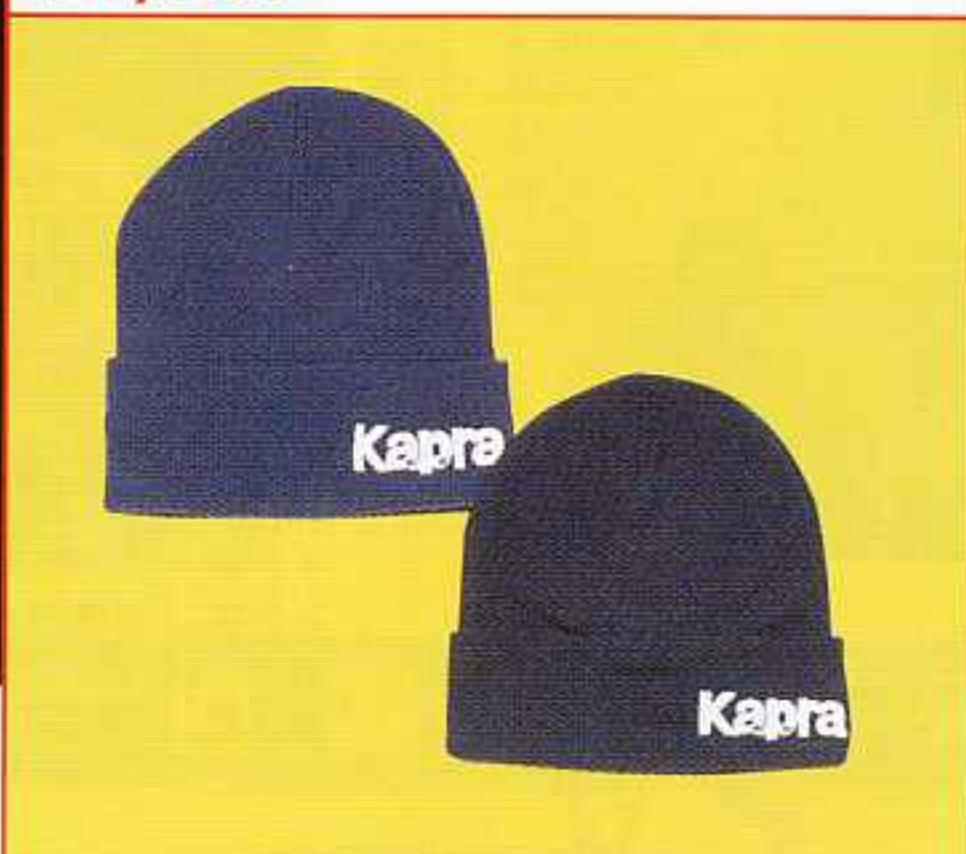
田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
￥3,800 S or M or L

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
￥3,800 S or M or L or XL

Kapraパーカー〈カーキ〉
￥6,000 M or L

Kapraパーカー〈ネイビー〉
￥6,000 M or L

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
￥4,500 S or M or L Lサイズ残りわずか!

トートバック〈ブラックor ネイビー〉
￥1,500

ニット帽〈ブラックor ネイビー〉
￥1,500

紙プロネックピース
￥~~1,200~~ ➡大特価 ￥600

紙のプロレス RADICAL
No.69
2004年1月25日発行

No.70は
1月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（興行戦争に巻き込まれたため非番）
見習い
斉野政智

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
体調
プリン体・入江（TwoThree）
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

『紙プロ』通販グッズは
電話注文できます!!
TEL.03-3403-5142
［平日15:00～22:00］

「サル者は追わず」ということではありませんが

ヒョードル SARU Tシャツ

（略してヒョー猿）

発売決定!!

1月&2月
限定発売

ヒョードル・マグカップ
¥1,200
NEW

ヒョードルSARU Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800 S or M or L or XL
NEW

エメリヤーエンコ・ヒョードルパーカー〈ネイビー〉
¥6,000 M or L or XL

ロシア『RTT』パーカー〈チャコールグレー〉
¥6,000 M or L or XL

ロシア『RTT』Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

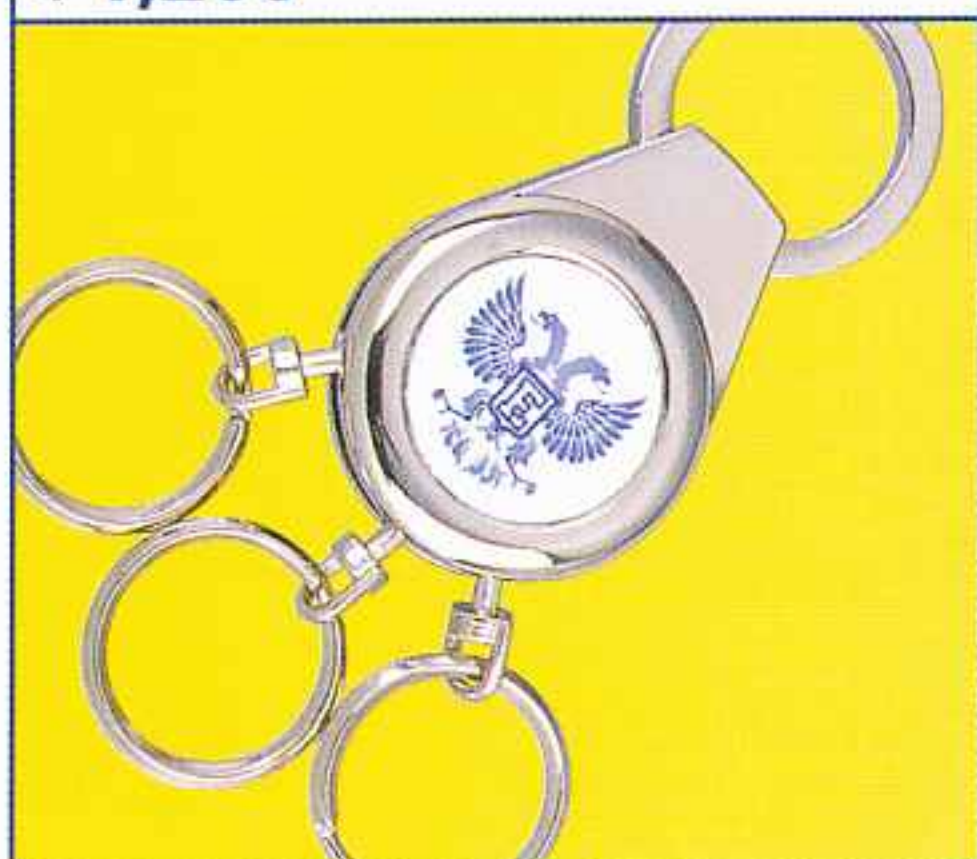
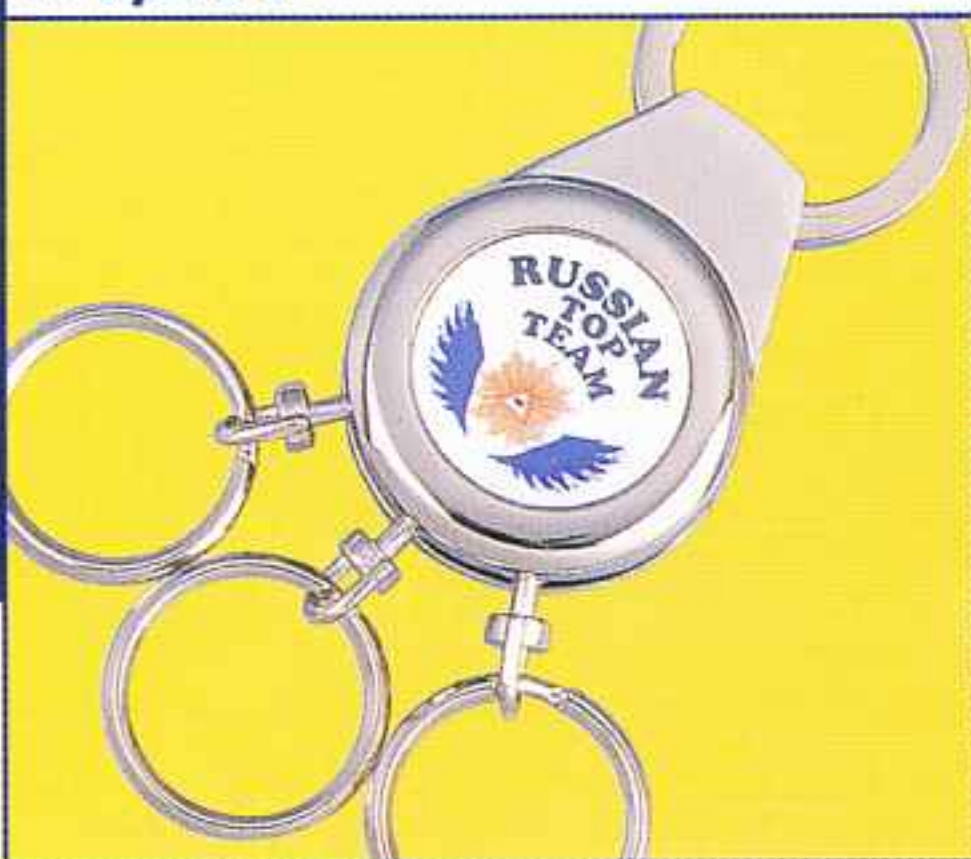
ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or L or XL

ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,800 S or M or L or XL

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL

『ヒョードル』キーホルダー
¥1,200

『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200

ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

通販完売商品は直販店にある!?

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237） ★東京イサミ（TEL.03-3352-4083） ★リングソウルZ神戸 （TEL.078-393-3514）
★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160） ★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551） ★福岡天神ビブレGROUND COBRA （TEL.092-711-1021）
★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658） ★三恵格闘技SHOP諫早（TEL.0957-22-4646） ★浜松市・Buddy（TEL.053-450-7888）

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 241
2004 NO. 69
大晦日も1・4も ドゥ・ザ・ハッスル!!
平成16年1月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体857円＋税

9784898297216
ISBN4-89829-721-8
C9476 ¥857E
1929476008572
雑誌 69860—41

印刷：図書印刷株式会社

☎INDEX

*50音及びアルファベット順

大阪プロレス ➡06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

キングダム・エルガイツ ➡0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

新日本プロレス ➡03-5468-3111
〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
http://www.njpw.co.jp/

掣圏道 ➡042-544-6979
〒196-0013 東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

全日本プロレス ➡03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-2
http://oudou.co.jp

全日本女子プロレス ➡03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

大日本プロレス ➡045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

髙田道場 ➡03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

高山堂 ➡03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803号 ジェイパーク渋谷イーストスクエア
http://www.Takayama-do.com

闘龍門JAPAN ➡078-333-9797
〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

ドリームステージエンターテインメント(PRIDE) ➡03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

バトラーツ ➡ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

パンクラス ➡03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

プロレスリング・ノア ➡03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

冬木軍プロモーション ➡045-241-6381
〒231-0048 神奈川県横浜市中区蓬莱町21-247 SSビル310

みちのくプロレス ➡019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

A to Z ➡03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

DDT ➡03-3868-9181
〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7 MORIMOTO FLATS 4F
http://www.ddtpro.com

DEEP事務局 ➡052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

FEG（K-1事務局） ➡03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S＆T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

GAEA JAPAN ➡03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

GCM COMUNICAION ➡03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

IWAジャパン ➡03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www01.vaio.ne.jp/IWAJP/

JDスター ➡03-5561-0522
〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
http://www.jdstar.co.jp/jd_star/index_j.html

JWP ➡03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jpw-produce.com/

KAIENTAI DOJO ➡043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

LLPW ➡03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

Love Impact ➡03-5545-4766
〒106-0044 東京都港区東麻布1-10-11東麻布アベビル3F
株式会社エキサイティング・トリガー内

NEO ➡044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

SMACK GIRL実行委員会 ➡090-1773-5647
（広報・勝井）
http://www.smackgirl.com/ info@smack girl.com

U-FILE CAMP ➡044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

UFO ➡03-5447-2121
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F

UNW ➡03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

U.W.F.スネークピットジャパン ➡03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

WJプロレス ➡03-3751-4546
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1
http://www.wj-pro.com/（12月31日まで）

WMF ➡049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

WWS ➡0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

ZERO-ONE ➡03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

ZST ➡03-5321-9595
〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

2004

1

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

3

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

4

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

紙のプロレス RADICAL 特製カレンダー by中川画伯

2004年も
ハッスルするぞ!!

みちのく■宮城・ニューワールドテニスクラブ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
大阪プロ■大阪・和泉シティプラザ弥生の風ホール(15:00)
WJ■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
国際プロ■鶴見青果市場(14:00)
ZST・GP決勝戦■東京・Zepp Tokyo(17:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■東京・JWP道場(14:00)
AtoZ■東京・後楽園ホール(12:00)

12 MON.

全日本■岡山・山陽ハイツ体育館(15:00)
みちのく■岩手・矢巾町総合体育館(14:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
WMF■埼玉・本川越ペペホール アトラス(14:00)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)

13 TUE.

闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
NOAH■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)

14 WED.

全日本■愛知・名古屋国際会議場イベントホール(18:30)
冬木軍■東京・後楽園ホール(19:00)
NEO■東京・渋谷Club ATOM(19:00)

15 THU.

NOAH■長野・諏訪市清水町体育館(18:30)
大日本■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

16 FRI.

全日本■埼玉・桂スタジオ(18:30)
NOAH■千葉・船橋アリーナ(18:00)

17 SAT.

ZERO-ONE■愛知・豊橋市総合体育館(18:30)
闘龍門■岐阜・岐阜商工会議所大ホール(18:30)
NOAH■東京・ディファ有明(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(18:30)

18 SUN.

ZERO-ONE■兵庫・明石市産業交流センター(17:00)
闘龍門■静岡・ツインメッセ静岡(15:00)
全日本■大阪・大阪府立体育館(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
JD■東京・後楽園ホール(12:00)
GAEA■東京・流通センター アールンホール(18:00)

19 MON.

ZERO-ONE■香川・高松市総合体育館サブアリーナ(19:00)
NOAH■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)

20 TUE.

ZERO-ONE■岡山・岡山卸センターオレンジホール(19:00)
NOAH■愛知・豊橋市総合体育館サブアリーナ(18:00)

22 THU.

ZERO-ONE■山口・周南市総合スポーツセンター(19:00)
NOAH■鳥取・米子産業体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
DEEP■東京・後楽園ホール(18:30)

23 FRI.

ZERO-ONE■広島・広島グリーンアリーナ小アリーナ(18:30)
NOAH■高知県民体育館(18:30)
AAA■東京・後楽園ホール(18:30)

24 SAT.

新日本■沖縄・沖縄県立武道館(18:00)
ZERO-ONE■島根・島根くにびきメッセ(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
AAA■大阪・IMPホール(18:30)
IKUSA■東京・六本木ヴェルファーレ(13:30)

25 SUN.

ZERO-ONE■福岡・博多スターレーン(16:00)
TORYUMON・X■東京・ディファ有明(16:00)
NOAH■兵庫・神戸ワールド記念ホール(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
TEAM KURISU■大阪・苅田土地改良記念館(13:00)
JD■大阪・なんばグランド花月(16:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(16:30)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(12:30)
AtoZ■東京・バトルスフィア東京(19:00)

28 WED.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■山口・山口リフレッシュパーク総合体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷Club ATOM(19:00)

29 THU.

闘龍門■広島・佐伯区スポーツセンター(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

30 FRI.

ZERO-ONE■大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)

31 SAT.

新日本■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
ZERO-ONE■東京・ディファ有明(18:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

RADICAL CALENDAR

12 December

25 THU.

ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■神奈川・小田原アリーナ(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
AtoZ■東京・東京武道館(18:30)

26 FRI.

ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ(19:00)

27 SAT.

闘龍門■埼玉・川越ぺぺホールアトラス(18:00)
WMF■東京・後楽園ホール(19:00)
K-DOJO■愛知・名古屋中スポーツ第2体育館(19:00)
大阪プロ■大阪・ひらかたパーク(14:00)
DEMOLITION■東京・東京FMホール(18:00)
U-FILE CAMP■東京・西調布格闘技アリーナ(14:00)

28 SUN.

『SAEKI祭り』■東京・ディファ有明(18:00)
闘龍門■埼玉・川越ぺぺホールアトラス(15:00)
K-DOJO■東京・後楽園ホール(19:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
JD■東京・後楽園ホール(12:00)

29 MON.

DDT■東京・後楽園ホール(18:30)
キングダム エルガイツ■東京・Z-ZONE永山(19:00)

31 WED.

『K-1 Dynamite!!』■愛知・名古屋ドーム(16:00)
『イノキ・ボンバイエ』■神戸ウィングスタジアム(17:00)
PRIDE SPECIAL『男祭り2003』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
新宿プロ■東京・歌舞伎町クラブハイツ(21:00)

1 Jnuary

2 FRI.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)

3 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(15:00)
AtoZ■東京・バトルスフィア東京(18:30)

4 SUN.

新日本■東京・東京ドーム(15:00)
『ハッスル1』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(17:00)
闘龍門■兵庫・神戸ポートピアホテル(18:00)
大日本■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館 第三競技場(13:15)
全日本キック■後楽園ホール(18:30)

5 MON.

WJ■東京・後楽園ホール(18:30)

7 WED.

全日本■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
大日本■大阪府立体育館第2競技場(18:30)
IWA■宮城・岩沼市民体育館(18:30)

8 THU.

全日本■広島グリーンアリーナ 小ホール(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
IWA■福島・国体記念体育館(18:00)

9 FRI.

ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■大分・大分県立荷揚町体育館(18:30)
IWA■茨城・水戸市民体育館(18:00)

10 SAT.

NOAH■東京・日本武道館(18:00)
WJ■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
IWA■千葉・東金アリーナ(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
華☆激■福岡・さざんぴあ博多(18:30)

11 SUN.

全日本■広島・福山ビッグローズ(15:00)
みちのく■宮城・ニュー
K-DOJO■千葉・Blue
大阪プロ■大阪・和泉
WJ■北海道・札幌テイ
国際プロ■鶴見青果
ZST・GP決勝戦■東京
GAEA■東京・後楽園
JWP■東京・JWP道場
AtoZ■東京・後楽園ホ

12 MON.

全日本■岡山・山陽ハ
みちのく■岩手・矢巾
IWA■東京・後楽園ホ
K-DOJO■千葉・Blue
大阪プロ■大阪・デル
WMF■埼玉・本川越
DDT■東京・後楽園ホ

13 TUE.

闘龍門■兵庫・神戸チ
NOAH■埼玉・熊谷市

14 WED.

全日本■愛知・名古屋
冬木軍■東京・後楽園
NEO■東京・渋谷Club

15 THU.

NOAH■長野・諏訪市
大日本■神奈川・横浜
K-DOJO■千葉・Blue

16 FRI.

全日本■埼玉・桂スタ
NOAH■千葉・船橋ア

17 SAT.

ZERO-ONE■愛知・豊
闘龍門■岐阜・岐阜商
NOAH■東京・ディファ
大阪プロ■大阪・デル
K-DOJO■千葉・Blue
NEO■東京・北沢タウン

18 SUN.

ZERO-ONE■兵庫・明
闘龍門■静岡・ツインメ
全日本■大阪・大阪府
大阪プロ■大阪・デル
JD■東京・後楽園ホー
GAEA■東京・流通セン

19 MON.

ZERO-ONE■香川・高